

近代地域新聞からみた社会の実像

—宮城県・白石実業新報を読む—

荒武賢一郎・阿部さやか



東北大学東北アジア研究センター叢書 第69号

近代地域新聞からみた社会の実像

—宮城県・白石実業新報を読む—

荒武賢一朗・阿部さやか

白石実業新報

第三號
一月三日
發行所
白石市
印刷所
白石市



祝 奉 紀 元 節

發刊の辭
開闢政治部
時勢の急進は疑なくして一則一則に進みて
病など其の底止する所を知らず、昨の頃は
今の際に當りて若し此の風潮に先在するにあら
ずんば萬九能く列強の間に立ちて此
の平和的大競争に勝つるを得ん
や、故に吾人の時運に應じて我が富強強兵
の策を講ずるの道は一にして足らずるも
地方實業の振興を措きて他に求むべきもの
ありざるなり
向かに日清露の二大戦争を経て支那の
太政大臣に加へ、第一等國の班に列する
ことを得たる我が帝國は、新たに列強を併
合し今を稱國として新紀元を期はし
り、雄飛を運洋に専らにするの榮榮を負はし
れり、嗚呼此の慨然たる榮榮を負はし
るや、光輝を發たしめ、且つ之を長へに輝
耀せしめんとせば、愈々富力を増進し、益
々威武を發揚せざるべからざるなり、是れ
吾人が富強強兵の策を講ずるの道は、地方
實業の振興にありと云へる所以なり、吾人
因此の本責任を負ふべし之を奈何を徒ら
に袖傍觀して地方實業の發展を問はずし
めて可からんや
吾人は我が白石町實業發展の機關として、
之が新報を發刊せんとするの意ありや久し
然れども時勢の向は急進するものありて在
り、吾人に至るも今期國の情勢に其の必
要に迫りて之が發刊を促して止まず、因りて



山明草堂撮影

極端の方針に據り、權を流す、弊利を争
を期するにあり然り、此の新聞をして
健全に成長しめ以て地方發展の爲に大
爲すべしとせんことを一に先聲を發すの深
く、厚き指導ののち、聊か弊弊を述べて發
刊の辭とす。

小説 流 眞山 青果

秋も老けた、夜も深けた。冷たる對空は
澄みやかに高く、沈たる星眸は疾く目掃れ
る。この時、前に立ち立つ青果道の松並木、
肩を懸して人に湧り来る瞬間の中を、一人
小田原の宿を出で、早や一里、板橋風祭
と驚れ、驛路を後にして行くほどに人煙
人に無遠ない。犬も吠えなき。蒼蒼の雲
の家々は森閑として眠り、見上げる樹梢に
聲を、世はこのまゝに聲なき世界へ流
て行くかと思はれるほどの寂寥
若者が時を擲り、波濤の鳴り響れ
る早川の方を眺むるのは、最早出づべき
筈の二十日月を先刻から輝きわたるのだ。
ホッと吐息を洩らして又力なく歩いて行
く。若者の名を藤森仙吉と云ふ。時時茶つて
我が自分と細語を話さずには、著者も又口
を噤んでは何も云ふまい。年の頃、二
十四五、髪も伸び、種々のあたり、
麗麗さへ見える垢離れた結婚白の絶人に照
水鏡のこれも纏のやうな帯、何所か見
ると今時流行して歩く、輝き生ける雲落
としかかき、風体はして居るもの、然
と結んだ日元に何れも男らしく儼然した様
子が無いでもないかつた。勢に、何れも
枝の微塵を委ねての黒髪の子、何れも
だが、それも惜しい、今この瞬間に
「一番、行く所まで行け、倒れたらそのま
で眠るんだ、病んだらそのまゝ死ねばど
うぞ、仙吉は時々獨語に斯言を云つて
居る。斯く自分で自分を罵罵して居るも



の、穿き裂れは衣料に足筋を損はれて、
痛むた肩に掛けられた風呂敷包み締め、
歩ごとに重くもある。我れた我れた足は、
竹片に置き、星光に地へ落ちた松の黒影に
さへ願さうと、さうして發せぬことが
あつた。
「斯う眠じて空を見上げたが、雲は動
かない。斯う停て耳を澄ませ、地に激し
く石を叩き、驚愕の響が土に響けるのが耳に
聞える、最、驚愕の陰翳に、
うたこれが名高き三枝、
吉は斯く思ひ出しつ、近視眼目を見くらし
て前を透して見た。黒雲深く閉じた彼方

写真1 『白石実業新報』第1号1面 (白石市図書館所蔵)

白石実業新報

一号 M. 終之ハ一 百十六号 丁. 3. 4. 乙 仮綴

欠号 六十一、百七号

百十三一 百十六号 下半欠

S. 51. 11. 26

千歳英一氏寄贈

白石市図書館蔵

写真2 『白石実業新報』を綴る表紙（白石市図書館）

白石實業新報

第百號副刊

社説

本紙壹百號の辭

天地秋闈にして四倍銀輪を驅らすの時、我が白石實業新報は茲に百號を加へ自由度々記念號を發刊するに至れり、我々同人は滿腹の熱誠を以て大方の險に隨ひ本紙の行程に多大の援助を與へられたる諸君に向て深厚なる謝意を表せずんばならず、古人言ふあり創業は易し守成は難しと願ふに我々同人は此全言を服膺して今日に至れり、其行程未だ通からず、險山前に登り、霧途に横はり爲に幾度びか其の道路に脚踏したりき、然れども同人は益々屈撓せずして勇を鼓し險山を超え深谷を涉り苦がき艱難を嘗めて茲に百號を發刊するの榮を致せしを思へば、同人の欣喜は實に言ふべからざるものあり、況や親愛なる諸君が提孩の至情を以て本紙が嗚々含乳の餘あり成育に援助を與へられたる徳の太なるを感佩して止まざるものあるをや、然れども我々同人は茲に百號を以て満足するものにあらず、社會の潮流は順逆その時あり、人事の變遷は汚隆その控を異にし、同人が奮闘すべきの機は近く前途に横はれるを見る、國家の進運は一日も底止せざるに伴れて、又た其弊端部事の起るもあり、世界つて虚榮に流れ勳微の風を忘れ、武士道裏へて情弱に陥り、況んや東北發展は餘のみにして其實行を視ることなく、農事は依然として舊套を脱せず、工業また振はき、思ふに茲に至れば苟も一度び屈を操つて旗を不忘の第

片倉小十郎景綱の像



一筆に顯へしたる以上は唯黙々として止むべき秋にあらざる也、戰勝除漢を嘗めて善ぶたる國民を覺醒せしめ強國の民人たる本性を發揮せしめんは是れ吾人操筆者の責務たるを以て將來益々同人の抱負する處を發

表披露して國家に貢献するは必き諸君高底の萬一に報ふるものなりと信ず、或は潛底不遜の誹を免れざらんも吾々同人は之を甘受して初一念を貫徹せんとするは白石實業新報の前程に對して榮譽ある光明あるもの爲す豈慢げしからずや茲に聊か吾人の微衷を述べて百號發刊の辭となす矣。

文苑
謹奉 祝天長節
麻山 佐藤維治

瑞雲觀戀戀禁城。芳菊嬌嬌風日清。
萬國衣冠陪御宴。千門旂影醉昇平。
文明氣象國歌溢。尙武雄風祝德馨。
寶算無窮天壤久。華流到處湧歡聲。
蘇肥州嶺山驢虎園。雙峯居士
欲覽咆哮震雲山。鐵騎突驚虎豹還。
營中半夜無人識。月色如霜鮮血斑。
祝白石實業新報一百號

萬苦排來刊百號。可嘉新紙益吾曹。
文運發展遠興業。世上偏委貴社勞。
紙上加光彩。已刊百號。社益發展
諸君祝文堂。

祝白石實業新報一百號
安積 松淵
每篇社說萬方新。汲々萃々一社人。
貴品玉容呈國色。數年間華化民人。
祝白石實業新報百號。由麻山
累號一百周年三。鼓舞縱橫軍擲馬。
果識自今東北地。隆々產業觀西南。

和歌
落葉 源 修
散り敷くも秋のかたみの色なれば
拂ひは捨てし庭のもみぢ葉
初霜 右 同人

写真3 『白石實業新報』第100号1面



写真4 白石市図書館貴重書庫



写真5 旧刈田病院本館（明治15年宮城病院白石分院本館として建設、白石市教育委員会提供）



写真6 白石城からみた現在の町並み



写真7 現在の宮城県行政区画

目次

はしがき	1
第I部 論考編	3
1 白石実業新報を読む	5
2 鉄道の誘致運動	9
3 白石町の衛生・医療	13
4 町政と教育	18
5 地域産業と名産品	21
6 白石人物伝	26
第II部 翻刻編	31
凡例	32
1 白石実業新報	33
1 社説 発刊の辞(1号1面・明治44年2月11日)	33
2 本紙一週年の辞(38号1面・明治45年2月1日)	34
3 社説 本紙壹百号の辞(100号1面・大正2年11月11日)	34

1	今後の白石発展策（上）工業地たらしめよ（2号2面・明治44年2月21日）	36
2	今後の白石発展策（下）遊覧地たらしめよ（3号2面・明治44年3月1日）	36
3	刈田郡会の終了（3号3面・明治44年3月1日）	37
4	海軍志願兵検査 合格者十九名（4号3面・明治44年3月11日）	37
5	盟友会（4号3面・明治44年3月11日）	38
6	越河村一心会（4号3面・明治44年3月11日）	38
7	白石町有財産統一（5号3面・明治44年3月21日）	39
8	大平村信用組合（5号3面・明治44年3月21日）	39
9	速に遊廓を設置せよ（10号1面・明治45年5月11日）	40
10	玉幸亭に於ける懇親会（11号3面・明治44年5月21日）	40
11	白石郵便局の昨今（21号3面・明治44年8月21日）	41
12	白石町諸車の検査（25号3面・明治44年10月1日）	41
13	選挙の余沫（25号3面・明治44年10月1日）	42
14	図書館設立の急務（27号1面・明治44年10月21日）	42
15	東北人は重税を負荷す（27号2面・明治44年10月11日）	43
16	仙台市と紡電（30号1面・明治44年11月21日）	44
17	白石の諸君へ（32号2面・明治44年12月11日）	45
18	北白川停車場の開通（33号3面・明治44年12月21日）	46
19	白石町四十五年度予算（41号3面・明治45年3月11日）	46

20	救済の急務（52号1面・明治45年7月1日）	47
21	白石町の救済米購入（53号2面・明治45年7月21日）	48
22	旧盆の状況（57号3面・大正元年9月1日）	48
23	鎌先温泉電話所（64号4面・大正元年11月1日）	48
24	宮城県会に望む 郡部の遊郭設置に就て（102号1面・大正2年12月1日）	48
25	軍事講話會（112号2面・大正3年3月11日）	49
3 学校		
1	県立白石中学校（3号3面・明治44年3月1日）	51
2	県立白石中学校（4号3面・明治44年3月11日）	51
3	社説 実科高等女学校の設置に就て（5号1面・明治44年3月21日）	51
4	近く新設せらるべき実科高等女学校（5号2面・明治44年3月21日）	52
5	白石中学校開校式（10号2面・明治44年5月11日）	52
6	同校生修学旅行（第10号2面・明治44年5月11日）	53
7	県立白石中学校落成式 附祝賀宴会（11号3面・明治44年5月21日）	53
8	記念運動會（11号3面・明治44年5月21日）	54
9	白中近時（25号3面・明治44年10月1日）	55
10	福岡村小学校々舎落成（33号3面・明治44年12月21日）	55
11	十八番時代生徒の同窓會（33号3面・明治44年12月21日）	55
12	白石中学校の兎狩り（39号3面・明治45年2月21日）	55

13	県立白石中学校生徒募集(41号2面・明治45年3月11日)……………	56
14	白石町立実科高等女学校生徒募集(41号3面・明治45年3月11日)……………	56
15	白石中学校卒業式(43号2面・明治45年4月1日)……………	56
16	白石第一小学校 卒業証書授与式(43号2面・明治45年4月1日)……………	58
17	白石第二小学校 卒業証書授与式(43号2面・明治45年4月1日)……………	58
18	白石実科高等女学校修業式(43号3面・明治45年4月1日)……………	59
19	白石中学生の遠足運動(47号3面・昭和45年5月11日)……………	59
20	私立裁縫静修学校卒業証書授与式(48号3面・明治45年5月21日)……………	59
21	高等女学校生徒の修学旅行(48号3面・明治45年5月21日)……………	60
22	県立白石中学校(54号3面・大正元年8月1日)……………	60
23	白石中学校本年卒業生(54号4面・大正元年8月1日)……………	60
24	白石小学校生徒の校外教授(63号4面・大正元年11月1日)……………	61
25	白河小学校生徒の修学旅行(63号4面・大正元年11月1日)……………	61
26	白石第一・第二小学校 須らく歩調を一にせよ(64号1面・大正元年11月11日)……………	61
27	刈田郡第一部教育研究会(64号2面・大正元年11月11日)……………	62
28	白中生徒の機動演習参加(64号2面・大正元年11月11日)……………	63
29	白石中学校の発火演習(64号2面・大正元年11月11日)……………	63
30	白石中学校寄宿舎の竣成(64号4面・大正元年11月11日)……………	64
31	白石中学校至道会(67号2面・大正元年12月11日)……………	64
32	小学校教員の夜間講習会(67号2面・大正元年12月11日)……………	65

33	白石第一小学校（74号2面・大正2年2月21日）	65
34	白中寄宿舎開舎行式挙行（74号2面・大正2年2月21日）	65
35	白中寄宿舎（76号2面・大正2年3月11日）	66
36	県立白石中学校（77号2面・大正2年3月21日）	66
37	白石生徒の修学旅行（83号4面・大正2年5月21日）	67
38	白中生徒の刈田嶽登山（86号2面・大正2年6月21日）	67
39	近来の快挙（89号1面・大正2年7月21日）	67
40	寄書 新任校長を歓迎す（89号3面・大正2年7月21日）	68
41	新任白石小学校長（89号3面・大正2年7月21日）	69
42	刈田郡教育会夏期講習会（89号3面・大正2年7月21日）	69
43	白石中学校（93号3面・大正2年9月1日）	69
4	衛生	70
1	白石町春期清潔法 検査日割（5号3面・明治44年3月21日）	70
2	白石町トラホーム検診日割（7号3面・明治44年4月11日）	70
3	刈田郡医師会の決議（9号2面・明治44年5月1日）	70
4	模範的隔離病舎建築の計画（15号2面・明治44年6月21日）	70
5	夏季の衛生に就て（16号2面・明治44年7月1日）	71
6	赤痢患者発生（19号3面・明治44年8月1日）	72
7	恐るべきは悪疫（22号3面・明治44年9月1日）	72

8	白石町の不生産的費用 一日二十円余(24号3面・明治44年9月21日) ……………	73
9	敢て当局者に望む(26号1面・明治44年10月11日) ……………	73
10	トラホームに就て(27号2面・明治44年10月21日) ……………	74
11	寿区の慰労会(27号3面・明治44年10月21日) ……………	74
12	白石町春期清潔法(43号3面・明治45年4月1日) ……………	75
13	婦人と口腔衛生(45号5面・明治45年4月26日) ……………	75
14	婦人と口腔衛生(二)(47号4面・明治45年5月11日) ……………	77
15	婦人と口腔衛生(三)(48号4面・明治45年5月21日) ……………	77
16	婦人と口腔衛生(四)(49号4面・明治45年6月1日) ……………	79
17	本郡壮丁検査の成績に就て(50号2面・明治45年6月21日) ……………	80
18	仁田原師団長の来白(50号2面・明治45年6月21日) ……………	80
19	婦人と口腔衛生(五)(52号4面・明治45年7月11日) ……………	81
20	夏季の衛生(53号1面・明治45年7月21日) ……………	82
21	矛盾せる衛生(53号1面・明治45年7月21日) ……………	83
22	柴田郡の衛生幻灯会(53号2面・明治45年7月21日) ……………	83
23	白石町の伝染病予防励行(53号2面・明治45年7月21日) ……………	84
24	隔離病舎視察記(56号4面・大正元年8月21日) ……………	85
25	赤痢益々猖獗(57号3面・大正元年9月1日) ……………	87
26	勤勉なる衛生主任書記(60号4面・大正元年10月1日) ……………	88
27	白石町のトラホーム検診(62号2面・大正元年10月21日) ……………	88

28	白石町の臨時町会（68号4面・大正元年12月21日）	89
29	伝染病予防に於て（71号2面・大正2年1月21日）	89
30	公立刈田病院（71号3面・大正2年1月21日）	90
31	水野町医の施療（72号2面・大正2年2月1日）	90
32	恩賜財団済生会（74号2面・大正2年2月21日）	91
33	白石町に於ける春季「トラホーム」検診（80号2面・大正2年4月21日）	91
34	刈田郡に於ける種痘（81号4面・大正2年5月1日）	92
35	宮城県医師会（84号2面・大正2年6月1日）	92
36	油断大敵 夏季の衛生に就て（90号1面・大正2年8月1日）	92
37	田中白石警察署長の談（90号3面・大正2年8月1日）	93
38	臨時清潔法（90号4面・大正2年8月1日）	94
39	大正三年度壮丁トラホーム検診（91号2面・大正2年8月11日）	94
40	衛生幻灯大講演会（92号2面・大正2年8月21日）	95
41	白石日曜学校生徒病院を見舞ふ（96号3面・大正2年10月1日）	95
42	教育衛生大幻灯会（101号2面・大正2年11月21日）	95
43	白石町と用水『上』（101号3面・大正2年11月21日）	96
44	白石町と用水『下』（102号4面・大正2年12月1日）	97
45	壮丁「トラホーム」予防規程（103号2面・大正2年12月11日）	98
46	大河原町大幻灯会（109号5面・大正3年2月11日）	99
47	刈田郡医師会（111号3面・大正3年3月1日）	99

5 災害

1	初午の消防出初式（4号3面・明治44年3月11日）	100
2	罹災民の北海移住期（6号3面・明治44年4月11日）	100
3	白石町消防組の基本財産（17号3面・明治44年7月11日）	100
4	郡内の水害（19号2面・明治44年8月1日）	101
5	天水桶の奨励（40号3面・明治45年3月1日）	101
6	白石町消防組と初午（42号3面・明治45年3月21日）	101
7	霜害と救済（49号2面・明治45年6月1日）	101
8	岩手県下の霜害（49号3面・明治45年6月1日）	102
9	福島県下の大結霜 再度の霜害春蚕の大打撃（49号3面・明治45年6月1日）	102
10	本郡水害の状況（58号3面・大正元年9月11日）	103
11	治水問題（59号1面・大正元年9月21日）	104
12	晩稲は全廃すべし（60号1面・大正元年10月1日）	105
13	暴風雨被害（60号3面・大正元年10月1日）	106
14	刈田郡越河消防組秋期大演習（63号4面・大正元年11月1日）	106
15	白石消防手（64号4面・大正元年11月11日）	107
16	福岡村消防組（81号4面・大正2年5月1日）	107
17	宮消防組春季演習（81号4面・大正2年5月1日）	107
18	本郡の大霜害 九分通り被害春蚕全滅（82号3面・大正2年5月11日）	108
19	松田式霜害予防器（82号5面・大正2年5月11日）	108

20	霜害善後策 桑園改良の急務 (83号1面・大正2年5月21日)	108
21	未曾有の霜害 (83号2面・大正2年5月21日)	109
22	刈田嶽に降雪二回 (83号3面・大正2年5月21日)	111
23	暴風雨大惨害 (93号2面・大正2年9月1日)	111
24	本郡各村の水害惨状 (93号2面・大正2年9月1日)	113
25	鉄道の不通 (93号2面・大正2年9月1日)	114
26	白石消防の活動 (93号3面・大正2年9月1日)	115
27	根本的改修を要す (94号1面・大正2年9月11日)	115
28	水害に於ける白石郵便局の活動 (94号3面・大正2年9月11日)	117
29	七ヶ宿村 (94号5面・大正2年9月11日)	118
30	本郡町村費に罹る被害 (95号2面・大正2年9月21日)	118
31	内務省技師の災害地検査 (98号2面・大正2年10月11日)	119
32	災害復旧工事 速に起工すべし (106号1面・大正3年1月11日)	119
33	慰問袋の配布 (114号4面・大正3年4月1日)	120
6	農業	121
1	四十三年度の実収穫 白米標準相場 麦粉 (1号8面・明治44年2月11日)	121
2	郡内に於る農作物景況 (19号2面・明治44年8月1日)	122
3	郡農事試験場の稲作試験 (19号2面・明治44年8月1日)	123
4	本郡米作概況 (26号2面・明治44年10月11日)	123

5	米価騰貴と養蚕 (42号1面・明治45年3月21日)	123
6	未曾有の米価騰貴 (51号1面・明治45年7月1日)	124
7	本県農会主催 (54号3面・大正元年8月1日)	126
8	農村の衰微挽回の急務 (62号1面・大正元年10月21日)	126
9	本郡稲作々況 (64号4面・大正元年11月11日)	127
10	米作不良と町村民の副業に就て (73号4面・大正2年2月11日)	127
11	米作不良と町村民の副業に就て (続) (74号2面・大正2年2月21日)	128
12	農民の天職 (81号2面・大正2年5月1日)	130
13	農村救済策 (85号2面・大正2年6月11日)	131
14	刈田郡の畜牛検査 (85号2面・大正2年6月11日)	132
15	本年は豊作疑ひなし (90号2面・大正2年8月1日)	132
16	大暑に於ける稲作の状況 (91号2面・大正2年8月11日)	132
17	本年麦作の良好 天候順調に復せし為め (91号2面・大正2年8月11日)	133
18	本日は二十十日 (93号1面・大正2年9月1日)	133
19	本郡稲作は半作? (97号2面・大正2年10月11日)	134
20	晩稲は終に不結果 愛国種は全廃すべし (98号1面・大正2年10月21日)	135
21	麦作の奨励 農民勤勉なれ (99号1面・大正2年11月1日)	136
22	特志家の二毛作地視察 (99号3面・大正2年11月1日)	137

20	白石商業組合（75号4面・大正2年3月1日）	156
19	牛乳需用者の減少（72号4面・大正2年2月1日）	155
18	仙南四郡の物産 聯合共進会に現れたる成績（47号2面・明治45年5月11日）	153
17	仙南四郡の物産 聯合共進会に現れたる成績（46号4面・明治45年5月6日）	151
16	仙南四郡聯合共進会閉会（46号1面・明治45年5月6日）	150
15	共進会（45号2面・明治45年4月26日）	148
14	共進会に就て（45号2面・明治45年4月26日）	147
13	祝共進会（45号1面・明治45年4月26日）	147
12	共進会に就て 向田協賛会長の談（43号2面・明治45年4月1日）	146
11	共進会彙報（40号5面・明治45年3月1日）	145
10	共進会彙報（39号4面・明治45年2月21日）	145
9	共進会彙報（38号4面・明治45年2月11日）	144
8	聯合共進会（37号1面・明治45年2月1日）	143
7	十二村銃砲店の新式銃砲売出し（25号3面・明治44年10月1日）	143
6	仙南四郡聯合共進会の概況（19号2面・明治44年8月1日）	143
5	料理店同業組合総会（17号3面・明治44年7月11日）	142
4	商業家に一言す（14号1面・明治44年6月11日）	141
3	白石町と産業（12号6面・明治44年6月1日）	140
2	聯合共進会と白石（11号1面・明治44年5月21日）	139
1	商業政策論（2号5面・明治44年2月21日）	138

21	地方商業家に望む 子弟をそれ好遇せよ(78号5面・大正2年4月1日)	156
22	地方商業家に望む(87号5面・大正2年7月1日)	157

8 養蚕.....159

1	養蚕短期講習会(4号3面・明治44年3月11日)	159
2	刈田蚕種同業組合成る(5号3面・明治44年3月21日)	159
3	蚕界漫語(一)(8号3面・明治44年4月21日)	159
4	蚕界漫語(二)(9号3面・明治44年5月1日)	161
5	蚕桑彙報(9号6面・明治44年5月1日)	163
6	本郡養蚕概況(12号2面・明治44年6月1日)	163
7	本郡内春蚕収繭予想高(12号2面・明治44年6月1日)	163
8	我が東北と養蚕(13号1面・明治44年6月10日)	164
9	扶桑館の蚕種業(13号1面・明治44年6月10日)	164
10	秋蚕の状況(21号3面・明治44年8月21日)	165
11	蚕病予防事務所 主事の帰任(25号3面・明治44年10月1日)	166
12	春蚕概況(26号2面・明治44年10月11日)	166
13	養蚕奨励方針(51号2面・明治45年7月1日)	166
14	秋蚕は好結果にて上簇(57号3面・大正元年9月1日)	167
15	刈田柴田蚕種同業組合の創立總會(65号2面・大正元年11月21日)	167
16	刈田郡養蚕業組合總會(68号2面・大正元年12月21日)	168

17	原蚕種製造場種繭提供 (75号3面・大正2年3月1日)	168
18	養蚕桑樹と施肥 (76号2面・大正2年3月11日)	168
19	刈田柴田蚕種同業組合総会 (76号3面・大正2年3月11日)	168
20	柴田、刈田蚕種同業組合会 (83号3面・大正2年5月21日)	169
21	蚕桑彙報 (84号3面・大正2年6月1日)	169
22	社説 東北と蚕業 (85号1面・大正2年6月11日)	170
23	刈田郡に於ける米麦と養蚕との比較 (85号2面・大正2年6月11日)	171
24	本年春蚕予想 掃立減少収繭増加 (86号2面・大正2年6月21日)	173
25	秋蚕掃立を昨年の倍 (90号2面・大正2年8月1日)	174
26	白石製糸会社の現状に就き株主諸君の猛省を促す『上』 (90号3面・大正2年8月1日)	174
27	白石製糸会社の現状に就き株主諸君の猛省を促す『下』 (91号3面・大正2年8月11日)	175
28	秋蚕良好 (92号4面・大正2年8月21日)	176
29	森知事の本県蚕糸業独立論を聞て予か希望を述べ (103号4面・大正2年8月21日)	176
30	刈田柴田蚕種同業組合通常総会 (109号5面・大正3年2月11日)	178
9	名産	179
1	山文製麵所 (3号3面・明治44年3月1日)	179
2	社説 製紙業に就て (4号1面・明治44年3月11日)	179
3	馬市開場さる 昨日より向ふ五日間 (17号3面・明治44年7月11日)	180
4	白石の馬市 (18号3面・明治44年7月21日)	180

5	鯉麵製造同業者総会 (25号3面・明治44年10月1日) ……………	180
6	馬牛沼の鯉漁り (27号3面・明治44年10月21日) ……………	180
7	馬牛沼の魚捕り (29号3面・明治44年11月11日) ……………	181
8	岡政商店の新菓売出し (29号4面・明治44年11月11日) ……………	181
9	干柿を盗まる (33号3面・明治44年12月21日) ……………	181
10	特産鯉麵の前途に就き 当業者の反省を促す (36号1面・明治45年1月21日) ……………	181
11	寄書 特産温麵ノ審査法ニ就テ (47号5面・昭和45年5月11日) ……………	183
12	灯台下暗し (57号3面・大正元年9月1日) ……………	184
13	馬牛沼干し (63号4面・大正元年11月1日) ……………	184
14	孫太郎虫問題 (64号4面・大正元年11月11日) ……………	184
15	鯉魚の話 (66号4面・大正元年12月1日) ……………	185
16	製紙業に関する講話 (75号3面・大正2年3月1日) ……………	186
17	製紙講話会 (76号2面・大正2年3月11日) ……………	186
18	滋養菓子界の大王 (87号3面・大正2年7月1日) ……………	187
19	刈田風土記 (一) (88号1面・大正2年7月11日) ……………	187
20	白石町の馬市 (90号3面・大正2年8月1日) ……………	189
21	孫太郎煎餅の売出し (90号3面・大正2年8月1日) ……………	189
22	刈田風土記 (承前) (91号3面・大正2年8月11日) ……………	189
23	製麵界の不振 当業者の猛省を促す (92号1面・大正2年8月21日) ……………	190
24	刈田風土記 (承前) (92号5面・大正2年8月21日) ……………	192

25	刈田風土記(承前)	(93号3面・大正2年9月1日)	192
26	孫太郎煎餅の好況	(94号3面・大正2年9月11日)	193
27	干柿講習会	(100号5面・大正2年11月11日)	193
28	斎川馬牛沼鯉とりの盛況	(100号6面・大正2年11月11日)	193
29	干柿製造講習会	(103号3面・大正2年12月11日)	194
30	干柿講習修了証書授与式	(105号5面・大正3年1月1日)	194
10	商店紹介		195
1	商店単評(一)	(10号5面・明治44年5月11日)	195
2	商店単評(二)	(11号5面・明治44年5月21日)	195
3	商店単評(三)	(12号5面・明治44年6月1日)	197
4	商店単評(四)	(15号5面・明治44年6月21日)	198
5	商店単評(五)	(16号5面・明治44年7月1日)	200
6	商店単評(六)	(17号5面・明治44年7月11日)	201
7	商店単評(七)	(18号5面・明治44年7月21日)	201
8	商店単評(八)	(19号5面・明治44年8月1日)	202
9	商店単評(九)	(20号5面・明治44年8月11日)	204
10	商店単評(十)	(22号5面・明治44年9月1日)	205
11	商店単評(十一)	(23号5面・明治44年9月11日)	206
12	商店単評(十二)	(25号5面・明治44年10月1日)	207

13	商店単評 (十三) (26号4面・明治44年10月1日)	207
14	商店単評 (十四) (27号5面・明治44年10月21日)	208
15	商店単評 (十五) (28号5面・明治44年11月1日)	209
16	商店単評余録 (一) (30号5面・明治44年11月21日)	209
17	商店単評余録 (二) (31号5面・明治44年12月1日)	211
18	商店単評余録 (三) (32号5面・明治44年12月11日)	212
19	商店単評余録 (四) (33号5面・明治44年12月21日)	213
20	商店単評余録 (四) (35号5面・明治45年1月11日)	214
11	鉄道	215
1	社説 白上間鉄道布設の急務 (3号1面・明治44年3月1日)	215
2	白上間鉄道 (3号2面・明治44年3月1日)	216
3	白石駅状況 (4号3面・明治44年3月11日)	218
4	白上間鉄道布設請願衆議院委員会採択に決す (5号2面・明治44年3月21日)	219
5	白上間鉄道速成の請願意見書 (6号2面・明治44年4月1日)	219
6	白石上の山間鉄道線実地踏査 (15号2面・明治44年6月21日)	219
7	白上間鉄道期成同盟会成る (18号2面・明治44年7月21日)	220
8	鉄道線路改築 (23号3面・明治44年9月11日)	220
9	須く東北振興の障害を除去せよ (28号1面・明治44年11月1日)	220
10	東北鉄道運賃低減期成同盟会 (28号2面・明治44年11月1日)	221

11	鉄道急設を欲する意見書(38号2面・明治45年2月11日)	221
12	白上鉄道建設の建議案(39号2面・明治45年2月21日)	222
13	鈴木村上両氏の上京(39号2面・明治45年2月21日)	223
14	白石鉄道請願運動(39号3面・明治45年2月21日)	223
15	代表者の上京(39号3面・明治45年2月21日)	223
16	鉄道建設議案委員会可決(41号2面・明治45年3月11日)	223
17	国有鉄道運賃低減(59号2面・大正元年9月21日)	223
18	鉄道院技師の来白(63号2面・大正元年11月1日)	224
19	長代議士来白(63号2面・大正元年11月1日)	224
20	白上鉄道に就て(67号2面・大正元年12月11日)	224
21	前年国鉄貨物集散(71号2面・大正2年1月21日)	225
22	白石駅に於ける乗降人員の概況(71号2面・大正2年1月21日)	226
23	論説 白上鉄道建議案可決(78号1面・大正2年4月1日)	226
24	在讃岐大槻寅治郎氏 書翰の一節(79号5面・大正2年4月11日)	227
25	白石鉄道測量隊来る(90号2面・大正2年8月1日)	227
26	白上鉄道線路の実測 地方有志の奮起を望む(91号1面・大正2年8月11日)	228
27	白上鉄道線路実測着手(91号2面・大正2年8月11日)	229
28	再び白上鉄道に就て(92号3面・大正2年8月21日)	229
29	白上線の測量隊(94号5面・大正2年9月11日)	230
30	白上鉄道敷設 請願併に意見書提出(108号2面・大正3年2月1日)	230

31	白上鉄道運動委員の上京（108号3面・大正3年2月1日）	232
32	白上鉄道急設請願委員の上京（110号2面・大正3年2月21日）	232

12 人物……………233

1	名誉の高齢者（1号8面・明治44年2月11日）	233
2	鈴木富五郎翁逝く（3号3面・明治44年3月1日）	233
3	齋藤善治氏 △訃報▽（11号3面・明治44年5月21日）	234
4	菊地龜吉氏 △訃報▽（11号3面・明治44年5月21日）	234
5	渡邊佐吉氏的美挙（17号3面・明治44年7月11日）	234
6	岡崎佐太郎氏的美挙（25号3面・明治44年10月1日）	234
7	東北人の特短（31号1面・明治44年12月1日）	234
8	小島左膳氏の訃（36号3面・明治45年1月21日）	236
9	惜むべき少年の死亡（48号3面・明治45年5月21日）	236
10	麻生禪師の法要（63号4面・大正元年11月1日）	236
11	鈴木幸吉氏的美挙（64号2面・大正元年11月11日）	236
12	赤城ささ子刀自の逝去（67号2面・大正元年12月11日）	237
13	片倉家の法養（67号4面・大正元年12月11日）	237
14	七ヶ宿郵便局長退任（94号5面・大正2年9月11日）	237
15	関駐在所詰巡査（94号5面・大正2年9月11日）	238
16	渡邊家の美挙（101号3面・大正2年11月21日）	238

17 獵師の手柄 雪深き奥山に大熊を射止む (113号3面・大正3年3月21日) …………… 238

13 海外情報 …………… 239

1 農学士廣瀬次郎氏談話の概要 (3号3面・明治44年3月1日) …………… 239

2 海外新聞の発行高 (4号3面・明治44年3月11日) …………… 240

3 農学士廣瀬次郎氏談話の概要 (続) (4号5面・明治44年3月11日) …………… 241

4 世界の日本 (19号2面・明治44年8月1日) …………… 242

5 正田氏の欧米漫遊短信 (19号5面・明治44年8月1日) …………… 243

6 世界の日本 (続) (20号2面・明治44年8月11日) …………… 244

7 世界の日本 (続) (21号2面・明治44年8月21日) …………… 245

8 海外発民に就て青年諸君の奮起を望む「上」 (66号1面・大正元年12月1日) …………… 246

9 海外発民に就て青年諸君の奮起を望む「下」 (67号1面・大正元年12月11日) …………… 247

10 排日問題研究会 (82号2面・大正2年5月11日) …………… 248

11 母国訪問談 米国より日本まで「一」 (97号5面・大正2年10月11日) …………… 248

12 母国訪問談 米国より日本まで「二」 (98号5面・大正2年10月21日) …………… 250

13 母国訪問談 米国より日本まで「三」 (99号5面・大正2年11月1日) …………… 251

14 母国訪問談 米国より日本まで「四」 (101号5面・大正2年11月21日) …………… 253

15 母国訪問談 米国より日本まで「五」 (102号5面・大正2年12月1日) …………… 254

16 母国訪問談 米国より日本まで「六」 (103号5面・大正2年12月11日) …………… 255

17 母国訪問談 米国より日本まで「七」 (104号4面・大正2年12月21日) …………… 256

18	母国訪問談	米国より日本まで『八』(108号5面・大正3年2月1日)……………	257
19	母国訪問談	『九』米国より日本まで(112号5面・大正3年3月11日)……………	258
20	母国訪問談	『十』米国より日本まで(113号5面・大正3年3月21日)……………	259
21	母国訪問談	『十一』米国より日本まで(114号5面・大正3年4月1日)……………	260
22	母国訪問談	『十二』米国より日本まで(115号5面・大正3年4月11日)……………	261
23	母国訪問談	『十三』米国より日本まで(116号5面・大正3年4月21日)……………	262

第Ⅲ部 統計編…………… 265

表1	明治44年3月	白石町の各大字所有財産表(5号3面)……………	266
表2	明治44年4月	明治44年度白石町歳入出予算表(6号3面)……………	267
表3	明治43・44年	白石町トラホーム検診所成績(地区別)(10号2面)……………	268
表4	明治44年7月	蚕業経済比較(東北6県および長野・岐阜・愛知県)(16号2面)……………	269
表5	明治44年7月	蚕種製造業収支(東北6県および長野・岐阜・愛知県)(16号2面)……………	269
表6	明治43・44年	蚕種生産額調(村別)(19号2面)……………	269
表7	明治43・44年	白石町伝染病患者および死亡者数(月別)(22号3面)……………	270
表8	明治45年6月	刈田郡壮丁検査成績(50号2面)……………	271
表9	明治42年〜大正元年8月	白石町赤痢患者および死亡者数(56号4面)……………	271
表10	大正元年8月27日現在	刈田郡赤痢患者数(57号3面)……………	271
表11	大正元年	刈田郡赤痢病費用調(71号2面)……………	272
表12	明治44年・大正元年	公立刈田病院患者数(71号3面)……………	273

表13	大正2年3月 白石町春期トラホーム検診成績表(80号2面)	274
表14	大正2年5月9日調 刈田郡桑園結霜被害高(83号2面)	275
表15	大正2年5月9日調 刈田郡養蚕(収繭)結霜被害高算出標準(83号2面)	275
表16	大正2年5月9日調 刈田郡平年収繭高(83号2面)	275
表17	大正2年5月9日調 刈田郡生産総額と霜害(83号3面)	276
表18	大正2年 春蚕掃立枚数および収繭高予想(86号2面)	277
表19	大正2年9月1日調 刈田郡暴風雨稲作被害高調(94号2面)	277
表20	大正2年9月1日調 刈田郡暴風雨稲作被害高調(減収反別)(94号2面)	278
表21	大正2年9月 刈田郡町村費所属水害調査表(95号2面)	279
表22	明治44年・大正元年 国鉄(鉄道管理局)貨物集散調(71号2面)	280
表23	明治44年・大正元年12月 白石駅貨物取扱比較(71号2面)	280
表24	明治40年〜大正元年 白石駅乗降人員・収入(92号2面)	280
表25	明治40年〜大正元年 白石駅貨物発着量・収入(92号2面)	280

第IV部 記事一覧

はしがき

荒 武 賢 一 朗

平成二九年（二〇一七）年から二年間にわたり、東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門では、白石市図書館と共同で、同館に所蔵されている古文書および古典籍の所在確認調査を実施した。白石市図書館は、大正三年（一九一四）に「明治記念文庫」として設置されて以降、百年以上にわたり地域文化の中核を担っている。長い歴史を有するため、他館で閲覧することのできない書籍・資料も多数保管しているが、東日本大震災によって貴重書庫が大きな被害を受けたこともあり、近年は蔵書の所在がつかめない状況が続いていた。歴史資料保全活動や地域の古文書研究で一緒に緒していた櫻井和人氏（当時、白石市図書館係長）より、図書館を利用する市民や、白石の研究に関心を持つ人々が活用できるように貴重書を整理したいとの申し出があり、右の調査を開始した次第である。作業の多くは櫻井氏の手によるが、吉田佐智子氏（白石古文書サークル会員）にセンター事務補佐員として、筆者とともに蔵書目録の作成に尽力をいただいた。その成果は、図書館内および白石市ホームページで目録および書誌情報を公開しているので、ぜひともご利用を賜りたい。

所在確認調査で最も目立ったのは、地元で発行していた「地域新聞」であった。櫻井氏と筆者によって、『白石新報』『白石民報』『仙南新聞』『仙南自治新聞』『東北タイムス』『東北民衆新聞』などの存在が明らかになり、それぞれの形態や発行回数はさまざまであるものの、いずれも地域に根ざした紙面作りを目指していたことがわかる。そのなかで、本書は明治四四年（一九一一）から数年間のバックナンバーが残る『白石実業新報』に注目し、地域新聞の特質や、発行人および書き手の主張、社会のなかで発生していた諸課題などを記事のなかから読み解き、さらには読者層の求めている情報について見通しを立ててみたい。

本書は『白石実業新報』のみを素材として出版をするものであるが、この作業には阿部さやか（東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門事務補佐員）が記事の選択と翻刻、さらには統計編の表作成などを手掛け、菅沼楓（同、現・新潟市美術館学芸員）も翻刻を担当した。その作業をもとに筆者が全体の編集と推敲を手掛けた。解題に相当する論考編は阿部と筆者が執筆を行い、内容の理解を補完することに努めている。

数年間の作業には、先述の櫻井和人氏、吉田佐智子氏のほか、白石市図書館の職員各位に多大なるご支援を頂戴した。また、東北大学東北アジア研究センターおよび同センター上廣歴史資料学研究部門には、本書刊行について手厚いご配慮を賜った。末筆ながら皆様に記して謝意を申し上げる。

（あらたけ・けんいちろう 東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門教授）

論
考
編

【論考1】白石実業新報を読む

荒武賢一朗

「地域新聞」の魅力

二一世紀の高度情報化社会には、インターネットの普及をはじめ、多彩なメディアや発信者となる「書き手」が数多く存在し、ひとつの話題にさまざまな角度から情報「味付け」をすることが日常化している。そのなかで筆者は新聞の存在が不可欠だと思いが、近年は発行部数の減少、身近な情報を発信してきたコミュニティ新聞の休廃刊も相次いでいるようだ。今後、紙媒体で新たな発行は期待できないが、人々の求める限り、新聞発刊の意義は変わらないだろう。

江戸時代の「かわら版」を始祖に、明治時代以降に新聞が登場し、私がよく知っている『朝日新聞』や『読売新聞』が全国紙に成長し、『河北新報』のようなブロック紙・地方紙も各地で根強い人気を持った。また、その種類は「大新聞」と呼ばれる政治色の強いもの、「小新聞」という娯楽中心、といった区分けがなされている。これ

が「新聞の歴史」のおおよそ共有できる流れであろう。そこに本書の主題である「地域新聞」の要素を付け加えると、全国的に流通する大手紙とは異なり、ある一定の区域でのみ、硬軟織り交ぜた内容を毎月三回発行によって読者に提供した。これが『白石実業新報』（以下、『実業』と略す）を含む地域新聞の特色であった。ただし、紙面には地元の案件を中心にするものの、近隣や全国にかかる内容、はたまた海外の情報も手広く包摂しており、経済・政治・文化、そして社会の幅広い分野にわたる。

白石実業新報

本書では、白石市図書館所蔵の『実業』をもとに翻刻し、その内容を明らかにしたい。ほかの図書館や博物館、あるいは白石市の民家にも伝来している可能性は高いが、管見の限り確認できているのは、白石市図書館の綴りだけである。

こよりで仮綴を施した表紙には、ペン書きで昭和五年（一九七六）一月二十六日に千歳英一氏寄贈とあり、その後白石市図書館所蔵となったことがわかる。また、ここには明治四四年（一九一一）二月一日の第一号か

ら大正三年（一九一四）四月二二日の第一一六号までが含まれるが、そのうち第六一号（大正元年一〇月二一日）と第一〇七号（大正三年一月二一日）が欠号となっていて。また、最後の第一一三号（同年三月二一日）から第一一六号は紙面の下半分が欠けている。現存はここまでだが、第一一六号に終刊するような雰囲気は感じられず、この続号があったかもしれない。翻刻編で全文掲載した川村源治の連載「母国訪問談―米国より日本まで―」は、第九七号に始まり、第一一六号には第一三回が紙面に登場している。第一回の記述によると、川村は「旧学友・今泉君（注・発行兼編輯人の今泉富治郎カ）」に米国から日本までの行程三四日間について執筆を依頼されたという。そこでアメリカ出発から書き始めているが、第一三回はハワイ・ホノルルを出航して日本に向かう船中の話で終えている（筆者は連載終了と紙面に書いていない）。ほかの連載物についても同様であり、次号が実在したのか、あるいは急遽何らかの事情で発行を停止したのか、現時点では判明しないが、ひとまず第一一六号を「最終号」としておきたい。

発行とその概要

右の表紙を一枚をめくると、第一号の一面をみることでできる。記念すべき初発は、二月二一日であるため、「奉祝・紀元節」の大きな文字が打たれ、白石実業新報社長、岡崎政治郎の「社説・発刊の辞」から始まる。岡崎政治郎は、白石町で旅館やホテル、また菓子類を扱う商店などを経営する人物であった。本書では直接紹介していないが、『実業』には毎号数面におよぶ白石および近隣地域の広告が紙面を賑わせており、岡崎の経営する会社や商品についてもたくさん掲載されている。筆名「佐久羅」による「商店単評余録（三）」には、「本紙の御本尊岡崎政治郎氏」にふれ、その本邸を紹介し、「将来実業界と相提携して高堂に立つべき本紙の主筆が御住宅として恥じることはない」、そして白石名産の温麺からつくった糸綿という菓子を販売している様子も記している。

新聞代価は一部三銭で、これは最終の第一一六号まで変わらない。発行は毎月三回の一ノ日（一日・二一日・二二日）で、仙南四郡聯合共進会が白石で開催された明治四五年四月二六日および五月六日を例外として、すべて一ノ日の発行となっている。さきの岡崎政治郎は、社

長あるいは主筆といった肩書きで記事に出てくる場合もあるが、新聞の発行兼編輯人は佐藤貞蔵、印刷人は佐藤定松、発行所は白石実業新報社（所在地・刈田郡白石町五八三）、そして印刷所は仙台・早川活版所と記す。「最終号」の第一一六号と比較すると、発行所と印刷所は同じで、発行兼編輯人は今泉富治郎、印刷人も山田清六に交代していることがわかる。ちなみに新聞掲載の広告料も明らかで、第一号は「五号活字一九字詰一行拾銭」、第一一六号は値上げあったようで「貳拾銭」の記載があった。発行部数は定かではなく、また販売収入のみならず、経営の大きな柱に広告の存在があったことを推測できる。

紙面の特徴

元日や白石町などで実施される諸行事のある時期は別として、通常の場合はおおよそ六面で構成する。記事の合間や後段に広告が入り、ときおり付録を含むことがある。小説や川柳には筆名で作者の名前が付けられるが、おそらく岡崎政治郎による社説や、事件・事故・評論は無記名であった。ただし、時事的な提言や小説、手記には実名と思われる氏名も明らかである。

基本的な構成を第三〇号（明治四四年一月二二日）を事例に紹介してみよう。一面の冒頭、社説にあたる部分には当時話題になっていた「仙台市と紡電」、斎藤写真館撮影の写真「傑山寺山の紅葉」、川柳や連載小説、二面以降には農村改良や蚕種関連の記事、三面には雑報として経済・教育・相撲興行・盗難事件の報道、四面と五面にも連載記事が並び、それ以降は広告が紙面を飾る。突発的な災害、特集的な時事報道を除くと、連載記事の割合はかなり高い。筆者は詳しくわからないが、地元在住者もいれば、他地域からの寄稿も数多く見受けられる。また、社説を中心に東北地方の経済状況や、政府や宮城県、白石町の施策に関する言及は時として厳しい内容が盛り込まれている。これは、本紙の姿勢とみるべきか、あるいは当時の新聞としての体裁を意識したものか、今後検討を深めていきたい。

明治四四年二月からわずか三年間の『実業』から何を読み取ることができるのか。これが本書の目的であるが、以下で簡単に説明をしておきたい。白石の地域史については、一九七〇年代発刊の『白石市史』をはじめ、郷土史研究が盛んである土地柄を示すように、地元の研

究者が数多くの論著を発表している。『白石市史』はその集大成の位置づけで、重厚な内容に圧倒されるが、「近代」の項目では明治維新直後の状況や、昭和戦前期の記述に比して、明治末期および大正初期の史実はそれほど詳しくない。これは、編纂過程において前後の関係で割愛せざるを得なかった事情を察するところだが、『実業』を一部引用するも事実の確認にとどめるのみで、本書が注目した衛生や鉄道、産業などといった具体的事例を列挙していない。その点で、本書収載の翻刻記事が新たな発見を提示する意義があり、今後の地域史研究に少しでも役立つ情報を共有できる。

白石の歴史解明を第一義として、その延長にあるのは地域新聞の持つ史学的魅力である。近現代史において新聞資料を活用するのは当然のことながら、その大きな位置を占めるのは大手紙（全国紙）、または地域に特化するにしてもブロック紙や県紙というところに落ち着くだろう。さらに業界紙などの専門的新聞も有益な史実を提供するだろうが、ここでは町村レベルで広範な分野を手掛ける新聞の存在を改めて問い直す意義を持ちたい。そのことにより、豊富な事例、詳細な問題の経過、そして地

域の人々が思い描いていたことや、その行動についても把握する可能性を有する。これは、単なる歴史の解き明かしにとどまらず、文学や社会学などの隣接諸科学とも共通の英知をつかむことができるかもしれない。そのような希望を抱きつつ、本書の内容を読み進めていただければ幸いである。

【論考2】 鉄道の誘致運動

阿部 さやか

白石駅の開業

現在、東日本旅客鉄道（JR東日本）東北本線の白石駅（白石市沢目）は、岩沼・仙台・利府方面（下り）、福島・郡山方面（上り）へ向かう路線がある。明治二〇年（一八八七）に開業した当駅は、交通や産業の発展を促し、白石の近代化に大きな役割を果たした。

明治一四年、日本鉄道株式会社の創立を機に全国の鉄道網整備は急速に進められた。翌年、上野と青森方面を結ぶ路線の開設が始まると、その経路に宮城県内を南北に走る路線を設置することが決まる。当初は鉄道誘致による旧宿場町の衰退や、汽車の煤煙が作物へ悪影響を及ぼすなどの理由から、各地で反対運動が起こった。とくに経路の候補地であった丸森・角田・大河原など養蚕地域では、蚕の餌となる桑が汚れる、都市部から大勢の商人が入り生糸売買が競争になることを理由に、反対の声が強かった。そのような背景もあってか、最終的に福島から伊達―藤田―河越、そして白石を経由し仙台へ至る

ことになった。

白石駅の開業には、白石や近隣地域の実業家から多くの出資があった。また、開業当初から白石駅の敷地は、当地の豪商・米竹清右衛門より、新柳町の鉄道会社路線事務所は上西国八より提供を受けている。明治一九年七月から駅舎および駅前道路の工事が始まり、翌年八月に道路がほぼ完成、九月には駅舎が落成した。そして二月一五日から、福島―桑折―白石―大河原―岩沼―仙台―塩釜の運行が始まる。当時、客席は上等・中等・下等の三クラスに分かれており、上野―白石間の運賃をみると、上等五円六〇銭、中等三円七四銭、下等が一円八七銭であった。開通当初、白石駅を通過する列車は一日二往復のみ、そのうち白石―上野間の直行便は一日一往復で所要時間は約一三時間である。まもなく、貨物列車が運行し旅客便の本数も増えていく。『実業』には、明治四〇年（一八九七）から大正元年（一九一二）における白石駅の乗降者人数や貨物輸送量、それに伴う収入が掲載されている（本書280頁、表22（25参照））。

白石駅の開業により、白石や近隣地域の人々の生活は大きく変化した。駅周辺には鉄道利用者を見込んだ旅館

や飲食店が進出し、町の中心地として発展する。また、人力車や馬車の発着場も整備され、鎌先・小原・遠刈田といった温泉地との往復も頻繁に行われた。一方、斎川・越河など山間の旧宿場町では利用者が減り、陸羽街道の白石本郷入口である新町・短ヶ町などの宿屋や茶屋も廃業と移転を余儀なくされた。

地場産業についてみると、農林業や工業関連の原料、製品の移出入が便利になり、製糸工場の建設など設備の機械化も促されている。そのほか、都市部からさまざまな文化が取り入れられ、当地の近代化を加速させることにつながった。

「白上鉄道」誘致運動

白上鉄道とは、白石駅から七ヶ宿を経由し、山形県上山市へ至る鉄道の路線である。明治二〇年の白石駅開業と同じころ、小原から山形県境まで通ずる車道が改良され、山形方面への往来で賑わうようになった。それに呼応する形で、白石と山形を結ぶ鉄道の布設を求める動きが起こる。明治二五年、上西国八などを中心に「白石鉄道期成同盟会」が設立されると、この運動が本格化した。

当初は上山ではなく白石と山形県高島町を結ぶ構想であったが、明治三八年（一八九五）に福島から板谷峠を越えて山形県米沢市への奥羽線が開通すると、終着地を高島から北に位置する上山へと変更し、白石―上山（白上）間を結ぶ「白上鉄道」の誘致運動へと切り替わる。その後、この運動は一時下火となるものの、明治四一年に白石ゆかりの佐藤二郎が代議士に当選すると、上山出身の長晴益代議士と協力し、再び運動が活発化した。本書収載の『実業』は、白上鉄道の実現に向けて本格的な活動が行われた時期と重なるため、期成同盟会の動向や実地調査など、その関連記事は三〇件以上にのぼる。なお『実業』の白上鉄道に関する主な出来事は、本項末尾に経過年表としてまとめた。

第三号の「白上間鉄道布設の急務」（11―1）に「白石上の山間を第一期線とし、更に其を延長して相馬中村に達せしむるを第二期線となす」とあり、白上鉄道は上山―白石―中村（福島県相馬市）の三県を結ぶ構想であったことがわかる。明治四四年三月に鉄道誘致を求める請願書が衆議院へ提出、可決された。七月、白石町役場内に新たな期成同盟会を設置し、八月から鉄道院技師など

による候補地の測量が実施され、白上鉄道の誘致は現実味を帯びてきた。しかし現地調査を進めると、路線貫通を予定していた山岳畳地帯は峻険で工事が難しく、加えて冬期の豪雪対策ができない、といった多くの課題が露呈する。その折、大正二年に運動の中心となっていた佐藤二郎が急逝したほか、その後、白石―赤湯（上山市）間の物資流通の過少、政局の変化などの理由が重なり、運動は次第に下火となっていく。

誘致運動のその後

およそ一〇年を経た大正十一年（一九二二）四月に、「政府ノ敷設スベキ予定鉄道路線」（法律第三七号「新鉄道敷設法 別表」）で挙げられた全国一七八線のひとつに白上線が入り、再び誘致運動が活発になった。しかし、政府の計画では完成に一〇数年を要するとされ、早急な開通は望めないものであった。地元では対応策として、先行して民間の有志で資金を拠出し、軌道または電車線を引き、その後で政府に買収してもらうという方法が検討される。最初の試みは、山形県の大二井宿から高島までの高島軌道を七ヶ宿へ延伸する計画であった。し

かし、刈田郡や山形県側の実業家を中心に出資者を呼びかけるものの、必要とされた資金三〇〇万円を募るのは困難なうえ、大正十二年九月一日に関東大震災が発生し、計画は完全に頓挫する。地域の有力者たちのなかには、白上鉄道が実現しても奥羽線と競争になり、赤字の可能性が高いという意見もあったようで、その後大規模な誘致運動は行われていない。

【関連年表】

明治四四年

- ・三月：上山町長、七ヶ宿村長、白石町長をはじめ議員など計四七名の連名で請願書が出される。
 - ・三月一四日：請願書が衆議院請願委員会にて採択。
 - ・六月二〇～二三日：鉄道院技師の船塚芳次郎が山間鉄道線の視察のため上山市～白石町を訪問。
 - ・七月：白上鉄道の期成同盟会を結成。事務所を白石町役場内に設置する。
- 明治四五年（大正元年）
- ・二月：白石―中村（福島県相馬市）間の鉄道急設を求め、意見書を、内務大臣あてに提出。

・二月：上山―白石、白石―中村の鉄道建設の建議案を提出。

・二月二〇日：鈴木惣四郎、村上勇吉の二名が白上鉄道建設の請願書を貴衆両院に提出するため上京。

・三月六日：鉄道建設議案委員会が上山―白石、白石―中村の鉄道建設の建議案を可決。

・一〇月二六日：鉄道院技師上田武男が白石町を訪問。岡崎旅館に投宿、翌二七日仙台へ。

・一〇月二七日：山形県衆議院長晴登、上山の有志家高橋熊治郎氏の二名が白上鉄道予定線路実地踏査のため白石町を訪問。

大正二年

・三月：白上鉄道布設建議案が二四日に委員会、二六日に本会議で可決。

・七月：二四日に測量隊（鉄道院技師、技手、初期、助手など計一五名）が上山へ着く。二九日まで白石町、刈田郡役所など周辺地域を含む視察が行われる。

・八月五日：白上鉄道の実測着手。測量日数は数か月間を要する見込み。

大正三年

・一月二三日：白上鉄道の請願併意見書を内務大臣あてに提出。

【参考文献】

・阿子島雄二『郷土物語 白石地方の歴史（上・下）』歴史図書社、一九七九年

・白石市編さん委員『白石市史一 通史篇』白石市、一九七九年

【論考3】白石町の衛生・医療

阿部 さやか

感染症と衛生事情

二〇世紀初頭において、とくに恐れられていた病気は赤痢であった。赤痢は赤痢菌による経口感染症で、感染すると高熱、血便や水のような下痢、しぶり腹（便意があるのに排便が少ない）などの症状があらわれる。死亡率は高いものの、回復には数週間の隔離治療が必要で、経済的負担も大きい病とされていた。また、当時蔓延していた眼の感染症であるトラホーム（トラコーマ）も挙げられる。これは、目やに・充血・結膜炎などの症状があらわれ、悪化すると失明する場合もあった。そのほか、腸チフスやジフテリアなども記事から確認することができる。

これらの感染症流行は、当時の生活環境と大きな関係がある。白石では、白石川やその支流である斎川から生活に必要な水を賄っていた。飲料水、食器や衣服の洗浄のほか、汚物の処理も同じ河川で行われており、そこか

ら原因菌が媒介されたと考えられる。また、畑の肥料に人糞が用いられ、農作業や洗浄が不十分な作物を口にした際も感染の可能性があった。白石に限らず当時の習慣として、汚れた手や衣服で顔を拭く、風呂は数日に一度が当たり前であったなど、現代と比べ衛生の知識や意識の低さも大きな要因といえよう。『実業』にも人々の衛生観念を憂慮した記事や、赤痢が流行する夏季には「生水を決して飲む可らず」など具体的な警告もみられる。

赤痢など「法定伝染病」に指定された感染症の予防や治療にかかる費用は、町村費から捻出されていた。そのため、とくに赤痢が流行した明治四四年度・四五年度は財政圧迫の要因にもなっている。その他の病気にかかる費用は患者個人の負担で、医療保険制度が未整備であった当時、とくに貧困者などは多少具合が悪くても治療を受けず、結果トラホームの蔓延などにつながった。こうした状況で篤志家などの寄付や、医師による貧困者への無料治療は、貴重な支援であったといえる。

公立刈田病院

明治四五年（一九一二）に発行された『刈田の実業』

をみると、公立刈田病院をはじめ内科・産科・眼科など計八か所の病院が紹介されている。

そのなかで規模が大きく、また町費で運営していた公立刈田病院は、『実業』に予算収支や院内の様子を伝える記事がある。この病院は、現在の公立刈田綜合病院の前身で、明治一五年（一五八二）に「宮城県立宮城病院（現在の東北大学病院）白石分院」として設立された。それまで仙台には宮城病院、古川・石巻・松山・登米などには分院があったが、一方で仙南地域にはなかったため建設を求める声があがっていた。江戸時代から白石には、領主片倉家のもと、可野松濤、山田良琢、大槻俊齋をはじめとする西洋（オランダ）医学を学んだ者がおり、漢方医が主流であった当時としては珍しい地域でもあった。そうした経緯もあってか、病院の建設候補地として浮上する。

財政事情などにより、県費のみで病院を建設するのは困難であった。そこで出資をしたのは、白石や周辺地域の篤志家たちである。たとえば、白石町では米竹清右衛門三〇〇円、渡辺儀蔵・渡辺佐吉は各一四〇円、鈴木味右衛門一〇〇円、上西国八より三〇円と続き、合計六五〇

名から合わせて四二〇〇円余り、さらに隣接する刈田・柴田両郡の有力者たちによって、総額六二〇〇円余りの寄付金が寄せられた。こうした援助を受け、明治一五年三月一九日に開院を迎える。その半年後の九月に、宮城県全域でコレラが大流行すると、当院の医師もその予防や治療に大きな役割を果たした。

その後、明治一七年に県税の打ち切りにより白石分院は一時廃止となるものの、病院を求める多くの声もあり、翌年二月には建物と設備を継いで「刈田郡立病院」として新たに開業した。明治一八年の外來患者数三八五〇人、入院患者数八二人で、白石町内だけでなく近隣の医療に貢献する。さらに明治二三年、刈田郡監督のもと白石町外一〇ヶ村組合（白石町、円田村、白川村、宮村、福岡村、大平村、大鷹沢村、斎川村、越河村、小原村、七ヶ宿村）の運営で「公立刈田病院」となった（円田村は明治二八年に離脱し、以降は九ヶ村組合となる）。

衛生関連の連載

カーペンター「婦人と口腔衛生」、仙果「家庭衛生」、同じく「家庭衛生料理」といった連載は大変興味深い。

たとえば「家庭衛生料理」では、あり合わせの材料でつくれるレシビが紹介されている。寄稿者の仙果は壮年の男性で、『実業』では「家庭園芸」という連載も担当していた(当初は「山田仙果」という筆名でも寄稿)。仙果が紹介する料理には、「長芋の吸物」や「薩摩汁」などの和食のほか、小麦や牛乳ソースを用いた「胡蘿蔔(にんじん)クリーム」、バターを用いた「煎胡瓜(きゅうり)」のこしらえ方など洋食の要素も取り入れられている。レシビからは、当時一般家庭で使用された食材や調味料についても知ることができる。連載や前述した夏季の注意喚起の記事から、寄稿者のメッセージだけでなく、受け手である町民の生活状況も読みとれよう。

白石町の医師

『公立刈田病院史』をもとに、当時白石町で活動していた医師を紹介したい。とくに、亘理晋と水野泰治は『実業』にもたびたび登場する。※以降、五〇音順、敬称略。

小野寺昌治：岩手県九戸郡伊保内村出身。明治二十一年より刈田病院勤務。二六年五月に退職し、白石町沢端に開業する。二八年五月、伊保内病院長へ就任。二九年

一〇月に退職し、同一一月に白石町東小路に開業する。大正四年六月逝去。長男は明治四四年に仙台医学専門学校を卒業後、山形県酒田市立病院へ勤務している。

林周一：後述の林芳太郎の甥で、ともに相馬から来白した。慈恵会医学専門学校別科を明治三九年に卒業。刈田病院に勤務していたが、大正六年に退職し、その後開業した。昭和一三年逝去。

林芳太郎：福島県相馬出身。明治二四年に刈田病院副院長、二六年四月～三五年四月に院長、刈田郡医師会副会長を務める。退職後、六年間白石町で開業し、一時石巻に移るも再び白石で開業する。大正末期に上京し、昭和八年逝去。温厚寛容な人物であったという。

引地忠治：刈田病院長の給仕を務めていた。その後、仙台第二高等学校医学部へ入学、明治二五年卒業する。宮城病院医局、白石町後小路での開業医を経て、明治三〇年より刈田病院へ勤務する。その後、日本・関東北・宮城県各医師会議員、刈田郡医師会副会長などを務める。大正八年二月に退職し、同年六月逝去。

広瀬湊：明治二〇年に医師試験に合格し、その後白石町に開業する。明治二八年のコレラ流行時に盡力する。

明治四二年に逝去。息子の清（養子）は大正五年に東北帝国大学医学専門部卒業後、一年間自宅で開業し、その後刈田病院の耳鼻咽喉科の医師に就任した。

藤本純二：明治四一年仙台医学専門学校を卒業後、白石で内科、小児科を開業する。

水野泰治：慶応三年（一八六七）生まれ、大正二年（一九一三）逝去。水野家は代々片倉家の重臣で、泰治は最後の町奉行を務めた水野家の分家であった。宮城医学校卒業後、白石町外北小路で開業する（眼科医師との記載もある）。大正二年五月に町の財政緊縮に伴い町医が学校医を兼ねるようになると、白石町第一および第二小学校、実科高等女学校の校医を兼務した。

宮城秀：福島県二本松出身。福島県内での病院勤務を経て明治三八年刈田病院に勤務、大正七年に退職する。長男の秀夫は昭和二年東北帝国大学医学部卒業後、軍医、岩手県黒沢病院勤務を経て白石で外科を開業している。

渡辺文造：栗原郡若柳町出身。長野県立飯田病院長、鹿児島県立鹿児島病院長を経て、明治三五年に大河原町で内科開業、三六年に白石町で開業する。大正一一年

七月逝去。養子の安治は明治三三年に仙台医学専門学校を卒業、文造とともに大河原で開業し、三六年に白石町へやってきた。昭和七年六月逝去。

亘理晋（わたり・すすむ）：亘理家の先祖は、慶長七年（一六〇二）に片倉小十郎の白石城入りに同行した六人の法印のひとり、代々松窓院（千手院）といった。松窓乙二（俳人）は晋の父・清義の祖父にあたる。東京大学医学部を卒業後、白石町に開業する。刈田郡医師会長、宮城県議会議員や同議長を務め、医療分野に留まらず白石町の発展に大きく貢献した。

【参考文献】

- ・阿子島雄二『郷土物語 白石地方の歴史（上・下）』歴史図書社、一九七九年
- ・阿部さやか「地域新聞からみた二〇世紀初頭の伝染病対策―『白石実業新報』の記事から―」（『東北アジア研究』二五号、二〇二一年）
- ・安部定橋、後藤三治郎『刈田の実業』早川活版所、一九〇八年
- ・県医師会史編纂委員『白石・刈田地区医師会史（非売品）』

白石市医師会、一九七二年

・公立刈田病院史編纂委員会『公立刈田病院史』公立刈田病院、一九五七年

・白石市編さん委員『白石市史一 通史篇』白石市、一九七九年

【論考4】 町政と教育

荒武 賢一朗

近代白石町の形成

江戸時代の白石は、城主片倉氏のもと、城下町を形成するとともに、奥州道中の宿場町として経済的にも要衝となっていた。戊辰戦争後、その状況は大きな変革を経験し、仙南地域の中心となりつつ、周辺地域を含めて商業、あるいは観光地としての性格を強く持つような経過をたどる。本書の翻刻記事では、その特徴を十分示すよう構成を立てているが、二〇世紀初頭の都市的色彩を帯びる白石の様子を「2 町政(36～50頁)」のなかで紹介する。

『実業』は、「実業」の看板が示す通り、商工業や農林業など地域経済を主たるテーマとしているが、現在でも理解できるように、経済活性化は行政と不可分の関係にあり、発展の施策は官民一体による進展が当然重視されている。

明治二二年(一八八九)四月、市制町村制が施行され

て刈田郡には白石町と一〇か村が成立し、いずれの町村も江戸時代の村々をいくつか合併する形で、行政組織が設けられた。町および村の執行者には、町村長・助役および収入役の三役があり、上位二名(町村長・助役)は町村会の選挙で決定し、名誉職を原則に任期は四年間となっている。収入役は町村長の推薦により、町村会が選任し、有給吏員で任期は四年とされた。彼らのもと、役場にはそれぞれの規模に応じて数名から一〇名前後の書記と使丁が配置されて実務を担っている。本書にかかる明治末期から大正初期の白石町長は水野健治(明治三八年一二月就任)と鈴木惣四郎(大正三年二月就任)、福岡村長は一平(明治三八年三月就任)、菊地民治(大正二年四月就任)、齋川村長は和泉富右衛門(明治四三年一月就任)、小室春治(大正二年一月就任)といった具合である。とくに、水野健治は『実業』に数多く登場し、町政や鉄道開設の陳情などで活躍の足跡を知ることができる。町村長を束ねるのは、刈田郡長になるが明治四四年から五年二か月間、その任にあったのは向田幸蔵で、彼もまた本書記事に頻繁の登場をみる。郡長以下郡の役人は官僚であり、町村の自治を監督するほか、政府

および県庁の下部ながら郡独自の施策を打ち出す場合もあった。このように、町村長や町村会、そして郡長以下の官僚たちが地域運営に据えられつつ、民間の有力者たちが町政に大きな影響を与えていたのである。

白石町歳入出予算

明治四四年（一九一一）、町村別の戸数は白石町一七九三、福岡村六七九、越河村四四八、小原村四四〇、白川村三六五、というのが上位を占める。当時の歳入をみると、白石町は二万四〇〇〇円余り、福岡村では一万三〇〇〇円ほどという数字がある。そこで、白石町の詳しい予算から内訳を確認しておきたい（統計編表²）。歳入の大部分を占めるのは町税（約二万二五〇〇円）、雑収入や寄附金がその後が続く。一方、歳出は経常費と臨時費に大別し、前者（約一万八〇〇〇円）には教育・役場・税負担・警備・土木の順に支出がなされる。とくに教育費は支出全体の四割を占め、町内三校（第一尋常高等小学校・第二尋常高等小学校・実科高等女学校）のうち、第一・第二小学校が多くの費用を受けていた。次いで高い割合の役場費を加えると全体の七割ほどになり、学校

と役場が財政のうえで重視されていた結果がみえる。当時の状況から注目されるのは、衛生費で伝染病予防費を中心としつつ、隔離病舎の予算が計上してあるのも特徴として挙げられよう。

臨時費（約五四二二円）は、前年度と比較すると倍増以上の子算を組み、その多くは財産運用や公債費に充てる。また、割合はやや少ないながらも教育費・役場費もあり、衛生費も含まれている。

翌四五年の数字では、歳入は三万二五〇〇円ほど、歳出のうち経常費（約二万三四〇〇円）、臨時費（約九〇五〇円）と、当然ながらこちらも急激な膨張を示し、とりわけ臨時費では土木費と寄附金などが「やむを得ざる」支出として触れられている。

図書館設立の提言

明治四四年一〇月八日、白石中学校至道会発会式で、東北大学総長の澤柳政太郎は講演を行い、「白石の地に図書館を設立することは非常に有益だ」と強く主張したとある（2-14）。これを受けて、『実業』の記事では賛意を示し、大都市で設立をみる公共図書館は学芸進歩に

役立ち、有益な教育事業であることを力説する。また、町村負担を待つことなく、アメリカのカネギー氏を好例に「富豪諸氏」が教育および社会へ貢献することが義務であり、その投資を期待する旨を表明した。結果、白石には大正三年に明治記念文庫（現白石市図書館）が設立されることになる。

学校制度とその展開

県立白石中学校は、明治三十一年に真言宗中書林と白石中学会なる学校が合併（刈田造士館）したことから歴史が展開する。全国的な流れとしては、三十二年二月に中学校令が大きく修正され、それまで「尋常中学校」としていた名称を「中学校」に改めるなどの組織整備が進んでいる。そして三四年に私立刈田中学校として開校し、三六年に郡立へ変更、四三年から県立となった（3-1-3-5）。明治四四年の募集は五五名で、この年は創立一〇年記念を祝すほか、県立としての開校式が校舎の増築などで遅れており、五月一四日に落成式が行われた。来賓者には寺田県知事や片倉男爵などがあり、盛大に挙行されたという（3-7）。

大正二年には渡邊又四郎の寄附金四千円余りにて寄宿舎が完成し、近郊から入学する生徒の生活拠点となった（3-34・35）。

白石実科高等女学校は、第二小学校の補習科（二年）から独立し、町立として明治四四年九月に設立となった。高等小学校卒業者を対象に修身・国語・数学のほか、家事・裁縫実業などの科目があり、教員には高等師範学校卒業者二名を招聘したという。大正七年には刈田郡立、一〇年には県立に移管された。

当時、小学校は第一（男児）・第二（女児）に分けていたが、大正七年に合併して白石尋常高等小学校と改称する。本書では卒業証書授与式や修学旅行、校外授業などの記事を掲載した。

【参考文献】

・白石市編さん委員『白石市史一 通史篇』白石市、一九七九年

【論考5】 地域産業と名産品

阿部 さやか

産業の特色

現在の白石市をみると、第一次産業では米作を中心に、柿・リンゴ・ナシなどの果樹園、冷涼な蔵王山麓部で高
原野菜の栽培や酪農が行われている。第二次産業では、
電子機械製造や食品加工会社の事業所が東北自動車道白
石インターチェンジ付近、東北新幹線白石蔵王駅周辺な
どに並んでいる。そのほか、江戸時代より七ヶ宿街道の
宿場町として栄えた小原温泉や、鎌先温泉など、蔵王山
麓部では古くから旅館業も営まれてきた。名産品として
は白石温麺や弥次郎こけしが知られ、贈答品などにも利
用されている。

明治時代後期から大正時代についてみると、当時も米
作は行われていたが、水田の耕地面積が少なく、収穫高
も低調かつ不安定であった。天候不順や災害に見舞われ
ることもしばしばあり、たとえば明治三八（一九〇五）・
三九年の大凶作では、三八年の米穀収穫量が六三石（平

年米収二二七五石に対し、わずか二・八％）に激減する
ほどの被害を受けた。そのため当地の環境に適し、安
定した経済活動を確立することは重要な課題であった。
『実業』にも農業従事者に対して麦の栽培や麦藁帽子づ
くり、養蚕などの副業を推進する記事がみられる。とく
に養蚕は、明治時代中期から主要業種となった。

白石の産業が大きく発展したのは、白石駅が開業した
明治二〇年（一八八七）頃からである。江戸時代から家
内制で行われていた製麺や養蚕は大規模な工場生産へと
変化した。明治一九年には温麺製造の機械化を促進した
白石興産商会、三三年には白石製糸企業株式会社が設立
され、そのほか電力会社や銀行など多くの企業が勃興し
た。こうした産業構造の変革期に、地元白石の発展を目
指す実業家の情報発信・交換の場のひとつとして『実
業』は活用されていた。他地域との比較、工場の誘致や
労働環境に関するものなど、読者にも伝わりやすい実情
や課題がわかる。

養蚕業の発展

産業関連の記事で、最も多く取り上げられているのが

養蚕である。戦前期の白石は、宮城県内において製糸業の生産量第一位を誇る地域であった。白石・刈田地方は田畑に対する山間傾斜地が相対的に多く、気候・気温が桑や楮の生育に適していたという地理的な特徴が確認できる。この特徴は米作に不向きであったため、米作に代わる産業としていっそう養蚕が薦められたといえる。そのほか当地で養蚕業が栄えた大きな要因として、①明治維新以来、政府の方針で生糸の輸出が奨励され、養蚕・桑栽培が各地方の自治体でも重要視したこと、②養蚕の古産地である福島に隣接していたこと（白石の養蚕・桑栽培の指導者は福島県の保原・染川・掛田から招かれていた）、③桃やリンゴの苗木は高価で購入は困難であったが、桑は行政機関や豪商から借りる（時には無償で譲り受ける）ことができた、といった点に集約できる。たとえば、豪商たちが桑苗・蚕種・蚕具の手配りを行い、農業者は成果品やその売り上げを納めるという方法が可能で、副業として着手しやすかった。

明治初期の時点では、養蚕は各家の内職程度で生産額や知名度をみても当地の養蚕業は未発達であった。転機となったのは明治三三年（一九〇〇）の「白石製糸企業

株式会社（刈田郡立模範製糸所）」設立だと考えられる。このとき、米竹和藤治、渡邊佐吉をはじめ多くの実業家が事業のために出資した。その後、明治四〇年には刈田郡の生糸生産額が八五四七貫（明治三二年の約四倍）を超え、宮城県内一位となった。明治四四年から大正三年は発展・膨張期にあたり、「刈田蚕種同業組合」の結成、町民向けの講習会など、郡を挙げて養蚕が勧められた実態を記事からみることがができる。その後、大正四年以降、第一次世界大戦の影響で日本全土が好景氣を迎えた。

妙薬「孫太郎虫」

珍しい名産品では「孫太郎虫」が挙げられる。これは、白石町斎川地区を流れる斎川に生息するヘビトンボの幼虫（ヤゴ）を、茹でて乾燥させたものである。子供の痢に効くとされ、広く行商でも販売していた。その起源は判然としないものの、江戸時代に貧しい宿場町であった斎川村が財政の立て直しと民衆の生活支援策として商品化したのが孫太郎虫だったと考えられている。かつては地区の人のほとんどが副業で捕虫をしていたが、のちに一揆契約（江戸時代後期に起きたとされる一揆で、宿場

の伝馬役を務める者で結成)に加わる者だけに捕虫権が許可された。契約講員が捕獲した虫を加工販売人が買い取り、独占販売の御役金を年一回の寄り合いで講員へ支払う、という仕組みが明治末期頃まで行われていた。大正時代から昭和初期にかけて、多い時には一日で五〇〇申(二五〇〇疋)ほどの孫太郎虫が捕れたが、その数は徐々に減り、次第に遠方の利根川の上流水系、茨城県那須市の久慈川水系などまで捕虫に向かうようになった。その後、昭和一〇年頃をピークに孫太郎虫の製造・販売は衰退した。

『実業』には、孫太郎虫の記事や販売広告が掲載されている。そのなかから、この「妙薬」に関する事件をひとつ紹介したい。大正元年(一九一二)十一月一日付の記事に、大河原税務署から孫太郎虫の間屋へ、この虫を「薬」として販売するならば「売薬印紙」を貼用せよとの通達があったことが書かれている。売薬印紙は薬の製造者が負担する租税で、薬価の約一割額分の印紙を購入して製品に貼る仕組みであった。その負担を看過できない齋川村では、村長や問屋など四名が県庁警察と仙台税務監督局へ申し立てを行っている。紆余曲折の末「効能

を附さず販売すれば従来の通り印紙を貼用せざるも可なる」という判決に至った。ちなみに、その翌年八月、孫太郎虫入りの煎餅が販売されて大盛況となった。菓子は「薬」ではないためか、税務署からのお達しもなかった。

聯合共進会の開催

明治時代以降、「博覧会」や「共進会」が日本各地で開催された。これらは地域産業の発展や開催地への経済効果をもたらし、殖産興業を推進するなかで大きな役割を果たす。

明治四五年(一九一二)四月下旬に行われた「仙南四郡聯合共進会」に関する記事がある。これは白石を会場に刈田・柴田・伊具・亘理の四郡合同で開催された一大イベントであった。メイン会場の白石第一小学校をはじめ、白石駅前や商店街など町内各所に装飾が施され「空前の美観」を呈している。出店のほか、消防演習や演芸会などのイベントも催され、多くの観光客が訪れた。とくに注目されたのは、仙南各地から出品された農作物や工芸品の品評会である。次に出品項目のなかからいくつか紹介しておきたい。

①米：前年（明治四三年）の天候不良により乾燥が不十分のものはあれども、「最も優良にして前回に比し著しく進歩」と称された。

②繭・蚕種・生糸：いずれも出品数が少ない、不均一であると同様にこれらを加工した絹織物についても、生産量や技術の向上が必要との指摘がある。

養蚕業は日本各地で取り組まれ、その質や生産量を競い合っていた。厳しい評価は、他の生産地も意識した結果と考えられる。

③木工品：「挽物玩具」は「近年発展の兆しがあるので改良に励むように」との文言がある。現在は土産物として「弥次郎こけし」が有名であるが、当時は「こけし」という名称が確立されておらず、独楽・徳利・汽車などを含めた挽物玩具の一つであった。

④紙類：「白石和紙（紙・紙布・紙子など）」は江戸時代より特産品とされてきた。品評会では「蒸気力を以て其製造をなし優良統一の製品」、つまり工場生産の統一された製品への評価が高い一方、「旧法を墨守し漂白及製法に注意を欠き経済上の観念に乏しきは頗る遺憾」として、旧来の家内制で生産された不統一な製品

については厳しい評価となっている。経済発展に重きを置いた、時代を反映する評価基準であった。

⑤麵類・粉類：「地方の特産にして産額甚だ多し大に有望なる事業」として、製品の統一と規模拡大を勧奨している。「白石温麵」など、製麵事業は現在も主要な産業である。

連載「商店単評」

「商店単評」という連載記事があり、筆者「評々子」は、白石町内の商店を訪問してその雑感を記した。おもに呉服店や酒店、そのほか白石駅周辺について解説している。「評々子」はペンネームであり、連載一五回目以降は「佐久羅」と名前を改め、タイトルも「商品単評余録」に変更された。本名や人物像については触れられていないが、中町付近にある酒店「日下商店」の記事で、二〇歳の当主を「評々子と同年輩」と書いているため、二〇歳前後の青年と想定する。

「商店単評余録（三）」では、「白石実業新報社」社長である岡崎政治郎についても触れられている。評々子は岡崎を「公共心に富み、気概に長け、正道を守り、勤勉に

して誠実、深謀ありて遠慮なる性格」であるとその人柄を絶賛した。個々の記事では、店の歴史や当主の人柄など、踏み込んだ内容も多くみられた。また、白石駅前賑わいなど、街の活気が伝わる描写もあり、一記者の視点からみた町の実像を知ることができる。

【参考文献】

- ・白石市編さん委員『白石市史一 通史篇』白石市、一九七九年
- ・白石市編さん委員『白石市史二 特別史(上)』白石市、一九七二年

【論考6】白石人物伝

荒武 賢一朗

近代に活躍する人々

明治時代に入ってから、実業家や地域有力者が町村政を担い、経済と政治の両面で活躍することが目立つ。本書の記事でよく登場するのは、町村長や代議士、郡会および町村会議員たちである。

大正三年（一九一四）改選の刈田郡会では、山田誠一議長（越河）、渡辺佐吉副議長（白石）、郡参事会員には紺野常二（白石）、安藤與一郎（七ヶ宿）、村上勇吉（円田）など、郡会議員として朝倉秀雄（白石）、日下與惣治（福岡）、佐藤彦七郎（大鷹沢）などの名前が並ぶ。

白石町会の議員を明治四三年（一九一〇）の場合で見ると、鈴木惣四郎、紺野常二、鈴木清之輔、菅野圓蔵、朝倉秀雄などで、何名かは右の郡会のメンバーと重複するなど、さまざまな役割に「おなじみの顔ぶれ」が揃っていたようにも見受けられる。新聞記事を詳しく読み進めると、ここに登場する人々が町村内外で奔走し、諸行

事への列席、行政運営や施策の立案および実施に力を尽くしていた様子が随所にうかがえる。

地域・教育への貢献

本書でしばしば目にする見出しは、「美挙」である。おおむね地域の有力な実業家たちがその私財から寄付をする、あるいは公共のために尽力することを取り上げている。

明治四四年、鈴木幸吉は八〇歳を迎えた記念として、小学校に百円、中学校に五〇円、刈田教育会に五〇円を寄付したとある（12―1）。翌年、幸吉は八一歳となって城山の公園に桜数百本、中学校に数十本の吉野桜を寄贈している（12―11）。

同年二月に六九歳で逝去した鈴木富五郎は遺言に白石小学校へ四百円、出身地の越河小学校へ百円を寄付するよう伝えていた（12―2）。これに関して、記事では富五郎の略歴を紹介しているが、彼は越河村の農家に生まれ、雑貨の行商を皮切りに、東京から白石へ砂糖・石油の仕入れを行い、幾多の困難を乗り越えながら白石で角萬商店を開き、白石商業銀行など地元の実業界において活躍

したことを述べる。また、第一線を退いてからも質素な生活を心がけ、後進の育成に力を注ぐうえ、教育の大切さを意識して巨額の寄付に至る背景もみえてくる。白石のみならず、当時の学校設立には篤志家の存在が不可欠で、経済界で成功した者が社会還元に関心を抱く様子を知ることができる。

これは教育に限るものではなく、渡邊佐吉の事例では、消防への備えとして当時最新の軽便蒸気ポンプを東京から取り寄せ、屋敷内に配置していた(12―5)。明治三年に白石大火が発生し、焼失戸数八六八、棟数四三三五、被災者は六九三六人という、市街地の八割に達する災害に遭ったことも背景にあるのだと推測する。さらに佐吉は、白石町の神明宮基金募集に尽力したほか、自らは神明社裏手の畑地を三四〇円で購入し、そこに杉や檜を植えて、一〇年間の手入れを行ったうえで寄付をするということも実践した(12―16)。

江戸時代の人々

江戸時代に白石城下で住み暮らした武士たちは、戊辰戦争後にほとんどが伊達家の陪臣ということで帰農を命

じられた。旧主の片倉邦憲は、苦難からの脱出を試み、家臣たちを引き連れて北海道へと渡ることになる。そのとき、殿様の方針を受けて片倉家の重臣は東奔西走することになるが、そのうち小島左膳は家老の要職にあり、北海道へ取締として随行し、開拓事業に多大な貢献をしたほか、公共事業にも尽力をしたという(12―8)。その左膳は、明治四五年一月一〇日に脳溢血により死去し、白石の清林寺で葬儀、境内の墓地へ埋葬された。

片倉邦憲の孫にあたる景光は、安政六年(一八五九)に白石で生まれるも、幼少ながら明治三年(一八七〇)に父景憲とともに北海道へ移住する。開拓の功績から、明治三年(一八九八)に男爵の地位を得て、四四年に白石へ帰郷した。北海道在住の明治一三年(一八八〇)に景光は家督を相続し、会津藩医であった赤城信一の長女竹子と結婚する。この竹子の実母赤城きさ子は、晩年片倉家で暮らしていたが、大正元年一二月三日に七四歳で逝去した。片倉家の菩提寺である傑山寺で葬儀が行われたが、『実業』では彼女の波乱なる人生について紹介する。きさ子の夫信一は、鳥羽伏見の戦いに巻き込まれた後、会津に戻り降伏後に仙台を経て榎本武揚率いる旧幕

府軍に参加し、その後は開拓使へ出仕し、官立室蘭病院の院長などを務めた。きさ子は、夫とともに激変する状況のなか、一男三女を育てた。

商人たちの横顔

翻刻編「10 商店紹介」では、評々子「商店単評」および佐久羅「商店単評余録」を掲載している（評々子と佐久羅は同一人物）。呉服商や酒類商に注目する連載のなかで、当時白石町内で活躍する人々に触れている。主人は代々継承している者、親子や兄弟で経営を手がけている店を簡潔に評論する。いずれも好印象を筆者は伝えているため、実態はどのようなものか不明だが、たとえば呉服太物商の渡邊商店については、次のように書き記す。丸角商店（渡邊商店）の主人傳五郎は、店の仕事を後継者に任せ、現在は若主人榮五郎が一手に引き受ける。榮五郎は若年ながら商才に富み、熱心に仕事をしているが、傳五郎のもとで活動するため、平坦の歩調で進んでいるとのことであった。

評々子は、白石の酒屋を「激烈極まる極度の競争のなかにある」として、石津商店（菊池寅吉）・井泉堂商店

（菊池弘藏）・日下商店（日下吉藏）を三大店に位置付け、その他の酒店を含めて主人たちの人物像を描く。石津商店の菊池寅吉は、長年酒商売に携わり、性格は温厚篤実、利発機敏にて名望を博すとして、当家一代目当主としての活躍を述べる。井泉堂商店の菊池弘藏は、白石の実力者・渡邊佐吉のもと、渡邊酒造部で名声を得て独立した。当店は、銘酒幾久花正宗、古巣渡邊酒造部の醸造する白石梅政宗を販売し、いずれも好評を得ている。また主人弘藏は、斬新を愛する性格で先駆的な取り組みを行い、酒類販売のほかに和洋菓子に着眼するなどの商才についても触れる。そして、日下商店の主人吉藏は、官界で活躍後、酒造業に転じた「智袋の人」であるが、数年前に病気のため療養中ながら、息子眞一が若干二〇歳にして店を切り盛りし、従業員たちと結束して激烈な白石酒店競争で刮目に値する存在だという。

川村源治の母国訪問

海外移民の歴史を参照すると、明治維新のころに日本からハワイへの移民が開始され、おもにサトウキビやバナナなどの農業労働者として渡ったことが明らか

になっている。また、一九世紀末期にはカリフォルニア州などアメリカ西海岸への移民も本格的に開始される。しかし、アジア系移民を拒絶する動きがアメリカで強くなり、『実業』でも大正二年には「排日問題」の見出しがいくつも登場する。たとえば、第八二号では岡崎社長が先頭に立ち、キリスト教白石教会で排日問題研究会が開催されるなど、白石でも重要な関心事であった（13—10）。

宮城県からも多くの人々が海外へと渡り、新たな社会生活を営んでいたが、ロサンゼルス在住の川村源治なる人物は、大正二年八月二三日に「羅府（ロサンゼルス）母国訪問団」七五名の一員として日本に向けての里帰りに出発する。訪問団が日本に到着し、白石実業新報社主催の松島観光にて川村は、「旧学友・今泉君」と会い、この三四日間にわたる「里帰り」の見聞を執筆してほしいと依頼された（13—11）。この今泉君とは、白石実業新報社発行兼編輯人の今泉富治郎だと思われる。また、川村と白石および白石実業新報社の関わりは深いようで、今泉の前任者佐藤貞蔵ともつながりがあり、ホノルル見物を終えて帰船した際、「佐藤貞蔵君よりの書面届き」とし

て、佐藤はそのなかでマウイ島に滞在しているため面会できないが、今年中に本国（アメリカ本土）に行くのでそのときに面談したいとの思いを伝えた（13—21）。なぜ、佐藤がハワイにいるのか。これは日本人の移民問題と深い関わりがあり、鈴木忠誠執筆「佐藤貞蔵君を送る」（第二八号、明治四四年一月一日）によると、「白石実業新報記者佐藤貞蔵君不日渡布（注・布＝ハワイ）せんとすと（中略）彼地伝道会社の聘に応じ」日本人移民七万人の指導者になったという。その通り、佐藤は同年二月六日に横浜から出発している（第三〇号）。それ以後もハワイから『実業』にたびたび記事を寄稿していることもあり、注目に値する人物である。

川村源治本人について話を戻すと、具体的な経歴は述べられていないが、大正二年当時二〇歳代、渡米して六年余りとの記載がある（13—11）。また、今泉や佐藤との交流ぶりから白石出身の可能性が高い。航路中にハワイ・ホノルルへ立ち寄った際、日本庭園を見学して、「後方を省みれば小原山脈を走りて遙かに花房山を眺むるが如き」という文章表現を用いているあたりも、白石および周辺地域をよく知る人物であることは間違いないだろ

う(13―21)。彼が一員となった母国訪問団の目的は、二〇歳代半ばから三〇歳代半ばまでの在米男性たちの多く(七五名のうち五三名)が迎妻(結婚相手探し)を兼ねてのものだった(13―12)。川村たちは出発間もなく、サンフランシスコにて太平洋沿岸長老教会主・ドクター・ストージ宅を訪問し、そこで「迎妻の為めならんには帰国するに及ばず、そは桑港(サンフランシスコ)にも能い日本の娘さんが沢山ある」との会話が出てくる。川村は自らの話には触れていないもの、おそらく彼も結婚相手を見つかるべく、故郷への帰国の途に就いたのだろう。白石の地域新聞である『実業』は、読者に内外の情報を提供する貴重なメディアであったが、「内」の詳細を丁寧に書き上げつつ、日本各地や海外の「外」との関係も重視し、それが紙面の充実につながっていた。

【参考文献】

- ・坂口満宏『日本人アメリカ移民史』不二出版、二〇〇一年
- ・白石市編さん委員『白石市史一 通史篇』白石市、一九七九年

翻
刻
編

第Ⅱ部 白石実業新報 翻刻編

【凡例】

- 一、本編は、白石市図書館所蔵『白石実業新報』第1号から第116号のうち、分野別に記事を抽出して掲載する。
- 二、収載記事の概要については、第Ⅰ部を参照されたい。
- 三、各史料の冒頭には本編の番号を付け、掲載のあった号・面、発行年月日を表記した。
- 四、号・面、発行年月日は、第Ⅳ部の記事一覧に対応している。
- 五、原則として人名など固有名詞の一部を除いて、常用漢字に改めている。
- 六、明らかに誤字であるものの、正字を確定できる場合は一部修正している。
- 七、現代では誤字に相当する文字は原文通りに翻刻し、該当箇所には文字の右側に「ママ」と付けた。
- 八、史料には、適宜読点「、」や並列点「・」を付けている。
- 九、文中には、(表紙)など説明が必要な箇所を注記している。
- 十、取り上げた記事は全文翻刻を基本にしているが、一部の表については第Ⅲ部統計編に収載した。
- 十一、改行については、原文通りではない。ただし、欠字は一部そのままの表記とした。
- 十二、史料の文言には差別的表現が含まれるものの、歴史資料としての性格から、そのまま表記した。
- 十三、史料の翻刻・編集は、荒武賢一朗、阿部さやかが担当した。

1 白石実業新報

1 第1号1面(明治44年2月11日)

社説 発刊の辞

岡崎政治郎

時勢の進運は駸々として刻一刻に進みて殆んど其の底止する所を知らず、昨の新は今の陳となり朝の強は夕の弱となる、是の時に当りて若し此の風潮に先んずるにあらずんば焉んぞ能く列強駢馳の間に立ちて此の平和的大戦争に勝を制することを得んや、故に吾人の時運に処して我が富国強兵の策を講ずるの道は一にして足らずと雖も地方実業の振興を措きて他に求むべきものあらざるなり。

向きに日清日露の二大戦争を経て台湾と樺太とを領土に加へ、第一等国の班に列することを得たる我が帝国は、新たに朝鮮を併合し、今や新興国として斬然頭角を顕はし独り雄を東洋に専らにするの榮譽を負ふに至れり。嗚呼此の燦然たる榮譽をして愈々益々之が光輝を發たしめ、且つ之を長へに継続せしめんとせば、愈々富力を増進し、

益々威武を發揚せざるべからざるなり、是れ吾人が富国強兵の策を講ずるの道は、地方実業の振興にありと云へる所以なり、吾人固此の大責任を負ふもの之を奈何んぞ徒に袖手傍觀して地方実業の發展を閑却せしめて可ならんや。

吾人は我が白石町実業發展の機関として、之が新紙を發刊せんとするの意あるや久し、然れども時期の尚ほ熟せざるものありて往再今日に至れるも今や周囲の情勢は其の必要に迫り之が發刊を促して止まず、因りて茲に日本の佳辰を卜して呱呱の声を揚げ白石実業新報と命名するに至りたり。冀はくは我が実業家諸彦よ、大に本紙を愛顧せられ諸彦が実業界に大活動大飛躍さるるの資に供せられんことを、若し夫れ本紙の主義綱領に至りては不偏不党公平無私務めて積極的の方針に抛り情実に流れず、營利を事とせず至誠以て我が実業界に貢献せんことを期するにあり、然りと雖も此の新紙をして健全に成長せしめ以て地方發展の為に大に為すあらしめんとするは一に先輩諸彦の深き誘掖と、厚き指導との後援に依るにあらずんば能はざるなり、聊か蕪辭を述べて發刊の辞となす。

2 第38号1面(明治45年2月1日)

本紙一週年の辞

肇国紀元の大節たる本月本日は神武天皇歎火の檀原に天地と窮りなき天津日繼の基礎を定め玉ひ、又今上陛下には本日をして憲法を布かせ玉ひ、又昨年今日は至仁至慈なる大御心を以て済生の詔を下し玉ふ、此最も尊き佳辰を下して我白石実業新報は呱呱の声を不忘山下に挙げたり、爾来未だ其齡不惑に達せざるも、幸に大方諸君の吾人を愛せらるゝの厚き、其懐抱せらるゝ高見を寄せ吾人を啓発し吾人を規箴し以て深厚なる同情と助力とを以て茲に一週年の誕生日を迎ひ、逐々隆昌の兆を顕したるは是偏に諸君恩賚の力と深く感謝せざるを得ざるなり。顧ふに社会の進運は片時も躊躇する所なく人文の發達は寸刻も猶予なきの今日に当り脆弱自ら省みずして言論を敢てする所以のものは抑も又所思なきにあらざるなり、殖産、興業、教育、宗教、此四つのは国家の存立を永久ならしめ福利を増進するに於て一日も欠くべからざる要素なり、故に殖産の奨励、興業の援護、教育の普及、宗教の感化之を努めて怠慢ならむか、国家を泰山の安きに置きて富強の実を挙ぐる亦た必ず能はざるにあらざ

るべし。

由來我東北の地之を西南地方に比ぶれば文化に遠ざかりて恰も南窓の梅既に馥郁たるも北籬の花未だ其香唇を破らざるの感なきにあらざ、故に百般の施設皆上国の次に置かるゝの止むなきに至る、然れども東北人豈独りいつ迄も呉下の旧阿蒙を甘ぜんや今や政治に実業に教育に総ての方面に於て活動しつゝあるは固より時勢の然らしむる所なりと雖も抑も亦東北人自ら發奮の元氣を鼓したるものと云はざるべからず、古語の所謂『自ら働く者は幸福也』てふ言は明かに東北現今の状勢を証明するものなり、吾人不敏と雖も此進運に乗じて前途快心の光明を認め益々東北の精華を發揮するに努力奮励し我社同人が本紙發刊の初一念を貫徹して諸君の好意に幸負せざらむことを期するもの也。

3 第100号1面(大正2年11月11日)

社説 本紙壹百号の辞

天地秋蘭にして四巒錦繡を曝らすの時、我が白石実業新報は茲に百齡を加へ目出度く記念号を發刊するに至れり、我社同人は満腹の熱誠を以て大方の陰に陽に本紙の

行程に多大の援助を与へられたる諸君に向て深厚なる謝意を表せずんばならず。

古人言ふあり創業は易く守成は難しと顧ふに我々同人は此金言を服膺して今日に至れり、其行程ただ邇からず、険山前に聳え深谿途に横はりに為に幾度びか其の進路に踟躕したりき、然れども同人は益々屈撓せずして勇を鼓し険山を超え深谷を涉り苦がき経験を嘗めて茲に百号を發刊するの榮を致せしを思へば、同人の欣喜は実に言ふべからざるものあり、況や親愛なる諸君が提孩の至情を以て本紙が呱呱含乳の曉あり成育に援助を与へられたる徳の大なるを感佩して止まざるものあるをや、然れども我々同人は茲に百号を以て満足するものにあらず、社会の潮流は順逆その時あり、人事の変遷は汚隆その揆を異にす、同人が奮闘すべきの機は近く前途に横はれるを見る、国家の進運は一日も底止せざるに伴れて、又た其弊端邪事の起るものあり、世挙つて虚榮に流れ勤儉の風を忘れ、武士道衰へて懦弱に陥り、況んや東北發展は声のみにして其実行を視ることなく、農事は依然として旧套を脱せず、工業また振はず、思ふて茲に至れば苟も一度び觚を操つて旗を不忘の第一峯に翻へしたる以上は唯黙々と

して止むべき秋にあらざる也、戦勝余瀉を嘗めて酔ふたる国民を覚醒せしめ強国の民人たる本性を發揮せしめんは是れ吾人操觚者の責務たるを以て将来益々同人の抱負する処を發表披瀝して国家に貢献するは必竟諸君高庇の万一に報ふるものなりと信ず、或は潜越不遜の誹を免れざらんも吾々同人は之を甘受して初一念を貫徹せんとするは白石実業新報の前程に対して榮誉ある光明あるものと為す豈悦ばしからずや茲に聊か吾人の微衷を述べて百号發刊の辞となす矣。

2 町政

1 第2号2面 (明治44年2月21日)

今後の白石発展策

於東都実業界 春山傳之助

(上) 工業地たらしめよ

現在白石には十六の会社ありと云ひるがその内、動力を使用する生産的会社は果して幾何ありや、一度び之を数ふれば殆んど俛指するにも足らざるべく、斯くては電力は寧ろ緊切を感じざる点火用のみ重用せられて、肝腎の製造工業用は閑却せられたるの觀なきにあらざるべし、厳しく言ひば是れ明かに逆施倒行なり、平らたく言ひば不経済の遣り方と云はざる可らず、一般の経済眼よりすれば電力は先づ之れを充分に生産的工業に使用し、而してその余剰を点火用に供するを道理なりとすべきに、富の程度よりするも業務の程度よりするも未だ焦眉の急を感じざる点火用に重きを置きたるは如何にしても感服する能はず、然れ共その茲に到りたるには夫れ夫れの事情もありたるなるべしとして暫らく問はず、唯今後白石

の發展策としては所有動力を挙げて悉く生産的工業用に充つるの方法を講ずべき一事是れなり、然らばその方法は如何にすべきやと云ふに、地方の資本には限りあり、又其物産にも限りあるを以て須らく眼を転じて之れを中央の経済市場に求むること、し、先づ資本を呼び事業を入れ而して好箇の生産業を經營するの方途に出でざるべからず、換言すれば白石の辺土を悉く工業地に化せしむるの覚悟決心を要す、それには予め河川の氾濫を防止するの計を講ずる等種々の準備を必要とすべきも、要は中央市場に於ける生産的事業を目的とする大会社と脈絡を通ずるを最先の急務として、思ひを茲に致し謀を茲に廻らし、而して行ひを茲に完ふせざる可らずと信ず、一日遅くるれば一日の損あり速かに此の方途に向つて進捗せられんか其の利益や鴻大なる可きなり。

2 第3号2面 (明治44年3月1日)

今後の白石発展策

於東都実業界 春山傳之助

(下) 遊覧地たらしめよ

工業地たらしめよと望める一方に遊覧地たらしめよと

望むは無理なる注文の如くなるも実は然らず、余の所謂遊覽地とは古来より存在する「白石噺」及び「谷風の墓」等の如き名跡を積極的に保存し、又一方には鎌先、小原、遠刈田の各温泉場の設備を完全にして、都人士をして喜んで来り遊ぶに適せしむるの方法を取るを言ふにあり、これに就ては先輩諸士も常に苦慮を払ひつゝあるべしと推せらるも、余の寡聞なる未だ松島遊覽客にして白石に杖を曳きたりと云ふを聞かず、又旅行者よりして白石の名所旧跡を尋ねられたることなきを以て見れば、此等の名跡は未だ積極的に保存せられざると同時に普く世人の耳朵に触れ居らざるを知るに足るべく、温泉場の如きもその設備完きを欠き浴客をして居心地を失はしむるがために、折角の名湯を山中に没せしむるにあらずやと疑はざるを得ず、斯くては甚だしき心外なるのみならず当然吸収し得べき人と金とを他に逸し去る理合ひにして、洵に遺憾此上なき次第なりと云はざるべからず、就ては急速に此等の保存及び設備を積極的に実行さるは勿論として、之に付随しては飲食物及び人力車台等の改善を計りて旅客に快感を与へ心地宜く一日も多く足を停めしむるの仕向けを為さざるべからず、それには当業者のみの瘦

腕に一任すべきにあらずして町村一致の公共的計画と爲し、長短相補ひ強弱相扶け依りて以てその充全を期するを為さば人と金とは自ら集注し来るべきなり、要するに今の世は天物を益用して人を招徠するを主とすべく乃ち人來らば事業は自ら生じ金は従つて湧く可し、益用すべき天物を控えながら空しく暴殄するが如きは、是れ与へられたる運命を傷ふ者と云ふ可くして長く地方発展の道にあらず、余は先輩の士の速かに起ちて計図茲に出で実行の完からんを望んで止まざるなり。

3 第3号3面（明治44年3月1日）

●刈田郡会の終了 二月十三日より開会せる同郡会は孰れも原案通り可決、四十二年の歳入歳出決算を全部是認して二十日午前十一時半散会したるが猶本年九月三十日は郡会議員の改選期なるを以て閉会后玉幸亭に於て送別の宴を張れり。

4 第4号3面（明治44年3月11日）

●海軍志願兵検査

合格者十九名

四十四年度同検査は去る六日刈田郡役所内に於て大軍医
三井圭造・一等筆記小野寺平藏氏外三名により執行さる
志願者人員は四十四名にして白石町及び各村志願種別人
員を示せば

	水兵	機関兵	主厨	計
白石町	二	一	一	三
福岡村	二	一	一	四
宮村	一	五	一	七
円田村	二	三	一	六
白川村	一	三	二	五
大鷹沢村	二	二	一	四
大平村	一	一	一	二
斎川村	一	一	一	一
越河村	一	一	一	一
小原村	一	五	二	八
七ヶ宿村	一	三	一	三
計	一一	二四	九	四四

にして合格者水兵七名・機関兵八名・主厨四名、不合格
者身長不足一名・体量不足一名・トラホーム二名・其他
二十一^{ママ}名なり。

5 第4号3面(明治44年3月11日)

●盟友会 当白石町青年実業家十数名より成れる同会
は、明治四十一年三月中の創立に拘り、顧問としては渡
邊佐吉・同貞吉・鈴木富太郎・菅野圓藏の四氏を戴き、
博く商才を養成し識見を高むるを以て目的とし集会所を
白石商業銀行内に置き毎月八日の夜を以て其集会の日と
定め各自の思想を発表し以て相互の知識を交換しつゝ、あ
りと。

6 第4号3面(明治44年3月11日)

●越河村一心会 越河村に於ける同会は会員六十余名を
有し、学芸部、実業部、体育部、矯風部等の四部より成
り教育勸語の御趣旨を奉体して知徳を修養し、身体を鍛
錬し協同自治勤勉力行を旨とし進んで地方の隆盛を図る
を以て目的とし、過般三名の講師を聘し夜学会を開催中
の処去る三月一日同村小学校に於て其が修業証書授与式
を挙行され各般の報告終りて首尾能く閉会せりと因に会
員中勤勉者五名に対しては、有志家の寄贈品及び本社発
行の白石実業新報数ヶ月分を贈与せりと。

7 第5号3面(明治44年3月21日)

●白石町有財産統一

部落有財産を統一して其利用を図るは、町村団体の鞏固資力の充実を期する上に於て頗る緊切の良方法たること、既に識者の唱導する所なり、白石町は従来白石、郡山、鷹巢の三大字より成り、共に相当の財産を有し来たりしも利用管理等放漫に失したるため、現金、蓄穀の外山林原野等の収益を見ること能はざる状態にありしが、明治四十一年以来伊地知郡長の鋭意指導の結果、水野白石町長は町会より委員を挙げ、統一上熱心に尽す所ありしも機熟せずして長時日を経て今日に至りしが、今回各部落共些の異議を唱ふるものなく、住民円熟して統一の解決を見るに至りたるは、実に本郡中模範とするに足る、而して町は山林原野の開墾、造林に有要の施設をなし其利用の策を講ずるに於て、遺利を開発し生産を増加すること鮮少なからざるべし、今統一したる各大字財産を掲ぐれば左の如し

因に本件の解決を見るに至りたるは委員朝倉秀雄氏日夜住民を勧誘して熱心に統一の良策なることを説きたるに基因せずんばあらず。

8 第5号3面(明治44年3月21日)

●大平村信用組合 同組合の設立は去る明治四十一年中にありて、年と共に資金の膨張を来たし出資各自の払込金は勿論、貸付金の如きも聊かも停滞することなく其回収を告げ、事業の経営上毫も遺憾を感ずることなく、年次幾何ならずして斯の如く順調に発展を告ぐるに至りたるは各組合員の克己心の然らしむる所にして、殊に昨年の如きは空前の水害にて、組合員の大半は此災害に遭遇したるにも係はらず組合資金の潤沢なる結果組合員の事業をして些も妨ぐることなく円満なる融通を得たるは同組合員の幸福と云ふ可く、而して組合の基礎も稍々強固となり、将来の発展に資する為め、中央部に於ける联合会等にも加入し愈々発達の機運に向ひつゝありと。

9 第10号1面(明治45年5月11日)

速に遊廓を設置せよ

貸座敷移転問題は久しき以前より屢吾人の耳にせし処なりき、然るに今日に到るも未だ何等纏りたる議あるを聞かず、何んぞ其の優柔不断なるに驚かざるを得んや。今や社会の進運は駸々乎として日一日と進み、殆んど其の底止する処を知らざるの時に際し克く我が白石町は町是として常に積極的方針に抛り教育に勸業に大に勤めつ、ありと雖、如上の社会的問題の逡巡未だ其の解決を見ざるは吾人の常に遺憾とする所なり抑も貸座敷業の如き、在来の俣にして町内各所に散在するが如きは如何に不秩序にして如何に不体裁なるかを知るべきなり、而して又検櫟所も町の南端にあるを以て検櫟の日は醜妓白昼町内を歩くが如きは何れの点より見るも今日社会の進運に伴はざる一大醜態にして他町否他県に於ても決して目睹し能はざる現象なりとす、我が町民諸氏の是れを雲煙過眼視して些も怪しまざるは吾人の常に疑なき能はざる所なり。今や我が白石町は教育機関供はり、工業勃興し有志は益々町の発展を画策しつゝあるの時に於て、社会風教上必須の問題たる貸座敷移転の如き最も単純なる仕事を

放擲して顧みざるが如きは吾人の了解に苦しむ所なり勿論移転に關しては地所の選定とか或ひは補助を要するとか其の間種々なる事情のあるなるべく、又従業者に対しては多少の迷惑はあるなるべくと雖、是等は何時也不必ず來るべき支障にして一人の情実の爲めに逡巡するが如きは吾人の与せざる所とす、当局者たるもの社会矯風の爲め一日も速かに遊廓地を選定して移転せしめざる可からざるなり。見よ隣県福島の如きは、既に十数年の昔に於て如何なる支障をも顧みず、県の方針として断然遊廓を移転せしめたるが如きは頗る吾人の意を得たるものにして大に薦称に値すべきにあらずや、胡爲我が宮城県は此問題に対して斯く冷淡なる哉、実に吾人が常に県当局に對し其の方針に嫌たらざる所以なり、勿論市に於ては再度移転せられたるも郡部に於ては更に其事なし町民諸氏も又逡巡決せざるは実に奇怪千万と謂ざるべからず、吾人は一日も速かに移転を執行せられんことを勧告して止まざるなり。

10 第11号3面(明治44年5月21日)

●玉幸亭に於ける懇親会 斯くて知事一行には玉幸亭に

於ける懇親会に臨まる、為め運動会場をば起たれたり、午後一時三十分と云ふに会は開かれぬ、来賓には寺田知事、片倉男爵、新妻警務長、高木内務部長、山村教育課長、古宇田官房主事、齋藤代議士、長村角田中学校長、安住・佐藤の両県會議員、鈴木署長及び各新聞記者にして、主人側には伊地知刈田郡長、亘理晋、渡邊佐吉、鈴木清之輔、鈴木・村上両県會議員、朝倉・紺野両郡参事員、水野町長の諸氏にして席定まるや亘理晋氏開会の辞を述べ次いで齋藤代議士及び新任伊藤白石中学校長の挨拶ありて後猷酬織るが如く数名の紅裙連は酒間を斡旋し歡語笑声興湧き宴酣ならんとする時更に数名の紅裙連の現れければ、這は意外意外とばかりにて大に座興を援け、斯くて三絃起り胡蝶舞い、興益々加はりけるが是れなん某々氏の寄贈にかゝる福島芸妓の粹を抜きたる花常盤屋の香取、富寿、福住の玉井みつ子、二葉屋の千松なんど云ふ一騎当千の豪のものにて数番の手踊等ありしがこれぞ当日第一の饗応ならんとは、斯くて紳士連の隠し芸などあり各自十二分の歡をつくし我社々長の音頭にて来賓諸君の万歳を三唱し閉会せしは午後四時十分にして知事一行及び其の他の諸氏は午後四時二十分発列車にてそれ

ぞれ帰仙せられたり（丙記者）

因に同日は各戸国旗軒花等にて飾られ昼夜数百発の煙火打揚げられ市内は非常の賑ひなりし

11 第21号3面（明治44年8月21日）

●白石郵便局の昨今

昨年十二月二十日特設電話開設してより市外発着通話数を聞くに昨年十日間にて二百四十四、本年一月中五百三十八と追月其数を増し近く六月中七百七十四、七月中九百五の通話を見しは以て当地發展の一斑を知るを得べく而して通話先は福島を第一に米沢、仙台の順次たるは亦地方実業界の消息を窺ふに足る、白河、川俣、石ノ巻、塩釜とは去る一日より通話開通し第二回架設加入者三十余は来月着手の由なり

12 第25号3面（明治44年10月1日）

●白石町諸車の検査

去る九月二十六、七日の両日午前八時より午後三時迄刈田郡役所に於て諸車の検査執行されたるが現在輛数は

▲荷車三百二十一輛 ▲人力車二十八輛

▲荷馬車二十一輛 ▲自転車六十輛
計四百三十輛なりと

13 第25号3面(明治44年10月1日)

●選挙の余沫

去る廿七日郡役所前通四辻に孰も選挙運動の陣笠連なるべし勝ちて喜びの余りか敗けての余憤かは知らざれど三人の酔漢一寸したことが喧嘩の因となり三人入り乱れての同志打ちに袖を千切られしものや額に瘡を出たせるものにて大騒動中に折り宜く通り掛りし二、三の仲間仲間に入られ互に高声に罵り合ひながら何れへか伴はれ行けり

14 第27号1面(明治44年10月21日)

図書館設立の急務

去る八日澤柳東北大学総長は、白石中学校至道会発会式に臨まれ「所感」てふ題下に精心修養に関する頗る有益なる講演をせられたることは今尚読者諸君の記憶に新なる所なるべし、而して氏は最後に図書館設立の必要を説かれたりき。図書館の必要なるは吾人も之れを認む、都

会にありて既に設立を見、又地方庁所在地としては何れも是れが開設を見るに至りたるは学芸進歩の上に於て洵に慶賀すべきことなりと云ふべし、然れども郡部則ち小都会にありては未だ是等の開設せられたるを聞かざるは実に遺憾に堪へざるなり、地方に於ける教育事業に関する種々なる設備の急にして未だ図書館設立の如き大事業を完成せんとするの違なきにもよるなるべしと雖も如斯き有益なる事業に対しては独り町村負担に俟つべきにあらず、則ち地方に於ける富豪諸氏が、子弟教育に資する責務にして又社会に貢献すべき当然の義務たるべきを信ず、則ち世の富豪をして其巨額の富みを為すに至らしめたるものは則ち社会なり、されば其の富の幾部分は当然社会に属すべきものにして、カーネギー氏の如きも、富豪は、富豪として社会に対する特別な責任を有することを論じたり、而して米国の富豪が社会の公益の爲めに惜げなく其の財を散ずることは殆んど他に其の比を見ざる所にして、実に同国特有の美風と云ふべし、素より我が富豪諸氏に於ても其の財を直接又は間接に、種々なる方面に向つて投資せられ居るは吾人も是を認む、然れども図書館の如き社会的事業に対しては奮つて一臂の力を

致されんことを切望に堪へざるなり、澤柳氏は「若し白石の地にして図書館を設立せられたらんには非常なる有益なること、云ふべしと云はれたるに徴しても瞭なる事実たるべし、冀くは地方に於ける富豪諸氏は宜しく社会公益の爲め、諸氏が歳入の一半を割き、此有益なる事業を完成せられんことを是れ国民をして偉大ならしむる唯一の方法は智徳啓発の途を拓き、以て国民をして高尚ならしむるにあればなり。

15 第27号2面(明治44年10月11日)

東北人は重税を負荷す

源 修

我国今日の税法に於て我東北人は最も重税を負担し居れり、何となれば東北の地は気候寒冷にして西南地方の如く凡ての作物に適する能はず、之れが爲め其收穫の少なきは勿論西南の如く二毛作若くは三毛作を行ふ能はず、加之ならず一年の中年歳は農事に従ひ難く、然れば彼の西南地方と同一の割合を以て徴税し得べきものにあらずるは当然のことなりとす、然るに東北の高地地価と西南の高地地価とを比較するに殆んど大差なく、且つ東北第

一の地価の低き宮城県と山陽道の山口県との地価を比するに略相同じと云ふ、斯くの如きは決して公平の税法と謂ふべからず、此一事は即ち吾儕の常々疑ひを懐ける所なり、然るに東北は其上尚ほ凶荒に遇ふこと西南より多きは事実の証明するところ、而して西南と同一の税を徴するに至りては實際に於て東北は殆んど西南に倍するの重税を負担するに同し、斯の如き不権衡を見るに至れるは地租改正の当時何等の経験もなき無智の官吏等が其の局に当り、各藩主が其領土内に徴収し来りたる年貢を標準として税額を割出したるの杜撰の所為に帰せずんばあらず、何れにしても東北が斯くの如き重税を負担するは其發達を妨ぐるの最も太甚しき原因の一と謂はざるべからず、さなきだに東北はあらゆる点に於て西南に数一〇歩を譲るものなるが上に、料らざりき西南に倍蓰する苛重の国税を負担せんとは豈に驚くべきの極にあらずや、税法を定むるには宜しく地方の気候と地質等を熟察して其標準を立てざるべからざるなり。

16 第30号1面(明治44年11月21日)

仙台市と紡電

曩に仙台市長は電力市営を提唱し仙電及紡電を買収し以て市の財源を強固にし百年の長計を画策し市の利益を増進せしめんとするや市会は之を容れ委員を撰択して其衝に当らしむ、蓋し市にありては最も確實且つ有利の事業にして好箇の財原たるべきは何人も首肯する処なるべし、而して先づ仙電を買収し次いで紡電との交渉開始せられたり、吾人は速かに之れが解決を見るに至るべきを期待せりき、然るに事予期に反し価格其他の条件に於て大なる差違を生じ、事態益々難渋に陥り容易に解決を告ぐるに至らず之れ元より両者共に、十呂盤勘定より割り出したる問題なれば敢て異むに足らずと雖とも、かくては市の面目に關し将来に於ても不利なるべきを察し或る筋の仲裁となり、交渉、又協商、幾度か繰返され結局円満なる解決を観るに至べきを信じたりし。吾人は此問題の起るに際し聊か卑見を開陳せんとしたりしも、云ふまでもなく、仙台市は、本県主腦の都府たり、而して一面我白石町は白石電力を併合せられて以来一層 紡電とは深き縁因を有し加之大株主の所在地として、利害關係の

最も厚きだけ夫れだけ吾人は慎重の態度を持し、徳義を重んじ、一言此問題に論及せざりしなり、然るに近時伝ふる処に拠れば市は極めて強硬の態度に出で強制買収を強んとするもの、如し、斯くては市将来の為に最も遺憾なりとなし一部有志間に於て最後の中立運動を開始し交渉を重ねたるや両者共に、以外に頑強にして、終に不調に畢り、爰に再び中立者も手を引き運動を抛つに至りたりと云ふ其内容は利率に於て五厘の差を生じたるの結果によるもの、如し、五厘の差素より少なりとなさず、然れとも其株主たるも多くは管内にあり、比較的高利なる東北の地に於て此を求めんとするは少しく無理なる注文と謂ざるべからず、若し夫れ此を為さんと欲せば何んぞ之れを市場に俟たざる、更に一步を進めて外資に抛らんとせざる、能はざれば応ずるの止むなきのみ、事爰に出でずして嘗て全国に其類例を見ざる強制買収を強んとは、之際に仙台市の面目に關する一大汚辱なりと謂ふべきなり、

一方紡電側にありて市の株主諸氏が一己の利害より打算する時は或は多少の損失なるべきも是れを公共の事業となし市の増収なるべきに於ては差し引何等の損失なかる

べく、同時に市外の株主諸氏も一部の収入を割愛して公共の事業に投ずるとは思はゞ、人生豈快心の事に属せずや、況んや自己の立脚地たる仙台市、将又自家墳墓マタの地たる市の面目を損ぜしむるが如き挙に出でず、公共の事業たるを思ひ情弊を避け大に襟度を示し一步を譲り緩和温情両々相俟て無事円満なる解決を觀んことを勧告するものなり

17 第32号2面(明治44年12月11日)

●白石の諸君へ

仙台 別茶庵

日本は南から開けて行く、世界文明の入口は長崎で、その文明が充分孕んで居つたところを嘉永六年にチョッと浦賀を刺戟されたので維新の革命を産み出した、宮城県ミヤギの白石は日本に於ける長崎である、戊辰のときには仙台の軍事局となり、奥羽越の公議府となり、維新の後には按察使府をも置かれたことがある、明治十四、五年頃からの民権運動も福島から白石を通じて仙台に及び次第で旺んになった実業思想も仙南白石を中心として漸次北の方へ及ぼしてゐる、蚕業でも製糸業で機業でもさうだ、豈啻

ダァアガマアのみを以て名高き者ならんや、我輩の言決して赤腹でない、その証拠には、仙北にも仙東にも一つもない独立銀行が二つまである、水力発電所がある、長崎は単に文明の入口たるに止まるけれども、白石は口にして胃の腑をも兼ねてゐるから、大に自重せねばなるまい、先つ今日宮城県で最も注目されてゐる土地は塩釜と白石である、前者は築港といふ未来の運命を見越しての話であるが、白石のはそれ自身が仙南の中心たる実力を備へて来るといふ点からである、その外横断鉄道の開通を見込んで岩出山だの、古川だの、石巻だのといふけれども、それは未来のことで差当つては何とも判断がつかかねる、そして塩釜築港も山本大蔵大臣が内閣の瓦解を賭して新事業費の削減を主張してゐる、昨今の雲行きから見ると、どうやら怪しくなつて来てる、買メで騰貴した土地が少す下りか、つてる、が白石のは他動的の要素を以て発展しやうといふのではないから、内閣がどうならうとも、県政がどうあらうとも、そんなことに頓着がない、ト云へば大層白石ばかり褒めるやうだが、実はそれ程の地歩を占め乍ら今日の白石の状態は情けないと思ふ、福島県あたりで白石ほどの他位マタを占めた地方であつたら、

疾うに独立の市になつてゐるであらう、然るに相変らずの白石町で、大肝入支配の白石本郷其の俣とは誰やらの口真似ではないが、ナ、何事ですつといひたくなるではないか、

白石人たるものシツカリして奮発し大に実力を養はねばなるまい、大河原から区裁判所を引たくるなど、そんなケチ臭いことでは、仙南の中心として独立の大規模を成就することは出来まい、白石市を独立選挙区にして代議士を出す位まで漕きつけるには商工業の組織を改め規模を大きくし小ぜり合ひや毛嫌ひのケツケツした小感情を去り氣宇を大にし下腹に力を入れウンと踏ん張て貰ひたいと存ずる、お揃への実業新報は、云はずもがこのことではあるが、昔馴染の旅の舎大人から、何か云てよこせとのことと一生の智恵を絞つて斯様なお粗末を言上する

18 第33号3面(明治44年12月21日)

○北白川停車場の開通

今般白石大河原間なる本郡白川村に新設されたる北白川駅停車場は過般落成し去る十九日より開通、尚同日は盛

なる開通式を挙行せり

19 第41号3面(明治45年3月11日)

白石町四十五年度予算

過般白石町会は四十五年度歳入出総予算を議定せしが実に未曾有の町費の膨張にて前年度予算に比し金八千三百四十五円五十二銭五厘の増加を視たり左に歳出入総予算を示めせば

歳入

一金參万貳千五百貳拾貳円參拾貳錢

歳入予算高

歳出

一金貳万參千四百六拾九円〇七錢八厘

經常費予算高

一金九千〇五拾參円貳拾四錢貳厘

臨時費予算高

計參万貳千五百貳拾貳円三拾貳錢

にして以上数字の示すところによれば經常・臨時共に急激の膨張を來したるものにして其細目に至りては種々あるべきも臨時に於ては重なるものは土木費及寄附金等に

して又已むを得ざるによるなるべしと雖ども兎に角非常なる膨張と云ふべし。

20 第52号1面(明治45年7月11日)

救済の急務

米価の暴騰は今や到るところ輿論を喚起し此問題にて持切る有様なるが曩に政府は之れが調節策として種々なる手段方法を講じたるも些の效果なく昂進又昂騰遂に今日一升貳拾七銭と云ふ珍値を現出するに到る、米価の暴騰に就ては屢々当局に向て救済を策すべきを慫慂したりしも優柔不断未だ具体的成案を觀ざるを憾みとす最早研究調査抔と唱ふべき悠長の時機にあらず、之れ等は暫く他日に譲り、更に論鋒を転じて民間に向て救済を求むべきの已むなきに至る見よ中民以下に於ける社会裏面の暗流は囂々として生活難を絶叫しあるにあらずや特に下層の人民にありては一層悲惨の光景を呈しつ、あるは殆んど疑を容れざるところなり吾人の調査するところによれば之等下層民の子弟にして小学児童の休校するもの日に多きを加ふ之れ瞭に生活難の反響にして一点疑を挟むの余地なく国家教育に至大の關係を有することは云ふまでも

なし、蓋し米価は昨今の情勢より推すときは俄に下落すべくもあらず或は新米の端境迄は此暴値を持続するやも知るべからず、下級労働者の如きに至りては一日の雨天にも尚窮する程なるに此長期間の米高は到底忍ぶ能はざるところなり、若しも此俵にして何等救済を策することなきに於ては益窮地に陥り又如何ともなし能はざるに至るや必せり、我が白石町の如きは県下の工業地として比較的工賃を得るの途あるを以て之れ他地方に比すれば遙に優秀の地たるに相違なく割合に窮民の数多からざるべきも猶夫れ此の如しとせば一日を緩ふすべきの秋にあらず之れが救済を策すべきは將に急務中の急務なりとす、聞く本県石の巻の米商鴛田某は数多の外米をば元価を以て細民に販売することを提供すと、商人としては近来稀に見るの美挙にして洵に快心のことに属す其他仙台市の富豪にも之等の計画あるは喜ぶべき現象なりとす、世の富豪及有志家はかゝる非常の場合に処し卒先^{ソマ}以て之等の方法に倣ひ此の憐む可き国民を救済すべきを勧告して已まざるなり、これ即ち自家立脚の上よりして將に務むべく又自營の一法なればなり、若しも個人として之れを為し能はざるの事情の存するあらば町村自治体が救済基金

を流用して以て格安なる外米を買入一定の方法を以て細民に販売するが如きは易々たる業にして町村救済基金の如き將にかゝる場合に於て流用す可き性質のものたる可し、我が白石町の如きも之等の方法に依り細民救済として外国米の元価販売を為すことを切に勧告するものなり、之れ昨今の場合に処して最大急務なりと信ずればなり。

21 第53号2面 (明治45年7月21日)

●白石町の救済米購入

白石町は遇般臨時町会を開き、昨今に於ける米価騰貴は細民の困難少なかるべきを察し外米を購入し元価を以て細民に供給すべきことを決議し、之に要する資金は救済基金を流用すること、し、監督官庁の認可申請中なれば認可次第直ちに之れが実行に着手すべしと

22 第57号3面 (大正元年9月1日)

●旧盆の状況 去る廿六、七、八日の三日は旧盆に相当するので例年なれば煙花演劇其の他の興行物もありて随分賑はかなりしも御喪中のこと、て之れ等の催もなく頗

る謹慎静粛に経過したり、只僅に白石川に於ける延命寺の流灯施餓鬼会を執行されたる位なりしが、殊に秋蚕の上簇期中に際会したるためか近在よりの人出更になく、極めて寂寥なる盆にてありし

23 第64号4面 (大正元年11月11日)

●鎌先温泉電話所 は特設電話なりしを此程公衆電話と改称し左記の通話区域を延長されたり、因に白石間の通話料十銭・呼出料十銭

山形、米沢、仙台、保原、長岡、瀬上、飯坂、福島、以上通話料二十銭・呼出料十五銭、藤田、桑折、大河原、通話料十五銭・呼出料十銭

24 第102号1面 (大正2年12月1日)

宮城県会に望む 郡部の遊廓設置に就て

我が宮城県会は今や開期中にして大正三年度に於ける施設の重要議案は大半議了せられたるもの、如し、而して凶歉、水災等の善後策に就ても県当局の熱心なる調査と県議諸士の活動とは克く其施設の大方針を確立し、今や災害土木復旧工事の査定を了し追加予算として提出すべ

く其の編成を急ぎつゝ、ありと国庫補助額も亦決定せられたるやに伝ふ、而して其内容は提出後にあらざれば素より知る由なしと雖も必ずや新任当局と吾人の選良とは県民の期待に背かざる底の画策其の宜しきを得べきは疑はざるところなり。

吾人の県当局及び県会に向つて希望する所のものは社会矯風に関する郡部に於ける遊廓の設置之なり、此の問題たるや急須を要せざるか如きも実は然らず否決して一日を緩ふすべき問題にあらざるなり、云ふまでもなく仙台市は東北の学府として其設備の稍々完きを得たるべきも郡部にありては未だ何等の施設を觀ざるは吾人の甚だ怪訝に堪へざるところなり、県立中学校の如きも五ヶの郡

部にあり其の他各種の学校^{マダ}処^{マダ}在地として直接風紀の嚴肅を要すべき地に今尚ほ町内各所に散在するが如き、又塩釜に於ける神社の鳥居先に貸座敷の散在するが如き誠に神聖を穢し、社会風教の爲め如何に不秩序にして不体裁なるかを知るべきなり況んや塩釜の地たる内外觀光客の入り込む本県の勝地たるに於てをや、斯の如く何れの点より見るも社会の進運に伴はざる一大汚点にして他県に於て決して目睹し能はざる奇怪の現象なりと云ふべきな

り、かゝる單純なる仕事を何んか爲めに放擲して顧みさるか吾人の了解に苦しむ所なり、隣県福島の如きは十数年の昔に於て県の方針として断然遊廓を新設せざれば營業せしめざる極めて強硬なる態度を以て移転せしめたるは頗る吾人の意を得たるものにして大に薦称に値すべきなり、胡為我が宮城県は此の問題に對して如く冷膽なるや吾人の恒に疑なき能はざるところなり、望むらくは今期県会の開期中に於て建議案として提出せられんこと之れなり、然して県当局も亦喜んで之を客れ社会風教の爲め將又宮城県の面目の爲め一日も速かに郡部遊廓の新設を決行せられんことを望むや切なり。

25 第112号2面 (大正3年3月11日)

●軍事講話会 は前号報導せる如る去る一日午後二時三十分白石第二小学校内に開催されたるが、在郷軍人は勿論地方有志の聴講者約二百余名にして福島聯隊区司令官陶山操氏は副官を随ひ来白、軍隊と家庭との意志の疎通即ち軍隊と家庭との連絡を保たしめんとの旨意より従来両者間に蟠まれる弊害を述べ、而かも通俗的に講演され例を各国戦時の実況より引き来りて『挙国一致』『国民

皆兵』主義を説き戦後露国の実況、我國民昨今の状体^{ママ}、
今後に於ける國民の覚悟等を縷々講演され、終りにトラ
ホームの撲滅、入営除隊に際し送答品の廃止、軍隊内に
あるものに対しては絶対を送金せざること等の希望を述
べられ数時間に涉りて講演を了り、次に向田郡長の所感
並に聴講者一同に代り謝辞を述べられ午後五時閉会せる
が洵に有益なる講演にてありし

3 学校

1 第3号3面(明治44年3月1日)

● 県立白石中学校 同校は片倉旧城址に在り、明治三十四年一月私立刈田中学校として設置し、同三十四年四月開校せり、同三十六年六月より郡立に変更改称、同四十三年四月より刈田郡立中学校を県立に変更改称さる、現校長は新樂金橋氏にして曾て全国模範中学校の一として表彰さる而して本年四月第一年級募集人員は凡五十五名なり

2 第4号3面(明治44年3月11日)

● 県立白石中学校 同校経歴に關しては前号に報ぜしが、本年創立十年に相当するを以て、有志者相図り近く紀念日を定め一大祝賀会開催の議あると云ふ、学年試験は去る七日より十四日迄にて証書授与式は二十四日午前十一時同校講堂に於て挙行の由、因に卒業すべき五年生は十四名なり

3 第5号1面(明治44年3月21日)

社説 実科高等女学校の設置に就て

今や文物隆扇、随て女子教育の益々盛なるは国家の爲めに慶ぶべしと雖も、一利一弊は数の免れざる所にして晩近女学生の風紀頹廢を云為するもの漸く多きを覚ゆるに至れり、今其原因を索むれば多々あるべきもの要するに未だ思想の健全ならざる地方妙齡の女子をして都会に遊学せしめ、不知不識の間に虚栄の悪風に感染せしむることの一大原因たらずんばならず、故に吾人は地方便宜の地に於て女子教育の機関を設け地方の女学生をして都会に遊学するの必要なからしむる事は最も今日の急務なりと信ず。斯く女子の教育機関を地方に設備するは、単に都会の華奢淫靡の風に感染せしむることなく、且つ其誘惑に陥らしめざるの利あるのみならず、遠く家庭を離るゝことなきが故に父兄の監督自ら周到にして、学資を要する点に於ても亦経済なることは論を俟たざる所なり、偶ま健全なる思想を有せる才媛ありて、遊学を熱望するも学資給せず、曠しく其一念を達することを得ざるものなきにあらず、故に吾人は地方に女子教育の機関を設備するは唯に女子風紀の上に於て便益あるのみならず、

地方経済上に大なる効果あるべきを信ずるものなり、説聞我白石町に於ても夙に此に着眼する所ありて、近く実科高等女学校設置の義あり目下是が予算の編成中なりと云ふ、吾人は女子教育の為めに賛同慶賀せずんばあらざるなり、抑も女子教育の忽諸に付すべからざるは世既に定論ありて吾人の呶々を要せずと雖も、女子は稠密なる思想を以て内を斉へ、児女を導き徳風の淵源を養ふべきは則ち其天職なるが故に、女子の風紀健全ならざれば社会の風紀亦た健全ならず、女子の風紀頹廢して社会風紀の之に伴ふは瞭かなる事実なれば、之が経営の局に当たるもの宜しく時勢の進運に伴ふの設備をなし、百尺竿頭一步を進めて寧ろ茲に高等女学校を設立し、以て地方女子教育の完全を期せられんことを希望して止まざるなり。

4 第5号2面(明治44年3月21日)

● 近く新設せらるべき実科高等女学校

白石町に於ける小学校は現在一校にして尋常科・高等科を通して二十四学級に編成しありしが四十四年度こ於ては更に二学級を増加するに至り、斯くては教育上亦管理

上にも不便少なからざるにより、今般沢端分教室を独立せしめ第二小学校となし、本核即ち第一小学校を男児部とし、新設第二小学校を女児部として各十三学級の児童を収容する由、依て之れが分立したる経費の増加は一千円以上を要する見込にして目下予算編成中にあり、而して第二小学校に実科高等女学校を併置し教員には高等師範学校卒業者二名を招聘し高等小学卒業の女児をして修業年限二ケ年にて修身、国語、数学、家事、裁縫実業、体操等の課目を修得せしめ而して未来の良妻賢母を養成するにありと。

5 第10号2面(明治44年5月11日)

● 白石中学校開校式

県立白石中学校は明治三十一年真言宗中学林と白石中学校とを合併して刈田造士館となし、三十六年私立中学校と改め三十七年七月郡立刈田中学校として昨年三月迄那費を以て経営し来りしが、同四月県立に改められしも校舍の増築等にて未だ県立開会式を挙るに至らざりしが愈々七拾余坪の大講堂も落成せしにつき、来る五月十四日を以て盛大なる開校式を挙行する由、尚同日は県知事

及県會議員全部其他管内の有力家を招待するとの事なれば定めて盛大なる開会式を見るなるべし

因に同日は余興として同学校生徒の運動会を挙行せらる、筈

6 第10号2面(明治44年5月11日)

●同校生修学旅行 四、五年生は去る五日丸田、深川、渡邊の諸教授附添へ中尊寺方面一ノ関、石巻、松島等へ泊し仙台を経て八日帰校、三年生は阿部教授附添へ郡山方面へ、二年生は田中、成澤教授附添へ福島、飯坂方面へ、一年生は安積、大高、齋藤、加賀の諸氏附添へ本郡白川村犬卒都婆村の菊面石及び伊具郡高藏寺に到り何れも即日帰校せり

7 第11号3面(明治44年5月21日)

県立白石中学校落成式 附祝賀宴会

既報の如く同校落成式は去る十四日午前十一時より新築せる大講堂に於て挙行されたり、主なる来賓には寺田本県知事、高木内務部長、新妻警務長、山村事務官、古宇田官房主事、片倉男爵、齋藤代議士、県會議員安住仁次

郎、佐藤亀八郎、鈴木惣四郎、村上勇吉の諸氏其他郡村長有志百数十名にして、定刻に至り教職員生徒来賓一同式場に入る、講堂正面御真影奉安所前に備へしテーブル側の花瓶に插花せる藤花は鳳尾の如く、ケイを圧して響く君ヶ代の奏曲は心耳を清澄せしめて坐るに襟を正さしむ、先づ伊地知郡長の式辞に次いで寺田知事は大要左の如き祝辞を述べたり

本郡は夙に教育の向上発展を図り中学校の如きも早く其設立を見爾来中学校としては本校は校風の異彩を放ち又其教育を受くる者は尋常平凡の者でなく勤勉着実の美風を帯び在学中は勿論の事として実に中学教育の本旨を發揮したるものなり今日多くは惰落軽躁浮薄に流る、者あるは本官及び一般の認むる処なれとも之れを見ざるは本校の誇りとする処なり昨年度県立に変更され名称の異なると雖も其實質に於ては何等異なる事なし而して設備其他不十分なるを郡民は察知し更に敷地を求め増築を為し中学としての構造万端遺漏無きに至りたるは郡民一致の協力に依る先輩有志諸氏の進退を共にし永く援護せんことを望む郡立になりては多大の寄附をなし以て全きを得たるは本校を愛する一念の

厚きに依るものにして感謝に堪えず今此祝賀式に臨席する実に喜びとする処なり斯る歴史と光輝ある本校の校長及び教授も改良すべき点は改良し以て一段の美を為すは信じて疑はず又県当局も意を注ぐ可し今日如斯宏燥なる堂に於て祝賀式を挙ぐ一言以て祝し併せて希望を述べ

終りて同校長伊藤允美、郡会議長山田誠一、白石町長水野健治、刈田郡教育会副会長亘理晋、刈田郡各小学校校長総代矢内弥一郎、同窓会総代青木八十吉諸氏の祝詞あり式を終りしは正十二時なりき夫れより主なる来賓の記念撮影を為し来賓一同別室の祝賀宴会に至る伊知地郡長の挨拶ありて宴は開かれ立食の饗応に豊頬微醺を呈して散会す、知事一行及び来賓一同には之より、城山々上同校運動場に催されたる記念運動会へ臨みたり（甲記者）

8 第11号3面（明治44年5月21日）

●記念運動会 今左に其の模様を記さんと同広場の入口には大緑門を建て中央数丈の竿頭より蜘蛛手に張られたる万国旗は初夏の緑風に飜り各学級生の意匠に成れる飾り物は所々に配設せらる殊に衆目を惹きしは五年生の活

動大蜘蛛、四年生の活動大時計及び三年生の初代片倉公の銅像等なりき競技は正午〇時半より開始され順次回を追ふて午後四時歓呼の中に解散せり当日の競技中最も喝采を博したる変装競争凸坊世界漫遊及び障害物競争等にし場内には式場より臨まれたる県知事一行の始終ニコニコと微笑を漏らしつゝ、観覧せらるゝを見受けられたり、因に競技主なる受賞者は

第四回変装競争一着三年佐藤佐市、二着同阿部平治、三着四年佐藤昌 番外来賓、凸坊世界漫遊競争一着佐藤鶴石工門、二着加藤市四郎、三着佐藤兵助、四着猪岡良、五着川田百人、第廿一回各小学校選手二百碼一着白石小針生貞吉、二着齋川八卷久三郎、三着宮我妻勇夫、四着白石半田倉吉、五着加藤孫造 第廿二回卒業生徒競走一着菅野圓次郎、二着菊地多吉、三着日下忠助、四着大槻武三郎、五着森時男、国民新聞社及び河北新報社寄贈の銀メダルは左の諸氏の贏ち得る所となりたり

国民新聞社寄贈銀メダル（障害物競争） 松田泰七
同（同） 佐藤大輔
河北新報社寄贈銀メダル（四百ヤード） 熊坂富治

同 (六 ヤード) 早田忠夫

(乙記者)

徒一同の落成式の歌を奏し式終つて宴会あり解散せるは午後四時なりし

9 第25号3面 (明治44年10月1日)

○白中近時

▲至道講演会 既報の如く伊藤允美氏を首め地方有志者の組織に係る白石中学校至道講演会は愈々来る八日を以て開会式を擧ぐる由にて当日の講師は未定なれども澤柳東北大学総長、早川智寛氏及び他一名なるべしと。

▲寄宿舎 同校生徒の気風をして一層高めん目的にて本日より寄宿舎を設置する由也

▲秋季運動会 来る十五日当町鎮座神明社の祭日を期し校庭に於て当白石中学生の秋季運動会を開会すと

10 第33号3面 (明治44年12月21日)

○福岡村小学校々舎落成

兼て工事中なりし福岡村小学校々舎は這般愈々竣成し去十六日午前十時同校広場に於て盛大なる落成式を挙行せられたり先つ校長の挨拶に次いで校長の勅語捧読、県視学、向田郡長及び各町村小学校校長等の祝詞朗読次いで生

11 第33号3面 (明治44年12月21日)

○十八番時代生徒の同窓会

去月廿六日福岡村蔵本十八番学校時代の同窓生発起となり同時代に於て親しく教授を受けたる矢内先生の招待会を開き、一堂に会せる数十名の同窓生は互に膝を交ひ歓談笑語に転る懐旧の情を催し種々の余興等あり各自歡を尽して解散せりと

12 第39号3面 (明治45年2月21日)

白石中学校の兔狩り

白石中学校にては去る十二日黎明教員及び学生一同白石川大橋袂に参集午前六時二百有余の健児は五寸の草鞋雪を蹴つて鎌先山に向ふ、此日雪は紛々として卅字巴と降り頻り朔風凜烈として肌を裂く薬師堂の後に到りし頃は益々降り募り四面濠々として殆んと寸尺を弁せず甲呼び乙答ひ互に相呼応して進む午前七時鎌先温泉に到りし時雪漸く竭み白凱々たる四顧の環峯朝暾に映じて眩ゆく

折々吹き下ろす不忘山嵐は峡間の雪を巻き上げ一同小憩の後安善寺囲の現場に到る先づ応援の獵師は山相を卜して指揮官たる伊藤校長と協議する所あり菅野教諭の号令の下に横隊を作りワツと突込む突喊の叫びは天地も揺がんにばかり林響を返して噓々たり斯くして十時には已に兎二頭・栗鼠一匹を獲獵師は銃先に獲物を掛けて高く掲ぐれば是れを圍繞せる数多の勢子は帽を振り手を挙げて万歳を唱ふ午前十一時温泉場に引上げ一條旅館に投じ獲たる兎は直ちに料られて昼餐の膳に上り一同舌鼓打ちて口胃の欲を充たず数回浴みして而して凱歌を奏しつゝ威風堂々帰路に就きしは午後四時なりし

13 第41号2面 (明治45年3月11日)

○県立白石中学校生徒募集

来る四月第一学年生徒凡五十名を募集すべきにより入学志望の者は当該学校に承合すべしと

14 第41号3面 (明治45年3月11日)

白石町立実科高等女学校生徒募集

同校にては来る四月第一学年入学生徒約四十名募集のよ

し志望者は期日に後れざる様同校に承合せらるべし

15 第43号2面 (明治45年4月1日)

◎白石中学校卒業式

県立白石中学校第九卒業証書授与式は去る二十四日同校講堂に於て午前十一時三十分より挙行されたるが之れより先寺田本県知事には属官本田・草刈の両属を随へ午前十時四十六分着列車にて来白有志者数十名の出迎ひに擁せられ直ちに向田郡長、伊藤校長と共に馬車にて中学校に向はれ暫時休憩の後式を挙げられたり参列者の重なるものは片倉男爵、向田郡長、田中警察署長、水野町長、古山県会議員、各郡参事員、亘理父兄会長、各町村長、塚田駅長、各小学校長及び有志者・補護人・父兄・卒業生等凡そ八十名外同校生一同着席するや伊藤校長は御真影奉安所開扉、最敬礼君が代二回、勅語奉読の後卒業生に対し証書を授与し伊藤校長の懇篤なる告諭あり寺田知事の告辞朗読、片倉男爵来賓総代の祝辞、亘理父兄会長の祝辞、同校同窓会総代日下眞一氏の祝辞、卒業生総代金谷正治の答辞あり昨年度優等生・精励者等の披露あり生徒一同の卒業歌にて式を終りたるは午後二時別席に於

て記念の撮影ありそれより知事一行には玉幸亭に於て有志者と共に午餐を喫せられ四時二十三分発列車にて帰仙されたり

卒業生氏名

達崎雅治 金谷正治 原家壽 阿部豊治 渡邊貞一
佐藤大輔 柴山幸一 佐藤誠 古山兵左衛門 萩本操
鈴木雄介 佐藤善二 市川勲 高藤英雄
の十四名にして特待生は左の八名なり

日下榮七郎 横山敬教 齋藤善八 石川正一 大槻泉
齋藤勝平 高橋敏 柴崎幸太郎

学行優良褒状を受領せしものは左の十四名

達崎雅治 金谷正治 木村昇 千歳登治郎 木村謙次
仙石久富 藤本退藏 岩間秀雄 櫻田哲郎 高畑榮吉
佐藤盛 須江守義 佐藤今朝吉 大友千里
学業優良褒状を受領せし者は左の三名なり

高橋正七 阿部善治 大概要七

精励賞状を受領したるもの左の数名にして卒業生にあり
ては渡邊貞一外各級生を列記せば

千歳登治郎 熊坂丙治郎 藤本成治 杉浦智郎 佐藤
信策 片岡壽 眞柄謙 菊地寛治 三浦彌平 佐藤良

次 山家七郎 日下榮七郎 横山敬教 齋藤義八 木

村健治 吉見猛 菅野圓三郎 小室富治 紺野安治

阿部平治 小笠原里見 和泉良次 赤井畑幸美 水野

一郎 鈴木佐太郎 小室勝 大槻泉 齋藤勝平 石川

正一 大概要七 阿部善治 高橋敏 藤本退藏 小川

徳助 櫻田哲郎 大野慶正 田副軍治 高橋源一 吉

見深松 佐藤理兵衛 杉浦義人 千歳鐵三郎 岩山操

八島誠一郎 前田芳俊 小野義勝 八島幸二 片平六

彌 鹿又彌七 齋藤鐵太郎 高橋吉郎治 日下與一郎

小室泰治 岩間高次 佐藤義七 柴崎幸太郎 佐藤盛

高畑榮吉 大友千里 須江守義 高橋龍男 齋藤一男

岩松義作 永山壽郎 竹内武夫 紺野芳雄 山家富太

小關武郎 岩淵政治 高橋五郎 山田豊八 石川要三

郎 齋藤義一郎 佐藤八郎 鷺清助 平間定右衛門

鈴木省吾 浅野政香

父兄会贈与名誉記念銀牌受領者は卒業生

達崎雅治 金谷正治 原家壽 阿部豊治 渡邊貞一

の五名にして寺田知事の告辞は左の如し

告辞

諸子多年螢雪ノ効空シカラス茲ニ卒業証書ヲ受クルニ至

リタルハ諸子ノ光荣ニシテ本官ノ大ニ慶祝スル所也今ヤ内外多事ノ秋ニ際シ国家元氣ノ源泉タル青年ノ徒ニ佻倖物質的文明ニ齷齪スルヲ許サス必ス常ニ自ラ修養シテ勇敢剛毅ノ性格ト堅忍不拔ノ氣象トヲ鍛リ以テ国威ノ發揚ニ努メサルヘカラス

惟フニ諸子ノ将来ハ頗ル多望ナルヘシ進ンデ高等ノ学ニ入ルト止テ家業ニ従フトヲ問ハス国民ノ中堅トナリテ国家ニ裨補スルニ於テハ一ナラサルヘカラス乃チ其ノ前途ニ負フ所ノモノ重且ツ大ナリト謂フヘシ諸子ハ春秋ニ富ミ意氣正ニ壮ナリ望ムラクハ恒ニ本校教養ノ趣旨ヲ体シ至誠遇往克ク其ノ器ヲ成シ志ヲ遂ゲ以テ国家ノ期待ニ副ヒ本日ノ光荣ニ酬インコトヲ

明治四十五年三月廿四日

宮城県知事正四位勲三等 寺田祐之

16 第43号2面(明治45年4月1日)

◎白石第一小学校 卒業証書授与式

去る二十五日午前九時より白石第一小学校大教室に於て卒業証書授与式を挙行されたり来賓片倉男爵、向田郡長、水野町長、巨理晋、各学務委員、町会議員、各有志者及び

父兄等約七十名の参列者あり、国歌合唱二回、矢内校長の勅語捧読、卒業証書授与、精励者・優等生に対し夫々選奨あり特に向田郡長には学行優良者に商品を授与されたり次て校長の学事報告及び告辞来賓向田郡長及び巨理氏の式辞、高等科卒業生総代小關才逸の答辞、尋常科卒業生総代菅井正雄の祝詞あり、卒業歌にて式を終りたり本年度は良成績にして知事より旌表されたるは

賞状

宮城県刈田郡白石第一尋常高等小学校

高等科卒業 児童

小關才逸

在学中平素勤勉品行方正学業優等ニシテ衆ノ模範タリ仍テ教育勅語謄本ヲ付与シ以テ之

明治四十五年三月二十五日

宮城県知事正四位勲三等 寺田祐之

17 第43号2面(明治45年4月1日)

◎白石第二小学校 卒業証書授与式

二十五日午前九時より修業証書授与式を挙行し午後一時より卒業証書授与式を挙行されたり来賓は第一小学校に

臨場の諸氏にして国歌合唱二回、川田校長の勅語及び戊申詔書の奉読、卒業証書授与、精勵者、優等生に対し選賞ありて次て向田郡長よりの賞品を授与し校長の告辞来賓向田郡長の式辞、卒業生総代渡邊きうの答辞、尋常科卒業生総代佐々木はしめの答辞、卒業歌にて式を終りたり知事より旌表されたるものは

賞状

宮城県刈田郡白石第二尋常高等小学校

高等科卒業 児

渡邊きう

在学中平素勤勉品行方正学業優等ニシテ衆ノ模範タリ依テ教育勅語謄本ヲ付与シ以テ之ヲ賞ス

明治四十五年三月二十五日

宮城県知事正四位勲三等 寺田祐之

以上旌表されたる卒業生は第一、第二共に各一名にして男生は当町中町小關圓吉氏の長男にして、女生は同中町渡邊貞吉氏の二女なり、洵に名譽のこと、云ふべく殊に同町同字より男女両生の旌表者を出したるは奇といふべし

18 第43号3面（明治45年4月1日）

白石実科高等女学校修業式

白石町立実科高等女学校修業式は二十六日午前九時來賓数十名參列の上同校に於て挙行されたり川田校長心得の勅語奉読、国歌二回合唱、修業証書を授与、來賓向田郡長の式辞、金剛石の唱歌にて式を終り因に修業証書を受領したる生徒は三十一名名なりと

19 第47号3面（昭和45年5月11日）

白石中学生の遠足運動

白石中学生徒の修学旅行は去る三日各受持教員引卒のもとに一学年生は飯坂温泉へ、二学年生は松島へ、三学年生は陸中尊寺へ、四学年生は水戸方面へ、五学年生は足尾銅山及日光方面へ向け出発せり

20 第48号3面（明治45年5月21日）

●私立裁縫静修学校卒業証書授与式

白石町同校第十四回卒業生二十一名に対する証書授与式は去月十四日午前十時より同校に於て挙行されたり來賓として向田郡長、岡郡視学、矢内・川田両小学校長、水野

町長、其他有力家数十名臨席し校長加藤りやう子証書及び商品を授与し加藤校長の告諭來賓諸氏の祝辞卒業生総代の答辞ありて式を終り後生徒の製作品を觀覽に供し、別室に於て茶菓の饗応あり散会せしは正午頃なりき因に本年高等科卒業生は二十名にして内優等生は左の六名なり

菊地うん 高橋やす 石川こう 高橋たか 佐藤やす
伊藤もゝよ 山田よの

21 第48号3面(明治45年5月21日)

高等女学校生徒の修学旅行

白石実科高等女学校にては船山・中島両教師の引率にて来る二十六日生徒約四十名同日帰校の予定にて早朝当駅を發車し福島駅に下降それより徒歩にて飯坂温泉に趣く

22 第54号3面(大正元年8月1日)

○県立白石中学校 にては四、五年生は去る二十二日より、三学年以下は翌二十三日より各第一学期の試験を施行され二十七日全く終了の後神明社及び同校外の大掃

除を執行し終りて、伊藤校長より夏期休業を宣言され休業中に於ける課題を授け、且つ生徒の心得等に就き訓示等ありたり、次で一昨三十日午後試験成績発表と同時に父兄会を開催し校長より休業中の学生保護監督に関する訓戒ありて日暮散会せり、尚ほ同校にては夏期休業中来る三日より水泳及柔道・擊劍等の稽古をなす筈にて仙台より水泳教師を聘することに決定したり

23 第54号4面(大正元年8月1日)

●白石中学校本年卒業生 にして何れも受験の上各高等学校に入学を許可されしもの左の如し

東京高等師範学校 達崎雅治
第二高等学校第二部 金谷正治
仙台高等学校工科 佐藤大輔
旧卒業生にして入学許可されたるもの左に

第四高等学校 朝倉卓
東北大学予科 亘理四郎
本年大学へ入学許可されたるもの左に
東京帝国大学法科 独逸 木村惇
同 工科 電気 新樂顯理

同

太田奥次郎

同

山川保

東北大学理科

山田大樹

24 第63号4面 (大正元年11月1日)

●白石小学校生徒の校外教授 去る十九日第一、第二小学校尋五以上の学生男女四百余名は熊谷(男子部)・半澤(女子部)両訓導指導の下に齋藤、櫻田、厨川、佐藤諸師の引卒にて同日未明に当地を発し途中岩沼に下車竹駒神社に詣で後藤波の渡場を渡りて砂上に三々五々随意朝食を喫し休憩の後阿武隈川堤防を隊伍堂々下向する事里余其の間各受持教師の途上説明等あり準備の為め前日来先発せる樋口書記の出迎を受け一同は目的地なる亶理郡荒浜町に到着金波楼に休憩各自所持品を托して河口なる漁獵を実見されたり学童等は砂原を囲んで引網の実況網より投げ出されたる鮭魚或は網の中に澁漑たる状況を見ては万歳を唱ひ山なす波の砂上に泡立つ来るを見ては驚き或は喜び起つ一同歓を尽して金波楼に引き上げ午餐を喫し午後一時三大舟を雇へ向岸なる二浦崎に上陸隊伍堂々岩沼を差して帰路に就く岩沼より乗車して五時二

十分当駅着帰校後川田第二校長の訓示半澤訓導の帰校の

辞等ありて散会となる因に当日は佐藤収入役、後藤三治

郎氏外数十名の随伴ありて諸事周旋の労を採られたり

25 第63号4面 (大正元年11月1日)

●白河小学校生徒の修学旅行 本郡白河尋常小学校にて去る十八日父兄会を開催し其席上に学童の修学旅行を企てありしが既定の通り尋四以上父兄等百余名同校長指導の下に去る廿三日午前七時四十分発の列車にて北白河停車場を発し亶理郡荒浜方面に向はれ終日歓を尽して夕景帰校されたり

26 第64号1面 (大正元年11月1日)

白石第一・第二小学校

須らく歩調を一にせよ

我が白石町は近年著しく向上発展し戸数及人口の増加は就学児童の歳と共に又増加すべきは自然の数にして之れを収容すべき校舎の狭隘を告げ増築、又新築に日も猶足らざるの感あり故に数年前より男子部と女子部とを分ち女子部を分校として経営し来りしも授業上敏活を要する

ものありてか昨年女子部を独立せしめて第二尋常高等小学校を設立するに至る、之れ則ち町の發展上慶賀すべきことなりとす、云ふまでもなく第一・第二共に同一町立にして何等の徑庭なく只教授方法の如き男子と女子とは自から其趣きを異にすべき点あるべきもの其の教育方針に至りては常に連絡を取り緩急相助け同一歩調を取らざるべからず然るに両校相比較するときは甲の爲したる事を乙にて爲さざることあり乙の爲したることを甲に於て爲さざる事ありて応々歩調の一致を欠くが如きは屢々吾人の耳にするとおころにして洵に怪訝に堪ざるところなり、近く一例を挙げれば去る三日は過古に於て我が明治

天皇陛下の天長節として祝賀し来れる佳辰なり今や陛下は神去りまして其の天長節たるの名称は已みたりと雖も我々国民は則ち遂に此日を忘るる能はざるなり、先帝陛下の聖徳高恩を紀念すべき此の大切なる日に於て第二小学校は全生徒を集め 先帝陛下の御聖徳を追慕し奉りたるは臣子として將に爲さざるべからざる事なり、学校としては誠に其の當を得たるものと謂ふべきなり、然るに第一小学校に於ては如何なる事情のありてか知らざれども何等の催もなく然も日曜日なるに拘はず生徒をし

て無意義に無聊に一日を過ぎしめたるが如き、思ひの茲に至らざるは洵に遺憾の事に属す、況んや将来十一月三日を以て何等かの名称の下に生徒を教膺訓戒すべき絶好の紀念日たらしめんと欲するに於てをや、之れ畢竟常に意志の疎通せざるに因らざるなきか甚だ疑なき能はず、斯の如きは児童教育の上に深甚なる影響を与ふるものなれば当局者は此辺の消息に注意し両校の統一を計り万遺憾なきを期待すべきものなるを信じ、将来機会ある毎に必ず歩調を一にすべきことを勧告する所以なり。

27 第64号2面 (大正元年11月11日)

●刈田郡第一部教育研究会

同会は白石、福岡、白川、小下倉の四校より成り各校順番に開催する事となり去る二日午後一時福岡小学校講堂に於て開催されたりしが会員四十余名定刻に着席するや矢内(第一校長)会長開会を宣し平間(白川校)訓導の唱歌教授法段階と題し講演され次で早坂(第一校)訓導の唱歌教授法に就ての目的基本的教授、教授法の種別、其の他注意すべき事項等縷々講話ありて教授上得たる資料も尠少なからざる由終りて茶話会に移り午後三時閉会さ

れたり

28 第64号2面(大正元年11月11日)

○白中生徒の機動演習参加 白石中学校生徒五十五名を機動演習に参加を許可され第四・第五の両級より選抜して去る六日午後より伊藤校長の引率にて武装肅々柴田郡方面に到り南軍なる三十二聯隊に配属されたり

29 第64号2面(大正元年11月11日)

●白石中学校の発火演習 秋天漸く高く眺望たる四辺の紅葉益々紅く晩秋の色彩闌ならむとするの秋不忘の連巒暗雲の間に聳ひ白石川の清流將に睡らむとするに似たり、血湧き肉躍る三百有余の同校全生徒の発火演習ぞ開かれたり、時は維れ十一月の一日・二日の両日に亘る南北両軍の戦々にてありける、校前に於て夫々部隊を分割し隊伍堂々校門を出発せしは一日の午後〇時卅分厳肅なる号令の下に武歩雄列益岡の城頭を發して陸羽街道を北進し平坦なる国道の行軍は何等の支障もなく清流なる白石川と横対して子捨川を過ぎ宮駅に達せし時は既に一時を過ぐ十分軍は益々行動を開始せしもの如し『南軍伝

令 信すべき情報に依れば敵の一支隊は今一日午後一時柴田郡村田町西方約二千米に在り字足立を過ぎて刈田郡円田村方面に前進しつゝあり終』南軍なる大槻中隊長命令一番して円田村曲竹方面に突撃せしむ路上斥候は三々五々森林の境にありて警戒怠りなし同隊の目的地たり曲竹に着せしは日の西山に没して黄昏の頃俄然一斥候の情報に曰く『敵兵若干松川左岸に在り』と時既に尖兵の銃火を交へて松川の彼岸に駆逐し盛に戦端を開きつゝあり、急報を得たる本隊は敵の散兵線と対峙して両翼にあり劇甚なる戦闘は開かれぬ、兵士は河原の堤防に拠りて一斉射撃を続行し幹部は河原の小松を踏み蹂り右往左往に奔走す部下を励声叱咤して戦を挑む数分戦將に酣にして修羅の巷に化せむとし南軍なる杉浦小隊長の血走りたる眼光もて飛進奮闘我に続けどばかり猛然起つて松川の急流を横断して先頭一番し次で大槻中隊長も諸共も続けとザンブと計り身を河中に躍り入る部下士卒も続いて上陸突進し猛烈なる此の対戦に流石の北軍も逆進又退却悪戦苦闘両軍の死傷算なく鮮血淋漓として松川の濁流將に紅ならんとす、然れとも頑強なる北軍は佐藤中隊長を始め片岡、眞柄、平間の各小隊長も刀折れ力尽きて稍々寛

ぎたる折柄休戦喇叭の遙かに河面を掠めて響き渡り遠く余韻を残して恨むが如く日は全く暮れて四面寂寞たり濁流の荒音も漸く澄み渉り清爽たるの時両軍砲火を収めて審判官の講評あり後各隊分列して南軍は円田村に北軍は永野分校に各宿舎に就く此の夜永野橋附近に於て夜間演習等もありたり、明る二日星影微なる暁天を冒して起る両軍は意気天を衝き勇氣前日に数倍し宮村明神森に於て大激戦あり南軍は退却す北軍之れを追撃すること益々急、子捨川附近に於て扼さむとしたるも能はず遂に白石河畔に圧迫されたりしも南軍は白石橋に鉄条網及強固なる鹿柴を設置し一步も白石へ入れまらずと沿岸に砲列を据へ防戦甚だ努む北軍之を突破せむとして進軍し来り両軍戦鬪頗る猛烈を極む此間僅かに数十米突將に白兵戦に入らんとする時演習中止となる後両軍の講評あり全く砲火を収めて帰校せるは午後三時過ぎなりし畢に沿道各村に於ける歓待と宿舎に充られたる曲竹吾妻源三郎氏等の厚意と便宜を与へられたるは同校職員生徒の感謝する所なりと

30 第64号4面(大正元年11月11日)

●白石中学校寄宿舎の竣成 渡邊又四郎氏に依り建築さるべき白石中学校寄宿舎は村上材木店の請負に係り数月前より工事中の処、此程工全く成り愈々本月中旬を以て竣成式を挙行せらるべき筈なるが収容すべき生徒数は約四十名位なりと云ふ

31 第67号2面(大正元年12月11日)

白石中学校至道会

同会は創立以来僅に一ヶ月余に過ぎざるも益々穩健なる発達を遂げ今や有力なる德育涵養に資する重要な機関となり単に会員に止まらず一般に大道を普及せん目的を以て今回は通俗講演会を開催するに決し東都第一流の講談師邑井貞吉氏を聘し去る八日正午より当町壽座に於て開催されたり定刻には会員及各学校生徒一般の会衆無慮八百余名に達し満場立錫の余地なく先づ同会常任幹事亘理晋氏開会の辞を述べ次て西村錦閃君の薩摩琵琶北白川の宮台湾落、邑井貞吉氏の柳生二蓋笠及乃木大将伝の二席を例の達弁を揮つて滔々弁じ去り非常なる感動を与ひ終りて会長伊藤允美氏閉会の辞に併せて德育修養に関する

熱烈なる大講演ありて午後四時三十分閉会して休憩となり、午後六時再び開会せしが昼にも増さる聴衆にて満場

人を以て埋められたり亘理氏の開会の辞次で西村氏の琵琶小楠公河内の宿は拍手の内に終り次で邑井氏は乃木大将と孝行の兵士でふ題下に流暢なる弁舌を以て一時間余に涉り喝采場裡に降壇し西村氏の城山西郷隆盛の最後次で邑井氏の義士伝は是れまた非常の熱心を以て弁ぜられたれば聴くもの感に打たれ満場水を打ちたる如く感嘆措く能はざらしめて降壇するや拍手喝采暫くは鳴りも止まざりき、かくて伊藤会長閉会の辞を述べ全く散会せしは九時十分なりき実に近來稀に觀る盛会にて一般公衆に裨益するところ蓋し尠少ならざりしは確に同会の成功と云ふべきなり

32 第67号2面 (大正元年12月11日)

●小学校教員の夜間講習会 本月第一月曜日の午後六時より毎夜十時迄で白石第二小学校講堂内に夜間講習会を開催去る八日閉会されたりしが斯道に熱心なる向田郡長は特に臨場有益なる訓示、講演等あり岡郡視学は這般文部省に開催の視学講習会に於ける事項、教授法、教育上

の施設、教授訓練上に就て縷々懇切なる講話ありて益する所尠少ならざりしと

33 第74号2面 (大正2年2月21日)

●白石第一小学校 には十一日紀元節佳辰に於て父兄会を開催されたるが矢内校長の開会の辞及父兄生徒に対する希望を述べられ來賓佐藤淺治郎氏の教育に関する講話ありて後児童学芸会に移り各級生徒の口演、談話、席画、揮毫、余興等三十余番の文芸ありて頗る盛会にして裨益する所蓋し大なるものありし

34 第74号2面 (大正2年2月21日)

●白中寄宿舎開舎行式挙行 同寄宿舎は屢々報導したる如く渡邊又四郎氏四千余円を要し単独経営建築されしものが昨年十二月中工事竣成と同時に三十余名を収容し居れり、伊藤校長は之れが開舎式を挙げべく地方有志と協議中なりしが郡内多数有志の賛成発起にて愈々来る三月二日を以て挙行することに確定せり、來賓には本県知事及県当局者、柴田郡長、大河原町長、其他郡内各町村長、郡会議員、各關係有志及寄宿生徒の父兄等約百六十余名

に案内状を發送されたる筈なれば同日は頗る盛大なる開會式を挙行さるゝことならん、因に同寄宿舎を成美寮と命名したり

35 第76号2面 (大正2年3月11日)

◎白中寄宿舎 開舎式は二日十二時二十分同校講堂に於て開かる來賓には片倉男爵、奥宮檢事長、向田郡長、水野町長、古山・佐藤郡會議員、山田郡會議長及各郡會議員、各町村長、各學校長、白石町發起人有志者、寄宿生父兄等百數十名、席定まるや伊藤校長開舎の式辭及び諸般の報告並に將來の希望等詳細に述ぶる処あり、來賓を代表して向田郡長の祝辭、寄宿生父兄を代表して亘理晋氏の祝辭、寄宿生總代五年級木村昇の祝文朗誦等ありて式を畢り、廳て來賓一同を別席に設けある食堂を開き立食の饗応あり、絵はがき、盃杯の紀念品を交付され一同歡を尽して散會せしは午後二時過ぎにてありしが近來稀に見る盛會にてありし

36 第77号2面 (大正2年3月21日)

○県立白石中学校 にては去る十日陸軍紀念日を卜し廿

九聯隊中隊長陸軍歩兵大尉(陸軍大学出身)宮澤清氏を聘して同校講堂に於て親しく講話を開催されたりと

△卒業生の学年試験 は去る十一日より開始十六日にて結了、四学年の修業試験は十二日より始まり十八日に終り、三学年生以下は十三日より十八日にて結了

△試験成績発表 卒業生の発表は十九日午前十一時にして交付の手牒は返納を要せず、四年以下の修業生に対する試験成績の発表は明廿二日午前十時、本校手牒は午后一時より父兄に交付の筈なり

△証書授与式 卒業証書及修業証書授与式は来る廿四日午前十一時より施行

△入学試験 入学志望者に対する學術試験は廿九、卅の両日を於て施行さるゝ由

△新学年開始 入学者に対する新学期の開始は四月一日より

△寄宿舎 成美寮開舎式の収支決算を見るに郡會、有志者、職員諸氏の寄付金総額は金百四拾九円にして其支出総計百貳拾円七拾八錢、残額二十八円二十二錢にして目下關係者に報告の運びにありと

37 第83号4面（大正2年5月21日）

白中生徒の修学旅行

白石中学校生徒の修学旅行は昨二十日全校生徒各方面に向ひ出発されたるか其工程は五年級は東京に出で鎌倉・江の島を経て横須賀に至り帰途水戸に出で海岸線にて帰校此行程四日間、四年級は日光、中宮詞、足尾銅山に赴き桐生、水戸を経て帰校、三年級は陸中平泉、中尊寺の古刹を探り同日夜行にて帰校、二年級は塩釜、松島方面に向ひ之又同日帰校、一年級は伊達郡大木戸村厚樫の古戦場を訪ひ古武士の俤を偲び同日帰校の筈で各受持教員引率の下に威勢よく出発されたり

38 第86号2面（大正2年6月21日）

●白中生徒の刈田嶽登山 白石中学校生徒五年級一同は植物学研究として刈田嶽登山をなすべく加藤、齋藤の両教授引率のもとに去る十四日午後三時出発、同夜は福岡村字河原子横向佐藤新吉方へ一泊翌十五日午前四時三十分二名の案内者を雇ひ同地を発し濃霧を冒して登山せしが、途中霖雨霏々として降り頻り登るに随ひて降雨益々繁く雨具の要意なき一行は全身づぼ濡となり非常に寒さ

を感じ其困苦名状すべからざるものありしも、幸に無事に数十種の植物採取をなして下山せるが途中軍馬補充部に立寄り同部の好意に依り濡れを干し帰校せしは同日午後三時頃なりとし

39 第89号1面（大正2年7月21日）

近來の快挙

白石町有志は這般退職されたる前白石第一小学校長矢内彌一郎氏が三十有余年の間訓導として將た校長として国民育英の爲め献身的尽瘁せられたるを多として之れが報恩の意味に於て謝恩会なるものを組織し氏の徳を頌せんとする企ありと何んぞ其挙の善美なる、吾人は至誠以て賛同の意を表するものなり、其方法の如きは多く問ふを要せず、兎に角郷党の有志は氏が数拾年間初等教育に尽されたる徳を敬慕し、子弟は師の恩に報せんとするの至誠に至りては実に近來の快挙と謂はさるべからず、今や世道人心漸く日に頹敗し、輕佻浮薄、徒に名利に趨り、道義を輕じ、師恩を忘れ、尊大自ら待し超然顧るもの尠なきの時に於て、這個の企画あるは洵に嘉すべき事柄にして師弟の關係は將にかくありて欲しきものなると同時

に、之等の善行は直接又は間接に世を裨益するところ蓋し尠少ならざるものあるべし、抑も初等教育者の如きは云ふまでもなく名利の外に超然として起ち比較的薄給に甘じ何ものをも犠牲とし直に天職を尽すの決心にあらざれば為し能はざるところなり、氏の如きは將に其職責を完ふしたるものと謂ふべく氏は性温厚にして寛良、天真爛漫、至誠以て倦む事なく郷党に尽されたる功績は没すべからざるものあり、洵に教育家の典型として方今罕に觀る天賦の良教育家たりしなり、今や職を去り閑地に就かむとするに當り、此の快挙を觀る洵に所以なきにあらざるなり、吾人は如上の理由を以て此の謝恩會なるものをして成功せしめられんことを郷党の士に切に望んで止まざるところなり。

40 第89号3面 (大正2年7月21日)

寄書 新任校長を歓迎す

一町民

新任白石第一小学校長山内勝治郎先生を歓迎す、聞く先生は前任豊里小学校に校長として手腕を振ひ成績顕著夙に令聞あり斯る新進氣鋭の敏腕家を校長として迎ひたる

は我白石町の為めに慶賀する処なり定めて確實なる主義方針の下に刷新せられ見るべきものあるは明かにして延いて本郡教育界に於ても近き将来には面目を一新せらるゝや必せり、抑も当町は郡衙所在地にして郡教育の中樞なるを以て当町の教育を觀て直ちに刈田郡教育の上に断案を下し振ふ振はざるを評するは一斑を見て全豹を論ずると一般酷は酷なれども郡の代表を見らるは当然のことなるべし故に当町小学校に職を奉ぜざる、教師諸君の責任も随て重く上校長より下代用教員に至るまで協力一致職責を尽すべきは勿論特に校長たるもの、責任や重大なり熱烈なる奮闘努力と公平無私愛を以て部下を率ゐる學術技芸に於て秀で威權ある態度を示し常に部下教員及父兄より敬服せられ始めて主義方針の実行せらるゝものなり上に賢明なる校長を戴き下に忠実なる職員ありて実績の上らざる理なかるべし是まで白石小学校の成績を云々するは左の四事項に原因するにあらずやと疑ふ固より門外漢の觀察なれば当らざる節もあるならむ、第一職員は協同一致よく統一し居るや、第二は第一小学校と第二小学校とは互に連絡を保ち氣脈を通じ居るや、第三は職員は研究の態度を以て郡教育の源泉となり居るや、第

四は中学校と接近し思想交換を務めしや、若し万一以上の事実に思ふことありとせば猶予なく速かに快刀を振ふて乱麻を断つべし優柔不断時日を経過せば情実に纏綿せられ其機を失ひ終に実行し能はざるに至ること明白なり、古来南部地方に於て言語を改良せんとて関西より教師を雇入れこれが矯正を謀られしに終に周囲の感化を受け南部弁に化したりといふ事実あり、矢張り長く臭氣の中に居るときは臭氣を感じざると一般なれば赴任早々情実に囚はれざる内に断行せらるべし、是れ町民一般の声にして先生に期待する所なり聊か苦言を呈して歓迎の辞となす所以なり。

41 第89号3面（大正2年7月21日）

●新任白石小学校長 登米郡豊里小学校長山内勝治郎氏は今回白石第一小学校長に転任去る十七日着任されたり

42 第89号3面（大正2年7月21日）

●刈田郡教育会夏期講習会 は来る八月十三日より十九日まで七日間毎日午前八時より午後三時迄白石第二小学校内に開催講師としては仙台市立東二番丁尋常高等小学

校訓導倉林耕作、大槻貞一の両氏を囑託し体操及唱歌の講習をさる、管遠地よりの入会者に対しては会期中白中寄宿舎の一部を借り合宿の便を計り本郡在職の教員にありては講習料を要せずとのこと希望者は本月三十日まで同会に申込まるべく然して開会十三日は始業式執行さる、により当日は午前七時五十分までに会場に参集せらるべしとなり

43 第93号3面（大正2年9月1日）

●白石中学校 にては今日第二学期の始業式を了へ水泳及武道の皆勤者に対し賞状授与式を挙行さる、管同日午前十時よりは同校同窓会を講堂内に開催することとなり

4 衛生

1 第5号3面(明治44年3月21日)

●白石町春期清潔法 検査日割

三月廿三日 西益岡、中益岡、東益岡、新町

同 廿四日 短町、亘理町、長町

同 廿五日 中町、本町、寿町、柳町

同 廿七日 本郷、裏町、南小路、田町

同 廿八日 鷹巣、郡山

2 第7号3面(明治44年4月11日)

●白石町トラホーム検診日割 去る四日より白石町トラホーム検診所に於て毎日午後一時より同三時迄左の日割に依りて執行の筈なり

四月四日鷹巣、五日郡山、六日本郷、七日柳町、八日

田町、南小路、十・十一・十二日本町、十三日中町、

十四・十五日長町、十七日裏町、寿町、十八日亘理町

十九日短ヶ町、廿・廿一日新町、廿二日西益岡、廿四

日中益岡、廿五日東益岡

3 第9号2面(明治44年5月1日)

●刈田郡医師会の決議

御下賜の御内帑金を基本財産とすべき施薬治療に関する財団法人案は愈々本日を以て発表の筈なるが右に關しては朝野共に 聖旨を奉体して各方面に努力中なるが過般本郡医師会にて左の決議をなしたる旨通知ありたり

聖旨ヲ奉体シ刈田郡医師会ハ本郡内貧民ニ対シ左ノ規定ニヨリ救療施薬ヲ為スモノトス

一本郡内各町村現住者ニシテ町村税ノ免除ヲ受クルモノ疾患ニ罹リ町村役場ヨリ右免除証明書ヲ持參ノ上本郡内医師会員ノ自宅ニ来リテ診療ヲ請フモノニハ救療施薬スベシ

刈田郡医師会

4 第15号2面(明治44年6月21日)

●模範的隔離病舎建築の計画

白石は昨年一昨年共に赤痢患者を出したるは真に遺憾のことなりとして、爾来当局者は熱心に之れが予防法に就き攻究中なるが殊に昨年は相当資産家に迄で伝播したる為め在来の病舎にては狭隘且つ是等患者取扱上不便尠な

からざりしかば、担当医たりし巨理晋氏は大に見る処あり衛生事業の發達せし今日在来の病舎にては不完全にして到底病毒の蔓延を充分防止する能はず、且つ平素下層の生活に親しめる患者には治療上将亦患者自身にしても差して不都合を感じざるべしと雖、比較的上流患者をして斯かる病舎に収容するは恰かも清流に住む香魚を泥田に投ずるが如くにして却つて病勢を危からしむるものとなし、熱心に模範的病舎の建築を唱道せらるゝ所なるが町内有志家も大に賛同し居るを以て近き将来に於て必ず現実せらるゝならんと

5 第16号2面(明治44年7月1日)

●夏季の衛生に就て

時下氣候湿潤炎熱日々に加はらんとするの時陰雨常なし、此不順の季候は凡ての伝染病毒萌發の動機となる者なるより深く注意を要すべきは勿論なり、当町は一昨年以來赤痢病流行し一昨年は初發以來患者三十二人内死亡九人、昨年は初發以來患者二十五人内死亡三人に及ぶるは其惨害実に酸鼻に堪へざるのみならず、之れが為め産業に經濟上に及ぼしたる損害實に数千百円の巨額に達し

たり、是等は畢竟各個人が病毒の恐るべきを知らずして或は予防消毒を忽諸にし、或は流説に惑ふて隱蔽をなすに因らざればならず、故に各個人は其病候の輕重を問はず直ちに医療を受け左記の各項に注意を得たきものなりと。

一 生水を決して飲む可らず煮沸水を用ゐる事

一 食物は煮焼したるものならざれば食ふ可らず、煮焼したるものなりとも冷えたる者は再熱して食ふべし

一 未熟の果物は食ふべからず、熱したりとも多食すべからず

一 身体を屢沐浴して汗垢を去る事

一 衣服は屢洗濯して汚穢を去る事

一 該病の始めは小兒並に大人にても胃腸の弱きものは浸され易き者なれば平素撰生に注意を要す

一 寝冷えざる様腹巻又は布片にて腹部を纏包する事

一 妄に水泳をなさざる事

一 廁圍は殊に注意して踏板・糞池共に掃除し糞池の周囲は石灰末又は乾砂を平布する事

一 水製食品、例ば氷水、冷麵、水団子、ところてん、水漬飯及生冷食品、膾、さしみ、水かひ、酢貝の類は可

成食はざること

一餅団子・赤飯杯の消化不良の食物を食はざること
一性効不明の民間薬、又は売薬或は祈祷禁厭を偏信し患者を危殆に陥らしめざること

6 第19号3面(明治44年8月1日)

●赤痢患者発生

白石町鍛冶町佐藏民衛(四ツ)は去日疑似赤痢に罹り直ちに死亡せしが発病の原因は水泳且つ多量の水を飲用せしもの、如く、又当町百五十番地小野寺小太郎(三〇)、同繁男(三ツ)の兩人は去る七月二十四日同病にて隔離病舎に收容され治療中なるが原因は去日福島市五月町なる親戚の者同病にて死亡せしとかにて手伝中伝染婦宅せしものらしく、又同人老母もよ(六一)は看病中之亦伝染何れも隔離舎へ收容され治療中なり一般町民時節柄注意こそ肝要なり

7 第22号3面(明治44年9月1日)

●恐るべきは悪疫

今夏当町に赤痢患者初発以来六名の続発を見しが当局者

の防御尽瘁其効を奏して昨年の如く蔓延するに至らずし
て全快し、去八月二十七日を以て隔離舎一時閉舎の運び
に至りしに俄然同二十六日当町中益岡石川榮之助方借舎
日雇業菅井清治(二三)は不摂生の結果同病に罹り同日
午後四時隔離舎の收容されたり、同借舎は当町の中央を
横断する沢端川上筋とて為めに一週間各戸用水を其筋よ
り禁せられたり、又小原村追之倉二百二十四番地小室勇
治(三一)は同月二十三日、福岡村八ツ宮五十七番地大
野トメヨ(三六)は同月二十七日、白石町裏町五五八菊
地ハル(六三)は何れも同病に罹れり
記者は再三注意を促して止まざりしも昨今各地悪疫流行
甚だしく例令当局者は熱心予防督励をなすと雖も各自の
不摂生は遂に一身一家を害し延いて国家に及ぼすものな
れば一瞬間たりとも衛生に専ら注意すべし、今左に其
筋の調査に成れる当町悪疫患者発生死亡両年度比較表を
示すべし依りて当局衛生委員の尽瘁の一斑を知るを得ん

【本書統計編 表7】

8 第24号3面(明治44年9月21日)

●白石町の不生産的費用

一日二十円余

二百二十日の厄日を前日に控へた去る日、たわわに実れる稲の葉先きに万顆の球宿れるを見ながら、白石町隔離病舎の事務室を訪づれたのは午後四時。羽根田、半田の両氏は熱心に事務を処理して居る、御愛嬌タツプりで招じ入れられたのは七、十蚊帳の中大テーブル側の椅子だった、若し鼎座して野山の秋の自然界のそれならば、談笑の声も頻りならんが、此処ばかりは悲哀憂愁の気満々て居るのも同理、壁上の掲示板を見れば『深谷進は赤痢にて九月九日収容』又『上野まさ十日死亡』の二項を読まれた、噫果敢なきは人の運命！。記者は現在収容患者十名が一日の費用何程を要するかを尋ね計算して見た結果

金十一円(主任医手当、事務員・看護婦・小使・消毒

夫日当及食費・薬品・卵・牛乳代)

金九円三十四銭(生石灰・石炭酸・石油・綿・紙・血

清液・油紙・晒木綿・薪炭・片栗粉・砂糖・味噌・

醬油・副食物代)

合計金二十円三十四銭位で又一名の新患者発生すると五円乃至六円を要するそうだ、之れが日に日を次ぎ、一名は二名と増し遂に一千、二千の不生産的金円は皆んな町費となり町民各自の負担となるのだ、何んと驚くではないか、だから例令当局者は熱心予防督励はするもの、各自の衛生に専ら注意して欲しい。

9 第26号1面(明治44年10月11日)

敢て当局者に望む

近年我が白石町に於ける赤痢患者発生の多きは、年々の統計により、瞭かなる事実にして、何時も当局の苦慮する処なりとす、而して毎年春秋二季には嚴重なる、当局の監督の下に各戸の清潔法も行はれ、各町には衛生組合なるものありて、是又常に注意する所あるにも拘はらず、此の如く斯病の猖獗を見るは、大に識者の攻究に価する事なりと信ず。

想ふに一般とはあらざるも我が白石の民情浮薄にして一も着実の処なく、殊に下層者に於ける衛生志想の大に欠如し、為めに其れ其れの嚴重なる督励も全然用えられざるに基因せずんばあらざるなり、豈嘆すべきことなら

ずや。

頃日風聞子の伝ふる所によれば、八千円の予算を立て、管内に於ける模範的隔離病舎増築の議ありと、最も在来の該病舎は事務室其他看病者室等を除きては、僅かに三間の患者室のみにして、一昨年斯病猖獗の際応急に建設せるバラック建てにして、其の不完全なることを俟たざるなり、常に下層の生活を営める患者は尚此不便を忍ぶべしとするも、若し上流者の伝染病に罹りたるものをして、斯かる不完全なるバラックに収容するは恰かも清流に生息すべき魚介をして濁れる溝渠に投ずるが如くにして、其の生活状態の激変により却つて病勢を危ふからしむるものたらすんばあらず、吾人は該建築の挙を大に賛するものなりと雖も希くば、宜しく当局は百尺竿頭更に歩一步を進め以て一般民情の衛生觀念の啓発に努められんことを望むや切なり、是れ地方衛生の為めのみならずして、是れが為め地方の経済及び生産等に及ぼす好影響や決して尠少にあらざるはなり。

10 第27号2面 (明治44年10月21日)

●トラホームに就て

全国を通じての同病患者数歩合を聞くに一割を示し居る状態にて、之れが為め当局は予防撲滅に意を注ぎ少なくも年二回は各戸へ通達を發して検診督励をなしつつ、あるものなるが、今当町の該歩合成績を聞くに水野町医を首め当局の熱心なる結果四十三年第二期に於て二割二分八厘を示したるものが、本年第一期は一割九分八厘四毛となる、又過般執行せる即ち第二期に於ては一割三分三厘五毛と減じたる由

11 第27号3面 (明治44年10月21日)

●寿区の慰労会 白石町は三、四年前より年々赤痢病の襲ふところとなり尠なからざる人命と費額とを投じつ、あるが、本年も亦九十余名の患者を出したるは洵に痛嘆に堪へず、然るに白石町寿区内に於ては本年幸に一名の患者を出さざりしは僥倖なるべきもまた各戸注意の周到なる組合員の活動其の効を奏したるものなれば大に其労を慰すべしとなし、去る十六日午後二時より岡崎ホテル裏座敷に於て自治的慰労会を開催せり、正賓には同区长岡崎政治郎、同衛生組合長山田清六の両氏を招待し、席定まるや齋藤藤治氏開会の辞を述べ岡崎氏一場の挨拶

をなして宴に移り各自十二分の歡を尽して散会せるは午後五時頃なりし

12 第43号3面(明治45年4月1日)

白石町春期清潔法

白石町に於ける定期春季清潔法施行日割は左記の筈なるが本年は当町に共進会開催せらるゝ、為め各府県郡町村よりも多数来觀者も入り込むことなれば各自例年よりは層一層的確に勵行すべきなり

四月四日田町・南小路 同五日寿町・柳町 六日本町

七日中町 八日長町 九日亘理町 十日短ヶ町

十一日新町 十二日中益岡・西益岡

十三日本郷裏町 十四日鷹巢 十六日郡山

因に清潔方法は左の如くなりと

一家屋内ハ家什敷物ヲ取り除キ室内及床下等隈ナク掃除

シ敷物ハ日光ニ曝露スルコト

二流シ下水溝・下水溜ハ塵芥汚泥ヲ浚渫掃除スルコト

三邸内及其近接ノ芥溜並ニ不潔ノ場所ハ塵芥汚物ヲ掃除

スルコト

四掃除ヲ為シタル跡ト雖モ不潔ノ場所殊ニ糞池ノ周圍及

湿润セシ床下等ニハ可成石灰又ハ石灰乳若クハ木炭ヲ散布スルコト

五掃除シタル塵芥物ニシテ肥料ニ供セントスルモノハ直

チニ田畑其他適地ニ運搬シ其他ハ便宜一定ノ場ニ集メ

焼却スルコト

六昨年伝染病患者發生家屋ニアリテハ一層消毒的掃除ヲ

勵行スルコト

七旅人宿營業・飲食店業者ノ如キ多人数ノ集合飲食ヲ為

サシムルモノニアリテハ前第一号事項ヲ極力勵行スル

コト

13 第45号5面(明治45年4月26日)

婦人と口腔衛生

カーペンター

近来衛生学なるものが非常に發達した然しこれは部内的の發達にすぎん、衛生学の發達は即ち衛生思想の發達普及である。衛生思想なるものが部分的に發達すると同時に衛生思想なるものも勢部的にならざるを得まい。此衛生思想が幾種か大變に別れてゐることは丁度不愉快な家庭の一人一人が思ひ思ひの思に沈んでゐる様なもの

だ。

曰く伝染病に対する衛生、花柳病に対する衛生、皮膚病に対する衛生、癩病に対する衛生、肺病に対する衛生、と数へ来ると数へきれない位だ。其内で歯牙衛生とか口腔衛生とか云ふ事は一般世人には忘れられた様に否無かの如くに思はれ其勢力の微々たる実に哀れむべきである。少々我田引水になるかも知れんが病は口より入ると云ふことがある。衛生と云ふものにも事更なものでない。我輩は唯衛生を実行するのは要するに生命を重ざる事即ち人命の長からんことを祈るのだと思ふ。今我輩は此処に少しく口腔衛生に就て述べ様と思ふ。

各国の統計を見ると人類死亡数の最も多いのは一才未満の乳児である、何国でも三〇%以上になつてゐる、如何に結核で死ぬ人が多くても乳児の死亡数に対しては半分以上なものだ、即ち平均死亡数は一六、一八%である。今日では結核等の衛生熱が大変盛になつたが之れは是非必要な事であるが此様な消極的なことよりも積極的に乳児の死亡数を減らすことが出来たら国家経済の上に於て重大な問題だろうと思ふ。十六、七にも成育した人を殺す或は死すと云ふ事をさばくよりも生れた許りの子供を死

ぬものは死なせ生育するものは生育しさせたならそれこそ非常に経済だろうと思はれる。

乳児の死亡の原因は多くは伝染病と胃腸の疾患とである、この胃腸の疾患なるものは其源は食物と口腔の疾患とに発しておるのである、若し病に罹らなかつたら将来立派に発育すべき乳児は有為の材を抱いて（勿論中には馬鹿も出来様が）暗から暗に葬られるのである、これ乳児營養の等閑に付すべからざる事で同時に口腔歯牙衛生の重要な所である、乳児の營養障害と申せば直ちに胃腸の疾患を思はねばならぬ又乳児には人乳が最も良いのである、何となれば良好な人乳は營養素を悉く完全に含有しているからである而し諸君の知る通り人も牛乳や山羊の乳で育たぬことはないが猫は猫の乳、犬は犬の乳が尤も良い様に人にも人の乳が尤も良いのである。

或人の統計表により乳児の死亡数を其育児法によつて別つと。

母乳	一〇%
牛乳	六五%
其他の人工法	二五%

此表によると将来に於ける歯牙の疾患も母乳以外の方法

による育児法によつたものに多いのは明なことである婦人は然らば勉めて自分の乳で育児する様にせねばならぬ理である此処に於て我輩は婦人と口腔衛生及び歯牙衛生と云ふ事に及ぼうと思ふ以下回を追ふて述べる。(未完)

14 第47号4面(明治45年5月11日)

婦人と口腔衛生

カーペンター

(二)

貧民は其日の生活に追はれ労働を過度にし粗食する結果營養不良のために乳が出なくなる、丑満つの真夜中に乳を求めて啼く子はつらいに違ないが出もしない乳房を攫んで啼かれる母親の心中は更につらいだろう我子よかれかしと思ふ一念は寒中の寒さを忘れ自分は茫着となつて黒暖簾の下を潜つて着物は直ちに人工營養法となる。

此れで辛じて育つて来ても乳児は發育中營養素が不十分だつた結果永久歯の發生が滞つて完全な歯は出難いので後年になつて「カリエス」(虫歯)が多い、此人工營養法すら必ずしも出来るとは云へないから勢ひ乳児の死亡数は増すのである。次ぎに順序として撰取する食物に依

て起る疾患を述べべきだが余りに問題外に走るから止めておいて乳児の口腔患に対する予防法位は廿世紀の賢婦人の心得ておいて悪い事はないと思ふから簡略も非常に簡略に述べる(此事は又問題を新にして記さうと思ふから)先づ第一に口腔を清潔にする事であるが其の方法は非常に多いが或人は毎日三回脱脂綿に清水を含ませ静かに刺撃を与へぬ様に拭ふと云ふているが此事は非常に注意しないと口腔粘膜を創傷して口内炎の發生を促すから少々困難である、又キユネールト氏は授乳後毎回注意して乳児の口腔を清潔にすれば歯牙發生期に口腔患は起らぬと云ふてゐる而して其方法は乳児の鼻を撮んで淡い食塩水を口腔内に注入するのである

15 第48号4面(明治45年5月21日)

婦人と口腔衛生

カーペンター

(二)

此時に水は食道へも気管杖へも行かれぬのでいやでも入れたゞけの水は吐出されて仕舞ふ(此時鼻を途中で放す様な事があつてはならない)一寸聞くと慘酷の様だが粘

膜を創傷して細菌の進入門戸を与へる事がないから此法が却て親の慈悲だと氏は云てゐる、又奥国のブラツク市の一医師の報告は乳児の口腔には成る可く手を付けるなと云ひ、又カツソウイツ氏は乳児の口腔には如何なる物も入る不可と云ふてゐるが此の最後の説は余りに極端で此説を守れば乳も吞ませられない理である、要するに乳児の口腔は刺撃を与へぬ様に清浄に保つ事に依て疾患を免る事が出来るのである、此事はもつと詳しく説かねば不得要領であるが、長くなると脱線になるので此れ丈けにして乳児に与ふる乳房に就て一寸述べる、現今用つて居る乳房は護謨製であるが之は絶対に使はぬ方がよい、護謨の中には鉛や亜鉛を含んでゐて中毒を起す例が少なくない、奥様達が自分ばかり磨いて無鉛白粉を使つても可愛い赤様に鉛中毒をさせてしまつては何にもなるまい、新歩した護謨製法では此憂はないにしても此れに付いた汚物や細菌は非常に消毒仕難いのである、然しこれを用ねばならぬのなら百度の蒸気で消毒し無菌の瓶に貯へて置かねばならぬ斯様な事は当抵一般に行はれないから消毒殺菌の簡単なるを選ばねばならん、これには硝子製或は象牙製のものが最もよいのである、何故かと云

ふに此方面ばかりでなく歯牙發生期の乳児は齒齶をムズ痒ガリ固いものに嚙付く傾向がある、母親が子児に乳房を嚙まれて泣顔してゐる事があるが此れが即ち其れである、自分等も確かに若い母の乳房を嚙んで泣かしたものに違ない此時に硝子製或は象牙製のなれば不絶これを嚙てゐる然し此云ふと前述の口腔患予防法と衝突する様だが齒齶の出血を来す程の嚙方は乳児の本能として疼痛の感覚と共に消失するから心配するには決して及ばない又其上に下顎関節の発達を促し助けるので俗に云ふ顎の外れる事がない様になる、これ下顎骨を不絶（下顎）動かすので其関節の靱帯が強靱になるからである、歯牙發生期には一般に病に侵され易い事は一般の知る所であるから母たる者はよく其口腔衛生と食物とに注意して固形食物を決して与へてはならない。先づ乳児に就ては此位で筆を止めて次ぎには愈々胎児（母の体の中にある子供）の歯牙衛生と妊婦の摂生法（主として歯牙に向て）と妊婦の口腔衛生との如何に重んずべきものなるやを詳説して御婦人方の御注意を促す積りである此回は少々脱線の気味で問題外に及び過ぎたのを謝する（未完）

婦人と口腔衛生

カーペンター

(四)

従来不完全な歯牙を有する母から生れた子供は同じく歯牙の發育が不完全であるか此事は父親の方には關係が極めて少ないのであるから母親たるものに責任を負はせてよい、此責任を除かんために母親のため否胎児の爲めに多くの学者か母体に一定の処置法を行つて歯牙の發育の悪くない子供が出来るか否かを試みつゝあるが今尚名論卓説として仰かれ茲に御紹介申すに最も確だと云ふものがないのは実にお氣の毒である。然し歯牙の發生は胎生第二ヶ月に起り石灰化作用は胎生第七ヶ月に始まるのであつて乳歯は胎生期に發育するから其善悪は直接に母体の健康状態血液成分に關係があつて非常なものだ。故に母たる人は自分の勝手氣俣にやたらな物を頂戴してはならない理である、口も腹も皆んな体の内である口腔衛生によくはない様なものは腹にもよくない推して体全体によくないのである。然し之れに向つては胎児の爲めに一定した方法がある、即ち胎児の歯の構成に必要な物質を母

体に与へ(食物に混じ)血液成分として胎盤に行かせて胎児に与へるのである。

此食物に就て或人は磷酸塩、或人は石灰塩類をとれと云ふて一定せぬが母の食物に石灰塩類が含んで居ると胎児は丈夫な骨格、立派な歯牙の牙をそなへて理れて来ると云ふのは多くの学者が一致している。故に結論は妊婦は可成石灰塩類を多量に含む食物を取るべしと云ふ事になる。次ぎに此理に依て或人の發表した妊婦の処方箋なる物を一、二紹介する、然し之れは必ず実行せよと云ふのではない。

イ、石灰水一—二食匙(毎日三回食後服用)

ロ、弗化カルシウム〇、一二(一日三回分服)

食物として石灰塩類の多い而して食品として中等で大概の人に食ひ得られるものを上げると次の様である。

鯨	六、八五	蕎麦	一、四三
辛味噌	一四、〇二	鯉節	五、〇二
白米飯	〇、一七	甘味噌	八、一〇
豚肉(瘠)	一、一〇	黑豆	四、五五
醤油	二〇、八三	卵	一、〇〇
大豆	四、八五	大根(生)	一、四九

百合 一、三九 甘藷 〇、九九
青芋 〇、九九 小豆 三、三三

17 第50号2面(明治45年6月21日)

本郡壮丁検査の成績に就て

本年度に於ける、当郡壮丁検査の成績は、之を従来のそれに比して好結果ならざりしもの、如し

壮丁体格の強弱健否は、主として壮丁各自の従事する職業及生活の状態並に其父母の体質等に因る事多きの事実なれば、合格者が多しとて、必ずしも、壮丁各自が己が身体を貴重し、又衛生に注意する深きの致す所とも認めがたく、合格者が少しとて、壮丁各自が、己が身体を疎略に持扱ひ、又は衛生に無頓着なる結果なりともいひ難ければ、此点に就ては深く其原因を追究するを避けんも、吾人の甚だ驚駭し且遺憾とするは、白石町に於ける壮丁にトラホーム患者の可なりに多なりしを、発見したるの事是なり

事新しく言ふ迄もなき事乍ら、本町は刈田郡の中樞、郡衙の治を置く所、其市民は各村人民の、矜式する所たり、又其標識たる事、恰も中央首府の市民の、地方人士に於

ける関係と、等しからざるべからず、即ち都会の市民なるものは、地方士民よりは、其総ての点に於て、優秀卓越なる位置を占領し得て、疾しからざるものたらざるべからず、尤も都会の市民に其体格迄が、村落人士以上の人たれといふは、酷に失せんもせめては其衛生思想のみも、之が上位を維持せしめ度しと思ふ、然るにトラホームの如き必治的の疾患の医治を怠り、其受験壮丁六十七人中、六十人に近き該患者を出し其プロセントに於て八三に近き巨数を示すに至りては、怠慢も亦極まれりといふべし、尤も該患者の多きは各村を通じて、同一軌に出て、当町の如き寧ろ其尠き方なりしも本町民は各村は対し常に標識的都会人たるの自重心を有せざる可らざる優位にあるを以て、特に我町民に向つて反省を促す所以なり

18 第50号2面(明治45年6月21日)

○仁田原師団長の来白

仁田原第二師団長は、去る十一日午前八時当地停車場来着、向田郡長以下多数官民の出迎人に擁せられつゝ、随員有川参謀、山崎副官等と共に、第二小学校内に設けら

れたる、臨時福島徴募署に臨場し、本郡壯丁検査の実況を、仔細に視察せられ、同夜は鎌崎温泉に一泊翌十二日、一行と共に若松市に向け、出発されたり

○当町第二小学校にては、去る十一日より十三日に至る三日間、本年度の徴兵検査場に充てられ一部の生徒を前後五日間、休業せしむるの余儀なきに立至りしを以て、之が教育補足の為め、夏季休業の日数を短縮すべき内議ありやに漏れ聞けり

○本年度の当郡受検壯丁三百七十余名中、花柳病患者は僅かに一人に止まり、殆んど皆無とも名く可き成績なりしを以てトラホーム患者の過多なりし結果に、憂念したりし出張の諸検査官及郡町村当該官公吏諸氏も愁眉を開きて之を喜びたりといふさもあるべし

19 第52号4面(明治45年7月11日)

婦人と口腔衛生

カーペンター

(五)

前紙に記載せしものばかりを食へと教へるのではない。勿論食物には種類が多いから多くのものを食はねばなら

ぬ、然し食物は調理法に依るのであるからまづい物でも充分に甘く食へる様にせねばならぬ。甘くない物でも甘いと思へば生理的に消化は非常にいゝのである、大根や甘藷が比較的石灰分を含む事が多いからとて又婦人は芋が好物だらうが之ればかりを食つたらたまつた者ではない要は常識に訴へる事として生理上面白い事があるが略す。此外に牛乳を与ふる事を一九〇二年にブンゲ氏は報告したが実験上牛乳を永く妊婦に与へると母体、胎児共に貧血を来すと云ふ反対論者が現はれたので同氏は同時に鉄分を含むことの多い野菜を多く与へると云ふ条件を付けたのである。要するに胎児に石灰分が充分に供給されねばならぬから妊婦は充分の石灰塩類と鉄分とを食物に混じて取らねばならぬ。前に出した分析表は田原良純氏の報告と衛生試験場の報告中から出したのである皆百分中にあれ丈を含むのである。

以上述べ来つた事は乳児の口腔衛生と胎児の歯牙衛生並に妊婦の摂生法の一部であつて標題以外に渡つた事があつて不穩当ではあつたが別問題にすべきものを一つにして仕舞たからだ。

次ぎに身重の婦人は体ばかりは成程大きいが洵に弱いも

のだと思つてよろしい又實際諸種の病原菌によつて侵され易いのであるが諸君の見る通り妊婦に齲歯が多いと云ふ事に就て口腔衛生を述べる、先づ齲歯の多いと云ふ主なる論拠を上げると、第一妊婦の唾液は生理的に酸性になつて来て之れが易く歯牙の硬い石灰質を破壊する事。第二、妊婦に石灰類を含む事多き食物を与へないため胎児の歯牙を構成する物資なる石灰成分其他の塩類成分がないので胎児は其本能として母体の骨を破壊し歯牙を破壊して自分の必要に供するのである。

即ち此の二つが相合して妊婦に齲歯が多いと云ふてゐるのである、然して一寸最もと聞えるので之れ位の事でおさまりが付き不審が出なければ誠に結構な事であるが精細に研究すると第二の論拠は風前の灯である。(未完)

20 第53号1面(明治45年7月21日)

夏季の衛生

年々梅雨季より土用立秋の季に於て全国を通じ赤痢病の発生する数甚だ尠なしとせず然も此野蛮なる流行病の爲めに貴重なる生命と、費すところの不生産的費額に至りては実に莫大なるものあるべし豈寒心せざる可けんや、

今や学術日に月に進歩發達し特に医学界に於て其然るを觀る、更に公衆衛生上に於ける諸般の設備に至りては中央に衛生局あり、県に郡に將た町村に法律の命令する処に従ひ殆んど間然するところなく山村僻邑も其町村の状態に應じ着々完きを期するもの、如し、一般衛生の上より見て以て寔に慶ぶべき現象なりとす、翻て個人衛生に至りては残念ながら一部上流者を除くの外は衛生智識の全く零なるを見るは吾人の恒に遺憾とするところなり、之れ国民智識の幼稚なると衛生思想涵養の欠如たるに基因せずんばあらず然も彼等疾病者は比較的下層の人に多数を占め其死亡数に於ても之れ等のものに多きは瞭に統計率の立証するところなりとす、されば此種の人々に対し個人衛生の忽諸に付しべからざることと衛生思想の涵養を普及せしむるを以て最大急務なりと信ず、然らざれば如何に公衆衛生の設備完全に進歩發達をなしたりと云ふと雖とも其功果の尠なきは知るべきなり、百の法律あるも一の実行に如かず、即ち公衆衛生と個人衛生と兩々相俟て始めて完全なる国家衛生の進歩發達と云ふべきなり、昨今我が東北に於ける氣候は稍々陰鬱にして湿潤の時炎熱將に來たらんとす加之米価の昂騰は粗食を採らざ

る可からざるの境遇にあり營養の不良は此の恐る可き野
蠻的黴菌の伝搬するなきかを憂ふ豈警戒せざるべけん
や。

我が白石町も不幸にして四年前より此の恐る可き黴菌の
潜伏するところとなり年々歳々尠なからざる人命と財産
とを失ひつゝ、あるは洵に遺憾の事に属す、本年も亦目下
八名の患者を収容せりと聞く今にして之れが撲滅の策を
講ずるにあらずんば不尠る人命と財産とを奪はるゝに至
るなきか誠に寒心に耐えざるなり、当局は大に觀る処あ
りて近く大々活動を開始せらるゝは頗る機宜に適したる
処置にして聊か吾人の意を強ふするに足る然れども前述
の如き個人衛生にして不注意なれば折角の活動も無効に
畢らんことを恐る、されば我が町民たるもの各人其子弟
を戒め衣食住の三者に大なる注意を払ひ以て個人の生命
と財産とを保護せざべからざることを痛切に勧告して已
まざる所以なり。

21 第53号1面 (明治45年7月21日)

矛盾せる衛生

我が白石町は不幸にして数年前より恐るべき赤痢病の侵

すところとなり今や上下を挙げて之れが撲滅に腐心す
つゝ、あるの秋町の中央に當る然も国道の真唯中に馬市場
の設立を見んとは之れを矛盾せる衛生と云はずして何ぞ
や、吾人は常に町の發展上此種の事業を歓迎するものな
り然れども衛生上の見地より其位置と設備とに於て之れ
を他の適當なる場所に移転せられんことを一町の公衆衛
生の為めに切に希望するものなり見よ前には刈田郡役
所、製糸場及び刈田病院あり、個人としては製麵所あり
医院あり、其他數ひ来れば枚挙に遑あらず、昨今開市せ
られつゝ、ある馬市場の設備は適確に黴菌を製造し居るや
疑なし、之れを運搬すべき蠅軍は幾百万となく菌原地に
蝟集しつゝ、あるを思ひば自ら戦慄を禁ずる能はず一面蠅
の撲滅を奨励し一方は之を集めて怪まず当局も有志家も
恬として知らざるものゝ如し、之れを矛盾せる衛生と云
はずして何んぞや。

22 第53号2面 (明治45年7月21日)

●柴田郡の衛生幻灯会 同郡にては衛生思想の普及を図
らんが為め此程郡費を以て新式の幻灯器一台を購入し阿
部郡書記主任となり去る十二日より二日間第一回の幻灯

講話会を同郡富岡村に於て開催されたるよしなるが会衆二百四十余名にして多大の感動を与へしもの、由因に今後とも引続き各町村を巡回するの計画なりと

23 第53号2面(明治45年7月21日)

●白石町の伝染病予防行

白石町は三、四年前より毎年夏季に際し赤痢病発生し不尠費用を要することゝて之れが予防方に就ては当局者も大に苦慮するところありて本年も亦目下八名の患者を収容したることなればかくては町経済の上に至大の影響を蒙るべしとて之れが撲滅に全力を傾注することゝし去る

十一日町会を開き左の事項を協定せり

一、町会議員より選出の衛生委員は全町を三部に分ち一週間少なくとも一回以上交互貧民住宅を主とし其他一般を検病的視察すること

二、衛生組合役員は其区域内毎日検病的戸毎視察すること

三、前二項の実行監督として警官二名・町役場吏員三名毎日巡邏すること

四、衛生組合役員会を開き予防上に関し毎戸に実行せし

むべき手段方法を協定す、必ず格守せしむること

本項協賛会には郡長及警察署長立会すべし

五、全町を数ヶ所の便宜に区分し衛生講話会を開き毎戸に衛生思想を喚起すること

本項講師に警官・郡吏員・町吏員・衛生組合役員及医師を以て義務的従事せしむること

六、天候回復次第貧民住宅の清潔法を嚴重施行すること

本項清潔法には警官及衛生委員必ず監督すること

七、一般の臨時清潔法は赤痢病流行の状況により定むること

八、便宜の処数ヶ所に衛生幻灯会を開催して町民の衛生志想^{マツ}を涵養すること

更に十三日午後三時より町役場会議室に於て各区長、各衛生組合長を召集し協議会を開催され水野町長会長席に就き、本木助役諸般の説明をなしたりしが同日は向田郡長、田中署長、水野町長、町医、亘理隔離病舎主治医、引地刈田病院長及び町会より選出されたる朝倉、鈴木、紺野の各衛生委員等にして郡長、署長、亘理氏は何れも熱心に此際全町一致を以て赤痢病の撲滅を期すべく指導

され大々活動を開始すること、なりしが同日は左の事項を協定せり

一、衛生委員・町吏員及衛生組合役員は特に此際左記の

事項を毎戸に注意し格守せしむること

イ、患者を隠匿せざること

ロ、流水に於て飲食物は洗淨させること

ハ、不熟及腐敗の果物を食せざること

ニ、飲食物には覆蓋を用へ且蠅を駆除するに努めしむること

こと

ホ、病気の疑あるときは速かに医師の診療を受けしむること

こと

ヘ、居宅の内外を清潔にすること

ト、町内を流る、溝川には汚物其他の不潔を洗淨又は放棄せざること

棄せざること

24 第56号4面（大正元年8月21日）

隔離病舎視察記

一記者

赤痢病なる野蛮的の悪疫が年々尠なからざる生命と財産とを奪いつゝあるは瞭かなる事実であるが衛生機関の備

れる今の世に恁んな忌はしき病気がどうして流行するのであるか門外漢にはトンと見当が付かぬ、いや實際貴重な生命を失ひ恁んな不生産的に費す町村費は甚だ尠なからざるので弱つて居る、我が白石町も不幸にして四十二年外国帰りの某が特種の赤痢菌を播種されて以来丁度四個人継続的に発生するのであるが今年も六月下旬より始めて初発以来今日迄尠なからざる患者を出し、随て之れに要する経費も尠少ではない実に馬鹿々々敷次第である、これを他の教育とか産業とか云ふ積極的の方面に費したならば大なる利益を獲得するに相違ない、去りとして好んで恁んな病気に罹るものもあるまいが何んとか各々気を付けたなら何時も云ふ個人衛生を重んずたならば苦んだり心配したり金を使つたりすることもあるまいと思ふ、是非各自に注意して貰ひたい左に四十二年以来の統計を示して見やう

【本書統計編 表9】

以上の如くで本年度も此先き幾ら殖ひるか知れないのである、さなきだに町村費の年々膨張するので負担に耐な

い処へ衛生費の追加と来るので実際にやり切れぬと愚痴を云ふも最も千万である、当局者も之れが撲滅に腐心されつゝ、あるも頑強なる悪菌は仲々消滅しそうもない、去る十四日の朝であつた当該主任医たる巨理氏を訪問するといや実に困つたものぢや之れ迄は比較的下層民に多かつたが今度は中流以上に蔓延し来つたので容易なことではない、恁ふ患者が殖いて来ては病室が狭隘を告げそれに中流以上の患者には適して居ないから急造病室でも造るより外はあるまいが兎に角君實際を視察して呉れ給ひ後刻衛生委員とも相談を為る積りであるとのこと、実は記者も余り見度もないが一町の為めとあれば辞する訳にもいかず視察を約して帰つた、聽て十一時と云ふに水野町医、朝倉衛生委員と同行して隔離舎へと趣いたすると先着に水野町長、本木助役、巨理主治医とが既に各病室を視察し主治医は一々患者を廻診して居つた、事務室の黒板には初発以来三十名、全治退院十三名、死亡二名、現在患者十五名と記されてあつた、(十六日には表の如く三十五名となつた)其間紺野委員と記者とは過日四百余円を投じて買入れた蒸汽消毒機をば羽根田書記の案内にて視察したが余等素人目にも確かに完全なる消毒機で

あると首肯された、聞けば県庁にも恁んな新式の消毒器はまだないそうぢや、実に管内第一だとの説明であるが外の物なれば管内第一と誇るのも結構だが赤痢病に要する道具の第一は余り結構でもないと思つた、然し之れは赤痢のみ使用するのではなく一般の消毒機であるから公衆衛生上必要の器械であるとすれば最も誇るべしであらう、聽て主治医は一通り診察を終り消毒をして事務室へと来り鳩首凝議する所あり爰に臨時会議が開かれた、其の顔触れは水野町長、本木助役、巨理主治医、水野町医と町会より選出された衛生委員朝倉、紺野、鈴惣の三氏で記者は傍聴者と云ふ格であつた、先づ巨理氏は開口一番恁ふ患者が殖いては此の病室では間に合はん殊に是れ迄は比較的下層民であつたが今朝収容した患者の如きは慥かに白石町の中流以上の人々で自費で付添看護婦を使用する程であるから平素の生活常態より推しも此の病室では慰安を与ふことも出来ず一面町の義務負担の上より見ても下層民と同一室にては済む訳のものではない、さりとて俄かに高等病室を造営することも出来ないのであるからさし当り事務室を別に急造し此の事務室を開放して中流以上の患者に提供したいとの發議であつた、元

より此合理の發議に異議のある筈もないので直ちに可決確定議となつた、直ちに工事に着手することとなつて散会したが鈴木氏と記者とが残り更に亘理氏の案内で病室を視察した一室に二人宛收容されてあるが中には親子三人一室に、ゴロゴロして居るのもある老人あり妙齡の婦人あり小兒ありで、稍全快に近い居るのは布団の上に端座して蒼白の顔色に凹だ目付は一見地獄より日帰りとも云ふべく、別室には眩々唸つて居るのもある実に其悲惨の光景は想像以外であつて到底形容も出来ない程である、發病の初期に於て收容したのは全快も速であるが隠蔽して居て止を得ず入院したものは経過不良であるとの説明であつた、更に歩を転じて中流以上の收容されてある病室を訪ふた茲には菅野徳藏氏の母子と川村豊三郎氏とが隣り合に寝て居つたが病室とは名ばかりで杉皮葺の板張り急造バラック建である病室が満員なので致し方がないとしても成る程之れでは自費で付添看護婦を備ふて居る人々には實際慰安の方法なきのみならず一層不快の念を深からしむるであると云ふ事が解かる、茲に至りて亘理氏の先年以來主張して止まざる高等病室の建設の一日も忽諸に付すべからざるを切實に感じたのである、聞

けば県より五千円の補助も出来るとのこと何か故に遲疑して決せざる誠に怪訝に堪えず希くは町内有志の士一日も速かに亘理氏の理想を現実せしめよ、上流者必ずしも該病に犯さるゝなきを保すべからず諸君が聽て此の匠命を同うす可き事あるを思はゞ洵に寒心に堪えざるなり終りに事務員並に看護婦諸氏の労苦を感謝す

25 第57号3面 (大正元年9月1日)

●赤痢益々猖獗 既報の如く本郡各町村に赤痢病の發生以來患者続發して益々蔓延の兆候あり、而して廿七日迄の調査によれば左表の如く今や九十三名を算するに至れり、詢に寒心に耐えざるなり

【本書統計編 表10】

されば白石町の如きは去る廿四日臨時町会を開き撲滅策につき議するところありしが、議員朝倉秀雄氏の發議により該病發生付近の者に対し健康診断をなすと同時に赤痢病予防液の注射を断行することゝなり、其の費用は富豪特志家トモの寄附に俟つことに決定したりしが主治医亘理

氏も臨席報告するところによれば患者中には貧困にして着替の単衣もなく洗濯に困しあるの惨状目も当てられず、氏自身に有志家を訪へ数十枚の着物を貰ひ受け之れを貧困患者に配付されたことを陳述され、しかば富豪渡邊佐吉氏は直に数十点の木綿反物に金若干を添へて寄贈されたるは感謝するところなり尚町会は如何なる方法を探るも全力を挙げて撲滅を講ずべきことに決定し散会されたり

翌廿五日には郡役所、警察署、町役場の聯合協議会を白石町役場会議室に開かる、参会者は向田郡長、和泉主席郡書記、小林郡書記及び田中警察署長、水野町長、鈴惣・朝倉・紺野の三衛生委員、水野町医、亘理主治医等にて種々協議するところありしか此際大々の活動を開始し撲滅を期すること、なり散会せり、猶決議の要領中には各区各町に衛生幻灯又は講話会を開き衛生思想の涵養に努むること、なれり因に此種の協議会は隔日に開き互に心付たることを議題として協議する由なり

26 第60号4面（大正元年10月1日）

勤勉なる衛生主任書記

本郡に於ける赤痢病の発生は白石町を以て第一とす、福岡村之に次ぐ、然るに同村書記石川光昌氏は衛生主任として格勤精勵能く防疫に注意を払ひ常に村長の指揮の下に奔走しつゝ、ありしも如何せん頑民の隠蔽には遂に今回の如き蔓延の已むなきに至りたるものにして、爾来氏は専ら之れが撲滅策に腐心せられ卒先村長に乞ふて発病地付近に予防注射を実施せしに其後一人の患者をも見ざるに至れり、殊に去る一日の大暴風雨に際し今隔離病舎は白石川出水の為刻々危険の状態に陥るべきを早くも予知して急劇病舎の移転を村長に請ひ挺身人夫を督して患者十四名を瞬間の内に福岡村役場に移転收容し辛ふじて危難を免るゝに至りたるものなりと云ふ同氏の功劳実に賞するに余りありと云ふべし

27 第62号2面（大正元年10月21日）

○白石町のトラホーム検診 白石町にては明二十二日より当町トラホーム検診所に於て毎日午後一時より三時迄の間に左記日割を以て検診さるゝこと、なり其筋より

夫々通牒されたる筈なるが注意の爲め左に掲載すること、となしぬ

明二十二日鷹巣、二十三日郡山、二十四日本郷、二十五日裏町、二十六日寿町、二十八日柳町北通、二十九日新柳町、三十日南小路、三十一日田町、十一月二日本町東側、四日本町西側、五日中町、六日長町東側、七日長町西側、八日亘理町、九日短ヶ町、十一日新町北側、十二日新町南側、十三日西益岡、十四日中益岡、十六日東益岡、以上

28 第68号4面（大正元年12月21日）

白石町の臨時町会

六月中旬より十一月下旬に涉り九十余名の赤痢患者を出したる白石町は去る十八日午後臨時町会を開き伝染病予防費を討議し承認を与へたるか、その総額四千八百八十五円五十銭内千二百七十九円五十銭は伝染病予防費として曩に一般町費にて徴収したるものなれば、今回追加徴収さるべき残額は三千六百〇六円にして一戸当り一九九十八銭、則ち県税一円に対し六十六銭つに当る割合なるが如斯年々尠なからざる不生産的の費額を負担する町

民は各自衛生を重し該病を発生せしめざる様注意肝要なりとす

29 第71号2面（大正2年1月21日）

●伝染病予防に於て

我が刈田郡は四、五年前より毎年継続的に赤痢病発生し年々不尠不生産的費用と人命とを損失しつゝあるが、向田本郡長は之れが予防方に就き苦心され、且つ経費の削減を図る主旨に於て治療救護の事務を白石町外九ヶ村組合刈田公立病院の事業に附属せしめんと目的を以て這般白石町へ諮問し来るに付、水野町長は去る十三日臨時町会を召集し左の事項を諮問案として町会へ提出したり

諮問案

伝染病予防法に依る治療に関する事務を白石町外九ヶ村組合事業に附属せしむるに付町会の意見を諮問す

理由

本郡には毎年赤痢病発生し啻に生命と経済上のみならず地方産業にも影響を与ふること少からず故に地方の状況に鑑み尤善なる方法講究実行し完全なる治療を施して救護を全ふすると同時に経費の節減を図らんとす

る主意より伝染病発生の場合に於て各町村聯合して治療救護の事務を白石町外九ヶ村組合刈田公立病院の事業に附属せしめ施行せしむるは單に負担の軽減を図るに止らず公益上最良の方法なりとす

然るに町会は重大問題として委員を挙げて調査することとなり七名の委員附託に決し、同十五日委員会を開き決する処ありしが更に十六日本会議を開き委員会の経過を報告したりしが、其の要領は諮問事項中にある本郡内に四ヶ所の聯合隔離病舎を設置すべしとの件は、白石町は商工業地なれば聯合隔離舎を設け各村より患者を收容することに就ては商工業上至大の影響を被るものあるを以て絶対に不可なれば白石町の隔離舎は独立となすこと、但し経費節減に関する聯合組合には勿論異議なく加盟することに決定せる旨報告あり、満場異議なく委員会報告通り決定して答申すること、なれり

左に大正元年度赤痢病に要したる費用は別表の如し

右に就き白石町の有志者岩澤銀三郎、齊藤慶治、庄司内藏吉の三氏は郡長の提案を是なりとし各議員に意見書を配付し賛成を求めらるゝところありし

【本書統計編 表11】

30 第71号3面（大正2年1月21日）

●公立刈田病院 白石町外九ヶ村組合公立刈田病院大正二年度予算会は去る十四日刈田郡役所会議室に於て開会されたりしが左の予算案を異議なく可決確定されたり

歳入

一金壹万貳百七円六拾五銭 歳入予算高

歳出

一金九千七百四拾壹円九拾銭 經常部予算高

一金四百六拾五円七拾五銭 臨時部予算高

合計壹万貳百七円六拾五銭

にして大正元年度に於ける患者数を示せば左表の如し

【本書統計編 表12】

31 第72号2面（大正2年2月1日）

●水野町医の施療 明治四十一年四月白石町トラホーム検診所開所以来今日に至る迄数年一日の如く該病撲滅に尽力しつゝ、ある町医水野泰治氏は貧困にして自ら治療費

を支出し得ざる貧民に対しては施療をなし来りたるが開
所以来今日迄施療をなしたる人員数千、これを延人員
となすときは頗る多数にして低廉なる薬価（一回一錢五
厘）としても其額数百円に昇るべしと云、実に奇特の事
と云ふべし。詳細なる数に於ては取調中に付追々掲載す
べし

32 第74号2面（大正2年2月21日）

●恩賜財団済生会 は救療細則による救療委託者並に救
療費は本年四月一日より改正実施さる由

売薬其他協定事項

- 一、内科・外科・眼科・婦人科及其他の患者は凡て
一日救療薬価三銭

- 二、処方箋に依る薬店の調剤は一日薬価貳錢五厘

- 三、手術料は其実費

- 四、外科患者にして特殊の材料を要したるときは其実

費

- 五、往診に車馬を要したる場合は其実費

- 六、入院患者に対する食料及滋養物は其の実費

- 七、入院患者に供給したる夜具・蚊帳等にして他より

借入たるものは其損料の実費

救療委託者氏名を挙げれば

（白石町） 引地刈田公立病院長 亘理刈田医学会長 朝
倉秀雄 小野寺昌治 水野泰治 渡邊安治 藤本純二
亘理晋二 鈴木俊助 千葉道悦（小原村） 小野寺覺
治（宮村） 大泉泰 山家賀三郎（圓田村） 小村崎清
見（白川） 高橋茂平（越河村） 高橋久吾（齋川村）
伊藤永水 薬剤師白石町 關谷藤三郎の諸氏なり

33 第80号2面（大正2年4月21日）

●白石町に於ける春季「トラホーム」検診 は去月三日
より白石町トラホーム検診所に於て施行し、同二十八日
に終了したるが其成績を区別に掲ぐれば左の通りにし
て、検診人員に対し患者の最も多きは鷹巣区の三六人に
して郡山、短ヶ町、柳町之に次ぐ、是等の区は目下流行
の最盛期とも称しべし、最も少きは中益岡の六人にして
裏町の七人は其次にあり、概して前年に比すれば稍良好
に赴きたりと雖も未だ安心すべきの時期にあらず。我町
民百人中二人余の患者を有する訳にして甚だ面白から
ざる現象なりと云ふべし

34 第81号4面（大正2年5月1日）

刈田郡に於ける種痘

本郡に於ける種痘は宮、齋川、越河、大鷹沢の各村は三月三十日より四月二十八日の間に於て既に結了を告げ白石町にありては今月上旬よりトラホーム検診所に於て町医水野恭治氏執刀の下に施行の筈にて目下夫々準備中なるか当町在住者は例令無届け寄留者と雖も左記に該当する児童を有する保護者又は義務者にありては当日必ず同所に出頭して接種せしむべく、違反者は二十円以下の料に処せらるべければ注意すべしとなり、猶未了の町村にありては今月中に全部結了の筈

一、数へ歳二歳の者

二、数へ歳十歳の者

三、前年中病気其他の事由に依り猶予されたるもの

35 第84号2面（大正2年6月1日）

宮城県医師会

宮城県医師会創立総会は去る廿四日仙台市宮城病院内に

開催されしが会則議定の後役員選挙を為し、終りて彌生軒に於て懇親会を開きたるか森本県知事も臨席されたりと、猶ほ刈田郡医師会よりは会長巨理晋、幹事朝倉秀雄の両氏出席されたり当日当選せし役員諸氏は

▲会長 山形仲藝 ▲副会長 巨理晋 ▲幹事櫻田三二六、渡邊充郎、鈴木惇、猪苗代翁、佐藤喜三郎

36 第90号1面（大正2年8月1日）

油断大敵

夏季の衛生に就て

赤痢病の発生するは年々季を同ふし、即ち土用立秋の頃に於て其の最も流行期となせり、時は將に陰鬱湿潤の氣は去れりと雖も炎熱漸く酷ならんとす、此の時に於て一般衛生に注意せざれば不測の災厄を惹起し尠なからざる生命と財産とを失ふに到るは従来の経験に徴し瞭なる事実なりとす、我白石町は不幸数年前より継続的に彼の恐るべき黴菌の潜伏するところとなり昨年まで尠なからざる生命と財産とを失ひたるは読者の記憶に新なるところなり、本年は本郡を通し未だ一人の患者を出さざるは洵に福にて年々歳々人々をして恐怖の念に駆らしめたる

該病の發生を視ざるは実に喜ばしきことにして絶対に見

生せざらんことを祈るものなり、莫遮油断は大敵なり黴菌の潜伏する数年に渉りたる地方にありては何時如何なる方面に發生せざるとも限られず炎熱の益々酷烈なると同時に公衆衛生に個人衛生に各々注意を怠らす未発に防ぐの心掛肝要なりとす、由来我邦人は健忘性なり、何に事に依らず熱する時は度を失ひ、常識を逸せる底の活劇を演ずることあるも、漸く疎なるに至り冷然忘れたるか如き感あるは洵に邦人の欠点にして、一度悪疾の發生するや俄に大騒きをなし衛生吏員の活動となり演説に幻灯に各戸の鍋の中までも注意するの狂態を演しなから、本年の如く一名の患者を出さざるの時にありては口に衛生を談するものなく年々行ひ来りたる各巡回衛生検査をも励行せず、全く忘れたるか如き観なくんばあらず、近頃に入り漸く臨時掃除を執行せしめつ、あるもの、如し、当局も個人も爰んぞそれ健忘性なる、吾人の希望するところは事なきに備ひ未発に防止するの最も策の得たるものなること、なし油断は大敵なり時將に炎熱加はらんとす公衆、個人とを問はず絶対に一の患者を出さざること奮闘努力せられんことを熱望に耐へず敢て苦言を呈す

る以所なり

37 第90号3面 (大正2年8月1日)

●田中白石警察署長の談 氏は愈々赤痢病發生の季に入りたるを以て熱心之れが防備に焦慮され市内は勿論管内各区へ嚴重訓示されたるが其大要を記さんに

赤痢の原因系統は種々あるべきも帰するところ黴菌作用に外ならず、其の赤痢菌の体内に入ることありとせんも之れか誘因となる可きものなくんば決して同患者たることなし、而し誘因の最も生水の飲用に多きは多年の実例に徴して瞭なり故に生水の飲用は絶対に避けざるべからず、這般予防上一応の訓示を与へ置きたるも特に生水の飲用最も危険なるを以て各自の家庭にありても煮沸水を備ひ他に範を示し戸口調査其外警羅等を利用し受持区民に夏期煮沸水を毎戸に設備し置かしむるやう注意を促し土地の状況によりては衛生組合を活動せしめ又は小学校長と協議して児童には煮沸水を与ひ必ず生水を飲用せしめざること以て家庭との連絡を保たしめ万違算なからむことを然して防疫上の効果を奏し不生産的の冗費を為さしめざるやう篤く注意を

望む

云々と氏は熱心に語り

38 第90号4面(大正2年8月1日)

●臨時清潔法 白石町の臨時清潔法は左記各項によりて去る廿九日より施行されたるが未済地にありては左記日割に依り検査を執行さるべければ留意肝要なりとす

臨時清潔方法

- 一、家屋内は家什敷物を除き室内及床下等隈なく掃除し敷物は日光に曝露すること
- 二、流し、下水溝、下水溜は塵芥汚泥を浚渫掃除すること
- 三、邸内及其近接の芥溜並に不潔の場所は塵芥汚物を掃除すること
- 四、掃除を為したる跡と雖も不潔の場所殊に糞池の周囲及湿润せる床下等には成るべく石灰又は石灰乳若くは木炭を撒布すること
- 五、掃除したる塵芥汚物にして肥料に供せんとするものは直に田畝其他適當の地に運搬し其他は便宜一定の場所を集め焼却すること(但し焼却し難きものは無害の

地に埋没すること)

未済地の区域及検査日割

- 八月六日新町、西益岡 八月七日中益岡、東益岡 八月二日日本町 八月八日日本郷、裏町 八月四日中町、長町 八月九日鷹巢 八月五日亘理町、短ヶ町 八月十一日郡山

39 第91号2面(大正2年8月1日)

●大正三年度壮丁トラホーム検診 は白石町トラホーム検診所に於て去る三十一日第一回検診を施行されたり、当日は加藤警部補、中嶋特務臨席され一場の訓示をされたるが加藤警部補はトラホームの恐るべき二、三の実例を挙げ、次で大正元年度に於ける壮丁者百名に対する同病患者九十余名の甚だしき不良の成績なりしを憂ひ当局は嚴重之れが治療を督励し壮丁者にありても亦其意を体し進んで治療に努めたる結果、本年六月徴兵検査の際は百名に対する四十二人の成績を挙げ聯隊区管内に於ても最優良と認められる、に至りたるは洵に喜ぶべき現象にして、諸子は是非此の良好に向つ、ある良成績を失墜せざらんことに努められたし云々と熱誠なる訓示あり後、

衛生主任中嶋特務、太田兵事主任等の必要なる訓話ありて検診を終了されたるは午後四時頃にてありし

40 第92号2面 (大正2年8月21日)

衛生幻灯大講演会

白石町衛生幻灯大講演会は去る十五日午後七時より当町専念寺に於て開催されたり、参会者は老幼男女を合して実に五百余名の大多数にて水野町医開会の趣旨を述べ、次で和泉主席郡書記、岡郡視学、亘理刈田医会長、第一・第二各小学校長等の衛生に関する口演あり、次に中島特務衛生主任は水と冷饅麵と旧盆に対する飲食物に関する縷々講話され、終りに往年名取郡に於ける、赤痢病患者発生当時の惨況を述べ大に防疫上の注意を促されたり、然して幻灯の映画により講師交る代る説明をされたること、聴衆は大に感動せしもの、如く拍手喝采の裡に閉会せるは九時過ぎなりし

41 第96号3面 (大正2年10月1日)

白石日曜学校生徒病院を見舞ふ

去る二十八日午前八時日曜学校に於て花の集会を催し、

数十名の男女の生徒は教師に引卒せられ花束を携ひて刈田病院入院患者を訪問し、花束と菓子とを頒ちて病者を慰めたり、因に日曜学校は毎日曜午前八時半より一時間開校し、精神教育を旨とし男女数名の教師献身的に教導の任に当らる町家の子弟の入校を許可する由

42 第101号2面 (大正2年11月21日)

●教育衛生大幻灯会 去る十日午後六時より壽座に於て白石日本基督教青年会主催のもとに向田郡長、水野町長、医師亘理晋氏等の賛助を得て開会せられたるが開会前已に満場立錫の余地なきの好況にて同七時頃には木戸メ切の止むなきに至り、其会衆約七百名に及びり今茲に当夜の概況を報ぜんに先日曜学校生徒及会員一同の讚美歌合唱、ファウスト博士の独唱、ついで会長齋藤一氏開会の辞を述べ、亘理国手の肺病に関する談話ありファウスト博士『肺結核撲滅策』てふ題のもとに数分間演説を試られ直に映画に就て通俗的の説明を加へられたり、次に向田郡長起つて一場の演説をなし更に教育幻灯にうつりて北方日本基督教會牧師伊藤氏の説明ありたり何れも会衆に多大の感動を与へたるが中にも中江藤樹先生幻時の話

には感極まりて四辺歎歎の声をきくに至れり。最後に
兩陛下の御影を映写し奉り一同君が代を再唱して閉会を
つげたるは同九時二十分なりし。因に目下会員三十余名
を有する同青年会は今回の事業を始として今後益社会の
為めに活動せん意気込なる由

43 第101号3面（大正2年11月21日）

白石町と用水『上』

白中教諭 加藤鐵次郎

貴社実業新報百号記念発行を祝し将来益々隆盛ならんこ
とを祈り併て地方実業の発展に御尽瘁あらんことを希望
する次第であります、次に述べる事柄は実に平凡で一般
人士の知悉し居らるゝことながら尚ほ一顧を賜はらば幸
甚と存じ敢て貴紙を汚します

白石町の水利の便なることは県下に余り其比を見ないこ
と、思ふ、縦横の溝渠には涼々として尽きぬ清流が昼夜
を分たず流通して幾多の恩恵を与へて居る、之を仙台九
万の人口を有しながら未だ上水・下水に就て少からず苦
慮し居るに比すれば実に霄壤の差で同地の人が当地に来
る度に羨艶の声を発するは敢て一場の御世辞計りではな

い、用水は実に白石町の生命と云ふても差支へないと思
ふ住民日常の使用に供せらるゝは勿論製粉、製米、製麵、
製材、製糸等諸種の製造工業の動力原となり或は万一時
に於ける火防の味方となり又田地の灌漑、養魚に供せら
るゝ等一々挙げ来れば其の恩恵の大なる実に想像の外で
あらうと思ふ、尚も工夫を廻らしたならば今日の状態よ
り以上に殖産の上に利用の道もあらんと考へられる、斯
様に一方には甚大の恩恵を我々に与ふると同時に又一方
より観察したならば又害の其間に伴ふものなることを忘
れてはならぬ殊に衛生の上より見て甚だ寒心すべきもの
がある年々夏期になると、用水使用に就て其筋より懇到
なる注意ありて衛生思想の普及に力を尽し居らるゝも容
易に漫用の癖を矯正することは困難である、一方に食物、
食器を洗浄するを見れば、一方には汚物の排除を行ふを
見る、甚しきは飲食物販売者がこの水にて品物を製作す
るを見受けることもあつて実に寒心に堪へぬ次第であ
る、此等は一般人士が井水を汲み上ぐる労を厭ふこと、
年来の習慣とによるとは云へ一面衛生上の思想が充分脳
底に滲み込まぬ結果もあらんかと思はれる、清潔、不潔
はさて置き、もしも此間に伝染性の病原でもあつたとす

れば、其害の波及することはたゞに一人一戸の不幸のみ
に止まらぬこと、思ふ東京辺の水道の如く貯水池に於て
水中微生物の検査を行ひ鉄管によりて各戸に配布するの
とは大いに趣が異り、遠く田野の間を只開鑿せられたる
溝渠を流し来る間には諸種の汚物の混入せむとも限らず
又余り美しくないことながら農家の使用する糞便の類も
雨水其他の作用により多少混入せぬとは保証の出来ぬ事
実である、糞便に関しては宮島博士は次の様に述べられ
て居る。

44 第102号4面(大正2年12月1日)

白石町と用水『下』

白中教諭 加藤鐵次郎

糞便は諸種の寄生虫の卵を含むのみならず種々の消化器
伝染病の病原菌等も此中にあつて寄生虫病及消化器伝染
病の蔓延する根源となるものである故に糞便を完全に始
末することは我邦の衛生上大問題である今日の様な便所
の構造や糞便の処置法にては寄生虫病や伝染病の蔓延を
防ぐことは出来ない否寧ろ病毒を蔓延させる様なもので
あると云はれて居る

以上の如き不完全なる処置法によりて行はれつゝある農
場又は道路の近傍を流通する用水中には寄生虫病とか消
化器伝染病菌等か此間に居らぬとも限らぬ、かゝる水を
以て直接に咳嗽を行ふたり飲食物、食器等を洗浄したり
することは大いに危険の業と思ふ、此等の飲食物も悉く
煮沸若くは焦焼して後に口にするもののみならば兎も
角、若しも生食する類のものであつたならば万一に其害
毒を受けぬとも限らぬ

伝染病に就ては年々県にても統計を取り一般に注意を払
ふものも多いが寄生虫に至りては余り人に注意されて居
らぬ様である、素より専門でないから、この地に何々の
種類が多いかは知らぬが宮島博士は日本にて寄生虫の為
に死するものは年々約三千人もあるとのことである、仮
令死な、いまでも之に苦められて居るものは如何程ある
か余程の多数に上ること、思はれる又同博士は或る種の
寄生虫の為に労働者の作業力が約二割を減少し坑夫三百
人を使役する加州の或る金鉱山にてこの寄生虫の為に損
害額一年に五万弗の巨額に達すると云ふことである、以
上は只一の例に過ぎぬとしても、当町の如きも或は多少
此種の危害を受けつゝあるにあらざるか假令生命迄には

閑せざるも其為に腦力或は体力の衰弱を来す様のことか
少しにてもあつたとすれば啻に一個人の不幸のみならず
延いては町村生産の上に影響を及ぼさぬとも限らぬ前述
加州金鉾山の例に見るも明である
水の利用は益々發展の域に推し進めねばならぬか其害の
方面丈は寸毫も受けない様に御同様心掛けねばならぬこ
と、考へ貴重の紙面を汚した次第である

45 第103号2面 (大正2年12月11日)

●壮丁「トラホーム」予防規程 本県にては近來徴兵檢
査に於けるトラホーム患者の成績甚だ不良にして、特に
予防の必要を認め今回訓令第三十五号を以て發布された
るが其の規程左に

壮丁「トラホーム」予防規程

第一条 市町村長ハ翌年徴兵検査ヲ受クベキ壮丁ニシテ
其市町村ニ在住スル者ヲ毎年十二月適宜ノ場処ニ召集
シ医師ヲシテ検診セシメ爾後一ヶ月毎ニ之ヲ行ヒ「ト
ラホーム」患者又ハ其疑似症患者ト診定シタル者ヲ第
一号様式ノ患者名簿ニ記載スベシ但最終ノ検診ハ徴兵
検査前十日以内ニ之ヲ行フベキモノトス

第二条 前条ノ検診ニ於テ発見シタル患者ニハ市町村医

又ハ病院若クハ他ノ医師ニ就キ治療ヲ受ケシムベシ

第三条 市町村長ハ第二号様式ノ治療券ヲ患者ニ交付シ

置キ治療ヲ受ケタル都度医師ノ証印ヲ受ケシムヘシ

第四条 警察官署長ハ市町村長ト協力シ検診治療ヲ督励

シ時々部下ヲシテ治療券ヲ査閲セシメ治療ヲ怠ル者ア

ルトキハ之ヲ訓戒シテ速ニ治療ヲ受ケシムベシ

第五条 市町村長ハ治療費ヲ負担シ能ハザル貧困者ニ対

シテハ可成其治療費ノ全部又ハ幾部ヲ補助スルノ方法

ヲ講ジ若クハ適宜他ノ方法ニ依リ施療スベシ医師ノ在

ラサル町村ニ於テハ患者ヲシテ不便ナク治療ヲ受ケシ

ムル方法ヲ講ズベシ

第六条 市町村長ハ毎回検診ノ結果ヲ十日以内ニ第三号

様式ニ依リ市町八直ニ町村長ハ郡長ヲ經テ知事ニ報告

スベシ

郡市長ハ徴兵検査終了後五日以内ニ第四号様式ニ依リ

徴兵検査ノ結果ヲ知事ニ報告スベシ

第七条 警察官署長ハ第一号様式ニ準シ駐在所及受持巡

査ヲシテ患者名簿ヲ調製セシメ治療督励ニ便スベシ

附則

第八条 壮丁「トラホーム」ノ予防ニ関スル従前ノ達類

ハ総テ廃止ス（様式省略す）

46 第109号5面（大正3年2月11日）

●大河原町大幻灯会 去る一月三十日同町の主催にて衛生幻灯会を同小学校内に開催、午後三時仙台台宮城女学校長フアウスト博士及白石教会鈴木牧師の為に歓迎会を開き、兼子柴田郡長の開会の辞、大河原教会泉田牧師の挨拶、フアウスト博士の農村の娯楽に就て、鈴木牧師の農村救済に就て等有益なる講演あり、鈴木署長の閉会の辞にて閉会直ちに茶菓の饗応あり、出席者は町の有力者六十余名にてなかなかの盛会なりし、尚午後七時より幻灯会を開き佐藤医師、鈴木牧師等の映画の説明あり、会衆無量七百余名これ亦なかなかの盛会なりしと

47 第111号3面（大正3年3月1日）

刈田郡医師会

同会の定期総会は去る二十二日白石町役場に於て開会左の件を議題とし孰れも満場一致を以て異議なく原案の通り承認することに可決確定せりと

一 本郡窮民施療の件

刈田郡医師会は大正三年三月一日より同十二月三十一日迄本郡内貧民患者に対し、左の規定により各会員は無代価診療を執行す

(1) 本郡内居住者にして町村費免除者其他貧困にして薬種に窮乏を告ぐるものには本郡医師会員各自宅に於て無代価診療を執行す、無代価診療を請はんとするものは町村役場又は区長警察官より貧困者たるの証明書を持示するものとす

(2) 医師会員は投薬の種別及月日を記載し、其都度施療患者に認印せしむるものとす

二 匿名寄附金貳百五十円受入れの件

三 決算報告の件

因に貧民困窮患者救済の目的を以て殊に無名氏より施療救済会の為め貳百五十円寄贈されたるは近來の美拳と云ふべく、本社は殊に附記して読者と共に永く無名氏の芳志を記念すべし

5 災害

1 第4号3面 (明治44年3月11日)

●初午の消防出初式 当白石町に於ける消防組員は前日午前三時より各部に事務所を張り鈴木組頭の各部巡検あり、同夜は各部員其受持部を夜警し翌三月一日午前七時三十分警鐘にて各員警察署前に集合整列、署長の人員器具の検閲終り、折柄の雨にも関はず百余の消防組員は組頭の指揮の下に隊伍肅々として全町を練り歩き、沢端川に於て蒸汽唧筒の試運転を行ひ、午前十一時再び警察署前に引揚げ署長及び組頭の訓示講評ありて正午解散せり

2 第6号3面 (明治44年4月11日)

●罹災民の北海移住期

内務省にては各地の水害罹災民に対し地方官庁と協力して北海道移住を奨励したる結果、愈々三千九百二十七人の希望者出でたれば近く渡道せしむる筈にて、目下鉄道院に対し運輸列車に関する交渉を重ねつゝ、あるも何分昨

今は各地団体遊覧等の企ありて客車欠乏し前記多数の輸送は極めて困難なるを以て、或は出発期は五月に入るやも知れずと云ふ、尚同省にては今回の移住民の成績にして良好なるに於ては今後年々内地の窮民を北海道又は滿韓に移住せしむる策を取ることあるべしと

3 第17号3面 (明治44年7月11日)

●白石町消防組の基本財産

当白石町消防組にては器具の整頓、紀律訓練等著しく卓越し居るを以て曩に其筋より馬簾に金線一条を允許されしが、爾来顧問及び組員の熱心は実に旺なるものにて殊に新任署長田中氏の如きは孜々是れが発展策に努め、従来白石町の町有なりし中河原二町歩余の桑畑を今般協議の結果同消防組に譲り渡し、是れが小作料四十円余は同消防組の基本財産とし年々積立つる筈にて去る三日署員、町役場員、及び消防組幹部連は該桑畑を实地踏査の上受渡を了し、翌四日小作人一同を白石町役場に召集し更に新契約を結び午後四時より新任田中署長の招待会を兼ね顧問及び幹部組員の盛大なる懇親会を開催せり

4 第19号2面(明治44年8月1日)

●郡内の水害

去月廿六日夜来の降雨にて白石川の出水八尺を過ぎ沿岸の堤防其他耕地を害せること尠なからず、就中国道筋の橋梁流失したるを以て一時交通不能に屬せるも、是等に對し郡県に於ては夫々手を尽し応急工事中なれば不日復旧を見るに至る可く、水害には何時も町民の大に苦慮する所なり

5 第40号3面(明治45年3月1日)

天水桶の奨励

当白石町は四十二年以来未だ一戸の火災に罹りたるものなく当局者は猶嚴重予防に尽瘁しつゝ、あるものなるが此程其筋にては各戸に天水桶備付を奨励しつゝ、ありと

6 第42号3面(明治45年3月21日)

○白石町消防組と初午

当白石町消防組は年々初午の日を以て演習を施行しつゝ、來りたるが本年は來る四月二十六日より開催せらるべき郡内各消防組の聯合大演習挙行の筈なれば、今回は単に

城山中学校運動場に於て鈴木組頭指揮の下に唧筒の取扱ひ其他諸操練を為し署長及組頭の訓示講評あり、当夜各区に事務所を張りて警邏をなし翌朝午前七時解散せり

7 第49号2面(明治45年6月1日)

霜害と救済

去月十一日の霜害は之れを大局の上より打算する時はさしたる影響なきが如きも地方にありては蓋し尠少なりとなすべからず、本県に於ける其被害の大なるは刈田、伊具、柴田の各郡にして之れを仔細に調査する時は町村により其被害の大小あるべきは勿論なりとす、隣県福島にありては伊達、信夫、安達、安積、岩瀬に跨り之れを総括すれば其被害の程度数千町歩に涉り甚しきは全村一の青桑を觀る能はず、折角掃立てたる蚕兒を投棄せざるべからざる悲惨の光景を現出したるが如き如何に其被害の激甚なりしかを知るべし、輒近養蚕の進歩は当局の奨励と相俟て著しき發達を遂げ今や農家の副業たりとの時代は過ぎ去り、將に養蚕を以て一家の經濟を支持せらるべきの氣運に達し町村及地方は勿論國家經濟に重大の關係を有するは云ふまでもなし、此時に於て此災厄に遭遇し

たる地方にありては実に一大打撃にして其被るところの損害は莫大なりと云ふべきなり、左なきだに米価の昂騰は諸物価及び労銀の騰貴となり生糸価格との調節を失し養蚕家は如何に生産費を節約するも到底引合はざるの場合に於て此災害に遭ふ天災んだ夫れ無情なる農家の困憊察するに余りありと云ふべし、然れども天のなせる災は之を如何ともなす能はず、須く善後の策を講じ其欠陥を補はんことに努むべきは將に焦眉の急なり、而して当局者は之れが救済を策すべき上に於て如何の成案かある吾人不敏にして未だ具体的の提案を聴かざるを憾とす、当局者及び世の識者よ冀くは速に救済の案を立て此窮地に陥れる災害地の農民を救済するにあらずんば益々疲弊困憊して終には衣食に窮し租税を怠り町村及地方経済に忌まはしき現象を呈するに至るやも知るべからず、当局者は如此場合に於て何等顧るところなきか只に養蚕奨励の主旨に反するのみならず国家経済に及す影響の甚且つ大なるを思はざる可からざると同時に、る場合に処して当局者たるもの大に救済すべき当然の義務あるものと信ずるなり

8 第49号3面（明治45年6月1日）

岩手県下の霜害

去月廿五日朝岩手県下も亦各地に亘りて結霜あり紫波、岩手、江刺、和賀、稗貫、上閉伊、下閉伊の各郡も多少の損害を受けたり、結霜の被害激甚なりし二戸郡長の談によれば同郡一円は霜害といはんよりは寧ろ凍害と称すべく地上約一寸位凍結し恰も積雪の靚ある場所も尠ならずと随て農作物は何れも被害激甚にして桑は全滅の惨状を呈し当時掃立飼育中の春蚕は全部放棄するの外途なく此損害約十三万円農作物の損害を合算すれば優に二十万円の見積りにて凍害反別は一千町歩に達せるよし因に九戸郡各地の被害も海岸地方を除き略ほ二戸郡と同様県下を通じて春蚕の謂害実に一萬石約四十万円ならんとのこと

9 第49号3面（明治45年6月1日）

福島県下の大結霜

再度の霜害春蚕の大打撃
去る廿四日夜来の冷氣にて全県下に結霜あり就中安積、岩瀬の二郡最も甚だしく桑園の八分通り枯れ果て見るに

忍びざる惨状を呈す、伊達其他の中通各郡何れも大霜害ありたり、同県下は已に前二回の大霜害を受けたる上に又此大結霜ありたること、て春蚕愈々全滅の止むなきに至れり（福島廿五日特報）

10 第58号3面（大正元年9月11日）

●本郡水害の状況 九月一日の二十十日は農家の一大厄日たるを以て人々無事ならんことを祈り、且全国を通じて平穩なるべしとの予想は外れ同日午前三時頃より降り初め午後に至りて益々甚しく北東の暴風雨となり諸川沢の出水劇増し終日止む時なく夜に入りて益々強風吹き荒み如何なる水害となるべきかを氣支ひ人心競々たりしが、汽車は同日午後六時四分着下り列車は白石駅以北に通ぜず乗客は列車中に寝転び天候の如何に焦心し居りたるも憂は益々増加し来り、槻木白石間は数ヶ箇の線路破壊せられ茲に至りて全然不通となり乗客は付近の宿屋の宿泊するの止むなきに至りたり、一面白石川沿岸の堤防並に大橋は刻一刻危険に迫りたれば各所の警鐘を乱打して急を町民に報ずる等実に混沌たる凄惨の光景を呈したり、之より先き田中警察署長は署員を各町に配置して警

戒怠りなく又向田郡長、鈴木組頭、水野町長等夫々警防上必死となり奔走せられたりしも午後七時三十分に至り大橋南足元より欠壊を初め橋梁十数間流失し茲に至りて国道の交通全く遮断されたり、次で新町裏の堤防欠壊を初めて危険愈迫り為めに有志町辺の民家は悉く家財を取纏め避難する等其混雑名状すべからずかくて翌朝一時頃に至り雨少しく止にたれば水勢衰ひ同堤防の破壊も僅かに一尺許りにして事なきに至りたるは幸なりし

△水害中に於ける福岡村の大混雑 同村に於ける赤痢病舎は十余名の患者を収容し殆ど病舎にすら狭隘を告ぐる有様なるに是等雑沓の間に白石川の増水は刻一刻其量を増し見る間に同隔離舎は濁流の間に包囲せられたれば急遽同隔離病舎を村役場に移し同村役場は小学校の一隅に移転するの混雑を極めかて、加へて収容中の患者一名死亡したれば其混乱実名状すべからざるものありしと

△宮村 は例の松川出水甚だしく荒町裏の堤防欠壊し始めたれば警鐘を乱打し急を報じ消防夫及全町民必死となりて防禦に尽力したる甲斐ありて家屋の流失等を免れたりされど松川橋は流失したりと

△円田村 一昨年の洪水に矢附方面の田畑荒廢に帰した

りしが本年の水害は水勢方向を転じ永野橋上流の堤防破壊され曲竹方面へ漲り同地の稲田は一面の川と化し鉄砲町の裏を通過したれば数十丁の田地は河原となりて到底回復の見込なきに至りたり

尚全郡被害田畑の調査は此項ノ切まで未了に付次号に詳報すべし

11 第59号1面（大正元年9月21日）

治水問題

『桑田変じて海となる』とは日常吾人の膾炙する処也、今や累年の水害は白石町畔荒源たる礫原を拡し、桑葉黄稻再び見るを得ず長堤は累年決壊せられ白石大橋は幾度か粉碎せらる。修繕に掛替に暇なく為めに通行者を厄する亦多大なるもの之れ何のためぞ、夢円なるべき夜半すら凄惨なる警鐘に心安からざる実之に之れ聖代の恨事たり。思ふに近來の天候不調によると雖も又往年の飢饉は上流の細民をして森林乱伐の止むなくに至らしめしに原因せずんばあらざる也、山雨沛然野を湿せば草葉之を宿して易く之を河流に下さず喬木細草露を得て緑葉益々繁きを加ひ山容更に新なるを覚ゆるも如何にせん累年の災厄は

人をして菜色を帯ばしむるに至りては之れまた止むを得ざる出づ。然れども止むを得ずと称して荏苒之を顧ざるに至りては水伯の災厄は底止すべくもあらず益々其の禍根を増加せしむるや必せり。

禍根已に明也投薬亦莫きに非ざるへし余輩元より這般の事理を極めしものにあらず、其の救済方法の如何は元より当局者の胸中必ずや何ものか存するに疑あらずと雖も其の表はる、処は皆末枝のみ白石河難攻不落の鉄壁を以て圍するも災原の防圧を極めずんば是れ何等のオーソリティーを値するものに非ず今藉りに歳々被むる損害の幾分を以て水原の荒野に移植せんか、始めは倭樹未だ完全に其の効を奏するなしと雖も甚大の恩恵は年を加ふるに類なるべし、南岸米里の長堤に植樹また効なしとせず之れ其の細根地底深く蟠り堤土を堅むるものにして松柏可也桜可也、殊に桜は水中の毒分を消すと称す、加之春陽三月清流に対して千朵万朵の妍を誇り、町民三春の行楽を擅にするを得るは向島小金井の範に非ずや、之れ元より一門外漢の思つきのみ、当局者にして画策尚大なるものあらば又大に可己只余輩の望む処は実行の急にあり徒らに厄災を憂ひ百年黄河の澄むを待つは賢者の採らざる処

也。

12 第60号1面(大正元年10月1日)

晩稲は全廃すべし

本年度第一回米作收穫予想は五千五百余万石にして開闢以来未曾有の大豊穰なりと称せらる然し是れは二百十日壹週間前の予想なれば元より正鵠を得たるものにあらずるは勿論なりとす而して米作の一大厄日たる二百十日は關東北一体大暴風雨の爲めに當時開花受胎中の中稲等には尠なからざる障害と、水害等の爲めに幾分減収を來したるは事實なりとす、更に愛國種の如き晩稲に至りては其結果の如何なる程度に迄減少すべきかは昨今の処殆んど見当の附かざる状態にあり之れは二百十日以後の氣候俄然冷湿を來し爲めに開花受胎を遅緩ならしめ未だ成熟せざるに、かて、加ひて去る二十三日秋分の大暴風雨に遭遇したることなれば穂摺れ裂傷等の爲めに不成熟に終るもの甚だ尠なしとせず洵に杞憂に堪ざるなり況んや仙南五郡に於ける作付けの状態は依然此の晩稲なる愛國種の七、八分を占め居る有様なるに於てをや、其の被害は推して知るべし之れ等は大局の上より打算せば元より

九牛の一毛だに働せざるべきも地方にありては大なる影響を被りたるものと云ふべし、之れを要するに我が東北の如き比較的氣候冷湿の地に於ては愛國種の如き晩稲は絶対に避けざるべからず、農家もこれらのことは知らざるにあらず、知つて以て敢て之れを為しつゝあるは、必ずや幾多の深因あるに依らずんばならず、吾人の忖度するところによれば第一茎幹の堅固にして風雨に堪ゆること、早稲・中稲に比して收穫の増大なること等は主なる原因なるべしと雖とも我東北頻年の凶歉は農民を疲弊困憊ならしめたる結果、春來未曾有の米価暴騰の爲めに増収を得んとしたること、更に收穫を増大せんが爲め例年に比し一割乃至二割の増肥をなし万一を僥倖せんとしたるも氣候の冷湿は一層結実を遅延ならしめたること等は争ふべくもあらず、されば我が地方にありては比較的安全にして的確なる早稲、中稲を撰み、晩稲は全然之れを避けざるべからず然れども地方近年の作柄は兎角不況にして小作人にありては年貢米を納むれば余すところ僅々のみ、少しにても増収せんと欲するは人情又止むを得ざるに出づ、然らば此際地主側にありても小作米幾分の軽減を断行し安全なる早稲、中稲と、早植とを奨励して以

て自家収入の全きを期す両々相俟て年々来るべき憂苦と損失とを排除し排除し農本国の基礎を強固ならしめんことを望むと同時に晩稲は断然全廃すべきことを勧告して止まざる所なり。

13 第60号3面(大正元年10月1日)

●暴風雨被害 去る二十三日の暴風は午前六時頃より小雨を混じて次第に吹き荒み折柄南風は刻々強烈となり同十時頃に至れば白石町内の如きは街路に石瓦・木羽等其他の破片を飛散し到底屋外に出づる能はざる有様にて孰れも人心恟々として各戸は悉く窓戸を閉ぢ各自の警戒をなす等実に物凄き景況を呈し、正午頃に至れば通行は全く杜絶の姿とはなりぬ茲に於てか白石警察署に於ては各町に警官を急派し一面消防組を出場せしめて各町の警戒を厳にする等斯くて午後四時頃まもは町内少しも油断なく警戒をなし同五時に至りて漸く鎮まりたりき此日各町共多少の被害ありし模様なりしが中にも熊坂製糸場の煙突高さ十丈余のものは根元より倒され又寿丸合名会社、白石製糸業株式会社等にも多少の被害あり其他各所の板塀或は物置等の破損したるもの少なからざる模様なり

越河村の被害(人家二戸潰倒) 同日の暴風にて大字越河村社諏訪神社掌高野小三郎氏宅は杜木杉樹の倒れたる幹枝に圧せられて倒潰し又大字平大戸久五郎宅も同様国道松並木の為倒潰したり其他同村内の道路並木各所約二十本程倒れたり、其他齋川村、大平村、福岡村、宮村等の国道筋も並木十数本潰倒したりしも人畜には幸ひ死傷なかりしと云ふ因に本郡に於て人家の潰倒は白石町三、宮村五、円田村三、齋川村一、越河村二、合計十四戸損傷、家屋九十余戸なりと云ふ

14 第63号4面(大正元年11月1日)

●刈田郡越河消防組秋期大演習
去る二十六日開催の為め田中白石警察署長は佐藤警部補、中島巡查の随伴にて同地に出張午前八時駐在所前に消防夫を召集し一同整列するや組頭の人員点呼を行へ中島主任巡查の被服器具機械の検閲を終りて停車場方面に大演習を開始されたり後町の南方に逆走競技、唧筒使用等の練習ありて後町の中央なる常光寺前の広場に於て田中署長の訓示演習の批評等あり、次て組頭渡邊萬市氏辭職に就き高橋順三郎氏組頭に当選相互の挨拶ありて紀念

撮影となる後慰労会を古山喜平治宅に開催し宴酣にして散会せるは午後二時頃なりし、因に小頭大戸清吉氏は行状方正にして職務に勉励且つ技芸に熟達し満五ヶ年以上勤続せるを以て勤行賞を授与されたり

15 第64号4面（大正元年11月11日）

●白石消防手 岩淵長五郎が多年消防手としての経験上火急の場合に処し蠟燭の屢々転倒して暗黒となり或は提灯を焼く等種々なる危険と敏捷なる行動とを疎止せる実験とにより完全なる蠟燭押を發明し近頃實用新案特許を得て一般に普及せしめんと発売を開始せしが白石消防組へも百数十個を寄贈せしよし洵に消防界に貢献せるのみならず一般の防火上社会に裨益する所蓋し多大なるべし

16 第81号4面（大正2年5月1日）

●福岡村消防組 同組員は従来六十名の定員なりしを此程増員の必要を認め代表者等か熱心当局に向かつて緊急動議の結果当局も又其意を諒し既に之が認可申請中の処去る廿五日愈々認可公認の増員を計ると同時に春季演習を開催されたり、同組は近来非常の發達を來し器具機械

其他被服の買入に百数十円を投し五野上消防取締巡查か誠意斡旋に尽力されたる結果昨今長足の進歩を促せるもの、如し然して幹事諸氏の精勵訓練又其の宜しきを得たる為め這般の演習も亦好成績に終り最早配慮を要すべき点なきまでに進歩發達を遂げざるもの、如く田中白石警察署長か訓示の概要を記せば本官当署赴任以來演習を重

ぬること茲に前後四回一昨年始めて当組の演習を檢閲するに当時一として視るべきものなく寒心に堪へざるもありしが今日此良成績を閲するを得たるは洵に喜ぶべき現象にして轉た今昔の感に堪ざるものあり、而して一般他模範的消防組とも目しべき金線之許の組に比較する時は未だ以て十全の域に達する迄は前途猶遼遠なれば幹部諸子を始め組員は余か意を諒し益々奮勵努力以て最上の成績を挙げられよと約一時間に渉る訓示あり後疲勞会を開催され和氣藹々談笑の裡に解散せるは午後四時頃にてありし、因に消防手細目健吉氏は消防小頭に任命されたり

17 第81号4面（大正2年5月1日）

●宮消防組春季演習 は去る廿四日同町内に舉行されたり來賓としては田中白石警察署長、村内有志者等無慮百

余名、乾宮消防長指揮の下に壮なる演習を開催さるその手練の腕前は唧筒射水の如き命令後僅かに一分二秒にして実施の機敏なる誠に賞賛に価すべく当組は客年紀律訓練衆に卓越の故を以て使用の馬廉に金線一条の允許を許されたる名声を發揮せりたゞ遺憾なりしは被服を検するに二、三の被服は其手入不充分にして中には著く汚損しあるを認む之れらは平素の注意如何に起因するは勿論組員の整頓姿勢も稍や頽廢允許當時に比し甚しき遜色を認むるは本官の誠に遺憾とする処なり、組員諸子それ小成に安ぜず奮励努力以て旧来の悪弊を打破し良成績を奉げて他村の模範的動作に出でられんことを切望して止まずとは田中署長の訓言にして後懇親会に移り午後三時頃解散されたりと

18 第82号3面 (大正2年5月11日)

本郡の大霜害

九分通り被害春蚕全滅

去る八日午後四時頃より温度降下し大降雪あり被害頗る大なり当所附近は九分の被害殆んど春蚕の見込なし各村に於ける被害と其敷模様なれ共此稿を草する迄は詳細の

報告に接せざるも七、八分の被害は免かれざるべし詳細は次号に報導すべし

19 第82号5面 (大正2年5月11日)

●松田式霜害予防器 養蚕家の最も危惧恐怖の念頭を離れずして日夜その予防に焦慮しつゝある結霜季は来りたり如何にして此の被害を免がる可きか他なし蚕業家の一大革命とも云ふ可き松田式燻煙器は發明家松田辰五郎氏が多年苦心慘憺の結果今や偉大の効を奏して実業界に歡迎されつゝあり養蚕家は須く本器を購ひ以て昨年の被害惨況を挽回されんことを見本品は本社代理部に装置しあれば希望者に対して随時供覧を快諾す

20 第83号1面 (大正2年5月21日)

霜害善後策

桑園改良の急務

今回の霜害は刈田郡を中心として伊具、柴田、伊達の諸郡之れに次ぎ北の方宮城、黒川、加美、玉造に亘りて多少の被害ありたるものゝ如し由来霜害は山地のものにして海岸に接したる地方は絶であることなく偶々ありたり

とするも極めて微々たるものなり之れ気温の変化は山地に甚くして山地の気温は昼夜の差常に著しく大変化の起る時は極めて劇烈なるものなり。

世の進むに随ひ霜害予防の方法も夫れ夫れ研究せられて燻煙法、被覆法、散水法等ありと雖も中々実行さるゝものに非ず、燻煙法なども軽微なる霜害に対しては効ありと雖も烈しき霜害に対しては何の効もなく徒勞に帰して其後に行ふものなきに至るを常とす、蚕業は副業とすべき性質のものにして之を專業に営む時は独り霜害の打撃のみならず又氣候の支配を受くること多きものにて不順の氣候に遭遇すれば収繭に違算を来し失敗に終ることあれば山間地方にして霜害の多き場所は余り專業に傾かざるを得索とす、依て桑園の如きも桑麦併用の仕立てを以て安全なる方法とす

群馬県の如きは海岸に遠きを以て往々霜害に罹る県なり蚕業の盛なる地方なれとも比較的桑麦併用の桑園多きは是等の経験より出でたるもの、如し当地方にても今後桑園を改良し桑麦併用とするを利とす

桑麦併用桑園は畦間九尺・株間三尺、又は畦間六尺・株間二尺五寸等地味と地形に依りて其の宜しきを取るを可

とす、仮に前者に随ふ時は一反歩に桑の本数四百株にて一株五百目を得るとすれば二百貫目を得、麦は畦間に四列に播種し群馬県辺の平均收穫二石五斗強大豆を三列に播種し此の收穫一石弱と云ふ当地方にても少しく注意すれば敢て此の收穫を得るに難からざるを信ず此の悲惨なる霜害の打撃を免がるゝものそれ只此の桑園改良の一方あるのみ。

21 第83号2面（大正2年5月21日）

未曾有の霜害

去る九日の霜害は頗る激甚にして之れを昨年の被害に比するときは其区域に於て稍狭隘なるも、被害の程度に至りては最も慘^マ膽^マたるものあり、就中刈田郡は被害の中心にして伊具郡之れに次ぎ白石町東方字郡山、鷹の巢の如きは殆ど全滅の状態にありて一枚の桑葉をも得る能はず昨日までは青々たる桑園も一夜にして全園焦土と化し一葉の青蒼を視る能はざる悲惨の光景を現出せり、されば養蚕家は飼育の見立たざるを以て、止むなく蚕児を投棄せざる可からざるに至れり然して本郡小原村は其最も甚敷ものにして殆んど全滅の運命に陥り村内一の蚕児を

視る能はざる慘況を呈せり大鷹沢、白川之れに次ぎ田田、福岡も亦被害激甚にして宮、齋川共に過半の被害なり、七ヶ宿村は稍輕微にして三割の損害に止まり嘗て昔より霜害を被りたることなき越河村も亦二割の被害を見たるが如き如何に其結霜の激甚なりしかを知るを得べし、されば全都を通じて六割四分の被害にして実に本郡に採りては一大打撃と謂はざる可からず、今左に其筋の調査に依る被害の程度を示せば実に左の如き結果を視るに至る

【本書統計編 表14】

以上は桑園の被害反別及び桑葉の損害額にして更に之れを養蚕の損害即ち収繭の減少額之れが見積額並に桑、繭の損害算出標準を示せば左の如し

【本書統計編 表15】

にして更に平年收穫高を示せば左表の如し

【本書統計編 表16】

以上示すところの統計により其被害の程度を詳知するこ
とを得へし、左れば蚕業をして前途を悲觀し春蚕の飼育
を全然絶望するに至るなきやを憂ひ県当局は勿論郡にあ
りても之れが善後策を講究し専ら回復に努めつゝありて
これに対し県当局は左の方法を指示したり

一、被害激甚にして副芽等の發育を待ち春蚕を飼育する
見込なしと認むるものは刈桑にありては直ちに刈取り
て秋蚕の飼育を奨励すること

一、被害軽く副芽等を利用して春蚕を飼育し得る見込あ
りと認むるものは此の際至急水肥又は汚水の如き速効
肥料を多量に施し若し水肥汚水等なき場合には水を潤
沢に施したる後表土を膨軟ならしむこと但し此場合に
於ては被害の程度を見計ひ梢頭約三分の一を切り去る
こと若し中央以下被害激甚にして副芽等凍死し梢頭の
部分被害軽く発芽を春蚕に利用し得べき見込あるとき
は切らざること

一、催青中に属するものは其卵の生理を害せざる程度に
於て低温となすこと

一、飼育中の稚蚕は其生理を害せざる程度に於て低温飼
をなすこと

一、前二項に依り發育を抑ゆるも猶ほ副芽等を利用し難
と認め更に蚕種の購入必要あるものは、速かに良種購
入の手續きをなすこと

如上の如く県は前後策を示し郡は之れに則り吏員を派し
て桑園の回復及秋蚕を奨励しつゝ、あれば本年の秋蚕は非
常なる勢を以て掃立をなす可く之に依りて春蚕の幾分を
補ふことを得べしと云ひども農家の困厄察するに余りあ
り、独り農家のみならず延て百般の業態に影響する所蓋
し尠少ならざる可し、霜害ありてより以来市中の景況一
変し商況は萎靡奮はず金融は途絶し一般の事業に大打撃
を加へたるは地方にありても稀に視る現象なりとす、之
を要するに余りに蚕業に重きを置きたる結果に非ざるな
きか大に識者の考慮を要するところなりとす、又同日伊
具郡にも烈しき霜害を被り筆甫村の全滅を其最も甚だし
きものとし北郷村の七割五分と大張村の七割之に亞ぎ全
郡を通じて四割二分と云ふ大惨事を現出し之れ又稀有の
被害には目下善後策につき汲々たる有様なりと其他柴
田、宮城、黒川等にも多少の被害ありたる由なり

22 第83号3面 (大正2年5月21日)

刈田嶽に降雪二回

去る十三日は春以来の大雨にて朝来終日降り頻り気温は
非常に低下して四十四、五度を示し甚だ寒かりしに翌朝
刈田嶽を望ば白雪皚々として八宮宇弥治郎辺まで降りて
積むこと三寸余、又十六日にも終日雨降り寒気殊に甚だ
しく翌十七日朝再び刈田嶽は一面の雪に覆はれありて近
年に絶えてなき寒さと雪とを見たり

23 第93号2面 (大正2年9月1日)

暴風雨大惨害

稲田の泥海 家屋の流失 死傷あり
鉄道の被害 列車の不通 数日に渉

這般の大暴風雨は其の区域も仲々広大にして東海道を荒
し漸次北東を襲ひ、宮城、福島を中心として山形に及び
其被害頗る惨澹たるものあり、左れど今は単に本郡内及
附近の惨状を報導するに止むべし。

▲客月十八日 以来連日降雨ありて冷気を催し不案に堪
へざりしが廿六日は朝より終日終夜降り頻りて止む時な
く廿七日朝に至り一層豪雨となり午前八時頃よりは東北

の風さへ加り刻一刻に強く十時頃よりは暴風雨となり暗澹たる状況物凄く何時如何なる事の出来すべきかを氣遣はしめたり

▲白石川の増水 かゝる有様なれば見る見る内に増水して一丈五尺余に達し、昨年欠潰修理せる堤防の甚だ危険なるものあるを以て白石警察署は警鐘を乱打し急を報じたれは鈴木白石消防組頭は小頭以下組員に出場を命し時を移さず、白石川沿岸を警戒せしめたり、一時頃より風力益々加はり細引ヤラの雨は沛然として盆を覆すに似たり昨年の水害に半を落し三千余円の県費を以て本年初夏の頃竣工したる白石大橋も此の水勢に敵する能はず又もや橋杭を浚はれ今は落橋の惨を再びするの最も危険の状態に到れるこそ是非なれ

◎白石消防の活動 此の有様を見るや警戒の警官と力を協せ、風に吹き上げらるゝを恐れ大石を橋上に運び重量を以て防がんと試みたり、三時頃より風雨益々強く水愈々加はる、逆捲怒濤巖を噛で山の如く押し流かされたる防堤の杵、潰家の材木、潰倒せる大樹の無惨橋桁に衝き当ると見る間にワリワリと大なる音響と共に昨年よりは二夕桁多く打ち落されたり

▲田中署長生命を賭し橋を渡る 是より先き田中警察署長は水量の増大するを見、川向なる福山村役場以東長袋より子捨川、深谷方面の稲田は一円の泥海と化したれば其の状況を視察し且つ駐在警官を督励し警戒せしむべく渡橋したるが見る見る裡に橋は一秒毎に傾き掛けたれば両側にありて警官は消防等と協力必至となりて警戒最も厳なり、其間に処し田中署長は白石町の方も危険に迫り来りたるを目撃し瞬時も猶予すべきにあらざると勇を鼓し今や傾斜したる橋上は濁浪を以て洗はれ凄惨極りなき危険を犯し渡り来たり、南岸警戒の警官始め消防町民等は署長とは知らず声を洩して渡橋の危険を叫ぶも応せされば止むなく抜劍して制したるが大胆にも沈着に渡橋し畢れり近き見れば、これなん田中署長なりしかば居並ぶ数百の人々其勇氣と沈着なる挙動には一同舌を巻いて驚嘆せざるものなかりし、かくて同署長の渡橋後僅かに十五分計りにして遂に六十間余流失したり

▲向田郡長 は午前九時頃より郡書記等をして各町村に特派し警戒せしめたりしが自身も亦白石川南岸の堤防警戒の任にあたり全身濡鼠の如くなり偉大の体軀を擁し声を洩して指揮監督されたり

▲水野白石町長の負傷 同町長も廿七日朝来の降雨は甚た掛念なりしものあり全役場員を督して各方面を警戒視察せしめ自身も結果して大橋付近より新町迄の堤防及び六本松堤防をば巡視警戒せし折り飛報あり白石町外三ヶ村普通水利組合大堰の取入口及びひ堤防甚だ危険なりと、氏は踵を巡らし主任書記半田文三郎氏を随ひ現場に趣き深さ股を没する道を漕ぎ或る小川を涉らんとして右足を塵芥と泥土に突込み挫折し歩行困難に陥りしも漸く帰宅臥床治療中なり、希くは前後策忙殺の際速かに平癒されんことを祈るや切なり、半田氏も転倒右手を挫きたるも執務には差支なし

▲白石町の浸水 中町、長町、沢端川筋、鍛冶町、本鍛冶町、有志町は浸水家屋数百戸に及び濁流一面に押し来り膝を没し悪臭を放つ其の惨状甚だし、停車場附近は駅長、助役の役宅は浸水床に達し、最上屋支店、木村屋支店、今井薪炭店等も床下浸水せり

▲道路橋梁の破壊 は其の数夥しく重なるものを挙げれば白石大橋、鷹の巣橋灌漑用の大樋、角田街道齋川橋、郡山関下橋、国道筋なり齋川橋、其他小橋は数知れざる程なるも三沢街道の橋は幸に無事なるを得たり、かくし

て交通の途絶えたる白石町は全く孤立の状態にありき、されど人畜に死傷なかりしは不幸中の幸なり

24 第93号2面（大正2年9月1日）

◎本郡各村の水害惨状

▲福岡村 は字蔵本、鎌先温泉等も多少の被害は免かれさるも稍々軽微なり、長袋・深谷の沖前は白石川氾濫の爲め同村役場下より浸水したりと、子捨川下堤防欠潰国道の松並木数十本を倒し浸水一円の泥海となれり、水田畑作物の被害大なり

▲越河村 は停車場附近の稲田一円の海となり、山崩れ潰家等あり中にも同村字平大槻もよ（五四）は廿七日午後一時頃豪雨中なるも別に異状なかりしに俄然裏山崩壊し同時に居家潰倒したる為め無惨の圧死を遂けたり、隣家なる同人妹半澤ゑんも重傷を負ひ生命危篤なり、又同村字五賀五十八番地和五郎孫佐藤正三郎（六つ）は居宅前の小川に陥り濁流に浚はれ一丁程流れて溺死し浸水家屋二百余戸に及びたり

◎齋川村 は高地に散在せる部落は無事なりしも町端より鹿の子方面は齋川氾濫して濁浪浸入し土砂押入り水田

畑作物の被害甚大なり

●大平村 は国道及鉄道線路附近字八つ森・小柳等は全部冠水したるも人畜に死傷無

▲大鷹沢村 字三沢広土は斎川氾濫の爲め坂谷より平、鷹の巣沖は一円大海の如く一点の青色を見る能はず、全部冠水したれば其被害も仲々尠なからざるべし

◎小原村 は山岳重疊白石川の水源なれば増水甚だ急にして潰家溺死等あり、就中其被害の大なるは同新湯齋藤員衛氏川向の別館間口十五間奥行四間の二階建は廿七日午後二時頃あなと思ふ間もあらせす、俄然基礎の石垣崩壊し始めたれば見る見る内に激流に浚はれ居抜の俣一物をも取出す間もあらせす全部流失したるは洵に気の毒なり之れより約一時間程前に別館に通ずる釣橋（観月橋と稱す）の落橋又実に惨況の極めたりきされど人命に支障なかりしは不幸中の幸いにてありし

又同村追の倉高橋ひで（三四）は村内に処用ありて帰途白石川に架けある追の倉橋にさしかゝるや折柄の豪雨は水勢を増加し来しミリミリつとの音響高く橋と共に流失遂に溺死したるを廿八日午後発見したり

25 第93号2面（大正2年9月1日）

鉄道の不通

廿七日午後一時〇二分白石駅着仙台発宇都宮行列車の將に当駅に着せし頃は非常なる暴風雨にて構内の南端柳町踏切を超えること数間にして線路を浸たし危険云ふ計りなし止なく乗客を各旅館に収容したり三時頃より警報頻々として至り上下共に全く列車の運転を止たりしが電柱の倒れたるものありて電信・電話共に不通となり爰に交通全然杜絶し各駅の状況更に暗黒となりたれば乗客の迷惑一方ならず、午後六時頃より雨止み風稍々穏となりたるも水は仲々に減退せず七時頃となるや風位一変西の風となりたれば空は一点の雲だになく星は晃々たりされと西風吹き荒みて強風となりたれば翌廿八日朝には余程減したり、福島・白石間は廿八日午前七時四十八分着列車より開通し午後には上野・白石間の開通を観るに至れり爲めに白石駅は非常の雑踏にて各旅館何れも満員の盛況を呈したり、猶白石・北白川間、大河原・槻木間、岩沼・仙台間は数百ヶ所の橋梁流失線路欠潰等にて白石駅以北は修繕開通迄には五、六日間を要する見込なるが如し、今回の線路損害は四十三年の水害よりも大にして先

つ白石駅より北一哩上野起点百九十哩余の即ち白石町字郡山と白川村下小倉間斎川河の鉄橋ガードは南岸数十間浚はれたるを以てピーヤは倒壊したる杯重なるものにして容易ならざる工事なれば到底一兩日に開通せられざるは素人目にも瞭なり其他北白川停車場も事務室迄浸水し大河原附近大矢村にも大崩壊あり大河原・槻の木間白幡橋附近も数百間線路浚はれ中田川及び長町広瀬川沿線等の被害大なるものあり、右の有様なれば一時は全く交通杜絶したるも午後にとり電信・電話の開通を見、同日福島、東京等の新聞を観るを得たるも仙台新聞は廿九日も終日来らず白石駅及駅前の雑踏は宛然青森駅と化したるの觀あり、郵便物は白石郵便局管理の許に人夫数百名にて毎日数回大河原に伝送を継続し居れり

26 第93号3面 (大正2年9月1日)

●白石消防の活動 白石川大橋流失したるを以て国道の連絡を図るは一刻も猶予すべきにあらずとなし廿八日組頭以下小頭総出にて廿八日渡船を開始すべく其筋へ出願したれば直に認可されたるも使用すべき船なきを以て白川村津田より借入ること、なし数十名の消防手は川を涉

り或は泳き非常の苦心をなして同村に到り船を借入れ曳船にて漸く廿八日午後四時に到着渡船を開始したるは五時過ぎなりき、昨年の水害には個人に許可したる為め種々の口実を設け暴利を貪りたりとの非難ありたるに鑑み今年は消防組にて出願し義侠的に便利を謀りたるは洵に機宜に適したる処置なりとて大に賞讃を博し居れり

27 第94号1面 (大正2年9月11日)

根本的改修を要す

頻年我が東北に天の災ひすることの何んぞそれ多きや、凶歉、霜害、水害、海嘯等、陸に海に悲惨事を繰返し、疲弊困憊其極に達し、各々其睹に安んずる能はざるは東北現時の状態なりとす、夫れ天災は人力の得て如何ともなし能はざるところなるべきも人為を以て可及的災害の程度を減少せしむることに力を致さざる可からざるなり、河川の修理、護岸工事、堤防、道路、橋梁等の完全なる土木工事を施すこと即ち之なり、本県には北上、阿武隈の二大川ありて、国家と県とは尠からざる費額を投じ修理に努めつゝ、ありと雖とも未だ以て完全なる改修と云ふを得ず、須く此の二大川の修理を以て最も急務なり

と信するものなり、更に支川の氾濫して年々悲惨の光景を現出し、町村民をして失望落胆自暴自棄に陥らしむることなきか、甚だ痛心に堪ざるなり、春來全力を挙げて耕作したる稲田は一朝にして流亡し、霜害を填補せんとして飼育せる秋蚕は与ふるに食なく、桑園を挙げて泥海と化し、祖先伝來の田畑を流失し、或は家屋を流され住むに家なく、父母を喪ひ妻子の溺死を觀るが如き悲劇を演出し呆然自失爲すなきに至りては夫れ何等の悲惨事ぞや、その之れを予防せんとするには叙上諸工事の完全なる施設を要するや頗る急なるものありて存す、支川工事の如きは全く姑息の一時の弥縫工事にして年々同じ事を繰返すに過ぎず、県民として其の睹に安んせんとするも得べけんや、假令は白石川の如き急流にありては年々河川の形状を異にし、机上の数理を以て計上すべからざるものあり、河身は歳と共に埋りて高く、川幅増大し、島を生じて耕地となり、一と雨毎に白石町に迫りつゝありて、其危険云ふ可からず、之れを藩政時代に比するに、急激に水量の増大するは慥に山林の濫伐等に基因するものにして、これに対し相当なる防御を施さざるべからざる筈なるに事實は却つて之れに反し形式にのみ囚はれ復

旧工事と稱して水量の増大することには頓着せず、弥縫のみ事とするが故に出水毎に堤防の欠壞を來すは甚だ瞭易き道理にして吾人の常に嫌厭たらざるものあり、昔片倉家の施設したる堤防は頗る堅牢にして且つ河身を浚渫したる形跡あり、加之対岸の巖石を掘鑿したる等其用意の極めて周到なるものありて、容易に護岸の欠壞したることなかりき、然るに現今之れが設計を爲す技術者の多くは他府県人或は他郷の人のみにして其河流の実状を詳にせず、又その歴史をも調査せず、關係町村とは没交渉にして、単に自家の習得したる数理より割出したる施設を爲すがため年々堤防の欠壞を來し甚大なる直接・間接の損害を被りつゝあり、此危険に頻せる白石町は近き將來に於て必ず流亡の慘害を免かるべからざることを覚悟せざる可からず、今にして百年の長計を尽し永遠の防御を策し、堅牢なる施設をなすにあらすんば吾々町民は安して其の業に服する能はざるなり、之等は一例に過ぎず、豈只に白石のみと謂はんや、沿川の町村滔々然らざるなし、此際県当局は従來の經驗に鑑み姑息的工事を施すことなく大英断を以て百年の災害に備ふるの設計を立て此の歳々來るべき災厄の程度を最少に極限すべきことに努

むべきは將に急務中の急務にして県民も亦一時の苦痛を忍びても年々恐るべき惨害を免かれ其業に安んせんことを望むは蓋し吾人と意を同ふするものあるを信す

28 第94号3面 (大正2年9月11日)

水害に於ける白石郵便局の活動

這般当地方暴風雨被害の惨況は既報の如くなるが白石郵便局長以下局員の活動振り中々目覚しきものであつた、鈴木白石局長が数十日来大河原税務署に開催の所得調査会に出席の爲め毎日出張して居たるも被害の当日は夜来の暴風雨にて天候不穩のため出席を見合せ居たるに早朝より雨師風伯共に刻一刻と激甚を加へ正午に到り橋梁の流失、鉄道の破壊、汽車の不通、交通の杜絶となつた、鈴木局長は予め局員を召集して種々訓示されたること、て各係指揮の下に夫々非常準備に取りかゝたのである、八月廿八日下り便か当駅まで開通された、各便毎に満載せる各種郵便物を引受け直ちに隣局大河原に臨時陸送便を開始すると云ふ順序になつて居るので八月廿九日より九月二日までの間に取扱つた郵便物は実に一万貫目余を上下便共に円満に通送を連絡し完了されたそうな

白石駅以北の各駅は全く交通杜絶されたので乗客は皆当駅に下車滞留の止むなき破目となつた、当町旅館は何れも満員の盛況を来たせるは前号記載の通りなるが旅客と当町の各地方への通信は一に電信・電話によるの外はない、かくて郵便局員は空前の雑踏を極めたのである

今回の惨事に就ては同局長の田畑其他の損害は仲々夥しい多額に昇つて居るそうだが夫れ等の事杯少しも顧慮する暇もない、潮田局長代理を始め局員一同を指導し協力一致、不眠不休の体で少しも挫折するなく一糸乱れず終局まで奮闘を継続されたのである、其監督局よりは妹尾、庵原、土屋、小柳澤の各通信書記交々出張せられ是亦同様督励されたる結果予期以上の好成绩を挙げられたのである

流石に老練の名声ある同局長の事変に際するやり方には、通信局でも感心してゐるそうな

某局員の記者に語りて曰く、今回の椿事は実に未曾有の出来事でございます、『汽車不通交通杜絶、各係員ソレ準備セヨ』と局長からの命令が出来た、八月廿八日下便が到達した、局員総係りと云ふので停車場へヤツて来たイヤドーモ有の無のつて郵便の行囊が黒山と積載されてあ

りました、私共は廿七日から少しも就眠致しませんと眼を擦りながら一息ついて亦下り便午後九時に着く、十一時の上り便に郵便物を積込む、忽ち〇時三十五分の下り便受渡しがある、引き続き午前三時の陸送と云ふ事になつて居るので寸時も寝る時間とは無つたのです、丁度野戦郵便隊の様でございました、我々通信吏員は元より斯業の爲め献身的に働く覚悟であるから何とも致しませぬか局長始め監督局から御出でなされた方々の御陰けで思つたより早く終局を告げたのは喜ばしい次第でございますと話終りてドーと椅子に靠れた……、斯くも昼夜不眠不休数日に涉り職務に尽碎されたる局長以下通信吏員の勇悍を感謝すると同時に諸氏の健康にして益奮励斯業に努力されむことを切に祈るものなり。

29 第94号5面 (大正2年9月11日)

▲七ヶ宿村 這般の被害にて白石川架橋の大字関、滑津、湯原間の各橋流出し廿七日より三十日迄交通杜絶、関より小原村に至る内川橋、横川橋、大小梁川橋、岩本橋全部流失道路破壊せり、四十五年の出水當時に比し三尺以上の増水にて交通全く杜絶し一時関村は孤立の状態に陥

り米穀の供給を欠くに到れり、其後天候の快晴と共に漸次減水したるを以て一組五人にて火急を要するもの限り川越を為せり、

30 第95号2面 (大正2年9月21日)

本郡町村費に罹る被害

這般の被害にて本郡各町村費に属する被害、道路、橋梁、堤防、暗溝、用水路、溜池、水利組合等の各町村別損害は左表の如くにして、道路の破壊は計百五十八ヶ所此の延長七千六百九十九間にして復旧費一万四千五百八十二円を要す、橋梁は百二十五ヶ所にして此延長三百八十二間復旧費五千百六十一円、堤防破壊六十一ヶ所延長二千八百二十八間復旧費一万〇六百八十一円、暗溝九ヶ所此の延長十二間復旧費二百二十八円、用水路九ヶ所延長四百十七間復旧費四千三百八十二円、溜池十三ヶ所延長二百四十七間復旧費一千元等にして、合計破壊は三百七十五ヶ所延長一万一千五百八十五間此の復旧費実に三万六千〇三十四円を要す、其の他県工事田畑の被害収穫区域等を通算するときには本郡の被害程度も亦多大なりと云ふべし

【本書統計編 表21】

31 第98号2面(大正2年10月11日)

内務省技師の災害地検査

水害復旧工事国庫補助申請に関する検査として内務省奥村技師一行来郡、左の日割を以て巡回検査を執行さる、
筈なり

十九日越河、齋川、大平、白石一泊

二十日大鷹沢、小原、七ヶ宿一泊

廿一日七ヶ宿、福岡

廿二日福岡、白石、宮、円田

廿三日遠刈田、円田、宮、白川

32 第106号1面(大正3年1月11日)

災害復旧工事

速に起工すべし

最近数年間に於て雨師水伯の惨害頻りに臻り昨年更に獐猛なる打撃を受け地方百般に影響する極めて大なるものありき、之れが復旧に就ては当局は勿論地方有志も夫々画策するところありて県下百年の長計を謀り根本的治水

の実を挙げんことに努力されたるは大に多とするところなり、然して復旧工事は百数十万を要するを以て国庫の補助を仰ぎ其の決定を俟つて工事に着手せらるべしと聞く、今や其補助額の決定せるにも拘はらず災害後半歳の久しきに渉るも未だ其の工事緒に着きしを聞かず、何んぞ夫れ緩慢なるや、復旧工事元より微なるものにあらず、況んや根本的災害防御工事計画は更に大なるべしと雖も斯くの如く徒に往再遷延するに於ては交通の便を欠き産業の発達を阻害し疲弊せる農民は益々困憊を極め其の累、商工業に及ぼし経済上不賑の兆は殷鑑遠からざるものあり、今や互寒の候連日の雨雪は窮民更に窮乏を告ぐるに至る、凶作の累はやくも吾人に肉迫するの今日其の禍を蒙る只に水害沿道の地方人のみに非らず農家一年の業を了えて漸く閑散副業の時季至るも彼等は資力に乏しく貯金収米は彼等を糊口するに足らざるの状態、然かも働かんとしても本累と頼む耕地はあはれ雪氷のとどす所となり如何ともすべからず此の機会を利用して速かに災害復旧工事に着手し、一は彼等拱手の窮民救済をはかり、一は数年来の災害を此一挙に防迫し地方百年の計をはからば其の利其の仁必ずや甚大なるものあるべし、労

働者閑散の時季を利用せば工費の節減を望み得べく一方は生活の資を得、凶作救済の実は望まずして行はるゝものといふべし。這般当局は本郡災害工事費十八万円を計上せしと聞く、願くは急遽之が着手を實行せられ此危急に瀕せる窮民をして十八万円の雨露に地方労働者を潤はしめんことを切望するものなり、若し夫れ今日閑散の時機を逸せば漸く農業多事ならむとするの時、畜に工費の嵩むのみならず窮民救済の実を挙ぐる上に於ても夫れ或は無意味に終るなきやを疑ふ。

爾來県工事は緩慢にして徒に形式に囚はれ荏苒日を閲するやの誹は毎度吾人の耳にするところなり、其の工事の如きも之れを橋梁に見るも殆んど毎年の出水に大なる破損を見る到底往時の比に非らず。之れ工事費の少額なる為めか監督者或は請負者の罪か我之を知らずと雖も破損する事文は確かなり、余命幾何もなき橋梁に大金を投じて毎年遮断の厄に会す、愚の極めといふべし、其他の工事比々皆然らざるなし今回こそは当局者畢生の手腕を振ひ周到なる設計の上に着々工事を進め爾後此等忌むべき嘆声なからしめんことを望むと同時に此一举兩得たる大工事をして、凶作地の窮民救済事業として一日も速かに

起工せられんことを吾人は切望して止まざるなり。

33 第114号4面（大正3年4月1日）

●慰問袋の配布

本県水害凶作罹災に関し各地より寄贈の慰問袋は米穀・雑食・衣類・学用品等約一万二千袋に達したるより、県にては町村役場を経て配与する事となしたり、配布袋数は左の如しと

- 配布袋数△仙台一〇九 △刈田二三七 △柴田五九九
- △伊具一、七二四 △亘理四四四 △名取一、〇六五
- △宮城五一八 △黒川一七〇 △加美一八九 △志田
- 五八六 △玉造四七 △遠田一、七三五 △栗原三二
- 六 △登米一、〇七一 △桃生一、九二七 △牡鹿七
- 三七 △本吉六四七 △合計一二、一三一

6 農業

1 第1号8面(明治44年2月11日)

●四十三年度の実収穫 稲作は古今未曾有と称すべき不順の天候なりしかば実収上多大の損害を被りたるべく、其筋の予想は四千七百余万石と報ぜられたるも四十二年度に比し二割、平年度に比し一割五分の減収なりと云ふ説あり

年次 実収石数

四十年 四六、三〇二、五二〇石
 四十一年 四九、〇五二、〇六二
 四十二年 五一、九三二、八三一
 四十三年 五二、四三七、六六二
 平均 四九、九三一、四二〇

此実収高は各前年の数を示す

正米 正米は爰元保合の姿にて暫くは大なる変動も無かるべく相場は依然据りとして差支なからんか而して東京市場との鞘皆無の折柄なれば如何に水車を利用する我白米も東京輸出は不引合なり、然れば目下の輸出先は重に

三陸沿岸に供給し居る迄でなれば至つて閑散の商況なり

地廻玄米 一五、二〇〇
 相馬米 一五、三〇〇
 羽前米 一四、五〇〇
 陸中米 一四、七〇〇
 地廻糯米 一七、〇〇〇
 下総畑糯米 一四、九〇〇
 地廻大麦 六、二〇〇
 下総大麦 六、〇〇〇
 常陸大麦 五、九〇〇
 地廻大豆 九、八〇〇
 仙北陸前大豆 九、八〇〇
 地廻小豆 一二、三〇〇
 北海小豆 一一、五〇〇
 朝鮮小豆 一一、二〇〇
 牛莊小豆 一一、〇〇〇

○白米標準相場 一等一七五厘 二等一六〇厘

三等一五五

同糯 一等一八五厘 二等一七五 搗麦一一五厘

○麦粉 麦粉は需用時季に向ひしも原料小麦の沸騰にて

著しく活況を呈せり而して目先猶高模様

別白印 四貫五十目 一、八八

白一印 同 一、七八

白二印 同 一、五八

天印 六貫目入 二、六〇

地印 同 二、五〇

糠 十貫目 二、〇〇

石油 チャスター新鑑

新箱 三、九〇

虎印 新裸 三、五〇

生糸（小締） 關谷商店報

一金盃 四九〇、〇〇

一姫達摩 四八〇、〇〇

一頭馬 四六五、〇〇

一二頭馬 四四五、〇〇

一三頭馬 四五〇、〇〇

一地遺優等品は羽二重原料好望にして四百六十五円より

七十円まで

熨斗糸は七十五円

絹繭優等品は五十掛見当並四十七、八掛見当

春玉繭二百二十五円 秋玉二百五十円

真綿十貫目二百円

温麵 原料高騰の爲め上向の景況を呈し目下の成行きは

機械製一駄に付二十二円より二十一円まで 手製一駄に

付二十二円五十銭拔なし

2 第19号2面（明治44年8月1日）

●郡内に於る農作物景況

郡内に於ける農作物の一般より見る時は景況良好にして而かも目下降雨期なるにも拘はらず温熱高きを以て繁茂頗る好く、郡は間断なく農業技手をして巡廻せしめ以て害虫の駆除監督其他の指導に努めつゝあり、而して本年は前年に比し螟虫の発生最も少なきは苗代時代に於て発芽採卵に努めたるの結果にして今や稲作は二番除草を了り畑作の手入に従事しつゝありて已に天候も回復したるを以て本年の農作は一般に良好の結果を見るならんと思慮せらる

3 第19号2面(明治44年8月1日)

●郡農事試験場の稲作試験

郡農事試験場の稲作試験は早植・晩植及肥料等に付き試験を為し、殊に本年は小柳津式燠炭試験を為しあるにより農家は実地に就き參觀するは尤も必用にして尚同試験場にては野菜・養豚・養鶏等成績の見るべきもの多きを以て一般農家は実地に就き以て参考に資せらるべしと

4 第26号2面(明治44年10月11日)

◎本郡米作概況

米作概況は天候概ね順良にして二百二十日前後に於ても此の障害なく経過し只近日に至り多少陰湿に傾きれたるもの、如きも気温適度を保ちたるにより晩稲と雖も登実不良ならず故に一般の景況を見るときは第一回予想高に對し尚二、四五五石の増収あるものと予想せらる、其作況割増左の如し。

早稲六分増 中稲六分増 晩稲七分増

にして尚予想高を挙げれば

予想高三四、四六一石 前年実収高二二、一七八石

前年作二四、一三五石

前年に比し五割五分増 平年に比し四割三分増

5 第42号1面(明治45年3月21日)

米価騰貴と養蚕

米価の昂騰は今や社会の一大問題として当局將又政治家・実業家も大に之れが講究の歩を進めつゝあるもの、如し、然れども物価の昂底は単に人為を以て左右す得べきにあらざるも幾多の複雑なる深因ありて存するなるべしと雖も外国米輸入税の如き朝鮮米移入税の如きは慥かにその一因たるに相違なかるべし、吾人は我邦人口の増加率と米穀の生産額とは恒に需用・供給の均衡を失し早晩突飛なる相場の出現すべきを予期し関税の絶対不可なるを論じ之が撤廃を主張したりき、然も今や事實は歴然として証明与ひたるにはあらざるなきか、或は輸入税の引上げを以て農業保護政策に出でたりと云ふも、そは大なる誤りにして却て農家を困厄に陥れたるものと云ふべきなり、米価の暴騰は大農則ち地主たる一階級の獲得するところとなりて小農は益々窮地に陥り其の余弊は惹いて産業の発達を阻止し、輸出貿易の減退を惹起し国家経済に憂ふべき陰影を印するの徴候を顕しつゝあるに

あらずや、然らば此際断然関税を撤廃し以て調節を得るの一端と為すは当に焦眉の急なるべし、或は此際関税を撤廃せば徒に見越輸入商人の腹を肥すに過ぎずして直接需用者に何等の影響なかるべしと云ふものあらんも大局の上より打算せは如斯枝葉に拘泥するの要なくこれ則ち米価の調和を謀るべき捷徑なればなり、吾人は速に関税の全廃しべきを主張して止まざる所以なり

而して農家の一大副業たる養蚕期は当に一ヶ月の後に迫れり、而も国家経済の主要貿易品たる生糸を産出すべき中農以下の多数養蚕家は果して其の準備ありや、米価の昂騰は労銀の騰貴となり物価の騰貴は経費の昂進となり今日の糸価を以てしては到底引合ふべくもあらざるは何人も首肯するところなるべし、殊に多数の雇人を使用する養蚕家にありては大に考慮を要すべく、況んや資力に乏しき小養蚕家は自家の食料に齷齪しつゝ、あるのときに於てをやされは大小の養蚕家を通して幾分掃立を手控ひ是れが為めに桑葉の過剰を来し価格の暴落を見るに至るや必然たり、されば何れにしても農家の損失となる勘定なれば米価騰貴の反響は農家を利するところなきのみならず、寧ろ農家を疲弊せしむる因をなし之れが為に蚕業

の發達を阻止し惹いては商工業の不振を来し国家経済に至大の影響を及ぼすことは蓋し尠少なからざるべし、識者須く是れが救済を策し調節を得るに努むべきは將に焦眉の急なりと信ず。

6 第51号1面（明治45年7月1日）

未曾有の米価騰貴

昨年十二月中旬より棒立の昂騰を持續したる正米は絶えず昂進して殆んど底止するところを知らず、例年なれば多少引き緩むべき時季なるに更に崩れざるのみならず未曾有の珍値を現出したり、然も前年五千百六十万石てふ豊作を得たる正米が如何なる事情に依り斯の如く強硬を以て押通したるか実に不可思議千万なりと云ふべきなり、

之れが原因に就ては為政者及当業者等も屢々研究を遂げられたるも未だ以て正鵠を得るに至らず依然不可解の裡に此の空前の暴値を觀るに至りたり、然れとも事茲に至れる原因は種々あるべきも要するに先年米価の安値を示したる時に於ては政府は農業保護の政策より出て外米の関税を引上げ代用米の輸入を阻止したると、一つは此の

米価安は遂に粗食者の口を贅し不知不識の裡に消耗し然も一面人口は年と共に増加せる折柄端なくも一昨年の水害及不作に遭遇したる為め忽ち供給不足を告げ茲に濫費の結果は古米の欠乏を来し新米を早食せしめ延いて思惑を増長せしめたるものにして折角の豊作も遂に調節を破るに至りたるは、一は為政者の失錯とは云えそも又曩の米価安は徒に口を贅して警戒せざりし結果に外ならず、而して政府は有らゆる調節策を竭し外米関税の引下げを断行したるも相場は却て毎百斤三、四十錢方の引縮りを見るに至る、若し夫れ昨年度の收穫が果して五千百六十萬石なりとせば收穫後未だ半歳をも経過するやせざるの今日早くも不足を感じる迄に消費されたりとも思はず、今仮りに昨年收穫米を十月より早食せるものとせば今日迄で約八箇月間即ち三千二百萬石を消費したる勘定なれば尚ほ千九百六十萬石の殘存米のあるべき筈なり、而して新穀迄今後尚四箇月あれば千六百萬石にて足る差引尚三百六十萬石の剰余を来す割合なり、這は元より仮算にして正鵠ならざるも兎に角此上前年の早食に反し外米及麦等の代用食を以て多大の食延し行はるべく、況んや本年の麦作は十數年来の豊作にして目下盛んに收

納中なるに於てをやされば足らぬと思へる本年の端境は或は案外の剰余を見るにあらざるか兎に角本年は未曾有の年柄だけに一時は市場は勿論産地と云はず地方商人と云はず偕ては当業者以外のもの迄も思惑を試むる等隨分一時は思惑熱旺盛を極めたるが棒立の昂騰は数度の暴値を示したること、て、之れ等は直頃と時季とに警戒して大部分は手放したるも残るは所謂大地主にて当地方の地主は余り多からざるも北陸・関西地方の之等貯蔵米は追かに尠からざる模様なれば今後青田の良好を眺むるか土用天候の良順にして豊収の見込立たば喰延しと相俟つて端境には意外の崩落を見るに至るやも知るべからず、然どもそは数月の後にあり今や米価の昂騰は漸く生活難の声を高め甚だしきは小学児童の休校するものさいあるを報じ来る実に由々しき大事にして大に講究を要すべき社会問題たるべし、米価の騰貴は教育に産業に其他種々なる方面に向て如何に痛切なる影響を与へ居るかを窺知するを得べし、当局者及有識者よ須く之れが救済を策すべきは正に焦眉の急なり、政府者も又此際外米関税の如き譬ひ其効果の少なきにもせよ米価調節の根本策に於て区々たる税額に拘泥するの時にあらず断々乎として撤廢

を執行すべきものと信ず

7 第54号3面（大正元年8月1日）

○本県農会主催 園芸講習会講師として盛岡高等農林学校教授農学士中村鼎氏を聘し、七月三十日午前八時より本郡宮小学校に於て（講習科目桃）に付き講演されたるが同村は昔より桃の産地丈けに聴衆頗る多く非常の盛会なりき

8 第62号1面（大正元年10月21日）

農村の衰微挽回の急務

文明とは何ぞ人權を尊重し生命財産の安固を計り各己の生活を豊にし国力を充実し国權を伸張する是なり、然るにその文明が都会にのみ發達して農村日に疲弊し少しく凶作に逢ひば直ちに救済の必要起り当局及び有志の補助に義捐に意外の手續を煩すに至る、近く数年の前瀕々此事あり其創痕未だ癒えず農村疲弊の慘膽（ママ）たるもの痛心に堪へざるなり、抑も都会の繁榮は農村に依りて維持するものにて農村は枝葉にして都会は其の根幹なれば枝葉枯れて其の根幹全きものは是れ無きなり

然るに村落の本業たる農事本業に於ては夫々の機關も備り当局に於ても極力奨励を講ずると雖ども遺憾ながら未だ十分の功を奏するに至らざるは農村勞力の欠乏と資力の足らざるに依る故に、第一に此の二欠乏の原因を救済せざんば如何に力を尽すと雖とも木に依りて魚を求むるが如く又百年清河を待つが如けんのみ、然らばその二欠乏は何に依りて来るかと云へば農間の副産業無きの一原因に在り、従来は何れの村落にも多少の副産業ありしと雖とも近來都会工業の發達に依り旧式の手工は敗者の地位に立ち販路円滑ならずして収支相償はず自然減少して農間空手徒食に苦しみ、去つて他の都会に就き業を求むるもの年々多きを加ひ農村終に勞力を減じ、且副産業減少したる結果資力の欠乏を來すに至る故に農村の發達を計るは一に副産業を起すにありと断言することを得べし。然らば農村に副産業を起すは如何すべきやと云へば地方有力者團結して産業組合を起し極力組合員を指導奨励して生産に努力するに在り、今日農村の資産者、有力者の風を見るに自家の生計の裕なるに安心して紳士を氣取り安逸を貪るの風潮を為すは文明の余弊とは云へ実に寒心に堪へざるなり、産業組合は該組合法の有るあり又今や

既成の組合の実績を挙げつゝ、あるものあり茲に贅するを要せざるなり。

9 第64号4面（大正元年11月11日）

●本郡稲作々況 本郡稲作々況の思はしからざる事は既報の如くなるか、中にも越河村の如きは甚だ不良にして平均五分作位の模様なりと云ふ、されば地主と小作人との間に種々の交渉ありて苅取りも自然手後れとなり其他白石、福岡・大鷹沢・大平・斎川の各村等をも七、八分作にして小作料等に就き同様夫々地主との間に折衝を重ね実地見分の結果刈分け或は小作料の減額等を為すもの尠からざる模様なりと云ふ

10 第73号4面（大正2年2月11日）

米作不良と町村民の副業に就て

在讃岐 大槻寅次郎

近年百般の事物向上発展の結果町村経済の膨張は日露戦争前に比し、実に数倍の増加を見るに至りたるに付ては大に緊縮を要するは何人も唱道する処にして予は亦緊縮論者に一人である、我東北の如き頻年の凶歉は町村民を

して疲弊困憊其極に達し、殊に中民以下にありて一層其甚敷を觀る、町村財政の前途も亦憂慮に堪へざる次第である、之が救済に付ては当局者に於ても最善の方法を攻究せられつゝあるに相違ない、又町民各自も夫々計画せられつゝある事と信ずるか、之が救済の一方法として此際町村民に対し一般的副業を奨励するは最も急務中の急務であると信ずる、然らば町村民自衛上如何なる仕事は副業として最も適するか、是れ諸君と共に大に研究を要する点である、予は茲に各種事業中尤も簡易で一般的で前途有利のものとして紹介するのわ^マ

▲麦稗真田事業 を措きては外にあるまいと思ふ、是は読者諸君も知らるゝ通り夏季には欠くべからざる麦稗帽子の製作原料となるもので作業は甚だ簡易にて何等の装置も何等の機具をも要しないで一般的で販路は内地は勿論外国輸出品である、そして婦女子の手仕事に尤も適し苟も自由に動作し得るものは盲者と雖とも出来るのである、又原料は普通の麦稗より採取するもの故極めて平易である、本邦中麦稗真田を産するの地は香川県を以て第一となし高知県之れに次ぐ、岡山、愛媛、徳島の三県も多少の産出あれども未だ誇るに足らずと云ふ、本県でも

明治三十二年頃までは全県を通じて製造販売に従事する者は僅かに幾十人に過ぎなかつたそふだか固より有利の事業故其後長足の發達をなして今日にては全県に亘り製作せざる家はなき迄に盛境を呈するに至り、本県物産中第一位を占めて居ると云ふ以て如何に其盛大であるかを推知するに足る、県当局者に於ても大に奨励して居る予は当地に来て第一番に驚いたのわ

▲小学校生徒の練習 である、毎日一時間宛此作業を教授して居る、学校で生徒が製作したのを売却して得た金額を全部挙げて其学校の基本財産にするそふだが一ヶ年の製作品販売高は一学校のみでも実に数百円の多きに上ると云ふ如斯毎日教授せられた児童等は退校後自ら教師となりて家内中は勿論近所隣りの者等に対し教授すると云ふ。(続く)

11 第74号2面(大正2年2月21日)

米作不良と町村民の副業に就て(続)

在讃岐 大槻寅次郎

▲普及力の急激 なる事は今日の如き盛大をなしたるを見てわかる、此方法は小学教育上如何なるものである

や十分攻究した上でなければ吾人門外漢云々し得ざれども一は以て自家生計の補助となり、一は学校其もの、經濟上に多大の關係あり一挙兩得頗る興味のある事柄ではあるまいか、特に感ずるのは一般商家及農家の妻女等が雑談中でもまた子守する子女等が子守しながら往来で之を編みつゝ遊ぶと云ふ有様で東北地方の如く冬季徒らに炬燵の中で馬鹿話をして居る者は一人もないと云ふてよい、斯る次第であるが故に昨今の如く米価の暴騰で生活難を絶叫して居るときでも独り当地方のみは此の副業のお蔭で比較的活気がある総ての税金なども滞納者殆んど無いそうである、是れ畢竟当局者に於て勸業奨励指導其の宜敷を得たるに基因するものに相違ないが町村民に於ても副業の忽諸に付すべからざる事を早く覚醒した結果ではあるまいか、故に予は大正新年の初めに当り町村民に向つて在来のものに対しては百尺竿頭尚一步を進め大に向上發展を勧告すると同時に此の有利なる副業を普及方に付き当局者に望むと共に町村民の奮起実行を切に希望して止まない次第である、従て此の事業の普及方法及作業の順序等に付て述べん

▲副業としての麦稈真田事業 世間からは余り注意を惹

いてゐないが今や我が輸出貿易品の重要な位地^マを占める様になつたことは前に述べた如く、乃ち大正元年の輸出貿易品の大関なる生糸が一億五千余万円、綿織糸が五千四百余万円、羽二重が二千七百万円、銅が二千五百万円、石炭が二千万円、斯うして此制帽用麦稈真田が実に一千七百三十三万八千余円の巨額に達して居る、彼の国産といはれる製茶の如きは此の真田の次位に落ちて一千三百四十六万余円となつた

▲麦稈真田輸出激増の原因 は全く志那革命の影響であるそうな、明治四十四年度には僅か六百卅九万円^マ六千円であつたが斯く躍進したのは言ふまでもなく隣邦人の断髪である、素頭では居られないからスグ帽子が必要だ、そこで制帽用の真田の輸出は更に更に激増する事となる、二億の人口を有する彼の広大なる民国人が断髪するとなると此の貿易品の前途はますます有望である、実業家は大に茲に留意すべきことである

▲制帽用真田の種類 は澤山あるが其中普通行はる、を、四麦、大七角、中七角、七角、五角、四角合せ四麦五打、六打等なりとす、されど此等の編み方は実地に就て練習するにあらざれば了解し難きが故に茲には略すこ

とにする。

▲麦の収穫に対する利害 此麦稈を得んとすには普通に刈取る時期より一週間位前に上の方の葉がまだ少し青く茎の袴がビタリと茎を包んで居る時分が一番よいのである、然し此時分には麦の実がまだ十分に成熟して居ないから、麦の収穫から言ふときは一割方は損だ、併し実其もの、収穫は少ないが稈の方からの収入は多くなるから結局稈を取る方に重きを置くを利益とする

▲品質の良い稈の収入は一反歩三十円 にもなると云ふ、此外に麦の収穫は普通より幾分か少ないけれど相当にあるから一挙兩得である、コンナ事を知らない地方では麦の稈をむぎむぎ焚いて灰にして仕舞ふたり甚だ不経済のことをやつて居る、殊に編み方細工を上手にしたら、一反歩の麦稈真田の総収入は実に百円乃至二百円位になるそうだ、雪の深い寒さの期間の長い東北地方民の副業としては尤も適するのである、以上は当業者に就て調べたものだが尚此上諸君と共に大に研究して普及させて見たいと思ふ、予は職務上乍遺憾十分の事は出来ないが、奮て研究材料の報道に勤むるから諸君に於ても世の先覚者となり奮励を望むと同時に当局に於ても本事業の普及

方法を講究せられん事を切望して止まない次第である。
(終り)

附記近々中に麦稈真田数種貴社まで送附すべくに付一般希望者諸君の観覧に供せられ度候

12 第81号2面 (大正2年5月1日)

農民の天職

在讃岐 大槻寅治郎

▲神聖なる農業 に従事するものは動もすれば自己の業務に対して軽蔑する嫌があるやうである、農業は決して左様に軽視すべきものではなくして最も神聖なる職業である

と云はなければならぬ、試みに見よ農家の如く営々として二六時中勤勉して居る者は他にはあるまい、そして其の生活は至極質素で此の奢侈をも冀はないのである、斯の如き職業であるから農民とても少しも金儲けをなさんとして種々の企業に手を染める事になれば、必ずや其産を失ひて仕舞ふ様になるのである、之に反し眼中金銭なく唯農業其れ自身に全力を挙げて尽す事になれば金も溜り産も出来るのである

▲射利心を起す勿れ 而して同じ農業の中でも少しでも

射利的性質を帯ぶるものは農業としてそれだけ真摯を欠いて居る、だから養蚕の如く何ちらかと云へば容易に金が儲かつて且つ比較的はやく金になるから養蚕の盛んなる地方は多くの金を作り産を拵へて居るに相違ないと考ふるのである、が実際はそうでなくして養蚕の盛なる地方位借金の多き処はないそうだ、仮令ば信州及埼玉県の如きは養蚕に従事する者は殆ど悉く借金で困窮して居ると云ふ、白石附近の村落でも養蚕をやる様になつてから蕩産者が多い様である、と云ふのは一時に金の顔を見るからつい思はず財布の底が軽くなつて居るのも忘れて散財して仕舞から借金の上塗をする様なものである

▲誤れる農業教育 斯くの如き有様であるから教育者にありては農民に最も適切なる教育を施すやうに努める事が緊要である、然るに今日の教育なるものは徒らに虚栄心を高め射利熱を高むる傾向が見へる、であるから農家の青年にして多少なりとも近代的教育を受けた者は悉く農民たるを恥自ら農村を去るに至るのである、其結果よし農村を去らざる迄も如何にもして一攫千金の富を得んとし或は相場に手を出し或は無鉄砲な商買マヤなどをやるので、祖先伝来の田地は瞬時にして之を烏有に帰せしむる

のである、斯の如き实例は農村に多く見るのである、然るに教育ある青年にして農業の神聖なる所以を知らず徒らに俗悪なる生活に憧憬して顧みる処がないと云ふに至りては

▲農村の荒廃せるのも無理からぬ次第であると思ふ、夫れ故に今後農業教育に従事するものは此点に留意して輕佻倖薄なる俗論に迷はざる、事なく、農民はどこ迄も其天職を重んじて国家の原動力たる所以を自覚し最も真面目に農業を奮励する事を要する次第である。(終り)

13 第85号2面 (大正2年6月11日)

農村救済策

東北地方は将来農・工・商孰れを本位とすべきかは研究問題として暫く之を措き、現今疲弊せる我東北農村を如何にせば富強ならしむべきかは熟慮すべき実地問題なり、農村疲弊の源因に就ては種々議論あれど我東北地方の現状に鑑み大に寒心すべきものあり、東北人は由来バンカラにて気を好まず一山百文の質朴の風ありて頗る宗教的性格を有す、然るに近來社会の風潮に伴れ祝福されたる田園生活を厭嫌し市都生活に恋々たるもの夥し

きに至れり。欧米の社会に於ては甚だしく市都人口の膨張率高度を極め社会問題として重視されつゝあり。我東北地方も亦此世界共通の風潮に傾趨する止むなきと謂ふべし、何が為に人心は市都生活に向ふか、是れ田舎に於て生計の道乏しきが為ならん、例へば町村に於て製造小売商せんに原料に乏しく、又來客は少なく到底収出相償はざるを以て止むなく一家を挙て市都に出に奮闘すべく余儀なくさるゝなり。又交通機関の便宜は町村に於ける商店を衰微せしむる一因たらずんばならず、労働者も亦町村に於て年中仕事を得ざるが故に勢ひ都会に出稼せざるを得ざるなり、斯の如くにして地方人は潮の如く都会に集注する現状なりとす、之を農村に觀れば如何從來忠実に能く父祖の事業を守り真面目に鋤鋤を執り来りし農民殊に青年男女は其神聖なる労働を嫌惡し俸給生活を恋ひ我も官吏たり、学者たらんと妄りに高き理想を懷き都会に出るに至れり、而して彼等は天然の美に養はれたる温從質素の性格もあはれ虚榮浮薄の風潮に化せられ、素志を貫徹するところか遂に落伍者となり不良青年となり国家の厄介者たるもの夥だしきにあらずや、或は事情許さずして都会に出る能はざるものは空しく市都を夢みて

握る鋤鋤に力入らず益悲觀の境に沈むなり、是れ農村疲弊の主因たると云はざるを得ず、誠に国家将来のため憂慮に堪へざるなり。

然らば之を救済すべき策如何、予は河北新報社説の農村教育に大体に於て賛同するものなり、農村の青年男女をして農事の智識及び趣味養成せしむるの必需なるは言を俟たず、其方法として農事講習会或は通俗教育皆可なり、されど血氣の青年男女の進歩開發的精神を慰撫すべき娯樂の設置も亦必要なるは確信す、河北記者は講談師を利用して農民に慰安を与ふべきを論ぜりと雖も、予は寧ろ其に伴ふ弊害の大なるを杞憂するものなり、是に於てか期待すべきは地方青年団を奮起せしめ彼等の使命を自覚せしめ精身修養に一増の熱誠を注かしめんことを切望す、即ち智識を広め道德を高め高潔なる娯樂を以て親睦を計り、地方農村に於て青年男女は樂みて其業に従事するに至らしめんとするに在り、農村の疲弊救済策は近く勤儉力行主義にのみ拘泥せずして遠く根本的な精神修養に努力すべきなり、敢て地方青年団当事者の猛省を促かさんとす

14 第85号2面 (大正2年6月11日)

○刈田郡の畜牛検査 は去る三日より来る二十一日迄の間に於て検査を施行さる、予定なるが本県警察部よりは技手赤間孝氏監檢畜牛の結核病に就ては熱心検査を斷行さるべしとなり

15 第90号2面 (大正2年8月1日)

● 本年は豊作疑ひなし

本年の稲作状況は概して良好にて本郡にありては近年になき發育良好なるが少しく虫氣のある模様なるも害を及ぼす程にもあらず、今後氣温高く天晴だに打続かば十年以来の豊作なること疑ふ可からず、殊に本年は当局の奨励と農家も亦早植の利なるを覺り例年に比し五日乃至十日位早かりし為め稲の發育大に佳良を呈したり、除草も例年よりは手廻りたる模様なれば出穂も早かるべし、而して今後の氣候激變なく適順なれば意外に豊穰なるべし

16 第91号2面 (大正2年8月11日)

● 大暑に於ける稲作の状況

農商務省農事試験所及全国農事試験に於て七月二十三日

(大暑)に調査せる稲作は概して良好なるが其の景況を記せば左の如し

- ▲良 東京、神奈川、長崎、茨城、栃木、三重、静岡、滋賀、岐阜、長野、宮城、岩手、青森、山形、富山、広島、山口、徳島、高知、佐賀、宮崎、鹿児島
- ▲通常 東京本場、京都、兵庫、新潟、埼玉、千葉、奈良、愛知、福島、福井、石川、島根、岡山、熊本
- ▲稍不良 畿内支場、群馬、秋田、香川、福岡
- ▲不良 九州支場、陸羽支場、北海道、和歌山、愛媛
- ▲未詳 大阪、山梨、鳥取、大分、沖縄

17 第91号2面 (大正2年8月11日)

● 本年麦作の良好

天候順調に復せしめ

去月廿三日(大暑)に於ける農商務省の調査に依れば本年麦作は冬季低温乾燥に失したる地方多く、麦類の生育を遅延したるの嫌ありしと雖とも、爾後概して天候順調に復したるを以て作柄頗る佳況を呈せり、然して同農事試験場及全国農事試験場の調査による麦作成績は

- ▲良 東京本場、九州支場、東京、京都、神奈川、兵庫、

新潟、埼玉、群馬、千葉、茨城、奈良、三重、静岡、滋賀、岐阜、長野、福島、岩手、山形、広島、和歌山、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、熊本、宮崎、鹿児島

- ▲不良 畿内支場、陸羽支場、栃木、愛知、宮城、秋田、福井、石川、島根、岡山、山口
- 北海道、大阪、山梨、富山、鳥取、大分、沖縄は未詳なり

18 第93号1面 (大正2年9月1日)

本日は二十日

本年稲作の概況は挿秧後氣候適順發育頗る佳良にして全国を通し平年作以上の収穫疑なかるべく期待されたりしが、七月下旬より氣候頓に一変し、早魃の地方あり、或は降雨頻に到り気温下降し冷気の襲来せる等区々にして未だ俄に樂觀を容さざるもの、如し、早魃に苦しみたる地方は九州・四国、中国・関東等の一部にして其区域も左迄大ならず、然るに去月十八日以来適度の降雨ありて之等早魃地方を霑ふしたれば涸渴せる水田も為めに生色を呈するに至りたるは洵に至幸なりと云ふべく、古来早魃

の年には凶歉なしとの諺に洩れず、必ずや充分なる結禾を觀るに至るべし、特り我が東北は頻年雨量多く氣候寒冷にして本年の作柄も洵に氣遣しきものあり、挿秧後分蘗力に最も大切なる半夏土用の照込充分ならずして最高温度室内八十五、六度を超えず、甚しきは七十五度以下に下降したる冷氣の日さへありて、出穂期を遅緩ならしめたり、其の後土用明けの頃より気温稍々昂上し大に見直したるも客月十八日以来降雨連日に亘り気温降下し、晚稻の如きは未だ出穂を視ざるに早くも二百十日の厄日は到れり、而して本郡に於ける一週間前の予想高を示せば

本年度	三万六千五百三十六石
前年実収高	二万七千二百五十一石
平年作	二万七千二百七石
増減歩合	前年に比し三割四分増

平年に比して三割四分増

以上の如き良好なる予想なりしも去る廿六、七日の大暴風雨と水害とは早稲・中稲に尠なからざる障害を与ひ、晚稻は僥倖にも出穂せざる為め被害の程度は前者に比し稍々尠なかるべきも水被り、砂押し等の惨状を現出した

る場所も亦尠からざる模様なれば前記の予想はガラリと外れ尠なくも三割の減収は免かるべからず、要するに本年度本郡の予想は近年罕に觀るの豊穰なりしも一朝不慮の天災に遭遇し悲惨の状況を現出したるは洵に遺憾に堪へざるなり、勿論被害の調査結了せざれば正鵠を得るに由なしと雖も其現時の状況より推定するも或は意外に損害の大なりしやも知るべからずして、這般の風水害はその区域の那辺迄に及したるかは此の稿を草する迄は交通全く杜絶し知るを得ず甚だ不安の念に駆られたりき、然れとも今後幸に天候回復気温昂上せば幾分視直しことを得べきが故に左迄悲觀すべきにも非ず、吾人をして杞憂に終らしめざらんことを祈る、冀くは本日の厄日と晚稻の出穂期なる二百二十日とを無事に経過せしめんことを祈るや切なり。(廿八日稿)

19 第97号2面(大正2年10月11日)

●本郡稲作は半作？

本郡及附近の稲作に就ては屢々報導し来りたりしが九月に入りてより氣候冷湿にして晚稻の如きは出穂を了せざるに早くも水霜の下降を觀るに至り、終に結実せざる悲

慘の作柄を実現するに至れり、然れども愛国種の如きは場所によりて未だに出抜けざる所あり、或は出穂せるも結実せざる等ありて之れ等は半作にも至らず、早稲・中稲は風水害の爲め被害尠ならず、早稲・中稲は思ひもよらず、場所によりては早稲・中稲等は平年以上の作柄を觀たるところもあれど、晚稲にて皆無の場所も尠なからざれば本郡及附近の各郡を通して遺憾ながら半作と視るを至当なりとすべし

然し苻り採りまでは二十日以上もあれば案外好果を觀るやも知るべからざれば未だ遽に悲觀すべきにあらず、今後天候如何に依ては幾分見直すに至るやも知るべからず、暫く記し今後の結実如何に徴せん

20 第98号1面(大正2年10月21日)

晚稲は終に不結果

愛国種は全廢すべし

吾人は大正元年十月一日發行の本紙第六十号に於て我東北地方に晚稲の適せざるを反復詳論し全廢すべきを慫慂したり果せるかな本年も亦遂に愛国種の如き晚稲は全然失敗に終れり、之れが原因に就きては数多あるべきも氣

候の冷湿なるに基因したるは争ふべからざるの事実にして、絶対に晚稲の適せざるを証明するものなり、勿論暴風雨、水被り等の爲め出穂を遅緩ならしめたるも慥に一原因なるべきも、十数年来兎角我東北地方は氣候に變体を來し或る二、三年を除きては冷氣勝にして昔日の比にあらず、凶歉に次ぐに不作を以てし、爲めに農民は疲弊困憊に陥り稲作は不確立なりとの危懼の感を抱かしむるに至れり、延て一般經濟界に影響を及し、東北をして益々不振の止むなきに至らしむ、洵に之れ嘆すべき事柄にして軽々に看過すべきにあらず、學者の説に依れば彼の三陸大海嘯ありてより以來潮流に變動を來し爲めに夏季の氣候冷湿にして未だ全く回復期に達せず、否甚不詳の言なれども或は今後数年間潮流の一變せざる限りは尚ほ冷氣を免かる克はざるなきやを憂るものあり、若し果して然りとせば農家は大に考慮を要すると同時に予め之れに備ひざるべからず、即ち晚稲の如きは絶対にこれを避け、早稲、中稲を奨励し、早植を励行せしめ次て氣候に打ち勝の策を採らざる可からず、之等のことは独り農家に委すべきにあらず、当局及地主等は大に研究し以て救済の策を講ぜざる可らざるものと信ず、吾人の觀る

ところを以てせば即ち地主は一割乃至一割五分の年貢の軽減を断行し、早稲、中稲の作付を奨励すべきは其の最も径捷なるを信ず、蓋し晩近の米価は地主が多少の減収をなすも其価格に於て何等の影響なきのみならず、比較的的安全にして的確なものを択ふは自家収入の基礎を強固にしこの年々来るべき憂苦と損失とを排除し得て相互の利益なると同時に国家に益するところ甚大なるは言を俟たず、吾人は我が東北の爲め将國家の爲めに暫く晩稲の作付を全廢すべきを再び勧告するものなり

21 第99号1面（大正2年11月1日）

麦作の奨励

農民勤勉なれ

本年の米作は当初近年稀有の豊穰なりとの事にて一般の人氣旺盛なるものあり、必ず来るべき秋は五穀豊穰を歌ひ久しく萎菲振はざりし農村も稍々活気を呈し来るべきを期待したりしが、暴風雨と大水害後は気温低下し爲めに我東北は大なる被害にて本県米作の如きは終に半減の不幸に陥りたり、是れ洵に農村の疲弊は言ふを俟たず商工業其の他一般經濟界に影響を及すことの極めて甚大な

るものあり、天何んぞ我が東北に災するの如く大なるや、然れとも今は徒に悲觀し死兇の齡を数ふるの時にあらず、宜く人心を統一し勤勉力行大に回復策を講せざる可らざるの秋なりと信ず、而して之れが善後策に就ては県当局を始め郡村各其状態に依りて夫々救済策を講しつ、あり曰く治水会、水源地の殖林、堤防の復旧、排水等にして大に災厄に備ふる所あらんとす、之れ洵に慶すべき画策なりと雖ともこれが解決を觀るには仮に歳月を以てせざる可らず、然らば農民急須の回復策としては何によりて之を求めんとはする即ち昨今播種期にある麦作の奨励之れなり、云ふまでもなく麦は米に次ぐ唯一の食物にして又馬糧其の他の需用最も盛んに随て其価格も一石八円を上下しあるを以て本年度米作の減収を補足するはこの麦作に依るの最も適切に且つ径捷なるを信ず、然れとも之等は他の奨励に俟つまでもなく農民それ自身が勤勉大に力め耕作に意を注ぎ種類の選択、肥料の配合其宜しきを得、間作又は二毛作等を為すに於ては優に米作の減収を補充し猶ほ余裕を生ずることの左程難事にあらざるなり、勿論麦作とても一は天候によるべきも大に力むるに於ては米作のそれの如く半作又は皆無と云ふ如きは絶

対に避け得るの方法なきにあらず、唯勤むると力めざと
にあり、我東北の農民は之れを關西及關東の農民に比す
るに遺憾ながら勤勉なりと云ふを得ず、且徒に旧慣を墨
守し改良進歩の念に乏しく奮闘以て事に当るの勇氣と決
心とに欠くるところあるは農村今日の疲弊を来たせる慥
に其一因たるを失はず、我が東北農民は此の窮地に処す
るに翻然自覚以て勤勉力行の美風を涵養し当局の指導奨
励と両々相俟て始めて其の好果を収め此の苦痛を脱する
ことを得ん、吾人は昨今麦の播種期に当り農村に勧むる
に麦作の大に奨励すべきと農民の大に勤勉ならんことを
欲するものなり。

22 第99号3面(大正2年11月1日)

●特志家の二毛作地視察 本郡大平村字坂谷大野重藏氏
は農村改良の鼓吹者なるか、本年の凶作に鑑み去る二十
五日群馬、栃木、長野の各県に於ける二毛作実地視察と
して出発されたれば当業者に裨益する蓋し尠少にあらざ
るべく然して其の視察の実況談は不日帰村後報導すると
ころあるべしと

7 産業

1 第2号5面(明治44年2月21日)

商業政策論

玄洞子

商業政策とは国家其他の公共団体が、国民経済の完全なる発展を助けんがために、商業に関して採る所的手段並に施説の総称なり。

念ふに商業は個人の営利心に基づくものなれども、其完全なる発達には社会的公共的施説を待たざるべからず、然らずんば営利心の濫用に依り、生産者又は消費者に及ぼし、終に一国経済上の発達を阻害する事あり、此に於てか、国家其他の公共団体は、商業に関して種々の奨励又は制限の手段を講じて、是に必要な施設をなさ、るべからず、是れ商業政策の必要なる所以なり(東商教授關一氏所論)

商業政策は分ちて二つとす。内国商業政策及び外国商業政策是れあり、此の區別は商業の行はる、地域が一国兩域の内部にあると、其の外部にも関係するとに依りて起

るものにして、前者に関しては国家は単に完全なる商業の発達を助くるに止まるも、後者に関しては商業に及ぼす影響を内国産業に不利ならざらしむるを勉めざるべからず、是れ兩者の間に重要な差異を生ずる所以なり、今次に其大要を説かむ。内国政策に於ては国家は他の産業に同じく商業の健全なる発達を促かすを要す、然れども内国産業の特質は、農工業又は外国貿易に比し積極的保護を要する事少なし、商人及び使用人の養成に關し必要なる機關を設くるの外国家は商業上の妨害を除き不正競争を制限し、商人をして成るべく自由に商業を經營せしむるを勉むべきなり。

之れに反して外国政策に於ては、国家は自国々民経済の発達上より打算して其領域に出入する商品の種類及び數量を整調するを要す。

抑も外国貿易は内国の生産者及び消費者に利益を与ふべき一手段に過ぎざるを以て、国家は外国貿易に依りて、自国々民の経済を発達せしむるを勉む可く、決して世界経済上より外国貿易の発達を勉むべきものにあらず、故に内国商業の場合の如く不正競争のみを制限するを以て満足する能はず、一方に於て保護税に依り、或る種の貿

易に制限を加へて、国内の産業の保護を勉め、他方に於て通商条約其他の手段を以て、自国製品の販路を拡張し又確實ならしむるを要す、故に外国商政は廉価なる市場に購ふて、高価なる市場に売る事を妨げ、商人の自由を妨害する事なきに非らず、是れ外国商政の目的が外国貿易の奨励にあらずして其内国産業に及ぼす影響を自国々民經濟に有利ならしめんとするに依るものなり。

如斯前論者の所論を見るに我が理想と全く適合して歎諾する所なり、故を以て我が白石町に於ける商工業の發展は、又是に法らざるべからず。

然らば如何にして自国經濟即ち白石町の經濟を愈々發揚し且つ發展せしめんか、

惟ふに我が白石町に於ける産業たるや、既に業に宮城県の間門として、生糸に、米穀に、諸般の工作物に、生産物皆以て之れを蒐集し之れをして更めて發散せしむるの業を営む者他に比類なきを視る、如斯実に商工業の發展は宮城県内に於ける首脳なる地位にありと謂ふも憚らざるなり、此地位にして産あり業ある者は、益々努々の力を奮与し、製作生産をして、誠意精勵以て世と共に進みなば、名を海外に博し、比隣をして瞠若せしむるを得べしと信ず。

しと信ず。

2 第11号1面(明治44年5月21日)

聯合共進会と白石

仙南四郡聯合共進会は明治四十五年三月刈田郡主催として白石町に於て開催せらるゝことに決定せりと、吾人実業奨励を標榜して起てるもの豈一言する所なくして可ならんや、仙南四郡の催しに係る、規模素より小なりと雖も凡そ百般の事物は小より大に及ぼすは是れ自然の原理にして、小は小なる丈夫れ丈け細密周到の注意を払はざる可からざるは勿論なり、唯に規模の宏大を誇るも若し其實質に於て之れに伴はざれば却つて世の物笑となり、勸業上切角有用の催しも何等益する所なく一時のお祭騒に了らんのみ、故に吾人は實質に於て彼の各府県聯合共進会より以上の成功を翹望して止ざる処なり、特に我が白石町は開催地たれば其の責任の重大なる事は論を俟たざる所にして併かも開催期日は明年三月と謂へば約一ヶ年の期間はあれど今より其の準備に着手せざれば開催間際に至り如何に督励するも到底完全なる設備を望む可らざるや勿論なれば当局者は此の一年間に於て周到の督励

を為し其完備を期せられんことを当局者たるもの亦是等方針に対して充分なる成案のあるなるべくんば敢て吾人の呶々を要せざるべしと雖も、先づ吾人をして其が注文を言はしむれば第一陳列すべき出品物の選択に注意すべきこと、第二古物参考館を設ること、第三会場の設備を完全にし観覧者をして些も不快の感を起さしめざること之れなり、次に遊園地として現在の公園を拡張し一日の清遊に値ひするの設備を為さざる可からず、其他売店の如き、飲食店の如き是れ等従業者をして一時の利を貪ることを為さしむるが如きは断じて之れを避け取締を厳にして可成的安価に売らしめざるべからず、如斯は即ち共進会開催に附帯する当然の設備にして亦最も好果ある地方発展の広告たることを忘るべからず、故に是等設備及び取締に就ては速に協賛会を組織し以て其大成を期せられんことを望むものなり。

3 第12号6面(明治44年6月1日)

●白石町と産業

在長崎 松窓生

天時不如地利、地利不如人和と云ふ金言があるが成程天

の時や地の利に欠くる所あるにせよ人の和さへ得て居れば何事に依らず好結果を得ること疑ひなしである、殊に人の和を得た上更に天の時や地の利を獲得したなら申分なき次第と云はねばならぬ、白石町有志諸氏も此処に留意する所となり地方発展策に就き、間断なく考究せられ居るは誠に悦ばしきことである、茲二、三年後の白石町は實際非常の發達で電灯・電話は続々架設せられ、一段の男振を上げた訳だ、斯く内にありては人の和を得、天の時や地の利を利用したが、尚夫れ以上と目せらるゝ重大事業のあることを忘れてはならぬ、即ち外に對する覚悟で激烈なる競争心を喚起し産業・教育其他種々此方面に活動し以て他を凌駕するの一大決心を持つことである、教育事業は逐日見るべきものもあるも、産業に關する發達は、未だ以て安心すべき状態にあるものとは思はれぬ。否極めて不振の域にあるのだ、些々たる眼前の利害に目を皿の様にする様では繁榮策や發展策を論議唱道した処で駄目である、宜しく遠大の望を以て郡、町、村延いては国家の福源たり福益たる農業の改良や養蚕の奨励や果樹・蔬菜の栽培等は等農家の副業を盛にすると共に、白石町にとりて最急務たる商工業促進の方法に就き細心研

究することが肝要であると思ふ、吾人は兎角事に対して觀察の範圍が狭小になり易い、例へば町の發展に耳吸々として、町唯一の華客たる近隣の町村に対してはお粗末になり勝ちだ、是れは大なる誤りで寧ろ町村協力し、前述の如き養蚕の奨励や果樹・蔬菜の栽培等農家の副業を盛にして漸次富裕ならしめたなら町に対しての購買力も自然と増加する訳で斯くて商業の振興を計ることを得ると思ふ、近時続々近郊に葡萄の栽培せられ居るは我が意を得たるもので、不安定の氣候を有し、為めに稲作に就き毎年八、九月頃には頭痛鉢巻する我が郡民は、宜しく是等副業に留意し發展せねばならぬと思ふ、要するに町村繁榮發達を計る上に於て肝要なる要件は二、三にして止まらざるも最要素たるは町村為政者の開發的政策と、町村民の自為的活動であると思ふ、是れは具眼者の好く唱道する所で更めて云ふ必要もなからうが、当局者たるものは県の干渉や思慮のみを待たず、所謂他力に頼らず自力を以て一郡一町村の爲め計画を立てられんことを熱望するのであるが老婆心の余り釈迦に説法甚だ恐れ入る次第である、然し当局者が如何程發達を計らんとするも、我が郡民が眠つて居つては到底駄目だ、前に申述べた通

り、所謂自為的活動を要するのだ、即ち如何なる職業に拘はず自己の事業に対しては絶えず利害關係を考査し改良工夫を行はねばならぬ、一体此事に関しては、東北の内でも宮城県人が一番不注意だと云はれて居る、多分三十七年の農商務省の編纂に関する東北各県並に北海道重要輸出品調査の中に此事を書かれてあつたと思ふ、兎に角治者たる当局者の開發的政策と被治者たる郡民の自為的活動とが相俟つて仕事が出来上るのだ、古い文句だが恰も鳥の両翼車の両輪である、以上述べた産業發達の根本を閑却せられざることを希望する。

4 第14号1面(明治44年6月11日)

商業家に一言す

今や一旦身を実業界に投じ其凱旋者たらんとする者は忍耐なかるべからず、苟も一旦決定したる以上は如何なる障碍に遭遇するも更に屈撓することなく着々事を執りて其遂成を期すべき也、若し初一念を実行完成する氣象なく屢ば營業を転々して漸く困難の境遇に陥へり、之に打勝つ能はずして終生苦境に沈淪する者滔々其例少なからざるは歎息の至なり、其職業により利益の厚薄あるべし

と雖も苟も屈せず撓まず全力を捧げて之に従事したらんには何の業か生活に資するに足らざるものあらんや、実に吾人の運命は職業の種類に依らずして職業上に尽す忍耐の強弱如何に帰せりと云ふべきなり、西哲曰く『成功の門を開く鎖鑰は只忍耐の一あるのみ矣』と人間万事鋭気を挫くに足るものなし一旦勝たと決したることは必ず勝てよ、失敗なる語は豪も心中に容るす可からず既に心中に失敗の二字を抱蔵する人は必ず失敗を招くもの也、哀むべき哉凡人は忍耐を欠くが故に情況の奴隸なり、凡人は微風に翻へる苔毛、水上に漂へる藁片の如く其方向は常に社会の風潮に依て変ずるなり。

今又忍耐に加ふるに整理を以てすべし是は勉強して蒐集したる物件を消化するの謂にして職務に相当の時間を割付け、約束の履行、取引の正確、記簿の保存、各個人に適當なる職業を授け、各物品・器具・書状等に一定の場所を与て、各決算に相当の時間を充つる等の如きは即ち所謂の整理なり、能く整理する人は縦令俄然に死するも其れが相続人をして更に差支なかるべし。

又己れに克て私を制する習慣を養成すること之れなり、此を以て其身を規するに非ずんば如何に優れたる才能あ

るも功名の助とならずして却て身を害ふ原となるべし、故に入を計りて出を制し費用をして利益に超へしめざるは克己の習性より打算し来るものなり、商略図に当らず却て損耗することあるは人事の常にして遂に過去の労を以て現在の樂を買ふ能はざるは勿論現在の労を以ても尚且足らず未来の労迄をも書入するに至ることあらん、是等の人は現在の労苦は更に新快樂を得るの望なく現在の歡樂の爲めに追はれて奔走苦勞するの情に陥り希望なくして悒々として不平に其生涯を送るものなり、是れ畢竟一片の克己心を欠くの結果なりと思へば豈私を制する習慣及び忍耐勤勉の心を養成せずして可ならむや。

5 第17号3面（明治44年7月11日）

●料理店同業組合總會

白石町なる同業十六店の組織に係る同会は地方有志十数名を招待し、一昨九日午後一時より玉幸亭に於て開き事務報告協議及び役員の改選等ありて散会せしは午後六時頃なりき

6 第19号2面（明治44年8月1日）

●仙南四郡聯合共進会の概況

仙南四郡聯合共進会は本郡主催となり白石町に開催せらる、筈なれば、是れに対する町民は今より準備に奮励努力しつゝ、ありて其が出品の如きも各生産者は大に注意しつゝ、あるを以て優良なる出品物の多数を得るべく開会の暁に於ては地方に稀なる共進会ならんと想像せらる

7 第25号3面（明治44年10月1日）

●十二村銃砲店の新式銃砲売出し 天高く秋気山野に充ち今や將に狩獵の好季節に入り轉た遊獵家の遊心を動かすの時十二村銃砲火薬販売店に於ては新式の銃砲及び附属品を販読する由にて店員の談る處に依れば逐年販売額を増し我が地方の狩獵界も益々盛況を呈しつゝ、ありと。

8 第37号1面（明治45年2月1日）

聯合共進会

仙南四郡聯合共進会は愈々来る廿五日より開催のことに決定せるもの、如し、而して会期は僅かに壹週間の予定なれば甚だ短かきが如き嘆なくんばあらず、然れとも其

時期に於ては、時候最も好適にして桜花爛漫加之一般人士の行樂の節にして興多く人心の浮き立つべき時期を選定せられたるは、洵に其の當を得たるものとす、然して主催者たる本郡にありては協賛会を設立し目下孜々としてそが準備に怠りなく、又主催地たる白石町は挙町一致本会をして可及的完全の設備を為して其実績を挙げんことに努むると同時に、觀覽者をして毫も不快の感を抱かしめず一日の清遊を得せしめんとの計画なるやに聞く、蓋し吾人の希望も又是に外ならず、而して是が目的を遂行せんとせば官民一致熱誠と奮励とに俟たざる可らざるは勿論なりと雖も、先づ是に充実すべき費用の財源によりて存す、当局者は夫れ々々案を具し予算を編成し目下開期中に属する通常郡会に提出されたるべく、議員諸士も之れが協賛を与ふるに吝ならざる可きは吾人の信して疑はざる所なりとす、一方白石町は主催地として其の責任の重大なると共に負担の輕からざるは予め悟覚せざるべからず、吾人は若し万一にも是等町村の負担額につき彼是異存を唱ふるが如きことありて、折角の催しも何等益する所なく其実績を挙げ得ずして畢らんこと恐る、要するに博覽会と云ひ、共進会と云ふと雖も唯其の規模の

大小を異にするのみして設備の完不完は一にかゝりて財源の多寡によりて決せらるべき問題なりとす、左れば郡民たるもの此際多少の困難は免かるべからずと雖も将来産業の発達に資すべき重要な催なれば奮励一番是が遂行に努むべきなり。

9 第38号4面(明治45年2月11日)

共進会彙報

▲仙南 四郡聯合共進会は愈々四月二十五日より開会の事に決定せし由にて、時は將に桜花爛漫の候なれば季節に於ては最も適當の時期なるべく必ずや成功疑なし

▲会場 は第二小学校校舍及び校内全部を提供する由なれば可なり拡かるべく、中央には各出品者の売店を設けらるべしとなり

▲美術 参考館は神明社々務所にして、盆栽陳列場は城山の茶寮を以て充てらるゝとの事なれば天然の風景と相俟て最も妙ならん

▲特産 鯉は沢端川約一丁の処に金網を以て脱魚を防ぐ設備をなし、これに約一千貫目の鯉を放つよしにて観覧者をして一定の料金の下にそれを釣らしむる計画との事

なれば緋鯉・真鯉の此清流に遊び居るを見て一竿を投すれば澁瀬たる鯉魚を懸て筐中に収めて晚餐の膳に上しこ

とを得は如何にも興味ある設備なるべし

▲馬匹 共進会場は新町裏の旧道にして牛馬の出場点数も仲々寡からざる模様なり

▲余興 としては壽座に於ける演舞及芝居等にして共進会入場者には無料観覧券を交附するとの事なれば、芝居好きの連中は共進会を見てから緩くりおどりや芝居を観るを得べし

▲公園 の増設は旧白石城跡全部を敷地となすとの設計なれば可なり規模の大なるものなる可く、着手期は稍々遅れたるかの感なき能はずと雖も解雪を俟て一挙に築造する予定なれば落成の上は一大美観を呈するに至るべし

▲將に 余興中の白眉たるべきは全国煙火競技会にして一尺口の大煙火打揚げの計画なりと、そも一尺口とは稀に見るの大口徑にして普通は五、六寸口を以て最も大なるものとなし、一尺口の如きは近年絶てなきことなれば如何に壯觀を呈しべきやは今より推測に難からず、一発の実費は約二十円を要するとのこと、而して遠くは京都・大坂・三河・新潟等よりも出品あるべき模様なれば

開期中大一の壯観なるべし

11 第40号5面(明治45年3月1日)

共進会彙報

10 第39号4面(明治45年2月21日)

共進会彙報

▲会場の変更 会場は白石町第二小学校以て是れに充つる予定なりしも構造其他の関係により第一小学校を会場と為すことに決定せり、而して第二小学校舎は教育品展覧会場に充つべき都合なり

▲開会 は四月廿五日の予定なりしも一日繰り上げ二十六日開会式を挙ぐること、なれり、而して開会中の順序は左の如し

- 一、四月二十六日開会式(午前) 宗教大会(午後一時より)
- 一、同二十七日地主会、青年団総会
- 一、二十八日教育会聯合会、消防組聯合演習
- 一、同二十九日赤十字総会、招魂祭
- 一、同三十日愛国婦人会、花火競技会

▲各消防組 四月二十五日より向ふ壹週間開催せらるべき刈田郡主催仙南四郡共進会の開期間中施行せらるべき各町村聯合消防組大演習に就ては既に其の期日四月二十八日と確定し、演習後午後よりは城山に於て各組聯合の競技等もある筈にて目下之れが見事なる優勝旗を工作の計画中のことなるが、尚同演習に計画に就いては各組とも打合せの必用あり、来る三日白石警察署に於て各組幹部の協議会を開くべく各組へ対し召集の通牒を發したる由

▲案内誌 編纂に就いては協賛会よりは八百部買上の約にて同会よりは二百円の補助もあり、係員は夜業をかけた材料の整理に尽渾し既に原稿の整理も着きたれば近々印刷に附さるべしと

▲演芸会 共進会開期中地方人士の趣味の高尚を謀らん為め地方一派の文士及愛国婦人会、其他有力家相謀り文士劇、活人画及音曲、講演、謠曲等の合同催しもある筈なれば是又一夕の清覧に値するものあらん

▲売店 は其筋の調べによれば数十軒建設の見込にして

目下続々出願受附中とのことなるが、当町聯合呉服商の如きは此際大挙して大々の計画を為し以て顧客の吸集に努むべく目下協議中なりとか

▲雇人払底 共進会開催に就いては何れも其計画に忙殺されつゝあるものなるが、料理店の如きは雇人払底の爲め四方に人を馳せ男女雇入れに奔走しつゝありと

▲協賛会役員 過般決定されたる同会役員は左の如し

会長 向田幸藏 副会長 山田誠一 評議員 白

石町 鈴木清之輔 鈴木惣四郎 鈴木富太郎 渡邊儀

藏 亘理晋 水野健治 鈴木藤左工門 菊地文一郎

十二村辰五郎 菅野圓藏 朝倉秀雄 渡邊佐吉 紺野

常二 山本常七 本木豊五郎 岡崎豊松

12 第43号2面 (明治45年4月1日)

共進会に就て

向田協賛会長の談

△売店 共進会々場内に於ける売店に就いては協賛会に於ても大に考慮しつゝある処なるが、固より売店の如きは施設其宜しきを得ば会場の裝飾ともなり入場者を吸収する点に於て多大の効果を収め得べきものなれば決して

枝葉のことに属すとして忽諸に附すべきにあらざるなり、故に協賛会は売店申込み者に対しては大に便宜を与ふ可く売店希望の諸店は利益問題を別として幾十万の観覧者の入込む此期を利用して大に自家の信用を博されんことを望む。

△旅店及料理店 二、三の旅店及び料理店を除くの外は他の地方にも見る能はざる不備極まる家のみにして、雇人は客の甲乙によりて待遇を異にし、便所の如きは臭気止の薬品を用ひざるが故非常に悪臭を放ち容易に近づく可からざるの有様なり、幸頃日料理店同業者は総会を開催し共進会に対する準備方法に就き疑義する所ありたりと、吾人が此際旅店及び料理店に望む処のものは雇人等をして淫な行ひに客を擧蹙せしむる等のことなく清爽を旨とし懇切にして衛生を重んじ客の注文せざるに酒肴を強ひて暴利を貪る等の事なく顧客をして大に利便を得せしむべきなり。

△人力車 人力車をして文明の利器と謂はんは些か異なるものなるが地方に於ける人力車の多寡或は車の清潔と不清潔とにより其の土地の開明の度を推察するに難からず、当白石の如きは仙南の都会として凡べての成績に於

て他の地方に遜色なきにも拘らず是れが文明を代表すべき人力車の不整頓なるは大に他に耻づる所とす、塗具は剥落し膝掛は色褪せ一度白石停車場に下車せる紳士は一瞥して大に躊躇する所あるや必せり、平常当局者は嚴重取締るところあるべしと雖、此際大に改善を加へ停車場附近には賃金表を公衆に表示し乗客をして些かも悪感を懐かしめざるやう注意されたきものなり

13 第45号1面(明治45年4月26日)

祝共進会

物に即て理を究めば乃ち智識啓発せざることなく、芸業亦進まざることなし矣、是に於てか政府は巧を勧め業を励まし、大に産業其の他、製作を鼓舞し、而して農・工・

商百家争ふて其技を磨き千器万品發明日に新なり。

時將に春光野に満ち芳艷階に飄り、神氣自ら陶然として老若偕に行樂の時に際し、刈田郡主催仙南四郡聯合物産共進会は本日を以て白石町に開催せらる、而して当局者並に關係者が万難を排し、多大の辛勞と非常の精勵とにより、今此完全なる盛會を見る、固より規模小なりと雖も経営者が責任を重んじ、殆んど寢食をも忘れ、一意専

心尽瘁せる其勞苦に至ては大規模のそれに比して決して遜色なきなり、吾人は当局者及び關係者に対しては全幅の歡喜と満腔の熱誠とを以て感謝の意を表すると同時に、各地方の精粹を蒐めたるそが陳列品に対しては最も鄭重に鋭意考察の眼を以て閲覽せざる可らざるなり、是れ則ち地方人心の一段向上にして、之加も地方開發に資する一動機たればなり、今や選挙の期に入り加ふるに農桑繁忙の期到らんとす、各自今に於て大に行樂を恣ま、にし、以て鋭気を涵養し、神氣を新にし、他日の奮闘に資せられんことを、吾社は開会の日に際り祝意を表する為め紀念の本号を刊行し一言蕪辭を披歴し、以て祝詞に代ふ。

14 第45号2面(明治45年4月26日)

共進会に就て

兎子

今日より七日間我白石町に於て仙南四郡聯合共進会を開かる、事となつた。吾人は万腔の喜悦を以て会の成功を祈る者である、顧れば過去数ヶ月間当事者は其経営に如何に苦心したか、又出品者が如何に丹精したかは此の盛

大なる会を見ても解るのである。城山公園は町民の公共心に訴へ風雪未だ去らざる頃より数多の人夫を募り道路の改造樹木の植込を為したのである。

白石町民が共進会の為に捧げたる金品労力は実に多大なる物であつたと思ふ。

之れ産の苦しみをなして楽しき日を迎へ得たのである、然し茲に我々が大に注意しなければならぬ事がある、それは我々が人氣に任せ又は空景氣に任せて不正な事をせぬやうにする事である、直言すれば白石は物価が非常に高いとか暴利を貪るとか云ふ批難の声が至る所で我々の耳に入つてるのであるから出来得る限り物価を安くし親切を尽したいものである。

定めて白石の地を初めて見る人も沢山にあること、思はれるが夫等の人々に対して好き印象を与へ度いものである、又再来の人に対しては白石は物価の安い所である親切な所であると云ふ印象をふかくしたいものである。共進会は僅かに一週間であるけれどもその一週間に各地から集り来つた人々に与へる印象は永く取去る事の出来ぬものである。我白石町發展を期する為に此期会を利用して各地の人々によき感じを与へ度いものである。曾て

郡長の訓言にもそう云はれた事があつたが此際町民全体一致して実行したいものである。

猶殊に子弟を有する父兄に対して望む事は兒童に公德を教へて貰いたいのである。

共進会の如く雑踏する場合には公德心なき一人の為に多くの人が迷惑する事も少なくないと思ふ、畢竟共進会の成功を得引て我白石町の發展を図りたいのである。

15 第45号2面(明治45年4月26日)

共進会

仙南四郡聯合共進会は本日をして開会せらる、其開期は僅かに一週間の予定なるを以て聊か短かき感あり、然れども小共進会にありては会場及経費其他総ての点に於て長期に渉る能はざる事情のあるあり、然れども小共進会としては稀に見るの設備たるは何人も首肯する所なるべし、此種の事業は年と共に進歩發達の状あるは寔に国家の為に慶賀すべきことなり、而して開期中に於ける総ての会合は別項記載の如く殆んど寧日なく当局者等の苦心も想像するに余りあり、就中産業組合宮城県支部總會を白石町に開催せられ会長平田東助子の臨場せらる、が

如き当局及地方人士の寔に僥倖とする所、特に全国煙火大競技会は二日間に渉る大会にして世人の目を驚かすべきものあるを信ず、先づ刈田郡主催仙南四郡共進会は確かに成功せるものと信ず

○審査長及審査官諸氏は左の如し

宮城県技師 丹羽敬太郎

刈田郡主催仙南四郡聯合物産共進会審査長ヲ命ス

宮城県工業技師 小泉榮治郎

宮城県農業技師 錦織 榮久

各 宮城県水産技師 貝沼養四郎

宮城県林業技師 北村 信吉

宮城県技師 相澤 庸治

通 宮城県技師 坪田 瞭亮

宮城県物産陳列場幹事 竹村 太郎

刈田郡主催仙南四郡聯合物産共進会審査官ヲ命ス

刈田郡 紺野 常二

同 森本幸太郎

各 柴田郡 金成 金彦

同 米倉 又記

伊具郡 堀田 良景

通 同 牛澤 彌守

巨理郡 鈴木吉太郎

同 阿部喜代治

刈田郡主催仙南四郡聯合物産共進会審査員ヲ命ス

以上の諸氏は去る二十二日より審査に着手しつゝ、あり

○白石町の装飾は空前の美観を呈し、役場前なる三十尺余の歓迎門は全部更紗形の布を以て張り込み大額を掲げ、夜に至れば宮城紡績電灯会社白石支店の寄贈に係る数百のエルミネーションを点ぜらるべく、特に停車場前各旅館は大に数寄をこらし紅白の飾り電気を装飾し、夜に至れば一斉に点ぜられ其美観云ふばかりなりし、其他白石各町は各自思ひ思ひの装飾を施したれば開期中に於ける白石町は花の如く彩られ全く不夜城の観を呈するに至る

○会場入口 には新式なる大緑門を構ひ、此所を通り大玄関より陳列場に入れば選に漏れたる各出品物は何れも体裁よく配列され、其意匠の斬新なる体裁の優美なる、確かに是等の進歩を示めしたるを見るも嬉し、馳て一巡し終りて場外に到れば緑滴たる松樹の合間には売店の設備ありて、各店の蓄音器は客足を止めしめ紫雲鬘びきた

る如き、半開の藤棚の下には鎌先・小原の案内所たる喫茶店あり、其他ビーヤホール、サイダホール等軒を並べ雑鬧夥しく

○教育品展覽会は第二小学校にして市中の雜鬧を免れ爰に至れば頗る閑靜にして、右には巍峨たる不忘山の雄姿を仰き、左は片倉氏の城址にして此度白石町の計営にて数千株の桜樹を移し植ゑ、老松は鬱蒼として昔を偲び白石川は涼々として自然の音楽にも似たり、会場の入口には大緑門を樹て会場に入れば新築校舎内は心地よき迄清拭せられ、見るからに教育の進歩を語るもの、如し

○全国煙火大競技会「の煙火打揚場所は白石町東南端に位する三沢街道の南にして、此所には玉置場・審査員控所等の設けありて、事務所なる白石町役場より臨時に電話を架設しありて事務の敏捷を計りつゝあり

16 第46号1面(明治45年5月6日)

仙南四郡聯合共進会閉会

仙南四郡聯合共進会は大成功を以て首尾能く閉会を告げられたり矣、而して該共進会の第一回は一昨明治四十三年柴田郡大河原町に開会したりしが今回を以て前回に比す

れば出品の多数なる、種類の佳良なる、陳列の井然たる、方法の整頓せる等総ての点に於て一段の進歩を認めたり、仮令ば米の如きは乾燥に就て少しく欠点なき能はざるも東郷第二号の出品多き等を以て見れば確かに良種の選択に注意したるや疑なし、唯麦の出品少なきと小豆の形状齊一ならざるは遺憾なりき、豆は色沢優美にして大に見るべきものあり、蔬菜類は期節マツの關係上出品少なきも干柿の貯蔵製法は著しき進歩を認む、繭、蚕種の如きは生産地方としては出品僅少の憾みなき能はず、生糸、真綿等も亦前回の比にあらず、白石特産の紙布織物は品質佳良なるも如何せん製品至つて少なく他に輸出し得る丈の産出なきは頗る遺憾とする処なり。次に饅頭、菓子類の如きも大に進歩の点を認めたり、右の如く已往三年間に於ける聯合四郡の当業者が業務に尽されたる改良進歩の成績は大に見るを得べしと雖も、然れども向後益々振つて農作物種類の選択統一、及び施肥耕耘の方法、乾燥の注意、盛に桑園を拓き養蚕を拡張して生糸の産額を多からしめ、而して生産地の名声を益々挙揚し、且地方特有の生産物は共同一致の力を以て製産額を増大にし盛に他に輸出販売することを努め以て第二回共進会が地方

産業上の發展に与へたる功力の実を發揚せられんことを東北地方殊に聯合四郡の将来に向つて切に希望するものなり。

17 第46号4面(明治45年5月6日)

仙南四郡の物産

▲聯合共進会に現れたる成績

去る一日白石町に於いて舉行されたる仙南四郡聯合共進会褒賞授与式に於いて審査長丹羽敬太郎氏の朗読せる審査報告の全文左の如し

刈田郡主催仙南四郡聯合共進会審査報告

▲米 出品は最も優良にして前回に比し著しく進歩したるは大に欣ぶべし、然れども尚ほ子粒の充実を欠き乾燥不良なるものを認む、これ昨年 of 氣候に基因し唯に当業者のみを責むべきに非ずと雖も乾燥法に尚一層の注意を払はゞ一段の進歩を見る敢て難事に非ざるを信ず、茲に特筆すべきは従來の弊風を脱し品質収量に重きを置き各郡を通じて東郷第二号の如き良種の出品の多かりしは慥に斯業具眼者の賞讃に値すべく共進会に於ける米穀出品の一進歩と見たるものといふべし

▲麦 は出品点数少なく品質に於ても亦遺憾なき能はず、之れ畢竟收納時期に湿潤の氣候多く且つ農家繁劇の爲め収穫調製の時期を失したるの結果なるべし、本品は米に次げる重要農産物なるを以て其栽培法に注意し収穫管理を怠らず穂首の黄変するに至らば好機を逸せず直ちに刈り取り適宜乾燥の法を講じ脱穀調製に注意すべきなり

▲大豆 は粒の斉一色沢の優美なるものありと雖も概して品種雜駁にして充実宜しからざるものを認むると、収穫の時期を誤り乾燥の不良なる爲め外皮に皺を生じたるものありしは甚だ遺憾なり、本県に於ては麦作と關係あるを以て成る可く出来過ぎ毛振等の如き早生種中の良種を選択し肥培に勉め良種の生産を期待すべき也

▲小豆 は概して形状不齊にして品種に於ても雜駁なるの傾きあり、且つ虫害を蒙りたるものあるを認む、将来益々品種の選択及栽培に注意するを要す

▲園芸加工品蔬菜 本品は比較的出品の点数少なかりしも品質に於ては相当見るべきものなきにあらず、殊に干柿に於ては製法・貯蔵共に著しき進歩を見る、尚一層奮勵良種の栽培を計り生産の増加を期すべし、蔬菜に至り

ては時期の適当ならざる為め出品の数甚だ少なかりしは止むを得ざることなり、宜しく需用に鑑み品種の改良と其栽培とを励むべきなり

▲繭 管内枢要の養蚕地の出品としては其数尠く又概して糸量に乏し、之れ主として桑園の衰退に帰するなるべく且つ殺蛹機を失し貯繭其当を誤りたるもの多く、従つて解舒亦難渋の感あり、然れども品種は前回に比し稍統一に傾きたるを覚ゆ

▲蚕種 は其生産地を以て名声高き聯合郡としては其出品点数甚だ尠きは頗る遺憾とする所なり、是れ畢竟当業者の不熱心なるに外ならず又産附は概して佳良ならず徒らに加工的調製を施したるもの多きは将来大に戒飭を要す

▲生糸 は機械製糸中有数の製糸家の出品に係るものは織度趣感殆んど間然する所なし、其他の出品は束整一定せず織度均一を要する製産品としては市場の歓迎を得る能はず、宜しく一層の改良を加ふべし

▲真綿 の出品は著しき優物を認めざれども亦甚だしき粗品なし、唯其生産額甚だ尠なく多くは自家用的生産の観あり、他に販売するの域に至らざるを深く遺憾とす、

当業の奮励を望む

▲桑苗 は根幹の發育概して良好なれども病害物付着したるもの尠からざるは欠点の主なるものなり、又た接木法に抛らしめ生産費の減少を講ずるは将来の發展上緊要の事項なりと信ず、育成亦改良を要する点多きを認む

▲山林苗木 は出品点数尠なく従つて見るべきものなかりしと雖も植林は最も有望の事業なるを以て斯業の発達を望む

▲絹織物 出品物中重なるものは八ツ橋織にして内の一、二の見るべきものありと雖も尚ほ未だ産額僅少にして生産物として世上に雄飛する能はざるべし、故に一層原料の選択を重し技術の練磨を積み産額の増加を計るを要す、其他は雜駁にして商品たる資格を欠き殊に色糸を応用したる絹織物の少なきは最も遺憾とする所なり、紙布織は刈田郡白石町の特産にして他に類例少なき織物なれども意匠斬新ならず漂白に欠く処あれば一層当業者の考慮を要す

▲綿織物 の出品物は殆ど縞木綿にして産額も比較的によく商品たるの資格備ふるが故に爾後当業者は縞柄及染色に注意し且つ生産経営宜しき叶ひ製品を統一するを得

ば一の特産物として発展することを得るは期して待つべきなり

▲染物 出品物中紺糸染を除きては旧来の染法に依るもの多く殊に捺染の如きは技術の練磨と染色法の改善を講ずるに非ざれば商品として世上の信用を得る能はざるべし(未完)

18 第47号2面(明治45年5月11日)

仙南四郡の物産

聯合共進会に現れたる成績

▲木工品 にはありては出品多数にして種類も亦多様に涉り技術の認むべきもの二、三にして止まらず、挽物玩具は近来輸出市場に於て発展の徴あるは望みを属するに足る当業者宜しく奮励更に意匠に着色を染料に改良を加へ先進地を凌駕するの意気を以つて斯業に従事すべし、指物にも亦見るべきもの無きに非ざるも価格の廉ならざるは一段の工夫を望む、下駄類にありては稍流行に投じ且つ工夫を凝らしつゝ、あるは大に欣ぶべし、其他日用炊事用具は地方特産にして当業者の勤勉と当局の奨励と相待つて其改良發達に努むべし、漆器の出品少なきは産

額の少なきに依ると雖も需給の状況に鑑み挽物と相關聯して一の物産たらしむるを要す

▲紙類 には有望なる事業の一にして、中には蒸汽力を以て其製造をなし優良統一の製品を出すものあるは寔に喜ぶべしと雖も尚多くは旧法を墨守し漂白及製法に注意を欠き經濟上の觀念に乏しきは頗る遺憾とする所なり、宜しく經濟上に深く注意し産額の増大を計るべし、又た紙製畳縁の如きは其価格低廉なるも未だ一般の嗜好に適するに至らず更に一段の工夫を要す

▲畳表及び花莖 には出品少なきも製作及び価格に於て稍見るべきものあり、将来藺草の培養に注意し縦糸及び打込を吟味し品質の改良を計ると同時に産額を増加するに努むべし

▲竹細工 には各郡に涉りて産額多く、就中蚕具は出品多数にして種類も亦増加の傾向あるは聯合郡皆多数の養蚕地なるを以て需要・供給の茲に至りたるを見るべし、只だ其製作上尙進歩する事遅々たるが如きは遺憾なりとす、蚕箔にありては実用と耐久に工夫を凝らしたる跡あるも二、三織工に流れ又価格に不廉なるものありしは大に戒むべし、農具・炊事用具及雨傘は出色のもの尠なき

も技術稍や熟練なるものあり、将来竹林の保護培養に意を用ひ広く需用に応ずるを得ば一個の物産として世上に注目を惹くに至るべし

▲藁細工 も亦竹細工と共に進歩著しからざるが如きも農家の副業の奨励に伴ひ草鞋糸縦筵等に於て見るべきもの、製出あり、殊に輸米俵装中注目に値するものありしは欣ぶべし

▲清酒 は概して強健にして貯藏上の不安を抱く程度のものなく色沢淡明にして稍や改善進歩の形跡を認むるは欣ぶべしといへども醗酵作用殊に旺盛を致し糖化と伴はざりし結果風味は一般に辛口に陥りたるもの多し、是れ昨年の米質が過熱硬堅なりし為め溶解不良の影響を享けたるに基因する所あるべしと雖も又た其の所理法を誤れたる結果に外ならず

▲醤油 は二、三の出品を除き概して不良にして麴臭を感じるものあり、之等は製成の時期を誤り未熟搾汁をなしたる結果なりとす、風味亦一般に乏しく色沢は滓引不充分的なため鮮明なる紫紅色を呈するものなく濃度亦嗜好の程度にあるもの甚だ少なし

▲味噌 は概して適度の熟成を遂げ二、三の出品を除き

異臭味を感じるものなしと雖も一般に麴の使用量多く大豆の熟成を伴はず付込後の手入不十分ならんか変敗に陥ること為きを保せざるものあり

▲菓子類 にありては出品の等差各段にして己に其の名声品質の広く認められたるものあれども亦疎製にして一般嗜好に適せざるものあり、殊に餡類には二、三賞すべきものあり、羊羹類にも味ふ可きものあり、然れども之れを概評すれば尚呉下阿蒙の感あり、宜しく原料の選択と火入煉方・焼方及包装に注意し衛生上の進歩に伴ふことを忘るべからず

▲麵類及粉類 は地方の特産にして産額甚だ多し、大に有望なる事業にして皆々改良の跡あるは欣ぶべし、将来益疎製を避け製品の統一を計り規模の拡張を計られんことを望む

▲木炭 が材料の選択、製炭の方法共に稍進歩したるものありと雖も俵装粗蕪にして管外輸出向のもの二、三に止まりしは甚だ遺憾とする所なり、一段の改良を望む

▲水産物並に缶詰 は聯合郡亶理郡を除けば出品皆無なるを以て従て其点数僅少ななる感あれども、鯉節は削り黴付最も優良なり、缶詰は北帰日水煮小鳥味付は見るに足

るも鮑水煮は小粒且容量寡少なるより需要者に満足を与ふる能わず最も注意を要す、其の他は魚油乾蝦の不廉なるを除くの外は概して佳良なりとす

▲金物 は各部に涉り優良なるものあるは欣ぶべし、殊に実用に着眼せるは一進歩とはいはざるべからず、鋏類は深耕の普及に伴ひ着々改良の歩を進め重量を減じ耐久に力を用ひたる跡あるは将来の発展を期待するに足る、其の他のものにおいては何れも欠点の指摘すべきものあるを以つて他地方の製品を参酌し之れを補ふに勉むべし

▲家禽 の出品中概評を試むれば『プリモースロック』にありては本種の壮麗なる胸部の發育に欠点多く且つ選択法の失宜に原つく遺传的劣点を有するものあるは繁殖法に熟せざるか、尙た完全なる良種なきによるべきか、『レクホン』は雄の体量軽くして乾燥せず頭胸部の均称を失ひ繊弱なるものあり、雌は比較的産卵に適する体貌を具ふるものありと雖も嘴脚色彩両性一致せざると外国種禽者の系統を重んじて実利を没却せしものあり、且つ飼育管理共に完全なりといふを得ず、ミノルカは最も良鶏に乏しく飼養管理の不合理より生ずる劣点多し、且稍

老齡の爲め各部の均称を失し本種的美觀と特種を善く備へたるもの絶無なるを遺憾とす、要するに家禽は其出品多からず、之れ畢竟飼育の減退に外ならざるは農家副業を奨励するの今日に当り甚だ遺憾の事なり、宜しく選種当を得、飼養と管理に注意し経済と相待て本業の発展を望む

以上の成績に依り之を概評すれば前回に比し二、三品を除くの外、一般に進歩の跡を認む、依りて総出品点数二千九百三十六点中其優良と認むるもの七百二十六点を選抜し、之に擬賞し己に閣下の裁可を経たり謹て褒章の授与あらんことを請ふ

刈田郡主催仙南四郡聯合物産共進会

審査員長正六位勅六等 丹羽敬太郎

19 第72号4面 (大正2年2月1日)

●牛乳需用者の減少 本郡に於ける牛乳需用の数量は明治四十四年度に於ては八十四石三升にして、大正元年度は七十六石七斗六升に減少せり、之れが原因に於ては種々調査されつゝ、あるが思ふに飲食物の高価なるに基因せるもの、如しと

20 第75号4面(大正2年3月1日)

●白石商業組合 には營業稅課稅標準届に付き稅務署と營業者との間に介して円満なる解決を望み、委員長渡邊佐吉氏より國稅營業者一同に通牒を發したりしを以て去る廿三日午後一時より專念寺に集會協議するところありたりしが結局昨年の通り同組合員より八名、各町より八名の委員を挙げ精確なる調査を遂げ、其結果稅務署に交渉を試み解決すべきことを同組合に一任することに決定散會されたり

21 第78号5面(大正2年4月1日)

地方商業家に望む

△子弟をそれ好遇せよ

在京 小野寺磊石

女中の払底が中流以上の台所に於ける恐慌とすれば丁稚小僧の払底は確に商家にとりての一大打撃である、女中は何故に不足を告げて居るのか、丁稚小僧は何故に減つて行くのであるか、顧ふに是等払底の原因は労働の激しい割合に給金の至つて少ないのと不断酷使さるゝのみならず是ぞと云ふ慰安を与へらるゝ事がない、こゝに於

てか寧ろ女中として酷使さるゝよりも女工となり、茶屋女となる方利勝ちと思ふからである、然らば丁稚小僧の払底は如何と云ふに之れには普通教育上の關係や其の他種々なる關係上多少此の結果をもたらし居るであらうか、最も至大の影響とも見るべきは彼等が年明後の身の処置に対して主人が甚だ冷淡な取扱をすると言ふ懸念、実例があるからであらうと思はざるを得ない、

彼等の年期小僧として住込む以上は一定の年限内は自分の身体は主人のもので自身のものでない、仮しや牛馬の如くに酷使されやうとも將來の光明ある希望の爲めには何事をも忍び忍ぶべしといふかたへ決心があるに相違ない、然るを年明後の彼等に対する雇主の仕打は果して何うであらう乎。人生誰か將來を想はざるものなからんやで丁稚小僧とても此の思念や勿論である、思念あればこそ彼等は主家の冷遇と酷使とに甘んじ奴隸となり一意將來に於ける希望を果したいと思ふ一念に外ならない、主人も亦最初は年明後は斯うもして遣る、あゝもして遣らうと立派に言ひ放すので何事にも正直なる小僧連は一も二もなく深く信頼して益々主人大切と努むるに至るのである、然るを雇主は後日此の放言を實行せし実例幾何か

ある、見よ年期小僧の將に年明に達せんとするに際し
些々たる失態を口実に放逐するか、又は年期迄で使役す
るとしても以前に変わる冷遇苛責を敢てなし、年明後前約
の履行どころか多年の辛苦を水泡に帰せしめられたる実
例や珍しとせず、かくて一道の光明を失なつた彼等の失
望落胆やどうであるか、前陳の次第であるから可愛子や
悴をして斯うした不案の裡に泣かしめんよりは寧ろ職工
なり、活版屋の小僧なりと住み込ませ旁々家計の手伝を
為さしむる方便に出づるの結果、丁稚小僧の年々減退し
行くのではなからうか、希くは有識の雇主諸氏三省以て
子弟の好遇をそれ吝む勿れよ

22 第87号5面(大正2年7月1日)

地方商業家に望む

在京 磊石生

金が沢山あればとてさう威張つたものにあらず、店が大
いからと云つてさう肩をいからして歩いたものにあら
ず、有為転変は世の常なり、盛者必衰、盛者必らずしも
榮えずと云ふものにあらざるは、世間の噂のみにあらず、
事実なり、あの本店かお叩頭した予想外だねとは能く聞

く言葉にあらずや、何ぢや、あの乞食みた様な扮装をし
て居やがつた男か何十万の財産家になつたつて?、実に
意外ぢやねとは、また能く聞く会話にあらずや、之れに
依りてこれを視るも有為転変の世、盛者必衰、会者定離
の事実が理解さるゝ、斯の如くに人の一生は中に計り
知られたものにあらざるなり、

然るに俺はお金沢山ある、店が大いのと云つて威張り
散らすは間違つた話なり、余りに威張り抜いて恥を晒す
事は随分世間にあることなればお金があればある程、店
か大きいほど頭を叩き腰を低ふするか良きなり、彼の稲
穂か絶好のお手本なり

大言壮語は賢者の学ぶところにあらず、大面して店に陣
取る賢き商店主の学ぶ所にあらざるなり、何事にも謙
遜するが処世の道を謬らぬものと謂ふべきなり、然るに
成上り者は何うしても威張りたがる奴なり、而して成上
り者の末路を見よと能く世間から笑はれたがる奴なり、
実に心すべきことかと思はるゝなり、謙遜すればこそ他
人より尊敬を払はるゝものにて、大面すれば大方の人よ
り蛇蝎の如くに忌み嫌はるゝものなり、賢き人は前者に
走り、思慮浅きものは後者に就きたかる奴なり、希くは

地方商人諸君！、余か拙なき説を諒して常に前者に就く
を心掛けられむことを切に望むものなり。(完)

8 養蚕

1 第4号3面(明治44年3月11日)

●蚕業短期講習会 福岡村字蔵本に於ける同会は本県技手坪田瞭亮氏を講師に招聘し、同村佐藤喜四郎方に於て講習中の所、過日講習生半澤萬七外百四名の講習修了を告げたる為め、右百五名に対する講習修了証書を授与せられたりと。

2 第5号3面(明治44年3月21日)

●刈田蚕種同業組合成る

同組合組織協議に関しては既報せしが去る七日蚕種製造業者は刈田郡役所内蚕病予防事務所に会し協議の結果定款六十二条を議決し後玉幸亭に於て盛大なる祝賀会を開きたり今左に同組合員の氏名を挙ぐれば

越河村	古山	榮治	五	賀	高橋順三郎
平	半澤	兵彌	平		新田 要次
同	半澤	淀見	越	河	永山 儀藏
斎川	佐藤	吉郎	中ノ目	菊地	傳次郎

森合	小關彌平治	森合	佐藤	金七
同	高橋 善作	三沢	我妻	伊藏
三沢	我妻新三郎	大町	佐藤清三郎	
白川	山岸 友藏	津田	小熊敬二郎	
犬卒都婆小野	繁松	八ッ宮	武田 十吉	
長袋	我妻久五郎	小原	境野權之助	

以上二十名にして互選の結果

組合長古山榮治 副組合長菊地傳次郎 評議員 高橋順三郎、佐藤吉郎、小關彌平治、我妻伊藏、山岸友藏、武田十吉、境野權之助、古山榮治、菊地傳次郎、の諸氏当選せり

3 第8号3面(明治44年4月21日)

蚕界漫語

(一)

蚕桑子

花は紅に微笑、桜は花笠に、蚕桑子が白石の実業新報社より蚕界所感の寄稿方を需められた、蚕桑子素より幾分の所感も無いではないが、学浅くして己れの意志を遺憾なく発表するの文才を持たぬ、且つ言ふ処前後錯雑或は馳聘転倒等も醸成して未だ警咳に接したるなき賢明なる

購読者諸彦に対し汗顔の至りなるも顧みず関連の一、二を開陳吐露する事としやう、若し一片の参考にもならば満足の至りである。

凡て事業の成敗は事物の準不準備等より分岐するものなる事は口唇に回転する処なるも、蚕業界にも亦他人の余力を縦迎して生半途の準備を整ひ以て濡れ手で粟の捉み取しやうなど、の冥想好奇心な天狗連も浮遊せりとは実に解し難き陋劣の沙汰とす、後日貴重紙面を拝借して陳告するの機ある可し、蚕界の戦争場裡も一、二句の向後に襲ひ来る、作戰計画も此の好時期を逸せずして計謀を立てられよ。

今回白石蚕病予防事務所に於かれては先鎮に奔入されつ、ある消毒施行勧誘の爲め所轄内（柴田刈田）十九ヶ町村に左記の照会文を発送せられた、幾分従業者の参考にもなる可きに依り掲ぐることにした。

記

昨年の秋蚕期中は霖雨長期に涉り氣候陰湿を持續し育蚕に不利なるのみならず諸種の病斃蚕、殊に硬化病（オシヤリ）の繁殖に適當なる機会を与へたる為め秋蚕の末期上簇の前後に当り本病の猖獗を極め甚大なる惨害を逞ふ

したる地方尠ならず、例令惨害を逞ふせざるとするも宮蔭中に於て本病に罹らざるもの殆んど稀なりとす、而して其の遺留の病毒は又来るべき春蚕期に波及するは必然の義に有之、是れが病蚕の処理消毒の施行等に関して昨秋内務部長より郡長に対し通牒の次第も有之候趣に付郡長よりは又夫々御移牒の筈と被存候に付貴庁に於ても是等に就ては予て御消力の義とは存じ候へ共、然るに昨年は各地到る処晩秋蚕の飼育旺盛にして其結果消毒の時期を失して消毒未済の俣越年したるもの多数あるやに被為思料候、是等当業者に対しては本春期掃立前に於て篤と消毒を為す可く御奨励中とは被存候へ共、翻て一般農家の現況を観察するに連年の凶歉に加ふるに昨年の大洪水は農蚕業に多大の損害を与へ疲弊の度を重畳致候折柄、少費多額の積極的論法の基に僅少なる消毒費を惜しみ、爲めに後日或は昨年の惨害を再演し嘔膾の悔を求むるが如きことありては甚だ遺憾の次第に有之候間、時將に消毒の好時期に相向ひ候へば精々予防消毒に努め遺算無之様致度御配慮相煩はし度候

次に御部内に於て最寄共同消毒等の挙ある場合には出来る限り所員出張の上消毒の施行方法等実地に就き御協

議可致候につき当事務所迄以て申出相成候様又御配意相成度候

追て先般中満洲地方ペスト病猖獗を極めたる結果消毒用『フォルマリン』薬殆んど品切、又価格も非常に昇騰の有様に候へしが昨今之れが供給の途も相付き価格も亦平常に復し今後暫く価格の高低及品切等なき予想に有之候

4 第9号3面(明治44年5月1日)

蚕界漫語

(一)

蚕桑子

遅々として進行し来たつた桑芽も二十三、四日紅一光の春日和に一躍して桑圃万碧緑を實現し来たりて人又仮寝せば夢又緑ならん

わたしや桑の芽養蚕者春雨よ

濡る、度毎に色を増す

と二十五日の降雨は層一層其の度を累積し尚且つ当春の晩霜は幾分溶解せられて従然苦境魔界に逍遙せられつ、ある蚕界も幾分は復旧策を讓成し得べきを想像界に抽頭布遊の機会を与へられた

由来養蚕は広汎なる利益のあるものに非ず、又飼育術の突然大改革の惹生すべきものに非ずとは当業者間の脳裡に徹底しつゝあるであらう、然るに中には前述せる如く好奇心な道楽的な養蚕家も浮遊して口では少費多額経済的飼育法など、如何にも金科玉条に髣髴たる何たが御釈迦様よりの法妙頂戴に与かつたかの夢裡の感がある、さりとて其の平面を熟窺するに経済的方面にのみ留意して蚕児の生活現象等には余り片心的の消極的経済的論法ある傾向ありとは一驚せざるを得ずである、斯る蚕児こそ何と魔が善いでしょう蚕児の健康を害して迄の経済的論法ならずとは愚の骨頂なりとは云はざるを得ずである、蚕桑により搔痒の感なきに非ざるも口の養蚕家より手の養蚕家になつて頂きたい、即ち規模の広汎で上田へ桑を植ゑたり、親譲りの田地田畑を質屋に放げ付け凜然高樓堂々と打ち立て、従来やり来つた飼育を中止して、やれ亀岡流の石川五右衛門釜の中処じやない火の中じや、やれ全芽育、やれ全葉育、やれ槽飼、やれ三度飼しやなど、自分の手余し程掃立飼育するなど、は却りて勘定あつて銭足らずで財産減らすの品評会等を演ずるに終はるよりは僅か三十五、六日乃至四十日間位の家督虫蚕なりせば

要所々々の手直し手入れ自分資力に叶ふだけ蚕種の共同購入より共同貯蔵にまれ、共同催青にまれ、共同飼育販売等に到るを凡て共力一致積極的論法、即ち手の養蚕家こそ経済的飼育法にてぞある『ハットセイ』山青々水清き蚕桑郷は実に人生の修養地である、依而蚕桑に吟じらく

子息桑判れ嫁女は振れよ

御国富ましの業じやもの

従業者其れ大に振ひ給はれよ

蚕種の催青

人間は十月母の胎内に潜伏して愈月満ちていざ出生となると出物腫物を嫌はずなど、云ふが、時だけなら未だ能いが所をも嫌はず、或は雪隠で生れたり、或は人湯の中へ出たり、現今は又汽船や汽車中へ出たりなんと云ふ破天荒な場合も往々演出せらるゝが、併し日本では藁の上の呉蔭筵と云ふから農業国たる所以かも知らぬ、然るに蚕は時と所を選ばずなど、云ふ馬鹿な事はない、従業者が注意周到なれば思ふ時刻に産褥を与へる事が何時たりとも出来るのだ、なれども中には掃立の日柄を年の氣候桑葉の開綻状態に意を払はずして余年の都合上より割出

して蚕児の生育上の何かに一向無頓着な『パテレシ』もある、以下紙面に余裕ある限り蚕児の生育に長蛇を逸せざる限り要点のみ吐露する事としよう

一、催青着手の時期 催青着手の相談相手は何に依るものなるかと語を換えしめなば、第一着に桑葉開綻の程度に依るものなるの開陳し得らるゝだろう、早生葉の芽が漸々膨大して其の外苞を脱して燕口或は柏手と称する程度に至る日数は当時に於ける気温の高低晴雨乾湿等に依りて年々著しき差異あるも、概して二乃至三週日の間に於て一葉位宛開き又一葉開きたる後も其の生育の速度は氣候の如何に依りて遅速あるは勿論なるも、三日乃至四日毎に一葉位宛開展するもの、様である、故に桑圃大部分の桑芽一葉位宛開綻したるの時より四葉乃至五葉を数へらるるに至るべき、日数は約二週日を要するもの、様であるさるに依り催青着手の時期は一葉位宛開展したるの時期が能かる可し

然るに開葉の著しき早き年は其の後氣候寒冷となり、葉芽の生長遅滞する事あり、又は例年に比し著しく晩き年は開葉後氣候温暖にして生長速進する事多きに依り、発芽の早き年は一葉開展してより二、三日を経過し又之に

反して著しく晩き年は一葉開展に先たち一兩日位の斟酌着手するは能かる可し（未完）

5 第9号6面（明治44年5月1日）

蚕桑彙報

近日来の暖気に連れ桑芽も大に発芽を促し此分なれば蚕種家は今明日中に掃立を了する、なるべく普通養蚕家も七、八日乃至十一、二日頃には大底掃立をなすなるべし、而して掃立枚数は昨年度に比し大なる増減なかるべし、本来より謂ひば一昨年来桑葉値段は意外に安値なれば掃立枚数は例年より多かるべき筈なるに事実は反対に左程多からざるべきを信ず、何んとなれば水害復旧及予防工事等にて人夫は近來になき不足を告げ居り従つて賃金も高値なれば各養蚕家も大に影響を蒙りたるなるべく為めに掃立枚数も増加するが如きは實に至難のことなるべし

●山田式蚕座紙 当町渡邊紙店一手販売の山田式蚕座紙は一般養蚕家の好評を博し、年々其の製造額を増し今年如きは前年に比し数倍の製造額に達すべき見込にて続々大口の注文あり目下製作に忙殺されつゝあり

6 第12号2面（明治44年6月1日）

●本郡養蚕概況

蚕種掃立の前後は氣候殊に適順なりしを以て催青掃立の経過概して良好、桑葉の生高に至りても亦晴雨適度を保つ来りしに、近日に至り頓に高温となり伸長を促進したるを以て蚕齡に比し殆んど一齡の早差あり、先般霜害を受けたるものありしと雖、之等は一少部分にして全般より見る時は桑葉に不足なきが如し、又蚕兒発育の状態は概ね良好にして未だ病蚕あるを聞かず、只昨今の晴天打続き氣候乾燥に過ぎ飼養上多少の困難あるも晴雨の季に入り天候の激変なき以上は予想の収繭を得るに難からざるべし

7 第12号2面（明治44年6月1日）

●本郡内春蚕収繭予想高

予想高	六、五二七石
前年度実収高	六、九三九石
蚕兒掃	七、三三一枚
立枚数	七、四二五枚
前年実習	七、四二五枚
蚕種掃立時期	初期五月三日、盛期五月七日、

終期五月三十一日

備考 前年ト比スルトキハ三六、七石ノ減収ニシテ約五分強ノ割

8 第13号1面(明治44年6月10日)

我が東北と養蚕

世界の養蚕国は支那・印度を初めとして、波斯、土耳其、伊太利、佛蘭西等其他数国ありと雖も、亞細亞に於ては支那及び本邦を以て繭の産額最も多しとす、而して輓近我邦に於ける輸出品中其の第一を占め、經濟上最も重きを置かる、は生糸なり、然り而して養蚕は我が国天与の産業にして往古より扶桑国と名くる亦故ある哉、就中東北の地たる、地味豊穰到る所桑園に適し、為めに年を逐ふて發達し來りたるは国家の為め真に喜ぶべき現象にして、吾人は斯業の益々進歩發達を翼望するや切なり。然るに我が東北の地は頻年大小の凶作或は水害等にて農家は頗る疲弊困憊し、中には一家離散の悲惨なる境遇に陥りたる部落さへありしことは今猶読者の記憶に新なる所なるべく、此時に当り克く農家の困厄を窮地より救ひ一道の曙光を見るを得しめたるは全く養蚕の賜ものに外な

らず、然らば則ち我が東北は蚕業をして益々奨励普及に努めざる可からざるや論を俟たず、而も蚕業の効たる之れを小にしては如上農家の厄災に処し其の被害の大半を補ふを得べく、之れを大にしては國家經濟の大部分を負ひ國益を助長せしむるの甚大なるは謂ふ迄もなし、説聞蚕糸國の一たる佛蘭西にありては多額の費用を投じて蚕糸小学校の設立を奨励しつゝありと。固と佛國の蚕糸業に於ける經濟状態は我が国蚕糸業より遙かに不利の位置にありつゝ、猶且つ然り況んや我が国輸出品中第一位を占むる斯業に於てをや、当局者も亦夫々奨励施設せらるゝ所あるべしと雖、旧套を墨守するの弊風を矯め、蚕業教育の普及を計り、此の天与の産業を興隆せしめ、農村の根本的繁栄策を企画するは國本培養の根元なると同時に又東北啓發の最大徑路たるべきを信ずるなり。

9 第13号1面(明治44年6月10日)

●扶桑館の蚕種業

天与の養蚕地 扶桑館は白石町を南に距る三里、越河の関(一名下紐の関とも云ふ)に在り、館主古山榮治氏の経営に係る、従来越河の里は天与の蚕業地にして地味頗

る豊穰至る処として桑園に適せざるはなし、土地高燥なるが故に数千年曾て霜害の患に遭遇せし事なく、又常に雨風烈しさを以て蛆害の患甚だ稀なり、古より養蚕の業管内中にありては最も早く開けたる地なりしも、独り蚕種の業に至りては甚だ振はずして毎歳掃下す蚕種の全部は他より購入せざるを得ざりしなり、畢竟するに蚕種なるものは気候風土の異なりたる遠き地方より購入するよりは寧ろ地方に恰好の蚕種を求め得るの途ありとせば其の優れるに若かざるなり。

蚕種業創設の動機 館主古山氏は生を天与の養蚕地に稟け豈何んぞ製種の業に伍せられざるの理あらんや、只販路を古来よりの本場と称する福島県伊達郡に求むる事を得ば永続し得るの難きに非ざることなし、意決して蚕種の製造業を創設せしは明治四十年、時恰も大霜害の翌年にして創業当初より製造額の全部を伊達郡に得意を求め、他には販路を拡張するの余裕なかりき、年々拡張し来り目下の処春秋二季の製造額貳拾五万蛾に達せしも得意の大部分は依然として福島県下伊達郡にありと。

蚕業本位 扶桑館の所在地は土地高燥気候寒冷なるが為め米作に適せず、三十五年以来凶歉九ヶ年に及び未だ一

年として豊作あるを見ず、然るに米作本位にあらざして、養蚕本位の地なるを以て比較的打撃少なし、若し之に反して養蚕を副業とし米作本位なりせば再び起ち能はざるの境遇にありしやも知れざりしならん、将来も居を彼地に占むるものは蚕業本位にあらざんば不可なるが如し。受賞の数々 扶桑館は養蚕本位として世に立ち蚕種業を創設してより茲に五ヶ年、其中大日本蚕糸会総裁伏見宮親王殿下より有功章を賜はりしを初として同支会長たる宮城県知事閣下よりは功労章、各地の共進会及び品評会等よりも賞を受くる事拾数回に及ぶ宜なる哉、明治四十二年の秋仙台市東北新聞社東北蚕業家の十傑を募集し広く鴻顧に紹介せり、時未だ数年ならざりしにも拘わらず名声噴々一道六県中の第三位に当選し会社よりは処定の広告料一ヶ年分（金貳百円券）と銀杯壹組を贈らる豈偶然ならざるなり。

10 第21号3面（明治44年8月21日）

●秋蚕の状況

本郡各町村に於ける秋蚕は近年著しき発達にして飼育方簡便なるより春蚕飼育をなさざるものも秋蚕を飼育する

有様にて掃立枚数非常に多く殆んど春蚕を凌駕するの勢ひにて、早きは昨今上簇中にして四、五日中には大底上簇し畢るべし、而して一般の状況は掃立以来降雨少なく為めに頗る良好にて随つて其の収穫も春蚕を凌ぐの多額に昇るべしと

11 第25号3面 (明治44年10月1日)

●蚕病予防事務所

主事の帰任

予ねて演習召集中の宮城県白石蚕病予防事務所主事太田清吉氏は去月廿二日其の任を終へ無事帰所したるに依り刈田郡蚕種製造者有志並に所員数拾名相謀り、同廿六日午後四時歓迎祝賀会を白石町相川亭に開き会員の祝辞並に太田主事の挨拶其の他紅裙連の十八番及び絃歌に仲秋の芳花を添ひ互に乾盃して氏の健康を祝し、非常の盛会にして散会したるは八つの鐘の月下に響き渉る頃なりし

12 第26号2面 (明治44年10月11日)

◎春蚕概況

掃立以来天候激変なき為め蚕児の發育良好にて上簇した

るにより繭質亦優良なり、只小原・七ヶ宿の両村には遅蚕多かりしを以て梅雨に逢ひたるものありしと雖為めに病蚕発生したるもの少なく一般の景況良果を収め得たり
掃立数枚 七、七二二枚五分

良繭 (出殻繭ヲ除ク)	六一一三石	一石二付四四円
玉繭	七七九石	一八円
出殻繭	三八石	一二円
屑繭	三七四石	一二円
合計	七四〇四石	

13 第51号2面 (明治45年7月1日)

●蚕業奨励方針

本県当局の蚕業奨励方針に就ては今回更に下記の如く具體的の案を立て着々実行の歩を進むる筈なりと云へり

●奨励機関設置

一、県、郡、市、町、村の各階級に相当技術者を置きて指導奨励をなす

一、養蚕同業組合を設置して蚕種の統一及び桑園の改造を為す

一、養蚕信用組合を設置して資金融通の途を計る

●指導方法

一、講習講話の開設

一、実地指導及視察

一、実業教育の普及

●経営方法

一、今後十箇年間を期し繭の年産額を二十万石（春蚕繭

八万石・秋蚕繭十二万石）に達せしめんとす

一、飼育戸数を五万戸に至らしめ収繭額一戸平均四石に

達せしめんとす

一、專業的大規模の育蚕法を緊縮せしめ副業的の確實な

る事業たらしめんとす

14 第57号3面（大正元年9月1日）

●秋蚕は好結果にて上簇 本年度の秋蚕は掃立以来兎角

氣候不順にして飼育上最も困難なる年柄なりしも養蚕家

は何れも近年著しく飼育上に熟練し学理と実地とを応用

するに至りたれば違蚕等のことなかるべく極めて好結果

を以て上簇を了せり、残るは晩秋蚕のみにして目下一、

二齡のところは大並なるべく収繭の上物は生糸の昇進に

つれ自然高値を現はし四十五円内外に取引されつ、あり

15 第65号2面（大正元年11月21日）

●刈田柴田蚕種同業組合の創立總會

同組合にては去る十三日柴田郡立農学校内に臨時總會を

開会せり、出席者は両郡内蚕種製造業者、本県よりは河

内蚕業取締所長臨席され金成柴田郡立農学校長及大田蚕

業取締白石支所主事も臨場せり、組合長古山栄治氏開會

を宣して議長席に就き（副組合長大槻氏事故欠席）組合

定款七十一條を逐條審議されたり、各員は熱心に意見を

交換し原案に稍修正を加ひ尚ほ蚕業の發達、蚕種の改良

に尽力すべきことを約し、河村所長は斯業の爲めに訓示

する処あり、午後六時開會直に同町大兵方に於て懇親會

を開催し十二分の歎を尽し散会せり、同日議定せる定款

中其の主要なるものを示せば左の如し

一、本組合員は主として蚕種業の改善を図り蚕種の統一

を期すること

一、本組合員は蛹体検査を行ひ病毒ある種繭より蚕種の

製造をなさしめざること

一、普通蚕種には鑑定を行ひ其の成績に依り甲乙丙の証

印を爲し販売せしむること

一、組合の証印なき蚕種は販売せしめざること

16 第68号2面 (大正元年12月21日)

●刈田郡養蚕業組合総会 は昨二十日刈田郡役所内に於て開会されたるが各町村よりの出席者数百名、向田本郡長一場の訓話を試み、次いで仮会長席につき同組合定款を議定されたるが満場異議なく原案を可決し役員の選挙を了り、同会の成立を見たるが猶ほ各町村に支部を設置すること、なれり

17 第75号3面 (大正2年3月1日)

●原蚕種製造場種繭提供 本県にては明年度に於て県立原蚕種製造場をして原蚕種即ち又昔、青熟、伊達錦、国一の四種を購入し製造せしむる計画に付き詳種繭を提供せんとするものは二月末日迄に申出で、又種繭の提供を為さしむべきものは県に於て希望中より更に選択し、来る十日までに通知すとなり

18 第76号2面 (大正2年3月11日)

養蚕桑樹と施肥

農商務省にては養蚕の改良を計ると同時に桑樹の植付及施肥に関して多大の注意を払ひつゝ、あるが、従来経験

によれば桑樹も之を自然に任せ唯に摘み取りをのみ取て

成し、斯くて葉は自然に漸小を来すと共に桑樹及葉等に病的赤星を生じ、之を蚕児に給葉せんか其發育良好ならざると同時に繭の実収不結果に終り案外の違算も亦珍しとせず、当局者は茲に着目して極力研究の結果手入方法と施肥の方法とを講究されたるが、桑葉は成るべく樹の若きを好とし、施肥は其土質にも依らんが概して魚肥及び豆糟を最良とす、人糞は魚肥を混じて肥料と為さば桑葉を円大ならしむると共に蚕児に好適すと、右に付農商務当局にては大正二年度より漸次当業者及関係者に対し夫々通達する筈にきく、猶ほ施肥の時期は養蚕終了後九月末若くは十月に一回、二月末若くは三月に一、二回を施せば赤星の発生を見ること殆んどなしと

19 第76号3面 (大正2年3月11日)

刈田柴田蚕種同業組合総会

去る四日同組合大正二年度総会を刈田郡白石町蚕業取締白石支所内に開会し、出席者は刈田、柴田郡内蚕種造業者一同、本県よりは河田蚕業取締所長臨監せられ、支所よりは太田主事を初め早川、杉山、小野寺の三吏員臨席

し、古山組合長の開会の辞を以て開き、河田取締所長より原蚕種の製造及原蚕種の配付に就き縷々訓示あり、古山組合長議長席に就き左の諸件を議了し、太田主事は本年度の製造上に関し種々注意事項を指示し午後五時閉会后直に玉幸に於て一同の懇親会あり、非常の盛会にて歡を尽し散会せりと、尚ほ当日議了されたる重なる事項は左の如し

一、大正二年度の経常費及創立費の追徴

一、該組合誦体検査施行に関する件

一、普通蚕種の卵検査に関する件

一、技術員に関する件

一、本県蚕種同業組合聯合に関する件

一、原蚕種繭換供に関する件

一、蚕卵台紙に関する件

20 第83号3面（大正2年5月21日）

柴田、刈田蚕種同業組合

は昨年同業者間に創立され斯業の改善発達を計る目的にて之れが組織を成し役員認可申請中のところ、去る十二日其筋より認可されたるを以て左に其氏名を掲載せんに

組合長 越河村古山榮吉 副組合長 大河原町大槻鶴吉 評議員 大平村菊池傳治郎 同 大鷹沢村我妻伊蔵 同 福岡村武田十吉 同 大河原町小笠原喜代治 同 同佐藤周作 同 船岡村小林惣治郎 同 沼辺村吉田健吉 の諸氏なり

21 第84号3面（大正2年6月1日）

蚕桑彙報

本年度に於ける本郡の養蚕は這般の霜害にて実に六割四分の被害なれば、其飼育も随て減少し其の収繭高も例年の四割くらいと見なば大差なかるべし、桑葉の伸長も氣候寒冷の爲め發育を抑止され黄色にして伸長遅々たりしが近頃に至り漸く黒色を呈し来りたるも例年よりは収葉貫数の減ずることは明なる事実なり、而して養蚕は蚕種家にありては四眠起三、四日、普通養蚕は四眠起き位なれば遅きも十日頃迄には大抵上簇すべく、只憂ふべきは氣候寒冷なりし爲め不眠蚕・遅眠蚕を生し不揃の結果上簇間際に至り違蚕を出しなきかにあれば各養蚕家は大に注意周到を要すべきなり

社説

東北と蚕業

我邦主要輸出重要品たる生糸の産額は晩近著しき増加を呈し其貿易額は今や將に二億円に垂んとす、世界的絹物産出国の第一位を占め、其重要な三割二分は実に我が国の生産に成り、前途益々好望發展の余地あるを觀るは國家の爲めに洵に慶賀すべき現象なりとす、之れ即ち当局の奨励を蚕業家も亦養蚕家の國家的事業にして大に有利なるとに一致したる結果に外ならず、左れば益々斯業の改良進歩を企図し世界の養蚕國として其位置の輕からざるを自覚し以て品質の改善統一を図り世界の競争場裡に馳聘せざるべからざるは勿論なりとす

然れとも翻て我東北蚕業の現況を見るに逐年大に進歩發達を爲し其産額に於ても急劇の増加を來たせるは國家の爲め洵に喜ぶべき状態なりと雖とも、近時世の進運に随ひ著しき物価の昂騰は勞銀の不廉を余義なくせしめ、生産費の増加は蚕業家を苦しめ現下の糸価を以てしては養蚕の經濟状態に少なからざる影響を与ひ、養蚕業者をして到底収支償はざる業なりとの嘆声を發せしむるに至

る、斯業の前途の爲め洵に寒心にえざるところなると同時に大に識者の研究を請はざる可からざる問題なりとす、加之東北の如き比較的氣候寒冷の地にありては屢々霜害の襲ふところとなりて甚だ不確立なる業態なりとの感念を抱かしむるに至れり、一面米麦は益々昂騰して頗る有利の業となり來りたれば、農家は早くも桑園を廢して米麦作に転業せんとするの傾向を呈し來れり、蓋し現下に於ける農家の經濟状態は養蚕に比し、米麦作の遙に有利にして且つ安全なるは何人も否定する能はざるところなり、昔は生糸百匁にて米壹駄(八斗)を購ふことを得たるも、今は米壹駄を償んと欲せば生糸四百匁にても尚足らざる勘定となれり、如斯數十年間に相場の転倒したるは、一は人口の増加に伴ひ米麦の不足を告げたと、一は世界に於ける糸絲産額の劇増によりて、需要の割合に騰貴せざるに依るは瞭なる事實なりとす、生絲は本邦唯一の貿易重要品なるに相違なきも諸物価に比し頗る廉価の生糸を奨励輸出し、不廉極まる米を輸入し、國家は之れが爲め年々尠なからざる損失を招きつ、あるは疑ある可からず、要するに当局も農家も余りに蚕業に重きを置き、米麦作を輕視したるかの感なき能はず、近時我東

北農村の疲弊したる原因については凶歉其他種々あるべしと雖とも一は確に養蚕に主力を傾注し、霜害、違蚕、糸価不振等を屢々繰返したる結果に外ならざることを断言するに躊躇せるものなり。

之れを要するに我が東北の農村は昔時の如く米麦作を本位とし養蚕は副業として余りに多く飼養せず、一朝災厄に遭ふも一家の経済上多大の影響を被らざる程度に於て飼養すべきことを心掛ること肝要なりとす、論者或は謂はん、如斯きは世界に冠たる我扶桑国の蚕業を萎靡せしめ、これまで発達したる生糸の産額を減少せしむるの虞ありて国家経済上策の得たるものにあらずと、こは決して憂ふるに足らず、我国人口の増加は懸て山林原野の開拓せらるゝあり、学理の応用研究は生糸産額を自然に増収すべきは当然の理なり、況んや我が東北の如き広漠たる原野を有する地方なるに於ておや、若し仮に産額の減少することあるも、前述の如く不経済なる養蚕を強いて飼養せしむるの要を認めず、養蚕は決して大業に飼養す可きにあらず、多く養ふときは籠略に陥り易く割合に収穫尠なし、之れを家族的に少量を飼養せは総ての点に行き届き割合より以上の増収を得るは何人も首肯するとこ

ろなるべし、されば養蚕家は深く此点に留意し勤めて副業的に経営す可きことを切に勧告する所以なり。

23 第85号2面(大正2年6月11日)

刈田郡に於ける米麦と養蚕との比較

当町素封家渡邊佐吉氏は郡経済の状態に就ては常に細心の注意を払はれ苟も不利益な点を見出したる時は卒先之れか矯正に努力し種々なる方法と手段とに依りて郡の利益を増進せしめらるゝことを期待されつゝあり、而して近時米麦と養蚕とに於て比較するに莫大なる差違あるを認め自ら之れが調査を遂げられたるに実に左の如き結果を示されたにより之を發表して聊か当業者の参考に資せんとす

(大正二年五月廿九日調査)

刈田郡一町十ヶ村桑畑及霜害調査

畑反別二千四百七十五丁歩

内桑畑千四百七十五丁歩

麦、大豆、野菜畠反別五百七十丁歩

外貳百丁歩桑畑原野に於て増歩し

七百五十三丁歩に対し麦の収獲一万七千貳百三

十一石

大豆作付の反別五百四十八丁八反

此收穫四千七十一石 此割合大麦一反に付二石三

斗、大豆同八斗六升

一反当麦貳石三斗 石八円五拾銭、金拾九円五

拾銭

一同 大豆八斗六升 石拾壹円、金九円六拾銭

二毛作にすれば金貳拾九円拾銭、之を全部の反別二千四

十五丁歩にて計算するときは麦に於て三十九万八千七百

七十円、大豆に於ては十九万六千三百二十円、麦・大豆

の総収入金五拾九万五千余円

桑畑の收穫（一反歩百貫匁の見積）

反別 千四百七十五丁歩 百四十七万五千貫匁

之れを拾貫匁一円とすれば金十四万七千五百七十七円一反歩

の見積收穫十円、麦、大豆畑千四百七十五丁歩に対する

收穫金は四十三万七千五百五十円、此の計算にて二十八万

四千二百五十円、外に桑畑の爲め肥料代二万五千円と計

算するときは三十万九千二百五十円、右は麦、大豆、桑

畑の相違金にして

郡内養蚕家戸数 千二百三十一戸

掃立枚数 百二十万七千三百枚

此給桑量 三百六十万貫匁

此 金 三十六万円

生産額 三万六千円

合 計 三十九万六千円

収 穫

良 繭 八千六百石（石四十円）

此 金 卅二万四千二百四十円

玉 繭 千六十石（石十八円）

此 金 一万九千円

屑糸繭 二千八百四十七貫（九十割）

此 金 二万五千円

真 綿 十一貫八百匁

此 金 二百二十円

合 計 金 三十六万八千四百余円

にして差引生産をするときは実に二万七千六百円の損失
を見る、之を十年前に对照すれば生糸は三分の一に下落
し、二年前に比すれば四分の一に当れり、何となれば桑
園の如きは收穫の減収及霜害のため五年前に对照すると
きは桑葉一円に付五、六貫匁位のは十貫匁迄下落し

減収等によりて二分の一となる、麦・大豆に於ては年々高値を唱ひ不作なし麦は石九円、大豆十一円とするときは五ヶ年前の二倍に当る、之等の関係より右の如き差違を生ぜしむるに至る

養蚕家として五ヶ年前と今日とは繭の値段として二割五分の下落、生産費として諸物価及米麦高値の爲め三十五万円の損害を蒙り居れり、故に農家は眞の副業として昔の如く留守居の者にて蚕座四、五十枚位の養蚕を飼育するを適當とす、然らざれば田の手入及肥耕を減じ田植の季節遅る、等にて稲作に於て二割減は炳として明かなり、刈田郡田地の反別二千百丁歩、平作の收穫米三万石と見て二割の差は六千十石なり、石二十円と見るときは十二万円の相違にして前述の損失金を合するときは実に四十五万円の損失となり、戸数六千四百九十戸に対し一戸七十有余円に人口四万三千三十七人に対し一人当り十円余の損失をなしつ、ありて郡村の爲め将國家の爲に海に憂ふべき現象なりと云はざるべからず、今仮に明治三十七年より同四十五年迄の本郡農村の經濟状態を觀に少なくも三百万円の損失をなしたりと見做することを得べし、之れ独り本郡農村のみならず國家の一大研究問題と

して識者の一顧を乞はんと欲するところなりとて氏は熱心に是れが救済法を講じつゝ、あり

24 第86号2面 (大正2年6月21日)

本年春蚕予想

掃立減少収繭増加

本年初春に於ける氣候は一般に寒冷なりしを以て蚕児の飼育に困難を感じたる地方ありしも其後天候適順に復したるを以て桑葉及蚕児の成育共に良好に向へり、然れども労銀の騰貴、糸価の不振又は一部に於ては米価騰貴等の爲め掃立を手控へたる地方あるを以て掃立総数二、六四八、一九四枚にして前年に比し四千四百九十三枚を減少せるも当業者の熱心及飼育法の改良等により其収繭予想高は二五七三九二六石にして前年に比し四千百六十石の増収を見るべき見込なり

(農商務省統計課)

【本書統計編 表18】

25 第90号2面(大正2年8月1日)

秋蚕掃立を昨年の倍

本郡は春蚕に於て五月九日の大霜害にて全滅したる村落尠なからざるか、之れがため桑樹の苅取り早かりしと氣候の適順なりしとにより桑の伸長良好に繁茂したれば春蚕の全滅されたる養蚕家は殊更に掃立を早めたるもの、如く早きは去る廿四、五日頃に掃立を了したる向も尠なからざるか、普通掃立は昨今真最中にて掃立は前年に比し優に倍数の模様なり、爾後晴天打続かはこれ又良好の結果を観るや疑なし

26 第90号3面(大正2年8月1日)

白石製糸会社の現状に就き株主諸君の猛省を促す

『上』

在京 潜電子

白石製糸機業株式会社は今日に於ては将来は如何なる事業起るや知れざれど、我郡唯一の大組織なる会社である、而して其重役も郡内屈指の実業家若くは名望家が当たられて居る、随て此会社事業の盛衰は郡の名声に拘はるは明かなる次第ではないか

然るに其現状如何、遺憾ながら盛況と云ふ事は出来な

い許りか、連年欠損続きの悲境である、諸君は此事業を目して郡事業と云ひ、株式組織に変更せる今日に於ても尚ほ郡立と唱へて居る程なるに、此不結果にては実業界に於ける郡の名声は零となり、随て郡内実業家の手腕も疑はるゝに至るではないか。

世人は笑ふが嘲けようが、其様な事は構はぬとしても、株主たる諸君が更に配当を受くる能はざるのみならず、年々欠損が積り資本が減耗して行くに於ては堪えられぬ事ではないか、是余が諸君の猛省を促す所以である

会社経営の實際、其内情如何に至つては不幸にして余は知悉せざるが故に、夫に関する詳細の批評を為す事は出来ぬ、又之を為すを好まぬを以て今回は之を避くる事と為し、世に公にされたる会社の事業報告に現はれたる点に就て愚見を述べて見たいと思ふ

先づ此事業報告を一見したる人は、会社の今日の不成績は何に因るかと云ふ事は直に見出す事を得るにあらざるや、夫れは何かと云ふに資本の不足である、資本不足なるが故に多額の借入金となり、其利払の爲めに、事業より得たる利益は悉く取り去られ尚ほ足らずして欠損の計算を現はすに至る、因是觀之今日の経営は株主の爲めに

為すにあらざりて、資本家〓株主以外の〓則ち資本供給者のために為し居ると云ふ姿である、実に馬鹿々々しき次第にあらずや、今日に於て是が救済策を講せざるに於ては重役諸君が如何に努力するも、又奮闘するも、到底救ふべからざる悲境に沈淪し、株主は利益の配当を受くる能はざるのみならず、終には欠損補填のために株金の払込を強要せらるゝに至るやも知るべからず、豈に寒心の至ならずや

27 第91号3面（大正2年8月11日）

白石製糸会社の現状に就き株主諸君の猛省を促す

『下』

在京 潜電子

医師の病を治むる先づ其原因を知るを専とす、原因明かにして夫に適薬を投ずれば病必ず治すべし、事業の回復を計る豈に之と異ならんや、然るに白石製糸会社悲境の原因前述の如くなりとすれば、其救済策は容易である、即ち株金の払込みを執行し以て資本を潤沢に為し、資金を借入れざることとせば利子だけは慥かに儲ではないか見よ前年度に於て資本家に支払たる利子は金七千九百六拾六円五拾九銭〓外に工場払下年賦金利子三千九百八

拾五円は除く〓にして払込金九万円に対しては八分八厘七毛強に当る、若し此借入金なかりしとすれば五分の配当を為しても尚ほ三千円以上の繰越を為し得らるゝ勘定ではないか、尤も払込を為せば利益割合の遞減は免れざれども資本家のために事業を為すよりは利益にあらずや

会社の資本金參拾万円なるに創立後既に十四年にして払込額僅に九万円に過ぎず、銀行業・保険業等の如く、常に資本を必要とせざる事業は兎に角、最も資本を要する工業会社に於て斯く払込の少きは天下他にあらざるべし、夫れがために資本家をのみ利益するに至りては株主たる者大に考へざるべからざる事にあらずや

経営策を誤り居る事以上の如し、是れ重役の罪か、株主の罪かと云ふに、重役素より罪ありと雖も、余は株主にも罪ありと云はざるを得ず、何となれば第二回払込の際重役は一株金五円の家を出したるに、株主総会は之を貳円五拾銭と決議したるにあらずや、余は其理由は知らざれども払込困難と云ふに外ならざるべし、果して然らば今日会社の悲境は株主自ら招きたる結果と云はざるを得ず

人は云ふ、今日払込を強行すれば、株式を売却する者

多く出づべく、自然郡外に売却せられて郡事業と云ふを得ざるに至るべしと、是れ郡民の利益を計らんとの考へならんが、払込を為す力なき者にて強て株主たらしめ置き、夫れが為め払込を遠慮して会社は欠損を来たし、其損失を株主に負担せしむるに至らば郡は益々貧乏となるに過ぎざる結果を来すに至るべし、故に今日は斯る陳腐なる思想を棄て、会社の為めに計らざるべからず、現に他県人にして大株主となり居る者あるにあらずや、聊か愚見を述べて株主諸君の猛省を促す

28 第92号4面（大正2年8月21日）

●秋蚕良好

秋蚕は掃立当時氣候稍々冷氣なりしも其後天候回復し發育佳良にして目下早きは上簇期にあるものあり、普通は四眠起き位なるも概して良好なれば其の収繭量も頗る多かるべき見込なると糸価昂進の為め人氣大に回復したれば此の秋は近年になき好景気なるべし

29 第103号4面（大正2年8月21日）

森知事の本県蚕糸業独立論を聞て予か希望を述べ

附記

磐洲生

白石実業新法記者足下予輩は蚕糸界に何等関係なしと雖とも知事の偏見なる点あるを以て敢て此論を作る貴紙の余白を割受せられんことを一言す

這般森知事は本県蚕糸業の不振を憤慨し県下の蚕糸業者を招集し斯業發展上に就き協議を開きしと聞く、是れ蓋し時期に適切なる会合として称賛するに足る、然して知事は本県蚕糸業の独立を論じて曰く、蚕糸業は国家事業なれば県下蚕糸業に關係するもの奮励努力以て本県下の蚕糸業は宜しく独立せしむべく決して他の蹂躪を為さしむ可かずとなす

更に之を細説すれば曰く、本県下養蚕者の手に依りて産出せしめらるる蚕繭は本県下製糸業者の手を以て繰糸し繭其俣にて他府県に輸出するか如きは断じて不可なりとす更に進んで本県製糸界の不振を憤慨し茨城県人兒嶋某を聘して製紙経営上の講話をなさしめ、又涌谷製糸場の休止せるものに補助を交付し、兒嶋某に経営せしめて模範製糸場となし一般製糸家をして之に倣はしめんと聞く、

又曰く他府県人にして本県内に来り蚕繭買入の防過策を講ぜんと、又曰く蚕繭の統一を謀り売買法を費量取引となさんと、又曰く製糸工男女の他府県に輸出するものを禁ぜんと、曰く何曰く何と製糸家及養蚕家を保護する点に於て予輩其尽せるを喜ぶ予輩は本県蚕界の為に良二千石を得たるを祝す、然るに上記したる如く本県養蚕者の産出したる繭は悉く県下製糸業者の手に依り繰糸せられたのみを以て本県の蚕糸業界は独立せりと云ふを得べきや、予輩は甚だ感なき能はず、何となれば蚕糸業なるものは蚕種家、養蚕家、及製糸家の三社を含有せるものなれば二者独立せりとして蚕種の独立を等閑視するに於ては眞の独立と云ふを得ざるべし、見よ一度眼を蚕種界に投ずれば製糸の夫よりも一層慨嘆に堪へざるものあらん左に之を論ぜん

本県内養蚕者の数三万戸之れか掃立枚数三十万枚を下らず（特別蚕種として）内三分の一即ち十万枚は本県製蚕種とし、三分の二即ち二十万枚は他府県蚕種とす、今一枚を仮りに五十銭として見積り二十万枚即ち十万円は年々他府県に放資せざるを得ざるなり、然らば本県下蚕種の製出は一ヶ年特別蚕種三十五万枚、普通蚕種二万五千枚

を産す検査も亦真面目にして病毒歩合頗る佳良、他に比して優良種を産す、如斯にして年々他府県蚕種の輸入多し、為めに本県産のもの剰余の止むなきに至る、然して一方に於ては蚕種代の為めに十万円を放資し、一方に於ては蚕種残余の為めに十万円を失ふ、故に只単に蚕種に於てのみ差引二十万円以上を県経済の上に於て損失を招く、県民として豈徒らに黙す可けんや

之を近県の例に見よ、山形県の如き数年以前は他府県より著しき輸入蚕種ありしも県に於て大に見るあり種々の方面より防過策を講じ、現今は他府県蚕種にして山形県に入るもの一枚もなしと見て可ならん豈快哉の極みならずや、然るに翻て本県の状況を見よ、県と云はず郡と云はず共同購入の者、信用組合の者曰く何曰く何何れも皆遠き他府県蚕種を奨励し得々として顧るなし、他府県の蚕種家なるもの極めて商界に富み実質に於て粗製濫造のものなりとも甘言以て人心を引き、或は当路者と結びあらゆる手段を以て蚕種の販売に従事し、為めに年一年と一層多きを加ふ、（結論）之れを要するに本県蚕糸業を独立せしめんとして製糸業者の為めに県費を要してまでも奨励せんとならば百尺竿頭に今一步を進め蚕糸業の根

源たる蚕種の独立を謀られたし、前既に解論するか如何
他府県蚕種にして本県を蹂躪する斯の如くにして如何ん
ぞ蚕糸業の独立を云々するを得んや、若し知事にして真
に蚕糸業の独立を得るの精意あらば他府県蚕種の輸入の
如きを防遏するに何に手数を要せんや、予輩は県下蚕種
業者の爲めに將た県蚕糸業独立の爲めに知事の一考を促
し敢て一言を呈す。

30 第109号5面（大正3年2月11日）

刈田柴田蚕種同業組合通常総会

去る二月一日午前十時より刈田柴田両郡蚕種同業組合の
通常総会の柴田郡大河原町尾形尾形館に開会し、同組
合員貳十五名出席、県よりは河田蚕業取締所長、白石支
所よりは太田主事及早川、小野寺の両吏員臨監、午前九
時より評議員会を開き大正三年度の予算及総会に附議す
べき議案の審査をなし終て午前十一時総会を開会し左の
件を議了す

- 一、大正三年度収支予算
- 二、組合員の戸数割賦課徴収期間変更の件
- 三、証印料の金額を定むる件

四、聯合会委員選挙の件

五、蚕種台紙を一定するの件

六、諸届用紙を調整する件

七、消毒用薬品を購入するの件

八、旅費額支給内規に関する件

九、蚕糸業大会に出席報の件

右の外数件を議了し、河田蚕業取締所長一場の訓示を与
へ、太田主事より大正三年度蚕種製造に付き注意の事項
を指示し午後三時結了閉会後直ちに懇親会を開き、大沼
幸右衛門氏開会の辞を述べ、次で古山組合長及金成柴田
農学校長の所感の辞あり、頗る盛会にして午後五時閉会
尚総会に於て第五項・第六項・第七項は評議員会に一任
することになりたるを以て二月十五日頃評議員会を開き
是を確定せんが為目下調査に従事しつゝありと

9 名産

1 第3号3面(明治44年3月1日)

●山文製麺所 当町に於て最多額の饅麵を製造する同商店は一意専心斯業に従事し、原料を精選し製造せらるゝ、により山大印の声価大に昇り販路は主に相馬地方なり

2 第4号1面(明治44年3月11日)

社説

製紙業に就て

我が白石の地たる工業本位を以て立てるの地たり、然も製糸に製粉に將た製麺に、其他種々なる工業は輓近著しき發達を告げ今や一の工業地たらんとすと雖、最も古き歴史を有せる製紙業に至りては遅々振はざるや久し、抑も紙は我国産として、昔は片倉家より近衛公を経て、年々玉捧書を献納せしものにて、藩は此等製紙を業となすものには、相当の扶持を与へて奨励せられたるものにして則ち其保護政策を採しに徴しても如何に製紙の重視せられたるかを知るべきなり。

爾來製紙は農家の副業として何等顧るものなきが如きは吾人の最も遺憾とする所なり、抑も紙は社会文運の發達に伴ひ需用の激増を來たすは明かなる事實にして、何人も疑ひを容れざる所なるべし、然るに現今の製紙状態を視るに一の顧慮するものなく只に農家の副業に委するのみにして、当業者は亦徒に旧慣を墨守し、些も改良進歩の状なく、否寧ろ退歩の状あるが如きは吾人の常に遺憾とする処なり。

由來東北の地たる是れが原料豊富にして現に静岡・越後及び東京方面へ輸出せらるゝもの甚だ尠しとせず、是れ則ち明に製紙業の退歩を示すものにあらずや、此時に当り我実業家諸氏は、大に茲に着目せられ、大規模の製紙工場を企画し、是れが改良を謀り博く世の需用に供給し、以て利源開發の一端にせられんことを。今や我白石町は、金融機關完備し動力亦豊富にして加之原料は無尽蔵と称せらる、若夫れ水利の便に至りては県下何処にか其比を見ん、斯くも完備せる機関と充分なる原料とを有し何をか憂うるの要あらんや、一日の遲疑は国家一日の損失にして亦不経済の極と謂はざるべからず、此種の事業の好適たるや豈独白石のみと謂はんや、吾人は東北至

る所に興隆せられんことを希望して止まざるなり。

3 第17号3面 (明治44年7月11日)

●馬市開場さる

昨日より向ふ五日間

当町に馬市開催されしは已に数年前の事なりしが、爾来各地の気受よく随つて本年も昨十日より向ふ五日間開市され当町古本町に数十間の馬小屋を設け隣県は勿論各県よりの良馬も多数見受けられ中々の好況を呈しつゝ、あり

4 第18号3面 (明治44年7月21日)

●白石の馬市

去る十日より十五日に至る六日間開催せる同馬市は非常の盛況にて出入馬匹数二百九十頭、是れが売買全金額一万四千五百円余にして、馬糧の如きは年々近郷の細民により供給さるゝものなるが、今年の如きは前年より盛況にて不足を告げたる程なりと

5 第25号3面 (明治44年10月1日)

●鯺麵製造同業者総会

白石町同業者三十余名は去九月十九日午後一時より相川分店に於て総会を開き、白石町特産物なる鯺麵の改良を図り以て声価をして益々昂めん事を議する処ありたり

6 第27号3面 (明治44年10月21日)

●馬牛沼の鯉漁り

既報の如く去る十七日の早朝より打ち揚げたる数十発の煙火を合図に鯉魚捕獲の開始を報ずるや、観客の老若男女四方より群集し遠くは仙台、福島より汽車にて越河駅に下車し来るありて午前十時頃にはさしにも広き沼畔も人を以て充たされ、数十名の壮者は沼の真唯中の泥に半身を没し澁漉たる尺余の大鯉を抄へ上ぐる、其壯観は愉絶快絶思はず人をしてヤンヤの声を発せしむ、空天には絶いず煙火を打揚げ振天動地の盛観に興を添るあり、南方の堤上大樹の下には紅白段々の幔幕を引き廻らしたる棧敷あり、之れぞ当日の主賓たる寺田本県知事を始とし向田刈田郡長、仙台日々・河北新報記者等にして、主賓は午前十一時列車越河駅着にて来場あり、幔幕を廻らし陣取りたるは各町村の有志家数百名、鯉の洗に鯉こくに舌鼓を鳴し飲めや謠いの大騒ぎにかてて、加ひて午後よ

りは福島より紅裙連の来り会するあり数番の舞踏杯ありて興を添へ、木枯しの寒天に時なるぬ紅葉を散したるが如く其美観云ふばかりなし、かくて紀念の撮影杯あり三々五々帰路に就きしが何れも二、三尾の鯉を携ひざるなく晩酌の食膳に舌鼓を打たるものも定めし多かりしならん、洵に近來の盛観にてありし

7 第29号3面 (明治44年11月11日)

○馬牛沼の魚捕り

齋川村和泉養鯉場に於ては明十二日馬牛沼に飼養せる鯉魚大売出しの由にて、沼水悉皆搔干し其場に於て浚漑たる鯉魚速売を為し、当日は特に諸名士を招待し鯉魚捕獲の盛況を観覧に供する由

8 第29号4面 (明治44年11月11日)

●岡政商店の新菓売出し 停車場前の岡政商店にては当地物産の温麵を原料として精製したる糸錦と称する新菓を本日より売出す由なるが、其味の美なると体裁の高尚優美なるとは確に物産としての価値ある菓子なりとのことなれば定めし其売行好況なるべし

9 第33号3面 (明治44年12月21日)

○干柿を盗まる

白石町彦助横丁の菱沼清太郎方にては裏の物置に柿を干し置しに何者にか再三窃取さるより、不審と思ひ注意し居りしに二十六日午後八時頃一人の婦人の干柿を窃取し居るを発見し取押へたるに、同夫人は附近なる某吏員の妻なるよしにて清太郎方と吏員方にては目下悶着中なりと

10 第36号1面 (明治45年1月21日)

特産鯉麵の前途に就き

当業者の反省を促す

我が地特産の鯉麵は遠く元祿の昔より伝はり、爾來日に月に進歩發展をなし、東北に於ける製麵地として大に名声を博しつゝ、あるは既に世に知らるゝ所たり、而して之れが生産額も年と共に益々多きを加へ前途好望に産たるを失はず、而して其の得る所の利益も蓋し尠なしとせず、然れば当業者は常に製法に注意し、原料を精選し、包紙・容器・俵装等に至る迄改良を施し時勢の進運に随ひ以て需用に応ずるの覚悟なかるべからず、然らざれば往古よ

りの特産も遂には衰退萎靡振はずして挽回し得べからざるの悲境に沈淪するに至るや必せり、而して我が生産者は果して常に此点に留意して以て時勢に応ずるの覚悟ありや、吾人は大に疑なき能はず、何んとなれば近時徒らに価格の低廉を旨として漸く粗製濫造に陥り、特産白石饅頭の声価を傷けつゝ、あるは吾人の屢ば耳にする所、豈懐嘆せざるべけんや、之れには種々なる原因の存するなるべしと雖も一部の商人は眼前の利益に吸々として粗悪なる原料を買入れ製造せしめたる結果に外ならず、昔は手製のみなるにより粗悪なる原料を以てしては製造し能はざるものなりしも、近時学理の進歩は機械の発明となり製麺界に一新紀元を与ひたると同時に、手製にありて製造し能はざる原料も、機械を以て製造する時は使用し得るを奇貨として粗悪なる製品を産出するに至りたるは争ふべからざるの事実たり、甚しきに至りては一定の量目を減じて不正の利を貪らんとするの奸策に出づるものあるを聞く、奚んぞ其の心事の陋劣なる、思はざるの甚しき、由来我国の商工業者は道德觀念に乏しく、稍もせば此種の不正を敢てして顧ざるが如きは珍らしとせず、斯の如きは産業の発達を阻止し商業行為の円満を欠き、

特り地方の産業発達を阻害するのみならず、延ては国家経済に影響を及ぼすこと甚大なりと云ふべし、生産者は今にして覚醒し大に改良を加ひ面目を一新するにあらずんば我地唯一の物産たる饅頭の前途も根底より危からんとす、見よ我饅頭の需用地として最も多く輸出しつゝある所の福島、山形の各地に於ては勃然として斯の種の事業起り機械に依る製法により電力を応用して盛んに製造しつゝあるにあらずや、而して其製品を一瞥するに我の機械製に優ること数等、若し我が生産者にして現状に甘んずるが如きあらば此特産饅頭をして終には自滅せしむるに至るやも知るべからず、故に吾人は筆を秃して当業者に対し一大覚醒を促す所以なり。然らば如何にして之に対戦し凱歌を奏するに至るべきかは大に研究を要する問題たるべし、先づ吾人の提議は生産組合を起し原料及び製品の取締法を設け、検査所を設置し、検査票を附するに非ざれば決して輸出せしめざること、なし、容器の如きも従来のその如き古箱を用ふるを嚴禁し、俵装を改良して真に文明国の食品に恥ぢざる底の体裁を為すべく、一方生産者にありては原料を精選すべきは勿論製法に注意を加ひ干燥を完全に為すと同時に、包紙の如きも

一定の図案に依り、製造者の姓名及び印を附して其の責任を瞭にし以て粗製を防ぐの要具とし、斯の如くにして両々相俟つて一大革新を企図したらんには或は白石饅頭の声価を益々發展改良の実績を挙ぐるの径路たらんと信す。

11 第47号5面(昭和45年5月11日)

寄書

特産温麵ノ審査法ニ就テ

川村豊吉

空前の壮挙は目出度し目出度しの大団円を告げた、過去数月の間、寢食を忘れて東奔西走せし官民諸氏の労苦に付いては、吾人地方民は只々感謝の外は無い、然り、蒔かれし種は、近き将来に於ての事業界に一期を画する光彩を放つであらう。此際吾人当業者として、特産温麵の審査に付いて、所信を述ぶる、又必ずしも呉下の旧阿蒙たらざるを思ふ。我をして忌憚なく言はしめんか、今回の審査法は、根本的に其の方法を誤れりと断言して憚らざる所なり、古来特産温麵の声価を中外に挙げたる所以のものは、実に旧領主以来手製温麵の存在に由つてな

り、最近文明の進運は、器械製となり或は水車に、或は電力に、多々益々盛況に向ひて、停止する所なきも、器械製の如きは、今日随所に、之を経営す可く、技術に於ても、何等の秘伝を有せざるなり、共進会審査員は、此似て非なる所のものと同視し、然も前者を以て後者に劣れる者となすに至りては、之れ一場の喜劇覚え、人をして、噴飯に堪へざらしむ。殊に斯業に於ける何等、風馬牛相関せざる審査員が而も、当業者たる参考人をも立会せしめざるに至りては、審査の真意を没却する所なきか、閉会に先立ち一日余は、事務所を訪問して、審査の方法を問はんとせり、則ち品質本位か、技術本位か、産額本位か、將た又平素の成績を参考にせしかと、而も渠は多忙と、不在との口実を以て遂に、其意を達する能はざりき、然れども斯の如きは、何れも枝葉の問題のみ、手製を以て似て非なる器械製に劣れる者となし加之製麵業にとりては赤子に均しき無経験なる審査員が斯道の老練家を参考人ともせず、机上編の空理の下に、決定するに至りては、事の真相を誤る、又止むを得ざるなり。我豈に只に言を好まんや、誠に斯業に取りて、止むを得ざればなり。是を要するに、今回の審査は公平、不公平

の問題よりも、寧ろ根底に於いて、其方針を誤れりと云ふの外なし、審査員諸君以て如何となす。

12 第57号3面（大正元年9月1日）

●灯台下暗し 刈田郡斎川村佐藤治平氏は疝の妙薬孫太郎虫丸の本舗として熱心拡張中なるが、此丸薬は小児に飲み易く小児の疝諸症には慥かに偉大の特効あり、客月白石寿町理髪店主長男俊雄坊（五つ）の疝の如きは立ち所に快癒したりとて近頃は近傍にも好評嘖々たり因に白石町にては停車場前山田清六氏取次販売し居ると云ふ

13 第63号4面（大正元年11月1日）

●馬牛沼干し 期日も愈々旬日の間に迫り、目下和泉養魚場にては子息良助氏監督の下に諸種の設備中で中々忙はしく、数十の大小網及百余の運搬用担桶等の修繕或は新調等、又捕獲せる鯉魚を收容すべき池の準備工事など大した仕事で着々其備設に奔走しつゝあり、尚本紙上に期日をハッキリと掲載し得なかつたのは本年は是非寺田本県知事の臨場を乞ふと云ふ訳で出仙中の向田刈田郡長より知事の都合を打合せ中であつた為である、当日は必

ず臨場せらるゝことなるべし、又各所に張出しの広告もあること故、公衆は之に依りて知ることを得べし、尚当日は各地より団体の観覧者も多数あるべしとの事なり、而して観覧者の為めには斬新奇抜なる火花数十本を打揚げ、又各種商人等の店張りもある事故中々の盛況なるべく、尚鯉魚の割引大売出しは破格の廉価なれば僅かの価丈でも途中持帰るに困難する程故、観覧者は前々から大幅の風呂敷か、又は古新聞紙を沢山準備して行かるゝが肝要との事なり

14 第64号4面（大正元年11月1日）

●孫太郎虫問題 斎川特産の孫太郎虫は地方河川より採集し、之を煮沸乾燥して売出するものなるが、客月十五日大河原稅務署員突然同村に出張し問屋なる佐藤、島貫両家に臨み、同虫は小児疝の妙薬として販売しつゝあるものなれば爾後売薬として取扱ふべし、現在の物品に対しては即刻印紙を貼用すべき旨を命じ帰任したり、茲に於てか両問屋は勿論此虫を採集し糊口を凌ぎつゝある細民は尠からず狼狽し、同町協議の結果先づ此虫は果して売薬とし免許せらるべきものなるや否や県知事の伺書を提

出すべき事に協議し、又本問題は延いて一村生産の前途並に細民の経済上に影響する事にして、殊に数百年來名産として売出す来りたる事なれば同村としては決して軽々に観過すべき問題にあらずとなす事由を村長に具陳し、翌十六日伺書を認め同町惣代としては高貫彦次郎氏並に問屋佐藤治平、高貫馬治及和泉同村々長の四名、同日宮城県庁警察部に出頭伺書を提出し種々質問したりしに、此虫は決して売薬に属すべきものにあらざれば地方庁としては到底免許を与へざる旨を談ぜられ一同稍々愁眉を開きたるも下命官庁たる税務署側の意志甚だ不明なれば、一行は直ちに仙台税務監督局へ出頭伺ひたるに曰く、此虫は小児疳の妙薬として売出し又妙薬として服用するものなれば売薬と見做し取扱ふものなりとの事なりしと、茲に於てか營業者は到底此虫を売薬として取扱の困難なる事由を詳陳し、若し包紙等に入れ之を破壊するに非らざれば取出すことを得ざるの装置をなすに於ては如何なる変化腐敗等のものを販売するに至るやも計り難き旨を上申し当日帰村したるに、此程税務署の取扱方針又々一変し若し効能を附さず販売すれば従來の通り印紙を貼用せざるも可なる事となりたりと云ふ、されば決局

は従來の通りなりたることなれば同村に於ては税務署に於ける甚だ徴税主義の酷なるものありとて批難し居ると云ふ

15 第66号4面（大正元年12月1日）

鯉魚の話

早川牧場 魂仙子

天澄み気清き去る十七日の日曜は近頃得難き秋日和、杖を郊外に曳き四辺の紅葉を賞するさへ一入の眺めなるに、白石より南一里十八丁にして馬牛沼鯉捕りの壯觀に加ふるに斬新奇抜な百数発の大煙火を打揚げ、振天動地の盛觀を見ては皆さんは一日の清遊を馬牛沼畔に擅にし、黄昏一包の澁澗たる鯉魚を家苞に定めし食膳に時ならね賑へを供せられしこと、思はるゝ、私は例により時節柄少しく鯉魚の話を致しませう

鯉は本邦各地到る処に之を養殖して居ります、身は扁く口は割合に小にして細鱗三十六鱗あり、背中の鱗は一道にして毎鱗一点の黒文あり反目せず故に之を六々魚と云へます、古來其の美味に於ては一般に淀川の鯉は琵琶湖の産と共に第一に推賞せられて居る、東京市場にては利

根川の産殊に名物として有名である

一体天然産と養魚場産の鯉とは其の風味其形容に於ても多少の相違がある、即ち天然産は身長くして肉付丸く肉の締りは適度である、之れに反し養魚場産は身短く肉付扁平にして肉軟かなれば一見して両者を区別することが出来る、近年農家の副業として稲田の養鯉が流行して来たがこは頗る喜ぶべき現在である

鯉の料理法には種々あれども夏期は洗ひがお定まりにて、其他フライ、飴煮などにも作る、冬期は鱗を脱せずして筒切となし味噌煮となす、其鱗は軟かにして味更に佳なり、所謂鯉こく又鱗汁と称するものにして最も普通の料理法にして且つ上饌に供せらる、鯉に泥臭あるものは初め其の口より酢を注入すれば其臭気を除去し得らるべし、又蛹を餌に用ふれば肉に臭気を附するを以て市場に売出すものには之を与ふべからず、古来鯉は婦人の乳量を増すの効ありと称し、産婦の滋養薬にも用ゐられて居る、鯉の化学的成分は左表の如く其の肥瘠に因り又は其種類年齢等に因りて多少の差異あるを免れず

鯉魚 水分 蛋白質 脂肪 灰分

本邦産 七、八八六 一八、四九 〇、八三 一、三七
欧州産 七、八四三 一九、〇七 一、二六 一、二四
鯉味噌 五、五二〇 一九、九五 四、八九 九、二九
(鯉味噌は岐阜県産にして水産試験所の分析に依る)

16 第75号3面 (大正2年3月1日)

●製紙業に関する講話 本郡にては明二日農商務省より技師、本県より小泉工業技手を招聘して製紙に関する講話を開催さる、筈、有志者は奮つて参聴せらるべしとなり、次で当日は両講師実地視察を了して、翌三日越河村に趣こかる、予定なりと

17 第76号2面 (大正2年3月1日)

◎製紙講話会

既報の如く農商務技師樋口春一氏は去る二日本県技手小泉榮二郎氏を伴ひ越河村に於ける製紙業者の実地視察を了し、翌三日大平村に赴き同業現場を臨検し午後一時より同村威徳寺に於て斯業に関する講話あり、会員五十余名、本郡よりは向田郡長、高橋郡書記随伴、親しく斯道の開発に努められたり

18 第87号3面 (大正2年7月1日)

●滋養菓子界の大王 刈田郡斎川村佐藤治平氏は特産物として全国に有名なる孫太郎虫の本舗なるか、氏は此の滋養に富む該虫を原料として孫太郎煎餅を発売せんと本年二月農商務省特許局に出願中の処、漸く本月十九日登録済となりたれば愈々来八月一日より売出すべき計画にて、目下他府県地方より特約販売の申込も多数ある由なれば郡内各町村にも特約店の数を限りて申込に応ずることなり

19 第88号1面 (大正2年7月1日)

刈田風土記 (一)

在大阪 周水

◎松川の流域 松川の水まさに白石川に合せんとする処地磯角桑園麦圃甚だ適せりといふを得ざれど一望里余眼界の及ぶ所皆桃林ならざるなし、北白川の停車場を下りて渡舟に竿さす已に風流なるに足一度向山地内に入れば歩々桃樹囁目皆紅白の彩雲に覆はれ春の長閑さは茲処ばかりと云はん許りなり、一瓢の用意あらば格別なれど少し氣を利かさば花の下に杯も挙げ得ざるに非ず、松川の

汎濫度々桃林を侵すと雖も尚眺望を害するに至らず、只惜むらくは桃実の品種甚だ劣りて市場に声価を博する克はず、近年土地の有志荐りに水密種を培養するは頗る喜ぶべし、この好適地を利用して華実共に宜しく都人一日の鬱散に節を曳かしむるに至らしめんことを

宮村より永野を経て四方峠にかゝりて川崎に出づる旧県道は古の国道なるらし、根無藤の城址は孫か曾孫かの銀杏樹を見るのみにして源頼義が東征の際老杉の枝に藤の鞭を懸けたるが根生えて繁茂せりといふ杉は何時の間にか伝説とのみ為りおほせたり、四方峠と対して聳えたる陣旗山は七百年の昔源頼朝が藤原泰衡を討たんとして軍勢をすゝめたる時の古戦場なり、この辺前九・後三の役に関連したる伝説古老の口碑に遺れる事多し、遊人閑あらば訪ぬべし

永野より西して松川の水源に遡れば左に青麻山を見る海抜三千三百米旧噴火山なることは岩質を見て知るべし、棚村の名はともあれ小妻坂とはゆかしき名なれと思ふ、間もなく遠刈田の浴場に至る

◎遠刈田温泉 は慶長六年に発見にかゝるといへば藩祖政宗公青葉山を相して城を築かんとして縄張を了へて工

事に着手せられたる年なり、籠山を発掘して慶長小判の黄金を獲られたるもこの前後なれば殆んど同時に発見せられたるなるべきか、伝へ言ふ湯戸大沼氏の祖先この地を拓き慶長六年九月温泉二所を検出し元和四年始めてこの地を開くとそは兎まれ本郡浴場の随一浴客四時絶ゆる事なく、特に刈田岳登山の講員賽者輻湊する夏秋の候に於て雑沓繁盛を極む、泉質頗ぶる病に宜しく浴室は上の湯（炭酸泉）・中湯（塩類泉）・東湯（同上）等あり、遊子病なくも一日の勞を慰むるに足れり。

籠山の金山は名のみにして近年青根の鉄鉾石を製煉すべく建設したる反射炉は空しく雨の打つに任すあるを見る、当れば巨万の富を築くべく当らざれば資本・勞力共に一擲し去る所謂山師とは劍呑な仕事かなされど、住友・古河の輩今日の富は所謂山師より成れるを思へば中には運拙くして予想が外れ悲境に沈淪するもの、少からざるべきを思はるゝなり

◎鬼石原 は恐ろしき名なれど大きな石か原の中に半は埋まりて動かぬばかり、今は早川氏の牧場農場として經營せられ防風林は茂りて、氏の別野並に散在せる農戸はその間に隱見す、牧場は鬼石、清水、七日の原を通じて

牛は百四十頭、馬は三十頭を飼養し、農場としては殖林が第一で植樹六十四万本土地の開墾農民の移住殖民（何だか布哇あたりの記述の様だが全くだ）十六戸百名を超えて居るとの事なり

噴火山の麓必ず裾野をなす鬼石原も清水原も七日原もこれなり、面積合して八百十五町歩、藩祖第四代肯山公の時已に牧場たりしと雖も何時した廢れて明治以後に至りては十三年に松方正義氏の所有となり、十九年には種田某の手に入り、二十五年に現早川氏の手に歸したるなり、人と時と宜しきを得て地稔るもの乎。

◎不動瀧、三階瀧 とうとうと瀧の落ち込む茂り哉と古人の誦したる如く秀の山にさしかゝる頃、左方鬱蒼の中瞳々の声を聞くなるは三階瀧の大烏帽子岳中腹にかゝれるなり、不動瀧は繁みの中にわづかにその一半を見るべし、当山第一の瀑布にして直下三十丈日光之に映ずれば五彩の虹を生じ水禽幽邃を好みて脚を休む、瀧壺より之を仰げは天小にして絮との如き水烟濠々として衣袂を襲ふ、水清澄にして冷かに水源烏帽子岳に発し流れて澄川となる、曩の松川は水源刈田岳の噴火口にして常に硫氣を含み一に濁川の称あり、共に流れて清水原に合す、澄

川岩魚を産す鈎を投ずれば大さ尺なるを獲べく、時に山中の食膳を賑はすに足る

20 第90号3面 (大正2年8月1日)

●白石町の馬市 は既報の如く去る廿二日より開市されたるが出場の馬疋数百頭、郡内は勿論他県よりも続々入込みたるも出場の馬疋は大概売買となり好成绩を挙げたり、尚ほ市場事務所にては初日、中日の両日に数十発の煙火を打揚げ景気を添へたること、て人氣大に引立ち頗る盛況を呈し廿七日閉場されたるが、其売揚総高は数千円の多額に上り洵に近來稀に見る盛況にてありし

21 第90号3面 (大正2年8月1日)

●孫太郎煎餅の売出し 奥州齋川の名産として五疋の妙薬たる孫太郎虫を原料として製選し、這般農商務省の特許を得たる孫太郎煎餅は愈々本日より売出し、猶当日は楽隊にて市中を練り廻はさる、筈、定めし盛況のことなるべく詳細は広告欄にあり

22 第91号3面 (大正2年8月1日)

刈田風土記 (承前)

在大阪 周水

蔵王山 不動瀧を左に見て進めば数丁ならずして道両岐す、その右なるは峨々温泉なり濁川に臨みて昼夜潺湲の音を聞くのみ四壁直立天に聳え仰げば天の小なるを覚ゆ、秋月冴えて孤猿樹上に泣くの時哀趣最も多かるべし高山総じて紅葉の眺あり、これ冷霜一時に襲ふが故に潤葉樹の葉緑色素各その天分の美を一時に発露するによるなるべし、紅葉の眺めは西に巖島あり、京に嵐山、東に日光あり、而してわが不忘山の眺めを加ふべし、盖地僻道遠きの故を以て知るもの少く世に紹介せられざりなり、先年俳人河東碧梧桐山水を探りて不忘山に上り紅葉の美を称して日光に劣らずとなせり、周水かつて不忘山下に住する年あり春に夏に又秋に登山以てその勝を探れり、而して日光の秋も亦知る所なり、思ふに紅葉の美のみ言はゞ敢て日光に劣るものに非ず、たゞ人工の美の之に配するなきは寧ろ或は素朴簡素を喜ぶ人の採る所なるべきか、紅葉の美は三階、不動の瀧によりしく賽の河原によろし、而して俯瞰の美に富めるは峨々より宝沢に

越ゆる峯に於て最も良し、奥羽山脈の高峯に立ち毛氈を布きたる如き芝の上に座し満山の紅葉に照りはゆる夕日を仰ぐの時、景の大と色彩の鮮麗とは莊重優美の感を起さずんばあらず、個々の色彩その研を競ひ蜀紅の錦をかけたらんが如き錦欄を延べたらんが如きは三階不動のあたりにして樹々皆その色を異にし龍田姫の織りなせる巧はかくもありけるかと驚かる、ばかりなり、而して之を見んとするもの十月十七日の前後を最も良しとす、これ高山寒さ早ければなり降霜三、四回に及べば風なきに落葉雨の如くまた一葉を止めざるに到る

高山の植物は近年斯道の人によりて闡明せられたり、不忘山また高山特有の者なしとせずモーセンゴケは峨々辺より賽の河原、灰塚に至る一帯に散布し、時に遠刈田新地辺に見ることあり、六月の候農桑漸く忙ならんとするとき登山せんか山蟬は樹上に喧しく脚下は群る種々の美麗なる草花に覆はる猩々袴岩かゞみなどより名も知らぬ草花夥しく沢畔雪未だ消えぬに已に満開の花なり、山桜は雪に押しひしがれて僅かに枝頭をもたげて最小の花を開く、凡そ六千尺以上の高山には一区域をなして嬋妍の花園あり、俗にお花畑と称す不忘山には月山鳥海の如き

はなけれど賽河原辺や、見るべし、空には雲雀囀り、谷には鶯歌ふ、遠く岩燕の翱翔するあり、実に別天地なり、頂上馬の背あたりにはコマ草あり細小多肉の葉、けまん草に似たるの花実可愛らし携ひ帰りて盆栽として愛するに足れり

23 第92号1面（大正2年8月21日）

製麵界の不振

当業者の猛省を促す

東北唯一の製麵地なる我が白石町製麵の濫腸は遠く元禄の昔に始まり爾來歳を逐ふて發達し来り、其の独特の技術は漸く白石饅麵の声価を博し、一大産物たるに至る。

昔は藩主補助を与ひ奨励したる結果として益々技を練り業を励み大に観る可きものあり、五色饅麵、卵麵等稍々其の技の神に入りしものあり、併しこれ等は実用的にあらざるを以て、自然廢滅に歸したるも其技術の巧妙に至りては今日に於て到底觀るべくもあらず、左れば普通製麵の如きも原料を精選しその精巧を競ひ価格の低廉よりは主に品位の昂上に努めたる傾きありて、白石饅麵の声価を高めたるは実に爰にあり、加ふるに天然の乾燥地は製

麵に最も恰当地の地形にあり、天与の事業として爾來益々進歩發達し其の生産額を増加し、宮城、福島、山形、岩手等を得意とし、東北に於ける製麵地たるの名声を博し以て今日に至る。

然るに時勢の進運と科学の進歩は永く羸弱たる手工を容さず、製麵界の革命とも云ふべき製麵機の發明ありてより以來、利に趨くは人情の常、蓋し已を得さるところにして水力、電力を利用し今や全産価の七、八分は機械力に依りて盛に産出さるゝに至りたり、而して此の機械は各地到る処に於て行はれたる結果として、価格の競争を惹起し、粗悪なる原料により漸く粗製濫造の弊に陥り加之機械の製造力は生産の激造となり遂に過剰を來たし、本年の如きは売行き頗る不振にして、之れを見越したる当業者は尠なからざる窮境に沈淪し莫大なる損失を被り臨時製造を休止するの止むなきに至り、地方經濟に甚大の影響を及ぼしたり、勿論此の不振の商況は特り生産過剩のみに基因するにあらず所謂粗製濫造も慥に其一因を爲したると、需用地に於ける打ち続く不景氣と、加ふるに春來霜害、其他にて購買力の減殺したる等需用・供給の均衡を失ひたるに依るは争う可からざるの事実たり、

一年を通じて僅に二十余万円の商品を消化し能はざる如きは大正時代に於ける東北の製麵地としては余に意氣地なきこと、云ふべし、播州楫保郡の如きは年額二百万円を産出して尚ほ製産力の不足を啣するにあらずや、之れ畢竟製造法の完備せると事業の巧妙なると販路の拡大なるとにあり、前者は僅に三、四県の販路を有するに過ぎざるも、後者にありては全国を華客として、其の需用に応したるにあり、されは我が当業者も大に鑑る所なかる可からず、即ち粗製濫造の弊を矯め、封包、表装を改正し、彼の地の拵方に慣ひ、尠くも秋田、青森、北海道の需用に應ずるの覚悟なかる可からず、彼は遠く数百里の距離にありて、克く其需用に應しつゝ、あり、我は隣県道に向て販路の拡張をなし得ざるの理あらむや、畢竟するに当業者は進んで事業の發展を謀るの氣風に乏しく、旧來の慣習に囚はれ井蛙的に蝸牛角上の争をなし、目前の小利に汲々として時勢の推移と事業の改善とに意を要するの致すところなり、殷鑑遠からず、今にして速に之れか改善の途を講じ販路を拡張するにあらずんば再び前徹を踏むの苦境を免かる可からず、起て製麵業者よ、此の歴史と光輝ある製麵地の名声を發揮すると否とは、一

に繋りて当業者の双肩にあり、又地方先輩も何等かの方法を講し之れを救済するの策に出でざるに於ては或は特産饅頭の声価を失墜し救ふべからざるに到るなきやを憂ふ、吾人は地方を念ふの熱誠溢れて此の苦言を呈し、敢て先輩及当業者の覚醒を促す所以なり。

24 第92号5面 (大正2年8月21日)

刈田風土記 (承前)

在大阪 周水

賽河原 は噴火山麓に見る現象なり、溶岩火山灰一時に噴出して堆積するや灰は洗ひ流されて溶岩のみ残り奇々怪々の形を現す、この緩き斜面を過ぐれば勾配俄かに急に灰塚なとり蔵王山となる。

噴火口 は湛ゆるに硫気を含める水を以てす雲霧霽る、の時下瞰すれば沸騰の状あり、これ沸騰するに非ずして多少湖底の温度に熱せられたる水の緩徐上昇して蒸散を敢てするのみならん、不忘山上の噴火口に俗に御釜と称し、蔵王馬の背、熊野五色の山々に南西北東を囲まれ一部裂開せる所より流れて東流すこれ濁川なり、この附近岩石土砂凡て硫気なきはなし、穿ちて以て硫黄を精製し

得べしこれ濁川の硫気多く魚の棲まざる所以なり、この噴火口は折々噴出したるものにして人口に膾炙する所近くは明治廿九年砂礫を噴出したる事あり

蔵王山 上に水分神社を奉祀す、四壁石を積みて社殿を裡み賽者を保護す、海拔正に五千八百尺(熊野岳六千尺)東望太平洋に眸を走らすべく西顧三山を雲表に指点し得べく、右眇吾妻磐梯を呼ぶし、他の群小一に指呼し得べからず、急ち風は霧を呼んで脚底に起り、散じて東に走り風しきりに襲ふて身安からず、雷霆遠く山麓に轟き須叟にして雲収る、しかも雪線以下は尚白絮積層大海の如し、これ概ね夏時に見る現象にして表裏は日本の気象を示すものなり。

25 第93号3面 (大正2年9月1日)

刈田風土記 (承前)

在大阪 周水

刈田岳 とは蔵王、熊野、烏帽子、馬神、屏風御前岳等の山彙の総称なり、而して噴火山としては双子火口を有する火山にして蔵王の側なる馬神を火口とせるものにして屏風岳はその旧噴火口の外輪山東面欠けて西部僅かに

残れるものゝみ、馬神は二重火口（内輪）にして烏帽子岳はその一部を示すのみ、年代古きが故に草木茂りて火口の態なしと雖も四箇の山彙と岩石の討究とによりこの説の謬ならざるを知る、烏帽子を水源とせるもの澄川にして不動瀧となり清水原に至りて濁川に合す、馬神を水源とせるもの秋山沢にして七日原を流れ新地に至りて濁川に合す、刈田岳に上るもの南御前岳よりすべく兎経尤も困難なり遠刈田よりすべく道最も易し峨々、青根皆道を一にす、西上ノ山高湯よりすべく高湯々よりは最も近し裏と称す、羽前の人蔵王を姉とし月山を妹とし必ず蔵王登山を先にするの習慣となす、蔵王、熊野は只一の馬の背によりて連る烏帽子、屏風、馬神は樵夫・獵卒も難しとする所にして羚羊を狩り、熊を屠るは秋山沢の上流屏風岳の麓なり、若し夫れ秋日藁をあさつ、樵夫の席を分ち一椀の味噌汁を啜りて熊野の談を聞かんか山気荐りに身辺を襲ふの感あるべし。（完）

26 第94号3面（大正2年9月11日）

●孫太郎煎餅の好況 奥州齋川の名産滋養菓子孫太郎せんべいは無限の滋養分を供給すると同時に売行き益々旺

盛にして名声噴々たり、然して停車場構内販売方其の筋へ申請中のところ益々此程許可されたりと

27 第100号5面（大正2年11月11日）

干柿講習会

刈田郡農会にては干柿講習を開催することとなり、山梨県果実組合長飯塚善治郎を聘し、去る四日より小原、越河、齋川の三ヶ所に於て講習を開始することとなりたるが、氏は二週間以上滞在して熱心教授さる、筈なり

28 第100号6面（大正2年11月11日）

●齋川馬牛沼鯉とりの盛況 例年の通り馬牛沼鯉捕りは愈々来る十六日日曜日と決定されたり、昨年は寺田知事の来観ありしが本年は種々準備の都合等もあり旁々知事の招待を見合せたる由なるも、郡内有力者は勿論多数の来観あるべく、また福島方面よりは特に多数の実業家並に紅裙連の来観申込等もありと聞く、且つ当日は百数発の花火を打揚げ殊に一般観覧者のため破天荒の大割引をなし由、定めし一大盛観を呈するなるべく詳細は広告欄にあり

29 第103号3面(大正2年12月11日)

○干柿製造講習会

干柿の改造に就ては屢々報導するところなるが、向田本郡長は極力之れが製造の改善に尽瘁され良好の成績を挙げんものと種々督励されつつあるが、去る五日齋川村に於て、翌六、七日は越河村、八、九の両日は小原村、翌十日は大鷹沢村に於て順次講習会を開催されたるが、本県よりは菅野技手、講師としては山梨県人飯島善治郎の両氏を招聘し講演され、また実物に付懇に説明されたること、て聴者も熱心に聴取され裨益する、蓋し大なるものあるやに聞く、然して製造の干柿は近く持寄批評会なるものを開催し一層精選改造の見込にありと

30 第105号5面(大正3年1月1日)

●干柿講習修了証書授与式 本郡に於ける干柿製造の講習は既報の如くなるが、去る廿四日刈田郡役所に於て講習生五十五名に対する修了証書の授与式を挙行されたるが、来賓としては田中白石警察署長、村上県参事員郡会議員、各町村会議員、町村長、小学校長等数十名、席定まるや和泉農会幹事開会を宣し、向田農会長戊申詔書捧

読後修了証書の授与を了し一場の訓示あり、次て講師飯島善治郎氏の告辞並に柿樹栽培の必要、種類の選定、技の剪削、採取の時季、荷造の方法、組合組織の必要等を縷々講演されたるが裨益するところ尠なからさりし、次に菅野本県技手の口演、村上県参事員の祝詞、講習生総代小關勇五郎氏の謝辞等ありて一先づ散会、茶菓の饗応ありて後品評会を開催されたるが、中々に美事のものも見受られたるが未だ完全と云ふを得ざれど、之れが声価を挙ぐるも近き将来にあるを疑はず、講師の批評等ありて散会されたり、而して同講習員は益々斯業の改良発展を企図するため同業組合なるものを組織すべく目下其計畫中にありと

10 商店紹介

1 第10号5面(明治44年5月11日)

商店単評 (一)

緒言

評々子

東君一たび去つて僅かに剩す園林樹々の新緑染るが如く、翠愈々翠を加ふ。市内各商店も日一日と其活動の度を昂めたので、評々子は名だゝる商館を巡訪して其活動振りを視察し、依つて世評と対照し茲に本紙の余白を借りて単評する事とした、成るべくは忌憚なく述ぶる心算だが、さあれ神ならぬ身の或は誤謬なきにしもあらず、其辺は賢明なる読書諸君の寛大なる成敗に任さういでや！先頭第一に商店の霸王たる呉服太物商店より訪るとしよう。

●呉服太物商

●川村商店 (川村庄助氏)

寿町の突当りを南へよれて本町へ歩を向けると間もなく西側に硝子戸間口の呉服店がある、之れが川村商店だ、何時通つて見ても店頭客影の絶ゆる時が無い、中へ這入

つて見るとズラリト居並ぶ若者連の何人が家人で何人が店員だか解らない。現主人の令弟が三人、店員三人、都合六人揃ひも揃つた若手連が極力の愛嬌を振りまいて出来る丈の親切を尽すのだから自ら顧客が吸収されるのも無理はない、薄利多売を旨として居るので在方の花客が多い、兎に角商業最後の優勝は店員用の家人連が打揃つてる商家の手に落ちるのが利の当然である。

●高橋商店 (高橋萬左工門氏)

川村商店の筋向ひに当つて新樂の呉服店がある、現主人公萬左工門氏の母親が独手を振つて仕上げたのである、主人公は未だ壮年だが帳場に座して数多の店員を支配し、奨励し、慰撫して居る様は実に目ざましい、店は悉く店員任せの無人なので挙力商業の發展業務の拡張を画作するは困難の模様である、然し古くより花客を守つて依然市内屈指の商店として目されて居る。

2 第11号5面(明治44年5月21日)

商店単評 (二)

評々子

●呉服太物商

● 日下商店 《日下仁右衛門氏》

堅造りのいかめしい土造店舗へ這入ると、『へい……今日……好い御天気で……先日は有りがたう……』

初客、常客に限らず出来得る丈の愛嬌を振り蒔くのは当町呉服店中愛嬌商店として有名なる日下商店である。主人仁右衛門氏は老年なので一切を嗣子昇助氏に譲り其が令弟直助氏が愛嬌商人なので其下に養成さるゝ、数多の店員は小僧の果て迄愛嬌タップリである、一朝客と応対しては真実誠心誠意己が心情を吐露して弁願するの趣あるで、接せし客は何んとなく心気爽快を感じる、実に当町商店員の好模範と云ふも敢へて過言ではなからうと思ふ、其得意先は奈辺の方面に存するやは窺ひ知れざるも折々遠刈田へ出張開店するを見受ける様だ。

● 伊東商店 《伊東佐平氏》

本町を南へ進むと中央頃で東側に伊東商店がある、軒が低い為めか陰気に見え白石町の呉服店としては極めて不活発の感があるが現今の弱肉強食の競争場裡に処して至極平穩無事に難局を避けて居る、是れ畢竟するに同商店が当町呉服店中最も古株なると堅実とを旨とせるに依りて生じたる信用が従来の花客を一定不変に維持せしむる

が為めであらう、然れども若主人圓治氏は呉服商として人に知らるゝよりは寧ろ繭糸売買によりて知られて居るとの事である。

× × × × ×

是れで本町に於ける呉服店は凡て巡訪した、南極方面には暫らく用は無、いざ！方向転換、廻れ右前へ！どつこい、見附けられては大変だ、頬被り馳け足で中町へと進入しやう。

● 渡邊商店 《渡邊熊松氏》

近頃正札付制度を断行して各同業者の胆を驚かせしは之れ丸吉呉服店である、店にはさして古くからの番頭も居ない様に見受ける、主人熊松氏は店務を辞して令息雄太郎氏に一任して居る、正札付制度に改めしも一に雄太郎氏の規模にして実施依頼日尚ほ浅きにも関らず着々其効果を実現し得たる由なるが、結果の成否は兎も角、同業者多年の懸案にして、而かも其方針一度誤れば確たる信用も一朝にして失墜するの今日、未だ経験に乏しき該案を断然決行せる精神や実に壯と言はざるを得まい、願はくは爾後、より以上の自負心を以て奮励努力あらん事を。

3 第12号5面(明治44年6月1日)

商店単評 (三)

評々子

●呉服太物商

○佐藤商店 《佐藤忠治氏》

白石町の銀座街路とも云ふべき中町大通りの東側中央に介在して巍然たる呉服店がある、是れぞ丸十商店である。店内商品の陳列頗る整然として何んとなく高尚優美の感に打たれる、店には主人の令弟が二人、店員三人、客の応対に忙はしい。

当店の特徴としては店員をして店頭に座せしめ家人自ら箱車、大風呂敷を携へて出商する、之れ大に其趣を他と異にする処にして人或は事の軽重を転倒せりと云はんが当店今日の確実強固なる信用を購ひ得たる所以は一に此の商略の致す処にして如何に顧客を重視するかを証して余ありと思ふ。

○渡邊商店 《渡邊傳五郎氏》

丸十商店の活動振りも探つたのでお次の番たる丸角商店を見返れば店頭は客の山、之れ屈竟と矢庭に飛び込んだ。店は奥行が長いので一寸異様の感がする、四人の店員順

よく居並んで何れも口角泡を飛ばして居る。

主人傳五郎翁は店務を子之吉氏に譲つたのであるが今は若主人榮五郎氏が一手に引受けて居る、氏は若年にして能く世事に慣れ商才に富み熱心に店務に従事して居る、当店の名望近來一層の高きを加へしも一に氏が奮勵勤勉の依つて生ぜし賜と言はねばならぬ、然れ共傳五郎翁の訓下に活動しつゝある氏は決して超衆的的行為に出でず至極平坦の歩調を以て進んで居るとの事である、例年八、九月頃になれば七ヶ宿村方面へ出商するを見受ける、花客は在方六分・町四分と云ふ割合らしい。

○阿子島商店 《阿子島徳藏氏》

長町を通過して歩を西に向けると巨理町へ入る、白石第一小学校前を過ぎて北側に中の島屋と名づくる店がある。

主人徳藏氏は流石永らく斯業に従事する丈けあつて愛嬌があり頭が低く、客に対しては至極柔和で本業に適せる性格を満足に具備して居る。

店には店員二人の外に未だ若年の令息が熱心に店務を司つて能く父徳藏氏の片腕となつて居る。得意先は白石町以北に存して居るとの事で近き将来には白石川を横ぎつ

て来る宮、円田、八つ宮、福岡各村の客を悉く網中に羅せんと密に企て居る様に見える。

× × × × × ×

さしにも永き陽は西に春いて早や電灯は満店に照り渡つたので今は最後たる隣戸の角島屋を訪づる可く勿々に辞し立つた。

4 第15号5面 (明治44年6月21日)

商店単評 (四)

評々子

◎呉服太物商

○阿子島商店 (阿子島彦吉氏)

一軒置いて隣りの阿子嶋彦吉氏が店舗を訪れば暮方とて各種の商品取り乱して店頭立錐の隙なく美事当日の活動の面影を止めて居る。

主人彦吉氏は前記徳藏氏の令兄丈けあつて斯業には中々の腕を有して居る、殊に内儀は女ながらも業務に熱心にして応接も随つて妙を得て居るとのこと、それに令息長吉氏を加へて家内三名協力一致事に当つて又巧に四名の若店員を督励して居る。

場所は名にし負ふ当町目抜き之巷衢にして北西の二方面より入る人、出る人誰れも一度は当店の存在に注目せざるはなく当町の発展に準じて発展せんこと誰が目を以て見ても疑ひ無からうと思ふ。

珍らしい哉、角の島屋と中の島屋、兄弟相隣して堂々たる店舗を設け、然かも両々相對峙して同業に畢生の力を尽して居る、其各自の活動振りの優劣は敢て茲に筆するの要もあるまい。

× × × × × ×

之れで白石町に於ける呉服太物商と名づくる店舗を訪づれた訳だ、一組合を組織し互に親和して販路の拡張を圖つて居るのは嬉しい、孰れも当今は夏衣売出しに忙はしく各店頭の装飾も中々美事だ、評々子も新柄夏衣少なくとも一枚位は買はなきやなるまい、何れの店が勉強だか其は御得意様各自に任かす事として今左に規約なるものを紹介して見やう

一、本組合は白石太物商組合と称す

二、本組合員は互に相親和し一致の行動をなし確實を旨として品質を精選し需要者の信用を得販路の拡張を圖るを以て目的とす

三、本組合の各項を囿らん為め信認金一名に付き金五円づ、徴収するものとす

四、本組合存立期限を満十ヶ年とす

五、本組合員にして脱退せんとするものあるときは總會の決議に依り正当と認めたる場合は其脱退を許諾し信認金を返戻するものとす

六、本組合員にして不正の行為を為したる時は一応注意をなし尚ほ改めざる時は總會の決議を以て除名す此場合には信認金を没収す

七、本組合諸般の事務を処理する為め左の役員を選舉を以て定む

一 組合長一名、一 協議員二名

(現在役員組合長日下仁右衛門氏、協議員阿子島彦吉氏、同徳藏氏)

但し任期は各二ヶ年名誉職とし満期再選することを得

八、組合長は本組合を代表し一切の事務を担当し協議員は組合重要事項の協議に参与す

九、本組合總會を定時及臨時の二種とす定時總會は毎年三月九月の二期とし臨時總會は協議員會に於て必

要と認めたる時又は組合員二名以上の請求あるとき之を開く会場は組合各輪番とす

但し日時は其時々組合長より通知するものとす

十、決議は組合員過半数の同意に依り決定す

十一、本組員中事故あるときに該族男子に限り組合員の名義にて會議に列席し凡て同等の権利義務を有せしむ役員も亦同

十二、本組合の經費は春秋二期の例会に於て金壹円を徴収し尚不足ある時は組合員の負担とす

十三、本規約は總會の決議を以て変更する事を得

明治四十一年五月五日

○○○○○○○○

都會の風習をして田舎の風習たらしめんとは困難の事であるが斯業に従事する者は成るべく時代の要求に應ずる様に心掛けねばなるまい、今日何んと云ふても斯界に於ける東洋のオーソリチーは東京の三越呉服店だらう、然らば同店が如何なる設備方法をなして居るか即ち従来の座売制度を廃し陳列場制度となし、店前裝飾法を設けてシヨーウキンドーを設け、絵ビラを全国の要処に配付し、盛に一ペーシ新聞広告を続発して広告し、意匠部を設け

て裾模様の革命を促し又最近に於ては苦情係設置、電話販売係等を新設して居るさうだ。

5 第16号5面(明治44年7月1日)

商店単評 (五)

評々子

商業界の霸王たる白石町呉服太物商各店の活動振り視察も愛諸家諸氏の熱誠なる応援と歓迎の下に及ばずながら終局を結んだ。次で商界の重鎮にして而かも現今激甚なる競争場裡に各店閃刃を煌して暗闘しつゝある当町和洋酒商店の活動状態を詳かに視察し、暗々裡に於いて必勝方法を講じつゝある各店の内幕を探知して江湖諸彦に紹介して見やう。

時季恰かも春蚕の収穫懐を暖め農家植付の晩末、温泉場の繁榮、孰れも斯界の動揺を喚起し一般の景況を添へたるの折柄尚一層の興を深らしむるだらうと思ふ。

◎和洋酒類商

○齋萬商店 《齋藤萬治郎氏》

踵を白石町の西端新町に廻らして劈頭第一に当町酒造家の一人齋藤萬治郎氏が店舗を訪づれた、店は土造の堅作

りにて店頭の裝飾などは極めて淡りしたものの、主人萬治郎氏は元より斯業の経験に富み今は令息雄吉氏を督励して酒造部の担任たらしめ其醸造高年々百五、六十石に達して居る、売先きは北西方の在方と町内近辺の小売位のものであつたが近來斯界の競争の激流中へ這入つてよりは手を八方に延ばし卸としては宮、永野、小原、七ヶ宿辺に到り小売としては各方面の在方に引者を派して破格の勉強を為して居る、然れども一方養蚕家として名有る丈け酒界に於ける目覚ましき活動もない、只地盤硬く固定して旧來の古株を動かさざるに務めて居るのみである。

○管野商店 《管野長八氏》

齋萬店を辞して短ヶ町に歩を入るれば鈴藤商店の向に位して管野商店がある、近頃着着發展の坂を登りつゝあると見え店員小僧の影未だ見えぬ、主人長八氏自ら仕入販売に東奔西走して寝食も定かならぬ有様以て将来拡張の一斑を窺ふに足るであらう。酒類は主に米沢方面より仕入のもの多く当町清水小路古川惣太郎氏と協力一致販売に従事して居る。

6 第17号5面(明治44年7月11日)

商店単評 (六)

評々子

◎和洋酒類商

○岡部商店 (岡部清吉氏)

巨理町の南側間口は至つて狭いが近來隆々發展の激坂を攀ちて居る商店之れぞ岡部酒店である、主人清吉氏は年輩未だ豊ならずと雖も斯業の経験浅からず、客の応対頗る愛嬌に富み懇切を極むるので近年店頭居酒の客員甚しく増して元より広からぬ店先は常に客影に充ち満ちて居る。

店には客受けよき母堂と店員一名を置き氏自ら自転車を八方に駆つて顧客の吸収に忙はしい、得意先きは市内に少なく四方面の村方に多い模様、是れ即ち他の商店の余裕なき掌中に帰して居る市内得意を奪取するに勉めても得て得べきにあらざると確信した為でもあらう? 当店の専ら販売に意を注いで居るのは米沢市濱田五左工門の醸造に係る銘酒フンドー正宗であるそうだ、兎に角当商店近年の發展進歩は著しきものである

× × × × × ×

いでや歩を白石町の中央街に廻し評々子は有らん限りの自称敏腕を振ひ、独特の評眼を見開いて酒界の三大店と目さるゝ石津商店、井泉堂商店、日下商店の激烈極まる暗闘状態を看破し極度の競争の如何なるものなりやを紹介しやう。

7 第18号5面(明治44年7月21日)

商店単評 (七)

評々子

◎和洋酒類商

○石川商店 (石川久之助氏)

岡部商店を辞し歩を石津商店へ向くるの途中有志町より東益岡に通ずる東南角に位して数多の酒樽を排列しある酒店に身を入れた即ち之が石川商店であるが実は黒澤たきの名義である。主人夫妻共に斯業に熱心にして小売などは随分勉強との事、宮の黒澤酒造店と親戚なので取引は勿論の事である元は酒類のみであつたが今は洋酒缶詰類も扱ひ従前の通り在方客を得意として居る。

○石津商店 (菊池寅吉氏)

中町長町大道の衝当り松窓療院の隣りに位置を占め堂々

◎和洋酒類商

○和泉屋商店 《和泉清治氏》

角を廻つて長町に歩を入れ白石警察署の向両側なる和泉商舗を訪れた、酒類は大底当町大問屋より仕入るらしく其他和洋酒瓶詰缶詰類も陳列して在る、何分新しい店なので未だ人口に膾炙して居らない、主人は若年で斯業の経験には浅いのであるが中々の發展主義であるから日に増し隆盛に赴く事と信ずる。

○阿部商店 《阿部安治氏》

和泉屋商店を南に距る半丁計り東側に是れも亦新しい酒店阿部商店が在る、昨年開業した様に覚えて居る。酒類は矢張り当町内の主なる商店より仕入れ宮の黒澤商店との取引も少しあるらしい。主人安治氏は大河原酒造家森惣治郎氏の養子として酒界の経験を有して居る、得意は在方が多い様だ。

○井泉堂商店 《菊池弘藏氏》

大歩堂々斯界四大店の一たる井泉堂の陣屋に身を入れた。主人弘藏氏大軀を帳簿に控へて恵眼一笑満店を見渡して居る。

氏は先に渡邊酒造部の担任として名あり、永年の経営、

能く氏をして酒界に絶大の経験を与へた。辞して数年酒類問屋として東西に快走し現時は和洋酒類商界に英名を轟かして居る。

氏の奇抜を好み、斬新を愛するの性格は商業上特に超衆的態度を生み、他に抜ん出て先鞭を着くるに妙を得て居る、見よ、和洋菓子子の利あるに着眼して正々堂々販売を実施し斯界のレコードを破りたるを。

内儀は弘藏氏の寛大に反して極めて緻密に細心商業に熱心にして令息弘一氏及び店員二名を督励し日夜氏の援助に余念ない。

過般外交員元治氏が退店した様だが当店の影響は云ふ迄も無からう

当店亦斯界競争の巷に白刃を閃かして奮闘一步も他に譲らざるの感あるが一方市小売を一手に吸収せんと企画しつつ、ある之れ実に氏の對外一策に外ならない。

当店の銘酒幾久花正宗及び渡邊佐吉氏の醸造に係る白石梅政宗の好評に至りては云ふ必要はあるまい。

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

盛暑鬱悞、玉なす熱汗を拭ふて息、一息いでや、銀座街頭、斬然頭角を現はして憚らざる日下商店の活動振りを

視察せんか……

9 第20号5面（明治44年8月11日）

商店単評（九）

◎和洋酒類商

○日下商店（日下吉藏氏）

中町の中央を横断する流れ清き沢端川に架したる石橋の上ですゞろ吹く不忘山の涼風に汗身を洗ひ、氣、清々として眼を放てば大道の東側に麗々たる三枚屋根看板は折からの夕陽に紫紅の光彩を放つて居る硝子戸付きの店舗謂はずもがな之れぞ日下商店である。

現主人公吉藏氏は智袋の人にして昔時官界に名を博し、後、辞して今の白石商業銀行の北隣に居を構え醸造に従事し酒界の経験能く氏をして今日に至らしめしも偶然にあらず、不幸数年前病を得籠居今猶旧の如し全快一縷の望を祈願する家人の心中や又同情に堪えず、若し氏をして健体たらしめば酒界と云はず我町実業界の先導者たりしや疑はず。

現時当店は令息眞一氏、外交員猪股、倉務、高橋及び店

評々子

員二名何れも当代新進氣鋭の青年に依つて組織されて居る。眞一氏は四十二年中学を終へ酒界何等の経験なき若年の氏をして病父の後を継ぎ母堂及び弟妹亦氏を授け繁忙なる商務に従事したる当時の苦心や察するに余りある。従業僅か二ヶ年余実に廿歳の店主である。然かも今日専心一意業務の發展内外を処理する敏活に至りては吉藏氏の令息に恥ぢず。

十有余年一日の如く一は外に一は内に無限の精力を振つて活動しつゝあるは猪股、高橋の両氏にして実に眞一氏が左右の両腕であるのだ。主従よく協力一致競争の活舞台に雄飛し懇篤に巧妙の快弁を尽して日夜熱誠なる若党彼等の活動は優に他の大商店と比肩して余りあらしめて居る。

和洋酒は石津商店と、洋菓子は井泉堂と煌めかす黒暗々の閃爍は電光も物凄い、当店現今の信用と勢力とは漸々旧を放れて新らしきに移りつゝあるが学智を以て経営判斷さるゝ青年商店と永年の経験にてさるゝ老練商店との現代に於ける競争は亦刮目に値するであらう。

近來銘酒日の出正宗王冠サイダーを特約一手販売として熱心に拡張に勉めて居るが日尚ほ浅きに関はらず名声

嘖々たりとの事である。

嗚呼、酷熱將に九十度座して尚熱汗拭ひもあへざるの時、評々子と同年輩の血氣の青年が一本の筆に、一塊の舌に、一台の自転車に、機に敏に縦に横に、営々勞を惜しまず活動して応接に遑なき担務を片つ端より処理弁達するを見ては思はず肉躍り血湧き自ら快哉を絶叫せざるを得なかつた。

冀願くは邁住の君等深謀遠慮、蹉跌なく、以て逡巡なく今後の月桂冠を獲得せられん事を！多言を恕せ！

10 第22号5面（明治44年9月1日）

商店単評（十）

評々子

◎和洋酒類商

○渡邊酒造部（渡邊佐吉氏）

評々子近来の繁忙に取り紛れ失念したるにはあらねど遂ひ前号休載するの已むなきに立ち至つたるを愛読諸氏に謝す。

久し振りの歩を沢端川に沿ふて上り白石商業銀行の向ひ渡邊酒造部の看板ある門前に至れば陽は漸く西山に没し

『白石梅正宗』と読まれたる軒灯の淡く面をうつの頃である入りて左側の店舗を訪れば氏の老奥は懇切に応対され氏は奥座敷に談笑の声頻りである、之れぞ近郷誰知らぬ者なき『白石梅正宗』の醸造部である。

当部の主人公たる渡邊佐吉氏は酒造業として世に知らる、よりも寧ろ氏が一代の事業商業家として、銀行家として、会社重役として当町の発展進歩に極力尽瘁されつ、あるの恩人として、而して、氏が一世を通じての勤儉の美風が造りなせる一大富豪家として名を東北の実業界に普いて居る。

若輩の評々子徒らに禿筆を弄して茲に氏が既往と性格とを紹介するの煩を避くるも最早や読者諸氏が御承知の事だらうと思ふ。只醸造家としての氏は先に数十年前斯業に従事して經驗を有し、僅かにして辞して後を菊池弘藏氏に委ぬ、一意繁忙なる実業界に身を入れて居つたが近年老年の故を以て産を貞吉氏に譲り、再び菊池氏の跡を受け数万の財を抛つて、倉庫・器具・器械等の改善を計り、去る四十一年度より醸造を開始して今日に至るまで猶矍鑠として其煩務に当られて居るのである。

創業未だ四ヶ年、其間に於ける艱苦研鑽は梅正宗の好評

が美事に立証して余りある。醸造杜氏は先に菊池、日下
両醸造部に永年至大の経験を獲得せる佐藤新治郎老杜氏
にして現に倉内に指揮して居ると云ふ。

時をして尚長からしめば、親しく倉庫機関の状態を視察
して紹介するを得べけんが惜しいかな、黄昏薄暮、遂に
其余裕ならしめた、後日を期して消息する事としやう。
望むらくは『白石梅正宗』の名声、日を逐ふて高く、当
町の輸入酒を防ぐのみか進んで他国への輸出を図り以て
白石町産業の発展に資せられん事を……

11 第23号5面(明治44年9月11日)

商店単評 (十一)

評々子

◎和洋酒類商

○阿部商店 (阿部余治氏)

一見腰掛け茶屋然としたる店舗の様に見受けられる、客
も大抵在方の居酒にして時刻は恰も労働帰りの夕暮時、
喧囂として大道の半迄響く、酒類は大抵宮村の黒澤酒店
より購求しつゝあるが他店と方針を異にして卸売に身を
入れず小売本業の様である、然れば勢ひ現今の競争など

には耳を傾むくる事なく何等痛痒を感じない、従つて酒
界には余り知られてゐないと云つてもよからう察する処
商業の発展などを企画して徒らに多大の労力を費やすの
みならず、不結果に終るが如きは是れ策士の取るべき道
にあらずと反省する処あつたのだらうと思はれる

○渡部酒店 (渡部權次郎)

白石町南方一帯に斯界の覇を占めて居るのは渡部商店で
ある、近来旧店舗を修築したので一見新築の店に入りし
観がある、主人權次郎氏は前に柳町に店舗を設け酒界に
経験を得近來本町の現所に移り必力商業の拡張を計り為
めに其功果空しからずして現時当町斯業四大店の一に列
するに至つた卸売の手は齋川、越河の南方面より東南の
在方に普いて居る。

内儀は亦有名なる商業家にして客の応対頗る巧妙なりと
の噂とりどり評々子も接しては噂の事実なるに一驚を喫
した、当店の発展は内議が与つて力ありし事は云ふ迄も
ない。

這度社会の趨勢に乗じて洋菓子販売を開始した様だが其
売行の如何は兎も角当商店一步の発展は明に証明され
る、南方面の卸小売を掌中に羅して段一段の拡張を計画

しつ、ある渡部商店の将来は立派に見られてある、銘酒全勝は美事に勝を占め、近年迄居酒売りをなしたが現時絶対に止めたそうである。

12 第25号5面(明治44年10月1日)

商店単評 (十二)

◎和洋酒類商

○中川商店 (中川藤助氏)

渡部酒店を辞して田町の角を東に下り数歩にして南側に中川酒店がある、此店は渡部酒店が永らく開業して名を博した処で、渡部氏が柳町を去た後を受けて出来たので其目論見は中々旨い、店主藤助氏は廿余歳の若主人で殊に町の南端に在つて店が新らしいので今日の処未だ拡張の運びに達せず斯界に名の知られて居ないも無理はない、然し東南大鷹沢の一带を控へて居るので踏切を越して町に出入する酒界名士の脚は必ず当店を訪づれる、清酒の輸入は米沢方面らしく当町及び宮のものなどもある様だ、藤助氏未だ若年前途頗る遼遠、無口ながら誠実に活動しつ、あるを見ると有望の気充滿せる氏の将来は当

店逐日の繁栄を産むや疑ひなしである。

13 第26号4面(明治44年10月1日)

商店単評 (十三)

◎和洋酒類商

○阿久津商店 (阿久津長藏氏)

中川酒店を出で、歩を戻し、柳町の通りを北に進めば名にし負ふ当町の浅草街路、往来繁く、両側の古色蒼然たる高樓は徒らに古人の形骸のみを残して、あはれ今は燕雀の巢窟となつて居る。

やがて青柳亭の南隣、阿久津酒店へと躍り入つた、数十本の酒樽や洋酒樽ビール函等処狭まき迄に並べられ、元より間口狭まき店先は立脚の余地さへ無からしめて居る、『今日は!』と愛嬌タツプリの挨拶に、もだし難く足を上げた。

当店は元おもと酒店として界限知らぬものなき好評を受け来りたるが、近來阿久津長藏氏入店以来、夫妻協力熱心に商業に従事し、主人公自転車を駆りて町内を廻れば、妻君家に特有の嬌弁を弄して頻繁の來客と応対す、資力、

花客、共に未だ根底の堅きを得ざれども、日夜狂奔快走、商業の拡張に余念なき彼等の精神や賞賛に値すべし

炎熱地を焦く盛夏の夕べ、柳町の一端、彼等が経営の水店、花客吸収法の其の宜しきを得て、涼客店頭に山なす折などは、終日一食一睡もなくして而かも勇氣邁往、翌の奮闘準備に怠りなかりしと云ふに至つては彼等が如何に己が職業に勤勉なるかを推察するに難からざるではないか、酒類其他一切は日下商店と取引しつゝある。

有為の壯士夫妻よ、限りなき信用と収納とは彼岸に君等を待つ、生存競争の激浪中に小舟を浮べて漂ふの君等、徒に彼岸の光明にのみ目を馳せて肝腎なる舵楫を失ふ勿れ評々子近來多忙にして暫く筆を採る能はず酒店短評は一先づ筆を欄き他日閑を得て更に諸君に見いん哉

14 第27号5面(明治44年10月21日)

商店単評 (十四)

評々子

◎和洋酒類商

前号を以て筆を措かん積りであつたが残稿尚ほ半して居るのみならず中途にして擱筆せば或は偏頗の恨言無きに

しもあらず、と翻歩一鞭、最後の二店を訪れて本評の終局を結ばん考である、

○古川商店 (古川惣太郎氏)

『左様なら……』の鄭重なる送辞をあとに寿町を横断して中町裏を驀地に日盛館の向角古川惣太郎氏店舗を訪れた、主人惣太郎氏と面談する事数分仲々の愛嬌家にして、氏が平常の質素堂々なる風姿は勤勉てふ性格を發揮して名残ない、店は未だ年若き令息に任せ氏は只其の監督の任に當つて一方郡山の一部に農園を開拓し日夜其栽培に尽瘁しつゝあるのみならず、家内の余力を養蚕に傾注して少なからぬ副産を得て居る、

商業、農園、養蚕、繁忙交々到つて終歳一刻も労働の余裕を有せざる氏は、実に天与の人道を解得し而かも背かざるの人であらう、未だ年輩五旬に満たず、人生の登坂時代にあるの氏よ、勤勉の偉風を失せず、堅実なる精神を抛たず、飽く迄も人道の龜鑑たられん事評々子特に懇願して止まざる処である、

○椎野商店 (椎野萬治氏)

長町を横断し白石銀行を折れて南に一直線寺前に折る、所、大和障子に『沖正宗』と麗々しく見ゆるは是れ椎野

商店である、

酒類は米沢一方にして僅々の洋酒缶詰類を陳列せるのみなる純粹の酒舗である、氏は着実温順にして保守を旨とし發展拡張の精神を有せず、店舗の位置より見るも仲々發展の余地を有せしめない事明である平坦なる地を歩まんとする氏は發展なく又失敗なく何等偉大の起伏興廢を有せず確守として窮せざるを以て成功の一と認めらるものであらう、

15 第28号5面(明治44年11月1日)

商店単評 (十五)

評々子

今春以来本号の余白を借りて、毎号稿を追ひ来りし商店単評は、実に月を閲する半有余年、回を重ねる拾有四回、桜花爛漫の春に生れ、炎熱酷暑の夏を過ぎ、今將に落花凋葉たる各店頭の秋更けて、昨日の活動の面影徒らに慘憺の跡止めし閑寂の今日、熱誠溢る、読者諸氏の歓迎声裡に目出度く局を結ふ事となつた、評々子が先榮小身に余り何を以てかこれに酬ひん、と思ひ茲に至つて転た感慨に堪えない次第である、

実は呉服商、和洋酒商続いて米穀商、雜貨商と評論の活腕を振ふ積りであつたが、店前に小僧寝睡り、帳場に小説うづたかきを見る商界頗る沈静の時、評子独特の敏眼恰も柳に風のその如く、自づと意氣擡け仲々に活筆を振ふの暇あらしめない、

依つて単評の本文を來るべき翌春に譲り、『商店単評余録』と題し名も『佐久羅』と改めて、冬籠りの閑を埋めようと思ふ、読者の店頭閑静の寸暇、幸に愛読を給はらば佐久羅子の榮譽五尺の身に溢るゝのである、

16 第30号5面(明治44年11月21日)

商店単評余録 (一)

佐久羅生

単評の下に余録と付けた処が矢張り単評の単評であつて、これをしも本当の単評と云ふのかも知れない、従來の單評も爾後の余録も、或は題の當を得ざる事甚しいとの論評を下付さるゝは免がる能はざる処だろうと信ずる、然れ共余は題や見出しを読んで貰ふのでもなく、題と主文が能く相納れて居るや否やを評して貰ふのでもない、只、正を正とし非を非とし、善を善とし惡を惡とし、全

町総ての種類と有らゆる階級の事々物々自然其の俣の外観を、極めて公平なる凡眼を以て通観したる本稿が、幸ひ白石一万の同胞の為に一瞥を加へらるれば我が望以て足れりとなすのである、

読者、冀はくば諒として一読を給ひ！

(二) 寿町 (停車場前通り)

シグナル傾き、ベル鳴つて、駅夫惶急しく四散、各々其配処につくや、黒煙を北風に熔りつゝ、勾配激しき鉄路上を一瀉千里の勢を以て驀進し来りたる午後四時廿六分発の下り列車は、恰も長蛇の蜿るが如く、しろいしステーション構内に停着した、

上下する人、集散する貨物、駈せ交ふ駅員、「名誉饅頭——とさけぶ構内売人、僅か十分内外の停車間に於けるプラットホームは喧囂雜然、宛ら一小戦鬪の開始された様である、

其の間に貨物列車幾輛は、機関の率ゆる所となつて貨物構内に横着けにせられた、数多の係員の引き下ろす車積、噸積、幾多の貨物は、処狭き迄に並べられ、積出すべき荷物と山なして、さしにも広濶なる運送構内も立錐の余地さへなきに至つた、四軒の運送店小揚は入り乱れて、

乗せつ、運びつ、やがて曳き出す幾十の車輛、幾百の雜貨は、悉く当町千余の各商店に散配せられるのである、
嗚呼！ 壮大なる事よ、

嘗て仙台と福島との勢力範圍に埋まれたりし当白石の実業界は、近来俄然長足の進歩發展を来し、今や其羈絆を脱したるのみか両々相對峙せる間に立つて、能く其の範圍を侵略し、美事比肩の境域に達して居る、見よ！見よ！全市商界の関門たるステーション貨物集散所は、衆目を驚かして、よく是を立証して居るではないか、

而かも前途に横はる白上鉄道の企画、海岸線の計圖、完全の暁は、交通の中点、四路の巷衢となつて、物貨の集散頻繁となり弥が上にも当町の擴展を到さん事火を見るよりも明らかであらうと思ふ、豈、一区裁判所を隣町より奪ふに敗れて落胆失意、白石の勢力を危ぶむの要あらんやである、

諸氏よ、勤勉力行大に勉め、有為の白石をして益々光あらしめやうぢやないか。

17 第31号5面(明治44年12月1日)

商店単評余録 (二)

佐久羅生

停車場を出で、緩歩、往来繁げき寿町を西に進めば、先づ停車場前誰しも目に映ずるは、当世風銀行式建築の丸山運送店である、始終見慣れて居る余輩等はさして、気にも止めないが、初めて下車せし客の目より見たならば、思い半に過ぎざりし白石の町勢を概想せしむるに足らんと信ずる、

差向ひには旧式の上西運送店、当町の咽喉に新旧の対照も亦面白い、

四軒の旅館前に居並ぶ宿曳きの喋弁は、今し方列車より吐き出されし幾多の客の大半を吸収し尽した、

新築の館舎、塗材の紛香未だ薫しく、看板の染色尚ほまばゆき高樓堂々、軒を並べて大巷の南北に陣せる四軒の旅館、是れ皆鎌先温泉場の手に拉し去られ終つたのである而かも降客の大半は来らん馬車を待たんといづれも茲に腰を下したるに至つては、白石の無力を嘆ずるよりも、寧ろ鎌先の勢力甚大なるに一驚を喫せずんばあるまい、然れ共、ステーション前の旅館悉く鎌先の案内所なるの

故を以て、白石を無力なりと罵りたり勢力を軽視するは、是れ一を知つて二を知らず、表を見て裏を見ざるの甚しきものである、知らずや『伊勢は津で保つ津は伊勢で保つ、尾張名古屋は城で保つ』と三才の童子尚良く口にするを、実に白石は鎌先で保ち、鎌先は白石で保つのである高が停車場前四軒の旅館を、鎌先に提供したからとて何の不思議があるうか、否、白石は喜んでこれを提供し、尚進んで鎌先のために、より以上の便宜を計らんと画策しつゝ、あるのである、

旅館を過ぎて西隣より、南側に羅列する各店舗の中、駄菓子やに薪炭屋、大工職に空家、千客万来織るが如き白石ステーション前の大広場としては、職業建築物共に、当を得たるコントラストとは言ひまい、先見の建物を目にせる我等は思はずも一種異様の感に打たれる、事情の許す範囲に於て、成る可くは合意の上、改旧興新の策を建つる事、町内当局者焦眉の問題であらうと思ふ、況んや幾万の江湖を招して、仙南の一邱に白石在るを知らしめんとする、来春の共進会は時々刻々せまりつゝ、あるに於てをやだ、

停車場前最も繁華なる店舗相場商店は北側に在り、主人忠三郎氏は業務頗る熱実にして、店奥の帳場から円顔をつき出して応対繁げき店頭を見廻して居る、忠三郎氏の奇行は敢て述ぶるの要なく、最早や読者の間に膾炙されて居る、近くは氏が博士論文提出の一事を見ても氏が衆人の考ひ及ばざる処に留意し、而かも非凡の自信力家なる事を証するに足らんと思ふ、

隣りは藤澤屋にして、茲にのみは新陳代謝老朽淘汰の原則無きものか、全街満堂電灯の白光まばゆきに、よくも朽ちないと思はれる行灯が昔を忍んで軒下にはのめいて居る、かゝるものは主人の命を受けずとも、行灯君そのものが最早や世を電灯に譲つて差支なきものではあるまいか、

山田活版所今は写真屋で名が通つて居る、花嫁花婿裏門通行の便有り、とはよくも女情の弱点を見抜いたもの、それは付け込んだの開業か、写真の公覽を許さない、此頃一寸、店前の風彩を飾つた丸共運送店銭谷主人公と

本多氏が担任である、

お向ひが近來新に組織された白石信託会社で当町富豪の青年連がいづれも氣鋭の腦力を絞つて經營の任に當つて居る、利欲思想に駆られて止まざる白石に、信託貸付社の生存せざりしは一考に価する処であつたが、今回、而かも根底頑として動かざる資産家の子弟の手に成れるは、さもありなむと首肯し得る処、資本金第一期払込の初歩に於て早や着々功績を挙げて居るを見ると、後車あながち前轍を履むの愚は見まいとは思はれる、況んや資金充實、商的感念に富める新進若党の經營に掛るに於てをや、次は、過般北極方面唯一の富豪鈴木清之助が私財を抛つて公共の便に設けし、局長鈴木嘉右門氏の寿町郵便局舎である白石の無集配局舎としては、仲々振つたもの、遠來の客は平気で白石本局と誤認し、管理局員が無集配局の軒灯に驚きしとなれど、満更嘘と聞き流す訳にも行くまい、すぐ真向に、昔本町に下駄屋として名だりし菅野商店があつて、一步直進、茲は名に負ふ本紙の御本尊岡崎政治郎氏の御本邸にてあるのだ、幾万とも数知れぬ他人が入り込む共進会に、ハテ是れが兼ねて聞く実業新報社長の邸宅、店舗で御座るか、と言はれては自

分は兎も角白石の恥晒し此の上なし、との意にてか左あらぬか、旧館を改築して凡そ半ヶ年余の日子を費やし、過般漸く竣成したるはかくの通りの大伽藍これこそ、将来実業界と相提携して高堂に立つべき本紙の主筆が御住宅として恥ぢることはあるまい、お負けに販売品までが新發明の饅麵新菓糸綿、しかもそれが若干の利益も見る事能はず、只共進会の折白石の名物土産とせんもの、無きを顧慮して苦心の結果あみ出したるものなそう、加へては実業新報を創刊し、損利の外に超然として只白石の面目を維持し、進んでは実業界に多少の貢献せんと自ら進んで資を抛つが如き、枚挙する氏の事業、一として公共的犠牲的ならざるものなく、氏が公共心に富み、気概に長け、正道を守り、勤勉にして誠実、深謀ありて遠慮なる性格は遠く余輩の想察以外に在るを悟ると共に、一意感謝の念に堪えない次第である。

19 第33号5面(明治44年12月21日)

商店単評余録(四)

佐久羅生

軒々相櫛比して、茲は白石唯一の高等旅館白石の華族会

館、当市一粒の大建物と自賛して憚らない岡崎ホテルである。

自任するも宜なるかな、新客の目には、白石にはかくもハイカツタホテルもあるものかと驚かる、に違ひない、先づ近眼にも老眼にも見逃されまいと純黒の壁に書いた『岡崎』の白文字は汽車の中から眺めても、旭日に冴えて燦たるものである、壮嚴なる煉瓦軒り二階建の洋室、入り込んだ玄関口の煥美、四季の花薫る奥庭の幽邃、敢て新婚の人に供せんとてか和風広潤の新設離れの間、投宿して後にあらずんば、浩然の気爽快の味を感受し得られないそふな、当町出入の高位高官頭紳淑女は云はずもがな何々の団体、某々遠足、乃至は一寸した官吏、気のきいた商人までが空威を張つて一宿を定め込むので、其の収入は少くない、かて、加へて其名沿線に普ねき、『名誉頭』の製造本舗で、一年の製造高実に二百万個の多さに登る、蓋し全国に冠たる者であろう、一手に占めたる構内売の収入も加算すれば、当店一日の総純益実以て多額と云はざるを得ないじやないか

茲、新築の二階建続き家は、鈴金ヒリキ屋と仕出し店都屋とにて、焼肉の類粉々として鼻をつく、其の隣りも、

利を博するの拳に出づる意なきや。

そばやとして有名の大萬庵であるが、両仕出しや共に、白石に出入する他客の昼飯所として供するに激然たるの資格は一寸六ヶしからう。

20 第35号5面(明治45年1月11日)

商店単評余録 (四)^マ

佐久羅生

佐久羅子、白石の為め日頃嘆じつ、あるはそばやらしきそばや、一品料理店らしき、昼食所の一として見当らない事である、為に白石に來降する商人其他の用人は、一寸昼食を喫するの場所に窮し、術なきに至つて料理店又は旅館に入り込み、思はざるの散財に、後悔するもの尠なくないと聞き及んで居る、近くは人も知る來春、千種万客雜沓すべき時に於て遠くは諸般の官衙統立して幾多の人の通ふ時に於て、依然変らざる白石ならんには、極めて些々たる右の一事を以て、遂に白石の不自由千萬なるを概せらるゝ、あらば誰しも、冷汗背に滴るを覚ゆるではないか。

いかに白石の気概に長けし人物、奮い起つて高等そばやを私設し一は白石の不面目を一新し、一は以て莫大の私

11 鉄道

1 第3号1面(明治44年3月1日)

社説

白上間鉄道布設の急務

白石・上の山間鉄道布設問題は久しき以前より、両者間に唱導せられつゝ、ありと雖も未だ具体的成案を見ざるは、吾人の甚だ遺憾とする所なり、鉄道其のもの、根本義に至りては、今更謂ふの要なしと雖平時にありて乗客に対し毫も危惧の念を懐かしめず、常に快感を与へ旅情を慰め安心せしめ以て交通機関の本分を尽し、一方貨物輸送に対しては、些の渋滞なく完全に運輸を計り以て地方産業開発の資に供し、一朝有事に際しては最も敏活を要すべき軍隊の行動に対し、完全之加も迅速に輸送の便に供すべきにあらずや、然るに奥羽南線の如き例年の雨季に際する毎に鉄道界に於ける不吉の語を耳にせざることなし、曰く崩潰、曰く衝突、曰く転覆、曰く脱線、何んぞ吾人をして斯かく此の厭ふべき凶報の類々として耳を掩ふに暇あらしめざるこの多きや、吾人は未だ明

細なる計数を得ざるも、年々歳々之れが損害の莫大ならんと思惟す吾人は斯の如く危険にして之加も不経済なる線路を何時迄も固執するの要なかるべきを信ずるものなり、当初当局者は何んがために数百万の財を投じて此の危険なる地を採用せしや甚だ疑ひなき能はず、何んとなれば他に極めて危険なき、加之も平坦なる白上間の適線あることは当時既に明瞭なりしなり、吾人は斯かる不生産的なる線路をして永く存在の要を認めざるものなり、若し今にして改めざるに於ては国家産業に及ぼす影響や実に多大なりと謂ふべし、然れども此数百万金を投じたる線路をして只だ放棄せよと謂ふにあらず、在来の線路をして貨物専用の線路となし、他に適當なる客車線路の布設をなし、両々相俟つて而して始めて交通機関の完備と謂ふを得べきなり、故に吾人は客車線路の布設を以て今日の急務なりと謂ふ所以なり。抑も前述の白石・上の山間の地たるや、坦々砥の如く、昔は奥羽の諸大名江戸参勤の通路とせる程にて如何に其の容易なるかを知るべきなり、今にして国家百年の計を講ずるにあらずんば、遂に鉄道は一の危険物なるが如き感を抱かしめ、鉄道収入の上に於ても大なる欠陥を生ずるや必せり、若し夫れ人

一度び此奥羽南線を通過せんか。不安の念に駆られて互に其無事に通過せるを祝し合へるが如き有様なるをや、故に吾人は一日も早く此南線をして貨物線と為し、白上線をして客車線となし以て客車線と貨物線との區別を明にし地方開発の資に供し、以て交通機関たるの本分を尽されんことを切望して止まざるなり、而して此白石・上の山間を第一期線とし、更に其を延長して相馬中村に達せしむるを第二期線となすに於て、始めて完全に横断鐵道の実現を見るに至らば、東北振興否東北開発の利源として、国家經濟の上に至大なる好果を得るや必せり、有志の士奮勵一番し以て大成を期せられむことを

此稿を草し畢るや爰に山形・上の山・白石間の有志聯合して白上鐵道布設を請願せんとすとの吉報に接せり尚ほ詳細は別項に掲載せり

2 第3号2面(明治44年3月1日)

白上山間鐵道

同布設に関し白石、上ノ山、山形の有志相図り今期議會に請願せんとすと今其請願書を得たれば左に記載すること、なしぬ

白石上山間横断鐵道速成に關スル請願

奥羽鐵道横断線ノ一トシテ宮城県刈田郡白石町ヨリ同県同郡七ヶ宿村ヲ經テ山形県南村山郡上山町ニ達スル鐵道線路ヲ新タニ布設セラレンコトヲ茲ニ其要領ヲ具陳ス一本線沿道ハ昔時津輕、秋田、莊内、最上等十八大名江戸參勤交代ノ通路タリシ歴史ヲ有シ現時ト雖一人挽ノ腕車能ク四時ノ通行ニ不便ヲ感ゼザル道路ニシテ奥羽六県ヲ貫通スル中央山脈ノ横断通路中最モ容易ニシテ安全ナル個所ナリトス、且ツ沿道附近ニハ比較的広濶ナル溪谷ヲ有スルヲ以テ其折曲セル部面ハ此等ノ溪谷ヲ通ズレバ僅ニ五百米突乃至一千米突ノ隧道三ヶ所ヲ開鑿スルニ於テハ全線殆ト平坦ニ近キ安易ナル線路ヲ得ヘキハ等シク認識スル所ナリトス、加之本線沿道ニ於テ嚴冬ノ候積雪尺余ニ達スルハ中央山脈分水界以東滑津ニ至ル二里余ノ個所ナレドモ該所ノ大部ハ茂ケ沢ト称スル溪谷ニシテ其位置西北ヨリ東南ニ走ルヲ以テ日射ニ便ニ從テ解氷消雪速カニシテ互寒ノ時ト雖モ人馬通行ノ障碍セラル、ガ如キコトナシ、サレバ山間鐵道ノ通弊タル積雪吹雪ノ為メニ汽車不通トナルノ危虞毫モ之レナカルベシト確信ス

一由來兩羽地方ニ於ケル人文ノ發達産業ノ進歩他ニ後レタルハ畢竟交通ノ不便ニ起因セズンバアラズ而カモ近時ニ至リ鐵道ノ貫通ト共ニ本線トシテハ板谷線アリ、横斷線トシテ近ク布設セラルベキ尿管線アリト雖モ前者ハ地形斷崖絶壁殊ニ隧道ニ隧道ヲ重ネ為メニ旅客ヲ

シテ絶エズ不快不安ノ念ヲ懷カシメ且ツ貨物輸送力ノ充実ヲ期スルヲ得ズ、兩羽地方ハ是ガ為メニ不便不利益ヲ蒙ルコト多大ナリ後者ハ前者ニ比シ遙カニ優秀ノ地位ニアリト雖モ而カモ地勢甚タシキ水害ノ虞アリ且ツ冬期間積雪ノ為メニ運輸ノ遮害セラルベキ憂アルハ前者ト大差ナカルベシ、則チ兩者共ニ完全ナル中央山脈横斷線路ヲ以テ目スルニ足ラズ是レ工事ノ比較的最モ容易ニシテ運輸上又最安全ナル本線路ノ速成ヲ熱望スル所以ナリトス

一本線ノ終起点タル宮城県白石町ハ福島、仙台南市ノ殆ント中間ニ位シ東北本線並ニ海岸線トノ連絡ニ頗ル便ニシテ近ク築港セラルベキ塩釜港ト羽前地方トノ連絡モ亦最モ完全ニ行ハルベキヲ信ズ

一本線沿道ノ山脈ハ大ナル森林並ニ金銀銅亜鉛石膏等ノ鉱物ニ富メルモ搬出ノ便ナキヲ以テ其産額未ダ大ナラ

ズト雖モ運輸機關ノ完備ト共ニ著大ナル増加ヲ見ルベキハ期シテ俟ツベク、又之ト相俟ツテ本線沿道ニ於ケル豊富ナル原動力トシテ水原ハ各種産業ノ興隆ニ資スルコト大ナルベク沿道ニ介在スル牧場、温泉地ノ利便ヲ受クル亦多大ナルベシト信ズ

永久の安固ナル陸羽横斷鐵道ノ速成ハ独リ沿道關係地域ノ利害問題ニアラズシテ實ニ東北地方全般ノ消長ニ関スル一大問題タルベキヲ以テ希クハ邦家百年ノ大計ヨリ打算セラレ特殊ノ御詮議ヲ以テ願意御採用アラシムコトヲ茲ニ明治四十年ヨリ同四十三年ニ亘リ陸軍測量部ニ於テ實測セル地形図ニ拠リテ作成セル本線沿道略図並ニ本線予定路線図ヲ添付シ謹テ請願候也

明治四十四年 月 日

上山町長	高内源之助	山形県會議員	梅津清中
南村山郡會議員	相原茂助	上山町區長	後藤治三郎
上山町會議員	原田榮助	上山町會議員	原田源助
同	高橋宰橋	同	河合平藏
同	五十嵐平次郎	同	太田政清
同	佐々木奉光	同	會田宏吉
同	奥山芳雄	同	中村代助

同 岡村利藏 上山銀行支配人 會田太次郎

山形商業銀行上山支店員 高橋熊次郎

山形市長 新關善八 山形市會議長代理者 櫻井仲藏

山形商業會議所会頭 三浦權四郎

白石町長 水野健二 白石商業銀行頭取 渡邊佐吉

白石銀行頭取 鈴木清之輔 白石町會議員 菅野圓藏

刈田郡医師会長 亘理 晋 壽丸合名会社社長 渡邊儀藏

刈田郡參事會員 紺野常二 同 朝倉秀雄

白石町會議員 岡崎豊松 同 今井儀平

同 鈴木藤左衛門 白石町區長 可野勇七

白石町區長 岡崎政治郎 宮城県會議員 鈴木惣四郎

刈田郡會議長 山田誠一 刈田郡七ヶ宿村長 安藤與一郎

刈田郡會議員 高野榮治郎 同 武田朝吉

同 佐藤多利藏 同 佐藤兵助

同 佐藤彦七郎 宮城県會議員 村上勇吉

刈田郡參事會員 大場忠藏 刈田郡會議員 堤榮左衛門

刈田郡會議員 山家健藏 同 小室春治

七ヶ宿村書記 高橋勇助

如斯有利なる横断線なれば有志諸氏は期成同盟会なるものを組織せられ飽迄其目的を遂行せられんことを希望し

てしまざるなるものなり

3 第4号3面 (明治44年3月11日)

●白石駅状況 鉄道院にては岩沼竹駒神社參詣者の便を図り去る二月二十八日より三月七日迄で二、三等二割引往復切符発売せし為め当駅同切符発売数は三百六十五なりと、又明治四十三年二月中に於ける乗降人員及び貨物発着数を示せば

二月中

四十三年 四十四年

乗車人員 三六八一人 四八一三人

同賃金 一五〇四円七〇 二三五九円一六

降車人員 三五六〇人 四六七二人

貨物発車 二二七車 三三五車

同 噸数 一八四七噸 二二一八噸

同賃金 五二七六円八一 五九八〇円五八

貨物着車 一三四車 一五五車

同 噸数 一〇九一噸 一二五九噸

にして逐年著しき好況を呈せり

4 第5号2面 (明治44年3月21日)

◎白上間鉄道布設請願衆議院委員会採択に決す

我が社の屢々論じたる白石・上の山間鉄道布設問題は、過般上の山、山形、白石の有志者より請願せられたる処、去十四日衆議院請願委員会に於て採択せられたり。吾人は衆議院委員会の採択は誠に其の至当なるを信ずるものなり、何んとなれば、奥羽南線に於ける輸送力の減殺を補ふは、將に此白上間を措いて他に適當なる線路を得るの途なければなり、併して福島・白石間は四十分一の勾配あるを以て是れを復線となすに於ては旅客貨物の輸送力に至大なる好果あるべきは何人も疑を容れざる所なるべし。然り而して始めて東北の利源開發に資するものとなすべく、亦軍事上に於ける至大なる便益あるべきは識者を俟ずして明かなり、必ずや貴族院に於ても亦政府者に於ても同意せらるべきを疑はず、然れども単に衆議院を通過せしのみを以て現実せらるべき問題にあらざれば有志諸氏は益々奮励し他日の大成を期せられんことを勧告するものなり。

5 第6号2面 (明治44年4月1日)

白上間鉄道速成の請願意見書

請願委員長 福井三郎

右請願の要旨は奥羽鉄道横断線の比較線として工事の難易、産業其の他森林鉞物の多寡、本線及海岸線の連絡等に於て最適當なるは宮城県刈田郡白石町、同郡七ヶ宿村を経て山形県南村山郡上山町に達するものは是れなり、永久的安固なる陸羽横断鉄道線路は独り沿道關係地域の利害に止まらず東北地方全般の消長に關する大問題なり、依て本鉄道を速に敷設せられたしと云ふに在りて衆議院は其趣旨を至当なりと認め之れを採択すべきものと議決せり、議員法第六十五条に依り別冊及御送付候也

明治四十四年三月 日

6 第15号2面 (明治44年6月21日)

●白石上の山間鉄道線実地踏査

衆議院技師船塚芳治郎氏は白石・上の山間新線路実地踏査として昨二十日上の山町に出張せられたるに付き、案内者として白石町より町長水野健治、七ヶ宿村よりは安藤與一郎の両氏は去る十九日上の山町へ赴かれたり、而

して同技師は二十一日上の山出発、同地町長其他の有志及び本郡より出張せる諸氏と共に実地を踏査せらる、筈、多分白石着は二十三日の予定なりと

7 第18号2面(明治44年7月21日)

● 白上鉄道期成同盟会成る

同問題は着々歩を進め去月鉄道員技師の実地踏査を遂げられたるが地方有志家は速に該問題を解決せんことを期し、今回関係地域有志間に於て期成同盟会を組織し事務所を白石町役場内に設けられたり、而して上の山及七ヶ宿等と相呼応して以て大々の運動を開始せんとするもの、如し、然るに横断線としての完全を期するには更に之れを延長し角田、丸森、金山を経て相馬の中村に達せしめんとすの計画にて是れが調査に着手せし由なるが、以上の関係町村よりは共に一致の行動に出づべき旨申込ありしとのことなれば、今後同一步調にて運動をなすことに相談纏りたる由、上の山・白石・中村間の各関係町村は飽迄も此目的遂行せんことを期し一大運動を開始するに至るべしと

8 第23号3面(明治44年9月11日)

● 鉄道線路改築

鉄道院にては五十分の一以上の急勾配は輸送少しく頻繁となれば忽ち輸送力の不足を訴へ営業上苦心少なからざるより、近来此点に付き大に鑑みる所ありて成るべく急勾配の線路を避くる為め五十分の一以上の線路は漸次改築するに至るべく、全国を通じて二十三区域に涉り其内には白石・藤田間、桑折・長岡間も編入しあれば近き将来に於て是れが改築を見るに到るべしと

9 第28号1面(明治44年11月1日)

須く東北振興の障害を除去せよ

近時漸く東北振興策なるもの喧伝せらるゝに至る、曰く鉄道布設、曰く港湾改築、曰く工業起興、数へ来れば決して少なしとせず、然れども未だ其の具体的成案を見ざるは吾人の最も遺憾とする所なり、而して東北の富源を開発せんと欲せば鉄道の発達に俟たばる可らざるは勿論なりとす、然るに我が東北に於ける既設の鉄道に就て觀るに關西の夫れに比して総ての点に於て遙かに劣れることは何人も首肯する所なるべし、殊に産業発達の上に密

接の關係を有する運賃率の如きに至りては何んぞ其の不公平なるの甚だしき、今左に其の比較を挙げれば三級品以下一品積一噸に付き走行百哩に付き運賃、中部壹円八拾錢、九州壹円參拾錢、山陽壹円拾錢なるに對し東北は貳円にして、運賃金壹円に付き輸送哩程の比較を示せば中部五十哩、九州六十哩、山陽七十一哩なるに對し東北は四十哩なり、斯の如き失当の高率を課せられ居る我が東北は如何に振興を唱へ如何に産業開發を論ずるも到底發達し得ざるは瞭かなる事實なりとす、又日鉄時代にありては一噸より噸扱ひの運賃なりしも国有となるに及び二噸以上にあらざれば噸扱とせられざるに至りたるが如きは確かに国有鐵道の本旨に戻る偏頗の処置にして、東北産業の發達を阻止すること尠なからざるなり、這般東北に於ける六商業會議所會頭等主催となり、仙台に大會を開き運賃率の低減を決議し要路に建議して以て其の目的を貫徹せんとすと、是れ洵に機宜に適したるの処置にして吾人は大々の賛同を表すると同時に之れが遂行に努むるに吝ならざるなり。

10 第28号2面 (明治44年11月1日)

東北鐵道運賃低減期成同盟會

東北各鐵道貨物運賃は中部、九州に比し一割五分乃至三、四割方、山陽に比し殆んど二倍の高率を課せられ居るものにして、這は国有鐵道の本旨に戻る不公平なる処置なることは論を俟たず、我が東北の産業發達を阻止するものとして仙台・弘前・酒田・秋田・青森・山形の六商業會議所會頭等主催となり東北鐵道運賃低減期成同盟會なるものを組織し、去る廿八日午後一時より仙台市公會堂に於て其の運動方法協議の爲め大會を開催せり、而して当白石よりは上西運送店上西無二三、丸山運送店日下惣太郎、丸共運送店錢谷市郎、本社々長岡崎政治郎の四氏出席せり

11 第38号2面 (明治45年2月11日)

○鐵道急設を欲する意見書

当刈田郡會にては奥羽線山形県上山駅より分岐し、宮城県白石駅に於て東北本線に接続し、更に同県伊具郡角田町を経て福島県中村駅に至り常磐線に連絡する横斷鐵道布設に關し郡會の決議に依り、内務大臣宛左の意見書を

提出せり

理由

羽前、磐城の両国は其地密迤にして勢相依憑すること猶人の腸背の相俟つか如し、独り両県の界線に蟠居する山脈は交通連絡を厚からしめざるを憾む、然ども古来より貫通せる羽前街道ありて両国の交通を助け往時両国及津軽各藩諸侯の江戸参勤交代は皆之を過ぎ貨物亦主として之に依りて運輸を為せり、要するに陸羽中央山脈を横断貫通する奥羽六県道路中傾斜少なく交通容易にして安全なるを以てなり、又磐城国白石駅以東同國中村駅間に於ては坂路なきにあらざる、概ね平坦なるを以て随て軌道の勾配緩慢輸送力を減殺するが如きことなきは勿論なり、而して冬期山脈は積雲少からざるを以て山間鉄道に於て往々見処の軌道雪没の遺憾全くなきにあらざるべしと雖も羽前街道を中心とし断続する人家に沿ふて軌道を敷設せらるゝ時は地勢南面日光に映じ融雪速かなるにより、其地勢彼の板谷線に比すれば優なること数等にあり殊に本線附近一帯は無尽の林産物及鉱物に富み拓殖の余地亦広大なるを以て運輸機関の完備に至らば之等産学の甚大なる増加を呈するに至るべきは縷述を要せざる処な

り、加之落差多くして水力の豊富なる白石川は本線の敷設と俱に一層利用せらるゝの企業を見、工業の勃興を期することを得るは勿論沿海の魚類介藻は忽ちにして山形県に輸送其需用に応ずるに至るべく、其他附近各所の温泉場、牧場等に対して利益を感ずること多大なるを以て啻に交通運輸のみならず海陸産物の発達を促すものにして其敷設を要すること蓋し焦眉の急を告ぐるものとす

12 第39号2面 (明治45年2月21日)

白上鉄道建設の建議案

多年の宿題たる白上鉄道建設に就ては屢々請願及び意見書を提出し来りたりしが、愈々去る十五日本県選出代議士齋藤二郎氏外三名より左の建議案を提出せられたり

鉄道建設の建議案

(東北線の分岐線)

一 宮城県下白石より分岐して山形県下上の山に接続する線

一 宮城県下白石より分岐して同県下角田、丸森、金山を経て福島県下中村に接続する線

13 第39号2面(明治45年2月21日)

鈴木村上両氏の上京

過般郡会にて決議せる白上間鉄道建設に関する意見書を内務大臣迄提出せることは已に前号記載の如くなるが、更に白石町よりは鈴木惣四郎、郡部よりは村上勇吉の二氏貴衆両院に対し請願書提出のため孰れも昨二十日上京せり

14 第39号3面(明治45年2月21日)

白石鉄道請願運動

白石・上の山間鉄道建設に関し別項記載の通り代議士齋藤二郎氏外三名より提出せられたるが、一方上の山及び本郡の有志は聯合して請願書を貴衆両院に提出為す可く目下調印のことなるが、本郡会及び白石町は其代表者一名を上京せしむることに決定せり

15 第39号3面(明治45年2月21日)

代表者の上京

本郡会議員諸氏は別項請願書提出のため、代表者一名を上京せしむる為め同議員渡邊佐吉氏外十七名、是が費用

として金若干を抛出されたりと

16 第41号2面(明治45年3月11日)

○鉄道建設議案委員会可決

一宮城県白石より分岐して山形県上の山に接続する線 原案可決

一宮城県白石より分岐して福島県中村に接続する線 原案可決

代議士齋藤二郎氏外三名より提出したる鉄道建設に関する建議案は三月六日同委員会に於て可決したり、

17 第59号2面(大正元年9月21日)

●国有鉄道運賃低減 運動に就ては我東北は最も不利の位置にありとなし、仙台商業会議所主として奥羽六県北海道聯合の大会を昨年仙台市公会堂に開くに当り本社も参加したりしが、其の決議を齎し大に運動するところありしが此程に至り益々改正運賃の発表を見るに至るは稍々目的を達したるものとして仙台商業会議所会頭八木久兵衛氏は其の運動を助勢なしたるものに対し一応の挨拶状を発送されたり

18 第63号2面 (大正元年11月1日)

●鉄道院技師の来白 同院技師上田武男氏は白石鉄道線路の用件を帯び、去る廿六日午後来自岡崎旅館に投宿されたりしが地方有志家鈴木惣四郎其他の諸氏と会見せられ、翌廿七日午前七時二十二分発にて仙台へ向け出發されたり

19 第63号2面 (大正元年11月1日)

●長代議士来白 山形県選出衆議院議員長晴登氏は上の山の有志家高橋熊治郎氏と共に白上鉄道予定線路実地踏査の爲め去る廿七日来白されたり、右に就き上の山よりの電報に接し水野白石町長は二十六日朝長氏と七ヶ宿間に於て会見すべく出張されたりしが氏と同行帰白、渡邊佐吉、紺野常二、鈴木惣四郎、本木助役諸氏と会見し同線路に關し凝議するところありて、午後九時二十三分發列車にて長代議士は帰県されたり

20 第67号2面 (大正元年12月11日)

白上鉄道に就て

在讀岐 大槻寅治郎

鉄道院が全国來成線及予想線約一萬哩を設定し鉄道線路網なるものを編成して將來に於ける敷設方針の大綱を決定し、運輸交通の利便を国内に普及し以て地方の利源を開發し産業を振興せんとして、現在着手中の各線路の外に尚東北地方にては湊・宮古港間、盛岡・秋田間、水戸・白河間、羽越沿岸線にては村上・秋田間、其他北海道、中国、四国、九州地方に亘り総て九線路に対し此程精細なる踏査又は予測を行ひたるが以上の哩数のみにても一千二百哩に上り此の建設概算額は実に二億六千万円を算すと云へり、此現在着手中の線路と云ふのは東北地方では小牛田より山形県下新庄を経て酒田港に到るもの、若松より新潟県下新津間、同所より新發田を経て秋田県下村上に至るもの、磐城の平より郡山に至るもの等にして此外輕便鉄道にては山形県下赤湯・永井間、秋田県下追分・船形間等にして、之と今回新たに予測又は踏査を行ひたる諸線路を見るに何れも枢要の線たるは論を俟たずと雖ども、白上鉄道と白石より丸森を経て相馬中村に至る線路も右の諸線に比し決して劣る処なかるべし、如斯我が白石地方を除の外外方面に亘り無遺憾布設の計画を立て居るにも不拘、独り仙南枢要の地たる白石附近に對

してのみ当局の冷淡なるを聊か不満に不堪点あるを遺憾なりしが、爾來齋藤代議士を初め該鐵道期成同盟會諸君及有志の極力尽瘁の結果、右布設に関する請願採択となり已に測量を了ひ目下調査中なりと云へば近く予算に編入せらるる運びとなるべし、若し万一にも予算に編入せられざる時は断然輕便鐵道法に抛り私設を成立せしむるの覚悟なかるべからず、今吾人素人目を以て見るに白上間僅か約四十哩に過ぎず之れが建設概算額十哩平均約十一、二万円、合計五十万円足らずの資本を要するのみ、又一方に於ては鐵道院が輕便鐵道法實施以來本年十月末迄の敷設免許出願数は三百十件延長四千六百五十余哩、此の資本総額は二億二千余万円に達し其内免許を得たる分のみにても百八十七会社延長二千八百十余哩、資本一億二千四百九十余万円の多きに達せりと云ふ、尚ほ該輕便鐵道補助法に依りて予算に計上せる額は本年度五十万円、來年度七十五万円なりと、以て輕鉄企業の全盛なると当局の鐵道政策に吸々たるかを推知するに足る、之れを要するに白上鐵道期成同盟會の趣意貫徹するの暁には是れ唯に白石町の振興策源となるのみならず地方の利源を開発し産業の發達を促進せしむるものにして國家の慶

事と云はざるべからず、第三十議會もイヨイヨ切迫せる秋に際し今後尚ほ一層有志諸君の奮起を望まざるを得ざるなり

21 第71号2面（大正2年1月21日）

●前年国鉄貨物集散

鐵道院の調査によれば大正元年四月より同十二月に到る期間に於ける国有鐵道に依る貨物集散の上京は大体百八十八万一千七百七十九噸にして、之れを明治四十四年度の同期に比較するに十二万〇三百四十八噸の増加なり、又其取扱噸数に對する収入は三百〇一万六千五百五十五円にして前年同期に比較するに十六万五千六百六十一円の増加なり、更に之れを各管理局別に表示すれば左の如し

【本書統計編 表22】

国鉄貨物集散概況は大体前表の如くなるが右表中十二月份のみは同月廿日迄の取扱噸数及収入なるを以て同月末日迄を精査するときは数字に多少の異動を生ずることは免れざるべしとす

22 第71号2面(大正2年1月21日)

●白石駅に於ける乗降人員の概況

大正元年十二月中に於ける白石駅乗車人員は四千八百七十八人にて其の賃金二千二百五拾貳円拾四錢にして降車人員五千〇二十三人なりと、而して前年度に比較する時は乗車人員にて六百二十一人賃金に於て百二十拾五円七拾五錢降車人員にありては実に壹千〇三十七人の減少を来せり

貨物取扱の対照を示せば

【本書統計編 表23】

之れを要するに歳末は来往客の増加するは例なる反し諒闇中なると一般不景気等に依り出入旅客の減少を来せるもの、如く、発送貨物の減少せるは主として木炭・竹・籾等にして木炭は品不足を来せり、而して賃金の減少は通貨改正の結果多大の減少を示せるもの、如し

23 第78号1面(大正2年4月1日)

論説

白上鉄道建議案可決

奥羽南線の欠陥を補充し国家の富源を開発すべき横断線として久しく懸案たりし白石・上の山間鉄道布設建議案は、去る廿四日委員会を通過し、越ひて廿六日本会に於て可決確定せり、之れにて該案は解決せられたり猶進んで鉄道會議に附さるべきも之れが布設につきては元より異議あるべき筈なし、只時期と金との問題にして、今や政府は両政整理に吸々たるの時果して速に之が布設を為すべきや否やは甚だ疑なき能はず、前途は尚遠慮なり、然れども吾人は屢々論じたる如く、幾多の埋没せる遺利を開発し国家の富源を開拓し、將た又軍事上より觀て以て一日を緩ふすべきにあらず、之單に地方的問題にあらずして實に国家の大問題たればなり、彼の野岩羽線の如きに比し緩急を同ふすべきにあらざるなり、速に之れが布設を成し、南線の欠陥を補ふべきは急務中の急務に属す、なれども鉄道問題の如きは多くは關係地方人の活動に俟たざる可からざるは勿論なりとす、建議案の決議に依り能事終れりとなすが如きことありとせんか百年清河

を待ちと何んぞ選ばん、されば此際關係地方人は一致協力克く連絡を通じ大に活動して以て是非共之れが布設を速成せしめんことを努力せざる可からざるを切に勧告するものなり。

24 第79号5面 (大正2年4月11日)

在讃岐大槻寅治郎氏

書翰の一節

(前略) 今回白上鉄道本会議を通過せしは衷心より嬉しく存候、是れ偏に貴社並に關係有志者の尽力のたまものにして大に感謝すると同時に此後は貴社論説の通り時機と金の問題に相成時機は即ち金を意味致し候、付ては輕便鉄道法に依り(当局の調査は一哩三十万円以上とあるもの、如し然れども實際はやり方に依り此半額位でもやれるかと存候) 大々の運動を試み可及的急設せらる、様御尽力を切望して止まざるものに御座候(後略)

25 第90号2面 (大正2年8月1日)

白石鉄道測量隊来る

地方の懸案たる白石・上の山間鉄道予定線は愈々今回実

測に着手することとなり鉄道院技師、技手、書記、助手等一行十五名よりなる測量隊は去る廿四日上の山町へ着せしにより、同町長は白石町長へ電話にて通知されたれば水野白石町長は廿五日急遽上の山町へ出張、次て七ヶ宿村長安藤與一郎氏も出向種々協議するところあり、測量に就ては可及的便宜を謀ること、其他各種統計書類の提供等につき各町村の主任書記を会して質疑に答ふる等大に便宜を計られたり、尚水野町長は廿八日朝帰白されたるか同一行中の澤木書記は別れて廿八日午後白石に着、岡崎ホテルに滞在中なるが一兩日中には上原技師も来白の筈、右に付き本郡物産の統計、温泉浴客、旅客其他の統計及貨物集散の状況等に対する質問に答ふるため向田郡長は關係各町村の主任書記を廿九日刈田郡役所に招集したり、白石町長は廿九日午前八時より各有志者を役場に招き諸般の報告あり、且つ測量に就ては極力便宜を与ひ委員を挙げて活動することに決し散会したるが該委員には渡邊佐吉、渡邊又四郎、鈴木清之輔、鈴木惣四郎、紺野常二の諸氏にして専ら其の衝に当らる、筈なり

白上鉄道線路の実測

地方有志の奮起を望む

十数年来の懸案たる白石・上の山間鉄道布設問題に関しては嘗て吾人は再三意見を開陳し且つ其急務を絶叫し来りたり、又屢々地方有志と関係代議士とによりて議会に建議案として現れたる宿題なるが再び三十議会に於て建議案提出され首尾能く両院を通過したる結果として愈々今回之れが実測を為べく鉄道院実測隊一行十五名着白、直に着手すること、はなれり

近時東北振興論策は漸く識者によりて喧伝され、東北開発は国家の大問題として研究さるゝに至る、而して其開発策たる、多々各々視るところによりて異なるべきも、先づ大局に於ては交通機関の設備を以て開発の先駆たりとの議論に一致したるもの、如し、由来我東北は交通不便にして、之れを関西地方に比すべくもあらず、幾多の遺利を擁してこれが開廢をなし能はざるは畢竟運輸機関の欠如せるにあるは何人も異論なかるべし、東北の振はざる故なきにあらざるなり、之れ即ち東北開発の一着歩は交通機関の完備にありと云ふ以前識者を俟つて知るべ

きにあらざるなり、東北に於ける表裏日本の連絡は僅に奥羽南線によりて保たれあるのみ、同線の輸送力は世既に定評あり一朝事変に際しては弘前を迂回せざるべからず、偶々陸羽横断線の布設さるゝも整理繰延案中に投ぜられ何時完通すべきやをも知る可からず、よし横断線の完通せらるゝも仙台以北の輸送を充実するにありて、依然の南線を補充すべきは唯一の白上線あるのみ、否白上線を本線となさざる可からざるの時機正に到達せり、されば我等関係地方の者は奮躍一番大正の劈頭に於て之れが速成を為し積年の希望を遂げ国家の一大問題たる東北振興資としての第一着を解決せざる可からざる責任を有す、起てや有志の士、徒に午睡を貪り何等為すなきの時にあらず、事業繰延は一時の整理塩梅のみ、我が国運の趨勢は如かく消極主義の持続を容さず、国民の悲哀聞諒は去れり、聽て一陽来復の時機將に來らんとす、奮よ地方の士、勇躍以て大に活動を開始し之れが速成を為さる可からざるを切に勧告して止まざるなり、終に測量隊に対し関係地方民は熱誠以てあらゆる便宜を与ひ些の遺憾なきことに努むべきを望んで止まず敢て附言す

27 第91号2面（大正2年8月11日）

● 白上鉄道線路実測着手

既報の如く鉄道院同線路測量隊一行十五名は去る五日着白、目下岡崎ホテルに滞在中なるが先着の上原技師は先づ比較線踏査の爲め四日水野町長を案内として白石駅構内より福岡村蔵本御廟下より一本木前を通過し、大平村字高島より小原村字赤坂に達する線を踏査し、引返して南羽前街道（小原新道）を経て同夜は小原温泉に一泊同地方を親しく調査し、更に同村より齋藤基氏案内渡瀬駅より関駅に一泊されたるが安藤七ヶ宿村長も同伴、同駅より帰途福岡村字八宮より鎌先温泉を通過し、河原子を經て関駅に達すべき比較線踏査中にして実測に着手するも白石・関間は何れ三線を比較線として測量さるゝに至るべく、滞白中なる書記課は材料蒐集中にして其の測量日数は猶ほ数ヶ月を要するの見込みなりといふ

28 第92号3面（大正2年8月21日）

再び白上鉄道に就て

在讚岐 大槻寅次郎

問題の白石・上の山間鉄道予定線は愈々今回実測に着手

せられたりと、誠に賀すべき事である、思ふに此鉄道は奥羽南線の欠陥を補充し国家の利源を開拓し産業の発達を促進せしむる上で於て単に地方的の問題にあらずして実に国家の大問題なれば久しく懸案中たりし該案も第三十議会に於て首尾能解決せられたる訳である、此の上は財政の許す限り一日も早く急設を熱望する次第であるか今日の状態にては到底急設の望みなきもの、如し、然るに今回計らずも実測隊員か来白せられたさうだか此の珍客に対しては関係地方官民は一致極力便宜を与ふるが爲めに特に委員を挙げて活動することに決したりと、実に機宜に適ふた良き考である、斯る事は其地方によりては初め厚く終りは薄き傾きあるのは誠に面白くない様に思はれる、余等は昨年度より愛媛県松山市に達する予讚鉄道（延長百七十余哩）を布設するべく昨年三月建設事務所長始め総員百四十余名の一行が旧任地即ち京都より山陰道出雲国松江市を経て出雲の大社所在地迄の山陰延長二百五十哩の鉄道を完成すると同時に当建設事務所々在地讚岐国多度津町に乗り込んで来たのであるか、来た當時は関係地方官民の歓待を云ふものは実に大したもので而も熱心に歓待至らざるなく歓迎会の連発には頗る閉口

した方である、其他事業上に就ては極力便宜を与ふるとか、諸税金の負担を特に軽減すべしとか、家賃は三割方安くするとか、無遺憾歓待に勤めたものである。処がイヨイヨ工事に着手後未だ半期もたぬ内に何時の間にか

当時の熱度次第に冷却し追々競ふて我利我利主義を發揮するに至り、第一用地の買収に付ては不当の高価を唱いて応せず、曩に提言せし税金・家賃等も何等軽減する処なきのみか、却て苛重の税金を賦課し家賃も色々の口実を設けて漸次割増を請求し来り、其他工用物品の購入に際しては非常に競り上げるとか又は種々の苦情を挿込みて事業進行上に不尠支障となるのである。個人の權利を主張するは個人の自由であるからそれに付ては毫末も彼是云ふ訳ではないが如斯は独り工事に従事する者の迷惑なるのみならず実に国家の不利益ではないか、言実相伴はざるも又甚しきにあらずや、何れ此白上鉄道予定線も順境に行き起工の暁には諸般の關係上当然白石町に建設事務所を置かるゝこと、なるべく、其の時こそは各關係地方官民が極力便宜を与へるために大に奔走を要する秋である、万事其心して今から画策されたいのである、故に余は茲に重ねて各關係有志諸賢に向つて希望して置

きたいのは、此等の珍客を接待し且つ援助を与へるに当り誠心誠意始終一貫能く官民代表者の本分を尽されんことを切望するものなり

29 第94号5面 (大正2年9月11日)

▲白上線の測量隊鉄道院技手二人随行員数名は当地米澤屋に滞在最も熱心に測量中なり、該測量隊一行の着関するや地方の人心大に活気付き安藤村長、吉田助役、後藤、富澤の両議員区長等は誠意之等に対する便宜を与ひつゝ、あり、若し開設に至らば地方の幸福此の上もなく山岳の富源は為めに開発され薪炭は云ふも更なり到る処鉾山を以て充実し居る地方の發展は今より予想するに難からず

30 第108号2面 (大正3年2月1日)

●白上鉄道敷設

請願併に意見書提出

多年の懸案たる白上鉄道敷設に関する請願は年々繰り返されたることながら三十議會に於て衆議院を通過し、昨年夏季鉄道院は技師を派遣し踏査を了せられたる筈なるも、其内容は元より秘密に属するものにて知るを得ざる

も頗る有望なる線路を発見されたるやに伝へらる、右に付直接関係地たる山形県会及上の山町の有志家よりなる請願書は又々三十一議會に提出されたる筈なるが白石町に於ても町會議員、区長、有志者等数十名調印を了し、前代議士齋藤二郎氏を経て本県代議士より請願書提出さる、筈、猶ほ刈田郡会は過る廿三日該鉄道急設を欲する意見書を決議し内務大臣、貴衆兩院及鉄道院へ提出すべく一昨三十日郡會議長山田誠一氏携帶上京されたるが、本県議長小野平一郎、県參事會員村上勇吉兩氏を始め其の他の県參事會員等も極力応援さるべく来る六日上京大々の運動を開始さる、手筈となりたるが、白石町に於ても去廿九日町役場に町會議員及有志者の協議会を開き上京委員を選定し本県代議士、県会上京委員、山形県会上の山有志の上京委員等と連絡を採り大に活動開始さる、こと、なりたり、猶ほ刈田郡会の提出せし意見書は左の如くにして白石町より提出したる請願書も略同意味のものなりと、

鉄道急設を欲する意見書

奥羽線山形県上の山駅より分岐し、宮城県白石駅に於て東北本線に接続し、更に同県伊具郡角田町を経て福島県

中村駅に至り常磐線に連絡する横断鉄道を急速敷設せられんことを欲す

理由

羽前、磐城の両国は其他密迹にして勢相依憑すること尚人の腹背相俟つが如し、独り両県の界線に蟠居する山脈は交通連絡を厚からしめざるを憾む、然れとも古来より貫通せる羽前街道ありて両国の交通を助け往時両羽及津軽各藩諸侯の江戸參勤交代は皆之を過ぎ貨物亦主として之に頼て運輸をなせり、要するに陸羽中央山脈を横断貫通するに奥羽六県道路中傾斜少なく交通容易にして安全なるを以てなり、又磐城国白石駅以東同國中村駅間に於ては坂路なきにあらざるも概ね平坦なるを以て随て軌道の勾配緩慢輸送力を減殺するが如きことなきは勿論なり、而して冬期 界の山脈は積雪少からざるを以て山間鉄道に於て往々見る所の軌道雪没の遺憾全くなきにあらざるべしと雖も羽前街道を中心とし断続する人家に沿ふて軌道を敷設せら、ときは地勢南面日光に映し融雪速くなるにあり、板谷線と同日の談にあらず、殊に本線附近一帯は無尽の林産物及鉞物に富み拓殖の余地亦広大なるを以て運輸機関の完備に至らば之等産額の甚大なる増加

を呈するに至るべきは縷述を要せざる処なり、加之激流奔湍落差多くして豊富なる白石川の水力は本線敷設と俱に一層利用せらるゝの企業を見、工業の勃興を期することを得るは勿論磐城沿海の魚類介藻は忽ちにして山形県に輸送其需用に応ずるに至るべく、其他附近各所の温泉場又は牧場等に於て利便を感ずること多大なるを以て啻に交通運輸のみならず海陸産物の發達を促すものにして其敷設を要すること蓋し焦眉の急を告ぐるものとす。

如上の理由あるを以て本線横断鉄道を敷設せらるゝときは啻に交通運輸に於て至大の便宜を得、地方産業の進歩發達を期するに至るのみならず鉄道經濟上に於ても利益尠からざるものと相認め候に付、明治四十五年二月郡制第三十二条により既に貴官へ意見書提出致候処、其の後衆議院の決議により既に昨年中実地測量にも相成候越に候へ共、殊に昨年東北地方凶作に付地方民疲弊に際し救済にも相成候間、特急敷設相成度郡制第三十二条に依り意見書提出致候也

大正三年一月廿三日

宮城県刈田郡会議長 山田誠一

内務大臣 原敬殿

31 第108号3面 (大正3年2月1日)

●白上鉄道運動委員の上京 別項の如く白上鉄道急設に關する請願書及意見書を提出したるが尚本郡各町村長よりも請願書を提出したり、右に付白石町にては廿九日午前十時より協議会を開き運動方法及上京委員を選定したるが水野健治氏委員に選定され、来る十日上京各方面に向て大に運動を試み都合によりては更に数名の運動委員を上京せしむることに決定せりと

32 第110号2面 (大正3年2月21日)

白上鉄道急設請願委員の上京

白上鉄道敷設請願に關しては既報の如くなるが当白石町よりは上京委員として去る十一日前町長水野健治氏上京せられ、本県選出代議士及前代議士齋藤二郎氏、其他各上京委員等と協力し目下主務大臣及び両院に対し該鉄道急速敷設に關し極力運動中なりと

12 人物

1 第1号8面(明治44年2月11日)

●名譽の高齡者 実業家として白石町に高齡の翁あり、即ち鈴木幸吉氏にして本年八十に達せられ尚ほ矍鑠として指導せらるる實に目出度きかぎりと謂ふべし、同氏は其紀念として今年早々我白石町小学校に金百円、白石中学校に金五十円、刈田教育会に金五十円を基本財産中へ寄附せられたりと云ふ、県郡町各教育費の多額なる折柄此の挙ある洵に氏が年齡と共に榮譽のこと、謂ふべし

2 第3号3面(明治44年3月1日)

●鈴木富五郎翁逝く 同翁は永らく老病の爲め療養中のところ薬石効なく二月十七日午前七時、六十九歳を一期として逝す、同十九日午後三時自宅出棺菩提寺延命寺に葬る、因に同翁が生前の遺言により白石小学校基本金として四百円、又本郡越河村出身の故を以て同地小学校へ百円を寄附せらるる洵に美挙と謂ふべし、今同翁が略歴を挙ぐれば

鈴木翁は刈田郡越河村大槻榮藏氏の五男にして天保十四年十二月を以て生る、生家は世々農を業とし翁も幼時より家業の手助をなし居りしが元治元年々二十二歳の折り白石町鈴木喜四郎の養子となり、長女なか子を配し都合に依り六ヶ年を経て退身し生家に戻りたるも一旦商業に従事したる翁は初志を翻して再び白石に出で独立の商業を経営せんとせしも元来少しの貯蓄も有せざりしかば兄弟親戚の間を計り五十余金の資本を借受けて雑貨の行商を開業せり時は明治二年十一月なりき、明治七年東京より砂糖・石油の直仕入を開始したるは蓋し翁を以て当地に於ける嚆矢とす、爾来拮据十数年其間蓄積したる資金の大半を一夜賊の爲めに奪れ或は又東都より仕入れたる多額の貨物を房州沖難船の爲めに水泡に帰し艱難苦闘十数年漸次資本を増殖し、明治十年現在の屋敷に移転し店舗の拡張をなし雑貨商を廢し砂糖・石油の専業となり角萬商店の名知らる、明治三十年有志者と謀り白石商業銀行を起して取締役となり実業界に貢献せしこと少からず、晩年病を得て營業一切を富太郎氏に譲る、而して翁の逸事としては居常着実質素を守り奢侈安逸を避け且事を爲すに當りて能く自他の利害を考ひ苟も他人の不利益

になる事は己に利益あるも之を屑とせず一代を通じて
利殖の爲めに賃金をなさゞりし如き地方の富豪中稀に見
る所なるべし、且事苟も投機に類したるものを嫌ひ又常
に後進者の誘掖を樂み以て誘導し相当の地位を得しめし
もの数ふるに違あらず殊に教育の大切なるを唱ひ中学校
設立の儀あるや率先して巨額の資を寄附せられたり

3 第11号3面(明治44年5月21日)

●齋藤善治氏 越河村尋常高等小学校長齋藤善治氏は病
氣の爲め去る三月中より休職となり療養中なりしが薬石
功なく本月四日死去せられたり、依つて去る六日午後二
時氏が菩提寺なる同村定光寺に於て葬儀を執行せられた
り

4 第11号3面(明治44年5月21日)

●菊地龜吉氏 当町名望家たる菊地寅吉氏令弟龜吉氏は
永らく病褥にありしが去る十一日死去せられ、去る十二
日専念寺に於て葬儀を執行せられたり、因に同家にては
龜吉氏生前の遺旨により基本金として金幾千を白石小学
校に寄附せられたりと

5 第17号3面(明治44年7月11日)

●渡邊佐吉氏的美挙

当町に於ける資産家渡邊佐吉氏は世の富豪のその如く
書画・骨董或は蓄妾等の如き道楽は微塵も無く、常に社
会公共の爲め尽瘁し偏に町の發展に努力されつゝありし
が、頃日一意専心消防の發展に意を注がれ警視庁とも協
議の上、東京市日本橋区蠣殻町市原蒸汽唧筒製造所へ輕
便蒸汽唧筒を一台注文せらるゝ由にて、是れが出来の上
は邸内に据へ置き自衛上のみならず一朝失火の際は一般
の使用にも供する由

6 第25号3面(明治44年10月1日)

●岡崎佐太郎氏的美挙 同氏は亡父佐藏氏の遺志に依り
白石小学校基本金中へ金貳拾五円寄付せりと

7 第31号1面(明治44年12月1日)

東北人の特短

我東北人の短所は因循姑息なるにあり考ひ込み過くるに
あり、引括めて言へば鈍重遲緩するにあり、此特短は常
に事々物々に於て現はれ左思右考、慮拒不斷の間に毎に

機先を他に制せらるゝを見る乞ふ角技を以て之を譬へんか、我先つ敵手の虚隙を発見するも直ちに飛入りて之を倒すの果敢なく悠々乎として考量すらく我今彼の足を濡はゞ彼は直ちに倒る可し、而かも彼にして我の発するに先ち其足を引かは如何にす可き、而して後に彼の我に施す処は何の手ぞ甲か乙か将丙丁か、庚申壬癸四十八手の裏表を一々に数へ来りて尚休むに似たる考に耽けるなり、然るに機は常に動く虚実倏忽に変転して暫くも止む事なし攻守の勢爰に交じりて却つて敵の爲めに取つて投げられ呆然として口の塞からぬ如き奇観を示すの常になるなきか。

機先なる哉なる哉、能く機先を制するものにして初めて社会の率先者となり、嚮導となり、又開拓者となるを得可し而して機先を制するの道は敏活軽快にあり、鈍重遅緩を許さず、我東北人の特短は實に此点にあり而して試に之を撞くも鳴る事なく、之れを打つも響く事なく、恰も頑石の頑たるに似たり、昔時交通機関の未だ備はらざるに際してや、王化東漸の迹、著しかりき然かも庶政百揆文明の利器悉く具はれるの今日に於ても旧態依然毫も昔日の觀を改めず着々として常に機に後るゝは何ぞや、

我東北の雄鎮たる仙台市と静岡、浜松、名古屋の諸市と中央都市を隔つるの距離に於て果して幾何の逕庭ぞや然るに關西地方にありては中央都市、爰に一たび響鳴を揚ぐれば其近きものは共鳴し、遠きものは反響し恰も山彦の相呼応するか如く此ドンと鳴れば彼はガンと鳴り、此ガンと響けば彼はドンと響くなり、名古屋然り大坂然り京都亦然りとす、然るに我東北に至りては則ち如何文化の中央台に据ゑられたる烽火は警を四方に伝ふ可く一たびドンと鳴れり而かも我は寂として反響の起らざるなり、更に二たびドンと鳴れり尚聞として和鳴の兆なきなり其三たびし四たびするに及びし漸く微かなる音波を返して僅かにガンと低鳴す、其鈍重遅緩なる事實に驚くに堪へたらずや、王政維新の際に於て我の關西諸國に立ち後れたる事僅かに一步のみ、昔日発程一着の遅速、遂に今日千里の巨差をなし仔細に彼此相照看し来れば文野殆んど國を異にするの感なき能はず、而して蹉跎困離今日の禍敗を取りしものは實に我東北人の鈍重遅緩に基かざるはなし、人を刺さんと欲するものは先つ其馬を突く、我東北の振興を画する亦宜しく正に此特短の除去を以て手初めとなさゝる可らざるなり

8 第36号3面(明治45年1月21日)

○小島左膳氏の訃

氏の家は片倉家の一家として永代家老の要職にあり、氏は明治初年旧主片倉公が北海道開拓の爲め家臣と共に彼の地に赴かるゝや、氏は右取締として随行せられ同事業に就き大に尽瘁せられたるは人の知る所、其他公共事業の爲め尽す所多かりしが去る十日午前十一時脳溢血に罹り溘然として死去せられたり、依つて葬儀は十二日午後二時清林寺に於て執行せられ佐藤淺治郎氏其他の吊辞等あり、家族及会葬者の焼香了つて同時境内の墓地へ埋葬せられたり

9 第48号3面(明治45年5月21日)

惜むべき少年の死亡

刈田郡円田村字永野四十六番地庄司寅之助長男寅藏(一七)は品性温良にして小学校入学以来一日も欠勤なく随つて学校の成績も優等にして、父は行者にて毎日諸方に合力を受け、母は薪を樵りて小錢を得、是等の収入にて通学させたるものなるが昨四十四年三月同村永野小学校全科を優等にて卒業し知事郡長よりもそれぞれ褒状及賞

状等授与さる後、生計に手伝ありしも惜むべし去る五月七日腹膜炎にて死去せりと

10 第63号4面(大正元年11月1日)

●麻生禪師の法要 当町傑山寺前住職妙心寺執事長たりし麻生道戒師の一週忌法要を去る廿三日同寺院に於て執行されたり、参席の法師は三浦、角張、角田、奥村の諸師を始め各宗協会員檀徒無慮数百名盛なる法要会を行はれたり、翌二十四日禪師の追悼を兼ね片倉男爵家未亡人、麻生未亡人、豪商渡邊佐吉氏の息女等の主催になる観音女人講を開催され各大師の講話ありて後園遊会となる、此処は往時より天神社内の紅葉を以て名ある所何れも其の天然の風光に見惚れて日没解散されたり

11 第64号2面(大正元年11月1日)

●鈴木幸吉氏の美拳 今年氏は八十一歳の高齡なるが鏝鏢壯者を凌ぎ現に白石銀行の取締役たり、昨年学校其他へ金品を寄贈されたりしが今回城山の公園へ桜樹数百本を寄附し、中学校へも数十本の吉野桜を寄贈され理科教室前の庭園へ何れも去る廿七日植附を了せり、誠に近

来の美挙と云ふべし

12 第67号2面（大正元年12月11日）

●赤城ささ子刀自の逝去 片倉男爵母堂竹子^マの方の実母たる赤城ささ子刀自は晩年病を得て片倉家に寄偶され居りしが去る三日病遽かに革まり、終に同日午後八時七十四歳の高齡を以て眠むるが如くに逝去され、五日午後一時傑山寺に於て葬儀を執行されたるが会葬者数百名頗る盛葬なりし、刀自は会津若松の藩医赤城信一氏の室となる、氏は故赤城求碩氏の長男に生れ長じて大砲隊附医師となり戊辰の政変に際会し伏見鳥羽の戦争に参加して一旦会津に帰りたるも、後該藩を脱して北海道に航し函館の戦乱に投じ千軍万馬の裡に往来し頗る奮闘されたりしが、爾後生死の程も定かならず杳として音信なく流離転変英雄の末路とも謂ふべき悲惨の境遇に陥り、此間一男三女を擁して喟然たる刀自の手腕や健児も及ばぬ女丈夫の行為は確かに夫をして会津武士の本領を遺憾なく發揮せしめたるものにして、乱平ぎて世は明治維新となり四年目に妻子を迎ひ一家団欒の家庭を作り、同五年壬申二信一氏は北海道開拓使御用係を被仰付月俸五十円下賜札

幌庁詰となり、同十年一月二十二日開拓使準陸軍武官を除き大判官以下廃止となる、次いで同十五年五月室蘭公立病院詰となり、同十七年六月同病院長に挙げられ、同十九年六月職を辞して学務局督学課兼理事となり爾後医学界に公共事業に尽瘁されし事枚挙に遑あらず、長女竹子の方は明治十三年片倉景光氏に嫁し、長男某は早世し、二妹は他家に嫁し、同二十九年不幸信一氏の逝けるに当り已むなく片倉家に寄食すること、はなりぬ、爾来風月を友として静かに晩年を送るに至りしも遂に病の犯す処となりまた起ち能はざるに至る嗚呼悲いかな

13 第67号4面（大正元年12月11日）

●片倉家の法養 一陽院殿景德放光大居士の一週年法養は既報の如く去る六日執行さるべき筈なりしも親戚赤城ささ子刀自は三日の夜遽かに死去されたるに付一日の延期となり、七日午前九時より傑山寺に於て厳かなる法養を営まれたり

14 第94号5面（大正2年9月11日）

▲前七ヶ宿郵便局長小笠原晴平氏は在職実に十有六年一

17 第113号3面 (大正3年3月21日)

◎ 獵師の手柄

雪深き奥山に大熊を射止む

刈田郡七ヶ宿村大字滑津二十五番地平民獵師高橋淺吉は同村安藤利吉と共に積雪五尺余の大深澤山の山奥深く踏み入り熊狩りを為し凍死せることは当時既報の如くなるが、此事何時しか村内の評判となり右は全く山靈の祟りなりとか、或は永年此山奥深く棲息する大熊の怨靈が仙人と化け其妖術を以て淺吉の一命を絶ちたるものなり杯と村民の噂とりどりなりしが、淺吉長男淺治は無念遣る方なく假令大熊に妖術ありとも多寡の知れたる獸の所業、日常自慢の鉄砲にてイデもの見せて呉れんと安藤利吉外数名と謀り実父淺吉の復讐を兼ね、去る九日早朝より雪を蹴つて同所に分け入り熊狩をなしたるが最早大熊の運命も渴たりけん、同勢の謀りこと図に当り遂に大熊を逐い出し牙を露はし猛り狂ふを逐ひ廻わし首尾能く鉄砲にて射止めたるが、体量実に十六貫五百匁の大熊にて、尚兎熊二頭を捕獲し内一頭は目下飼育中なりとのことなるが、大熊は既に百二十円の価格にて売却纏りしか

日の如く勤勉職に忠なりしか家事上の都合により退職、後任白石郵便局長代理石塚秀雄氏は客月赴任引継を了されたり局舎改築に就て安藤村長始め渡部、富澤の両議員、吉田鶴治郎氏等熱心之か便宜を与ふべく協議中、過日水害の際なども郵便物の通送上尠からず尽力されたりと

15 第94号5面 (大正2年9月11日)

▲ 関駐在所詰巡查三塚與衛氏は職務に熱心忠実に服務しある以て地方民は大に敬服し居れり、今回の水害に際しては昼夜兼行生命を賭して防御尽碎され衣の干く間もなかりしとは左もありなむ

16 第101号3面 (大正2年11月21日)

◎ 渡邊家の美拳 当町神明宮基金完成の事は既報の通りにして渡邊佐吉氏は該基金募集に就て熱心斡旋されたるが、氏は今回更に神明社裏西方の畑地三反一畝余の地面を三百四拾円にて買入れ、之れに杉・檜等を植付所謂裏林を造林し十ヶ年間の手入まで一切を經營して寄附せらるゝことに確定せしが、氏の敬神は今に始めぬ事ながら誠に近來の美拳なりと云ふべし

13 海外情報

1 第3号3面(明治44年3月1日)

●農学士廣瀬次郎氏談話の大意

同氏は愛媛県 新居郡中萩村の人、外国の農事を研究の爲め二ヶ年間欧米各国の農事を研究せられて帰朝されし人なり。

▲西洋諸国村落の広狭 農村は凡二十戸乃至三十戸又は二百戸乃至三百戸位のものもある、而して現住人口九〇〇乃至一、〇〇〇位は最大とす、これ等は仏蘭西、独逸にあり、此村の上に郡あり県ありて行政の監督する機関あるは略々日本と同一なり、村役場あり学校あるは三十戸の村も三百戸の村も同一なり。

▲道路 道路は概ね広し里道と云ふも牛馬の行き逢ふに障害を来す如きはなし、作場道でも荷馬車も自由に通行し得、又村より郡衙に通する道路に軽便鉄道又は電鉄道の設備なきは殆どなし、西班牙、以太利は日本で申せば北海道位のものなり、此国々には組合事業として村の事業として電灯を点し又は瓦斯灯を点して居る。

▲生産の販売購買 農家の生産物は概して郡衙の所在地に牛馬車に塔じて運搬し、之れを販売し又所用の物品を購入して帰る、而して商人も沢山に入り込むは、之れ道路の完全の然からしむる所ならん、日本の如く豆腐一挺を求むるに里余の途を往復する様なことは断じてなし。

▲家屋の様相 中等の農家にては住宅、納屋、厩、便所等にて上等の農家と云ふても只家屋の周囲に垣を圍繞せし位を異りたる点とす、而して屋敷内に果樹の類を栽培しおく、住宅には穴蔵を必ず有せり家屋内の室割は、普通は客間、食堂、寢室、台所の四ツに分ち、大家になれば是れに客の寢室、児童の寢室、下婢の寢室の三ツばかりを増し、僕は厩の一部に寢室を設備し置く故に男女の取締が出来てあるから決して不都合を生ぜぬ、風呂は三十戸の村に漸く一ツ位あるのみにて、農民は一生中入浴せぬと云ふ有様なり、併し一日二回つ、必ず水浴を實行する。

▲倉庫は持たぬ 西洋諸国には倉庫と云ふ建物はない、大切のものは皆屋根裏に置く、これは西洋人は日本人の如く無用の物品を持たぬ為めなり、先づ日本の中等の農家は貴重品の物、裝飾品、懸物、置物等数い来れば沢山

ある、西洋の中等の農家にては日用の家具、農具より外は持たぬ、又日本では貧家でも長持一個、箆笥一個位は持つて居るが仏蘭西の巴里の近傍の畑の四百町ばかりを自作する大農家で百万円位の身代でさい衣服を納める箱が二つしかない、装飾としては額面が五つ、六つかけて置くのみ。

▲飲食物 朝食として茶珈琲牛乳、昼食には麴包（仏国）、馬鈴薯（独逸）、夕食にはパン・肉類（一週間三度位）、夫に塩漬、一汁一菜である、独逸にては豚の腸の肉つめを食用とし少量の酒を用ゐる、併し三年居る間に酔歩蹠跚のもの二回しか見ぬ、村落にては常に飲まぬ、麦苳等の極めていそがはしきときコップで一ぱい位飲むのみ（未完）

2 第4号3面（明治44年3月11日）

海外新聞の発行高

世界中で最も発行部数の多いのは巴里のプチ、パリジアンである、日々の発行高凡そ百二十万部で千九百三年に二百五十万部に達したのが其最高部数となつてゐる、之を倫敦のデーリー、メールの最高部数と認めらるゝ、ビク

トリア女皇崩御の折発行紙数百四十九万四千に比べて正しく百万部の相違である、所で其のプチ、パリアンの名をだに聞いたことのない人が一廉の人の中に沢山ある！プチ、パリジアンやデーリー、メールから見ると米国の新聞紙は発行部数が大分落ちる、日刊新聞の筆頭が紐育の夕刊ジョーナルでは七十万と号してゐる、其次は夕刊ワールドで三十七万九千、其次は市俄高のアメリカンで三十二万三千となる、紐育の有名な新聞ではヘラルド十三万、サンが十二万、タイムスが十萬、ウルワールドが三十万九千、さしも聞えたトリビュンが僅に六万五千八百五〇となつてゐる、之で見ると存外米国の新聞は与し易い。

今日の輪転印刷機では刷上高が自動装置で自然と数字に頭はれるやうになつてゐるから減多な嘘は吐けない、米國などでは広告の依頼人や取次業者が念の為に社迄之を見に来るので、新聞社に依ては此数字を加へる為に態々要りもしない新聞紙を余計に刷つて一時をごまかすのがあるさうな。

3 第4号5面(明治44年3月11日)

●農学士廣瀬次郎氏談話の概要(続)

▲朝起夜寝 朝は五時半までに起きて主人は雇人等一日の仕事と言ひ付け、雇人等は仕事の準備をなし、而して朝食を済して家主も雇人等と一同で耕地に出て(距離は一町乃至一里位)労働し、午前十二時頃に帰家し昼食を済し主人は新聞を読み来幹を閲しそれより之れに返信を為すべきものには返信をなし帳面を整理し、約二時間休みて午後二時頃又一同揃ふて出て行き、主人の監督の下に働くなり、午後五時頃間食を為し(一、二片の麵麩)、午後六、七時には家に帰りて夕食を済し而して読書をなし、午後十時には寝に就くなり。

▲主婦 主婦は主人より若干時早起きして牛乳をしぼり取りて朝食の準備をなし、髪を理しやがて昼食の準備を為し、昼食終れば又牛乳を搾取し、洗濯をなし、亦はバタを製すなり(バタを製するは女の仕事とす)、又鶏を飼ひ豚を養ふは主婦の仕事なり、此等を飼育畜養するに手が足らぬ時は下婢を養ひ労働者の足らぬ時僕を雇ふは日本と同じで其働く時は善く忠実に働くなり。

▲労働の時間 先づ朝仕事にかゝりてからは昼迄決して

休むことなく、昼食後二時間休み、又仕事にかゝり而して午後五時頃にパンの一片か二片を食ひ、十五分時休みそれから日の暮る、迄で働き、而して家に帰りてから牛馬に秣かふのは雇人の責任とす。

▲下婢の仕事 下婢は主婦の手伝を為す而して欧州では奉公と云ふも、亜米利加にては手伝に入りて居ると云ふ、其給料は一ヶ月四円位なものなり。

▲日曜日 日曜日には朝の九時説教を聞きにお寺へ行き、往かぬものは居宅にありて充分心身を休むるなり、西洋では、善く働き善く遊ぶ、是れ畢竟体力が日本と違ふ故ならんか、日本人は到底之れに倣ふこと能はず、つまり体力が続かざるなり、西洋人の沢山に牛乳を飲み牛乳をかためたるものに塩を交せて沢山に食するには驚きたり。

▲生産する草代価 一反歩に生産する草は通常五十円乃至百円位、高きは百五十円位のもある、草は非常に能く生長し之を牛馬に与ふ、西洋では牛馬をあつかふにも家族の如く兄弟の如くやさしくとりあつかひ、乳牛の如きは斯の如く扱はざれば乳の出方が不足するとのことで、鶏に食を与へるにも仮令ば台所あたりに来たなら麦など

をまきてやり、而してたべたならまた遊んでお出でと恰も人間に言ふが如くなり。

▲耕作の種類 西班牙、伊太利を除くの外一年一作で、畑に小麦、馬鈴薯、燕麦、牧草大根、大麦、裸麦、玉蜀黍、大麻、蕁薹等にて一枚の畑は約五反歩乃至一町歩、稀には家屋に接したる処にて五十町歩もあるものもある、畑には前述のもの及び牧草を植ゑ牛馬を放牧するものもある、通常五反歩より十町位、又大農は百町歩も耕作し、下りて小農に至りては、ベルジウム杯は一町五反歩位とす、此辺は自家用として蔬菜を作り、此小農家には必ず、牛一頭を飼ひ置くなり。

▲雨天の仕事 西洋諸国にては雨天の時は馬屋の掃除、牛馬の手入をなし、又は麦穂及び穀物の実を落す等を為す、此地は半牧畜、半農と云ふ状態で、牛乳の搾取は自由、又自俵に為すなり。

▲感すべきこと 西洋にて感すべきは、その独立思想に富んで居ることにて、例令赤子の時から独りねかして置くこと、転んでも親も他も起さぬこと等で、又虚言を言はぬこと、忍耐力に溢れてゐること等にて此点は吾々も学びたきものなり、吾々が之れを実行するには必ず将来

食物の改良を要すること、思ふ、また主人と下男の差別なく働き、服装の如きも時と場合により凡べて区別されるなり。(完)

4 第19号2面(明治44年8月1日)

世界の日本

第二高等学校教授

文学士 武虎太君講演

杉沼修一筆記

世界の日本となりたる我帝国の将来に於ける教育の目的を研究せんが為め、先づ遡りて(第十九世紀の初め仏国の大革命より欧州諸国の興亡政治の沿革、党派の消長より国際上の変遷を詳述し、更に日清・北清・日露の戦役、朝鮮併合に説き及して世界の日本たる地位を獲得し一等国となれる所以を述べ)而して既往は斯の如くなるも将来の日本は如何になり行くべきか、將た我国民の今後心得べき問題は如何。第一は海陸軍備の拡張なりとす、現時内外ともに平和なりと称すれども欧羅巴各国及び亜米利加等の東部亜細亜に対する政策の現状及び列国が如何に競ふて軍備の拡張に全力を傾注しつゝ、あるかを想へば

決して真の平和にあらずして所謂武装せる平和に外ならざるなり、抑も権利を主張するには其の背後に強大なる権力の援助あるを要す、例令個人の権利を主張せんとする場合に於て若し言論に於て相手に向ひ埒明かざる時は止むを得ず鉄拳を以て是を解決するより外途なかるべきが如く、国と国との関係も亦樽俎折衝の行はれざる最後には止むなく旗鼓の間に解決を告ぐるより外途なきなり、米国前大統領ルーズベルト氏が大統領に就任したる時宣言したる中に「喋舌を弄する勿れ手に大なる棍棒を携帯せよ然らば汝は遙かに進むことを得ん」とあり、世界に於て平和を以て其の国是となすと称する米国已に斯の如し、況んや其他の国々に於てをや我国日清戦後に於て三国の干渉を応諾せしも、又は日露の役「ポーツマウス」の条約に充分の効果を収むること能はざりしも、要するに相当なる強大の権力即ち武力の充実之れに伴はざるが為めなりしは言ふまでもなし、故に我国も亦将来益々軍備の拡張を期せざる可らず（未完）

5 第19号5面（明治44年8月1日）

●正田氏の欧米漫遊短信

己報の如く白石中学校創立者の一人たる正田連献氏は去月欧米漫遊を企て母国を去り万里の波濤を航せしは今猶ほ読者の脳裡に新なる事ならん、左は這度同氏が知己当町菅野圓吉氏に寄せたる短信なり。

▲第一信 桑港より（五月十二日）

去月廿五日横浜港出帆（中略）本月五日ホノル、上陸見物同日出帆、昨十一日午前当港安着、今明日見物、十四日ソルトレーキに向ふ予定仲々盛なるものであります。

▲第二信 コロラードスプリングス

より（五月十八日）

五月十四日ソルトレーキ着（桑港より八百哩）モルモン宗本山世界最大のオルガン等見物、昨十七日当地へ来り（ソルトレーキ・当地間七百哩）当地は米国人の避暑地として日本の箱根、軽井沢の様な所なり、ロッキーマウンテンは愉快でありました。

▲第三信 ナイヤガラより（五月廿四日）

桑港以来諸所見物廿日シカゴ着昨夕出帆発、今朝当地へ来り今夕はボストンへ向け出帆、只今ナイヤガラに水力発電所来観実に驚き入申候。

▲第四信 紐育より（五月三十日）

五月廿五日ポストン着、廿七日紐着即日ヒラデルヒヤ、ワシントン首府見物、廿九日夕刻紐育へ立帰る、来る三日迄滞在同日午前中バルチック号にて英国へ向け出帆（一週間の航路）の都合に有之候、米国の商業は勿論万事世界一的に何事も活動する事には感心致候。

6 第20号2面（明治44年8月11日）

世界の日本（続）

第二高等学校教授

文学士 武虎太君講演

杉沼修一筆記

次に経済の充実を図るは又最も緊要の事なりとす、凡そ一国の盛衰興廢は殆ど経済財政の如何に基くと云ふも決して過言に非るべし、西班牙が新大陸に於ける金鉱を失ひてより衰色を呈せしが如き、或は我国の戦国時代に於て彼の武田、上杉、毛利、島津、大内、且つは中古藤原三代の平泉御所の繁華の如きも、皆な経済の状況に依りて興廢ありたるが如きも、皆な経済の状況に依りて興敗ありたるが如く、経済は則ち国家盛衰の源泉にして、従来各国の歴史は殆ど経済によりて解釈を与ふべき場合尠な

からず、第一に述べたる軍備拡張の如きも其の基く所は実に経済に在り、而して経済の充実を計るには須らく農工商の發達を計らざるべからず、然るに由来我国は欧米先進国の長を採りて我の短所を補ひ日進月歩の運に向ひつゝ、ありしが、三十七、八年の役に於て大捷を博したる以来俄に欧米人の嫉視を招ぎ、彼等は我国人を以て模倣的機智に敏きものなりとして、就中工業上に就ては大に警戒しつゝ、ありと云ふ、果して然らば我国人は一層奮起して実業教育を作興し、自国は自国の力に依つて立つの実力を養成するの必要なることを、将来同胞国民に対して自覚せしめざる可らず、又他日の問題となるべきは海外移住の事はなり、之は無制限に永續すべきかは研究の価あるべし、爰に至つて愈々益々自ら立つの根氣と氣力を養はざるべからず、次には国民徳性の涵養なり、前に述べたる軍備の拡張と経済の充実等に就きては、我々教育者の直接関係すべきにあらざるも、茲に学校教育に於て国民将来の要素を作るべき徳性の涵養に就て研究するは、我々教育者の当然負担すべき義務なりとす、苟も職に国民教育の任に当る者は、児童をして第一に日本の国と家と人と云ふ事を了解せしむること肝要なりと

す、我日本の国は世界に比類なき一種特別の国体にして、

杉沼修一筆記

我々臣民は将来益々我帝国は特種の国家なりと云ふ觀念を忘るべからざる旨を一層確實に兒童の頭腦に銘刻せしめざる可らず、又我国の家は則ち国家を形成する一分子にして、我国の家族制度、即ち家族的結合は、又欧米等に其類例なき美風にして、家族は即ち小国家とも云ふべく、其分子間の厚き關係によりて成立し居る家族制度は其團結の鞏固なる筈に現在のみならず、過去将来にも宏遠なる深き關係を有す、即ち過去に属するものは祖先の崇拜にして、祖先を祀りて其の恩義を謝し、且つ常に祖先を辱かしめぬと云ふ觀念は、我々日本臣民の決心をして一層確實鞏固ならしむ、故に家族には個々に氏神と菩提寺とを有して、家門の繁栄と和合長久とを祈るが如きの美風は、今後尚ほ一層確實に行ふて遺するべからざるべし、

7 第21号2面(明治44年8月21日)

世界の日本(続)

第二高等学校教授

文学士 武虎太君講演

或る西洋人は日本人の祖先礼拝の風は、日本の国力を強ふするに於て尤も功力ありと云ひき、然るに此美風今や追々廢れ来る傾向あるにあらずや、現在 教育勅語を以て明かに御示し相成りたる如く『父母に孝に兄弟に友に夫婦相和し』と宣ひしことは、一家の團結と繁栄和合とを維持する上に於ける御金言にして、将来に対して益々家族制度の觀念を鞏くせざるべからざるものとす、又日本は欧米諸国と異なり家名の相続と財産の相続とありて、家名は必ず其嫡男をして嗣ぐこと、定め、以て其家を斷絶せしめざらんことを期し、又一面には多大の決心をなさしめんが為め、子孫に対して伝家の遺物を継ぎ、恵沢を遺して益々忠孝の觀念を強固ならしむるの美風あり、故に此家族制度は将来に於ても益々研究を要すべきことなりとす、次は人と云ふことに就き日本の臣民は他国人と違ひ、生れながら 陛下の臣民にして、我々の身体は父母及び祖先の身体なると共に 陛下の身体なるは云ふまでもなし、されば親に孝なるは則ち君に忠を尽す所以にして、所謂忠孝一致なり、而して戦時と平時とに於ける吾等臣民の覚悟に就ては、教育勅語の『常に国憲

を重じ、国法に遵ひ、一旦緩急あれば義勇公に奉じ、以て天壤無窮の皇運を扶翼すべし』と宣せ給へり、故に国民教育の任に在る者は、須らく国と家と人との感念を深く国民の精神頭脳に徹底銘刻せしめ、更に平時及び戦時に於ける心得を自覚せしむること最も肝要なりとす、吾等教育者は直接にこそ軍事・経済等に対し関係を有せざれ、而も将来の大軍人、大政治家、経済家を出すに就きては間接に多大の関係を有するものたることを忘るべからず云々。(文責在記者)

8 第66号1面(大正元年12月1日)

海外発民^マに就て青年諸君の奮起を望む

〔上〕

在京 佐藤勇吉

大正の国民は何を為すへきかと云ふ問題に対する世論如何と考ふるに海外発展にありと云ふものの如し、見よ今日識者の言として新聞雑誌に現はる、処の意見なるものは殆ど該問題に一致し居るにあらずや、余も該問題に就ては嘗て愛郷漫言中に於て聊か愚見を述べし事ありしが、近頃竹越代議士の北米及布哇に於ける同胞発展の視察談を聴き、又拓殖博覧会及読売新聞社主催の日本人海

外発展展覧会等を見るに及て益々其有望と必要を感じ、重ねて青年諸君の奮起を望まざるを得ざるに至れり

先づ我邦財界の現状を見るに、日露大戦以来国債は俄に膨張して二十六億円と云ふ巨額に達し、其内々国債を除き外国債に対する利子許りにても一ヶ年七千万円、外に貿易上の差額本年の如きは輸入超過殆ど一億ならんと呼へられて居る、今後幾分か取返すとすも、尚ほ外国に支払ふべき正金一億五、六千万円より少き事はあらざるべし、実に容易ならざる事にあらざるや、而して此国債は年々減債方法を講じ居ると雖ども、普通の方法にては容易に減ずべきものにあらずして、永く子孫の負担となるを免れざるべし、借債を子孫に残すは現代国民の恥辱にあらずや

英国は嘗て大國債を為したる時に「國債国を減すか、國民國債を減すか」と絶叫して一般國民の奮起を促し、其努力と奮闘とに依りて能く國債を制し、今日の盛大を見るに至れりと聞く、又伊太利に於ても財政窮乏に陥りたる時、海外に四百万の移民ありて、彼等が内國への送金に依て漸く其急を救ふを得たりと云はれて居る、実に我邦今日財政の窮乏を救ふは、國民一般の努力奮闘以て

国富を増すと同時に、海外輸出を盛にして正金を得ると、海外移民を盛にして其送金を待つの外途なかるべし、然るに貿易に於ては輸入超過となり、移民は僅々二十一万に過ぎず、是にては此巨額の国債は増すとも減ずるは容易の事にあらざるべし、是れ青年諸君の奮起を望まざるを得ざる所以である。

9 第67号1面(大正元年12月11日)

海外発展に就て青年諸君の奮起を望む

〔下〕

在京 佐藤勇吉

財界の現状上述の如し、次に人口の増殖如何と見るに年々五、六十万の増加である台湾を領し、樺太を領し、又朝鮮を合併したりとするも、此際限なき人口の増加は到底入る、処なきに至るべきは明かなる事実である、此点より考ふるも海外発展の必要を認むるにあらずや

故に余は青年諸君の訪問に遇へば常に長男は止を得ざる事情もあらんが、次男・三男は海外に発展すべしと勧誘し、又海外に在る人々に対しては及ぶ限りの尽力を為さん事に心掛け、墨国、秘露等には多年関係を有し、殊に墨国の日墨協働会社とは特別の関係あり、同会社の呼

寄に依り余の手を経て渡墨せし人も多数あり、近来にても一昨年五名、昨年六名、本年は既に二名着墨し近々出発する人又一名あり、然るに我地方の青年諸君よりは未だ一回も是等の相談を受けたる事なく、数々受くる処の相談は『余は中校を卒業したる者なるが東都に於て何か職を求め度し、併し労働には堪えざるが故に可成非労働的の勤務を周旋せよ』と云ふに外ならず、是れが将来大に発展を要する日本青年の志望とすれば実に嘆はしき次第にあらずや

茲に於て余は父兄諸君に望む、諸君が若し子弟を独立せしめんとするには相当の資金を要すべし、故に其資金を旅費として海外に渡航せしめられん事である、其人にして体力強健、意志堅固であるならば必ず成功すべく、隨て国家の利益となるべし

又地方警察官に望まざるを得ざる事あり、海外渡航免状の許否は、諸君の手に握り居らるゝが、米國渡航禁止以来、是等の官憲は中央政府の命令を誤解し、只管禁止に勤むるの傾きあり、昨年本県某警察署に出願したるに、相当の寄呼状を添付せしに拘らず種々の口実を以て却下し、止を得ず知人の某郡長に依頼したるに、同氏の尽力

に依り警察部より願書進達の督促を為さしめたる結果、漸く許可せられたるが其間実に半個年を費せり、其後四回も出願せしに何時も速かに許可となり、今回の如きは一週日を要せしのみ、是全く最初は地方警察官が事理に通ぜざりし所致す処と云ふの外なし、故に今後の出願に對しては米国の如きは止を得ずとするも、其以外の渡航に對しては寧ろ奨励主義を以て速かに許可の手續を取られん事を望む

斯く官民一致して海外發展に務むるに至らば、廿余億の国債も憂ふる事なく、国家をして益々安全ならしむるに至るや必せり。(完)

10 第82号2面 (大正2年5月11日)

◎排日問題研究会 我社主催の国会は去る五日日本基督教白石教会堂に於て同日午後七時より開会せられたり、会するもの数十名、定時岡崎本社長は主催者として開会の辞を述べ、次で相場善太郎氏の演説、同教会の牧師鈴木忠誠氏の演説は約一時間半に渉り排日案の真相より説き起して加州議會の問題となれる経過、及び之が根本的解決を告ぐべき径路等詳細に説破せられたるは大に聴者

の耳を傾けしめたり、氏は三十七年渡米し五年間桑港の神学校に学び、卒業後米国中部及び東部を跋渉して四十二年帰国せられたる人にて、頗る同国の事情に通し彼の小学児童排斥問題の起りたる時の如き氏等の活動与りて大なりしと、次に伊藤中学校長の演説あり、氏は加州議會の排日問題は世界人道に背反したる行為なりとなし徹頭徹尾其非を鳴らし、更に進んで今や我国は近く排日問題を解決せざるべからず、又隣国支那は南北將に干戈を交んとするに似たり、而して西方滿洲に備ざる可からず我国現状も亦多忙なりと謂ふべしと断じ、而して我々職に教育に該るものは徳育に於て尤も善良なる國民を養成し以て彼等をして口実の乗ぜざらしむる底の人物を育成せざる可からずと結び大に喝采を博したり、斯て閉会せるは十一時頃なりしが、寔に趣味ある集會にてありし。

11 第97号5面 (大正2年10月11日)

母国訪問談

米國より日本まで

『一』

川村源治

終日物を漁り、一物も得ずして帰る晚鳥の夫の如く幾

多の奮闘未だ何等の果も収めざるに日は早暮れんとす、

是人世の常態か永きは在来二十有余年、短かくも六、七年の年月、夜は夢に午は現となるまで慕へし懐しき古郷を訪ふべく羅府母国訪問団の名の下に惣計七十五羽の真黒な装をした一群先きの鳥か後にあり、後の鳥か先にありて京童ならぬロースアンゼルスの大童に歌はれて、八月十三日の日没には未だ間のある五時と云ふに住み馴れし都を後にして汽車に乗りし一群がある、黒装束の鳥連の中にもオーストリツチの羽根を以て帽子を飾り亭主をして他人に倍した心労をかけましたとの名残をお蚕ぐるみの美しい姿に云はした数名の婦人連のみは孔雀をして三舎を避けしむる程の装であつた、靈性及智識には向上の後も見えじ物質的成功には其の端にだも付かぬ、余も古郷恋しの情押へ難く永年の苦闘に勞れ果てし身を提げて久々にて団員の連に加はり故山を訪問ふ事とはなつた。遇々白石実業新報社主催の松島紀念公園觀光の途上旧学友今泉君に逢ひ茲に『米国より日本迄』否白石までの行程約六千余哩、此の日数三十四日間に見聞せし事を公にすること、なつた。元より文筆に拙き我、加ふるに過去を追想しつゝ、筆を採ることなれば惣ての欠点と誤解は恕

す給はらむことを。

羅府母国訪問団は八月十六日桑港発上陸後は直に旅行に遷り横浜、日光、京都、大坂、神戸各一泊、東京三泊の団体旅行をなし広島にて一時解散各自由行動を取り、十一月二十二日横浜出帆の天洋丸にて帰米の予定、之れを伝へ聞きし友人等は余の謝絶をも容れず為めに前後五回の集会に出席して友情の厚きを感謝するの止むなきに至れり、一は羅府長老教会、二は土曜会主催、三は基督教徒外の友人によりて催されたる日光楼、四は上海楼、五は野邊氏宅にて殊に開かれたる送別の会合、余は殊に厚き感謝と喜びを以て受けしは土曜会主催の集会なりし、初め余かロースアンゼルス市の現住所に起居するや四辺の悪境遇と愚なる習慣は来る人々をして悪化す為めに主義の上に立ちて日送りをなすの実に困難なりし、されど頑強なる余は多くの友人に捨てらるゝ淋しさより主義を捨つるの恥に堪へ兼て幾多の困難と冷評の間に居ること一年有半一大酒家の禁酒をかねたる心靈界の改新となり、其余光は他の友人にも及ぼし更に数年の間常に心に掛け居りし親友の真面目なる途に起き返るに至れり、一度失ひたる霊を見出せし喜を人々に分たんとして茲に感謝会

を催しに至り、夫か動機となりて毎土曜の夜互に集りて語り又注意して各自修養を為べく約せしは是土曜会の起因にして、爾來年を重ねる事一年七ヶ月、今や風紀は全く根柢より改まり温き同情を以て互に交り口に穢たる言葉を弄する者なく、賭突は自ら恥て行はず実に美しきの団隊を組織するに至り、如斯親き人々に心よりの送別を受くる余の最も喜とせる所、殊に余をして深き感想と回顧の情を起さしめしはナザレン教会牧師ステープルス夫人、バーケレー大学生北澤佐雄兄の言葉なりき。(続き)

12 第98号5面(大正2年10月21日)

母国訪問談

米国より日本まで

『二』

川村源治

会数二十八名と記憶せり斯の如く混雑の中に八月十三日午後三時母国訪問団員は羅府新聞社前に集合すべく通知に接し一切の準備を了り、定刻同所に至るや社前は日米国旗及紅白の幕にて飾られ一行を盛に送らむ為めミカド音楽隊は樂を奏し黄白黒赤等の人種的別なく送らんと

し、又見物せんとして集り来るもの雲霞の如く東第一街の新聞社前を蔽ふた一行は社前に記念の写真を名残として第五街停車場に向つて發した、宏大なる停車場も人を以て埋められ見送人に一々握手する違もなく車中の人となりぬ、五時汽笛一声数百の歓声に送られて住み馴し羅府を發し東第四街、三、二、一街と順を追ふて踏切を過ぐる毎に見送人は群をなし帽子或はハンカチーフを打ち振りて歓声と共に送られぬ、第三街を過ぎんとする刹那五、六名より成る一群の伊多利婦人手にせるハンカチーフを振り翳し我等を送つた、境遇を同ふする天外の孤客、母国訪問の風説を聞いてはそゞろ思郷の念に打たれしならん抔推測し、人種は異なれども人情の変わりなきなど理屈を云ふて汽車を走らした、余は此の行に於て野邊氏の愛娘愛子嬢をオークランド迄届けべく依頼を受けて同車した、愛子嬢は本年十一歳の愛らしい小娘、米国生れの為め英語の様に巧みに日本語を使ふことが出来ないのは気の毒であつた、車中種々話の中に愛子嬢は此様に云ふた、父と母が私が出ると時泣いたのお笑しいね何が悲しいでしょーと質問された、私は反問した、愛ちゃんも悲しくないのと彼の娘は私オークランドが大好きと答ひ

た、以て米国育の子女の氣風を窺ふに足ると思ふ、汽車は一瀉千里の勢にて広漠たる平野を横ぎりて走つた、約二時間にして岩勝ちの山を右に見上げ左に果樹園を眺めて北へ北へと進んだ、暫くして日は暮れた、一行団員七十五名、外に四、五歳の男の子二名是は頼まれて日本に送りとゞける子供の由に聞てはさぞ米国に在る父母の心を追想しては痛く哀れを催しぬ、聞く所に依と其の中の一人は父親が両三度桑港迄連れ来りしも子供の愛に日本に送り切れずして三度羅府に連れ戻りたるも、今回は愈々思ひ切て乗船せしめたるもの、由人情さもあるべし、前述の如き七十五名の同勢一車買切りの道中なれば誰に憚かる事もなき自由の旅、殊に二十四、五歳より三十四、五歳の血氣旺盛なるハイカラ連多年の健闘空しからず金皮時計に金の鎖、金剛石入の指輪は左右の指合せて四個、少くも一、二個の指輪を飾らぬ者なき、同勢に余の如き蜜カラの加入せしは正に是万斗星中の一螢火、況んや七十五名中五十三名は人世三大礼の一たる迎妻兼ねての帰国として其の喜びは包み切れず抑へ難き青新の血を燃やし前途に輝くスイトホームを理想せる新郎として、コシメチツクや香水の香は已に車中に満ち、鏡と首引する人もあ

れば片手に櫛を握りしまゝ、放たぬ連中もあり、武士が功名話をする如く十年の奮闘声高々と是聞けがしに語る豪の者もあつた、十人十種の得色を發揮して居の滑稽さ加減唯呆然たる外はない、幾多の墜達を過ぎたり、今夕は陰曆何日かは知らねども明かなる月光に右窓を排せば伏起せる丘陵は悉く枯草を以て蔽ふはれ、恰も秋の青麻登山の景を現出し、更に左窓を開けば波静かなれども小波は名月を千々に砕き海上は黒味渡れども月光の直射する所、遙かに水平線上より足下に至る迄水晶を散らせし如くキラキラと照り輝く様只是一片の詩、八時三十分避暑地に有名のサンタバッラに到着、福岡村の人佐藤庄次郎氏より兼ねて手紙の有し事として車外を窺ふと果せるかな余を迎ひ居たり、シャーシャーの声と共に二年來の温き握手は交換されぬ積る話を語る違もなく無情の駅鈴は発車を報じぬ

13 第99号5面(大正2年11月1日)

母国訪問談

米国より日本まで

三二

川村源治

海陸共に健在なれの祝詞を後にして汽笛一声、又もや進行を続け北へ北へと進みぬ、月光淡けれども窓外の景捨て難く、されど夜は更けたり一行中の大言壮語の談声もヒタと止み、只車の軋る音のみ聞ゆと思ふ間に我も亦何時しか夢路を辿りぬ……物音に夢破られて目を醒せば朝霧四方の中空に掛りて、野に放飼されある牛馬は汽笛にも驚かざるまでに長閑に、やがて齒を磨き顔を洗ひ髪を梳りて、席に就けば旭日東天に輝きて霧また晴れぬ羅桑間の勝景も夜の間に過ぎては何等の値なしなど隣席の人々が不平を聞きつゝ、十四日午前九時三十分無事桑港に着きぬ、一行を三分し我等は館主の出迎に導かれて予定の帝国ホテルに入り、朝食とも中食とも就かぬ食事を了り愛子嬢を伴ひ、ヘーリーボートに乗り三十分計りにしてオークランドの波止場の上陸、更に汽車に飛乗り第七街にて下車数人の出迎人に導かれて王府靴工同盟会に至り、子供を届け店主高橋某の厚き招待も時間の都合により謝絶して帰桑、友人の案内にて市内見物せしもローサンセルス市の発展には比しべくもあらず、十五日福島県人山口清八君と共にヘート街の青年会を訪れ幹事甲賀氏外数名に面会せしに、羽田君よりの手紙着しありと

て一封の手紙を渡さる、辞してドクターストージを其の邸宅に訪れしに自ら出迎はれて懇なる応対に恰も十年の知誼の感想を諾起しぬ、ミスセトージまた座にありて曰ふ、迎妻の為めならんには帰国するに及ばず、そは桑港にも能い日本の娘さんが沢山ある故、私がお世話を致しましょう、と一本突き込まれしには流石の山口君ホーボの姿にて逃げ出せしも滑稽なりし、ドクターストージは初め医学を修めしが心霊救済の更に急務にして自己の天職なる事を自覚するや一切を捨て、シヤムに伝導し、帰路桑港に立ち寄り日本人の常態を見るに及んで遂に帰郷を中止す、日本人指導の為に起しは今より二十六年前の昔にして昨年太平洋沿岸長老教会主となり、日本人伝導二十五年の盛大なる祝賀会を催されたのである、ドクターは太平洋沿岸に於ける長老教会の総理なればなり、ドクターの日本人を愛するや実には予想外にて老母より分与されし数万弗の金は皆日本人指導の為に費せしに依りて其の一般を知るを得べし、日本当局は贈るに勲三等を以てし、或人彼を評して曰く、ドクターストージの温容と人格とは一代にしてなりしにあらで、少くも数代続きし美はしき家庭と温和なる人格との感化によりて

受けし結果なりと

14 第101号5面(大正2年11月21日)

母国訪問談

米国より日本まで

〔四〕

川村源治

午後数名の知人と金門公園を見物すべく電車に乗じ走る事数哩、佐藤君曰く『昨日山口君と共に此辺にて赤毛布を演ぜり』と其故を問ひしに、市内見物の為め旅館を出でしか帰路を失ふて此辺を徘徊すること五、六回は我等が第一回の赤毛布式を演ぜし始末なりと大いに笑ふ、自己の失敗を遠慮なく告白する其心の無邪気なるも嬉し、電車は暫らくして終点に停車し我等は公園を見物せしも時間の都合により只公園内を走り廻りしに過ぎざれば何等の調べもなく従つて記すべき材料も捉へねば記さざる事とせん、されど我等の記憶に残さしめしは、荻原氏の経営になる公園なり、位置は金門公園の中、博物館に近かき所に在り、園主が数奇を凝らせし跡見えて面白く、日本家あり八畳敷に間室内青畳を敷きガラス入の障子に縁側を付けしは懐かしく、上段の間には結髪のお

人と斬髪ツルハカミの青年が囲碁に余念なき様を示し、一室には茶の湯の体を表はせし婦人と一首を詠まんとする婦人、何れも真に迫りし為め初め我も真の人なりと思ひしは滑稽にてありし、家の左側より清泉滾々として青台蒸したる岩間を流し稍々広き所に至りて池に灌ぐ、池中に蓮あり葉、水面に浮び魚族の陰に宿る様は幼時網を手にして漁に出でし当時を連想して一種の興感を起し、又茶亭には二十歳前後のずうずうならぬ中国訛りの女三人日本姿に麻裏草履重に白人が此風景を賞し、傍ら一盃の茶を喫する為めなれば我等日本人にはお掛けなさいとも何とも言はざるを幸に茶亭の前を通り越した、此所には稲荷様とも薬師堂とも解らぬ堂あり、築山在り、松あり桜あり一方には種々なる鳥類を飼つて居りしに一白人の児あり、鶴を見て憑難トクナシの声を発して母を呼びし時は滑稽なりし、二人の日本人が頻りに堂の建築を急ぎ居る処を右に見て時間なければ博物館には立ち寄らで、再び電車に乗じて桑港名所の一なるクリツプハウスに向ふ。

家は断岩ツツノイ絶壁の上に建設された外海なれば波荒く大波小波岩に当りて雪粉と散り玉砕けて飛沫霧と飛ぶ、鉄欄によりて観下せば壯絶思はず身に粟を生じ、加ふるに大洋

の汐風涼を送り来る所、好個の避暑地たり、況んや海中に凸起せる数個の岩には時々数多の海獣登り来りて避暑客を楽しましむ、是此地の名をなせる原因か、岩の尽きる所南方数哩の地は一帶の白砂なれば婦人・子供は素足となり、浪を追ひ波に追はれ終日浪を友として遊ぶ好個の場所たるを失はない

15 第102号5面（大正2年12月1日）

母国訪問談

米国より日本まで

『五』

川村源治

一段高き岩上に灯台を兼ねたる番小屋あり、金門港出入の船を番し晚烏啼に帰る姿は見ざれども夕陽黄金色の光を放つて西海に沈まんとするを見、帰路を失つては恥の上塗と電車を急がして岐路に就けば二、三の勞れたる同行者は車中頼にコクリコクリと短艇競争を始めしが格好を崩せし御面相より涎を流せる姿は二た目と見られたものに非ず、傍に米国少女あり、此様子を見て時々クシリクシリ、十六日弥々出発の当日となつた朝食前に一切の荷造りを終りて食堂に入るや我がジボンの裾の少し巻

れ居るを見て、佐藤・山口の両氏昨日の仇打は此時なりと云はぬ許りの顔付にて田舎者の旅行は困つた者なりと冷笑す、乗船準備に忙殺され居る時とて之等の言葉を馬耳東風と聞き流して居つた、時は時々刻々と迫り来て午前十一時となるや各々自動車に分乗して波止場に向つた、巨船春洋丸は其勇姿を棧橋側に横たへて恰も我等の乗船を待ち居る様に見へた、春洋丸構造の概略は全長五百七十五呎、幅六十三呎、上甲板より深さ三十九呎、実馬力一万六千九百馬力、総噸数一万三千五百噸、排水量二万一千七百噸、機関タービン式三軸、速力二十一海里、一等客数二百六十二人、二等五十人、三等一千人を入るゝに足る大船、送るもの送らるる者は刻一刻と加へ来り、十二時頃には甲板と言はず船室一面人を以て埋められ面会せんとして遙に尋ぬ来る者の空しく下船せし人も多く見受けられた、此の混雑中に余を来訪されし人々は桑港青年会幹事甲賀、前の桑港長老教会牧師北澤スタクトン、暁光会員金澤及野邊重章の諸氏にて、残念なりしは手紙の行違ひにより宮村の鎌田洋八君と、混雑の爲めトクターストーズ夫妻に面会せざりし事なり、十二時三十分見送り人下船のラツパ鳴り響くや船の隅々に至る

まで一時にドヨメキ渡り、其状恰も釜水の沸き返るが如く、其混雑又名状しべからず程近き所に、左様なら船中お気を付けてとは婦人連の言葉、海陸共に健在なれとは男子の告別クツトラツクの単語に別れの握手を為すは外人の礼であつたが、是等の声も只ワアワアの声に打ち消され確と聞き分ける事が出来なかつた、同時に見送り人は潮の寄せるが如く棧橋見掛けて下船し初めた、其壯觀寧ろ物凄い程であつた

16 第103号5面（大正2年12月11日）

母国訪問談

米国より日本まで

〔一六〕

川村源治

更に足を左舷に転じて遙かに沖合を眺むれば一小蒸気船の本船目かけて矢の如く走り来た、着せるを見れば天使島の移民抑留所より送還の男子五名・女子二名を本船まで送り届ける為なりき、夫らしき青年が送還の妻を撫りつゝ乗船せし時は人も我も同情に堪へて思はず顔をソムケぬ、夫を慕ふて遙々五千哩の波濤を踏破し来り、理想のスイトホームは作るに由なく帰るは元来し五千哩、人

生の惨思ひ出すも気の毒の極めなり、十二時五十分第二回のラツパは全船に響き渡り同時に機械の運転は起り、送らるゝ者は船中に、送る者は船外に全く出発の準備は了りぬ、午前正一時出発の汽笛は朧夜に鳴く牛の声の如く太く短く又物凄く桑港全市街に聞へよと許りに鳴き響き、棧橋も為めに落ちしかと怪む許りの歓声は数千の見送人よりもれぬ白のハンカチーフを振る婦人、帽子を挙げる男子、船は徐々として棧橋を横に離るゝ一尺、二尺、数間の後、船尾に向つて逆進し初め將に棧橋の端を過ぎんとするや、其所に数百人の男女よりなる米国人の一群あり、船の当に過ぎんとするや高からず又低からず整然たる音律の下に送別の歌は起りぬ、是東洋伝道に行く十二名の青年宣教師を送る一隊なりき何たる美しき送別ぞや、船は遙かに離るれども静かなる海波を渡りて吾人の耳朶を打ち、その歌は英語でこそあれ余が羅府の兄弟姉妹等に送られしも此の三百九十二番の讚美歌なりき、懐かしの讚美の声や、山口兄傍にあり低音に合唱するや眼中潜かに涙ありき否聞いて一種の権に打たれたるも独り山口兄のみにはあらざりき、さらば兄弟姉妹並に米国の地よ、又逢ふ日迄神の恵汝等の上に豊なれ、船は船首

に向ふて進行し刻一刻速力を加へつゝ、右にオー克蘭
ド天使島陸軍御用地等を眺め、左に桑港市街を一望の中
に収め、殊に来る一千九百十五年に開会さるべき桑港大
博敷地の建築に忙殺され居る様一笑を与へ、往復烈し
きヘーリーボートの間を縫ふて走り港口に近付くや傍人
の注意により日米問題の喧嘩しや昨今深き興味を以て砲
台外に現れ居る幾多の砲身を左右に眺めつゝ、港口を出
た。

17 第104号4面（大正2年12月21日）

母国訪問談

米国より日本まで

『七』

川村源治

船は暫時進行を停止して水先案内者を迎へのボートに
渡たして再び進行を続けぬ、気暖かに晴れたる空天には
一の怪雲をだに認めず、紺碧の海は風も起らず波亦静か
に一万三千五百噸の巨船は微少の動揺もなく威風堂々波
を切つて進む、其壮快言語に絶せり空腹を覚えし為め船
室に入りて帝國ホテルより寄贈されし寿し折を平らげ、
再び上甲板に昇れば米大陸は已に水平線下に隠れて眼界

一物障る物なく雲か海か水天相接する所間一髪を入る、
余地なき大海原となりぬ、天氣の良きと海の静なるに面
白半分に上甲板を飛び廻り居りし人々も二、三時間の後
には心地悪し、とて各船室に入りし人も多く、夕食にな
り食堂に入りし人は団員中半数に満たざりき、夕方甲板
を散歩すれば涼しき汐風面を吹いて心身共に爽かに三三
伍々群をなして涼を入る、人々を見たり、時に夕陽西の
海に沈まんとして燃ゆる如き名残の夕陽に雲間を彩り、
更に海上に反映して水空共に黄金世界を現出する事、暫
時葉色蒼然として遠く水天の間より来りて四方の景色を
我等の眼界より没し去りぬ、之より先き桑港に於て乗船
するや幹部の設備が我等の予想と余りに懸隔し居る為め
団員の不平抑へ難く、遂に一同の会議となり七十有余名
の団員より六名の委員を挙げ団長に抗議を申込む事とな
りぬ、余も委員の一人として選ばれしも考ふるところあ
りて是を謝絶しぬ、抗議を重ねる事三日間大分困難を極
めし問題なりしも相互の譲歩により左記の条件の下に円
満なる解決を見るに至れり

(1) 日本団隊旅行は総て中等にして横浜・東京・日光・伊
勢・京都・大坂・神戸とす

(2) 岐路は純中等にして十一月廿二日及十二月十四日の二組にて横浜出帆の事

(3) 桑港にて団隊旅行を解散する事

茲に特筆すべきは汽船会社及事務員の厚意により特別な優待を受けし事なり、之れが為め三等乗船客の妬心を挑発せるは是非もなき事とは云ひ、浅墓なる人の心の奥を知り得てソ、口憐みの情に堪へざる物ありし

18 第108号5面(大正3年2月1日)

母国訪問談

米国より日本まで

『八』

川村源治

団員対団長の問題も円満なる解決を見し、祝として羅府松亭より正宗一函、会社の事務長よりは寿し肴等を寄附され、茲に団長の披露を兼ねたる大祝会は食堂に於て催されぬ、酒には用なき我党の士も数日来の団員の仏頂顔が菩薩の顔に変わりてニコニコ主義を發揮する運に至りしには思はず快と呼びぬ、余が卓上に備へられし食物を其俣に置とも面白からず、之れを携へて隣室に至り二人の子供に分与し無邪気なる子供の笑顔を見て一盃の酒に

陶然たる酔者以上の快感を買へぬ、酒盃献酬の間に懇談約四十分にして余興の幕は開かれたり、船員及委員の尽力にて舞台は裝飾され他の船客も見物に來りし事とて満座立錫の余地なきまでの盛況、先づ団員より出でし手品の妙技にアツと言はせ、船員の落語に顎を解き、船員のステ、コ、団員の手踊りに満座をして抱腹絶倒せしめ、其他劍舞、浮世節、猶十数番の蓄音機は興を添へ歓声数時間に涉り波の音も聞へざらしむ、船は少しの動揺も感ぜず傍人の曰く我は今航海の途上に在るを覺へずと、十二分の歓を尽して散ぜしは十時半なりし、熱帯地帯に入りし為めか暑は夜に入りて猶甚だしく暫時涼を求むべく甲板に昇れば明月沖天に懸かりて夜色沈々無限の星は下界を照して鬼氣人を襲ふ、只聞く巨船海波を切りて西へ西へと進む音や昨夜の勞れに前後も知らで深き夢路を辿り居る中、船ボーイの呼び声に起されて床を離れしは五時半なり、弥々ハワイ島に近付きし為めか時の過ぐるに従つて暑氣を増す為めに終日甲板上に読書す、午後よりは船室の暑に堪へず多く甲板に暮し船の進行に憑きて左右に飛び立ち飛魚は実に見物であつた、其の形蝶々の如く或者は数間或者は数丁も飛び去る姿は一物の慰めなき

洋中唯一の楽みなりき、此日前甲板に乗客の子供を集めて相撲を始めた、是れを聞伝へ為めに甲板は大混雑を極めしも時にとりての慰めなりし、暮色大洋を蔽はんとする頃一志那汽船と行き違ふ、明くれば廿一日早朝甲板を散歩す、朝食後甲板に談話すれば青春の血燃る如き同輩の一行とて云ふ所、話し所何れも無遠慮にキワドイ所まで話さるゝには傍に居てさへ赤面する事ありし、午前十時頃に左舷数十尺の所に鯨の現はれしは時は人々アレヨアレヨと大混乱を来せり、午後一時頃と覚しく左舷に當り水と雲と相接する所に一帆船を認む、多分荷船ならん風は怒らず波静かに船は畳の上を走るが如し、本船正午の位置は西経百五十三度五十一分、北緯二十三度三十八分、船走距離三百五十八哩、平均速力十四、七節、ホノル、へ二百七十哩、時計の後退二十二分、明朝六時布哇着の予定との告示に船中の人心一段の活気を加へぬ

19 第112号5面(大正3年3月11日)

母国訪問談 『九』

米国より日本まで

川村源治

桑港・横浜間の航路に於ける最大の慰藉は布哇寄港な

り、況んや昨日の告示は航海に捲きたる乗客には一の福音とも聞こへ、為めにボーイの呼び声をも待たで東天未だ紅ならざるに起きてドレスアツプをなすもの甚だしきは午前二時頃より騒ぎ廻る者もありとて室内は大混雑なり、此の混乱の音に起されて洗面衣を改めて甲板に昇れば天未だ明けざれども船客の多くは此所にあり、右舷に廻りて海を眺れば灯台の光は暁の星の如く指呼の近くに明滅し墨絵の中の景の如く海上に横はるはこれ布哇島なり、アレヨアレヨの声の中に夜は全く明け離れたり、船を走らせつゝ遙かに島中を眺むれば青草全海岸を蔽ふが如きを人に問へば、これなん砂糖の原料たる甘藷の培養なりと、殆んど島を半週しホノル、港口にて停船するや檢疫所よりはギヤシンボートに檢疫所の旗を立て本船目掛けて疾走し来る、又数隻のボートは絶へず船側を警戒す、聽て檢疫を了るや船は徐々として港内に進行し後を追ふて二隻の船舶の入港し来るを見る、多分島通ひの船なりしならん、一時間は早けれど上陸の都合もありなんと船員の注意により中食をなして僅かに船の通路のみを掘りて行通を助くるのみなり、如斯狭き通路なれば船長の苦心実に慘憺たるものありし、友人の指して向ふは要

塞、此方は兵營其所は何と一々指教されしも遂に記憶し能はざる間に船は徐々として港内に入るや、布哇土人即ちカナカの子供數十人通路を擁して海中に泳ぎつ、『伯父さん銭呉れ』とさげぶ試みに五仙の白銅を海中に投ずれば未だ底に達せざる間に手にして浮き来る其機敏なると熟練なるには一驚を喫せり、暫時にして船は七日間の航海を無事に終り一先ホノル、港アラケヤ棧橋に休憩するに至れり。

20 第113号5面（大正3年3月21日）

母国訪問談 『十』

米国より日本まで

川村源治

時は午前十一時三十分、事務員の注意あり曰く『本船は本日午後五時当港を抜錨す故に船客は定刻に後れざる様帰船すべし』と七日間無慰に苦みし事とて一同先を争つて上陸せり、我等は数名の友人と先づ市内を見物するに風俗の混乱せる只驚くの外なく、殊に日本婦人の日本風俗其俣にて大道を歩み電車に乗り居るには只々異様の感と不快の念に打たれり、日本人街に行途しから其所の路、此所の横丁より出で来る日本婦人は皆単衣に帯をお

太鼓に結び、或者は白足袋に駒下駄、或者は素足に草履、何れも真黒な足を風の吹く度に股まで現はして徘徊するを見るは逢ふ毎に悲嘆の声を放たざるを得ない、聽て日本人街に到るや小規模なれども商店は櫛比し、店頭の人悉く日本風俗なると男子中にも単衣に兵子帯姿を見るに至つては驚きといふよりも滑稽、否風紀上大に考へねばならぬ問題と思はれた、我在米六年有余、北はキヤスケート山麓より南はメキシコ附近に至る殆んど太平洋沿岸一帯の地を踏破せる此間の見聞中記憶に残りし一つは支那人の服装なり、習慣に捉へられし為めか大夏の服装、今猶宇内に冠たるの自信の充実してか、故国の服装其俣、北米に於ける支那人、布哇に於ける日本人の其服装否風俗をして精心界を推測する時は同化し能はざる好ましからざる移民として東洋人排斥の声を拒み得るや否、遊歩の余り渴を覚へ或る店に休息してソーダ水に喉を濡ほし、更に英気を養ひ友人の案内にて三左衛門の公園を見物すべく電車を其終点迄走らせた、三左衛門とは日本人の命名にて日露戦役の際旅順攻圍軍の同所を陥落するや否やに付全財産を賭して勝ち得たる財産中の一部よりなる公園なりとか、徒歩すること約二十分、兵營を

路の両側に見て坂を降り、此附近にて布哇駐屯兵の大演習を見つ、公園圏内に入る規模の大なる此所は遠に米大陸と異なり野も山も緑樹を以て彩られ鬱蒼たる緑陰滾々として清泉の流る、様は内地の風光其侷なり、加ふるに椰子の樹は旗竿を立てし如く中空に聳えバナ、樹は類々たる果を結び、名も知らぬ熱帯地産の多くの樹木は全島を飾り居りぬ

21 第114号5面(大正3年4月1日)

母国訪問談 『十一』

米国より日本まで

川村源治

一友の曰く『我等は今此風光に接して阿非利加蛮地に探検し土人が刀槍を振つて彼方の樹間より今にて我等を襲へ来るに非ずやの感ずし』と皆其一言一行の意を得たるを賞しぬ、歩む事多時一の庭園に出でたり、庭は日本式にして多くは火山脈に産する石を以て庭を飾る、中央に日本家屋あり、四辺は松、桜其他雑草を廻らす、築山を対岸して池あり、水は溪をなして南面の木の下、石の間を通り小瀧となりて落ち泉中飛石あり小魚其側を遊泳す、友人の此景を捨つるに忍びずとて写真す、猶ほ進む

進十分園内数丁歩の田あり、支那人によりて今や第二回の田植最中なり、或所は已に六、七寸位に伸びし所もありし、半日の見物園内のみにて到底見尽しべくもあらねば共に帰路に就く、後方を省みれば小原山脈を走りて遙かに花房山を眺むるか如き背景を受けて眼界の及び限り悉く青く奇木珍鳥一として目に新ならざるはなかりき、市街に出づるや同勢五名中食を共にし、場所不案内の爲め目玉の飛び出す程金を取られて布哇は物価が高いねーとは何所迄も鷹揚な大陸育と一同ドツト笑ふ、其声を聞き仲働の姉ーさん気の毒そーな顔をして余りに不注意でしたと申訳も時に取りての愛嬌なりし、血気にはやる青年万身の飛気抑へ難く燃える如き劣情は人道々徳など考ふる違なく是より布哇の暗黒界に進軍せんとした、余は彼等と分れて一先づ帰船せしに佐藤貞藏君よりの書面届き居りし、『曰く目下ホノル、島を距る海上約三十里の馬哇島に在り残念ながら面会致し兼ねるか本年中に本国に行く考へ故其節種々面談』と 船室の暑に堪へ兼ねて再び船を飛び出して棧橋を出づれば、其所には花売土人の娘あり、首飾りを売る老婆あり、道路に向ふにはバナ、、パインアップル、氷水、ソータ、水飴など路傍

に筵を敷き所狭きまでならべて客を呼ぶ様は秋時所々の

て走る。

祭典に路傍へ果物店を張り居ると異ならず、友人と共にバナ、及パイナップル都合五十仙程買へしに横浜迄に如何にして是を食し終るべきかの問題を解決するに苦しむ程多かりし、時計は寸間の休なく刻一刻出發の期に近く、船員は乗込人と荷物の積込みに忙殺され、船中及棧橋には離別の悲みに泣く幾多の婦人連あり、送られし首飾に双肩を埋むる許りの交際家あり、殊に人目を引きしは一病婦の数名の助に依り数十名の女生徒に送られて僅に乗船したる光景なり、人々は怪めり此病婦能く日本迄健康を保ち得るや否やと、出發の時は近けりされど暗黒方面に足を入れし友等は未だ帰り来らず、只見る船中も棧橋も人を以て埋めらるゝを四時四十分見送人下船の鐘聲は響き渡りぬ、左なきだに混雑せる群衆の一層混乱せる中を押分けつゝ、友人等の帰り来る様を見て喜ぶ間もなく第二の鐘聲は響き暫時にして橋は取り払はれぬ、一見送人あり此時未だ船内を去らずさりとて渡るべき橋は已になく己を得ずして船より縄を下げ夫を伝ふて僅に下船すると得たり、同時に出発の汽笛は鳴り数百の歓声に送られてアラケヤ棧橋を離れたり、船は西北に進路を取り

22 第115号5面 (大正3年4月11日)

母国訪問談 『十二』

米国より日本まで

川村源治

今回布哇よりの乗船客は二百四十名の由、猶附記し最近在布同胞人口の最も正確なる調査によればホノル、オカフ、布哇、馬哇、加哇、モロカイの六島、即ち全布哇に散在する者戸数二万〇〇九戸、男五万五千六百十六人、女三万〇百五十三人にして勿論小児も計算せしものなり

明くれば廿三日海上は飽くまで平穩に船は少しの動揺だもなく、殊に天晴れて気は蒸し暑きため上甲板は人を以て埋められ、話し所は布哇見聞談、暗黒界探検の土産話やら上陸感想談にて持ち切り、殊に布哇乗船者中に多くの布哇式日本婦人の同船せし事として一部の男子には一層の活気を呈せり、午後よりは布哇乗船の区域なる後部甲板に行く者多き為め前部甲板船室共に甚だ淋しく二時頃には僅に二十数名を算するのみなりし、婦人の勢力否日本男子の野卑なる今更の如くに思はれたり、山本、江原

の両氏布哇より乗船されしを幸ひ我団主催となりて青年の爲め一場の演説を頼まんと議起りしも、己に江原氏に於て此挙あるを聞き中止されぬ。明くれば廿四日太平洋上第二回の安息の日は希望の光を放て海上の朝日と共に迎へぬ、されど共に聖日を護らむとする兄弟もなく一等室には二十数名の宣教師及幾多の兄弟姉妹はあれども行くべくも非ず、独り静かにエペソ書を繙く非なる四辺の境遇を省み切なる教訓を得たり、友人の勧めにより乗船以來行きし事なき後部甲板に行きしか船室といはず甲板といはず公然又盛に友邦賭博の行はれ居るには只呆然たらざるを得ざりき、更に甲板には身の嗜も忘れて若き男女の混じて横はるあり、甚だしきに至りては婦人の膝を枕に横はり居る者さへ見るに至りては如何に布哇連とは云へ墮落の度を計り兼て恐ろしくも亦氣の毒に堪へざるものありし、前部に於てすら団員の室と隣室とは空氣の異なる如く感ぜしか、今や後部乗客を見るに当りて墮落の程度一層甚しきに驚きぬ

23 第116号5面(大正3年4月21日)

母国訪問談 『十二』

米國より日本まで

川村源治

午後三時より江原、山本兩氏の演説を我等の食堂に於て開かれたり、山本氏は帰朝青年への注意、江原氏は団員諸君へ廿五日早朝各室内に左の意味を以て一片の告示は貼付されたり、本日午後二時より後部喫煙室の外側に於て相撲興行引続き、六時より演芸会を催すとの意なり、取組は船員よりなり飛入勝手の手、無慰に苦む乗客なれば午後二時指定の場に到れば四方は各国々旗を以て飾られ、四本柱に土俵は田舎の花角力に劣らぬ設備、観客は已に充満せり、時刻は早くも経過せり、されど初まるべき模様も見へず二人の男の子あり、土俵内に入りて角力す、一等船室より来る船客勝者に与ふるに菓子折を以てす、観客茲に興味を得て船内の子供を集め各勝敗を争はしむ米國人あり、片手に五十仙・一弗の銀貨を取り交せて持来り勝者を賞す、雅境に入るや自ら土俵の内外を走り廻りて取組に相当せる子供を探し廻る其無邪氣さ、漢字的に心迄四角に教育されたる日本人には中々真似も出来ざる所なり、己が土俵を子供の爲めに占領されて呆然たる関取連も万事の準備終りて茲に本分の取組となる中には美事なる角力もあり、船客中よりの飛入ローサンゼ

スルサクラメントなど呼び出されし時は観客一同ドツと笑ひぬ、相撲の段々取組たる数は二十数番、時止に四時を過ぐる五十分、相撲千秋楽の鐘は夕食の鐘と共に鳴りぬ。

夕食を終り定刻を待ち兼ねて劇場ならぬ告示の場所に到れば土俵や四本柱は取去られて一段高く又美はしく裝飾され、八時頃より演芸は左の狂言にて始まりぬ、三番叟喜劇二ツ巴五幕、劍舞落語新派劇バンカラ俠一幕、喜劇生地蔵後の先代萩一幕、不如帰逗子の海岸一幕、中幕金色夜叉熱海々岸の場大切白浪五人男稲勢川勢揃への場にて、不如帰の浪子は布哇より乗船せる母親付添の浪にて多少経験ありとの事なりしも声は浪に消されて蚊の鳴くよりも細き為め失敗に了れり、同夜の演芸中見るべきは金色夜叉の貫一に装せる演者なりし彼が演技の妙真に迫り観客をして思はず落涙せしむ、時は既に十一時を過ぐる十五分、此日午後米国に向ふて進行しつゝある地洋丸を遙か遠路離の海上に見て行き違ふ、廿六日朝の行事を了りて甲板に昇れば已に五、六の人々は新しき空気を吸ふべく散歩しつゝあり、船員の洗ひし甲板は未だ干かぬに散歩に何の不都合も感ぜず、海上は油を流せず如

く平穩に気温又体に適ふ、暫時にして太陽は輝ける笑顔を東天に現せば多くの飛魚は船の進行に驚きて舷側より飛び出す様な秋の蝗の人の足音に驚きて飛び立が如く朝日に映じて壯觀言語に絶す、朝食後読書にも倦き食堂に行きて書き物をなし居ぬ、于時衆人の注意あり、こは数名の団員後部三等室より数名の婦人を拉し来りて酒宴を開く礼に初りて乱に終る盃の献酬重なるに従ひ、痴話百出屍のある所に驚集まらんの例を実現し、之を聞伝へて色我鬼共の新珍代謝す、甚だしきに至りては人前も憚らず狂態を演ぜんとするさへあるに至りては言語道断、万一船中にて間違ありては宜しからずと事務員二名他所ながら監視するに到るとは手数掛の掛る馬鹿者なり、海を渡りて十数年得たる物は僅かの金、失へる物は人格なり、在米同胞の理想は金を得るにあらん、我が国家焦眉の急も金にあらん、されば余は言はんとす、先づ我等の失へる人格を探せと、又船中に起りし出来事の一例を照会せん、

Ⅲ 白石実業新報統計編

表	表タイトル	号	面	記事タイトル
1	明治44年3月 白石町の各大字所有財産表	5	3	白石町有財産統一
2	明治44年4月 明治44年度白石町歳入出予算表	6	3	白石町明治四十四年度歳入出予算表
3	明治43・44年 白石町トラホーム検診所成績(地区別)	10	2	白石町トラホーム検診所43年度44年度成績比較対照表
4	明治44年7月 蚕業経済比較(東北6県および長野・岐阜・愛知県)	16	2	蚕業経済比較
5	明治44年7月 蚕種製造業収支(東北6県および長野・岐阜・愛知県)	16	2	蚕業経済比較
6	明治43・44年 蚕種生産額調(村別)	19	2	蚕種生産額調(町村別)
7	明治43・44年 白石町伝染病患者および死亡者数(月別)	22	3	恐るべきは悪疫
8	明治45年6月 刈田郡壮丁検査成績	50	2	刈田郡壮丁検査の情況
9	明治42年～大正元年8月 白石町赤痢患者および死亡者数	56	4	隔離病舎視察記
10	大正元年8月27日現在 刈田郡赤痢患者数	57	3	赤痢益々猖獗
11	大正元年 刈田郡赤痢病費用調	71	2	伝染病予防に於て
12	明治44年・大正元年 公立刈田病院患者数	71	3	公立刈田病院
13	大正2年3月 白石町春期トラホーム検診成績表	80	2	白石町に於ける春季「トラホーム」検診
14	大正2年5月9日調 刈田郡桑園結霜被害高	83	2	未曾有の霜害
15	大正2年5月9日調 刈田郡養蚕(収繭)結霜被害高算出標準	83	2	未曾有の霜害
16	大正2年5月9日調 刈田郡平年収繭高	83	2	未曾有の霜害
17	大正2年5月9日調 刈田郡生産総額と霜害	83	3	刈田郡生産総額に対する霜害割合
18	大正2年 春蚕掃立枚数および収繭高予想	86	2	本年春蚕予想 掃立減少収繭増加
19	大正2年9月1日調 刈田郡暴風雨稲作被害高調	94	2	暴風雨稲作被害調
20	大正2年9月1日調 刈田郡暴風雨稲作被害高調(減収反別)	94	2	暴風雨稲作被害調
21	大正2年9月 刈田郡町村費所属水害調査表	95	2	本郡町村費に罹る被害
22	明治44年・大正元年 国鉄(鉄道管理局)貨物集散調	71	2	前年国鉄貨物集散
23	明治44年・大正元年12月 白石駅貨物取扱比較	71	2	白石駅に於ける乗降人員の概況
24	明治40年～大正元年 白石駅乗降人員・収入	92	2	鉄道院白石駅乗降人員及其収入
25	明治40年～大正元年 白石駅貨物発着量・収入	92	2	鉄道院白石駅乗降人員及其収入

表 1 明治44年3月 白石町の各大字所有財産表

大字	田(歩)	畑(歩)	宅地(坪)	山林(歩)	原野(歩)	現金(円)	建物(坪)	糶(石)
白石	1,000	－	666	510	2,204	143,000	15,525	－
郡山	－	－	－	735,703	－	－	－	－
鷹巣	－	425	317	134,019	－	－	2,100	120,000
計	1,000	425	983	870,232	2,204	143,000	17,625	120,000

表2 明治44年度白石町歳入出予算表

費目	金額(単位：千円)	備考
【歳入】		
町税	22,536,795	うち①直接国税附加税3,169,295 ②直接県税附加税19,367,500
雑収入	1,050,000	
寄附金	250,000	
前年度繰越金	211,000	
使用料	129,000	
合計	24,176,795	(前年度19,351,020)
【歳出：経常費】		
教育費	8,192,790	うち①第一尋常高等小学校費3,764,740 ②第二尋常高等小学校費3,881,100 ③実科高等女学校費546,950
役場費	4,829,580	
諸税・負担	2,390,980	
警備費	1,033,900	
土木費	680,250	
衛生費	491,000	うち①伝染病予防費435,000 ②隔離病舎費56,000
公園費	285,000	
財産費	258,600	
財産積立金	206,000	
予備費	173,420	
会議費	143,000	
勸業費	35,000	
救助費	30,000	
神社費	5,000	
小計	18,754,520	(前年度17,030,170)
【歳出：臨時費】		
財産運用金戻金	1,387,900	うち①町基本財産金105,000 ②小学校基本財産金161,000 ③罹災救助資本1,086,900 ④学令児童救護基金35,000
公債費	1,362,500	
教育費	816,785	
寄附金	577,000	
町立屠場費	458,000	
財産造成費	302,500	
役場費	300,000	
衛生費	137,500	うち①伝染病予防費137,500 ②隔離病舎費0
勸業補助費	80,000	
小計	5,422,275	(前年度2,320,850)
歳出合計	24,176,795	(前年度19,351,020)

表3 明治43・44年 白石町トラホーム検診所成績（地区別）

地区名	明治43年			明治44年		
	検診者数	患者数	検診者に対する 100人比（%）	検診者数	患者数	検診者に対する 100人比（%）
南小路○	109	20	10.5	115	32	27.2
田町△	171	54	51.5	164	38	23.1
本町△	685	192	28.0	691	102	14.7
中町△	304	54	17.7	322	30	9.3
長町○	328	64	19.5	318	94	29.6
亘理町○	328	56	17.0	334	58	17.4
短ヶ町○	291	56	19.3	277	59	22.0
新町△	289	64	22.1	292	44	15.0
西盆岡○	192	18	9.4	194	22	11.3
中盆岡△	106	24	22.6	107	10	9.3
東盆岡△	343	76	22.1	352	52	14.8
裏町△	172	46	26.7	168	26	15.5
寿町△	174	36	20.7	179	28	15.6
柳町○	409	88	21.5	427	110	25.7
本郷△	141	48	34.0	138	52	27.6
郡山○	115	40	37.4	125	64	51.2
鷹巣△	127	42	33.0	116	36	31.0
計	4,284	978	22.8	4,319	857	19.8

注) 単位 = 人、「地区名」の○ = 前年比増・△ = 同減を示す。

表4 明治44年7月 蚕業経済比較（東北6県および長野・岐阜・愛知県）

収支/県名	長野	岐阜	愛知	福島	宮城	岩手	青森	山形	秋田
収入	63,920	67,824	65,435	62,552	53,639	48,104	56,660	70,927	50,757
支出	65,537	64,035	60,954	63,346	53,789	45,396	50,936	57,099	47,489
差引損益	▲1,617	3,807	4,481	▲794	▲150	2,708	5,730	13,846	3,268

注) 単位=円、「差引損益」は実数表記とした。

表5 明治44年7月 蚕種製造業収支（東北6県および長野・岐阜・愛知県）

収支/県名	長野	岐阜	愛知	福島	宮城	岩手	青森	山形	秋田
収入	165,901	164,430	162,575	162,575	162,596	119,460	152,317	168,171	89,157
支出	123,824	105,105	124,335	134,335	110,903	68,511	120,100	137,578	87,252
差引利益	42,617	41,325	38,240	27,169	51,693	51,309	32,217	30,593	1,905

注) 単位=円、「差引利益」は実数表記とした。

表6 明治43・44年 蚕種生産額調（村別）

	村名	小原	越河	大平	斎川	大鷹沢	白川	福岡	計	
43年度	春期	原種蛾数	2,660	67,284	27,440	-	33,768	12,096	8,400	151,648
		製糸用種枚数	-	814	852	-	274	222	142	2,354
	秋期	原種蛾数	5,292	50,456	25,172	9,324	28,980	3,500	15,764	138,488
		製糸用種枚数	2	369	475	150	83	12	82	1,173
44年度	春期	原種蛾数	4,788	93,604	31,808	-	41,328	14,672	17,024	203,224
		製糸用種枚数	-	825	812	-	334	159	136	2,266

注) 自家用蚕種製造者分は含まない。

表7 明治43・44年 白石町伝染病患者および死亡者数（月別）

43/44年	腸チフス	パラチフス	ジフテリア	赤痢	猩紅熱	クルップ	罹患者計
1月	2		1		1		4
			1				1
2月	2		1			1	4
			1			1	2
3月			4			1	5
			2				2
4月	4		1				5
			2		1		3
5月			2				2
							0
6月	6		1			2	9
							0
7月	3		3				6
	2	2		5			9
8月	1		1	13			15
				1	1		2
9月	2		1	11			14
10月	2		4	1			7
11月	2		4				6
12月						1	1
死亡者計	3	0	3	3	0	1	10
	0	0	0	1	0	1	2

注) 単位=人、各月と死亡者計の上段=明治43年・下段=44年、※44年9月~12月は記録なし

表8 明治45年6月 刈田郡壮丁検査成績

町村名	検丁人数	体格等位甲	体格等位乙以下	トラホーム	その他の疾病
円田村	37	7	30	30	9
大鷹沢村	28	8	20	27	2
白石町	67	13	54	58	10
七ヶ宿村	30	9	21	28	6
宮村	44	16	28	41	5
福岡村	48	18	30	49	1
斎川村	21	9	12	21	1
小原村	33	13	20	30	3
越河村	23	8	15	23	2
白川村	23	7	16	22	4
大平村	19	6	13	21	1
計	373	114	259	350	44

注) 単位 = 人、「計」は実数表記とした。

表9 明治42年～大正元年8月 白石町赤痢患者および死亡者数

患者内訳／年次		明治42年	43年	44年	明治45／大正元年
全治患者	男	11	12	27	7
	女	13	10	15	7
	計	24	22	42	14
死亡患者	男	5	2	2	2
	女	4	1	4	0
	計	9	3	6	2
患者総数	男	16	14	29	21
	女	17	11	19	14
	計	33	24	48	25
患者100人に対する死亡率(%)		27.3	12.0	12.5	5.7

注) 単位 = 人、大正元年8月16日現在は男12名・女7名 = 計19名。

表10 大正元年8月27日現在 刈田郡赤痢患者数

患者数／町村名	白石町	福岡村	宮村	大平村	斎川村	円田村	総計
初発月日	6月22日	7月13日	8月13日	8月14日	8月1日	8月24日	
患者総数	50	20	6	5	8	4	93
現在患者	24	10	6	1	4	4	49
全治患者	24	8	0	4	2	0	38
死亡数	24	20	0	0	2	0	46

注) 単位 = 人、総計は実数表記とした。

表11 大正元年 刈田郡赤痢病費用調(大正2年1月調)

費目/町村	白石町	福岡村	宮村	円田村	白川村	大平村	斎川村	越河村	合計
薬品・薬価	1,082,490	60,000	237,315	302,500	140,580	69,430	84,750	57,470	2,034,535
医師給与・手当	728,000	240,000	274,000	50,000	225,000	143,000	148,000	60,000	1,868,000
営繕費	169,791	50,000	150,000	525,485	167,000	59,900	79,115	-	1,201,291
消耗品費	569,060	148,571	157,829	45,000	157,000	31,945	-	35,000	1,144,405
看護婦給	312,400	80,000	63,400	158,200	178,400	73,000	77,000	36,000	1,235,060
患者費	497,205	-	42,000	145,642	16,240	90,930	74,880	35,000	901,897
器具・器械費	493,135	50,000	-	40,000	85,000	54,054	55,500	40,000	817,689
賄料	240,630	-	48,780	23,000	158,880	-	109,180	-	580,470
医師旅費	107,100	40,000	-	10,000	5,000	13,200	49,580	-	224,880
消毒人夫給	58,800	56,000	51,600	37,500	44,000	15,000	50,000	2,500	315,400
滋養費	-	-	26,439	-	92,640	-	171,030	-	290,109
医師慰労金	260,000	-	-	-	-	-	-	-	260,000
雑費	-	-	24,040	81,657	82,220	11,235	20,975	-	220,127
小使給	60,400	-	30,100	50,000	10,000	-	38,500	15,000	204,000
雑人夫	136,000	-	19,790	30,000	-	7,100	-	7,000	199,890
事務員慰労金	135,000	-	15,000	-	-	26,000	-	12,000	193,000
事務員手当	15,600	36,000	-	25,000	32,200	16,300	30,000	-	155,100
通信運搬費	-	-	-	-	80,000	-	-	5,000	85,000
炊事夫給	-	-	-	25,000	21,250	15,350	-	-	61,600
看護婦旅費	3,760	2,480	-	10,000	1,700	19,580	2,340	2,780	42,640
看護婦慰労金	12,000	-	-	-	-	3,000	-	-	15,000
合計	5,138,031	763,051	1,140,293	1,558,984	1,497,110	649,024	995,850	307,750	12,050,093

注) 単位 = 円、「合計」は実数を算出・記載した。※福岡村については「隔離病舎経費未報告」が1,000円以上あり。

表12 明治44年・大正元年 公立刈田病院患者数

年次／町村名	白石町	福岡村	宮村	円田村	白川村	大鷹沢村	大平村	斎川村	越河村	小原村	七ヶ宿村	他郡	合計
明治44年 患者数	3,295	938	261	58	466	859	525	520	539	444	103	283	8,291
大正元年 患者数	2,818	1,167	266	60	372	758	559	611	493	38	91	195	7,428
(比較) 増減	477	-229	-5	-2	94	101	-34	-91	46	406	12	88	863

注) 施療患者を算入せず、「合計」は実数表記とした。

表13 大正2年3月 白石町春期トラホーム検診成績表

地区別	検診者数	患者数	検診者数100人に対する患者割合 (%)
郡山	127	39	30.7
鷹巣	83	30	36.1
本郷	111	21	18.9
裏町	104	7	6.7
寿町	120	28	23.3
柳町	263	75	28.5
南小路	133	30	22.6
田町	122	28	23.0
本町	450	89	19.7
中町	219	35	16.0
長町	238	57	23.9
亘理町	217	51	23.5
短ヶ町	138	38	27.5
新町	193	38	19.7
西盆岡	127	27	21.3
中盆岡	96	6	6.2
東盆岡	254	38	15.0
合計	2,995	637	21.3

注)「合計」は実数を算出・記載し、「割合」の端数は四捨五入とする。

表14 大正2年5月9日調 刈田郡桑園結霜被害高

数値／町村	白石町	福岡村	宮村	円田村	白川村	大鷹沢村	大平村	斎川村	越河村	小原村	七ヶ宿村	計
総反別	114.8	150.1	135.6	467.5	110.6	53.9	70.6	102.3	93.9	102.8	266.7	1,668.8
反別	107.4	108.0	93.0	356.8	93.1	47.0	27.0	50.0	11.0	102.8	79.0	1,075.1
損害高(円)	22,035	17,591	7,680	37,527	8,385	9,810	6,365	4,357	1,410	24,790	3,950	143,900
総反別に対する被害高(%)	9.3	7.2	9.6	7.6	8.4	8.7	3.8	4.9	2.0	10.0	3.0	6.4

注)「平年に比し被害減収歩合桑葉5割9分」とあり、「計」は実数表記とした。

表15 大正2年5月9日調 刈田郡養蚕(収繭)結霜被害高算出標準

数値／町村	白石町	福岡村	宮村	円田村	白川村	大鷹沢村	大平村	斎川村	越河村	小原村	七ヶ宿村	計
収繭減少額	578	442	380	924	373	240	176	242	70	600	132	4,157
同上見積額	23,480	19,492	15,200	41,580	16,785	10,800	7,392	9,680	2,800	27,000	5,280	179,489
一反歩収葉高	150	120	100	150	150	120	170	120	150	200	100	
桑一貫目価格	150	120	100	120	100	100	150	100	100	125	100	
繭一石ノ価格	40	44	40	45	45	45	42	40	40	45	40	

注)「平年に比し被害減収歩合桑葉5割9分」とあり、「計」は実数表記とした。

表16 大正2年5月9日調 刈田郡平年収繭高

数値／町村	白石町	福岡村	宮村	円田村	白川村	大鷹沢村	大平村	斎川村	越河村	小原村	七ヶ宿村	計
収桑量	204,120	195,130	184,506	554,280	130,800	64,820	89,570	205,422	194,670	221,760	265,900	2,310,978
収桑価格	22,452	27,318	23,986	55,428	13,080	6,482	8,957	20,540	11,680	22,176	265,900	477,999
春蚕繭	528	1,030	867	1,014	521	393	386	611	623	817	614	7,404
春蚕繭価格	21,315	43,113	33,728	39,621	21,528	14,067	17,270	24,630	23,155	30,106	22,519	291,052

注) 収桑価格の「計」は、実数表記とした。

表17 大正2年5月9日調 刈田郡生産総額と霜害

産物／町村	白石町	福岡村	宮村	円田村	白川村	大鷹沢村	大平村	斎川村	越河村	小原村	七ヶ宿村	計
米	80,711	75,598	41,431	94,514	63,296	62,888	46,784	33,798	40,420	20,404	26,058	585,902
麦	16,673	16,045	20,834	48,089	20,758	16,528	10,203	6,897	8,959	7,953	1,767	174,706
蚕繭	25,200	54,960	46,640	40,240	34,560	17,960	16,200	27,040	40,920	27,680	27,040	358,440
食用特用農産物	18,922	20,693	15,202	66,185	7,018	16,677	15,258	5,482	6,675	7,136	9,516	188,764
畜産	7,136	3,572	2,754	1,453	2,441	1,028	1,383	1,424	727	680	762	23,360
林産	79	16,390	18,785	22,484	6,888	1,340	112	3,380	3,788	7,869	38,206	119,321
水産	7,495	450	371	-	85	-	286	935	200	292	436	10,550
下産物	129,727	14,866	43,362	326	1,381	3,039	4,756	3,277	7,398	6,158	2,588	216,878
果実	5,165	1,826	8,524	10,527	569	2,141	646	5,394	3,751	853	70	39,466
大豆	3,814	3,791	3,358	9,606	2,188	5,370	3,615	1,544	1,170	2,211	1,135	37,802
生産総額	294,922	208,187	201,262	293,424	139,148	126,871	99,243	89,171	114,008	81,236	107,578	1,755,050
霜害損失高	23,480	19,492	15,200	41,580	16,785	10,800	7,392	9,680	2,800	27,000	5,280	179,489
全生産高に対する損失高の割合	0.8	0.9	0.8	1.4	1.2	0.9	0.7	1.1	0.2	3.5	0.5	1.0

注) 単位=円。

表18 大正2年 春蚕掃立枚数および取繭高予想

数量/地方	東京	京都	大坂	神奈川	兵庫	長崎	新潟	埼玉	群馬	千葉	茨城	栃木	奈良
掃立枚数	65,000	51,240	650	65,728	53,400	5,023	73,361	203,781	272,460	72,632	99,349	30,228	9,478
前年比較増	-1,940	17	-82	-3,485	369	4,575	-4,575	-1,570	3,489	-3,023	-2,217	-576	1,345
取繭高(石)	53,000	58,504	586	54,846	65,878	6,062	69,882	177,800	220,862	69,747	91,977	27,094	11,791
前年比較増	-2,871	-4,724	-102	1,220	-2,000	408	3,818	-1,256	1,370	-2,238	-2,459	-608	1,939

数量/地方	三重	静岡	愛知	山梨	滋賀	岐阜	長野	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田
掃立枚数	66,684	98,714	140,377	154,000	27,851	101,523	272,038	70,614	145,497	43,214	4,164	88,661	20,739
前年比較増	1,473	2,572	2,960	-5,371	-2,171	-7,986	-6,732	7,541	40,469	-	774	-10,153	-
取繭高(石)	77,178	97,202	160,107	125,000	27,393	108,484	269,000	69,285	131,645	48,190	3,876	88,928	18,439
前年比較増	745	7,369	-4,369	1,385	-2,467	-2,619	-82	-7,636	14,809	-	817	-14,807	-

数量/地方	福井	石川	富山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	和歌山	徳島	香川	愛媛	高知
掃立枚数	26,340	22,430	20,000	36,263	32,517	21,264	12,694	9,479	14,108	14,757	5,954	33,285	28,437
前年比較増	-778	-6	1,463	-1,203	-2,430	-1,743	2,505	129	434	-5,693	924	1,067	-220
取繭高(石)	22,278	23,408	16,000	13,969	37,494	21,518	13,595	9,106	16,096	32,650	4,933	54,311	27,237
前年比較増	271	1,358	1,355	-328	-7,695	1,430	2,143	109	622	645	127	3,016	72

表19 大正2年9月1日調 刈田郡暴風雨稲作被害高調

被害高	町村	白石町	福岡村	宮村	円田村	白川村	大鷹沢村	大平村	斎川村	越河村	小原村	七ヶ宿村	計
	作付反別	192.8	316.4	115.4	399.5	172.7	205.3	173.3	112	146.6	85.8	175.3	2095.1
	第一回予想高	40.86	6.636	2.03	5.678	2.951	2.988	3.986	2.127	2.768	1.708	1.578	36.536
	収穫皆無	3	77	17.2	74.5	3.7	10	5.3	9	4.5	3.7	6.3	214.2
	減収反別	189.8	118.2	42.3	153.2	81.6	107	48.4	30	98	4	152.8	1025.3
	計	129.8	195.2	59.5	227.7	85.3	1170	53.7	39	102.5	7.7	159.1	1239.5
	損害額	9,453	46,560	11,640	36,184	11,873	12,825	8,458	5,256	7,895	1,189	13,755	165,053
	減収石数	525	2,328	613	1,807	594	675	423	292	439	59	688	8,443
被害割合(歩合)	作付反別	10	6.2	5.2	5.7	4.9	5.7	3.1	3.4	7	0.9	9.1	5.9
	収穫高	1.3	3.5	3	3.1	2	2.3	1.1	1.4	1.2	0.3	4.3	2.3

注) 単位…作付反別=反、損害額=円、その他=石。

表20 大正2年9月1日調 刈田郡暴風雨稲作被害高調（減収反別）

数量／稲種別	早稲	中稲	晩稲	計
作付反別（反）	540.2	1,023.2	531.7	2,095.1
減収：皆無	66.2	100.2	47.7	214.2
減収：5割以上	74.2	51.9	21.7	147.8
減収：3割以上	116.7	167.8	47.0	331.5
減収：3割以下	90.0	238.6	217.4	546.0
合計損害概価（円）	52,206	76,954	35,893	165,053

表21 大正2年9月 刈田郡町村費所屬水害調査表

種別／町村	白石町	福岡村	宮村	円田村	白川村	大鷹沢村	大平村	斎川村	越河村	小原村	七ヶ宿村	小計① (1町10村)	白石普通 水利組合	宮村外 二ヶ所組合	小計② (組合)	合計
道路	箇所	-	14	6	30	24	28	13	2	10	18	1	146	12	12	158
	延長	-	330	135	988	348	950	2,120	18	478	1,665	2	7,234	665	665	7,699
	復旧費	-	335	60	4,446	1,725	2,300	1,696	83	1,434	425	3	12,507	2,075	2,075	14,582
橋梁	箇所	5	18	20	8	9	13	32	1	3	14	1	124	1	1	125
	延長	23	59	39	34	42	38	41	5	7	60	4	352	30	30	382
	復旧費	414	752	415	800	774	620	820	150	200	143	30	5,118	43	43	5,161
堤防	箇所	-	13	-	17	1	-	5	150	10	-	-	61	-	-	61
	延長	-	190	-	288	300	-	850	250	450	-	-	2,828	-	-	2,828
	復旧費	-	2,845	-	1,296	1,500	-	1,790	1,350	-	-	-	10,681	-	-	10,681
暗溝	箇所	-	-	1	2	3	3	-	-	-	-	-	9	-	-	9
	延長	-	-	1	1	4	6	-	-	-	-	-	12	-	-	12
	復旧費	-	-	10	170	30	14	-	-	-	-	-	228	-	-	228
用水路	箇所	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	1	1	9
	延長	27	90	-	-	-	-	-	-	-	-	-	117	300	300	417
	復旧費	600	282	-	-	-	-	-	-	-	-	-	882	3,500	3,500	4,382
溜池	箇所	-	-	-	-	-	1	32	-	8	1	-	13	-	-	13
	延長	-	-	-	-	-	10	32	-	30	175	-	247	-	-	247
	復旧費	-	-	-	-	-	90	580	-	300	30	-	1,000	-	-	1,000
計	箇所	6	52	27	57	37	45	53	18	31	23	2	361	1	13	375
	延長	50	1,169	175	1,311	694	1,004	3,043	273	965	1,900	6	10,590	300	995	11,585
	復旧費	1,010	4,214	485	6,712	4,029	3,028	4,886	2,133	3,284	598	33	30,416	12,500	2,118	36,034

注) 単位：延長＝間、復旧費＝円。

表22 明治44年・大正元年 国鉄（鉄道管理局）貨物集散調

数値／鉄道管理局	東部	中部	西部	北海道	九州	総計
大正元年：重量（トン）	374,383	318,726	325,224	186,628	666,818	1,881,779
明治44年重量との比較	18,729	14,609	17,997	▲15,324	84,337	120,348
大正元年：金額（円）	796,378	680,016	704,629	273,548	561,584	3,016,155
明治44年金額との比較	▲26	45,406	46,099	▲13,694	87,876	165,661

注) ▲ = 減。

表23 明治44年・大正元年12月 白石駅貨物取扱比較

年月／数値	発送（トン）	到着（トン）	賃金（円）
明治44年12月中	2,331	1,073	5,771.59
大正元年12月中	1,833	1,841	3,810.94
同期比較	▲498	768	▲1,960.65

注) ▲ = 前年より減、比較数値は原文掲載より一部修正。

表24 明治40年～大正元年 白石駅乗降人員・収入

年度	乗車人員（人）				降車人員（人）				発送（斤）		到着（斤）		旅客収入（円）
	一等	二等	三等	合計	一等	二等	三等	合計	手荷物	小荷物	手荷物	小荷物	
明治40年	23	1,784	60,934	62,741	32	1,692	59,483	61,207	4,520	16,393	3,492	34,667	28,365
明治41年	18	1,940	66,263	68,221	19	1,749	57,709	68,978	2,760	12,165	3,980	40,134	28,960
明治42年	15	1,923	63,932	65,870	41	2,079	72,493	74,613	6,135	27,012	5,154	48,267	30,250
明治43年	30	1,808	62,509	64,647	12	1,794	63,859	65,665	4,924	34,946	7,085	46,948	27,610
明治44年	28	2,396	72,469	74,893	21	2,413	75,575	78,009	7,491	37,187	6,146	64,649	31,043
大正元年	26	2,728	76,443	78,258	22	2,844	83,414	86,280	5,892	31,692	8,919	60,531	34,933

表25 明治40年～大正元年 白石駅貨物発着量・収入

年度	発送（単位：トン）			到着（単位：トン）			貨物収入（円）	収入合計（円）
	貸切数	通常数	合計	貸切数	通常数	合計		
明治40年	12,317	4,098	16,415	10,216	2,512	12,728	43,351	71,716
明治41年	12,601	4,298	16,899	10,431	2,554	12,985	41,369	70,329
明治42年	13,358	3,712	17,070	10,072	2,787	12,859	45,036	75,286
明治43年	18,707	4,470	23,177	10,789	2,751	13,540	61,870	89,480
明治44年	19,087	4,503	23,590	11,683	2,957	14,640	59,368	90,411
大正元年	16,753	4,591	21,344	11,984	3,201	15,185	48,557	83,490

注) 表24に貨物量を追記して作成。

IV 白石実業新報記事一覧

号数	発行日	頁	タイトル	備考
1	M44.2.11	1	社説／発刊の辞 岡崎政治郎	写真（白石町より不忘山を望む）
1	M44.2.11	1	小説激流	真山青果
1	M44.2.11	2	祝詞 男爵渋谷栄一／東京商業会議所会頭中野武宮／鶴彦大倉喜八郎／池田謙三／東京電灯株式会社佐竹作太郎／三井銀行専務取締役池田成彬／鴻池銀行支店長久田益太郎／三菱銀行副長矢野芳弘／東京鉄道株式会社専務取締役井上敬次郎／日韓瓦斯電気株式会社専務取締役岡崎遠光／京浜電気鉄道株式会社社長青木正太郎／桜組社長浦辺襄夫／衆議院齋藤二郎／農学士齋藤吉夫／安田銀行福島支店長近藤重三郎／青畝春山伝之助／医事新聞社長藤根常吉／白石町長水野健治	
1	M44.2.11	2	書／正5位片倉景光	
1	M44.2.11	3	祝詞 亙理晋／白石商業銀行頭取渡辺佐吉／白石銀行頭取鈴木清之輔／白石興産合資会社鈴木富太郎／白石米商組合長鈴木藤左衛門／白石製糸機業株式会社専務取締役山田誠一／県会議員鈴木惣四郎／県会議員村上勇吉／越河村扶桑館主古山栄治／円田村平沢太平／円田村佐藤龍作	
1	M44.2.11	3	和歌	
1	M44.2.11	4	祝辞 仙台早川智寛／宮村佐藤雄治／潜電佐藤勇吉／小原村齋藤基／福岡村寺島幸七	
1	M44.2.11	4	伝記 片倉景綱君略伝／附重長君略伝	5～6 広告
1	M44.2.11	7	祝詞 玄洞子／苧峯仙史／ゆめのや笑山	
1	M44.2.11	7	雑報	
1	M44.2.11	8	祝詞 福島県商工課長田手喜市／遠刈田千歳英之進／寺島幸七	
1	M44.2.11	8	本社特別賛助員芳名	
1	M44.2.11	8	本社賛助員芳名	
1	M44.2.11	8	社告	
1	M44.2.11	8	名誉の高齢者	
1	M44.2.11	8	回遊白石団体	
1	M44.2.11	8	43年度の実収獲	
1	M44.2.11	8	白米標準相場	
1	M44.2.11	8	麦粉	
2	M44.2.21	1	社説／勅語奉読の感／勅語	
2	M44.2.21	1	小説激流	真山青果
2	M44.2.21	2	今後の白石発展策／（上）工業地たらしめよ	東都実業界春山伝之助
2	M44.2.21	2	祝詞／東北新聞社長木村隣之輔／仙台水野勝蔵／仙台鈴木孝助／在大阪米竹徳八	
2	M44.2.21	2	文苑／和歌／発句	写真（正三位松田正久君揮毫）
2	M44.2.21	2	雑録／刈田郷土志（一）／東都の実業界より	
2	M44.2.21	3	余の見たる実業大家	在京覆面郎
2	M44.2.21	3	雑報	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
2	M44.2.21	3	愛郷漫言（一）	在京潜電子
2	M44.2.21	4	区裁判所移転問題	
2	M44.2.21	4	商況	
2	M44.2.21	5	商業政策論	玄洞子
3	M44.3.1	1	社説／白上間鉄道布設の急務	
3	M44.3.1	1	文苑	写真（宮城紡電白石支店発電所）
3	M44.3.1	1	小説激流	真山青果
3	M44.3.1	2	今後の白石発展策／（下）遊覧地たらしめよ	東都実業界春山伝之助
3	M44.3.1	2	祝辞 在山形 菱沼武治	
3	M44.3.1	2	白上間鉄道／白石上山間横断鉄道速成に関する請願	
3	M44.3.1	2	伝記／少納言喜多子伝	写真（少納言喜多子の墓）
3	M44.3.1	3	農学士広瀬次郎氏談話の概要	
3	M44.3.1	3	雑報	
3	M44.3.1	3	愛郷漫言（二）	在京潜電子
3	M44.3.1	4	商況	
3	M44.3.1	4	社告	
3	M44.3.1	5	実業要義（抄）	玄洞子
4	M44.3.11	1	社説／製紙業に就て	
4	M44.3.11	1	寄書／白石実業新報に寄す	仙台源修／写真（県立白石中学校）
4	M44.3.11	1	文苑	
4	M44.3.11	1	小説激流	真山青果
4	M44.3.11	2	実業要義（抄）	玄洞子
4	M44.3.11	2	安齋篤敬翁の訃	
4	M44.3.11	2	篤敬翁の奇行／曰く博士は穢多也	
4	M44.3.11	2	伝記／少納言喜多子伝（続）	
4	M44.3.11	3	余の見たる実業大家	覆面郎
4	M44.3.11	3	雑報	
4	M44.3.11	3	海外新聞の発行高	
4	M44.3.11	4	在外同郷者消息／満州たより	
4	M44.3.11	4	国債現在額	
4	M44.3.11	4	商況	
4	M44.3.11	4	愛郷漫言（三）	在京潜電子
4	M44.3.11	5	農学士広瀬次郎氏談話の概要（続）	
5	M44.3.21	1	社説／実科女学校の設置に就て／岩本氏の快挙	
5	M44.3.21	1	文苑	写真（白石郵便電信電話局）
5	M44.3.21	1	小説激流	真山青果
5	M44.3.21	2	実業要義（抄）	玄洞子
5	M44.3.21	2	白上間鉄道布設請願衆議院委員会採択に決す	
5	M44.3.21	2	近く新設せらるべき実科高等女学校	
5	M44.3.21	2	雑録／刈田郷土志（二）	
5	M44.3.21	3	東都実業界より	ノン太郎

号数	発行日	頁	タイトル	備考
5	M44.3.21	3	雑報／白石町有財産統一／刈田蚕種同業組合成る／白石町春期清潔法検査日割	
5	M44.3.21	3	愛郷漫言（四）	在京潜電子
5	M44.3.21	4	本軍町村別附科学	
5	M44.3.21	4	外国米輸送見込	
5	M44.3.21	4	白石興産合資会社	
5	M44.3.21	4	商況	
5	M44.3.21	5	商工業の発達と農村の関係（第一号に続き）	菱生
5	M44.3.21	5	他山の石（1）	秋の人
6	M44.4.1	1	社説／白遠軽鐵問題如何	
6	M44.4.1	1	町民大會	写真（白石製糸機業株式會社）
6	M44.4.1	1	小説激流	真山青果
6	M44.4.1	2	経済的共通	青畝
6	M44.4.1	2	白上問鐵道速成の請願意見書／請願委員長 福井三郎	
6	M44.4.1	2	白石中学校卒業証書授与式	
6	M44.4.1	2	白石小学校証書授与式	写真（旌表されたる 飯沼しほ子）
6	M44.4.1	2	奥州畸人逸話	
6	M44.4.1	3	雑報 生糸事件解決す／白石町民会課税問題／白石町明治四十四年度歳入出稼算表／御下賜金の使途／和歌俳句募集／罹災民の北海移住期／小荷物手荷物特別配達本日より開始／白石町教育の概況／本年の就学児童内訳／教員の移動／白中入学試験／吏員の移動／本年の萬國會議	
6	M44.4.1	4	愛郷漫言（五）	在京潜電子
6	M44.4.1	4	勸業債権の発行 総額一千萬円	
6	M44.4.1	4	商況	
6	M44.4.1	4	實業の性格（一）	玄洞子
6	M44.4.1	4	補習科優等生 白石小学校補習科第一学年	
6	M44.4.1	5	他山の石（二）	秋の人
7	M44.4.11	1	農村の疲弊	
7	M44.4.11	1	文苑	写真（白石中学校卒業生と職員諸氏）
7	M44.4.11	1	小説激流	真山青果
7	M44.4.11	2	論壇／東北人は情民なりとの説（上）	春山傳之助
7	M44.4.11	2	社告	
7	M44.4.11	2	日英新通商条約発表	
7	M44.4.11	2	朝鮮移民計画	
7	M44.4.11	2	恩賜金と富豪／白石町移住者にして他村に有せる土地左の如し	
7	M44.4.11	2	奥州畸人逸話（二）	
7	M44.4.11	3	吾輩は百姓である	
7	M44.4.11	3	白石町トラホーム検診日割	
7	M44.4.11	3	松島村高城の大火	
7	M44.4.11	3	白石第一第二小学校分立の結果受持教員左の如く確定せり	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
7	M44.4.11	3	県立白中入学者	
7	M44.4.11	3	度量衡器検査日割廿二より	
7	M44.4.11	3	消防夫の賞興	
7	M44.4.11	3	白石驛状況	
7	M44.4.11	3	齋藤農学士の轉任	
7	M44.4.11	3	愛郷漫言(六)	在京潜電子
7	M44.4.11	3	批評と紹介／心の衛生	
7	M44.4.11	4	災害土木補助額	
7	M44.4.11	4	大券勸債の発行	
7	M44.4.11	4	商況	
7	M44.4.11	4	蚕	
7	M44.4.11	5	他山の石(三)	秋の人
7	M44.4.11	5	広告	
7	M44.4.11	5	東西南北	
8	M44.4.21	1	東宮殿下奉迎	
8	M44.4.21	1	吾人の信念	
8	M44.4.21	1	文苑	写真(静修学校卒業生と職員諸氏)
8	M44.4.21	1	小説激流	真山青果
8	M44.4.21	2	実業要義(二)	玄洞子
8	M44.4.21	2	原蚕種製造所	
8	M44.4.21	2	満鐵事務練習生募集	
8	M44.4.21	2	町税賦課標準調査	
8	M44.4.21	2	私立 裁縫静修学校卒業証書授与式	
8	M44.4.21	2	奥州奇人逸話(三)／鶯裁判の事	
8	M44.4.21	2	時事漫筆	
8	M44.4.21	3	蠶界漫語(一)	蠶桑子
8	M44.4.21	3	祭典の前景気	
8	M44.4.21	3	益岡公園にて催されたる観桜会／片倉公主催近來につき盛会	写真(片倉男爵發起観桜会)
8	M44.4.21	3	感ずべき少年	
8	M44.4.21	3	小原村招魂祭	
8	M44.4.21	3	瓦礫片々	
8	M44.4.21	4	雑報 白石驛四十三年度営業状況／連合共進会主催縣／三月の新 計画事業	
8	M44.4.21	4	商況	
8	M44.4.21	5	日進月歩	山田仙果
8	M44.4.21	5	東西南北	
8	M44.4.21	6	春興漫筆(一)	無號生
9	M44.5.1	1	祝祭典	
9	M44.5.1	1	文苑	写真(本日祭典の村社神明社)
9	M44.5.1	1	小説激流	真山青果
9	M44.5.1	2	実業要義(三)	玄洞子

号数	発行日	頁	タイトル	備考
9	M44.5.1	2	東宮殿下御帰啓	
9	M44.5.1	2	自動車仮装行列	
9	M44.5.1	2	県会議員招待会	
9	M44.5.1	2	東宮殿下下行啓記念植樹	
9	M44.5.1	2	刈田郡医師会の決議	
9	M44.5.1	2	畜牛結核検査日割	
9	M44.5.1	2	奥州奇人逸話（四）	
9	M44.5.1	3	蠶界漫語（二）	蠶桑子
9	M44.5.1	3	白石寿町郵便局開局と祝賀会	写真（白石寿町郵便局）
9	M44.5.1	3	キリンビール特約店披露会	
9	M44.5.1	3	愛郷漫言（七）	在京潜電子
9	M44.5.1	4	東京実業一斑（一）	紅白子
9	M44.5.1	4	列車運転時刻改正	
9	M44.5.1	5	家庭園芸（一）	山田仙果
9	M44.5.1	5	東西南北	
9	M44.5.1	6	蠶桑彙報	
9	M44.5.1	6	商況	
9	M44.5.1	8	春興漫筆（二）	無號生
10	M44.5.11	1	速に遊廓を設置せよ	
10	M44.5.11	1	奇書／孝子節婦旌表を有志に熱望す	無號生
10	M44.5.11	1	文苑	写真（本社前の於ける自転車仮装 會員）
10	M44.5.11	1	小説激流	真山青果
10	M44.5.11	2	論壇／東北人は情民なりとの説（下）	春山傳之助
10	M44.5.11	2	白石中学校開校式／同校生修学旅行	
10	M44.5.11	2	白石町消防春季演習	
10	M44.5.11	2	刈田郡教育会開会	
10	M44.5.11	2	七ヶ宿横川の火事	
10	M44.5.11	2	白石町トラホーム検診所	
10	M44.5.11	2	東北崎人逸話／鶉飼の華押	
10	M44.5.11	2	紀行一節／高蔵寺奮跡の事	
10	M44.5.11	3	東京実業一斑（二）	紅白子
10	M44.5.11	3	雑報 刈田郡に於ける徴兵検査／吾社主催自転車仮装會／白石駅 員の運動会	写真（出発点に於けるラージ選手）
10	M44.5.11	3	愛郷漫言（八）	在京潜電子
10	M44.5.11	4	蠶界漫語（三）	蠶桑子
10	M44.5.11	4	蠶桑彙報	
10	M44.5.11	4	商況	
10	M44.5.11	4	家庭園芸（二）	山田仙果
10	M44.5.11	5	商店單評（一）	緒言評々子
10	M44.5.11	5	呉服太物商 川村商店（川村庄助氏）／高橋商店（高橋萬左エ門氏）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
10	M44.5.11	5	東西南北	
10	M44.5.11	5	批評と紹介／早稲田講演	
10	M44.5.11	6	他山の石（三）	秋の人
11	M44.5.21	1	連合共進会と白石	
11	M44.5.21	1	国富と道德	源修
11	M44.5.21	1	白石中学新講堂に於ける主なる来賓諸氏	写真（齋藤来賓館撮影）
11	M44.5.21	1	激流	真山青果
11	M44.5.21	2	百説百語	青畝生
11	M44.5.21	2	教育会春季総会	
11	M44.5.21	2	東北畸人逸話／臨機肝を抜く／神灸医と自称す／至孝親を負う	
11	M44.5.21	2	不忘風	
11	M44.5.21	3	実業要義（四）	玄洞子
11	M44.5.21	3	雑報／県立白石中学校落成式 附祝賀宴会	
11	M44.5.21	3	愛郷漫言（八）	在京潜電子
11	M44.5.21	4	蠶界漫語（四）	蠶桑子
11	M44.5.21	4	蠶桑彙報	
11	M44.5.21	4	商況	
11	M44.5.21	4	家庭園芸（三）	仙果
11	M44.5.21	5	商店單評（二）	評々子
11	M44.5.21	5	東西南北	
12	M44.6.1	1	白石停車場改築に就て	
12	M44.6.1	1	上流者に望む	源修稿
12	M44.6.1	1	初夏の益岡公園	写真（齋藤来賓館撮影）
12	M44.6.1	1	小説激流	真山青果
12	M44.6.1	2	百説百語	青畝生
12	M44.6.1	2	紐育より	
12	M44.6.1	2	白石警察署長の更迭	
12	M44.6.1	2	平田内相の白石駅通過	
12	M44.6.1	2	本郡養蚕概況	
12	M44.6.1	2	本郡内春蚕取繭予想高	
12	M44.6.1	2	本郡麦作予想	
12	M44.6.1	2	本郡内麦作予想	
12	M44.6.1	2	海外珍談／妖怪樹	源修譚
12	M44.6.1	2	不忘風	
12	M44.6.1	3	東北産業論	紅白子
12	M44.6.1	3	白石町の識者に告ぐ	
12	M44.6.1	3	生絲窃盗犯人捕縛	
12	M44.6.1	3	愛郷漫言（十）	在京潜電子
12	M44.6.1	4	蠶界漫語（五）	蠶桑子
12	M44.6.1	4	蠶桑彙報	
12	M44.6.1	4	商況	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
12	M44.6.1	5	商店單評（三）	
12	M44.6.1	5	東西南北	
12	M44.6.1	6	白石町と産業	
12	M44.6.1	6	社告	
13	M44.6.10	1	我が東北と養蚕	
13	M44.6.10	1	蠶界漫語（六）	蠶桑子
13	M44.6.10	1	寺田知事の蚕業視察	
13	M44.6.10	1	扶桑館の蚕種業	
14	M44.6.11	1	商業家に一言す	写真（鈴木氏庭園に於ける慶事記念撮影）
14	M44.6.11	1	小説激流	真山青果
14	M44.6.11	2	東北産業論（二）	紅白子
14	M44.6.11	2	農業夏季講習会	
14	M44.6.11	2	生徒の別科作業	
14	M44.6.11	2	他校参観内規	
14	M44.6.11	2	叙任辞令	
14	M44.6.11	2	伊地知郡長の赴任	
14	M44.6.11	2	丹野潔の計	
14	M44.6.11	2	海外珍談／妖怪樹	源修譚
14	M44.6.11	2	不忘風	
14	M44.6.11	3	蠶界漫語（七）	蠶桑子
14	M44.6.11	3	春蠶彙報	
14	M44.6.11	3	白石の金融	
14	M44.6.11	3	商況	
14	M44.6.11	4	実業要義（五）	玄洞子
14	M44.6.11	4	雑報 郡長及署長の迎送会／素封鈴木氏の慶事／恵比寿ビールの園遊会	
14	M44.6.11	4	社告	
14	M44.6.11	4	白石駅状況	
14	M44.6.11	4	白石町に於ける接種痘	
14	M44.6.11	4	刈田郡長の披露会	
14	M44.6.11	4	丸吉呉服店の盛況	
14	M44.6.11	4	戸澤鑛山の争闘	
14	M44.6.11	4	愛郷漫言（十一）	在京潜電子
14	M44.6.11	5	芸窓漫語（一）	杉の坊
14	M44.6.11	5	朝鮮視察談（一）	
14	M44.6.11	5	東西南北	
15	M44.6.21	1	新任者を迎う	写真（小原新湯温泉場）
15	M44.6.21	1	桑葉輸送に就て	
15	M44.6.21	1	小説激流	真山青果
15	M44.6.21	2	眼目を打開せよ	源 修
15	M44.6.21	2	実業要義（六）	玄洞子

号数	発行日	頁	タイトル	備考
15	M44.6.21	2	白石上の山間鉄道線実地路査	
15	M44.6.21	2	社告	
15	M44.6.21	2	白石町会	
15	M44.6.21	2	模範的隔離病舎建築の計画	
15	M44.6.21	2	産牛の奨励	
15	M44.6.21	2	刈田郡明治四十四年度縣表税戸敷割賦課額	
15	M44.6.21	2	低利資金割當	
15	M44.6.21	2	福島 聯隊區簡閲點呼	
15	M44.6.21	2	刈田郡の於ける四十四年度種牡馬検査	
15	M44.6.21	2	蚕業講習生募集	
15	M44.6.21	2	電気工夫見習生募集	
15	M44.6.21	2	不忘風	
15	M44.6.21	3	百説百語	青畝生
15	M44.6.21	3	芸窓漫語(二)	杉の坊
15	M44.6.21	3	雑報 爆発物盗難/末恐ろしき悪少年/円田村の家事	
15	M44.6.21	3	愛郷漫言(十二)	在京潜電子
15	M44.6.21	4	山水紫明(一) 避暑案内 小原温泉新湯	無號子
15	M44.6.21	4	商況	
15	M44.6.21	5	商店單評(四)	評々子
15	M44.6.21	5	東西南北	
15	M44.6.21	5	批評と紹介	
15	M44.6.21	6	朝鮮視察談(二)	NK生
16	M44.7.1	1	富源開発に努めよ	写真(小原温泉古湯)
16	M44.7.1	1	人類談	蟹の子
16	M44.7.1	1	文苑	
16	M44.7.1	1	小説激流	真山青果
16	M44.7.1	2	東北産業論(三)	紅白子
16	M44.7.1	2	白石上の山線実地調査	
16	M44.7.1	2	蚕業経済比較	
16	M44.7.1	2	叙任辞令	
16	M44.7.1	2	夏季衛生に就て	
16	M44.7.1	2	白石所得税調査委員選挙人選挙	
16	M44.7.1	2	海外珍談/妖怪樹	源修譚
16	M44.7.1	2	不忘風	
16	M44.7.1	3	百説百語 労働	青畝生
16	M44.7.1	3	芸窓漫語(三)	杉の坊
16	M44.7.1	3	雑報 持凶器の賊/母検査用助手募集	
16	M44.7.1	3	愛郷漫言(十三)	在京潜電子
16	M44.7.1	4	山水紫明(二) 避暑案内 小原温泉古湯	無號子
16	M44.7.1	4	商況	
16	M44.7.1	5	商店單評(五)	評々子
16	M44.7.1	5	和洋酒類商/齋萬商店	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
16	M44.7.1	5	東西南北	
16	M44.7.1	5	国民教育青年講習録	
16	M44.7.1	6	朝鮮視察談（三）	NK生
17	M44.7.11	1	本県羽二重の前途	写真（避暑案内其三 鎌先温泉古湯）
17	M44.7.11	1	我が国民道徳は如件	
17	M44.7.11	1	文苑	
17	M44.7.11	1	脚本 鐘が鳴る	木工冠者
17	M44.7.11	2	東北産業論（四）	紅白子
17	M44.7.11	2	商人の信用	一修生
17	M44.7.11	2	叙任辞令	
17	M44.7.11	2	刈田郡に於ける四十三四年度残桑調	
17	M44.7.11	2	桑園改良費の分配	
17	M44.7.11	2	所得調査委員選挙	
17	M44.7.11	2	本年度の二高卒業生	
17	M44.7.11	2	田中署長の叙勲	
17	M44.7.11	2	白石駅営業状況	
17	M44.7.11	2	不忘風	
17	M44.7.11	3	百説百語 金利／大臣／早老	青畝生
17	M44.7.11	3	雑報 馬市開場さる／白石町消防組の基本財産／渡邊佐吉氏の美拳／白石町青年の精神修業／白石町役場の増築／白石町の昨今／妙見寺の祭典／帰省学生連の活動 松窓療院の歯科併置／七ヶ宿村通信／汽車賃金割引	
17	M44.7.11	4	愛郷漫言（十四）	在京潜電子
17	M44.7.11	4	山紫水明（三） 避暑案内 鎌先温泉	無號子
17	M44.7.11	4	商況	
17	M44.7.11	4	蠶界漫語（八）	蠶桑子
17	M44.7.11	5	商店單評（六）	評々子
17	M44.7.11	5	奇書	
17	M44.7.11	5	東西南北	
17	M44.7.11	5	朝鮮視察談（四）	NK生
18	M44.7.21	1	米価騰貴に就て	
18	M44.7.21	1	（四）避暑案内	写真（遠刈田温泉）
18	M44.7.21	1	人類談	蠶の子
18	M44.7.21	1	脚本 鐘が鳴る	木工冠者
18	M44.7.21	2	敵愾心を起せ	源修稿
18	M44.7.21	2	白上鐵道 期成同盟会成る	
18	M44.7.21	2	仙南共進会出品予定点数	
18	M44.7.21	2	本郡教育会に於ける夏期講習会	
18	M44.7.21	2	白石商銀株主總會	
18	M44.7.21	2	白石銀行株主總會	
18	M44.7.21	2	柴田刈田所得調査委員選挙	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
18	M44.7.21	2	県立白石中学校	
18	M44.7.21	2	米澤興讓高等小学校生徒の遠足運動	
18	M44.7.21	2	片倉男爵	
18	M44.7.21	2	名誉の三等軍医	
18	M44.7.21	2	白石町販売米の改良	
18	M44.7.21	2	武田朝吉氏の計	
18	M44.7.21	2	不忘風	
18	M44.7.21	2	商況	
18	M44.7.21	3	百説百語	青畝生
18	M44.7.21	3	芸窓漫語（四）	杉の坊
18	M44.7.21	3	遊戯園参観記	
18	M44.7.21	3	料理店同業組合総会	
18	M44.7.21	3	土用	
18	M44.7.21	3	越河諏方の市	
18	M44.7.21	3	白石の馬市	
18	M44.7.21	3	壽座の新時代劇	
18	M44.7.21	3	愛郷漫言（十五）	在京潜電子
18	M44.7.21	4	山紫水明（四） 避暑案内 遠刈田温泉	無號子
18	M44.7.21	4	白石商業銀行営業景況	
18	M44.7.21	4	白石銀行営業状況	
18	M44.7.21	5	商店單評（七）和洋酒類商／石川商店	評々子
18	M44.7.21	5	東西南北	
18	M44.7.21	5	株式会社白石銀行第九期決算広告	
18	M44.7.21	6	株式会社白石商業銀行第二九期決算広告	
19	M44.8.1	1	県郡会議員の選挙	
19	M44.8.1	1	（五）避暑案内	写真（青根温泉）
19	M44.8.1	1	文苑	
19	M44.8.1	1	脚本 鐘が鳴る	木工冠者
19	M44.8.1	2	世界の日本	第二高等学校教授 文学士 武藤 虎太君講演／杉沼修一筆記
19	M44.8.1	2	済生会寄附金	
19	M44.8.1	2	郡内に於る農作物景況	
19	M44.8.1	2	郡農事試験場の稲作試験	
19	M44.8.1	2	仙南四郡連合共進会の概況	
19	M44.8.1	2	郡内の水害	
19	M44.8.1	2	秋蚕概況	
19	M44.8.1	2	円田村の蕎麦共進会	
19	M44.8.1	2	郡教育会の常議員会	
19	M44.8.1	2	小学校教員の夏季講習会	
19	M44.8.1	2	蚕種生産額調（町村別）	
19	M44.8.1	2	白石卒業生と医専入学者	
19	M44.8.1	2	不忘風	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
19	M44.8.1	3	百説百語	青畝生
19	M44.8.1	3	遊戯園参観記(三)	写真(白石遊戯園児童の遊戯)
19	M44.8.1	3	白中水泳開会式	
19	M44.8.1	3	宮川氏送別会	
19	M44.8.1	3	赤痢患者の発生	
19	M44.8.1	3	三好愛吉氏の来白	
19	M44.8.1	3	津田停車場	
19	M44.8.1	3	本年の孟蘭盆	
19	M44.8.1	3	危ない處生命には別状なし	
19	M44.8.1	3	愛郷漫言(十六)	在京潜電子
19	M44.8.1	4	山紫水明(五) 避暑案内 青根温泉	無號子
19	M44.8.1	4	商況	
19	M44.8.1	4	蠶界漫語(九)	蠶桑子
19	M44.8.1	5	商店單評(八) 和洋酒類商/和泉商店/阿部商店/井泉堂商店	評々子
19	M44.8.1	5	疋田氏の欧米漫遊短信	
19	M44.8.1	5	東西南北	
19	M44.8.1	6	朝鮮視察談(五)	NK生
20	M44.8.11	1	精神の修養	写真(峨々温泉)
20	M44.8.11	1	人類談(三)	蟹の子
20	M44.8.11	1	文苑	
20	M44.8.11	1	脚本 鐘が鳴る	木工冠者
20	M44.8.11	2	世界の日本(続)	
20	M44.8.11	2	本社主催の弁論大会	
20	M44.8.11	2	県会議員候補者	
20	M44.8.11	2	県立白石中学校	
20	M44.8.11	2	不忘風	
20	M44.8.11	3	百説百語	青畝生
20	M44.8.11	3	弁論会雜観	写真(本社主催の弁論会記念撮影)
20	M44.8.11	3	第一回燠炭講習会	
20	M44.8.11	3	二葉会一行	
20	M44.8.11	3	佐藤製麵所	
20	M44.8.11	3	愛郷漫言(十七)	在京潜電子
20	M44.8.11	4	山紫水明(六) 避暑案内 峨々温泉	無號子
20	M44.8.11	4	海外通信/疋田氏の欧米漫遊短信	
20	M44.8.11	4	商況	
20	M44.8.11	5	商店單評(八) 和洋酒類商/日下商店	評々子
20	M44.8.11	5	東西南北	
20	M44.8.11	6	朝鮮視察談(六)	NK生
21	M44.8.21	1	期米立会停止	写真(白石大橋より陣場山を望む)
21	M44.8.21	1	文苑	
21	M44.8.21	1	脚本 鐘が鳴る	木工冠者

号数	発行日	頁	タイトル	備考
21	M44.8.21	2	世界の日本（続）	
21	M44.8.21	2	東宮殿下当駅御通貨	
21	M44.8.21	2	教育会春季講習会	
21	M44.8.21	2	大河原税務署管内四十三年度直接国税調定額調	
21	M44.8.21	2	県郡会議員選挙形勢	
21	M44.8.21	2	仙台より	
21	M44.8.21	2	不忘風	
21	M44.8.21	3	弁論大会に於ける杉谷氏の演説大要	
21	M44.8.21	3	白石郵便局の昨今	
21	M44.8.21	3	白中同窓会	
21	M44.8.21	3	秋蚕の状況	
21	M44.8.21	3	愛郷漫言（十八）	在京潜電子
21	M44.8.21	4	山紫水明（七）	無號子
21	M44.8.21	4	海外通信（続）／一月一信	在紐育 城山翁
21	M44.8.21	4	商況	
21	M44.8.21	4	蠶界漫語（十一）	蠶桑子
21	M44.8.21	5	寄書／電信電話創設の急（上）	宮郵便局長 乾茂平
21	M44.8.21	5	東西南北	
21	M44.8.21	6	朝鮮視察談（七）	NK生
22	M44.9.1	1	桂内閣を送る	写真（白石川上流蛇淵の鮎漁）
22	M44.9.1	1	内弁慶の外味噌	
22	M44.9.1	1	文苑	
22	M44.9.1	1	脚本 鐘が鳴る	木工冠者
22	M44.9.1	2	東北産業論（五）	紅白子
22	M44.9.1	2	本年 刈田郡稲作予想高	
22	M44.9.1	2	県郡会議員選挙形勢（続）	
22	M44.9.1	2	不忘風	
22	M44.9.1	3	雑報 消防手の受賞／白石町トラホーム検診日割／十文字大元氏 来白す／県立白中同窓会／刈田郡酒類販売組合／恐るべき は悪疫／福岡村助役の移動／疋田氏の帰朝／奇特な盲人	
22	M44.9.1	3	愛郷漫言（十九）	在京潜電子
22	M44.9.1	4	海外通信／清国於ける取引慣習（上）	
22	M44.9.1	4	新案電燈の好評	
22	M44.9.1	4	八月中の金融	
22	M44.9.1	4	ヴァイオリン／古物高価譲り受け度シ	
22	M44.9.1	5	商店單評（十）和洋酒類商／渡邊酒製造部	評々子
22	M44.9.1	5	東西南北	
22	M44.9.1	6	寄書／電信電話創設の急（下）	宮郵便局長 乾茂平
23	M44.9.11	1	西園寺内閣を迎ふ	写真（壽丸葡萄園）
23	M44.9.11	1	白石米商界の廊清	
23	M44.9.11	1	文苑	
23	M44.9.11	1	脚本 鐘が鳴る	木工冠者

号数	発行日	頁	タイトル	備考
23	M44.9.11	2	東北産業論（五）	紅白子
23	M44.9.11	2	本郡春蠶種掃立枚敷（続）	
23	M44.9.11	2	片倉影光君報逝去	
23	M44.9.11	2	県議選挙形勢に就き	
23	M44.9.11	2	郡議選挙形勢	
23	M44.9.11	2	不忘風	
23	M44.9.11	2	商況	
23	M44.9.11	3	芸窓漫筆（五）	杉の坊
23	M44.9.11	3	刈田郡参事会	
23	M44.9.11	3	県会議員選挙	
23	M44.9.11	3	代議士齋藤二郎氏来白	
23	M44.9.11	3	各国政費と公債	
23	M44.9.11	3	噫、片倉御舊主の葬儀	
23	M44.9.11	3	専売局の益金	
23	M44.9.11	3	稲田稗抜取日割	
23	M44.9.11	3	鈴木忠誠氏の歓迎会	
23	M44.9.11	3	白石町役場執務時間	
23	M44.9.11	3	赤痢患者続発	
23	M44.9.11	3	柴田郡県議選挙形勢	
23	M44.9.11	3	鉄道線路改築	
23	M44.9.11	3	仲秋の月は来月	
23	M44.9.11	4	海外通信／清国於ける取引慣習（下）	
23	M44.9.11	4	壽丸果樹園	
23	M44.9.11	4	蠶界漫語（十二）	蠶桑子
23	M44.9.11	5	商店單評（十一）和洋酒類商／阿部商店（阿部衆治氏）	評々子
23	M44.9.11	5	東西南北	
23	M44.9.11	6	御得意様各位の勧め（其の一）	
24	M44.9.21	1	再び縣郡議選挙に就て	
24	M44.9.21	1	片倉家歴代の墓（写真）	関谷写真用材料販売部撮影
24	M44.9.21	1	地方の特性を發揮せよ	源修
24	M44.9.21	1	文苑	杉浦音次郎（ほか）
24	M44.9.21	1	脚本 鐘が鳴る	木工冠者
24	M44.9.21	2	東北産業論（七）	紅白子
24	M44.9.21	2	本郡春蠶種掃立枚敷	
24	M44.9.21	2	故片倉の奮闘的生涯を憶ふ	
24	M44.9.21	2	縣議撰挙形勢	
24	M44.9.21	2	縣議撰挙人大会	
24	M44.9.21	2	郡議撰挙形勢	
24	M44.9.21	2	不忘風	
24	M44.9.21	3	寄書／選挙に就て	K S 生

号数	発行日	頁	タイトル	備考
24	M44.9.21	3	雑報／実科高等女学校設立認可と位置／白石駅長及助役の更迭／遠藤氏の慶事／田中技師の来白／白石町の不生産的費用（一日二十円余）／間が悪かった（四畳半）／社会の厄介者／宿泊料の値上げ（岡崎旅館）	
24	M44.9.21	3	愛郷漫言（二〇）	在京潜電子
24	M44.9.21	4	初番頭の三日（日記の中より）	うらぶれ生
24	M44.9.21	4	補欠生徒募集	
24	M44.9.21	4	噫、片倉御舊主の葬儀	
24	M44.9.21	4	敢て我白石町の識者に望む（上）	鈴木忠誠
24	M44.9.21	5	選挙民諸君に警告す	潜電・佐藤勇吉
24	M44.9.21	5	東西南北	
25	M44.10.1	1	県郡会議員選挙終了	
25	M44.10.1	1	和楽なる家庭（上）	源修一
25	M44.10.1	1	白石名所世良修蔵の墓（写真）	
25	M44.10.1	1	文苑	雙峯逸史（ほか）
25	M44.10.1	1	脚本 鐘が鳴る（終り）	木工冠者
25	M44.10.1	2	東北産業論（八）	紅白子
25	M44.10.1	2	県会議員当選者	
25	M44.10.1	2	岡崎佐藏翁の訃	帛辞・亙理晋
25	M44.10.1	2	故岡崎佐藏翁の柩（写真）	
25	M44.10.1	2	県議開票雑観	
25	M44.10.1	3	郡議選挙形勢	
25	M44.10.1	3	読過余沫	天竺浪人
25	M44.10.1	3	雑報／白石町諸車の検査／温麵製造同業者総会／白中近時／老婆の縊死／赤痢患者の死亡／一家十人の赤痢／選挙の余沫／蚕病予防事務所主事の帰任／鈴木清之輔氏の辞退／岡崎佐太郎氏の美挙／十二村銃砲店の新式銃砲売出し／西京角力の興行	
25	M44.10.1	3	愛郷漫言（二〇の二）	在京潜電子
25	M44.10.1	3	愛郷漫言（二一）	在京潜電子
25	M44.10.1	4	芸窓漫筆（六）	杉の坊
25	M44.10.1	4	家庭園芸（十一号の続き）（四）	仙果
25	M44.10.1	4	商況	生糸・正米（ほか）
25	M44.10.1	5	商店單評（十二）和洋酒類商／中川商店（中川藤助氏）	評々子
25	M44.10.1	5	愚人愚見（上）	旅の舎生
25	M44.10.1	5	東西南北	
25	M44.10.1	6	敢て我白石町の識者に望む（下）	鈴木忠誠
25	M44.10.1	附録	郡会議員当選者（刈田郡）	
26	M44.10.11	1	敢て当局者に望む	
26	M44.10.11	1	二代片倉小十郎室 真田幸村女之墓（当信寺）	
26	M44.10.11	1	和楽なる家庭（下）	源修一
26	M44.10.11	1	伐木の後『上』	省吾
26	M44.10.11	2	伊土戦争の成行（嫌和か戦争続行か）	
26	M44.10.11	2	年末迄に二億円（郵便貯金の増加）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
26	M44.10.11	2	軌道事務の統一（内務官々吏の鉄道院兼任理由）	
26	M44.10.11	2	鉄道管理局長召集	
26	M44.10.11	2	南極探検次回の上陸地（活動写真機を携へ行く）	
26	M44.10.11	2	白中至道講演会	
26	M44.10.11	2	郡会議員当選証書交附	
26	M44.10.11	2	白石中学校秋季運動会	
26	M44.10.11	2	臨時郡会召集	
26	M44.10.11	2	本郡米作概況	
26	M44.10.11	2	春蚕概況	
26	M44.10.11	2	麦作概況	
26	M44.10.11	3	芸窓漫筆（七）	杉の坊
26	M44.10.11	3	読過余沫（承前）	天竺浪人
26	M44.10.11	3	雑報／鈴木惣四郎氏邸における観月会／白石町消防組／第二回電話開通式／秋季祭典（神明社）／軍人招魂祭／至道会／大阪・京都合併大角力／赤痢の猖獗／蚕病予防吏員の角力総見／模範植林地（蔵本）／第二回酒商組合（清酒又々暴騰）	
26	M44.10.11	3	愛郷漫言（二二）	在京潜電子
26	M44.10.11	4	商店單評（十三）和洋酒類商／阿久津商店（阿久津長藏氏）	評々子
26	M44.10.11	5	家庭園芸（果樹の続き）	仙果
26	M44.10.11	5	愚人愚見（下）	旅の舎生
26	M44.10.11	5	新設会社調	
26	M44.10.11	5	商況	
27	M44.10.21	1	図書館設立の急務	
27	M44.10.21	1	第二回電話開通式記念撮影（写真）	
27	M44.10.21	1	陋習を打破せよ	
27	M44.10.21	1	文苑	佐久羅生
27	M44.10.21	1	伐木の後『下』	省吾
27	M44.10.21	2	東北人は重税を負荷す	源修
27	M44.10.21	2	白石商業組合店員奨励褒賞授与式	渡邊佐吉委員長
27	M44.10.21	2	刈田郡会（山田誠一氏議長選出）	
27	M44.10.21	2	トラホームに就て	
27	M44.10.21	2	白石町立実科高等女学校入学式	亙理晋
27	M44.10.21	2	東北学院生徒の来白	
27	M44.10.21	2	駐在巡査の異動	
27	M44.10.21	2	不忘虱	
27	M44.10.21	3	乃木大将の遺訓	
27	M44.10.21	3	仙南四郡通信事務研究会	
27	M44.10.21	3	白石第二小学校第一回保護者会	片倉男爵、水野町長
27	M44.10.21	3	刈田郡教育会	
27	M44.10.21	3	寿区の慰労会（赤痢病患者なし）	
27	M44.10.21	3	仙南信托株式会社（通常総会）	
27	M44.10.21	3	上西定三郎氏の訃（享年72歳）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
27	M44.10.21	3	基督教講演会（白石日本基督教会堂）	
27	M44.10.21	3	窃盗前科三犯の曲者	
27	M44.10.21	3	肉売り科料処分	
27	M44.10.21	3	馬牛沼の鯉漁り	
27	M44.10.21	3	東京穀物信託株式会社の営業開始	
27	M44.10.21	3	春山傳之助氏（当町出身、東京穀物信託株式会社支配人）	
27	M44.10.21	4	千紅萬緑（一八）（果樹栽培・続き）	仙果
27	M44.10.21	4	草履表見本の寄贈	
27	M44.10.21	4	郡農会主催 稲作立毛品評	
27	M44.10.21	4	刈田郡本年度入営壮丁（歩兵第二十九聯隊ほか）	
27	M44.10.21	4	公人私人	
27	M44.10.21	4	商況（正米・白米ほか）	
28	M44.11.1	1	須く東北振興の障害を除去せよ	
28	M44.11.1	1	文苑	
28	M44.11.1	1	白石町招魂祭式場（写真、博文堂寄贈）	
28	M44.11.1	1	小説 秋の寂（上）	金風子
28	M44.11.1	2	東北産業論（九）	紅白子
28	M44.11.1	2	愛嬌が必要なり	源修
28	M44.11.1	2	刈田郡教育秋季総会	
28	M44.11.1	2	果樹栽培の改良	
28	M44.11.1	2	本年入営の現役兵（刈田郡104名）	
28	M44.11.1	2	衆議院議員選挙人名簿縦覧	
28	M44.11.1	2	白石町米産額（明治43・44年比較）	
28	M44.11.1	2	白石産絲機業株式会社臨時總會（監査役・十二村辰五郎など3名）	
28	M44.11.1	2	東北鉄道運賃低減期成同盟会（仙台市公会堂）	上西運送店、丸山運送店ほか
28	M44.11.1	2	不忘風	
28	M44.11.1	3	芸窓漫筆（九）	杉の坊
28	M44.11.1	3	雑報：盗難類々	
28	M44.11.1	3	是又盗難騒ぎ	
28	M44.11.1	3	又々盗難騒ぎ	
28	M44.11.1	3	稲盗人	
28	M44.11.1	3	白石中学校の発火演習	
28	M44.11.1	3	白石小学校の発火演習	
28	M44.11.1	3	白石小学校生徒の荒浜見物	
28	M44.11.1	3	仙南四郡聯合共進会の準備	
28	M44.11.1	3	本県々会議員（佐藤仁右衛門氏寄贈）	
28	M44.11.1	3	白石駅停車場（改築工事）	
28	M44.11.1	3	家庭園芸（果樹の続き）	仙果
28	M44.11.1	3	愛郷漫言（二三）	在京潜電子
28	M44.11.1	4	佐藤貞蔵君を送る（白石実業新報記者）	鈴木忠誠
28	M44.11.1	4	蠶界漫語（十五）	蠶桑子

号数	発行日	頁	タイトル	備考
28	M44.11.1	4	港湾国庫補助	
28	M44.11.1	4	今日より使用の新葉書	
28	M44.11.1	4	生糸極めて軟弱	
28	M44.11.1	4	商況（生糸）	
28	M44.11.1	5	商店單評（十五）	評々子
28	M44.11.1	5	眼前捏理	旅の舎生
28	M44.11.1	5	東西南北	果然生
29	M44.11.11	1	清国の憲法政治	
29	M44.11.11	1	初代谷風之墓（写真、斎藤写真館撮影）	
29	M44.11.11	1	文苑	
29	M44.11.11	1	小説 秋の寂（中）	金風子
29	M44.11.11	2	東北産業論（一〇）	紅白子
29	M44.11.11	2	刈田郡教育会秋季総会	
29	M44.11.11	2	白石中学校の発火演習	
29	M44.11.11	2	福岡村招魂祭	村長・一條一平氏
29	M44.11.11	2	日本無双 力士谷風の伝（一）	菱所稿
29	M44.11.11	2	不忘嵐	
29	M44.11.11	3	芸窓漫筆（一〇）	杉の坊
29	M44.11.11	3	雑報：馬牛沼の魚捕り（斎川村）	
29	M44.11.11	3	大平村招魂祭	
29	M44.11.11	3	斎川村招魂祭	
29	M44.11.11	3	白石町荒しの曲者 捕縛さる	
29	M44.11.11	3	不思議な曲者	
29	M44.11.11	3	酒に命を取らる	
29	M44.11.11	3	滑稽 曲者騒ぎ	
29	M44.11.11	3	愛郷漫言（二四）	在京潜電子
29	M44.11.11	4	海外通信（ブロード、ウエー街の繁昌）	在紐育・城山翁
29	M44.11.11	4	家庭園芸（八）（果樹の続き）	仙果
29	M44.11.11	4	敢て大食を推奨す	
29	M44.11.11	4	岡政商店の新葉売出し（温麵原料の「糸錦」）	
29	M44.11.11	4	商況（生糸・正米ほか）	
29	M44.11.11	5	日本人の真価	日米子
29	M44.11.11	5	眼前捏理	旅の舎生
29	M44.11.11	5	東西南北	八面鋒子
29	M44.11.11	6	生産力を増進せよ	慶尚南道・飯沼富三郎
29	M44.11.11	6	社告（白石実業新報社新聞代・広告料領収につき）	
30	M44.11.21	1	仙台市と紡電	
30	M44.11.21	1	傑山寺山の紅葉（写真、斎藤写真館撮影）	
30	M44.11.21	1	文苑	
30	M44.11.21	1	小説 秋の寂（下）（完）	金風子
30	M44.11.21	2	農村改良に就て（一）	東京駒場農科大学・無號子
30	M44.11.21	2	蠶種講習會	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
30	M44.11.21	2	縣立原蠶種製造所設立請願	
30	M44.11.21	2	日本無双 力士谷風の伝『二』	菱所稿
30	M44.11.21	3	芸窓漫筆（一一）	杉の坊
30	M44.11.21	3	雑報：刈田郡教育会秋季総会	
30	M44.11.21	3	梅ヶ谷一行の興行（為故岡崎佐蔵翁追善）	常林寺住職・萩本知念
30	M44.11.21	3	又々稲束盗まる	
30	M44.11.21	3	野良息子のドロソ	
30	M44.11.21	3	福岡村の昼家事	
30	M44.11.21	3	白石町賦課税	
30	M44.11.21	3	白石圓和会的美拳（渡邊佐吉氏宅、臨時総会にて解散）	
30	M44.11.21	3	佐藤氏の留別会（本社記者佐藤貞蔵氏）	
30	M44.11.21	3	相場氏の博士論文提出（白石町寿町・相場忠三郎氏）	
30	M44.11.21	3	愛郷漫言（二五）	在京潜電子
30	M44.11.21	4	海外通信（ニューヨーク）	在紐育・城山翁
30	M44.11.21	4	日本人の真価（承前）	日米子
30	M44.11.21	4	家庭園芸（九）（果樹の続き）	仙果
30	M44.11.21	4	商況（生糸・紙類ほか）	
30	M44.11.21	5	商店單評餘録（一）	佐久羅生
30	M44.11.21	5	眼前捏理	旅の舎
31	M44.12.1	1	東北人の特短	
31	M44.12.1	1	故岡崎佐蔵翁の追善相撲（写真、斎藤写真館撮影）	
31	M44.12.1	1	募集（和歌・俳句・漢詩及び短文につき）	
31	M44.12.1	1	文苑	
31	M44.12.1	1	小説 秋の光	きんぼう
31	M44.12.1	2	農村改良に就て（二）	在駒場・無號子
31	M44.12.1	2	如是我聞	旅の舎生
31	M44.12.1	2	社告（白石実業新報購読申込につき）	
31	M44.12.1	2	日本無双 力士谷風の伝『三』	菱所稿
31	M44.12.1	3	芸窓漫筆（一二）	杉の坊
31	M44.12.1	3	雑報：白石中学校至道会	
31	M44.12.1	3	文明界	早川智寛先生
31	M44.12.1	3	愛郷漫言（二六）	在京・潜電子
31	M44.12.1	3	怠	菱生
31	M44.12.1	4	海外通信（空中飛行機と紐育）	在紐育・城山翁
31	M44.12.1	4	金儲の秘訣	日米子
31	M44.12.1	4	家庭園芸（十）（果樹の続き）	仙<ママ>
31	M44.12.1	4	商況（生糸（不況）・正米（保合）ほか）	
31	M44.12.1	5	商店單評餘録（二）	佐久羅生
31	M44.12.1	5	眼前捏理	旅の舎生
31	M44.12.1	5	東西南北	
31	M44.12.1	6	肉的なれ（一）	新妻莞爾
31	M44.12.1	6	社告（白石実業新報社新聞代・広告料領収につき）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
32	M44.12.11	1	真面目たれ	
32	M44.12.11	1	文苑	
32	M44.12.11	1	白石実科高等女学校 (写真、斎藤写真館撮影)	
32	M44.12.11	1	小説 スエトホーム (一)	金風子
32	M44.12.11	2	白石の諸君へ	仙台・別茶庵
32	M44.12.11	2	農村改良に就て (三)	在駒場・無號子
32	M44.12.11	2	日本無双 力士谷風の伝『四』	菱所稿
32	M44.12.11	2	予告 (一月元旦本紙につき)	
32	M44.12.11	2	不忘風	
32	M44.12.11	3	如是我聞	旅の舎生
32	M44.12.11	3	社告 (白石実業新報年始広告募集につき)	
32	M44.12.11	3	募集 (和歌・俳句・漢詩及び短文につき)	
32	M44.12.11	3	雑報：白石駅乗降人員調べ	
32	M44.12.11	3	危ない處	
32	M44.12.11	3	柳町のほや	
32	M44.12.11	3	愛郷漫言 (二七)	在京・潜電子
32	M44.12.11	4	鶴の港	巨理生
32	M44.12.11	4	日本人の真価 (承前)	日米子
32	M44.12.11	4	家庭園芸 (蔬菜)	仙果
32	M44.12.11	4	商況 (生糸 (昇進)・正米 (上収) ほか)	
32	M44.12.11	5	商店單評餘録 (三)	佐久羅生
32	M44.12.11	5	眼前捏理	旅の舎生
32	M44.12.11	5	東西南北	新妻莞爾
32	M44.12.11	6	肉のなれ (二)	
33	M44.12.21	1	四十四年を送る	
33	M44.12.21	1	宮城県蠶病豫防所白石出張所職員記念撮影 (写真)	
33	M44.12.21	1	刀と金	源修
33	M44.12.21	1	文苑	
33	M44.12.21	1	小説 スエトホーム (二) (完)	金風子
33	M44.12.21	2	農村改良に就て (四)	在駒場・無號子
33	M44.12.21	2	稲立毛堆肥品評会	一等賞・渡邊佐吉ほか10名
33	M44.12.21	2	豫告 (一月元旦本紙につき)	
33	M44.12.21	2	日本無双 力士谷風の伝『五』 (終)	菱所稿
33	M44.12.21	2	不忘風	
33	M44.12.21	3	如是我聞	旅の舎生
33	M44.12.21	3	雑報：福岡村小学校々舎落成	
33	M44.12.21	3	十八番時代生徒の同窓会	
33	M44.12.21	3	北白川停車場の開通	
33	M44.12.21	3	密航者の送還	
33	M44.12.21	3	干柿を盗まる	
33	M44.12.21	3	本町のボヤ	
33	M44.12.21	3	愛郷漫言 (二八)	在京・潜電子

号数	発行日	頁	タイトル	備考
33	M44.12.21	4	家庭園芸 (十二)	仙果
33	M44.12.21	4	牛肉に就て	日米子
33	M44.12.21	4	漫言 (一)	濱路
33	M44.12.21	4	商況 (生糸 (上向)・正米 (上向)ほか)	
33	M44.12.21	5	眼前捏理	旅の舎生
33	M44.12.21	5	商店單評餘録 (四)	佐久羅生
33	M44.12.21	5	東西南北	
34	M45.1.1	1	四十五年を迎ふ	
34	M45.1.1	1	松上の鶴 (写真、菅野雄松蔵氏所<ママ>、紺野雄松氏所蔵、斎藤写真館撮影)	35号<34号と表記>2面に正誤修正あり
34	M45.1.1	1	節制 (和歌)	
34	M45.1.1	2	元旦祝詞	社末・源修謹識
34	M45.1.1	2	壬子元旦 (漢詩・和歌)	松洲漁夫ほか作
34	M45.1.1	2	子ごと	仙台・別茶庵
34	M45.1.1	3	七福神の話	杉の坊
34	M45.1.1	3	松上鶴 (詩歌)	蘭若ほか作
34	M45.1.1	3	正月の事物	おさむ
34	M45.1.1	3	小説 若き日 (一)	緑鳥
34	M45.1.1	4	復讐美談 不忘山 (一)	菱所
34	M45.1.1	4	眼前捏理 (七)	旅の舎生
34	M45.1.1	4	愛郷漫言 (二九)	在京・潜電子
35	M45.1.11	1	年始廻りに就いて	
35	M45.1.11	1	白石中学校職員俸額式 (写真、斎藤写真館写)	
35	M45.1.11	1	正月の事物 (続)	おさむ
35	M45.1.11	1	文苑	藤廼舎主人ほか作
35	M45.1.11	1	小説 若き日 (一) 続	緑鳥
35	M45.1.11	2	新年史話 (上) 吉田松陰新年書状	2面には「第三十四号」とあるが「第35号」
35	M45.1.11	2	三餘漫筆 (一)	措大人
35	M45.1.11	2	明治四十四年度原種母蛾検査成績	
35	M45.1.11	2	白石中学校職員酌額式	
35	M45.1.11	2	日下吉蔵氏の訃	
35	M45.1.11	2	白石城攻落の始末 (一)	浩然堂人稿
35	M45.1.11	2	正誤	第34号1面の訂正
35	M45.1.11	3	七福神の話 (続)	杉の坊
35	M45.1.11	3	雑報：国妓姐さんの憂き事	
35	M45.1.11	3	麻生道戒師の入寂 (傑山寺住職)	
35	M45.1.11	3	齋藤代議士の来白 (齋藤二郎)	
35	M45.1.11	3	春山傳之助の帰省	
35	M45.1.11	3	藤根氏の法要 (藤根常吉東京医事新聞社長)	
35	M45.1.11	3	愛郷漫言 (三〇)	在京・潜電子
35	M45.1.11	3	米布 渡航者のために	モンゴリヤ号にて・エス生

号数	発行日	頁	タイトル	備考
35	M45.1.11	3	取消（第33号附録雑報欄の記事）	
35	M45.1.11	4	如我是聞（四）	旅の舎生
35	M45.1.11	4	米国視察談	日米子
35	M45.1.11	4	家庭園芸（十三）	仙果
35	M45.1.11	4	正誤（第34号10面広告）	
35	M45.1.11	4	商況（生糸・正米など）	
35	M45.1.11	5	鶴の港（承前）	松窓生
35	M45.1.11	5	眼前捏理（八）	旅の舎生
35	M45.1.11	5	商店單評餘録（四）	佐久羅生
35	M45.1.11	5	長寿法	仙果
35	M45.1.11	5	東西南北	
35	M45.1.11	6	復讐美談 不忘山（二）	菱所
35	M45.1.11	6	漫言（二）	濱路
36	M45.1.21	1	特産饅頭の前途に就き	
36	M45.1.21	1	白石町立第一小学校（写真、博文堂寄贈）	
36	M45.1.21	1	文苑	松の宇・作
36	M45.1.21	1	小説 若き日（二）続	緑鳥
36	M45.1.21	2	農村改良に就て（五）	在京駒場・無号子
36	M45.1.21	2	選挙人の大減少（衆議院議員・県会議員）	
36	M45.1.21	2	白石町諸税金の賦課額	
36	M45.1.21	2	白石城攻落の始末（二）	浩然堂人稿
36	M45.1.21	2	不忘風	
36	M45.1.21	3	新年史話（下）吉宗将軍の美人解放	
36	M45.1.21	3	雑報：汽車に轢かる	
36	M45.1.21	3	任免及辞令（尋常小学校訓導など）	
36	M45.1.21	3	柳町の小火	
36	M45.1.21	3	白石履物業者総会	
36	M45.1.21	3	白石銀行株主総会	
36	M45.1.21	3	海軍志願兵検査	
36	M45.1.21	3	通常郡会	
36	M45.1.21	3	郡参事会	
36	M45.1.21	3	小学校長会議	
36	M45.1.21	3	感謝状を贈る	
36	M45.1.21	3	小島左膳の訃（片倉家永代家老、北海道開拓）	
36	M45.1.21	3	鈴木家の慶事（鈴木富太郎氏令息菊治氏、内池三十郎氏令嬢と挙式）	
36	M45.1.21	3	校長会議（刈田郡各小学校長会議）	
36	M45.1.21	3	愛郷漫言（三一）	在京・潜電子
36	M45.1.21	4	七福神の話（続）	杉の坊
36	M45.1.21	4	日米視察談（二）	日米子
36	M45.1.21	4	家庭園芸（十四）	仙果
36	M45.1.21	4	商況（正米・生糸・国産紙布など）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
36	M45.1.21	5	帰省所感	東京米穀問屋市場に於て・春山傳之助
36	M45.1.21	5	藤根氏の法要（藤根常吉東京医事新聞社長）	
36	M45.1.21	5	鶴の港（承前）	松窓生
36	M45.1.21	5	米国渡航者のために（承前）	モンゴリヤ号にて・エス生
36	M45.1.21	5	如我是聞（五）	旅の舎生
36	M45.1.21	5	東西南北	
36	M45.1.21	6	復讐美談 不忘山（三）	菱所
37	M45.2.1	1	聯合共進会	
37	M45.2.1	1	白石発電所水門（写真、斎藤写真館撮影）	
37	M45.2.1	1	文苑	佐藤節叟ほか作
37	M45.2.1	1	小説 若き日（三）続	緑鳥
37	M45.2.1	2	農村改良に就て（六）	在京駒場・無号子
37	M45.2.1	2	地方改善者の事蹟調査（農村改良）	
37	M45.2.1	2	通常刈田郡会	
37	M45.2.1	2	白石商業銀行総会	
37	M45.2.1	2	白石町の賦課額	
37	M45.2.1	2	復讐美談 不忘山（四）	菱所
37	M45.2.1	3	三餘漫筆（二）	仙台・窮措大人
37	M45.2.1	3	雑報：博徒の捕縛	
37	M45.2.1	3	少年の放火	
37	M45.2.1	3	米検査出張所（北白川停車場附近）	
37	M45.2.1	3	私立東京農業大学 程度引上げ	
37	M45.2.1	3	本県師範学校女子部の来白	
37	M45.2.1	3	愛郷漫言（三二）	在京・潜電子
37	M45.2.1	3	竹敷より	大内健二
37	M45.2.1	4	北白川停車場の勢力範囲	乾孤山
37	M45.2.1	4	家庭園芸（十五）	仙果
37	M45.2.1	4	今年の金融状態	
37	M45.2.1	4	商況（正米・紙類・薪炭など）	
37	M45.2.1	4	正誤（36号新年史話の訂正）	
37	M45.2.1	5	鶴の港（承前）	松窓生
37	M45.2.1	5	批評と紹介	潜電
37	M45.2.1	5	東西南北	
38	M45.2.11	1	本紙一週年の辞	
38	M45.2.11	1	菅原白龍画伯 梅（写真、斎藤写真館撮影）	
38	M45.2.11	1	文苑	亙理盛ほか作
38	M45.2.11	1	小説 若き日（四）続	緑鳥
38	M45.2.11	2	農村改良に就て（七）	在京駒場・無号子
38	M45.2.11	2	紀元節御宴	
38	M45.2.11	2	今年の米作実収	
38	M45.2.11	2	本県の所得納税者	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
38	M45.2.11	2	神戸中佐の巡回講話	
38	M45.2.11	2	瓦斯事業に係る年諮問答申	
38	M45.2.11	2	剣士の来白	
38	M45.2.11	2	刈田郡会終了	
38	M45.2.11	2	鉄道急設を欲する意見書（刈田郡会、上山駅～福島県中村駅敷設）	
38	M45.2.11	2	鎌先火災予防組合	一條一平組合長
38	M45.2.11	2	不忘風	
38	M45.2.11	3	三餘漫筆 続（三）	仙台・窮措大人
38	M45.2.11	3	白石興産合資会社創立満廿五年報告式	
38	M45.2.11	3	酒の値上げ	
38	M45.2.11	3	大鷹沢青年夜学会	
38	M45.2.11	3	恩を忘れぬ待乳山（大鷹沢出身・大相撲年寄待乳山、元横綱大砲）	
38	M45.2.11	3	材木泥棒	
38	M45.2.11	3	放蕩息子	
38	M45.2.11	3	浮気娘又も懐胎す	
38	M45.2.11	3	愛郷漫言（三三）	在京・潜電子
38	M45.2.11	4	日米視察談（三）	日米子
38	M45.2.11	4	家庭園芸（一六）	仙果
38	M45.2.11	4	共進会彙報（仙南・特産など）	
38	M45.2.11	4	商況（正米・紙類・温麺など）	
38	M45.2.11	5	白石実業新報創立一週を祝す	郡会議長・山田誠一
38	M45.2.11	5	感郷断片	在京・藤根幸八
38	M45.2.11	5	地価特別修正期成会成る	
38	M45.2.11	5	東京医事新聞社長（藤根常吉氏、本社へビール一函寄贈）	旅の舎生
38	M45.2.11	5	正誤（37号社説の訂正）	
38	M45.2.11	5	東西南北	
38	M45.2.11	6	北白川停車場の勢力範囲（承前）	乾孤山
38	M45.2.11	7	復讐美談 不忘山（五）	菱所
39	M45.2.21	1	精神教育に就て	
39	M45.2.21	1	本郡宮村鎮座刈田嶺神社 三月二日祭礼（写真、斎藤写真館撮影）	
39	M45.2.21	1	文苑	亘理盛ほか作
39	M45.2.21	1	小説 若き日（四）続	緑鳥、（四）＝ママ＜前号は「四」のため「五」カ＞
39	M45.2.21	2	農村改良に就て（八）	在京駒場・無号子
39	M45.2.21	2	白上鉄道建設の建議案	
39	M45.2.21	2	刈田郡農会農事試験場成績	
39	M45.2.21	2	鈴木・村上両氏の上京（白上間鉄道建設の請願書提出）	
39	M45.2.21	2	白石興産株式会社創立二十五年祝筵に列りて得たる所感	伊藤老生
39	M45.2.21	3	三餘漫筆 続（四）	仙台・窮措大人
39	M45.2.21	3	雑報：白石鉄道請願運動	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
39	M45.2.21	3	代表者の上京（白上間鉄道建設の請願書提出）	
39	M45.2.21	3	白遠軽鉄問題	渡邊佐吉委員長ほか委員6名
39	M45.2.21	3	白石町々会	
39	M45.2.21	3	白石中学校の兔狩り	
39	M45.2.21	3	遠刈田火災予防組合	大宮伝蔵組長
39	M45.2.21	3	福岡村ハツ宮 射的場落成	
39	M45.2.21	3	警官の賞与	
39	M45.2.21	3	旧悪露見	
39	M45.2.21	3	沢端川に老婆の死体	
39	M45.2.21	3	愛郷漫言（三四）	在京・潜電子
39	M45.2.21	4	国家と宗教	日米子
39	M45.2.21	4	千紅萬緑（一）	仙果
39	M45.2.21	4	共進会彙報（会場の変更など）	
39	M45.2.21	4	商況（正米・紙類など）	
39	M45.2.21	5	感郷断片（続）	在京・藤根幸八
39	M45.2.21	5	東西南北	
39	M45.2.21	6	復讐美談 不忘山（六）	菱所
40	M45.3.1	1	総選挙は近づけり	
40	M45.3.1	1	名勝白石川上流 材木岩（写真、斎藤写真館撮影）	
40	M45.3.1	1	文苑	鈴木菊郎ほか作
40	M45.3.1	1	小説 若き日（六）続	緑鳥
40	M45.3.1	2	白石興産株式会社創立満二十五年祝筵に列りて得たる所感（承前）	伊藤老生
40	M45.3.1	2	叙任辞令（教員・訓導）	
40	M45.3.1	2	四十四年十二月分・町村税並水利組合費整理成績	
40	M45.3.1	2	刈田郡農会農事試験場成績（続）	
40	M45.3.1	2	東北六県地価特別修正期成会趣意書（承前）	
40	M45.3.1	2	俳句	五城会
40	M45.3.1	2	不忘風	
40	M45.3.1	3	三餘漫筆（五）	仙台・窮措大人
40	M45.3.1	3	雑報：全国製紙共進会	
40	M45.3.1	3	沿線家屋改葺補助要領	
40	M45.3.1	3	窮民保護	
40	M45.3.1	3	唧筒備へ付（福岡村）	
40	M45.3.1	3	科料に処さる	
40	M45.3.1	3	天水桶の奨励	
40	M45.3.1	3	飯淵刑事捕縛さる（元白石警察署刑事巡査）	
40	M45.3.1	3	越河村青年団 一心会総会	
40	M45.3.1	3	愛郷漫言（三五）	在京・潜電子
40	M45.3.1	4	去国三千里（一）日記の中より	於ホ府・佐藤生
40	M45.3.1	4	日米視察談（四）	日米子
40	M45.3.1	4	千紅萬緑（二）	仙果

号数	発行日	頁	タイトル	備考
40	M45.3.1	4	商況（肥料・正米など）	
40	M45.3.1	5	贗禪哲学	茶毘廻舎
40	M45.3.1	5	共進会彙報（各消防組・案内誌など）	
40	M45.3.1	5	東西南北	
40	M45.3.1	5	正誤（39号伊藤老生氏記事の訂正）	
40	M45.3.1	6	復讐美談 不忘山（七）	菱所
41	M45.3.11	1	米価の前途如何	
41	M45.3.11	1	紐育ブロードウエー（写真、在紐育・城山翁寄贈）	
41	M45.3.11	1	文苑	佐藤滄浪ほか作
41	M45.3.11	1	小説 若き日（七）（完）	緑鳥
41	M45.3.11	2	石油引火点問題	衆議院議員・齋藤二郎
41	M45.3.11	2	鉄道建設議案委員会可決	
41	M45.3.11	2	白石中学校至道会	
41	M45.3.11	2	県立白石中学校生徒募集	
41	M45.3.11	2	刈田郡海軍志願兵	
41	M45.3.11	2	郡立柴田農学校（生徒募集）	
41	M45.3.11	2	柴田郡海軍志願兵検査	
41	M45.3.11	2	主任郡書記協議会	
41	M45.3.11	2	刈田郡農会農事試験場成績（続）	
41	M45.3.11	2	不忘風	
41	M45.3.11	3	三餘漫筆（六）佐倉義民の事	仙台・窮措大人
41	M45.3.11	3	雑報：白石町四十五年度予算	
41	M45.3.11	3	仙台 輪友会の一泊運動（自転車）	
41	M45.3.11	3	在郷軍人団の福岡村射撃場	
41	M45.3.11	3	青年親睦会（白石小学校）	
41	M45.3.11	3	鐸木三郎兵衛氏起（白石市出身、福島市政友会公認候補者）	
41	M45.3.11	3	十文字大元氏（総選挙候補者）	
41	M45.3.11	3	白石町立実科高等女学校生徒募集	
41	M45.3.11	3	刈田嶺神社の祭典	
41	M45.3.11	3	菅野家の慶事（菅野圓蔵氏長男圓吉氏挙式）	
41	M45.3.11	3	淫売の拘留	
41	M45.3.11	3	共進会彙報（協賛会評議員・柴田郡の準備模様など）	
41	M45.3.11	4	去国三千里（二）日記の中より	於ホ府・佐藤生
41	M45.3.11	4	日米視察談（五）	日米子
41	M45.3.11	4	千紅萬緑（三）	仙果
41	M45.3.11	4	商況（新糸以来の生糸輸出高など）	
41	M45.3.11	5	蕉窓瓦礫（一）太平洋上の樂園	於ホ府・扇嶽
41	M45.3.11	5	在紐育社友城山翁書簡の一節	
41	M45.3.11	5	東西南北	
41	M45.3.11	6	復讐美談 不忘山（八）	菱所
42	M45.3.21	1	米価騰貴と養蚕	
42	M45.3.21	1	白石町公園造営の実況（写真、斎藤写真館撮影）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
42	M45.3.21	1	文苑	梨軒散人ほか作
42	M45.3.21	1	小説 離愁（一）	こすぎ
42	M45.3.21	2	両院議員御慰勞	
42	M45.3.21	2	本県の耕地整理	
42	M45.3.21	2	白石中学校卒業式	
42	M45.3.21	2	齋藤二郎氏の再起（総選挙立候補）	
42	M45.3.21	2	全国煙火競技会規定	
42	M45.3.21	2	蚕病理一斑	蚕狂生
42	M45.3.21	2	刈田郡農会農事試験場成績	
42	M45.3.21	2	不忘風	
42	M45.3.21	3	三餘漫筆（七）佐倉義民の事	仙台・窮措大人
42	M45.3.21	3	雑報：竹駒神社初午祭	
42	M45.3.21	3	仙台輪友会団体	
42	M45.3.21	3	白石囲碁会	
42	M45.3.21	3	四年前の放火犯	
42	M45.3.21	3	白石町消防組と初午	
42	M45.3.21	3	筆のまにまに 四季島の道	源修
42	M45.3.21	3	愛郷漫言（三六）	在京・潜電子
42	M45.3.21	4	米国視察談（六）	日米子
42	M45.3.21	4	千紅萬緑（四）	仙果
42	M45.3.21	4	共進会彙報（汽車賃の割引・公園増築など）	
42	M45.3.21	4	昨年下半年 県下銀行預金の概況	
42	M45.3.21	4	新米以来入京高（渋沢商店の調査）	
42	M45.3.21	4	批評と紹介（ギリシヤの勃興・実業の日本）	
42	M45.3.21	4	商況（肥料・紙類など）	
42	M45.3.21	5	刈田郷土志（三）	
42	M45.3.21	5	蕉窓瓦礫（三）過半は呼寄婦人	於ホ府・扇嶽
42	M45.3.21	5	東西南北	
42	M45.3.21	6	復讐美談 不忘山（終）	菱所
43	M45.4.1	1	選挙法改正案の不成立	
43	M45.4.1	1	白石町市街（写真、博文堂寄贈）	
43	M45.4.1	1	文苑	かへでほか作
43	M45.4.1	1	小説 離愁（二）	
43	M45.4.1	2	共進会に就て	向田協賛会長の談
43	M45.4.1	2	白石中学校卒業式	
43	M45.4.1	2	白石第一小学校卒業証書授与式	
43	M45.4.1	2	白石第二小学校卒業証書授与式	
43	M45.4.1	2	本県の逐鹿界	蚕狂生
43	M45.4.1	2	齋藤二郎氏の帰県	
43	M45.4.1	2	刈田郡農会農事試験場成績	
43	M45.4.1	3	三餘漫筆（七）木内宗五郎訴状の続	仙台・窮措大人
43	M45.4.1	3	雑報：白石実科高等女学校修業式	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
43	M45.4.1	3	当町当信寺維持基金組合総会	
43	M45.4.1	3	白石町春期 清潔法	
43	M45.4.1	3	帝国在郷軍人会福岡村分会射撃会	
43	M45.4.1	3	小学生徒の文芸会	
43	M45.4.1	3	食逃げ	
43	M45.4.1	3	愛郷漫言（三八）	在京・潜電子、前号は「三六」
43	M45.4.1	3	報徳小話	ひしの舎の翁
43	M45.4.1	4	社会の強敵	日米子
43	M45.4.1	4	清酒の値上げ	
43	M45.4.1	4	米価と米の需給	
43	M45.4.1	4	商況（正米・紙類など）	
43	M45.4.1	5	千紅萬緑（五）	仙果
43	M45.4.1	5	共進会彙報（仮装行列・案内誌など）	
43	M45.4.1	5	東西南北	
43	M45.4.1	6	実説白石敵討（上）	菱所寄稿
44	M45.4.11	1	本県政界の昨今	
44	M45.4.11	1	白石中学校卒業生（写真、斎藤写真館 影）	
44	M45.4.11	1	文苑	喜久雄、英山人・作
44	M45.4.11	1	小説 離愁（三）	こすぎ
44	M45.4.11	2	東北と蚕業	某有力家談
44	M45.4.11	2	農銀増資制限	
44	M45.4.11	2	板垣伯と社会政策雑誌	
44	M45.4.11	2	大蔵証券借替	
44	M45.4.11	2	専売純益超過	
44	M45.4.11	2	産業組合中央会宮城支部総会（白石町に於て）	
44	M45.4.11	2	刈田郡農会農事試験場成績	
44	M45.4.11	2	不忘嵐	
44	M45.4.11	3	三餘漫筆（八）総選挙に就て	仙台・窮措大人
44	M45.4.11	3	日本石油の成功	
44	M45.4.11	3	雑報：仙台輪友会一泊運動の状況	
44	M45.4.11	3	白石実科高等女学校教員赴任	
44	M45.4.11	3	掻浚ひ	
44	M45.4.11	3	風穴で失火	
44	M45.4.11	3	不埒女	
44	M45.4.11	3	愛郷漫言（三八）	在京・潜電子、前号も「三八」
44	M45.4.11	3	正誤（前号の愛郷漫言（三八）は（三七）の誤り）	ひしの舎の翁
44	M45.4.11	4	千紅萬緑（六）	仙果
44	M45.4.11	4	批評と紹介（訳文大日本史など）	
44	M45.4.11	4	商況（正米・国産紙布など）	
44	M45.4.11	5	共進会彙報（聯合四郡・各店舗など）	
44	M45.4.11	5	蚕病理一斑（承前）	越河・蚕狂生
44	M45.4.11	5	東西南北	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
44	M45.4.11	6	実説白石敵討（下）	菱所寄稿
45	M45.4.26	1	祝共進会	
45	M45.4.26	1	工作中的歓迎門（写真、山田写真部撮影）	
45	M45.4.26	1	文苑	双峯逸史ほか作
45	M45.4.26	1	小説 離愁（四）	こすぎ
45	M45.4.26	2	共進会に就て	兔子
45	M45.4.26	2	共進会	
45	M45.4.26	2	全国煙火大競技会	
45	M45.4.26	2	白石小林区署庁舎竣工式挙行	
45	M45.4.26	2	宮城県繭糸同業組合刈田郡支部総会	
45	M45.4.26	2	選挙彙報	
45	M45.4.26	2	刈田郡聯合消防演習	
45	M45.4.26	3	三餘漫筆（九）総選挙に就て（下）	仙台・窮措大人
45	M45.4.26	3	雑報：料理業者の紛紜	
45	M45.4.26	3	愛郷漫言（三九）	在京・潜電子
45	M45.4.26	4	千紅萬緑（七）	仙果
45	M45.4.26	4	商況（正米・砂糖など）	
45	M45.4.26	5	婦人と口腔衛生	カーペンター
45	M45.4.26	5	東西南北	
45	M45.4.26	6	苅田の矢叫（一）	千体散史
46	M45.5.6	1	仙南四郡聯合共進会閉会	
46	M45.5.6	1	地方の繁栄に就て	
46	M45.5.6	1	仙南四郡聯合共進会々場（写真、山田写真部撮影）	
46	M45.5.6	1	文苑	双峯学人ほか作
46	M45.5.6	1	小説 離愁（五）	こすぎ
46	M45.5.6	2	産業組合中央会宮城支部総会（白石中学校講堂）	
46	M45.5.6	2	平田会長の演説大要（産業組合中央会、会頭平田子爵）	
46	M45.5.6	2	平田子爵招待会（料理店玉幸）	
46	M45.5.6	2	仙南四郡聯合共進会閉会	
46	M45.5.6	2	四郡聯合共進会褒賞授与式	
46	M45.5.6	2	聯合共進会受賞者	
46	M45.5.6	3	雑報：刈田郡聯合青年団総会	
46	M45.5.6	3	一町八ヶ村の聯合消防演習（総員591名）	
46	M45.5.6	3	会場内売店（写真、山田写真撮影）	
46	M45.5.6	3	愛国婦人会（刈田郡幹事部第一回会員総会）	
46	M45.5.6	3	四郡聯合町村長会（刈田郡役所）	
46	M45.5.6	3	教育品展覧会褒賞授与式（第二小学校）	
46	M45.5.6	3	授与式後の慰労会（玉幸亭）	
46	M45.5.6	3	知事以下の帰仙（寺田知事夫妻ほか）	
46	M45.5.6	3	煙火共進会	
46	M45.5.6	3	町内雜観（共進会場、神明社の祭典）	
46	M45.5.6	3	白石町消防組頭 其他の受賞	組頭・鈴木惣四郎ほか43名

号数	発行日	頁	タイトル	備考
46	M45.5.6	4	仙南四郡の物産（米・麦・大豆など）	
46	M45.5.6	5	撰挙人諸君の覚悟（衆議院議員総選挙）	佐藤勇吉
46	M45.5.6	5	東西南北	
46	M45.5.6	6	苜田の矢叫（二）	千体散史
47	M45.5.11	1	総選挙迫る	
47	M45.5.11	1	共進会中の白石停車場光景（写真、博文堂寄贈）	
47	M45.5.11	1	小説 離愁（六）	こすぎ
47	M45.5.11	2	選挙場裡に於ける齋藤二郎君	
47	M45.5.11	2	仙南四郡の物産（木工品・紙類など）	
47	M45.5.11	2	齋藤二郎氏（衆議院議員選挙候補者）	
47	M45.5.11	3	三餘漫筆（十）美しき生活（上）	仙台・窮措大人
47	M45.5.11	3	頑人愚痴理	徴の舎生
47	M45.5.11	3	逐鹿場裡	
47	M45.5.11	3	雑報：大木伯の来白	
47	M45.5.11	3	政談大演説会（齋藤二郎氏応援）	
47	M45.5.11	3	全国料理業者大会（宇都宮）	
47	M45.5.11	3	前科九犯の曲者捕縛	
47	M45.5.11	3	博文堂書肆の発展	
47	M45.5.11	3	白石中学生の遠足運動	
47	M45.5.11	3	愛郷漫言（四〇）	在京・電潜子
47	M45.5.11	4	千紅萬緑（八）家庭叢談	仙果
47	M45.5.11	4	婦人と口腔衛生（二）	カーペンター
47	M45.5.11	4	我社及輪友会主催自転車大会	
47	M45.5.11	4	批評と紹介（地球第一巻第一号、精力主義）	
47	M45.5.11	4	商況（正米・肥料など）	
47	M45.5.11	5	寄書：特産温麺ノ審査法ニ就テ	川村豊吉
47	M45.5.11	5	蚕桑彙報	
47	M45.5.11	5	東西南北	
47	M45.5.11	6	苜田の矢叫（三）	千体散史
48	M45.5.21	1	総選挙終る	
48	M45.5.21	1	刈田郡聯合消防総会消火演習の光景（写真、博文堂寄贈）	
48	M45.5.21	1	小説 微笑（一）	比露枝
48	M45.5.21	2	刷新の一端か	咬石
48	M45.5.21	2	馬疫調査の成績（馬政調査委員談）	
48	M45.5.21	2	勸債小券売出決定	
48	M45.5.21	2	刈田郡農会農事試験成績（承前）	
48	M45.5.21	2	叙任辞令（小学校訓導）	
48	M45.5.21	2	日居月誌	
48	M45.5.21	3	櫻	菱翁
48	M45.5.21	3	三餘漫筆（十一）美しき生活（下）	仙台・窮措大人
48	M45.5.21	3	雑報：白瀬中尉着京	
48	M45.5.21	3	私立裁縫静修学校卒業証書授与式	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
48	M45.5.21	3	高等女学校生徒の修学旅行（飯坂温泉）	
48	M45.5.21	3	落雷（県立白石中学校の杉林）	
48	M45.5.21	3	白石実科高等女学校の祝賀会	
48	M45.5.21	3	惜むべき少年の死亡	
48	M45.5.21	3	愛郷漫言（四一）	在京・電潜子
48	M45.5.21	4	千紅萬緑（九）家庭叢談	仙果
48	M45.5.21	4	紐育たより（承前）	城山翁
48	M45.5.21	4	婦人と口腔衛生（三）	カーバンター
48	M45.5.21	4	商況（正米・紙類など）	
48	M45.5.21	5	蚕桑彙報	
48	M45.5.21	5	蚕糸業法（承前）	
48	M45.5.21	5	東西南北	
48	M45.5.21	5	白石歌壇	鈴木菊郎
48	M45.5.21	5	豪商鈴木藤左衛門氏逝く	
48	M45.5.21	6	荊田の矢叫（四）	千体散史
49	M45.6.1	1	本領に帰れ	
49	M45.6.1	1	日本赤十字社刈田郡委員部総会（写真、博文堂寄贈）	
49	M45.6.1	1	文苑	美哉園主ほか作
49	M45.6.1	1	小説 微笑（二）	比露枝
49	M45.6.1	2	霜害と救済	
49	M45.6.1	2	至道会（白石中学校）	
49	M45.6.1	2	白石町戸数割賦課	
49	M45.6.1	2	郡会議員補欠選挙（日下與惣治当選）	
49	M45.6.1	2	白石製絲機業株式会社総会	
49	M45.6.1	2	日居月詣	
49	M45.6.1	3	三餘漫筆（十二）捕鯨の壮観（一）	仙台・窮措大人
49	M45.6.1	3	雑報：岩手県下の霜害	
49	M45.6.1	3	青森県の霜害	
49	M45.6.1	3	福島県下の大結霜（福島廿五日特報）	
49	M45.6.1	3	女房を盗まれて訴へらる	
49	M45.6.1	3	淫売上げらる	
49	M45.6.1	3	放火犯検挙の賞与（白石警察署）	
49	M45.6.1	3	畜牛検査	
49	M45.6.1	3	愛郷漫言（四二）	在京・電潜子
49	M45.6.1	3	都々一	
49	M45.6.1	4	冬期間農家の副業	
49	M45.6.1	4	千紅萬緑（十）家庭叢談	仙果
49	M45.6.1	4	婦人と口腔衛生（四）	カーバンター
49	M45.6.1	4	商況（正米・紙類など）	
49	M45.6.1	5	選挙余談	
49	M45.6.1	5	東西南北	
49	M45.6.1	6	荊田の矢叫（五）	千体散史

号数	発行日	頁	タイトル	備考
50	M45.6.21	1	大に夏秋蚕を養ふべし	
50	M45.6.21	1	初夏の馬牛沼(写真)	
50	M45.6.21	1	文苑	双峯樵者ほか作
50	M45.6.21	1	小説 微笑(三)	比露枝
50	M45.6.21	2	本郡壮丁検査の成績に就て	
50	M45.6.21	2	仁田原師団長の来白(第二師団)	
50	M45.6.21	2	刈田郡壮丁検査の情况	
50	M45.6.21	2	訪問搭記	
50	M45.6.21	2	明治四十五年度県税戸数賦課額表	
50	M45.6.21	2	日居月詣	
50	M45.6.21	3	三餘漫筆(十三) 捕鯨の壮観(二)	仙台・窮措大人
50	M45.6.21	3	壮丁者紀念起催	
50	M45.6.21	3	前科者捕はる	
50	M45.6.21	3	控訴棄却さる(窃盗犯)	
50	M45.6.21	3	愛郷漫言(四三)	在京・潜電子
50	M45.6.21	3	奇縁	
50	M45.6.21	3	商況(正米・繭など)	
50	M45.6.21	5	寄書:米価暴騰の真因は何ぞ	飯沼吉右エ門
50	M45.6.21	5	あくがれ人へ—東京より—	こすぎ
50	M45.6.21	5	東西南北	
51	M45.7.1	1	未曾有の米価騰貴	
51	M45.7.1	1	阿保原地蔵堂(写真、大鷹沢村)	
51	M45.7.1	1	文苑	双峯迂夫ほか作
51	M45.7.1	1	小説 微笑(四)	比露枝
51	M45.7.1	2	片倉男爵家祖先銅像除幕式併同家守護神愛宕山尊像遷座式	旧臣・飯田愨
51	M45.7.1	2	蚕業奨励方針	
51	M45.7.1	2	時宗管長の来白(藤澤遊行寺管長)	
51	M45.7.1	2	桂公俊藤男(欧洲漫遊)	
51	M45.7.1	2	鎌先郵便局の新設	
51	M45.7.1	2	鉄道院の賞与	
51	M45.7.1	2	屑物改善の奨励	
51	M45.7.1	2	学生の風紀取締	
51	M45.7.1	2	香料の新発明	
51	M45.7.1	2	日居月詣	
51	M45.7.1	3	三餘漫筆(十四) 捕鯨の壮観(三)	仙台・窮措大人
51	M45.7.1	3	赤痢患者	
51	M45.7.1	3	衛生隊の召集	
51	M45.7.1	3	白石第二小学校長(仙台へ出張中)	
51	M45.7.1	3	白石製絲機業株式会社の小火	
51	M45.7.1	3	鈴木家の不幸(鈴木清之輔氏令息夫人逝去)	
51	M45.7.1	3	日下仁右衛門氏の訃(享年七十才)	
51	M45.7.1	3	愛郷漫言(四四)	在京・潜電子

号数	発行日	頁	タイトル	備考
51	M45.7.1	3	俳句	天真
51	M45.7.1	4	失ひて得たるもの	旅鳥
51	M45.7.1	4	批評と紹介（産業組合員座右銘・雄飛廿五年）	
51	M45.7.1	4	商況（正米・繭など）	
51	M45.7.1	5	商店の主人公に白す	菱叟
51	M45.7.1	5	何を書くやら（一）	おさむ
51	M45.7.1	5	南西東北	
52	M45.7.11	1	救済の急務	
52	M45.7.11	1	白石城址（写真）	
52	M45.7.11	1	文苑	双峯散史ほか作
52	M45.7.11	1	小説 微笑（五）	比露枝
52	M45.7.11	2	片倉男爵家祖先銅像除幕式併同家守護神愛宕山尊像遷座式（承前）	旧臣・飯田愨
52	M45.7.11	2	台湾の一期米作	
52	M45.7.11	2	仙南五郡簡閲点呼日割	
52	M45.7.11	2	株式会社白石商業銀行総会	
52	M45.7.11	2	白石銀行総会	
52	M45.7.11	2	遊行上人の親教	
52	M45.7.11	2	宮城県行政整理	
52	M45.7.11	2	狂歌	
52	M45.7.11	2	春山傳之助氏（東京米穀信託株式会社）	
52	M45.7.11	2	日居月譜	
52	M45.7.11	3	三餘漫筆（十五）捕鯨の壮観（四）	仙台・窮措大人
52	M45.7.11	3	安藤氏除草器	
52	M45.7.11	3	二小年の生埋め	
52	M45.7.11	3	癩癩女の溺死	
52	M45.7.11	3	赤痢続発	
52	M45.7.11	3	振った落選祝ひ（玉川畔の怪気焰）	
52	M45.7.11	3	愛郷漫言（四五）	在京・潜電子
52	M45.7.11	3	俳句	天真
52	M45.7.11	4	千紅萬緑（一一）家庭叢談	仙果
52	M45.7.11	4	婦人と口腔衛生（五）	カーベクター
52	M45.7.11	4	蚕種の選択	
52	M45.7.11	4	商況（正米・饅頭くうんめんなど）	
52	M45.7.11	5	何を書くやら（二）	おさむ
52	M45.7.11	5	良教員逝く（本町菅野榮太郎氏）	
52	M45.7.11	5	少年の変死	
52	M45.7.11	5	東西南北	
52	M45.7.11	6	冬期間農家の副業（二）承前	大平村委員・古山三郎、長橋榮一郎
53	M45.7.21	1	夏季の衛生	
53	M45.7.21	1	田村神社（写真、斎川村）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
53	M45.7.21	1	矛盾せる衛生	
53	M45.7.21	1	文苑	双峯閑人、藤の舎・作
53	M45.7.21	1	小説 微笑（六）	比露枝
53	M45.7.21	2	片倉男爵家祖先銅像除幕式併同家守護神愛宕山尊像遷座式（承前）	旧臣・飯田愨
53	M45.7.21	2	旅団長の来白（山形歩兵第二十五旅団長・飯田左門）	
53	M45.7.21	2	召集事務検閲（柴田郡）	
53	M45.7.21	2	柴田郡の衛生幻灯会	
53	M45.7.21	2	白中教授の小学校視察	
53	M45.7.21	2	白石町の救済米購入	
53	M45.7.21	2	白石町の伝染病予防励行	
53	M45.7.21	2	遊行上人（角田町へ出発）	随行：常林寺住職萩本知念、檀徒 総代渡邊又四郎ほか2名
53	M45.7.21	2	丸八運送合資会社（元岩間運送店跡で営業）	
53	M45.7.21	2	日居月詣	
53	M45.7.21	3	三餘漫筆（十六）黄門公夜話（一）	仙台・窮措大人
53	M45.7.21	3	巡査暴行に遇ふ（大河原警察署）	
53	M45.7.21	3	鉄道院と治療所	
53	M45.7.21	3	鉄道往生（大平村字ハツ森）	
53	M45.7.21	3	鉄道情死	
53	M45.7.21	3	近傍あさり（一）	大河原より・M S
53	M45.7.21	3	愛郷漫言（四六）	在京・潜電子
53	M45.7.21	4	霊の糧（と米問題）	旅鳥
53	M45.7.21	4	日曜日に就て	日米子
53	M45.7.21	4	千紅萬緑（一二）家庭叢談	仙果
53	M45.7.21	4	冬期間の副業（三）承前	大平村委員・古山三郎、長橋榮一郎
53	M45.7.21	4	商況（正米・饅頭など）	
53	M45.7.21	5	高野長英伝（一）	福德斎延寿
53	M45.7.21	6	嗚呼法律（上）	五城血涙・稿
54	T1.8.1	1	天皇陛下崩御	
54	T1.8.1	1	諒闇	
54	T1.8.1	1	皇太子踐祚	
54	T1.8.1	1	新元号定まる	
54	T1.8.1	1	御陵墓決定	
54	T1.8.1	1	先帝御聖蹟（一）	
54	T1.8.1	1	先帝御年譜	
54	T1.8.1	2	片倉男爵家祖先銅像除幕式併同家守護神愛宕山尊像遷座式（承前）	旧臣・飯田愨
54	T1.8.1	2	至誠の声（天皇陛下崩御について、片倉男爵ほか）	
54	T1.8.1	3	夏期休業と学生	
54	T1.8.1	3	軍隊宿営の実施（我が刈田郡を以て嚆矢とす）	
54	T1.8.1	3	白石実科高等女学校（教授両氏の上京）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
54	T1.8.1	3	刈田郡教員講習会（白石第二小学校）	
54	T1.8.1	3	本県農会主催（宮小学校）	
54	T1.8.1	3	県立白石中学校（試験・夏期休業）	
54	T1.8.1	3	愛郷漫言（四七）	在京・潜電子
54	T1.8.1	3	俳句	
54	T1.8.1	3	日居月詣	
54	T1.8.1	4	東北と西南（一）	在長崎・松窓生
54	T1.8.1	4	白石中学校本年卒業生（高等学校入学者）	
54	T1.8.1	4	株式会社白石銀行総会（鈴木頭取宅）	
54	T1.8.1	4	各小学校の夏期休業	
54	T1.8.1	4	県立白石中学校（同窓会）	
54	T1.8.1	4	白石実科高等女学校（夏期休業）	
54	T1.8.1	4	製材所の失火（福岡村蔵本）	
54	T1.8.1	4	白石商業銀行営業の景況	
54	T1.8.1	4	白石銀行営業の景況	
54	T1.8.1	4	批評と紹介（国土の経綸）	
54	T1.8.1	4	商報（正米・製粉など）	
54	T1.8.1	4	株式会社白石銀行第十一期決算公告	
54	T1.8.1	5	嗚呼法律（下）	五城血涙・稿
54	T1.8.1	5	東西南北	
54	T1.8.1	5	正誤（前号片倉男爵家記事）	
54	T1.8.1	5	福岡村に赤痢統発	
54	T1.8.1	5	我社は時々号外を発行して（重要事件の報導）	
54	T1.8.1	6	講談：高野長英伝（二）	福德斎延寿
55	T1.8.11	1	朝見式勅語	
55	T1.8.11	1	先帝陛下（写真）	
55	T1.8.11	1	帝国議会召集	
55	T1.8.11	1	御大葬期日	
55	T1.8.11	1	先帝御年譜（続）御即位前（十五年間）	
55	T1.8.11	2	教育御軫念	
55	T1.8.11	2	先帝の御製	
55	T1.8.11	2	六十は活動盛りぞ	
55	T1.8.11	2	桃山の史実	
55	T1.8.11	3	片倉男爵家祖先銅像除幕式併同家守護神愛宕山尊像遷座式（承前）	旧臣・飯田愨
55	T1.8.11	3	白石町の拝別式	
55	T1.8.11	3	白石中学校（学期試験成績優秀者）	
55	T1.8.11	3	刈田郡生産調査（明治四拾四年農産之部）	
55	T1.8.11	3	刈田各宗協会中陰の奉悼式	
55	T1.8.11	3	愛郷漫言（四八）	在京・潜電子
55	T1.8.11	3	日居月詣	
55	T1.8.11	4	（和歌、天皇陛下追悼）	藤迺舎主人

号数	発行日	頁	タイトル	備考
55	T1.8.11	4	愁雲深き白石町	
55	T1.8.11	4	御大喪と警察事故（田中白石警察署長の談）	
55	T1.8.11	4	白石町（吊旗掲揚方）	
55	T1.8.11	4	三餘漫筆（十七）黄門公夜話（二）	仙台・窮措大人
55	T1.8.11	4	千紅萬緑（一三）家庭衛生	仙果
55	T1.8.11	4	批評と紹介（新佛教・廊清）	
55	T1.8.11	4	刈田郡稲作の状況	
55	T1.8.11	4	本郡秋蚕	
55	T1.8.11	4	商報（正米・生糸など）	
55	T1.8.11	5	東北と西南（二）	在長崎・松窓生
55	T1.8.11	5	東西南北	
55	T1.8.11	6	講談：高野長英伝（三）	福德斎延寿
56	T1.8.21	1	勅語	
56	T1.8.21	1	御大葬の儀	
56	T1.8.21	1	今上天皇陛下（写真）	
56	T1.8.21	1	聖上御先着	
56	T1.8.21	1	内大臣侍従長更迭	
56	T1.8.21	1	徳大寺公へ恩賜	
56	T1.8.21	1	先帝御聖蹟（二）	
56	T1.8.21	1	先帝御年譜（続）御即位前（十五年間）・御即位後（四十六年間）	
56	T1.8.21	2	只「忠誠」の二字	
56	T1.8.21	2	桂公の心事（元の軍人に立帰る）	
56	T1.8.21	2	聖徳の一大記念（明治の財政経済）	
56	T1.8.21	2	先帝陛下の御真影	
56	T1.8.21	2	今年の天長節	
56	T1.8.21	2	名誉ある轆牛の装飾	
56	T1.8.21	2	東都民の遙拝所	
56	T1.8.21	2	白石町の遙拝式	
56	T1.8.21	2	桃山の御陵地	
56	T1.8.21	3	刈田郡生産調査に就きて	
56	T1.8.21	3	刈田郡生産物総覧 明治四十四年	
56	T1.8.21	3	愛郷漫言（四九）	在京・潜電子
56	T1.8.21	3	日居月詣	
56	T1.8.21	4	隔離病舎視察記	一記者
56	T1.8.21	4	海軍在郷軍人簡閲点呼（刈田郡役所内）	
56	T1.8.21	4	郵便局の事務簡捷	
56	T1.8.21	4	三県聯合清酒品評会（宮城、岩手、福島）	
56	T1.8.21	4	株式会社本所銀行（白石出張所開設）	
56	T1.8.21	4	渡邊傳五郎商店の正札付大売出し	
56	T1.8.21	4	刈田郡は豊作疑なし	
56	T1.8.21	4	商報（正米・大麦など）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
56	T1.8.21	5	琵琶歌 (嗚呼二重橋)	加藤義清氏謹稿、草刈流郎謹譜
56	T1.8.21	5	東北と西南 (三)	在長崎・松窓生
56	T1.8.21	5	農家の一大福音	鎌田三之助
56	T1.8.21	5	東西南北	
56	T1.8.21	6	講談：高野長英伝 (四)	福德斎延寿
57	T1.9.1	1	臨時帝国議会	
57	T1.9.1	1	白石町御真影拜別式記念撮影 (写真、山田写真館寄贈)	
57	T1.9.1	1	小説 微笑 (七)	比露枝
57	T1.9.1	2	御追号公布 (明治天皇、御追号報告祭)	
57	T1.9.1	2	叙任及辞令 (宮城県産米改良委員)	
57	T1.9.1	2	刈田郡生産調査に就き (第二回)	
57	T1.9.1	2	刈田郡人口及戸数 (明治四十四年)	
57	T1.9.1	2	先帝御年譜 (続) 御即位後 (四十六年間)	
57	T1.9.1	2	日居月譜	
57	T1.9.1	3	三餘漫筆 (十八) 黄門公夜話 (三)	仙台・窮措大人
57	T1.9.1	3	刈田各宗協会	
57	T1.9.1	3	馬匹共進会 (白石町城山)	
57	T1.9.1	3	拓殖博覧会と汽車の割引 (東京・上野公園)	
57	T1.9.1	3	赤痢益々猖獗	
57	T1.9.1	3	上野青森間最大急行	
57	T1.9.1	3	前科者鶏を窃む	
57	T1.9.1	3	自転車の置き去り	
57	T1.9.1	3	鮎を喰たさにお灸	
57	T1.9.1	3	白石実科高等女学校	
57	T1.9.1	3	白石町 (投書函設置)	
57	T1.9.1	3	旧盆の状況 (御喪中のため静粛謹慎)	
57	T1.9.1	3	秋蚕は好結果にて上簇	
57	T1.9.1	3	國光生命の社員配当	
57	T1.9.1	3	灯台下暗し (妙薬孫太郎虫丸)	
57	T1.9.1	3	愛郷漫言 (五〇)	在京・潜電子
57	T1.9.1	4	実業家は旅行せよ	源修・稿
57	T1.9.1	4	千紅萬緑 (一四) 家庭衛生	仙果
57	T1.9.1	4	寄稿 (一) (アメリカと古郷白石)	在米・漂浪者
57	T1.9.1	4	本日は二百十日 (稲作佳良ならん)	
57	T1.9.1	4	商報 (地廻玄米・生糸など)	
57	T1.9.1	5	斎川小学校同窓会	
57	T1.9.1	5	佐藤孝郷氏 (片倉家墳塋の参詣)	
57	T1.9.1	5	東西南北	
57	T1.9.1	6	講談：高野長英伝 (五)	福德斎延寿
58	T1.9.11	1	噫御大葬	
58	T1.9.11	1	(写真、九月一日暴風雨の白石大橋)	
58	T1.9.11	1	文苑	草野生ほか作

号数	発行日	頁	タイトル	備考
58	T1.9.11	1	明治の始と終（一）	
58	T1.9.11	2	三陛下徹夜御拝（桃山陵御埋葬当夜）	
58	T1.9.11	2	三陛下と御靈柩	
58	T1.9.11	2	宮城前の諸団体	
58	T1.9.11	2	外国公使一同 殯宮を拝礼す	
58	T1.9.11	2	刈田郡生産調査に就き（第三回）	
58	T1.9.11	2	新妻警務長の巡視	
58	T1.9.11	2	仙台東華高等女学校補欠生徒募集	
58	T1.9.11	2	良教員逝く（宮尋常高等小学校訓導小野深慧氏逝去）	
58	T1.9.11	2	白石第二小学校専科教員給与	
58	T1.9.11	2	民有地統計調査主任会議（刈田郡役所）	
58	T1.9.11	2	白石町遙拝式（城山公園広場）	
58	T1.9.11	2	各学校の遙拝式	
58	T1.9.11	2	本郡各村（御大葬遙拝式）	
58	T1.9.11	2	白石中学校第二学期始業式並に同窓会	
58	T1.9.11	2	日居月詣	
58	T1.9.11	3	三餘漫筆（十九）黄門公夜話（四）	仙台・窮措大人
58	T1.9.11	3	本郡水害の状況	
58	T1.9.11	3	三郡聯合馬匹共進会（白石城山）	
58	T1.9.11	3	一家四名の赤痢隠蔽	
58	T1.9.11	3	林檎を売りてお灸	
58	T1.9.11	3	無免許犯	
58	T1.9.11	3	愛郷漫言（五一）	在京・潜電子
58	T1.9.11	4	東西南北	
58	T1.9.11	4	商報（地廻玄米・外国米など）	
59	T1.9.21	1	治水問題（白石）	
59	T1.9.21	1	白石町七十以上老人の御大葬遙拝式記念撮影（写真、松田写真館寄贈）	
59	T1.9.21	1	文苑	双峯散史ほか作
59	T1.9.21	1	明治の始と終（二）	
59	T1.9.21	2	嗚呼乃木將軍	
59	T1.9.21	2	国有鉄道運賃低減	
59	T1.9.21	2	一木博士の談（一）	源修・筆記
59	T1.9.21	2	軍隊視察要項	
59	T1.9.21	2	日居月詣	
59	T1.9.21	3	日本語を知らざる文部省	長崎浪人
59	T1.9.21	3	白石町の遙拝式	
59	T1.9.21	3	刈田郡農会	
59	T1.9.21	3	愛郷漫言（五二）	在京・潜電子
59	T1.9.21	4	海外音信（二）	在米・漂浪者
59	T1.9.21	4	屑籠（一）	蟹の子
59	T1.9.21	4	白石中学校御大葬遙拝式	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
59	T1.9.21	4	刈田郡各宗協会	
59	T1.9.21	4	白石中学校至道会	
59	T1.9.21	4	宮村の遙拝式	
59	T1.9.21	4	同村（宮村）遠刈田温泉場	
59	T1.9.21	4	又もや鮎の祟り	
59	T1.9.21	4	越河村の遙拝式	
59	T1.9.21	4	法帳の寄付	
59	T1.9.21	4	阿部家の訃（宮村阿部養治氏長男豊治氏永眠）	
59	T1.9.21	4	稲田排水の注意	
59	T1.9.21	4	批評と紹介（太陽臨時増刊・訳文日本史（四））	
59	T1.9.21	5	寄稿 短編小説 購された女（一）	海乃人
59	T1.9.21	5	東西南北	
59	T1.9.21	5	講談：高野長英伝（六）	福德斎延寿
60	T1.10.1	1	晩稲は全廃すべし	
60	T1.10.1	1	三県聯合馬匹共進会に於一等賞を得たる名馬槻藤号（写真、山田写真館撮影）	柴田郡槻ノ木町馬主伊藤万吉
60	T1.10.1	1	文苑	鈴木夕泉ほか作
60	T1.10.1	1	秋と私と死と（一）	東都・こすぎ生
60	T1.10.1	2	明治の始と終（三）	
60	T1.10.1	2	批評と紹介（高浜虚子著『朝鮮』）	
60	T1.10.1	2	刈田郡米作予想高	
60	T1.10.1	2	刈田郡町村費徴収状況（大正元年八月分）	
60	T1.10.1	2	軍隊視察要項（承前）	
60	T1.10.1	3	屑籠（二）	蟻の子
60	T1.10.1	3	第三旅団長（陸軍少将中村無一氏来白）	
60	T1.10.1	3	白石中学校至道会	
60	T1.10.1	3	町村長会議（刈田郡役所）	
60	T1.10.1	3	二歳馬の競売（白石町古本町）	
60	T1.10.1	3	暴風雨被害（白石町・越河村など）	
60	T1.10.1	3	愛郷漫言（五三）	在京・潜電子
60	T1.10.1	4	海外音信（三）	在米・漂浪者
60	T1.10.1	4	寄書 桑園改良に就て	相場善太郎
60	T1.10.1	4	徳力師令室の訃（専念寺住職令室）	
60	T1.10.1	4	勤勉なる衛生主任書記（赤痢病対策）	
60	T1.10.1	4	斎川消防組員の異同	
60	T1.10.1	4	小学教員の行衛不明	
60	T1.10.1	4	年増女で一儲は以ての外	
60	T1.10.1	4	寿座（桃山助六一行の浪花節）	
60	T1.10.1	4	クラブ化粧品の広告	
60	T1.10.1	4	東西南北	
60	T1.10.1	4	商報（地廻玄米・饅頭など）	
60	T1.10.1	5	寄稿 短編小説 購された女（二）	海乃人

号数	発行日	頁	タイトル	備考
60	T1.10.1	6	講談：高野長英伝（七）	福德斎延寿
61	T1.10.11		【欠号】	
62	T1.10.21	1	農村の衰微挽回の急務	
62	T1.10.21	1	刈田郡七ヶ宿生産組合重役（写真、山田活版所撮影）	牝牛放牧事業
62	T1.10.21	1	文苑	在京・藤廻舎主人ほか作
62	T1.10.21	1	明治の始と終（五）	
62	T1.10.21	2	出放題 世は優敗劣勝である	五城・舌仙
62	T1.10.21	2	生糸愈々昂進	
62	T1.10.21	2	刈田郡ニ於ケル土地ノ分配及取有高比較表（明治四十年十月一日現在）	
62	T1.10.21	2	狩猟界（獲物の発育良好）	
62	T1.10.21	2	中等学校国語漢文授業法研究会	
62	T1.10.21	2	第四回文芸大会（白石第二小学校）	
62	T1.10.21	2	白石小学校第六回女子同窓会	
62	T1.10.21	2	白石町のトラホーム検診	
62	T1.10.21	2	角田中学校生徒の来白（テニス・撃剣・柔道）	在京・潜電子
62	T1.10.21	2	謝告（ハーヴァード大学総長意見）	在米・漂浪者
62	T1.10.21	3	三餘漫筆（廿一）先帝の御偉業（二）勇武の御気象	仙台・窮措大人
62	T1.10.21	3	白石実業新報所載の町村税徴収一覧表を見て有感	地方改良子
62	T1.10.21	3	巴陵居士の揮毫（書道家佐々木巴陵居士、鎌先温泉および来白）	
62	T1.10.21	3	白石警察署員の賞金	
62	T1.10.21	3	大平村の火事	
62	T1.10.21	3	幼児監護者の告発	
62	T1.10.21	3	理髪営業規則違反者の科料	
62	T1.10.21	3	愛郷漫言（五五）	在京・潜電子
62	T1.10.21	4	千紅萬緑（一六）果樹栽培	仙果
62	T1.10.21	4	海外音信（四）	在米・漂浪者
62	T1.10.21	4	白石小学校卒業生同級会	
62	T1.10.21	4	公人私人（宮城県立農学校長など）	
62	T1.10.21	4	大槻平七氏独立開店（東京芝区洋服店）	
62	T1.10.21	4	軍隊視察要項（続き）	
62	T1.10.21	5	朝鮮習慣（一）新造の意味	在釜山・飯沼當三郎
62	T1.10.21	6	講談：高野長英伝（九）	福德斎延寿
63	T1.11.1	1	第二師団機動演習 誠意を以て歓迎せよ	
63	T1.11.1	1	刈田郡越河消防秋季演習（写真、山田活版所撮影）	
63	T1.11.1	1	文苑	亘理盛ほか作
63	T1.11.1	1	小説 赤い塔（上）	東都・深草の人
63	T1.11.1	2	米国前「ハーヴァード」大学総長「エリオット」博士の日本教育制度に関する意見（上）	
63	T1.11.1	2	大正元年度自七月・至九月町村費徴収成績	
63	T1.11.1	2	両陛下の山陵御参拝	
63	T1.11.1	2	鉄道院技師の来白	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
63	T1.11.1	2	長代議士来白（山形県選出衆議院議員長晴登氏）	
63	T1.11.1	2	山岡陸軍中佐（白石中学校至道会に出演）	
63	T1.11.1	2	鉄道院技師（田邊工学士来白予定）	
63	T1.11.1	2	騎兵第二聯隊（白石町宿泊）	
63	T1.11.1	2	白石中学校至道会（日露戦争乃木將軍幕僚・山岡陸軍中佐講演）	
63	T1.11.1	3	本郡農会の産業視察	
63	T1.11.1	3	鉄道院と小荷物	
63	T1.11.1	3	歩兵第二十九聯隊（白石町宿営）	
63	T1.11.1	3	各町村兵事主任会議	
63	T1.11.1	3	選挙有権者の注意	
63	T1.11.1	3	米産額歩刈調査	
63	T1.11.1	3	合名会社所得税附加税問題（白石町渡邊・大味・寿丸三合名会社）	
63	T1.11.1	3	愛郷漫言（五六）	在京・潜電子
63	T1.11.1	4	白石小学校生徒の校外教授（岩沼・荒浜）	
63	T1.11.1	4	麻生禪師の法要（傑山寺前住職妙心寺執事長麻生道戒師一週忌）	
63	T1.11.1	4	二訓導の小学校参観	
63	T1.11.1	4	刈田郡越河消防組秋期大演習	
63	T1.11.1	4	鉄道院の補助金交附（防火設備、沿道民家改築費用）	
63	T1.11.1	4	郵便為替規則中の改正	
63	T1.11.1	4	馬牛沼干し（和泉養魚場）	
63	T1.11.1	4	角田小学校生徒の来白（修学旅行）	
63	T1.11.1	4	白河小学校生徒の修学旅行（本郡白河尋常小学校、亘理郡荒浜方面）	
63	T1.11.1	5	屑籠（四）	蟻の子
63	T1.11.1	6	講談：高野長英伝（十）	福徳斎延寿
64	T1.11.11	1	白石第一・第二小学校 須らく歩調を一にせよ	
64	T1.11.11	1	至道会講演者山岡中佐記念撮影（写真、斎藤写真館撮影）	
64	T1.11.11	1	文苑	杉浦音治郎ほか作
64	T1.11.11	1	小説 赤い塔（下）	東都・深草の人
64	T1.11.11	2	教育上の大問題 米国前「ハーヴァード」大学総長「エリオット」博士の日本教育制度に関する意見（中）	
64	T1.11.11	2	刈田郡第一部教育研究会（福岡小学校講堂）	
64	T1.11.11	2	鈴木幸吉氏の美拳	
64	T1.11.11	2	白石中学校（先帝陛下御聖位追慕）	
64	T1.11.11	2	白石第二小学校（先帝陛下御聖位追慕）	
64	T1.11.11	2	第二小学校父兄会	
64	T1.11.11	2	機動演習と郡当局	
64	T1.11.11	2	先帝百日祭と各学校	
64	T1.11.11	2	白中生徒の機動演習参加	
64	T1.11.11	2	白石町の祭典（百日祭）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
64	T1.11.11	2	白石中学校の発火演習	
64	T1.11.11	3	三餘漫筆（廿二）林子平名誉の借金	仙台・窮措大人
64	T1.11.11	3	白石消防組の名誉	
64	T1.11.11	3	白石商業組合第三回店員褒賞授与式	
64	T1.11.11	3	福岡村尚老会	
64	T1.11.11	3	愛郷漫言（五七）	在京・潜電子
64	T1.11.11	4	千紅萬緑（一七）果樹栽培（続き）	仙果
64	T1.11.11	4	同郷人の海外通信（続）（五）	在米・漂浪者
64	T1.11.11	4	本郡稲作々況	
64	T1.11.11	4	基督教講演会	
64	T1.11.11	4	白石中学校寄宿舎の竣成	
64	T1.11.11	4	白石消防手	
64	T1.11.11	4	鎌先温泉電話所	
64	T1.11.11	4	孫太郎虫問題	
64	T1.11.11	4	商況（正米）	
64	T1.11.11	5	出放題（続き）世は優敗劣勝である	五城・舌仙
64	T1.11.11	5	朝鮮習慣（二）日韓法律関係	在釜山・飯沼富三郎<ママ>
64	T1.11.11	5	東西南北	
64	T1.11.11	6	講談：高野長英伝（十一）	福德斎延寿
65	T1.11.21	1	秋耕を励行せよ	
65	T1.11.21	1	白石消防組金馬簾授与並善行章授与の光景（写真）	
65	T1.11.21	1	文苑	佐藤麻山ほか作
65	T1.11.21	1	小説 弓町（一）	草刈露香
65	T1.11.21	2	米国前「ハーヴァード」大学総長「エリオット」博士の日本教育制度に関する意見（下）	
65	T1.11.21	2	御真影の御下賜	
65	T1.11.21	2	寺田本県知事（第二師団機動演習訪問のため来白）	
65	T1.11.21	2	東北帝国大学教授及生徒の来白（下戸沢風穴調査、小原温泉・鎌先温泉ラザウム測定）	
65	T1.11.21	2	白石町の秋季祭典（城山神明社）	
65	T1.11.21	2	大正元年度県税戸数割下半年納入成績歩表（刈田郡）	
65	T1.11.21	2	白石町の初雪	
65	T1.11.21	2	刈田柴田蚕種同業組合の創立総会（柴田郡立農学校）	
65	T1.11.21	2	白石消防組金馬簾授与式（白石第二小学校）	
65	T1.11.21	2	斎川村同窓会蔬菜品評会	
65	T1.11.21	3	【欠落】	
65	T1.11.21	4	【欠落】	
65	T1.11.21	5	宮小学校同窓会	
65	T1.11.21	5	明治産業株式会社	
65	T1.11.21	5	稲泥	
65	T1.11.21	5	三つ児の魂百まで	
65	T1.11.21	5	朝鮮習慣（三）	在釜山・飯沼富三郎

号数	発行日	頁	タイトル	備考
65	T1.11.21	5	東西南北	
65	T1.11.21	6	講談：高野長英伝（十二）	福德斎延寿
66	T1.12.1	1	海外発民くママ>に就て青年諸君の奮起を望む（上）	在京・佐藤勇吉、※第66号は2部あり
66	T1.12.1	1	公立刈田病院（写真、博文堂寄贈）	
66	T1.12.1	1	文苑	亘素琴ほか作
66	T1.12.1	1	口語詩	寿町・仙琴ほか作
66	T1.12.1	1	小説 弓町（二）	萱野銀三郎
66	T1.12.1	2	輸出入品の変遷	
66	T1.12.1	2	明治四十五年・大正元年度町村費財源内訳表	
66	T1.12.1	2	刈田郡教育会秋季総会（白石第二小学校）	
66	T1.12.1	2	年賀郵便の発送に就て	
66	T1.12.1	2	仙台刈田郷友会（向山仙遊園、刈田郡郷友会規約）	
66	T1.12.1	2	福岡村軍人分会	新田勝寛分会長、大内幸之助副会長
66	T1.12.1	2	片倉男爵家の法養くママ>	
66	T1.12.1	2	宮消防の名誉	
66	T1.12.1	2	神宮神部署宮城支署（大麻頒布主意書）	
66	T1.12.1	3	現代紳士逸話（一）	仙台・菱翁稿
66	T1.12.1	3	行政整理による官界の動揺	
66	T1.12.1	3	斎川小学校同窓会 附、品評会	
66	T1.12.1	3	募集（新年漢詩、和歌、俳句、短文）	
66	T1.12.1	3	森時任氏の渡航（獣医学研究の目的をもって欧米遊学）	
66	T1.12.1	3	石川万亀氏の訃報（越河村）	
66	T1.12.1	3	産米検査標準米査定会（刈田郡役所）	
66	T1.12.1	3	福岡村稲作立毛品評会	
66	T1.12.1	3	白石町料理店の豊川稲荷講（丸川亭）	
66	T1.12.1	3	稲泥類々（宮村盗難事件）	
66	T1.12.1	3	山あらしの告訴	
66	T1.12.1	3	放火犯人の検事送り	
66	T1.12.1	3	又もや喰逃げ	
66	T1.12.1	3	ライオン活動大写真会（寿座）	
66	T1.12.1	3	東北線汽車時刻改正	
66	T1.12.1	4	軍隊視察要項（承前）	
66	T1.12.1	4	白石町鷹の巣青年団 農産物品評会（豪農菊地文一郎氏宅）	
66	T1.12.1	4	本郡小原村の麦作	
66	T1.12.1	4	丸森小学校教員の学校参観（白石第一、第二小学校、中学校）	
66	T1.12.1	4	寄贈（福岡村青年会『故山』第二号）	
66	T1.12.1	4	鯉魚の話	早川牧場・魂仙子
66	T1.12.1	4	商況（正米・大豆など）	
66	T1.12.1	5	朝鮮習慣（四）	在釜山・飯沼富三郎
66	T1.12.1	5	東西南北	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
66	T1.12.1	6	講談：高野長英伝（十三）	福德斎延寿
67	T1.12.11	1	海外発展に就て青年諸君の奮起を望む（下）	在京・佐藤勇吉
67	T1.12.11	1	白石町鷹巣青年会農芸品評会（写真）	
67	T1.12.11	1	文苑	双峯隠士ほか作
67	T1.12.11	1	小説 弓町（三）	萱野銀三郎
67	T1.12.11	2	白上鉄道に就て	在讃岐・大槻寅治郎<鉄道院建設事務所勤務>
67	T1.12.11	2	刈田郡米産額郡計表・被害郡計表（大正元年度）	
67	T1.12.11	2	白石中学校至道会（通俗講演会）	
67	T1.12.11	2	高等師範冬期講習会	
67	T1.12.11	2	小学校教員の夜間講習会（白石第二小学校講堂）	
67	T1.12.11	2	本郡小学校校長諮問会（刈田郡役所）	
67	T1.12.11	2	本県教育冬期講習（本県師範学校）	
67	T1.12.11	2	赤城きさ子刀自の逝去（片倉男爵母堂竹子の実母）	
67	T1.12.11	3	現代紳士逸話（二）	仙台・菱翁稿
67	T1.12.11	3	予告（一月元旦の本紙につき）	白石実業新報社
67	T1.12.11	3	警察署員の演習に 本もの、犯人捕はる	
67	T1.12.11	3	衝口録（一）	在仙・周水
67	T1.12.11	4	朝鮮習慣（五）	在釜山・飯沼富三郎
67	T1.12.11	4	宮村消防組の金馬簾交付式（刈田嶺神社）	
67	T1.12.11	4	白石消防組員の賞与（暴風雨対応）	
67	T1.12.11	4	標準米査定会（刈田郡役所）	
67	T1.12.11	4	片倉家の法養<ママ>	
67	T1.12.11	4	密猟者誤て人を打ち（福岡村八宮）	
67	T1.12.11	4	商況（正米・白糯米など）	
67	T1.12.11	4	募集（新年漢詩、和歌、俳句、短文）	
67	T1.12.11	5	家族制度	懷世隠史
67	T1.12.11	5	軍隊視察要項（承前）	
67	T1.12.11	5	明治産業株式会社設立の趣意	
67	T1.12.11	6	講談：高野長英伝（十四）	福德斎延寿
68	T1.12.21	1	大正元年を送る	
68	T1.12.21	1	宮村消防組金馬簾授与式記念（写真、松田写真館撮影）	
68	T1.12.21	1	文苑	佐藤双峯ほか作
68	T1.12.21	1	小説 弓町（四）	萱野銀三郎
68	T1.12.21	2	政友会院外団体（齋藤二郎、憲政の危機に関する意見）	
68	T1.12.21	2	刈田郡大正元年度国税営業税後期・県税営業税附加税収入歩合表	
68	T1.12.21	2	白石中学校（成績発表ほか）	
68	T1.12.21	2	刈田郡養蚕業組合総会	
68	T1.12.21	3	近古紳士逸話（三）	仙台・菱翁稿
68	T1.12.21	3	県官の事務監査（刈田郡町村事務）	
68	T1.12.21	3	刈田郡役所の事務監査	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
68	T1.12.21	3	白石中学校卒業生（志願兵四氏）	
68	T1.12.21	3	本郡各町村長会議	
68	T1.12.21	3	予告（一月元旦の本紙につき）	白石実業新報社
68	T1.12.21	3	衝口録（二）	在仙・周水
68	T1.12.21	4	家族制度（続）	懐世隠史
68	T1.12.21	4	千紅萬緑（一九）果樹栽培（続き）	仙果
68	T1.12.21	4	白石町の臨時町会（伝染病予防費）	
68	T1.12.21	4	白石日本基督教会婦人会	
68	T1.12.21	4	明治産業白石代理店の近況	
68	T1.12.21	4	天理教大講演会	
68	T1.12.21	4	商況（正米・饅頭手製など）	
68	T1.12.21	4	募集（新年漢詩、和歌、俳句、短文）	白石実業新報社
68	T1.12.21	5	軍隊視察要項（承前）視察雑感（続き）	
68	T1.12.21	5	或る夜	
68	T1.12.21	5	白石町遊門楼のボヤ（柳町）	
68	T1.12.21	5	講談：高野長英伝（十五）	福徳斎延寿
69	T2.1.1	1	社説：新年の辞	
69	T2.1.1	1	牛童子 秀尚之作・鈴木清之輔氏所蔵（写真、松田写真館撮影）	
69	T2.1.1	1	乃木大将を学べ	
69	T2.1.1	2	牛	長涎道人
69	T2.1.1	2	文苑	佐藤麻山ほか作
69	T2.1.1	2	小説 弓町（五）	萱野銀三郎
69	T2.1.1	3	忠勇青年	源修稿
69	T2.1.1	3	俳句	在讃岐・大槻月峰ほか作
69	T2.1.1	3	短文：列車の劇	在讃岐・大槻月峰<ママ>
69	T2.1.1	3	小説 夜会草（一）	山田蔦葉
69	T2.1.1	4	愛郷漫言（五八）	在京・潜電子
69	T2.1.1	4	衝口録（三）	在仙・周水
69	T2.1.1	4	千紅萬緑（二十）果樹栽培（続き）	仙果
69	T2.1.1	4	鉄道機関夫の募集	
69	T2.1.1	4	東西南北	
69	T2.1.1	4	小説 月光	こすぎ生
69	T2.1.1	5	講談：丑松の孝行雑煮	邑井貞吉
70	T2.1.11	1	町村経済の膨張 大に緊縮の要あり	
70	T2.1.11	1	大正新年の松島（写真）	
70	T2.1.11	1	文苑	雪山・菊地九一郎ほか作
70	T2.1.11	1	小説 夜会草（二）	山田蔦葉
70	T2.1.11	2	貞婦表彰さる（白石第二小学校）	
70	T2.1.11	2	白石警察署巡査の異動	
70	T2.1.11	2	株式会社白石商業銀行総会	
70	T2.1.11	2	白石銀行定時株主総会	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
70	T2.1.11	2	本郡火災の減少	
70	T2.1.11	2	本郡犯罪者の減少	
70	T2.1.11	2	白石中学校（始業式）	
70	T2.1.11	2	稲作立毛及堆肥品評会（刈田郡農会）	
70	T2.1.11	3	愛郷漫言（五九）	在京・潜電子
70	T2.1.11	3	家族制度（六十八号続）	懐世隠史
70	T2.1.11	3	本県師範学校生徒募集	
70	T2.1.11	3	本郡旅客の減少	
70	T2.1.11	3	貸座敷遊客の減少	
70	T2.1.11	3	次は諸興行（白石町及各村）	
70	T2.1.11	3	愛児を焼死せしめて 告発せらる	
70	T2.1.11	3	衝口録	在仙・周水
70	T2.1.11	4	千紅萬緑（二一）果樹栽培（続き）	仙果
70	T2.1.11	4	屑籠（五）	蟹の子
70	T2.1.11	4	同郷人の海外通信（続）	在紐育・城山翁
70	T2.1.11	4	基督教青年会総会	
70	T2.1.11	4	白川村小学校（農事講話会）	
70	T2.1.11	4	本郡農会（部落農業講話会）	
70	T2.1.11	4	株式会社本所銀行（白石出張所）	
70	T2.1.11	4	正誤（前号広告欄）	
70	T2.1.11	4	商況（正米・製粉など）	
70	T2.1.11	5	朝鮮習慣（六）	在釜山・飯沼富三郎
70	T2.1.11	5	おむかさりの話	仙台・菱の家奇稿
70	T2.1.11	6	講談：丑松の孝行雑煮（下）	邑井貞吉
70	T2.1.11	6	批評と紹介（乃木將軍高節百話・青年思想論）	
71	T2.1.21	1	論説：町村議員の奮起を望む 財政整理に就て	
71	T2.1.21	1	大正新年の松島（其二）（写真）	
71	T2.1.21	1	文苑	松洲漁夫ほか作
71	T2.1.21	1	小説 夜会草（三）	山田薦葉
71	T2.1.21	2	板垣伯へ勸告 老伯の決心	
71	T2.1.21	2	刈田郡参事会（開会）	
71	T2.1.21	2	刈田郡会（通常予算会）	
71	T2.1.21	2	刈田郡農会（福岡村武田重吉氏宅、幻灯会）	
71	T2.1.21	2	伝染病予防に於て	
71	T2.1.21	2	大正元年度赤痢病ノ為メ要シタル費用調（大正二年一月調）	
71	T2.1.21	2	表彰されたる 佐藤こんにに紋服を贈らんとす	
71	T2.1.21	2	白石中学校寄宿舎（新築落成披露）	
71	T2.1.21	2	前年国鉄貨物集散	
71	T2.1.21	2	白石駅に於ける乗降人員の概況	
71	T2.1.21	2	白石中学校（至道会）	
71	T2.1.21	2	不忘風	
71	T2.1.21	3	愛郷漫言（六〇）	在京・潜電子

号数	発行日	頁	タイトル	備考
71	T2.1.21	3	白中の寒稽古（白石中学校撃剣・柔道）	
71	T2.1.21	3	公立刈田病院（大正二年度予算会）	
71	T2.1.21	3	蚕種統一問題	
71	T2.1.21	3	蚕種洗滌法	
71	T2.1.21	3	白石銀行総会	
71	T2.1.21	3	巡査の昇給	
71	T2.1.21	3	巨理家の慶事（巨理晋氏次男晋二氏婚儀）	
71	T2.1.21	3	越河村の農事講習会	
71	T2.1.21	3	青年の放火 主家を焼き恨をはらさんとす	
71	T2.1.21	3	衝口録	在仙・周水
71	T2.1.21	4	屑籠（六）	蟹の子
71	T2.1.21	4	楮火の烟り	秋鴻散史
71	T2.1.21	4	賊と格闘（一）	
71	T2.1.21	4	又も荷馬車の科料	
71	T2.1.21	4	ダイナマイトで告発さる	
71	T2.1.21	4	馬子の科料	
71	T2.1.21	4	娼妓の車旅行 樓主の科料貳圓	
71	T2.1.21	4	商況（正米・饅頭手製など）	
71	T2.1.21	5	爐邊閑話（吉田松陰の箴言）	仙台・菱翁稿
71	T2.1.21	5	千紅萬緑（二二）果樹栽培（続き）	仙果
71	T2.1.21	5	東西南北	
71	T2.1.21	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第一回	福德斎延寿講演
72	T2.2.1	1	言論：新政党と本県民の覚悟	破損部分＝2面に貼付
72	T2.2.1	1	早春の海浜（写真）	
72	T2.2.1	1	文苑	佐藤麻山ほか作
72	T2.2.1	1	小説 夜会草（四）	山田蔦葉
72	T2.2.1	2	本県代議士の去就 某政客の談	
72	T2.2.1	2	刈田郡通常郡会	
72	T2.2.1	2	仙南四郡兵事主任書記 召集事務研究会	
72	T2.2.1	2	軍事講話会（中村無一歩兵第三旅団長）	
72	T2.2.1	2	町村財務主任書記会議（刈田郡役所）	
72	T2.2.1	2	白石町外二ヶ村組合会議	
72	T2.2.1	2	白石中学校文芸会	
72	T2.2.1	2	刈田郡有財産表（大正元年十二月末日現在）	
72	T2.2.1	2	水野町医の施療	
72	T2.2.1	2	刈田郡の戸数と人口	
72	T2.2.1	2	不忘風	
72	T2.2.1	3	愛郷漫言（六一）	在京・潜電子
72	T2.2.1	3	産米改良委員会（刈田郡役所）	
72	T2.2.1	3	刈田郡農会総会（刈田郡役所）	
72	T2.2.1	3	桑苗木の交付	
72	T2.2.1	3	地主採種田（渡邊佐吉・鈴木清之輔ほか）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
72	T2.2.1	3	俵装の改良	
72	T2.2.1	3	汽車の脱線 乗客二百八十余名・一人の負傷者なし	
72	T2.2.1	3	恩赦会復権	
72	T2.2.1	3	刈田郡の大雪	
72	T2.2.1	3	衝口録	在仙・周水
72	T2.2.1	4	爐邊閑話（二）（大槻平泉の逸事ほか）	仙台・菱翁稿
72	T2.2.1	4	千紅萬緑（二三）果樹栽培の続き	仙果
72	T2.2.1	4	牛乳需用者の減少	
72	T2.2.1	4	犯罪と捜査の日数（白石警察署）	
72	T2.2.1	4	可憐なる青年と奇特なる巡査	
72	T2.2.1	4	柵火の烟り（二）	秋鴻散史
72	T2.2.1	4	商況（正米・饅頭手製など）	
72	T2.2.1	5	寿座の其夜	露香
72	T2.2.1	5	東西南北	
72	T2.2.1	5	大正式新講談：水戸黄門漫遊記（第二回）	福德斎延寿
73	T2.2.11	1	発刊三週年紀念 本紙の三週年	
73	T2.2.11	1	文苑	佐藤麻山ほか作
73	T2.2.11	1	天壤無窮（写真）	
73	T2.2.11	1	祝白石実業新報三週年	刈田郡会議長・山田誠一
73	T2.2.11	2	政友会本部の一室に於て	齋藤二郎
73	T2.2.11	2	白石実業新報の三週年を祝す	東京米穀信託株式会社支配人・春山傳之助
73	T2.2.11	2	創刊三周年に際して所感を述ぶ	在京・佐藤勇吉
73	T2.2.11	2	白石実業新報の三週年を祝す	五城・源修生
73	T2.2.11	2	所感	在仙・周水
73	T2.2.11	2	不忘風	
73	T2.2.11	3	大正初めの紀元節に会ひ白石町に対して明治天皇記念事業に関する宿望を述ぶ	伊藤允美
73	T2.2.11	3	如何にして新聞を天覧あるか	
73	T2.2.11	3	白中へ剣客の來校（東京有信館主・中山博道氏）	
73	T2.2.11	3	馬耕練習修了（大鷹沢村・福岡村）	
73	T2.2.11	3	小原村の火事	
73	T2.2.11	3	愛郷漫言（六二）	在京・潜電子
73	T2.2.11	4	米作不良と町村民の副業に就て	讚在岐<ママ>・大槻寅次郎
73	T2.2.11	4	刈田郡大正元年度自十月・至十二月町村費徴収成績	
73	T2.2.11	4	憐れ看護婦の変死	
73	T2.2.11	4	商況（地廻玄米・外国米など）	
73	T2.2.11	4	大槻氏の結婚（越河村）	
73	T2.2.11	5	爐邊閑話（三）	仙台・菱翁稿
73	T2.2.11	5	千紅萬緑（二四）果樹栽培の続き	
73	T2.2.11	5	東京穀物信託株式会社の好成績	
73	T2.2.11	5	白石町本木助役	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
73	T2.2.11	6	小説 夜会草 (五)	山田蔦葉
73	T2.2.11	7	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 (第三回)	福德斎延寿
73	T2.2.11	7	東西南北	
74	T2.2.21	1	論説：勝て兜の緒を締めよ	1 面上部「第七十三号」→○「第七十四号」
74	T2.2.21	1	大政戦満都民衆の熱狂 大正二年二月十日 国技館に於て尾崎氏の演説 (写真)	
74	T2.2.21	1	文苑	双峯仙史ほか作
74	T2.2.21	1	小説 弓町 (六)	萱野銀三郎
74	T2.2.21	2	米作不良と町村民の副業に就て (続)	在讃岐・大槻寅次郎
74	T2.2.21	2	大正元年度大正二年一月分町村費徴収成績表 (刈田郡)	
74	T2.2.21	2	恩賜財団済生会	
74	T2.2.21	2	中等学校長会議 (本県)	
74	T2.2.21	2	白石第一小学校 (父兄会)	
74	T2.2.21	2	白中寄宿舎開舎行式挙行 (渡邊又四郎氏四千余円の単独経営建築)	
74	T2.2.21	2	伊藤白石中学校長 (福島、山形両県教育視察)	
74	T2.2.21	2	海軍志願兵検査 (刈田郡役所)	
74	T2.2.21	2	東京の大火 (神田三崎町)	
74	T2.2.21	2	不忘風	
74	T2.2.21	2	我社主催の自働車	
74	T2.2.21	2	塩釜金華山両神社参詣、松島遊覧団体	
74	T2.2.21	3	愛郷漫言 (六三)	在京・潜電子
74	T2.2.21	3	白石町外三ヶ村普通水利組合	
74	T2.2.21	3	白中柔剣試合	
74	T2.2.21	3	表彰された 佐藤こんにに紋服を贈る	
74	T2.2.21	3	衝口録 (続)	在仙・周水
74	T2.2.21	4	地方改良資料 (一)	新田勝寛
74	T2.2.21	4	千紅萬緑 (二五) 果樹栽培の続き	仙果
74	T2.2.21	4	爐邊閑話 (四)	仙台・菱翁稿
74	T2.2.21	4	白石町の学務委員会	
74	T2.2.21	4	本郡町村会議 (刈田郡役所)	
74	T2.2.21	4	商況 (正米・饅頭手製など)	
74	T2.2.21	5	槽火のけむり (つづき)	秋鴻散史
74	T2.2.21	5	東西南北	
74	T2.2.21	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 (四)	福德斎延寿
75	T2.3.1	1	山本内閣の成立	
75	T2.3.1	1	春の富士山 (写真)	
75	T2.3.1	1	文苑	双峯学人ほか作
75	T2.3.1	1	短文 うつりが	露香
75	T2.3.1	1	小説 弓町 (七)	萱野銀三郎
75	T2.3.1	2	地方改良資料 (二)	新田勝寛
75	T2.3.1	2	刈田郡ニ於ける大豆小豆産額調 (大正元年分)	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
75	T2.3.1	2	宮城県内務部（農作物の病虫害）	
75	T2.3.1	2	前白石警察署（佐藤康治郎氏、警部に昇進）	
75	T2.3.1	2	本県警務課（加藤逸郎氏、白石警察署勤務）	
75	T2.3.1	2	木地器講習	
75	T2.3.1	2	恩賜財団（済生会救療）	
75	T2.3.1	2	不忘風	
75	T2.3.1	3	愛郷漫言（六四）	在京・潜電子
75	T2.3.1	3	刈田郡の徴兵検査	
75	T2.3.1	3	製紙業に関する講話	
75	T2.3.1	3	白石町の壮丁	
75	T2.3.1	3	製麺講話会	
75	T2.3.1	3	白石町会（予算案討議）	
75	T2.3.1	3	白石町外九ヶ村組合会（県債応募に関する協議）	
75	T2.3.1	3	刈田郡参事会	
75	T2.3.1	3	刈田郡各青年団聯合委員会	
75	T2.3.1	3	稲播期確定	
75	T2.3.1	3	馬耕練習会（大平村）	
75	T2.3.1	3	将校演習（第二師団予備将校）	
75	T2.3.1	3	中学校寄宿舎開舎式	
75	T2.3.1	3	原蚕種製造場種繭提供	
75	T2.3.1	3	衝口録（続）	在仙・周水
75	T2.3.1	4	千紅萬緑（二六）果樹栽培の続き	仙果
75	T2.3.1	4	白石商業組合	渡邊佐吉委員長
75	T2.3.1	4	狂歌	在京・佐久間蛮山
75	T2.3.1	4	白石町の賭博	
75	T2.3.1	4	湯屋稼	
75	T2.3.1	4	婆々の詐欺窃盗	
75	T2.3.1	4	金華山塩釜両神社参詣・松島遊覧団体	
75	T2.3.1	4	浪界の泰斗東家楽遊の来白	
75	T2.3.1	4	商況（正米・外国米など）	
75	T2.3.1	5	小説 月光（二）	こすぎ生
75	T2.3.1	5	東西南北	
75	T2.3.1	5	大正式新講談：水戸黄門漫遊記（五）	福德斎延寿
76	T2.3.11	1	市町村会議員の撰挙	
76	T2.3.11	1	昨日日帆手祭を挙行されたる 鹽釜神社（写真）	
76	T2.3.11	1	文苑	佐藤麻山ほか作
76	T2.3.11	1	小説 月光（三）	こすぎ生
76	T2.3.11	2	地方改良資料（三）	新田勝寛
76	T2.3.11	2	刈田郡ニ於ケル果実産額（大正元年）	
76	T2.3.11	2	人（福島県・宮城県など人事異動）	
76	T2.3.11	2	東京通信 政争と銀行家	
76	T2.3.11	2	米作実収不信用	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
76	T2.3.11	2	養蚕桑樹と施肥	
76	T2.3.11	2	特産品博覧会	
76	T2.3.11	2	白中至道会	
76	T2.3.11	2	白中寄宿舍（開会式）	
76	T2.3.11	2	養蚕同業組合会（刈田郡役所）	
76	T2.3.11	2	製紙講話会	
76	T2.3.11	2	海軍兵身体検査	
76	T2.3.11	2	詐欺漢遊興して捕はる	
76	T2.3.11	3	国民の覚悟	五城・源修稿
76	T2.3.11	3	刈田柴田蚕種同業組合総会（白石町蚕業取締白石支所）	
76	T2.3.11	3	刈田仏教広済会発会式（専念寺）	
76	T2.3.11	3	新郎新婦（酒造家日下吉蔵氏長女ひろ子嬢披露宴）	
76	T2.3.11	3	宮小学校（母姉会）	
76	T2.3.11	3	衝口録（続）	在仙・周水
76	T2.3.11	4	梅窓漫筆	仙台・菱翁稿
76	T2.3.11	4	村上氏の模範村視察談（円田村長・村上勇吉氏）	
76	T2.3.11	4	農作物の病虫害駆除予防法	
76	T2.3.11	4	金華山塩釜両神社参詣団体	
76	T2.3.11	4	商況（正米・製粉など）	
76	T2.3.11	5	漫語	日米子
76	T2.3.11	5	白石町助役本木豊五郎君に質問す	岩澤銀三郎
76	T2.3.11	5	東西南北	
76	T2.3.11	5	大正式新講談：水戸黄門漫遊記（六）	福徳斎延寿
77	T2.3.21	1	論説：営業税法改正案	
77	T2.3.21	1	（写真、金華山・鹽釜両神社参詣・松島遊覧団体、斎藤写真館撮影）	
77	T2.3.21	1	文苑	菱所ほか作
77	T2.3.21	1	小説 月光（四）	こすぎ生
77	T2.3.21	2	地方改良資料（四）	新田勝寛
77	T2.3.21	2	鈴木白石消防組頭の名誉	
77	T2.3.21	2	白石消防の名誉	
77	T2.3.21	2	刈田郡教育会	
77	T2.3.21	2	刈田郡大正元年度県税地租割追加納入成績表	
77	T2.3.21	2	刈田郡小学校長会議	
77	T2.3.21	2	県立白石中学校（入学試験など）	
77	T2.3.21	2	不忘風	
77	T2.3.21	3	愛郷漫言（六五）	在京・潜電子
77	T2.3.21	3	町村会議員の撰挙	
77	T2.3.21	3	人（大河原区裁判事など人事異動）	
77	T2.3.21	3	刈田郡模範林	
77	T2.3.21	3	白中本年度卒業生（茶話懇親会）	
77	T2.3.21	3	大典拝観に就て	在讃岐・大槻寅治郎

号数	発行日	頁	タイトル	備考
77	T2.3.21	3	田中白石警察署長の談	
77	T2.3.21	3	衝口録（続）	在仙・周水
77	T2.3.21	4	先輩者の責任	日米子
77	T2.3.21	4	村上勇吉氏の模範村視察談（続き）	
77	T2.3.21	4	斎川の実父弟殺	
77	T2.3.21	4	新妓（短ヶ町・太田楼）	
77	T2.3.21	4	本郡円田村の壮丁	
77	T2.3.21	4	放尿科料一東	
77	T2.3.21	4	畦畔利用の効果	
77	T2.3.21	5	我社主催の参詣遊覧団体	
77	T2.3.21	5	東西南北	
77	T2.3.21	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第七回	福德斎延寿
78	T2.4.1	1	論説：白上鉄道建議案可決	
78	T2.4.1	1	俳句	宮城・一宿庵・鶯経宗匠吟
78	T2.4.1	1	松嶋五大堂 三月十日（写真、我社撮影）	
78	T2.4.1	1	旧派に非らざる正風派の不活	
78	T2.4.1	1	小説 月光（五）	こすぎ生
78	T2.4.1	2	先帝陛下に対し奉る白石記念事業私見	伊藤允美
78	T2.4.1	2	白石中学校卒業式	
78	T2.4.1	2	石くママ>実科高等女学校卒業式	
78	T2.4.1	2	白石第一中学校卒業証書授与式	
78	T2.4.1	2	不忘風	
78	T2.4.1	2	白石第一小学校優等生	
78	T2.4.1	3	車上スケッチ（一）	在京・潜電子
78	T2.4.1	3	白石第二小学校卒業証書授与式	
78	T2.4.1	3	白石小学校卒業生同級会	
78	T2.4.1	3	人（鉄道院福島運輸事務所など人事異動一覧）	
78	T2.4.1	3	本郡各町村逐鹿界	
78	T2.4.1	3	管野くママ>圓藏氏的美拳（刈田仏教広済会への寄付）	
78	T2.4.1	3	衝口録（続）	在仙・周水
78	T2.4.1	4	地方改良資料（五）	新田勝寛
78	T2.4.1	4	刈田郡聯合青年団委員会	
78	T2.4.1	4	菊池寅吉氏的美拳（祖父十郎左衛門の意志継承）	
78	T2.4.1	4	向田刈田郡長（新潟地方視察）	
78	T2.4.1	4	白石町収入役（伊達郡立子山村視察）	
78	T2.4.1	4	標本寄贈（大概寅治郎氏）	
78	T2.4.1	4	刈田郡畜牛検査	
78	T2.4.1	4	三名の酔漢告発さる	
78	T2.4.1	4	製炭事業の改良（小原村・七ヶ宿村）	
78	T2.4.1	5	梅窓漫筆（二）観心院殿の高徳	仙台・菱翁稿
78	T2.4.1	5	地方商業家に望む 子弟をそれ好遇せよ	在京・小野寺磊石
78	T2.4.1	5	東西南北	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
78	T2.4.1	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第八回	福德斎延寿
79	T2.4.11	1	社説：町村会議員 選挙期迫る	
79	T2.4.11	1	松島湾頭浚渫船より双子島を望む（写真）	我社写真班技師・斎藤憲一撮影
79	T2.4.11	1	文苑	源修生ほか作
79	T2.4.11	1	小説 月光（六）	こすぎ生
79	T2.4.11	2	商業家に告ぐ	源修生
79	T2.4.11	2	選挙取締訓示	
79	T2.4.11	2	本県より表彰されたる 本郡各小学校卒業生児童	
79	T2.4.11	2	白石基督教青年会	
79	T2.4.11	2	本郡各小学校児童成績	
79	T2.4.11	2	白石商工会発会式 並に第一回総会	
79	T2.4.11	2	旧派に非らざる正風派の不活（二）	
79	T2.4.11	3	車上スケッチ（二）	在京・潜電子
79	T2.4.11	3	本郡逐鹿界	
79	T2.4.11	3	本郡の大山火事	
79	T2.4.11	3	宮城絹糸同業組合 白石支部総会	
79	T2.4.11	3	徴兵署及検査日割	
79	T2.4.11	3	観音講（会員約百名、春秋二回講話会開催）	
79	T2.4.11	3	刈田郡に於ける春季清潔法	
79	T2.4.11	3	金齒入酌婦の逃走	
79	T2.4.11	3	花たより	
79	T2.4.11	3	東北の耕地整理	
79	T2.4.11	4	白石商工会	杉浦梧石
79	T2.4.11	4	刈田各宗協会（釈尊降誕会、専念寺）	
79	T2.4.11	4	飛行機の飛揚（土井式複葉飛行機）	
79	T2.4.11	4	白川村模範植林事業	
79	T2.4.11	4	大平村通信（大平尋常高等小学校修業・卒業証書授与式）	
79	T2.4.11	4	白川村通信（白川尋常小学校修業証書授与式）	
79	T2.4.11	5	地方商業家に望む 子弟をそれ好遇せよ	在京・小野寺磊石
79	T2.4.11	5	梅窓漫筆（三）理髪店の起始	仙台・菱翁稿
79	T2.4.11	5	話の種	磊石生
79	T2.4.11	5	在讃岐大槻寅治郎氏書翰の一節（白上鉄道）	
79	T2.4.11	5	東西南北	
79	T2.4.11	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第九回	福德斎延寿
80	T2.4.21	1	町村会議員選挙終了	
80	T2.4.21	1	文苑	双峯学人ほか作
80	T2.4.21	1	白石製糸機業株式会社観桜園遊仮装団（写真、技師・松田養之助撮影）	
80	T2.4.21	1	俳句	一宿庵鷺経宗匠吟
80	T2.4.21	1	小説 月光（七）	こすぎ生
80	T2.4.21	2	商業道德の涵養に就て	在讃岐・大槻寅次郎
80	T2.4.21	2	区裁判所の廃止	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
80	T2.4.21	2	白石町々会議員選挙（水野健治ほか当選）	
80	T2.4.21	2	白石第二校同窓会	
80	T2.4.21	2	静修学校（第十五回卒業証書授与式）	
80	T2.4.21	2	白石町に於ける春季「トラホーム」検診	
80	T2.4.21	2	旧派に非らざる正風派の不活（三）	
80	T2.4.21	2	不忘風	
80	T2.4.21	3	車上スケッチ（三）	在京・潜電子
80	T2.4.21	3	救世軍論	仙台・非法利済
80	T2.4.21	3	叙任（尋常高等小学校訓導）	
80	T2.4.21	3	拾物者の注意 遺失物取締法の改正	
80	T2.4.21	3	人力車の検査	
80	T2.4.21	3	白石製糸機業株式会社（観桜園遊会）	
80	T2.4.21	3	衝口録	在仙・周水
80	T2.4.21	4	教育問題	日米子
80	T2.4.21	4	白石商工会（続き）	杉浦梧石
80	T2.4.21	4	輪界の福音（自転車）	
80	T2.4.21	4	若き男よ女よ	在駒場・蟹の子
80	T2.4.21	4	商況（正米・北海小豆など）	
80	T2.4.21	5	梅窓漫筆（四）	仙台・菱翁稿
80	T2.4.21	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第十回	福德斎延寿
81	T2.5.1	1	寄書：排日問題の真相と根本的解決	
81	T2.5.1	1	松島白鷗楼庭前より遙かに湾内を望む（写真）	本社写真班技師・斎藤憲一（撮影）
81	T2.5.1	1	文苑	双峯眞逸ほか作
81	T2.5.1	1	小説 月光（八）	こすぎ生
81	T2.5.1	2	農民の天職	在讃岐・大槻寅治郎
81	T2.5.1	2	刈田郡各村会議員当選者	
81	T2.5.1	2	刈田郡現住戸口調・職業別現在戸数（大正元年十二月末日現在）	
81	T2.5.1	2	在仙刈田郷友会春季総会	
81	T2.5.1	3	車上スケッチ（四）	在京・潜電子
81	T2.5.1	3	白石町会（議員改選後の初議会）	
81	T2.5.1	3	白石町助役（本木豊五郎氏病氣退職）	
81	T2.5.1	3	白石町の鎮守祭（神明社）	
81	T2.5.1	3	白石輪友会（城山グラウンド、大競争会）	
81	T2.5.1	3	校医の任免（町医水野泰治氏兼任）	
81	T2.5.1	3	全国実業大会（鹿児島市で開催）	
81	T2.5.1	3	刈田郡桑園品評会	
81	T2.5.1	3	地方幼年学校生徒の来白（仙台より生徒百二十余名、修学旅行）	
81	T2.5.1	3	衝口録	在仙・周水
81	T2.5.1	4	県参事員の会計事務検査	
81	T2.5.1	4	福岡村消防組	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
81	T2.5.1	4	刈田郡に於ける種痘	
81	T2.5.1	4	宮消防組春季演習	
81	T2.5.1	4	途中下車駅制度廃止	
81	T2.5.1	4	名刀の窃取者	
81	T2.5.1	4	『白眉』の発刊(白石町)	
81	T2.5.1	4	商況(正米・白糯米)	
81	T2.5.1	5	日本漆工会第十一次漆工競技会(東京)	
81	T2.5.1	5	蚕桑彙報	
81	T2.5.1	5	一口噺	秋鴻生
81	T2.5.1	5	若き男よ女よ(続き)	在駒場・蟹の子
81	T2.5.1	5	予告(次回より新小説連載)	
81	T2.5.1	5	東西南北	
81	T2.5.1	6	大正式新講談:水戸黄門漫遊記 第十一回	福德斎延寿
82	T2.5.11	1	社説:排日案根本的解決	
82	T2.5.11	1	白石実科高等女学校第一回卒業生(写真、松田写真館撮影)	
82	T2.5.11	1	文苑	双峯散人ほか作
82	T2.5.11	1	小説 断案(一)	東都・袖の浦人
82	T2.5.11	2	地方改良資料(六)	新田勝寛
82	T2.5.11	2	刈田教育会(春季総会)	
82	T2.5.11	2	向田本郡長(志田郡古川町出張)	
82	T2.5.11	2	白石第二小学校母姉会	
82	T2.5.11	2	仙南四郡通信事務研究会(柴田郡役所)	
82	T2.5.11	2	渡邊実業銀行(認可・営業開始)	渡邊佐吉頭取
82	T2.5.11	2	排日問題研究会(日本基督教白石教会堂)	
82	T2.5.11	2	神明宮基金協議会	
82	T2.5.11	2	白石消防組の春季演習	
82	T2.5.11	3	車上スケッチ(五)	在京・潜電子
82	T2.5.11	3	郵便局の移転(下戸沢郵便局)	
82	T2.5.11	3	白石郵便局(職員採用)	
82	T2.5.11	3	叙任辞令(福岡村長ほか)	
82	T2.5.11	3	大正元年度(貸座敷収入額・遊客人員玉数調査結果)	
82	T2.5.11	3	自転車競争大会(白石輪友会主催)	
82	T2.5.11	3	十二村辰五郎氏逝く(白石町長など歴任)	
82	T2.5.11	3	長谷川榮氏令閨の訃(白石中学校教諭の妻ひる子氏)	
82	T2.5.11	3	本郡の大霜害 九分通り被害春蚕全滅	
82	T2.5.11	4	寄書:時局問題は国民に何を教るや	日米子
82	T2.5.11	4	千紅萬緑(二十五) 家庭衛生料理	仙果
82	T2.5.11	4	学生の乗車券割引	
82	T2.5.11	4	汽車時刻の改正	
82	T2.5.11	4	未恐るべき不良少年 十八歳にて窃盗前科者	
82	T2.5.11	4	商況(正米・下総大麦など)	
82	T2.5.11	5	裂帛一声(一) 義山公の仁慈	仙台・菱翁稿

号数	発行日	頁	タイトル	備考
82	T2.5.11	5	東西南北	
82	T2.5.11	5	松田式霜害予防器	
82	T2.5.11	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第十二回	福德斎延寿
83	T2.5.21	1	霜害善後策 桑園改良の急務	
83	T2.5.21	1	(写真、菅原写真館撮影)	
83	T2.5.21	1	文苑	双峰散史ほか作
83	T2.5.21	1	和歌	巨理素琴
83	T2.5.21	1	小説 断案 (二)	東都・袖浦の人
83	T2.5.21	2	未曾有の霜害	
83	T2.5.21	2	文学博士南條文雄氏来白 (白石中学校至道会)	
83	T2.5.21	2	町村財務主任書記会議 並に土地測量講習会 (大河原税務署)	
83	T2.5.21	2	日本赤十字社総会 (東京)	
83	T2.5.21	2	刈田郡町村事務研究会 (白石町役場)	
83	T2.5.21	2	不忘風	
83	T2.5.21	3	地方改良資料 (七)	新田勝寛
83	T2.5.21	3	日本赤十字社員の美挙 (菅野圓蔵ほか4名、各二百円の寄付)	
83	T2.5.21	3	柴田、刈田蚕種同業組合同	
83	T2.5.21	3	刈田嶽に降雪二回	
83	T2.5.21	3	刈田郡生産総額に対する霜害割合	
83	T2.5.21	3	生産総額ニ対スル結霜被害割合調 (宮城県刈田郡、大正二年五月九日調)	
83	T2.5.21	3	白中開校十四回創立記念式	
83	T2.5.21	3	渡邊実業銀行開業披露祝宴 (玉幸亭)	
83	T2.5.21	3	草刈露香氏逝く (小説弓町の作者・萱野銀三郎は草刈氏の佳号)	
83	T2.5.21	4	強兵論	杉浦梧石
83	T2.5.21	4	千紅萬緑 (二十六) 家庭衛生料理	仙果
83	T2.5.21	4	白中生徒の修学旅行 (東京・鎌倉など)	
83	T2.5.21	4	白石製絲機業株式会社総会	
83	T2.5.21	4	白石町料理同業組合同 (吉川亭)	
83	T2.5.21	4	火夫足を轆かる (越河駅)	
83	T2.5.21	4	汽車時刻の改正	別紙「白石駅発列車時刻表 (大正二年五月廿一日改正) を綴じる
83	T2.5.21	4	商況 (正米・下総畑稲など)	
83	T2.5.21	5	海外音信：回想記 (一) 絶信の理由	在布哇・佐藤貞蔵
83	T2.5.21	5	斎川村々会議員選挙異議の申立	
83	T2.5.21	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第十三回	福德斎延寿
84	T2.6.1	1	聖上の御不例	
84	T2.6.1	1	文苑	巨理素琴ほか作
84	T2.6.1	1	白川村生業扶助植林造成記念 (写真、斎藤写真館撮影)	
84	T2.6.1	1	俳句	河・華堂

号数	発行日	頁	タイトル	備考
84	T2.6.1	1	小説 断案 (三)	東都・袖浦の人
84	T2.6.1	2	地方改良資料 (八)	新田勝寛
84	T2.6.1	2	奥羽銀行同盟会 当町より三名出席 (山形市)	
84	T2.6.1	2	大正二年徴兵検査合格人員表	
84	T2.6.1	2	大正二年度徴兵検査終了	
84	T2.6.1	2	排日問題の成行	
84	T2.6.1	2	宮城県医師会 (創立総会、仙台市宮城病院)	
84	T2.6.1	2	大島大将の当駅通過 (大嶋義昌陸軍大将)	
84	T2.6.1	2	不忘風	
84	T2.6.1	3	愛郷漫言 (六六)	在京・潜電子
84	T2.6.1	3	准教員検定試験	
84	T2.6.1	3	森山周助氏の栄転 (大阪市南区育英高等学校)	
84	T2.6.1	3	盗難被害予防に就て 田中白石警察署長の談	
84	T2.6.1	3	苗の発育遅緩	
84	T2.6.1	3	横領犯人の捕縛	
84	T2.6.1	3	白石警察署に於けるトラホーム検診	
84	T2.6.1	3	白石町理髪業組合総会 (中町仙台屋)	
84	T2.6.1	3	蚕桑彙報	
84	T2.6.1	4	青年諸子に與ふ	在京・磊石
84	T2.6.1	4	千紅萬緑 (二十七) 家庭衛生料理	仙果
84	T2.6.1	4	農作物の病虫害駆除予防法 (続き)	
84	T2.6.1	4	村会議員選挙異議申立 (大鷹沢村)	
84	T2.6.1	4	商況 (正米・大豆など)	
84	T2.6.1	5	公德雜感	桂峯
84	T2.6.1	5	東西南北	
84	T2.6.1	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第十四回	福德斎延寿
85	T2.6.11	1	社説：東北と蚕業	
85	T2.6.11	1	小笠原流諸礼式講習会紀念 (写真、菅原写真館撮影)	
85	T2.6.11	1	文苑	松洲散人ほか作
85	T2.6.11	1	四月十五日夜花見の記	杉の舎梧石
85	T2.6.11	1	旧派に非らざる正風派の不活 (四)	
85	T2.6.11	2	農村救済策	
85	T2.6.11	2	大正二年度四月分刈田郡町村税徴収成績表	
85	T2.6.11	2	刈田郡に於ける米麦と養蚕との比較	
85	T2.6.11	2	小野技手の機関検査	
85	T2.6.11	2	刈田郡の畜牛検査	
85	T2.6.11	2	海軍志願兵の入団	
85	T2.6.11	2	不忘風	
85	T2.6.11	3	愛郷漫言 (六七)	
85	T2.6.11	3	大正二年度国税営業税前期収入歩合調	
85	T2.6.11	3	社務所の会合に就て	巨理晋
85	T2.6.11	3	小笠原流諸礼式講習会	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
85	T2.6.11	3	登記所長の送迎会	
85	T2.6.11	3	白石製糸機業株式会社（定時総会）	
85	T2.6.11	3	消防組員の金員授賞	
85	T2.6.11	3	溺死（大鷹沢村）	
85	T2.6.11	4	地方改良資料（九）	新田勝寛
85	T2.6.11	4	公德雑感（承前）	桂峯
85	T2.6.11	4	千紅萬緑（二十八）家庭衛生料理の続き	仙果
85	T2.6.11	4	商況（正米・白糶など）	
85	T2.6.11	5	閑話	後の桂峯
85	T2.6.11	5	農作物の病虫害駆除予防法（続き）	
85	T2.6.11	5	東西南北	
85	T2.6.11	5	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第十五回	福德斎延寿
86	T2.6.21	1	行政の大整理	
86	T2.6.21	1	白石町字郡山桃果園袋掛作業の実況（写真、斎藤写真館撮影）	園主・岡崎政治郎
86	T2.6.21	1	文苑	佐藤白江ほか作
86	T2.6.21	1	鳥の生活より（一）	在東都新佃嶋・萌伸之助
86	T2.6.21	2	本年春蚕予想 掃立減少収繭増加	農商務省統計課
86	T2.6.21	2	所得税調査委員選挙会（大河原税務署）	白石町・鈴木惣四郎ほか多数
86	T2.6.21	2	白石町外九ヶ村組合会委員（町村会議員改選の結果）	白石町・渡邊佐吉ほか多数
86	T2.6.21	2	伊達宗経男（片倉家へ見舞のため来白）	
86	T2.6.21	2	白石中学校長（伊藤允美氏、仙台より帰校）	
86	T2.6.21	2	白中教諭（菅野清吉氏、東京より帰校）	
86	T2.6.21	2	本郡視学（岡餘録氏、仙台より帰郡）	
86	T2.6.21	2	加藤兵十郎氏の名誉（大日本武徳会大会にて御令詞を賜る）	
86	T2.6.21	2	大日本山林会（第二十三回総会札幌開催につき）	
86	T2.6.21	2	加藤兵次氏の転任（加藤兵十郎氏令息、大日本農業株式会社技師長として京城へ赴任）	
86	T2.6.21	2	白中生徒の刈田嶽登山	
86	T2.6.21	2	白石町度量衡器検査	
86	T2.6.21	2	不忘風	
86	T2.6.21	2	東西南北	
86	T2.6.21	3	愛郷漫言（六八）	在京・潜電子
86	T2.6.21	3	町村税徴収成績	
86	T2.6.21	3	鷹大澤村の植林事業	
86	T2.6.21	3	感心な役場書記	
86	T2.6.21	3	不良青年（浴室より四円金を掻浚ひ説諭放還）	
86	T2.6.21	3	土崩（小原新道第一道門附近）	
86	T2.6.21	3	女子手芸講習会（白石町専念寺）	
86	T2.6.21	3	一筆放言	無号子
86	T2.6.21	4	衝口録	在大阪・周水
86	T2.6.21	4	寄書：蔬菜の栽培に就て	宮のメガネ生

号数	発行日	頁	タイトル	備考
86	T2.6.21	4	金融界	
86	T2.6.21	4	商況（新蕪・正米など）	
86	T2.6.21	5	夜曲の頃	在早稲田・小嶋幸治
86	T2.6.21	5	東西南北	
86	T2.6.21	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第十六回	福德斎延寿
86	T2.6.21	6	（大河原のHSさまへ）	佐竹秋鴻
87	T2.7.1	1	制度整理観（山本内閣と地方自治）	在京記者・磊石
87	T2.7.1	1	白石川の鮎漁川開本日より（写真、斎藤写真館撮影）	
87	T2.7.1	1	文苑	佐藤白江ほか作
87	T2.7.1	1	和歌	藤原の精明ほか作
87	T2.7.1	1	俳句	俳泉・作
87	T2.7.1	1	鳥の生活より（二）	在東都新佃島・萌伸之助
87	T2.7.1	2	家庭の出発点は夫婦	在讃岐・大槻寅治郎
87	T2.7.1	2	大正二年度刈田郡各町村歳入出予算額表	
87	T2.7.1	2	白石中学校校友会文芸大会	来賓・片倉男爵
87	T2.7.1	2	矢内校長の退職（白石第一小学校長・矢内彌一郎）	
87	T2.7.1	2	所得税調査委員撰挙（柴田・刈田・伊具三郡）	竹川重右エ門ほか5名当選
87	T2.7.1	2	不忘風	
87	T2.7.1	2	人名救助者の授賞	
87	T2.7.1	3	随筆（一）（二）（白石中学校弁論部大会）	日米子
87	T2.7.1	3	麦落しの新工夫（白石町字鷹巣・遠藤亀吉）	
87	T2.7.1	3	火薬爆発 婦人の惨死（大平村森合、煙火製造工場）	
87	T2.7.1	3	滋養菓子界の大王（斎川村佐藤治平氏、孫太郎虫）	
87	T2.7.1	3	窃盗犯人の捕縛 押送途中の珍談	鎌先温泉
87	T2.7.1	3	小女の川流 十三才の少年に救揚らる（白石町字柳町）	
87	T2.7.1	4	学生欄	水上歌代ほか作
87	T2.7.1	4	夜曲の頃（上）第一夜	在早稲田・小島幸治
87	T2.7.1	4	帝劇と新富座 山田霞帯氏に（上）	東都・鈴木松雄
87	T2.7.1	4	商況（新蕪・北海小豆など）	
87	T2.7.1	4	社告（学生欄への投稿案内）	白石実業新報社編集部
87	T2.7.1	5	海外音信（二）現時の二大問題	在布哇・佐藤貞蔵
87	T2.7.1	5	地方商業家に望む	在京・磊石生
87	T2.7.1	5	東西南北	
87	T2.7.1	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第十七回	福德斎延寿
88	T2.7.11	1	有栖川宮殿下薨去	
88	T2.7.11	1	文苑	双峯学人ほか作
88	T2.7.11	1	白石川の清流（写真、本社写真班撮影）	
88	T2.7.11	1	俳句	大槻月峯
88	T2.7.11	1	刈田風土記（一）（松川の流域・遠刈田温泉など）	在大阪・周水
88	T2.7.11	2	地方改良資料 静岡県賀茂郡稲取村故田村又吉翁の談話の大要（一）	新町<ママ>勝寛氏・寄稿
88	T2.7.11	2	農商務省主催林野講習会（第三回、仙台）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
88	T2.7.11	2	大日本山林会（第二十三回総会札幌開催につき）	
88	T2.7.11	2	白石町外九ヶ村組合会（刈田郡役所）	
88	T2.7.11	2	社告（新報代・広告料払込につき）	白石実業新報社・会計部
88	T2.7.11	2	陸軍簡閲点呼（白石第二小学校ほか）	
88	T2.7.11	2	和泉、安積両氏の叙勲（和泉辰治、安積公）	
88	T2.7.11	2	寄贈（英国海軍協会年報）	
88	T2.7.11	2	不忘風	
88	T2.7.11	2	相馬の野馬追祭	
88	T2.7.11	2	科料一束	
88	T2.7.11	3	愛郷漫言（六九）	在京・潜電子
88	T2.7.11	3	矢内前校長の頌表に就て（白石第一小学校・矢内彌一郎氏、矢内先生謝恩会發起旨趣書）	
88	T2.7.11	3	町村役場の執務時間（7月11日より9月10日、午前8時執務・正午退場）	
88	T2.7.11	3	朝鮮守備隊の帰還（第二師団230名余り）	
88	T2.7.11	3	白石基督教青年会（岩淵新治氏の演説ほか）	
88	T2.7.11	3	白中校の撃剣大会	
88	T2.7.11	3	衝口録（承前）	在大阪・周水
88	T2.7.11	4	学生欄（教育の實際的效果）	在京都帝国大学・木村惇
88	T2.7.11	4	名無草	仙台・菊池紅花
88	T2.7.11	4	汽車一百里	在京・小嶋幸治
88	T2.7.11	4	夏の夕ぐれ	青木良吉
88	T2.7.11	4	柳町の従姉に（一）	在京・きよつぐ
88	T2.7.11	4	商況（生糸・正米など）	
88	T2.7.11	5	夜曲の頃（下）第一夜	在早稲田・小島幸治
88	T2.7.11	5	兼題 心、螢	高橋ゆん子
88	T2.7.11	5	鳥の生活より（三）	在東都新佃島・萌伸之助
88	T2.7.11	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第十七回	福德斎延寿
89	T2.7.21	1	近來の快拳（前白石第一小学校長・矢内彌一郎氏）	
89	T2.7.21	1	白石町外三ヶ村白石普通水利組合用水路取入口完成の実況（写真）	
89	T2.7.21	1	文苑	越河・渡邊華堂ほか作
89	T2.7.21	1	和歌	亘理泰琴ほか作
89	T2.7.21	1	柳町の従姉（二）	在京・きよつぐ
89	T2.7.21	2	地方改良資料 静岡県賀茂郡稲取村故田村又吉翁の談話の 大要（二）	
89	T2.7.21	2	大正二年度刈田郡各町村々税収入内訳表	
89	T2.7.21	2	生糸輸出額	
89	T2.7.21	2	明治天皇御一年祭（城山で挙行）	
89	T2.7.21	2	故有栖川宮殿下の遙拝式	
89	T2.7.21	2	白石中学校（遙拝式など）	
89	T2.7.21	2	白石第一第二小学校（遙拝式執行）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
89	T2.7.21	2	齋川村（故有栖川宮殿下哀悼のため田村神社において玉串奉拝）	
89	T2.7.21	2	不忘風	
89	T2.7.21	2	御即位式参拝会員募集	
89	T2.7.21	3	寄書：新任校長を歓迎す	一町民
89	T2.7.21	3	新任白石小学校長（山内勝治郎氏）	
89	T2.7.21	3	白石中学校至道会（伊藤校長など講演）	
89	T2.7.21	3	刈田郡教育会夏季講習会（白石第二小学校）	
89	T2.7.21	3	白石商業銀行総会（定時株主総会）	
89	T2.7.21	3	白石銀行本期成績と総会	
89	T2.7.21	3	本所銀行仙台代理店（越河・耕野に取扱所設置）	
89	T2.7.21	3	衝口録（承前）	在大坂・周水
89	T2.7.21	3	学生欄（教育の実際的効果）	在京都帝国大学・木村惇
89	T2.7.21	4	感想（上）	鈴木松雄
89	T2.7.21	4	商機商略（一）	在讃岐・月峯
89	T2.7.21	4	商況（生糸・正米など）	
89	T2.7.21	4	株式会社渡邊実業銀行（決算報告）	在京・きよつぐ
89	T2.7.21	5	夏の夜の音	在京・半古老
89	T2.7.21	5	詩社詠草「鳥」	中野與三郎ほか5名作
89	T2.7.21	6	兼題 心、蜩	高橋ゆん子
89	T2.7.21	4	鳥の生活より（三）	在東都新佃島・崩伸之助
89	T2.7.21	4	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第十九回	福德斎延寿
90	T2.8.1	1	油断大敵 夏季の衛生に就て	
90	T2.8.1	1	鎌先温泉不動滝の名勝（写真、本社写真班撮影）	
90	T2.8.1	1	文苑	佐藤麻山ほか作
90	T2.8.1	1	俳句	俳泉ほか作
90	T2.8.1	1	小説 美津子（一）	岡本蔦翠
90	T2.8.1	2	地方改良資料 静岡県賀茂郡稲取村故田村又吉翁の談話の大要（三）	新田勝寛氏寄稿
90	T2.8.1	2	白石町の遙拝式（城山公園広場）	
90	T2.8.1	2	白上鉄道測量隊来る（鉄道院一行15名）	
90	T2.8.1	2	刈田各宗協会（常林寺、明治天皇御一年聖忌）	
90	T2.8.1	2	神職講習会（本県内務部）	
90	T2.8.1	2	壮丁のトラホーム検診（白石町トラホーム検診治療所）	
90	T2.8.1	2	本年は豊作疑ひなし	
90	T2.8.1	2	秋蚕掃立を昨年倍	
90	T2.8.1	2	秋蒔大根 種子の菌核に就て	
90	T2.8.1	2	教育界（夏季休業、遙拝式、学期試験）	
90	T2.8.1	2	東西南北	
90	T2.8.1	3	白石製糸会社の現状に就き株主諸君の猛省を促す（上）	在京・潜電子
90	T2.8.1	3	吉林行	在満州長春・川村小三郎
90	T2.8.1	3	田中白石警察署長の談（赤痢病防備）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
90	T2.8.1	3	白石町の馬市	
90	T2.8.1	3	孫太郎煎餅の売出し（斎川）	
90	T2.8.1	3	基督教青年会（例会開催）	
90	T2.8.1	3	夏期休暇（男女学生に常識修養を促す）	日米子
90	T2.8.1	4	御即位式拝観会員の募集に就て	在讃岐・大槻寅治郎
90	T2.8.1	4	さらば牧師様 此一編を捧げて私は教会を去ります	白石長町・菊地東花
90	T2.8.1	4	臨時清潔法	
90	T2.8.1	4	商機商略（二）	在讃岐・月峰
90	T2.8.1	4	商況（生糸・正米など）	
90	T2.8.1	5	学生欄：柳町の従姉に（三）	在京・きよつぐ
90	T2.8.1	5	感想（下）	鈴木松雄
90	T2.8.1	5	荒廃	長袋より
90	T2.8.1	5	わがすさみゆく	長袋より
90	T2.8.1	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第二十回	福德斎延寿
90	T2.8.1	6	御即位式拝観会員募集	白石実業新報社
91	T2.8.11	1	白上鉄道線路の実測 地方有志の奮起を望む	
91	T2.8.11	1	汽笛一声 東北本線北白川成山墜道<ママ>（写真、本社写真班撮影）	
91	T2.8.11	1	文苑	佐藤白江・作
91	T2.8.11	1	和歌	亘理晋ほか作
91	T2.8.11	1	懐旧の情	かへで業
91	T2.8.11	2	地方改良資料 静岡県賀茂郡稲取村故田村又吉翁の談話の 大要（四）	新田勝寛氏寄稿
91	T2.8.11	2	白上鉄道線路実測着手（鉄道院一行15名）	
91	T2.8.11	2	白石中学校と奉護庫	
91	T2.8.11	2	人口一万以上の市町（東北六県）	白石町約9960名
91	T2.8.11	2	大暑に於ける稲作の状況	
91	T2.8.11	2	本年麦作の良好 天候順調に復せし為め	
91	T2.8.11	2	巡査の授賞（県知事より賞与）	
91	T2.8.11	2	大正三年度壮丁トラホーム検診（白石町トラホーム検診所）	
91	T2.8.11	2	不忘風	
91	T2.8.11	3	白石製糸会社の現状に就き株主諸君の猛省を促す（下）	在京・潜電子
91	T2.8.11	3	銷夏漫録	前代議士・斎藤二郎君
91	T2.8.11	3	白中教員の動静	
91	T2.8.11	3	加藤善八氏の死去（元白石第一小学校教員）	
91	T2.8.11	3	刈田風土記（承前）（蔵王山）	在大阪・周水
91	T2.8.11	4	学生欄：ポルテスコー溪谷の歌（英語原文掲載）	小島幸治・訳
91	T2.8.11	4	逃亡者の手紙（武田清水君へ）（一）	萌伸之助<ママ>
91	T2.8.11	4	雑報：白石中学校卒業生最近の情况	
91	T2.8.11	4	キ印の汽車往生 警官に救はれて一命を取止む	
91	T2.8.11	4	御即位式拝観会員募集	
91	T2.8.11	4	害虫駆除の督励 稲作業者の注意	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
91	T2.8.11	4	商機商略(三)	在讃岐・月峰
91	T2.8.11	4	生糸好況	
91	T2.8.11	4	商況(生糸・饅頭など)	
91	T2.8.11	5	小名浜の海岸より(第一信)	佐竹盛次
91	T2.8.11	5	富の分配不平均害	在讃岐・大槻月峰
91	T2.8.11	5	夏の夜の音(続き)	在京・半古老
91	T2.8.11	6	大正式新講談:水戸黄門漫遊記 第廿一回	福徳斎延寿
91	T2.8.11	6	御即位式拝観会員募集	白石実業新報社
91	T2.8.11	6	【91号つづき】「東京茂木商報」第50号(大正2年8月20日発行)	91号と92号の間に綴る
92	T2.8.21	1	製麺界の普請 当業者の猛省を促す	
92	T2.8.21	1	白石中学校学生の水泳練習(写真、斎藤写真館撮影)	
92	T2.8.21	1	文苑	佐藤雄治ほか作
92	T2.8.21	1	俳句	松窓生ほか作
92	T2.8.21	1	心波録	白石清水の里・呑海坊
92	T2.8.21	2	地方改良資料 静岡県賀茂郡稲取村故田村又吉翁の談話の大要(五)	新田勝寛氏寄稿
92	T2.8.21	2	鉄道院白石駅乗降人員及其収入	
92	T2.8.21	2	刈田郡教育会夏季講習会(白石第二小学校)	
92	T2.8.21	2	衛生幻灯大講演会(専念寺)	
92	T2.8.21	2	園芸講話会 農商務省技師の講演(石原助熊氏)	
92	T2.8.21	2	局長の任命(白石郵便局長)	
92	T2.8.21	2	宮郵便局長(阿部養治氏任命)	
92	T2.8.21	2	巡査の任命	
92	T2.8.21	2	馬政局審査	
92	T2.8.21	2	奥羽六県聯合醬油品評会(仙台市で開催予定)	
92	T2.8.21	2	不忘風	
92	T2.8.21	2	教会の親睦会(白石教会)	
92	T2.8.21	2	齋藤良三氏当選(北海道道会議員、齋藤二郎氏の令弟)	
92	T2.8.21	3	再び白上鉄道に就て	在讃岐・大槻寅次郎<ママ>
92	T2.8.21	3	銷夏漫録 余が銷夏法	在京・潜電子・佐藤勇吉君
92	T2.8.21	3	水団扇 宗紙戻し	紅白子・白井源平君
92	T2.8.21	3	白石消防組の臨時点検	
92	T2.8.21	3	十六日の藪入(延命寺・白石川・寿座の大入り)	
92	T2.8.21	3	御山繁昌(羽前三山および刈田嶽)	
92	T2.8.21	4	学生欄:二本の樹(英語原文掲載)	小島幸次<ママ>・訳
92	T2.8.21	4	物価騰貴の生活難問題(一)	在京都帝大・木村惇
92	T2.8.21	4	白石町の公園に就て(一)	在東京帝大・幽史樓
92	T2.8.21	4	浮き世の水(創作)	翠村生・作
92	T2.8.21	4	秋蚕良好	
92	T2.8.21	4	稲益々好望	
92	T2.8.21	4	右往左往	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
92	T2.8.21	4	生糸益々好況	
92	T2.8.21	4	商況（生糸・外米ほか）	
92	T2.8.21	5	刈田風土記（承前）（賽河原・噴火口・蔵王山）	在大阪・周水
92	T2.8.21	5	亡友S、Y君の墓に詣で、	富留多奴喜生
92	T2.8.21	5	東西南北	
92	T2.8.21	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第廿二回	福德斎延寿
92	T2.8.21	6	謹告 謝恩会発起趣意書（矢内彌一郎先生）	（同会）発起人
93	T2.9.1	1	本日は二百十日（稲作景況）	
93	T2.9.1	1	八月廿七日流失したる白石大橋の惨状（写真、本社写真班・齋藤技師撮影）	
93	T2.9.1	1	文苑	山内城石ほか作
93	T2.9.1	1	和歌	亘理素翠ほか作
93	T2.9.1	1	小説 美津子（二）	岡本篤翠
93	T2.9.1	2	暴風雨大惨害 稲田の泥海 家屋の流失 死傷あり	
93	T2.9.1	2	本郡各村の水害惨状（福岡村ほか）	
93	T2.9.1	2	鉄道の不通	
93	T2.9.1	3	地方改良資料 静岡県賀茂郡稲取村故田村又吉翁の談話の大要（六）	新田勝寛氏寄稿
93	T2.9.1	3	愛郷漫言（七〇）	在京・潜電子
93	T2.9.1	3	天長の祝日と教科書	
93	T2.9.1	3	白石中学校（第二学期始業式など）	
93	T2.9.1	3	苗代の跡作奨励	
93	T2.9.1	3	白石消防の活動（白石川大橋流失など）	
93	T2.9.1	3	寿丸農園の記念売出し	
93	T2.9.1	3	刈田風土記（承前）（刈田岳）	在大阪・周水
93	T2.9.1	4	学生欄：老人等彼等自らを水中に嘆美す（英語原文掲載）	小島幸治・訳
93	T2.9.1	4	物価騰貴の生活難問題（二）	在京都帝大・木村惇
93	T2.9.1	4	燈籠	白石・佐藤千春子
93	T2.9.1	4	寸感	白石清水の里・山田呑海
93	T2.9.1	4	新刊紹介（模範農村玉瀧村ほか）	
93	T2.9.1	4	正誤（前号学生欄記事につき）	
93	T2.9.1	4	取消（前号、宮郵便局長の辞職は誤報）	
93	T2.9.1	4	生糸益々活況	
93	T2.9.1	4	商況（正米・白麦など）	
93	T2.9.1	5	短篇小説 親友	青木八重治
93	T2.9.1	5	名号に就て（一）	時宗の小僧
93	T2.9.1	5	東西南北	
93	T2.9.1	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第廿三回	福德斎延寿
93	T2.9.1	6	謹告 謝恩会発起趣意書（矢内彌一郎先生）	（同会）発起人
94	T2.9.11	1	根本的改修を要す（白石川など河川工事）	
94	T2.9.11	1	白石大河原間臨時陸送便運搬の実況（写真、本社写真班・山田技師撮影）	
94	T2.9.11	1	文苑	山内城石・作

号数	発行日	頁	タイトル	備考
94	T2.9.11	1	和歌	巨理素琴、佐藤麻山・作
94	T2.9.11	1	小説 美津子 (三)	岡本蔦翠
94	T2.9.11	2	地方改良資料 (七) 静岡県加茂郡稲取村故田村又吉翁談話の概要 (六)	新田勝寛氏寄稿
94	T2.9.11	2	暴風雨稲作被害調	
94	T2.9.11	2	原内務大臣の当駅通過	
94	T2.9.11	2	白中近事 (片倉男爵の特志、御聖影奉安金庫など)	
94	T2.9.11	2	不忘風	
94	T2.9.11	2	生糸は頼弱	
94	T2.9.11	3	愛郷漫言 (七一)	在京・潜電子
94	T2.9.11	3	越河村の財産統一	
94	T2.9.11	3	孫太郎煎餅の好況	
94	T2.9.11	3	盗難 (東置賜郡屋代村)	
94	T2.9.11	3	盗難頻々 (白石町)	
94	T2.9.11	3	可憐なる孤児の救助 (白石停車場附近)	
94	T2.9.11	3	窃盗前科二犯の賊	
94	T2.9.11	3	水害に於ける白石郵便局の活動	
94	T2.9.11	4	学生欄：物価騰貴の生活難問題 (三)	在京都帝大・木村惇
94	T2.9.11	4	不忘校諸兄に	在小樽高商・翠村生
94	T2.9.11	4	白石町の公園に就て (二)	在東京帝大・幽史樓
94	T2.9.11	5	雑信 (七ヶ宿村、白上線の測量隊など)	
94	T2.9.11	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第二十四回	福徳斎延寿
94	T2.9.11	6	謹告 (今回の大風水害につき)	於東京・齋藤二郎
95	T2.9.21	1	松島公園記念大会	
95	T2.9.21	1	松島パークホテル (写真)	
95	T2.9.21	1	(漢詩、洪水所見ほか)	佐藤麻山ほか・作
95	T2.9.21	1	和歌	美哉・作
95	T2.9.21	1	小説 美津子 (四)	岡本蔦翠
95	T2.9.21	2	地方改良資料 (八) 静岡県加茂郡稲取村故田村又吉翁談話の概要	新田勝寛氏寄稿
95	T2.9.21	2	本郡町村費所属水害調査表	
95	T2.9.21	2	剰余金の計算	
95	T2.9.21	2	本郡町村費に罹る被害	
95	T2.9.21	2	本郡各町村青年団聯合総会 (白石第二小学校)	
95	T2.9.21	2	白中近事 (数学教授法研究会など)	
95	T2.9.21	2	不忘風	
95	T2.9.21	3	愛郷漫言 (七二)	
95	T2.9.21	3	武士道叢話	在京・佐藤謹堂寄贈
95	T2.9.21	3	松島公園記念大会	
95	T2.9.21	3	稗抜と排水溝の浚渫	
95	T2.9.21	3	小山己之助翁逝く (料理店相川本店主人)	
95	T2.9.21	3	観心寺詣で (上)	在大阪・周水

号数	発行日	頁	タイトル	備考
95	T2.9.21	4	学生欄：物価騰貴の生活難問題（四）	在京都帝大・木村惇
95	T2.9.21	4	霊山に登るの記	T S 生
95	T2.9.21	4	松島記念大会彙報	
95	T2.9.21	4	全国煙火大会（松島公園記念大会）	
95	T2.9.21	4	スプリングの諸君へ	山田霞帯
95	T2.9.21	4	商況（生糸・正米など）	
95	T2.9.21	5	材木岩の追憶	白石・佐藤千春子
95	T2.9.21	5	稲作状況	
95	T2.9.21	5	謹告（今回の大風水害につき）	於東京・齋藤二郎
95	T2.9.21	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第二十五回	福德斎延寿
96	T2.10.1	1	記念大会の成功（松島経営記念大会）	
96	T2.10.1	1	京坂記者団の鎌先温泉に於ける記念撮影（写真、松田写真館撮影）	
96	T2.10.1	1	武士道叢話 織田右府端午石合戦	佐藤謙堂<ママ>寄贈
96	T2.10.1	1	文苑（漢詩）	謙堂・佐藤孝郷ほか作
96	T2.10.1	1	俳句	内木庵、俳泉・作
96	T2.10.1	1	小説 美津子（五）	岡本葛翠
96	T2.10.1	2	地方改良資料（九） 静岡県加茂郡稲取村故田村又吉翁談話の概要	新田勝寛氏寄稿
96	T2.10.1	2	大正二年度自四月・至七月町村税整理成績調	
96	T2.10.1	2	水害御救恤	
96	T2.10.1	2	東北帝国大学開学式（写真あり）	
96	T2.10.1	2	白中近事（白石中学校文芸大会・至道会）	
96	T2.10.1	3	京阪記者団の鎌先一泊	
96	T2.10.1	3	本社主催 松嶋遊覧団体	
96	T2.10.1	3	刈田郡聯合青年団総会（白石第二小学校）	
96	T2.10.1	3	鎮守神明宮基金	
96	T2.10.1	3	白石日曜学校生徒病院を見舞ふ	
96	T2.10.1	3	二才駒の競売	
96	T2.10.1	4	学生欄：物価騰貴の生活難問題（五）	在京都帝大・木村惇
96	T2.10.1	4	白石町の公園に就て（三）	在東京帝大・幽史樓
96	T2.10.1	4	名号に就て（二）	時宗の小僧
96	T2.10.1	4	白石実科高等女学校（第二回創立記念式）	
96	T2.10.1	4	商況（生糸・白米標準相場など）	
96	T2.10.1	5	観心寺詣で（下）	在大阪・周水
96	T2.10.1	5	入営者の弊風（一）虚飾の弊	
96	T2.10.1	5	ブランコ往生	白石・佐藤千春子
96	T2.10.1	5	刈田郡聯合青年団の情况	
96	T2.10.1	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第二十六回	福德斎延寿
97	T2.10.11	1	天長節 盛大に奉祝すべし	
97	T2.10.11	1	文苑	双峯学人ほか作
97	T2.10.11	1	和歌	美哉ほか作

号数	発行日	頁	タイトル	備考
97	T2.10.11	1	俳句	小野寺磊石・作
97	T2.10.11	1	小説 美津子(六)	岡本蔦翠
97	T2.10.11	2	地方改良資料(十) 静岡県加茂郡稲取村故田村又吉翁談話の概要	新田勝寛氏寄稿
97	T2.10.11	2	大正二年度八月分刈田郡町村税徴収成績調	
97	T2.10.11	2	袁世凱氏(支那共和国初代大統領に当選)	
97	T2.10.11	2	支那共和国承認	
97	T2.10.11	2	騎兵の演習(白石町宿営)	
97	T2.10.11	2	聯隊区副官の事務視察(刈田郡役所および町村役場)	
97	T2.10.11	2	斎川村役場(収入役末永嘉平氏)	
97	T2.10.11	2	斎川小学校母姉会	
97	T2.10.11	2	越河村の一小会(秋季総会)	
97	T2.10.11	2	本郡稲作は半作?	
97	T2.10.11	2	白中近事(文芸大会・至道会・第一次天長節)	
97	T2.10.11	2	不忘風	
97	T2.10.11	3	白石町の公園に就て(三)	在東京帝大・幽史樓
97	T2.10.11	3	愛郷漫言(七三)	在京・潜電子
97	T2.10.11	3	宮村無限責任信用組合成る	阿部傳次郎組長
97	T2.10.11	3	A B生に与ふ	C D生
97	T2.10.11	4	文芸欄:白石町の公園に就て(四)	在東京帝大・幽史樓
97	T2.10.11	4	名号に就て(三)	時宗の小僧
97	T2.10.11	4	麦の播種に就て 早蒔を励行せよ	
97	T2.10.11	4	謡曲会(神明社務所)	
97	T2.10.11	4	刈田郡理髮組合同会(秋季総会)	横山敬造組長
97	T2.10.11	4	商況(生糸・白糯米)	
97	T2.10.11	5	母国訪問談(一) 米国より日本まで	川村源治
97	T2.10.11	5	本紙第壹百号紀念	白石実業新報社
97	T2.10.11	5	東西南北	
97	T2.10.11	6	大正式新講談:水戸黄門漫遊記 第二十七回	福德齋延寿
98	T2.10.21	1	晩稲は終に不結果 愛国種は全廢すべし	
98	T2.10.21	1	秋の松島(写真)	
98	T2.10.21	1	文苑	双峯眞逸・作
98	T2.10.21	1	和歌	佐藤精明、美哉・作
98	T2.10.21	1	小説 美津子(七)	岡本蔦翠
98	T2.10.21	2	地方改良資料(一一) 静岡県加茂郡稲取村故田村又吉翁談話の概要	新田勝寛氏寄稿
98	T2.10.21	2	内務省技師の災害地検査	
98	T2.10.21	2	刈田郡教育会(白石第一小学校、教育研究会開催)	
98	T2.10.21	2	大正二年度九月分刈田郡町村税徴収成績表	
98	T2.10.21	2	在郷軍人団白石分会招魂祭(常林寺)	
98	T2.10.21	2	大正博覧会(東京上野公園)	
98	T2.10.21	2	白石中校大講演会(大槻文学博士、片倉男爵)	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
98	T2.10.21	2	母国訪問団（川村源治氏）	
98	T2.10.21	2	県会議員撰挙人名簿の閲覧	
98	T2.10.21	3	白石中学校至道会（創立満二周年）	
98	T2.10.21	3	本郡円田村々民大会	
98	T2.10.21	4	兵児謡典故及頼翁詩	佐藤謙堂
98	T2.10.21	4	入営者の弊風（二）酒宴の弊	
98	T2.10.21	4	白石町益岡神社（秋季例祭）	
98	T2.10.21	4	騎兵第廿四聯隊（当地宿泊）	
98	T2.10.21	4	若松聯隊（当地宿泊）	
98	T2.10.21	4	当信寺基本財産の成立	檀徒惣代人・菅野圓藏氏
98	T2.10.21	4	小原村の失火	
98	T2.10.21	4	自転車ドロ 一家赤裸々の貧を苦しむ	
98	T2.10.21	4	本年の米作は如何 農商務省農事試験場報告課長の談	在京・磊石生速記
98	T2.10.21	4	商況（生糸・正米など）	
98	T2.10.21	5	母国訪問談（二）米国より日本まで	川村源治
98	T2.10.21	5	東西南北	
98	T2.10.21	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第二十八回	福徳斎延寿
98	T2.10.21	6	本紙第壹百号紀念	白石実業新報社
99	T2.11.1	1	麦作の奨励 農民勤勉なれ	
99	T2.11.1	1	落葉（写真）	
99	T2.11.1	1	文苑	山内恒知ほか作
99	T2.11.1	1	和歌	藤の精明ほか作
99	T2.11.1	1	秋の日に（一）	東都・こすぎ生
99	T2.11.1	2	地方改良資料（一二） 静岡県加茂郡稲取村故田村又吉翁 談話の大意	新田勝寛氏寄稿
99	T2.11.1	2	天長節祝賀 昼は旗行列＝夜は提灯行列 未曾有の賑ひ	
99	T2.11.1	2	白石中学校秋季大運動会	
99	T2.11.1	2	白中の新運動場	
99	T2.11.1	2	白中聖影奉安金庫	
99	T2.11.1	2	矢内先生謝恩会（白石第一小学校）	
99	T2.11.1	2	県内中等学校聯合武術大会	
99	T2.11.1	2	産米改良委員協議会（刈田郡役所）	
99	T2.11.1	2	不忘威	
99	T2.11.1	3	愛郷漫言（七四）	在京・潜電子
99	T2.11.1	3	神戸主催貿易製品共進会（神戸市湊川公園）	
99	T2.11.1	3	馬耕練習会（福岡村）	
99	T2.11.1	3	特志家の二毛作地視察	
99	T2.11.1	3	東北貯金株式会社（白石町に出張所開設）	
99	T2.11.1	3	安部式製旗器の発明（白石町鉄工職・安部昌氏）	
99	T2.11.1	3	宇治の一日	在大坂・周水
99	T2.11.1	4	入営者の弊風（三）華美の弊	
99	T2.11.1	4	阿弥陀堂に詣ずの記（上）	S T 生

号数	発行日	頁	タイトル	備考
99	T2.11.1	4	ギリシャ史手抄	早大予科文科・小嶋幸治
99	T2.11.1	4	北海道より(二)	小樽・孤翠生
99	T2.11.1	4	白石商工会(決済日繰上げ)	
99	T2.11.1	4	白石商業組合(店員奨励授賞式)	
99	T2.11.1	4	商況(生糸・饅頭など)	
99	T2.11.1	5	母国訪問談(三) 米国より日本まで	川村源治
99	T2.11.1	5	名号に就て(四)	時宗の小僧
99	T2.11.1	5	東西南北	G O生
99	T2.11.1	6	大正式新講談:水戸黄門漫遊記 第二十九回	福德斎延寿
99	T2.11.1	6	本紙第壹百号記念	白石実業新報社
100	T2.11.11	1	社説 本紙壹百号の辞	
100	T2.11.11	1	文苑	麻山・佐藤雄治ほか作
100	T2.11.11	1	和歌	源修一ほか作
100	T2.11.11	2	堅忍持久	在東京・前代議士・齋藤二郎
100	T2.11.11	2	祝辞	刈田郡長・向田幸蔵
100	T2.11.11	2	祝辞	白石町長・水野健治
100	T2.11.11	2	祝辞	宮城県参事会員・村上勇吉
100	T2.11.11	2	祝辞	白石商業銀行頭取・渡邊佐吉
100	T2.11.11	2	祝辞	株式会社白石銀行頭取・鈴木清之輔
100	T2.11.11	2	百と云ふことに就て 百助百拝	
100	T2.11.11	2	百号祝ひて	佐藤淺治郎
100	T2.11.11	3	祝辞	白城晩生・未定稿
100	T2.11.11	3	祝辞並に所感	亘理晋
100	T2.11.11	3	冬の松島(写真)	
100	T2.11.11	3	第百号の発刊を祝す	白石消防組頭・鈴木惣四郎
100	T2.11.11	3	祝白石実業新報一百号発刊	在京・佐藤勇吉
100	T2.11.11	4	祝辞	今泉定介ほか13名
100	T2.11.11	4	第壹百記念号発刊を祝す	在讃岐・大槻寅治郎
100	T2.11.11	4	百号を祝す	源修
100	T2.11.11	4	祝辞	白石寿町郵便局長・鈴木嘉茂右衛門
100	T2.11.11	4	祝辞	白石公道会代表・佐藤淺治郎
100	T2.11.11	4	祝白石実業新報の第百号発刊	在東京・会津柳亭
100	T2.11.11	4	祝壹百号	菊地九一郎
100	T2.11.11	4	(和歌)	菅野清吉ほか作
100	T2.11.11	4	百	蟹の子
100	T2.11.11	4	東京に於ける不忘会の開会	
100	T2.11.11	5	祝辞	刈田郡会議長・山田誠一
100	T2.11.11	5	矢内氏へ感謝状贈呈式(白石第一小学校講堂)	
100	T2.11.11	5	干柿講習会(刈田郡農会)	
100	T2.11.11	5	円田村の精神修養会	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
100	T2.11.11	5	白石町神明宮基金完成	
100	T2.11.11	5	秋の日に（二）	東都・こすぎ生
100	T2.11.11	6	ある男へ	無名氏
100	T2.11.11	6	白石商業組合店員奨励褒賞授与式（専念寺）	
100	T2.11.11	6	東京医事新聞社長（藤根常吉氏、我が社第百記念号発刊に祝意）	
100	T2.11.11	6	斎川馬牛沼鯉とりの盛況	
100	T2.11.11	6	気まぐれの記	古狸生
100	T2.11.11	6	商況（正米・饅頭など）	
100	T2.11.11	7	阿弥陀堂に詣すの記（下）	S T生
101	T2.11.21	1	入営兵士の送迎に就て	大槻寅治郎
101	T2.11.21	1	白石町郡山寿丸農園菓実園<ママ>の全景（写真、白石関谷写真材料販売部寄贈）	
101	T2.11.21	1	文苑	菊地雪山、山内城石・作
101	T2.11.21	1	和歌	杉浦梧石、樋口無声・作
101	T2.11.21	1	秋の日に（三）	こすぎ生
101	T2.11.21	2	祝白石実業新報第一百号	田中清助
101	T2.11.21	2	祝百号	早大予科文科・小島幸治<ママ>
101	T2.11.21	2	大正二年度刈田郡県税戸数割下半年納入成績表	
101	T2.11.21	2	本年度県税戸数割納税成績	
101	T2.11.21	2	本年度入営兵（99名）	
101	T2.11.21	2	師範学校生徒の各小学校授業参観	
101	T2.11.21	2	白中弓術部開場式	
101	T2.11.21	2	基督教説教会（モール博士夫妻）	
101	T2.11.21	2	教育衛生大幻灯会（寿座）	
101	T2.11.21	2	浦塩三井物産会社支店長（飯田愿氏婦省）	
101	T2.11.21	2	母国訪問団員（川村源治氏婦米）	
101	T2.11.21	2	不忘威	
101	T2.11.21	3	愛郷漫言（七五）	在京・潜電子
101	T2.11.21	3	巡査の移動（堀谷直之助ほか2名）	
101	T2.11.21	3	渡邊家の美挙（渡邊佐吉氏の神明宮への寄進）	
101	T2.11.21	3	白中の庭球大会	
101	T2.11.21	3	クラブ活動大写真会（寿座）	
101	T2.11.21	3	美人の縊死 あたら十七の花盛りを	
101	T2.11.21	3	白石町と用水（上）	白中教諭・加藤鐵次郎
101	T2.11.21	4	日米問題は解決せられしや	鈴木忠誠
101	T2.11.21	4	或男へ（二）	無名氏
101	T2.11.21	4	消防手の賞与	
101	T2.11.21	5	母国訪問談（四）米国より日本まで	川村源治
101	T2.11.21	5	天空開豁	寒声
101	T2.11.21	5	東西南北	
101	T2.11.21	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第三十一回	福徳斎延寿

号数	発行日	頁	タイトル	備考
102	T2.12.1	1	宮城県会に望む 郡部の遊廓設置に就て	白石実業新報社
102	T2.12.1	1	玉造郡中山噴湯泉 (写真)	
102	T2.12.1	1	文苑	山内城石ほか作
102	T2.12.1	1	秋の日に (四)	こすぎ生
102	T2.12.1	2	地方改良資料 (一三) 静岡県加茂郡稲取村故田村又吉翁談話の概要	新田勝寛氏寄稿
102	T2.12.1	2	内務省第九回トラホーム講習会 (東京帝国大学)	
102	T2.12.1	2	農事改良聯合協議会 (刈田郡役所)	
102	T2.12.1	2	宮村々長の賞与 (佐藤貞助氏、森本県知事より)	
102	T2.12.1	2	巡査の賞与 (鎌先駐在所詰・廣野傳太郎氏)	
102	T2.12.1	2	白中弓術開場式	
102	T2.12.1	2	小学校准教員検定試験 (白石中学校)	
102	T2.12.1	2	白石基督教会の講演	
102	T2.12.1	2	白中の発火演習	
102	T2.12.1	2	不忘風	
102	T2.12.1	3	愛郷漫言 (七六)	在京・潜電子
102	T2.12.1	3	入超見越九千万円 大蔵当局の観測	
102	T2.12.1	3	消防組員の名誉 (賞状付与)	
102	T2.12.1	3	家庭の注意 (インフルエンザ・麻疹)	
102	T2.12.1	3	井戸水の汲取 釣瓶をポンプに改造せよ	
102	T2.12.1	3	菊地文一郎氏逝く (白石町会議員・白石消防顧問)	
102	T2.12.1	3	クラブ活動写真会の盛況 (特約店高甚商店)	
102	T2.12.1	3	新刊 (簡明獣疫予防接種及血清療法)	
102	T2.12.1	4	白石町と用水 (下)	白中教諭・加藤鐵次郎
102	T2.12.1	4	実業少年訓	寒声
102	T2.12.1	4	白石町の公園に就て (五)	在東京帝大・幽史樓
102	T2.12.1	4	我国民の生活問題観	在京・磊石生
102	T2.12.1	4	商況 (下総大麦新・北海小豆など)	
102	T2.12.1	5	母国訪問談 (五) 米国より日本まで	川村源治
102	T2.12.1	5	新年号予告	白石実業新報社
102	T2.12.1	5	北海道より (二) の下	小樽・孤翠生
102	T2.12.1	6	気まぐれの記 (二)	古狸生
103	T2.12.11	1	鉄道運賃の割引	
103	T2.12.11	1	白石町本年度入営兵紀念撮影 (写真、松田写真館撮)	
103	T2.12.11	1	文苑	山内城石ほか作
103	T2.12.11	1	和歌	菊地雪山、亘理素琴・作
103	T2.12.11	1	秋の日に (五)	こすぎ生
103	T2.12.11	2	地方改良資料 (一四) 静岡県加茂郡稲取村故田村又吉翁談話の概要	新田勝寛氏寄稿
103	T2.12.11	2	小学校長会議 (刈田郡役所)	
103	T2.12.11	2	刈田郡本年度米収穫見込	
103	T2.12.11	2	標準米査定会 (刈田郡役所)	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
103	T2.12.11	2	愛国婦人会救護金伝達式（刈田郡役所）	
103	T2.12.11	2	鉄道院の無料広告	
103	T2.12.11	2	壮丁「トラホーム」予防規程	
103	T2.12.11	2	不忘風	
103	T2.12.11	3	愛郷漫言（七七）	在京・潜電子
103	T2.12.11	3	至道会講演会（講談師・邑井貞吉氏ほか）	
103	T2.12.11	3	白石第二小学校同窓会	
103	T2.12.11	3	干柿製造講習会	
103	T2.12.11	3	正誤（前号漢詩につき）	
103	T2.12.11	3	町村自治実行組合同規約	
103	T2.12.11	3	予告（一月元旦本紙につき）	白石実業新報社
103	T2.12.11	3	十八娘の恩を仇	
103	T2.12.11	4	森知事の本県蚕糸業独立論を聞いて予か希望を述ぶ	磐洲生
103	T2.12.11	4	実業少年訓（細事）豊太閤とナポレオン	寒声
103	T2.12.11	4	養蚕短期講習会	
103	T2.12.11	4	巡査の任命（白石署勤務）	
103	T2.12.11	4	奇怪なる窃盗 中学校荒しの賊	
103	T2.12.11	4	我国民の生活問題観（下）	在京・磊石生
103	T2.12.11	4	白石穀物在荷調（株式会社白石倉庫ほか4社）	
103	T2.12.11	5	母国訪問談（六）米国より日本まで	川村源治
103	T2.12.11	5	新年号予告	白石実業新報社
103	T2.12.11	5	東西南北	
103	T2.12.11	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第三十二回	福德斎延寿
103	T2.12.11	6	募集（新春漢詩・和歌・俳句・川柳・短文）	白石実業新報社・文苑係
104	T2.12.21	1	大正二年を送る	
104	T2.12.21	1	多木立（写真）	
104	T2.12.21	1	松島五大堂（写真）	
104	T2.12.21	1	文苑	蔵拙齋主人ほか作
104	T2.12.21	1	和歌	菊地雪山ほか作
104	T2.12.21	1	募集（新春漢詩・和歌・俳句・川柳・短文）	白石実業新報社・文苑係
104	T2.12.21	2	地方改良資料（一五）静岡県加茂郡稲取村故田村又吉翁談話の概要	新田勝寛氏寄稿
104	T2.12.21	2	御救恤金の拝載式（刈田郡役所）	
104	T2.12.21	2	在郷将校団の現地演習	
104	T2.12.21	2	辞任命（白石中学校書記、刈田郡視学）	
104	T2.12.21	2	県官の事務視察（刈田郡役所ほか）	
104	T2.12.21	2	火災警防に関する訓示	
104	T2.12.21	2	予告（一月元旦本紙につき）	白石実業新報社
104	T2.12.21	2	製麺同業組合委員会（白石町役場）	
104	T2.12.21	2	商況（下総大麦・白糯米など）	
104	T2.12.21	3	寄書：国民道徳の変遷（一）	木村惇
104	T2.12.21	3	白謡会忘年会（石森季勝氏招聘）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
104	T2.12.21	3	豚の報ひ 無届引導して (斎川村)	
104	T2.12.21	3	未恐るべき 紅顔の少年	
104	T2.12.21	3	気まぐれの記 (三)	古狸生
104	T2.12.21	4	飲酒に就て (上)	H K 生
104	T2.12.21	4	母国訪問談 (七) 米国より日本まで	川村源治
104	T2.12.21	4	降誕節 (クリスマス)	日米子
104	T2.12.21	4	新年号予告	白石実業新報社
104	T2.12.21	5	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第三十二回	福德斎延寿
104	T2.12.21	5	東西南北	104号と105号の間に「白石駅発列車時刻表 (大正2年12月16日改正)」挟み込み
105	T3.1.1	1	社説 新年の辞	
105	T3.1.1	1	八十五老法眼東洋筆 (写真)	鈴木清之輔氏所蔵
105	T3.1.1	1	文苑	菊地雪山ほか作
105	T3.1.1	1	和歌	今泉定介ほか作
105	T3.1.1	2	大正甲寅作	北白川・斯華散士
105	T3.1.1	2	(漢詩、和歌)	佐藤精明ほか作
105	T3.1.1	2	探幽虎 (挿絵)	北洋写
105	T3.1.1	2	寅年史 (一)	源修・稿
105	T3.1.1	3	愛郷漫言 (七八)	在京・潜電子
105	T3.1.1	3	岩佐又兵衛筆虎御前 (挿絵)	北洋写
105	T3.1.1	3	俳句	北白川・春雨窓鶯経ほか作
105	T3.1.1	3	川柳	北白川・奥の案山子ほか作
105	T3.1.1	3	松窓乙二翁の歳旦俳句	北白川寓・春雨窓鶯経
105	T3.1.1	4	虎の歳の覚悟	菱生
105	T3.1.1	4	情歌	北白川・春の家鶯蛙・作
105	T3.1.1	4	狂歌	北白川・佐藤泣鬼・作
105	T3.1.1	4	短文 元旦の感	在讃岐・月峯
105	T3.1.1	4	小説 春の雲	山田蔦葉
105	T3.1.1	5	虎の屏風	邑井貞吉演
105	T3.1.1	5	干柿講習修了証書授与式 (刈田郡役所)	
105	T3.1.1	5	(漢詩)	佐藤麻山、菊地雪山・作
105	T3.1.1	5	長期農事講習会 (刈田郡農会)	
105	T3.1.1	5	クリスマス祝会 (白石日本基督教会・同日曜学校)	
105	T3.1.1	5	歴史小説加藤清正 二條城会見 (第壹)	無名氏
105	T3.1.1	5	(和歌)	林芳太郎・作
105	T3.1.1	6	通俗教育新講談 初春	福德斎延寿
105	T3.1.1	6	出火 (白石運送合資会社倉庫)	
106	T3.1.11	1	社説 災害復旧工事 速に起工すべし	
106	T3.1.11	1	文苑	蔵拙齋主人ほか作
106	T3.1.11	1	和歌	有路政五郎ほか作
106	T3.1.11	1	小説 春の雲 (二)	山田蔦葉

号数	発行日	頁	タイトル	備考
106	T3.1.11	2	地方改良資料（一六）静岡県加茂郡稲取村故田村又吉翁談話の概要	新田勝寛氏寄稿
106	T3.1.11	2	刈田郡土地所有者現況（大正二年八月一日現在、町村別内訳表あり）	
106	T3.1.11	2	刈田郡町村長会	
106	T3.1.11	2	不忘風	
106	T3.1.11	3	国民道徳の変遷（二）	木村惇
106	T3.1.11	3	白石町の新年限会（玉幸亭）	
106	T3.1.11	3	白石消防組の新年限会（相川亭）	
106	T3.1.11	3	白石郵便局長叙勲（鈴木局長、勲七等）	
106	T3.1.11	3	白石警察署員の賞与（通信局より田中署長以下所員一同）	
106	T3.1.11	3	白中第一回卒業生（吉見勇助氏海軍大尉に昇進）	
106	T3.1.11	3	大河原税務署移庁式	
106	T3.1.11	3	会（一月十二日刈田郡年事会ほか4件）	
106	T3.1.11	3	郡長の窮民視察	
106	T3.1.11	3	俳諧寺一茶	在大坂・周水
106	T3.1.11	4	二日のかきそめ	蠶の子
106	T3.1.11	4	刈田郡長の巡回協議	
106	T3.1.11	4	白石商業銀行（定時株主総会）	
106	T3.1.11	4	白石銀行（定時株主総会）	
106	T3.1.11	4	七ヶ宿村の美拳（薪炭材払い下げ金、小学校へ寄附）	
106	T3.1.11	4	小作人表彰されむとす（刈田郡農会）	
106	T3.1.11	4	山田養生舎（主任山田幸八氏、牛乳の精撰に努力）	
106	T3.1.11	4	鉄道貨物直扱取次店の開業（白石駅前南側）	
106	T3.1.11	4	気まぐれの記（四）	古狸生
106	T3.1.11	4	商況（地廻玄米・下総畑稲など）	
106	T3.1.11	5	飲酒に就て（下）	H K 生
106	T3.1.11	5	白石製絲機業株式会社の新年会（同社大広間）	
106	T3.1.11	5	白石経済合資会社成る（創立総会）	社長・本木豊五郎
106	T3.1.11	5	所感（一）	C X 生
106	T3.1.11	6	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第三十三回	福德斎延寿
107	T3.1.21	1	【欠号】	
108	T3.2.1	1	社説 片倉景綱君三百年祭 盛大に挙行すべし	
108	T3.2.1	1	大正三年十月十四日三百年祭を行はせらる 片倉景綱君の像（写真）	
108	T3.2.1	1	文苑	城石山人ほか作
108	T3.2.1	1	川柳	○峰・作、1面左下・墨書「二月二日・白石町六十番地・早通屋方大沢渡殿」あり
108	T3.2.1	2	不景気論	木村惇
108	T3.2.1	2	白上鉄道敷設 請願併に意見書提出	
108	T3.2.1	2	刈田郡農事大会（刈田郡役所）	
108	T3.2.1	2	不忘風	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
108	T3.2.1	3	愛郷漫言（八〇）	在京・潜電子
108	T3.2.1	3	侍従武官通過 歓迎送人構内に満つ	
108	T3.2.1	3	白上鉄道運動委員の上京（水野健治委員）	
108	T3.2.1	3	長期講習会（刈田郡役所）	
108	T3.2.1	3	農事講話会（白石町役場）	
108	T3.2.1	3	訓導の異動	
108	T3.2.1	3	俳諧寺一茶（三）	在大坂・周水
108	T3.2.1	4	寄書：水野氏を送る	金風生
108	T3.2.1	4	後兵児謡	頼山陽、佐藤謙堂寄稿
108	T3.2.1	4	高子訓導の栄転	
108	T3.2.1	4	巡査の賞与 前科二犯の女賊（逮捕の功）	
108	T3.2.1	4	旧派に非らざる正風派の不活（四）（俳諧宗匠の演説大要）	
108	T3.2.1	4	商況（地廻玄米・下総大麦など）	
108	T3.2.1	5	母国訪問談（八）米国より日本まで	川村源治
108	T3.2.1	5	狂歌	北白川・佐藤泣鬼
108	T3.2.1	5	川柳	北白川・奥の案山子
108	T3.2.1	5	都々逸	北白川・花水房鶯蛙
108	T3.2.1	5	現代式の女は嫌ひ	蟹の子
108	T3.2.1	5	本紙満三週年<ママ>記念	白石実業新報社
108	T3.2.1	5	大正式新講談：水戸黄門漫遊記 第三十五回	福德齋延寿、次号よりしばらく休講
109	T3.2.11	1	社説 記念号に題す（本紙創刊満三週年）	
109	T3.2.11	1	城山公園より白石市街を望む（写真）	
109	T3.2.11	1	文苑	菊地雪山ほか作
109	T3.2.11	1	懐旧	謙堂・佐藤孝郷
109	T3.2.11	2	三鞭酒不可用論 満三周年祝賀に就て	在京・佐藤勇吉
109	T3.2.11	2	満三週年祝辞	日米子
109	T3.2.11	2	三週年祝	杉浦梧石
109	T3.2.11	2	祝辞	在讃岐・大槻寅治郎
109	T3.2.11	2	祝詞	周水
109	T3.2.11	2	不忘山を仰視する人々へ	石巻日々新聞編輯長・佐藤露江
109	T3.2.11	3	御大礼の意義（一）	
109	T3.2.11	3	三週年記念に因みて	周水
109	T3.2.11	3	小説 春の雲（四）	山田蔦葉
109	T3.2.11	4	不景気論 輸入超過と外債	木村惇
109	T3.2.11	4	瑞鳳彙纂（第一）梵天丸	源修・稿
109	T3.2.11	4	愛郷漫言（八一）	在京・潜電子
109	T3.2.11	5	刈田郡風水害及凶作調	
109	T3.2.11	5	刈田柴田蚕種同業組合通常総会（大河原町尾形館）	
109	T3.2.11	5	紀元節	佐藤雄治・作
109	T3.2.11	5	斎川小学校同窓会春期総会	
109	T3.2.11	5	大河原町大幻灯会（衛生、白石教会鈴木牧師歓迎会）	

号数	発行日	頁	タイトル	備考
109	T3.2.11	5	地方改良講演会（白石中学校講堂）	
109	T3.2.11	5	新任刈田郡視学（小林利喜蔵氏）	
109	T3.2.11	5	奉幣使差遣（宮村白鳥神社祭典）	
109	T3.2.11	5	師範学校入学試験（刈田郡役所）	
109	T3.2.11	5	焼麩製造業組合（大沼安治氏宅）	
109	T3.2.11	5	白石町新旧町長送迎会（新任鈴木惣四郎、前任水野健治両氏）	
109	T3.2.11	5	長期農事講習会（片倉男爵、講習員を督励）	
109	T3.2.11	5	霜害予防講演（刈田郡役所）	
109	T3.2.11	5	刈田郡農事大会（各村）	
109	T3.2.11	5	真宗信徒生命保険株式会社（明治二十八年創立）	
109	T3.2.11	5	前町会議員丹野源八氏の訃（白石町、享年六十八才）	
109	T3.2.11	5	白石駅人員貨物発着（大正二年一月～十二月、種別一覧表）	
109	T3.2.11	6	男山八幡	在大坂・周水
109	T3.2.11	6	春陽歌壇	源修一・作
109	T3.2.11	6	狂歌	北白川・佐藤泣鬼・作
109	T3.2.11	7	通俗教育新講談 一休禪師の生立（一）	榊正風講演
110	T3.2.21	1	時弊を戒む	
110	T3.2.21	1	（写真）	
110	T3.2.21	1	文苑	山内城石ほか作
110	T3.2.21	1	狂歌	花水坊鶯蛙・作
110	T3.2.21	1	小説 春の雲（五）	山田篤葉、最終回
110	T3.2.21	2	不景気論（三）非募債主義確立の必要	木村悖
110	T3.2.21	2	白上鉄道急設請願委員の上京（水野健治氏）	
110	T3.2.21	2	宮村自治内容奉告祭（刈田嶺神社）	
110	T3.2.21	2	新任鈴木町長の披露会（相川本店）	
110	T3.2.21	2	白中の武道大会	
110	T3.2.21	2	第二小学校文芸大会	
110	T3.2.21	2	宮日曜学校開校式	
110	T3.2.21	2	不忘風	
110	T3.2.21	3	紀元節に於て	鳳林
110	T3.2.21	3	川柳	花水坊鶯蛙・作
110	T3.2.21	3	俳句	一宿庵・鶯経宗匠吟・作
110	T3.2.21	3	白石町農事大会（白石町役場）	
110	T3.2.21	3	新任町長 消防幹部の祝賀会（相川本店）	
110	T3.2.21	3	炭焼釜の中で賭博（円田村）	
110	T3.2.21	3	愛児を失ふた上科料	
110	T3.2.21	3	小原村の失火	
110	T3.2.21	3	老婆の惨死（越河村）	
110	T3.2.21	3	勲章剥脱＜ママ＞	
110	T3.2.21	3	商況（正米・台湾米など）	
110	T3.2.21	4	冬（一）	周水

号数	発行日	頁	タイトル	備考
110	T3.2.21	4	稲田一割増収法	新田勝寛
110	T3.2.21	4	不忘会例会（東京日比谷公園松本楼）	
110	T3.2.21	4	福岡村通信（福岡村農総会）	
110	T3.2.21	4	我国民の生活問題観（結論）	在京・磊石生
110	T3.2.21	5	御大礼の意義（二）	
110	T3.2.21	5	東西南北	
110	T3.2.21	5	正誤（前号文苑・菊地雪山氏漢詩）	
110	T3.2.21	6	通俗教育新講談 一休禪師の生立（二）	榊正風講演
111	T3.3.1	1	廢税不可論	
111	T3.3.1	1	ヌル湯温泉噴火口（写真）	
111	T3.3.1	1	文苑	雪山居士ほか作
111	T3.3.1	1	小説 愛子	東都・小野寺生
111	T3.3.1	2	不景氣論（三）	木村悖
111	T3.3.1	2	御即位記念参宮団（伊勢神宮・桃山御陵参拝者募集）	
111	T3.3.1	2	堆積肥料品評会 賞状授与式（刈田郡役所）	
111	T3.3.1	2	刈田郡地主会（小作人表彰授与式）	
111	T3.3.1	2	大博出品者の汽車賃割引（大正博覧会）	
111	T3.3.1	2	瑞鳳彙纂（第二）政宗公の多能	仙台・源修稿
111	T3.3.1	2	不忘風	
111	T3.3.1	2	白石町町会	
111	T3.3.1	3	愛郷漫言（八二）	在京・潜電子
111	T3.3.1	3	刈田郡医師会（白石町役場）	
111	T3.3.1	3	軍事講話会（白石第二小学校）	
111	T3.3.1	3	白石第一小学校父兄並に母姉会	
111	T3.3.1	3	トラホーム検診日割（大正三年第一期）	
111	T3.3.1	3	白石町消防組の初午	
111	T3.3.1	3	岡崎旅館の盗難	
111	T3.3.1	3	海軍志願兵の体格検査（白石町役場）	
111	T3.3.1	3	七ヶ宿村の凍死者	
111	T3.3.1	3	越河村の轢死	
111	T3.3.1	3	商況（地廻玄米・饅頭など）	
111	T3.3.1	4	紀元節に於いて	鳳林
111	T3.3.1	4	白石町の公園に就て（六）	在東京帝大・幽史樓
111	T3.3.1	4	大日本蚕糸会（大正二年大凶作、各地に慰問大講演会）	
111	T3.3.1	4	冬（二）	周水
111	T3.3.1	5	御大礼の意義（三）悠紀主基と抜穂	
111	T3.3.1	5	川柳	北白河・奥の案山子・作
111	T3.3.1	5	都々逸	北白河・花水房鶯蛙・作
111	T3.3.1	5	地方改良講演会（刈田郡役所）	
111	T3.3.1	5	東西南北	
111	T3.3.1	5	県下七郡各町村 戸籍役場の事務成績（大正二年度成績表）	
111	T3.3.1	6	通俗教育新講談 一休禪師の生立（三）	榊正風講演

号数	発行日	頁	タイトル	備考
112	T3.3.11	1	憲政の済美	
112	T3.3.11	1	風景 (写真)	
112	T3.3.11	1	文苑	雪山居士ほか作
112	T3.3.11	1	小説 愛子 (二)	東都・小野寺生
112	T3.3.11	2	不景気論 (四) 物価下落に伴ふ不景気	木村惇
112	T3.3.11	2	軍事講話会 (白石第二小学校)	
112	T3.3.11	2	長期農事講習会 閉会式並講習証書授与式 (刈田郡役所)	
112	T3.3.11	2	柿樹植栽の奨励	
112	T3.3.11	2	白石中学校至道会 (矢内精一砲兵大尉)	
112	T3.3.11	2	凶作救済薪炭材の払下 (窮民救済薪炭材売払表)	
112	T3.3.11	2	養蚕同業組合会 (刈田郡役所)	
112	T3.3.11	2	大博出品者・総代人の決定 (大正博覧会総代人・山田誠一、小野峰三郎両氏)	
112	T3.3.11	2	白石中学校の生徒募集 (第一学年五十名、第二学年若干名)	
112	T3.3.11	2	新案重宝紙 (東京府下日暮里町・町野商店)	
112	T3.3.11	2	不忘風	
112	T3.3.11	3	白石中学至道会講演大要 (第二高等学校教頭・文学士・武藤虎太先生)	白石中学生・佐藤生筆記
112	T3.3.11	3	炭焼講習会 (小原村)	
112	T3.3.11	3	人名を救助したる 感心なる少年 (白石町南小路)	
112	T3.3.11	3	白米泥棒	
112	T3.3.11	3	冬 (三)	周水
112	T3.3.11	4	御大礼の意義 (四) 賢所を京都へ奉遷	
112	T3.3.11	4	近代文学の数方面	メービー著、小嶋幸治訳
112	T3.3.11	4	花の会 (白石基督教会鈴木牧師夫人主催)	
112	T3.3.11	4	白石町消防手負傷手当	
112	T3.3.11	4	宮村消防組頭の任命	
112	T3.3.11	4	商況 (地廻玄米・外国小豆など)	
112	T3.3.11	5	母国訪問談 (九) 米米国<ママ>より日本まで	川村源治
112	T3.3.11	5	短篇小説 冬の夜	青木八重治
112	T3.3.11	5	東西南北	
112	T3.3.11	6	通俗教育新講談 一休禅師の生立 (四)	榊正風講演
113	T3.3.21	1	慊焉たらざる上院の措置	第113号は全面下部切断のため現存記事のみ掲載
113	T3.3.21	1	刈田郡農会第一回長期農事講習会役員講師講習員記念撮影 (写真)	前号第二面記事参照
113	T3.3.21	1	東北の霊泉 (不忘山麓)	
113	T3.3.21	1	文苑	雪山居士ほか作
113	T3.3.21	2	不景気論 (五) 不景気に対する注意	木村惇
113	T3.3.21	2	在郷軍人団白石分会の陸軍記念日 並に新入会式 (城山公園)	
113	T3.3.21	2	白石小林区の救済事業	
113	T3.3.21	2	福岡村消防組基本財産の成立	

号数	発行日	頁	タイトル	備 考
113	T3.3.21	3	農業叢談 (禁転載)	白井源平稿
113	T3.3.21	3	猟師の手柄 雪深き奥山に大熊を射止む (七ヶ宿村)	
113	T3.3.21	3	福岡村青年会 (夜学会・茶話会)	
113	T3.3.21	3	株式会社戊申銀行 (白石出張所開設)	
113	T3.3.21	3	屋号改名 (相川分店)	
113	T3.3.21	4	御大礼の意義 (五) 即位奉告と御新例	
113	T3.3.21	4	東北問題	在京・潜電子
113	T3.3.21	5	母国訪問談 (十) 米国より日本まで	川村源治
113	T3.3.21	5	東西南北	
113	T3.3.21	6	通俗教育新講談 一休禪師悟道録 (五)	榊正風講演
114	T3.4.1	1	自治の精神	第114号は全面下部切断のため現存記事のみ掲載
114	T3.4.1	1	(写真)	
114	T3.4.1	1	文苑	山内城石ほか作
114	T3.4.1	1	小説 愛子 (四)	東都・小野寺生、1行のみ現存
114	T3.4.1	2	不景気論 (六) 結論	木村惇
114	T3.4.1	2	白石中学校卒業式 (28名)	
114	T3.4.1	2	白石実科女学校卒業式	
114	T3.4.1	3	副業叢談 (禁転載) 副業原料及び製品の処置に就て (二)	白井源平稿
114	T3.4.1	3	白石第一中学校卒業証書授与式	
114	T3.4.1	3	白石第二小学校卒業式	
114	T3.4.1	4	春	周水
114	T3.4.1	4	慰問袋の配布 (水害凶作罹災)	
114	T3.4.1	4	大正博同志観覧会	
114	T3.4.1	5	母国訪問談 (十一) 米国より日本まで	川村源治
114	T3.4.1	5	東西南北	
114	T3.4.1	6	通俗教育新講談 一休禪師悟道録 (六)	榊正風講演
115	T3.4.11	1	謂所超然 内閣の運命	第115号は全面下部切断のため現存記事のみ掲載
115	T3.4.11	1	(写真)	
115	T3.4.11	1	文苑	山内城石ほか作
115	T3.4.11	2	副業叢談 (禁転載) 副業原料及び製品の処置に就て (三)	白井源平稿
115	T3.4.11	2	徴兵検査日割	
115	T3.4.11	2	徴集猶予出願者の注意	
115	T3.4.11	3	博覧会見物の心得	在京・潜電子
115	T3.4.11	3	白石町県税戸数割賦課標準	
115	T3.4.11	3	大風雨雪にて汽車不通	
115	T3.4.11	3	松島湾頭のレースボート (本県主催松島水上大運動会)	
115	T3.4.11	3	宝生喜多聯合素謡大会 (白石町神明社)	
115	T3.4.11	3	宮村の小火	
115	T3.4.11	4	博覧会を一寸見物致し候	在京・蟹の子
115	T3.4.11	4	米作改良十則のうた	美哉・佐藤雄治

号数	発行日	頁	タイトル	備考
115	T3.4.11	5	母国訪問談（十二）米国より日本まで	川村源治
115	T3.4.11	5	東西南北	
115	T3.4.11	5	大正博同志観覧会趣意書	
115	T3.4.11	6	通俗教育新講談 一休禪師悟道録（七）	榎正風講演
116	T3.4.21	1	奉悼の辞（皇太后陛下）	第116号は全面下部切断のため現存記事のみ掲載
116	T3.4.21	1	大隈内閣成る	
116	T3.4.21	1	噫皇太后陛下（写真）	
116	T3.4.21	2	副業叢談（禁転載）（四）はたき製造	白井源平稿
116	T3.4.21	2	刈田郡桑園品評会	
116	T3.4.21	2	訓導の移動<ママ>	
116	T3.4.21	3	白石中学成美寮 寄宿舎生活	
116	T3.4.21	3	行路病人	
116	T3.4.21	3	遊治郎の放蕩額	
116	T3.4.21	3	猛烈なる発疹室扶斯 隣県に襲ひ来る	
116	T3.4.21	4	わが窓より（一）	こすぎ
116	T3.4.21	4	生産米検査委員会議（刈田郡役所）	
116	T3.4.21	4	大博菓子類出品者心得	
116	T3.4.21	4	大博汽車賃割引に就て	
116	T3.4.21	4	七ヶ宿村の白箸講習会	
116	T3.4.21	5	母国訪問談（十三）米国より日本まで	川村源治
116	T3.4.21	5	東西南北	
116	T3.4.21	6	通俗教育新講談 宇治川先陣高綱の頓智	榎正風

東北大学東北アジア研究センター叢書 第69号
近代地域新聞からみた社会の実像
—宮城県・白石実業新報を読む—

2021年11月20日発行

編著者 荒武賢一郎・阿部さやか

発行者 東北大学東北アジア研究センター
〒980-8576 仙台市青葉区川内41

印刷 株式会社東北プリント
〒980-0822 仙台市青葉区立町24-24

ISBN 978-4-908203-26-8

@kenichiro Aratake, Sayaka Abe 2021
Printed in Japan

ISBN978-4-908203-26-8

CNEAS



Center for Northeast Asian Studies Tohoku University